

Yamagata Prefectural
University of
Health Sciences

シラバス

令和5年度

山形県立保健医療大学

シラバス

保健医療学部

令和5年度 山形県立保健医療大学 学年暦

前期：令和5年4月1日～令和5年9月24日

後期：令和5年9月25日～令和6年3月31日

※ 入学試験の前日・当日は、学内の立入制限を行います。

《 前 期 》								行 事			
	日	月	火	水	木	金	土	学 部	大 学 院	入学試験等関係	
4月							1	【春季休業 4月 1日(土)～ 3日(月)】 ●入学式 4月 4日(火) ●年度当初オリエンテーション・健康診断等 4月 5日(水)、6日(木)午後、7日(金)、13日(木)午後 ●授業開始 4月 6日(木) 【時間割の変更】 4/13の午前に、木曜日の 午後の授業を開講 ●履修登録期限 4月12日(水) ●1年生追加履修登録(前期・後期)期限 4月19日(水)	【春季休業 4月 1日(土)～ 3日(月)】 ●入学式 4月 4日(火) ●授業開始 4月 6日(木) ●履修登録期限 4月12日(水)		
	2	3	4	5	6	7	8				
	9	10	11	12	13	14	15				
	16	17	18	19	20	21	22				
	23	24	25	26	27	28	29				
	16	30									
5月		1	2	3	4	5	6	●作業4年 総合実習Ⅲ 5月 8日(月)～ 6月30日(金) ●放棄届提出期限 5月10日(水) ●理学4年 臨床実習Ⅳ 5月15日(月)～ 7月 7日(金) ●看護4年 総合看護学実習Ⅰ 5月 8日(月)～ 8月25日(金) 地域看護診断実習 5月15日(月)～ 5月19日(金) ●看護4年 公衆衛生看護活動実習 5月22日(月)～ 9月22日(金)			
	7	8	9	10	11	12	13				
	14	15	16	17	18	19	20				
	21	22	23	24	25	26	27				
	20	28	29	30	31						
6月					1	2	3	●学園祭準備休講日 6月 9日(金) ●学園祭 6月10日(土)～ 11日(日) ●看護4年 分娩期助産・産褥期助産実習 6月26日(月)～ 8月10日(木)			
	4	5	6	7	8	9	10				
	11	12	13	14	15	16	17				
	18	19	20	21	22	23	24				
	20	25	26	27	28	29	30				
7月							1	●大学開学記念日 7月13日(木) ●理学4年 臨床実習Ⅴ 7月17日(月)～ 8月 4日(金) ●授業終了 7月28日(金) ●前期試験 7月31日(月)～ 8月 4日(金) 【時間割の変更】 7/25(火)に、金曜日の 授業を開講		●オープンキャンパス 7月22日(土)～23日(日)	
	2	3	4	5	6	7	8				
	9	10	11	12	13	14	15				
	16	17	18	19	20	21	22				
	23	24	25	26	27	28	29				
	20	30	31								
8月			1	2	3	4	5	●追加履修登録(後期)期限 8月 3日(木) 【夏季休業 8月 5日(土)～ 9月24日(日)】 ●看護2年 高齢者生活探究実習 8月 7日(月)～ 8月10日(木) ●キャリア支援セミナー(看護3年) 8月 8日(火) ●キャリア支援セミナー(理学3年・作業3年) 8月 9日(水)	●追加履修登録(後期)期限 8月 3日(木) 【夏季休業 8月 5日(土)～ 9月24日(日)】	●編入学者選抜 8月24日(木)	
	6	7	8	9	10	11	12				
	13	14	15	16	17	18	19				
	20	21	22	23	24	25	26				
	8	27	28	29	30	31					
9月						1	2	●理学3年 臨床実習Ⅱ 9月 4日(月)～ 9月29日(金) ●看護2年 基礎看護学実習Ⅱ 9月 1日(金)～ 9月13日(水) ●看護2年 小児看護学実習Ⅰ 9月14日(木)～ 9月21日(木) ●看護3年 成人急性期看護学実習・成人慢性期看護学実習・老年看護学実習Ⅱ・精神看護学実習・母性看護学実習・小児看護学実習Ⅱ・在宅訪問看護実習・在宅看護連携実習 9月19日(火)～ 2月16日(金) ●看護4年 総合看護学実習Ⅱ(助産学) 9月19日(火)～10月13日(金) ●作業3年 総合実習Ⅰ 9月25日(月)～11月17日(金) ●授業開始 9月25日(月)	●授業開始 9月25日(月)		
	3	4	5	6	7	8	9				
	10	11	12	13	14	15	16				
	17	18	19	20	21	22	23				
	9	24	25	26	27	28	29				30

《 後 期 》								行 事			
	日	月	火	水	木	金	土	学 部	大 学 院	入学試験等関係	
10月	1	2	3	4	5	6	7	●看護 2 年 精神保健学実習 10月 2日(月)～12月22日(金) * (この期間の火・水曜日) ●看護 4 年 総合看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護) 10月 2日(月)～10月 6日(金) ●防災訓練 10月 6日(金) ●放棄届提出期限 10月20日(金) ●理学 3 年 臨床実習Ⅲ 10月30日(月)～12月22日(金)	●防災訓練 10月 6日(金) ●放棄届提出期限 10月20日(金)		
	8	9	10	11	12	13	14				
	15	16	17	18	19	20	21				
	22	23	24	25	26	27	28				
	21	29	30	31							
11月				1	2	3	4	●看護 1 年 基礎看護学実習Ⅰ 11月24日(金)～11月30日(木)		●学校推薦型選抜 11月21日(火)	
	5	6	7	8	9	10	11				
	12	13	14	15	16	17	18				
	19	20	21	22	23	24	25				
	20	26	27	28	29	30					
12月						1	2	●作業 3 年 総合実習Ⅱ 12月 4日(月)～ 2月 2日(金) 【冬季休業 12月28日(木)～ 1月 3日(水)】	●後期 3 年次生博士論文提出期限 12月11日(月) 【冬季休業 12月28日(木)～ 1月 3日(水)】	●大学院入学者選抜 (博士前期/博士後期) 12月14日(木)	
	3	4	5	6	7	8	9				
	10	11	12	13	14	15	16				
	17	18	19	20	21	22	23				
	24	25	26	27	28	29	30				
	19	31									
1 月		1	2	3	4	5	6	●看護 3 年 妊娠期助産実習 1月22日(月)～ 2月16日(金) ●授業終了 1月29日(月) ●後期試験 1月31日(水)～ 2月6日(火) 【キャリア支援イベント】 1/31から2/16までのいずれか 1 日 【卒業生との交流会】 1/31から2/16までのいずれか 1 日	●前期 2 年次生修士論文提出期限 1月10日(水) ●前期(CNS) 2 年次生課題研究論文提出期限 1月31日(水)	●大学入学共通テスト 1月13日(土) ～14日(日) ●総合型選抜 (山形県内定着枠) 1月30日(火)	
	7	8	9	10	11	12	13				
	14	15	16	17	18	19	20				
	21	22	23	24	25	26	27				
	19	28	29	30	31						
2 月					1	2	3	【春季休業 2月 7日(水)～ 3月31日(日)】 ●理学 1 年 臨床実習Ⅰ 2月12日(月)～ 2月19日(月) ●作業 2 年 見学実習 2月13日(火)～ 2月19日(月)	【春季休業 2月 7日(水)～ 3月31日(日)】 ●前期 2 年次生修士論文・ 前期(CNS) 2 年次生課題研究論文・ 後期 3 年次生博士論文発表会 2月15日(木)	●一般選抜(前期) 2月25日(日)	
	4	5	6	7	8	9	10				
	11	12	13	14	15	16	17				
	18	19	20	21	22	23	24				
	2	25	26	27	28	29					
3 月						1	2	●卒業証書・学位記授与式 3月12日(火)	●卒業証書・学位記授与式 3月12日(火)		
	3	4	5	6	7	8	9				
	10	11	12	13	14	15	16				
	17	18	19	20	21	22	23				
	24	25	26	27	28	29	30				
	0	31									

目 次

I 本学の教育理念

- 1 建学の理念・目的
- 2 教育目標
- 3 各学科の教育理念
- 4 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
- 5 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

II 開設授業科目一覧

- 1 看護学科
 - （1）平成27年度～令和元年度入学生用
 - （2）令和2年度～令和3年度入学生用
 - （3）令和4年度以降入学生用
- 2 理学療法学科
 - （1）平成26年度～令和元年度入学生用
 - （2）令和2年度～令和3年度入学生用
 - （3）令和4年度以降入学生用
- 3 作業療法学科
 - （1）平成26年度～令和元年度入学生用
 - （2）令和2年度～令和3年度入学生用
 - （3）令和4年度以降入学生用

III 講義概要

- 1 総合基礎教育科目（三学科共通）
- 2 専門基礎科目（三学科共通）
- 3 専門科目
 - （1）看護学科
 - （2）理学療法学科
 - （3）作業療法学科

IV 教員名簿

高等教育段階の教育費負担軽減制度の要件に定める
「実務経験のある教員による科目」一覧表

I 本学の教育理念

I 本 学 の 教 育 理 念 等

1 建学の理念・目的

「幅広い教養と豊かな人間性を備え、高度な知識と技術を持ち、専門職としての理念に基づき行動できる人材を育成するとともに、地域に開かれた大学として保健医療に関する教育・研究の成果を地域に還元し、もって、県民の健康と福祉の向上に寄与する」ことを建学の理念・目的としています。

2 教育目標

1. 社会や人間の尊厳を理解し、人々と共感し適切に対応できる人間性豊かな人材の育成
2. 科学的知識に裏付けられた高度な専門的技術と倫理的判断力を有する人材の育成
3. 多様な保健医療専門職の役割を理解し、チーム医療に必要な諸能力を備え、実践できる人材の育成
4. 絶えざる向上意欲と自ら研究する姿勢を身につけ、課題の究明に創造的に取り組む人材の育成
5. 国際的視野を持ち活躍できる人材の育成
6. 地域の保健医療の水準の向上に貢献できる人材の育成

3 各学科の教育理念

看護学科

看護学科は「信頼」「創造」「変革」に価値を置き、看護学と社会の発展に寄与する専門職を育成します。

信頼 人間を尊重し、誠実さと思いやりの心を持ち相互に信頼できる人間関係を作れる人

創造 自ら学び考えて行動し、豊かな知と技に基づく看護、そして地域や社会を創造する人

変革 持続可能な社会を目指し、つねに新しい課題に挑戦して看護や社会を変革しようとする人

理学療法学科

理学療法士が必要とされる分野が医療の現場のみならず、保健・福祉やスポーツの領域まで拡大してきていることから、こうした幅広い対象者に適切に対応できる高度な知識や技術に精通した専門職を育成することを理念とし、豊かな人間性と科学的思考力、倫理的判断力と専門的技術力を育成し、多様な社会のニーズに対応できる高度な知識技術を習得することができるように専門教育を行います。

作業療法学科

専門職としての理念に根差した高度な専門技術を持ち、病院や施設や地域のなかで活躍できる人材を育成することを理念として、豊かな人間性と科学的思考力、倫理的判断力と専門的技術力を育成し、多様な社会のニーズに対応できる高度な知識技術を習得することができるように専門教育を行います。

4 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

看護学科

看護学科ディプロマ・ポリシーに基づき、以下のようなカリキュラム編成とする。

1. 多様な知識、多様な文化や価値観を理解するため、「基礎演習」「自然と人間」「社会と文化」「語学」「学際」から構成する総合基礎教育科目を設置する。「基礎演習」は大学生としての学びの基盤形成を目指し、アカデミックリテラシー（必修）、情報科学・情報リテラシー（必修）、問題解決思考（選択）の3科目を置く。「自然と人間」「社会と文化」「語学」には知的好奇心に基づく選択ができる科目を置く。「学際」には、地元創成に資するため、地元（やまがた）探究（必修）を置く。
2. 専門科目の基盤として必要な人間のこころと身体の機能・構造、保健医療福祉制度等の社会の仕組みを理解する科目を専門基礎科目に設置する。とくに、倫理観に基づく行動に資する生命医療倫理学、連携・協働に資する保健医療論、チーム医療論を必修科目として置く。また、全ての学生が生殖遺伝学、基礎保健学、保健統計学を必修で学ぶ。
3. 看護を実践するための基本となる能力、看護ケアの展開能力を修得する科目を「看護の基盤科目群」「性と成育の看護科目群」「病と加齢の看護科目群」「メンタルとコミュニティヘルスの看護科目群」として設置する。各科目群に看護学の専門領域別の科目を配置し、それを効果的に修得するために概論、方法論等と実習を配置する。
4. 看護実践の中で研鑽する能力を修得する科目として、看護の発展科目群を設置する。そのうち、必修科目で構成される発展看護では、看護を統合的に捉える科目や研究に資する科目を置く。選択科目で構成される看護特論では、多様性や地元創成に資する科目を配置する。
5. 看護師、保健師、助産師それぞれの専門性と、相互の連携協働に関する必修科目を2年次と3年次に配置する。

保健師教育、助産師教育はいずれかの選択制とし、保健師選択または助産師選択科目を3年次以降に配置する。

理学療法学科

理学療法学科ディプロマ・ポリシーに基づき、以下のようなカリキュラム編成をする。

1. 人間、生命・健康、社会・環境、文化・コミュニケーションへの理解を深めるため、総合基礎教育科目を設ける。
2. 専門科目の基盤として人体の構造、機能、病態を理解する科目と、障がいや社会福祉を理解し、多職種間で協働する能力を養う科目を、専門基礎科目に設ける。
3. 理学療法の臨床および研究活動に必要な知識、技術、問題解決能力を修得するため専門科目を設ける。
4. 高度で専門的な内容に段階的に進めるよう、総合基礎教育科目・専門基礎科目・専門科目の履修順序を体系的に編成する。
5. 学生の主体的な学習を促すために、講義、実技、演習、ゼミナール等の組み合わせを工夫し、科目に適した授業を編成する。
6. 国際的な視野から理学療法を捉える能力を身につけるため、英語文献や英文記述を多用する。

作業療法学科

作業療法学科では、様々な対象者に対して、多様なアプローチを用いた支援を行うことができる優れた作業療法士を養成するためにカリキュラムを構成する。

1. 作業療法の実践に必要な豊かな人間性と倫理性、基盤となる資質や能力を身につけるために、総合基礎教育科目を設ける。
2. 作業療法学を自ら探求する動機づけと継続的に学習する基盤づくりのために、専門基礎科目を設ける。
3. 作業療法の基本的な思考・知識・技術・態度を修得するために、専門科目を設ける。
4. 3年次まで教育課程で学んだ知識、技能、態度と作業療法過程を、実習施設において指導者による指導を受けながら作業療法の実践を行い、実践に適合した知識、技能、態度の統合を達成できるようにするために、臨床実習を設ける。
5. 主体的に科学的・創造的探求ができる能力を身につけるため、卒業研究を配置する。
6. 保健・医療・福祉などの各領域と連携、協働するための能力を身につけるために、チーム医療論等を設ける。
7. 国際化につながる視野を広げ、海外での作業療法の実践に道をひらけるように、世界作業療法士連盟の認定校の基準を満たす教育課程を編成する。

5 ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

看護学科

看護学科の教育理念に基づき、所定の単位を修得し、次の能力を身につけた学生に学士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護の対象となる人々に関心を寄せ、誠実さと思いやりの態度を身につけ、自己の看護観を表現できる（看護観）
2. 人間の尊厳を理解し、倫理観に基づき責任ある行動がとれる（倫理）
3. 根拠に基づいた看護実践能力の基礎を身につけている（知識・技術）
4. 保健医療福祉チームや地元住民など、多様な人々と連携・協働する基礎能力を身につけている（協働）
5. 地域の保健医療福祉に関心をもち、看護専門職として人々の健康や生活を向上する意欲をもつ（地元創成）
6. 国内外の文化を理解し、多様な観点から健康や生活を考察できる（多様性・柔軟性）
7. 知的好奇心を持ち、継続的にものごとに取り組み、看護専門職として向上する意欲がある（研鑽）

理学療法学科

理学療法学科の教育理念に基づき、所定の単位を修得し、次の能力を身につけた学生に学士（理学療法学）の学位を授与する。

1. 人の尊厳と多様な価値観を理解し、高い倫理観をもって健康を支援していく能力を有している。
2. 理学療法士として必要な専門的知識と技術を修得し、人の身体機能上の問題に対して、根拠に基づく論理的思考をもって解決する能力を有している。
3. 人を支援する専門職の一員として自己の責任を自覚し、多職種間の信頼関係を構築し、協働する能力を有している。
4. 国際的な広い視野から問題を捉え、解決する意欲と能力を有している。
5. 知識と技術の向上のために、自ら学び、鍛錬する意欲と能力を有している。
6. 医学の進歩と社会システムの複雑化を見据え、自己の専門性を発揮して地域社会に貢献する意欲と能力を有している。

作業療法学科

本学学則所定の作業療法学科教育課程の卒業単位を修得し、教育目標を達成できたと判断できる以下の学生に学士（作業療法学）の学位を授与する。

1. 対象者をはじめ協働する職種と良好な人間関係を構築することができる人間性豊かなコミュニケーション能力を有し、専門職として責任のある行動ができる。
2. 人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する専門的な思考法を身に付け、作業療法を医療機関や福祉施設のみならず、対象者が生活する地域の中で実践できる。
3. 対象者の心身機能・活動・参加という生活機能全体を、対象者を取り巻く環境にも目を向けながら、科学的・創造的に思考し探求できる。
4. 多様な価値観や国際化につながる視野を有する専門職として、他の専門職および関わる人々と連携しながら保健・医療・福祉の向上に寄与できる。
5. 卒業後、対象者の生活を総合的に支える人材として活動できる。

Ⅱ 開設授業科目一覧

卒業要件

本学を卒業するためには、本学に4年（3年次編入生は2年）以上在学し、所定の授業科目を履修し、学科の区分に応じて次に定める単位を修得する必要があります。

【卒業に必要な単位数】 学科・入学年度別

区 分		看護学科	理学療法学科	作業療法学科
		平成27年度以降入学～令和3年度入学生	平成26年度～令和元年度入学	
総合基礎教育科目	人間の理解	4単位	4単位	4単位
	生命科学・健康の理解	5単位 (うち必修3単位)	7単位 (うち必修4単位)	7単位 (うち必修4単位)
	社会・環境の理解	4単位	4単位	4単位
	文化・コミュニケーションの理解	7単位 ※1	7単位 ※1	7単位 ※1
	上記に算入するもののほかすべての選択科目から	3単位		
専門教育科目	専門基礎科目	20単位 (うち必修20単位)	31単位 (うち必修31単位)	32単位 (うち必修32単位)
	専門科目	96単位 (うち必修79単位)	68単位 (うち必修68単位)	72単位 (うち必修72単位)
上記に算入するもののほかすべての選択科目から			3単位	
合 計		139単位	124単位	126単位

※1 外国語科目から5単位を選択しなければなりません。

区 分		理学療法学科	作業療法学科
		令和2年度以降入学	
総合基礎教育科目	科学的思考の基盤	9単位(うち必修7単位)	6単位(うち必修4単位)
	人間と生活	6単位	6単位(うち必修2単位)
	社会の理解	4単位(うち必修2単位)	6単位(うち必修2単位)
	語学	4単位	4単位
専門教育科目	専門基礎科目	32単位 (うち必修31単位)	32単位 (うち必修31単位)
	専門科目	75単位 (うち必修69単位)	76単位 (うち必修76単位)
合 計		130単位	130単位

区 分		看護学科
		令和4年度以降入学
総合基礎教育科目	基礎演習	3単位 (うち必修3単位)
	自然と人間	4単位 (うち必修2単位)
	社会と文化	6単位
	語学	5単位
	上記に算入するもののほかすべての選択科目から	3単位
	学際	2単位 (うち必修2単位)
専門教育科目	専門基礎科目	25単位 (うち必修24単位)
	専門科目	93単位 (うち必修75単位) ※2
合 計		141単位

※2 助産師選択は「母子保健医療システム論（2単位）」を、保健師選択は「相互理解連携論（1単位）」と「まちづくり看護論（2単位）」を、必ず選択する必要があります。

開設授業科目一覧（平成27年度～令和元年度入学生用）

（看護学科）

区分	授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
総合基礎教育科目	人間の理解	心理学	30	2	2							
		教育学	30	2			2					
		哲学	30	2		2						
		宗教学	30	2	2							
		文学	30	2	2							
		音楽	30	2	2							
		美術	30	2		2						
	生命科学・健康の理解	自然科学	30	2		2						
		自然科学演習	30	1		1						
		数学	30	2	2							
		統計学	30	2		2						
		生命倫理学	30	2	2							
		体育実技	45	1	1							
	社会・環境の理解	法学	30	2	2							
		歴史学	30	2		2						
		経済学	30	2	2							
		社会学	30	2		2						
		環境学	30	2			2					
		政治学	30	2		2						
		国際関係論	30	2	2							
	文化・コミュニケーションの理解	国語表現法	30	2			2					
		文化人類学	30	2				2				
		英語Ⅰ	30	1	1							
		英語Ⅱ	30	1		1						
		英語Ⅲ	30	1			1					
		英語表現法Ⅰ	30	1	1							
		英語表現法Ⅱ	30	1		1						
		医療英会話	30	1			1					
		実践英語	30	1				1				
		中国語	30	1				1				
		ハングル語	30	1			1					
		情報科学	30	1	1							
専門教育科目	専門基礎科目	臨床心理学	30	2				2				
		カウンセリング論	15	1			1					
		人間発達学	30	2		2						
		保健医療論	30	1	1							
		生体形態学	60	2		2						
		生体組織学	30	1		1						
		生体機能学Ⅰ	60	2		2						
		栄養代謝学	30	1			1					
		臨床栄養学	15	1			1					
		生体防御学	15	1			1					
		病原微生物学	30	1		1						
		薬理学	30	1			1					
		臨床薬理学	30	1				1				

区分	授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	専門基礎科目	疾病科学	30	1		1						
		成人老年疾病論Ⅰ	30	1			1					
		成人老年疾病論Ⅱ	30	1			1					
		成人老年疾病論Ⅲ	30	1				1				
		救急医療学	15		1			1				
		家族社会学	15		1			1				
		国際保健論	30		2			2				
		チーム医療論	30	1					1			
		心身障がい論	30		2			2				
		高次脳機能障がい論	15		1			1				
		精神障がい論	30	1			1					
		小児疾病論	30	1			1					
		社会福祉論	30	2			2					
	専門科目	基礎看護学	看護学概論	30	2		2					
			基礎看護方法論Ⅰ	90	3		3					
			基礎看護方法論Ⅱ	60	2			2				
			看護倫理	15	1		1					
			看護理論	15	1		1					
			看護過程論	30	1			1				
			看護人間関係論	30	2		2					
			ヘルスアセスメント論	30	1				1			
			家族看護学	15	1			1				
			基礎看護学実習Ⅰ	45	1		1					
			基礎看護学実習Ⅱ	90	2				2			
		成人看護学	成人看護学概論	30	2			2				
			成人急性期看護方法論Ⅰ	30	1				1			
			成人慢性期看護方法論Ⅰ	30	1				1			
			成人急性期看護方法論Ⅱ	30	1					1		
			成人慢性期看護方法論Ⅱ	30	1					1		
			成人急性期看護学実習	135	3						3	
			成人慢性期看護学実習	135	3						3	
		老年看護学	老年看護学概論	15	1		1					
			老年看護方法論	45	2				2			
			老年看護学実習Ⅰ	45	1		1					
			老年看護学実習Ⅱ	90	2					2		
		精神看護学	精神看護学概論	30	2				2			
			精神看護方法論	45	2				2			
			精神看護学実習	90	2					2		
		母性看護学	母性看護学概論	15	1			1				
			母性看護方法論Ⅰ	30	1				1			
			母性看護方法論Ⅱ	45	2					2		
			母性看護学実習	90	2						2	
		小児看護学	小児看護学概論	15	1			1				
			小児看護方法論	45	2				2			
			小児看護学実習Ⅰ	45	1				1			
			小児看護学実習Ⅱ	45	1					1		

区分	授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	専 門 科 目	在宅看護学	在宅看護概論	15	1				1				
			在宅看護方法論Ⅰ	15	1				1				
			在宅看護方法論Ⅱ	30	1					1			
			在宅訪問看護実習	45	1						1		
			在宅看護連携実習	45	1						1		
		公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	15	1			1					
			基礎保健学	15	1				1				
			保健医療福祉政策論	15	1				1				
			保健統計学	30		2				2			
			学校保健論	15		1				1			
			産業保健論	15		1				1			
			公衆衛生看護方法論Ⅰ	15		1				1			
			公衆衛生看護方法論Ⅱ	30		1				1			
			対象別公衆衛生看護論	15		1				1			
			コミュニティ活動展開論	30		2						2	
			ケアシステム論	15		1						1	
			ヘルスコミュニケーション論	15		1				1			
			公衆衛生看護管理論	15		1							1
			地域看護診断実習	45		1						1	
			公衆衛生看護活動実習	90		2							2
		助産学	基礎助産	15	1			1					
			性と生殖	15	1				1				
			性と生殖の看護	15	1				1				
			妊娠期助産方法論	30		1				1			
			分娩期助産方法論	60		2						2	
			産褥期助産方法論	60		2						2	
			地域母子保健	15		1							1
			助産管理	15		1							1
			妊娠期助産実習	45		1					1		
			分娩期助産実習	225		5						5	
			分娩産褥期助産実習	90		2						2	
		発展看護	看護教育学	30	2								2
			看護管理学	30	2					2			
			健康危機管理論	30	2								2
			総合看護学実習Ⅰ	90	2							2	
			総合看護学実習Ⅱ	45	1								1
			研究方法論Ⅰ	30	2					2			
			研究方法論Ⅱ	60	2					2			
			卒業研究	90	3								3
		看護特論	終末期看護論	15		1							1
			国際看護論	15		1							1
			欧文原著講読	30		1							1
			地元論	15		1	1						
			相互理解連携論	15		1			1				
			ジェネラリズム看護論	15		1			1				

開設授業科目一覧（令和2年度～3年度入学生用）

（看護学科）

区分	授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
総合基礎教育科目	人間の理解	心理学	30	2	2							
		教育学	30	2			2					
		哲学	30	2		2						
	生命科学・健康の理解	自然科学	30	2	2							
		自然科学演習	30	1		1						
		数学	30	2	2							
		統計学	30	2		2						
		生命倫理学	30	2	2							
		スポーツ学	30	2		2						
	社会・環境の理解	経済学	30	2	2							
		社会学	30	2		2						
		政治学	30	2		2						
		国際関係論	30	2	2							
		人間関係・コミュニケーション論	30	2		2						
	文化・コミュニケーションの理解	文章表現法	30	2			2					
		文化人類学	30	2			2					
		英語Ⅰ	30	1	1							
		英語Ⅱ	30	1		1						
		英語Ⅲ	30	1			1					
		英語表現法Ⅰ	30	1	1							
		英語表現法Ⅱ	30	1		1						
		医療英会話	30	1			1					
		実践英語	30	1				1				
		情報科学・情報リテラシー	30	2	2							
専門教育科目	専門基礎科目	臨床心理学	30	2				2				
		カウンセリング論	15	1			1					
		人間発達学	30	2		2						
		保健医療論	30	1	1							
		生体形態学	60	2	2							
		生体組織学	30	1	1							
		生体機能学Ⅰ	60	2	2							
		栄養代謝学	30	1		1						
		臨床栄養学	15	1		1						
		生体防御学	15	1			1					
		病原微生物学	30	1		1						
		薬理学	30	1			1					
		臨床薬理学	30	1				1				
		疾病科学	30	1		1						
		成人老年疾病論Ⅰ	30	1			1					
		成人老年疾病論Ⅱ	30	1			1					
		成人老年疾病論Ⅲ	30	1				1				
		救急医療学	15	1	1			1				
		家族社会学	15	1	1			1				
		国際保健論	30	2				2				
		チーム医療論	30	1					1			

区分	授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	専門基礎科目	心身障がい論	30		2				2				
		高次脳機能障がい論	15		1			1					
		精神障がい論	30	1				1					
		小児疾病論	30	1				1					
		社会福祉論	30	2				2					
	基礎看護学	看護学概論	30	2		2							
		基礎看護方法論Ⅰ	90	3			3						
		基礎看護方法論Ⅱ	60	2				2					
		看護倫理	15	1			1						
		看護理論	15	1			1						
		看護過程論	30	1				1					
		看護人間関係論	30	2			2						
		ヘルスアセスメント論	30	1					1				
		家族看護学	15	1				1					
		基礎看護学実習Ⅰ	45	1			1						
		基礎看護学実習Ⅱ	90	2					2				
	成人看護学	成人看護学概論	30	2				2					
		成人急性期看護方法論Ⅰ	30	1					1				
		成人慢性期看護方法論Ⅰ	30	1					1				
		成人急性期看護方法論Ⅱ	30	1						1			
		成人慢性期看護方法論Ⅱ	30	1						1			
		成人急性期看護学実習	135	3							3		
		成人慢性期看護学実習	135	3							3		
	老年看護学	老年看護学概論	15	1			1						
		老年看護方法論	45	2						2			
		老年看護学実習Ⅰ	45	1			1						
		老年看護学実習Ⅱ	90	2							2		
	精神看護学	精神看護学概論	30	2					2				
		精神看護方法論	45	2						2			
		精神看護学実習	90	2							2		
	母性看護学	母性看護学概論	15	1				1					
		母性看護方法論Ⅰ	30	1					1				
		母性看護方法論Ⅱ	45	2						2			
		母性看護学実習	90	2							2		
	小児看護学	小児看護学概論	15	1				1					
		小児看護方法論	45	2						2			
		小児看護学実習Ⅰ	45	1					1				
		小児看護学実習Ⅱ	45	1							1		
	在宅看護学	在宅看護概論	15	1					1				
		在宅看護方法論Ⅰ	15	1					1				
		在宅看護方法論Ⅱ	30	1						1			
		在宅訪問看護実習	45	1							1		
		在宅看護連携実習	45	1							1		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	15	1				1					
		基礎保健学	15	1					1				
		保健医療福祉政策論	15	1					1				
		保健統計学	30		2					2			
		学校保健論	15		1					1			

区分	授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	公衆衛生看護学	産業保健論	15		1					1			
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	15		1					1			
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	30		1					1			
		対象別公衆衛生看護論	15		1					1			
		コミュニティ活動展開論	30		2							2	
		ケアシステム論	15		1							1	
		ヘルスコミュニケーション論	15		1					1			
		公衆衛生看護管理論	15		1							1	
		地域看護診断実習	45		1							1	
		公衆衛生看護活動実習	90		2							2	
	助産学	基礎助産	15	1				1					
		性と生殖	15	1					1				
		性と生殖の看護	15	1					1				
		妊娠期助産方法論	30		1					1			
		分娩期助産方法論	60		2							2	
		産褥期助産方法論	60		2							2	
		地域母子保健	15		1								1
		助産管理	15		1								1
		妊娠期助産実習	45		1						1		
		分娩期助産実習	225		5							5	
		分娩産褥期助産実習	90		2							2	
	発展看護	看護教育学	30	2									2
		看護管理学	30	2						2			
		健康危機管理論	30	2								2	
		総合看護学実習Ⅰ	90	2								2	
		総合看護学実習Ⅱ	45	1									1
		研究方法論Ⅰ	30	2						2			
		研究方法論Ⅱ	60	2						2			
		卒業研究	90	3								3	
	看護特論	終末期看護論	15		1								1
		国際看護論	15		1								1
		欧文原著講読	30		1								1
		地元論	15		1	1							
		相互理解連携論	15		1				1				
		ジェネラリズム看護論	15		1				1				

開設授業科目一覧（令和4年度以降入学生用）

（看護学科）

区分		授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
総合基礎教育科目	基礎演習	アカデミックリテラシー	15	1		1							
		情報科学・情報リテラシー	30	2		2							
		問題解決思考 <放送大学>	30		2		2						
	自然と人間	自然科学	30	2		2							
		自然科学演習	30		1		1						
		哲学	30		2		2						
		統計学	30		2		2						
		環境学 <放送大学>	30		2				2				
	社会と文化	社会学	30		2		2						
		政治学	30		2		2						
		経済学	30		2	2							
		文化人類学	30		2				2				
		宗教学	30		2	2							
		国際関係論	30		2	2							
		文学 <放送大学>	30		2				2				
		スポーツ学	30		2		2						
	語学	英語Ⅰ	30		1	1							
		英語Ⅱ	30		1		1						
		英語表現法Ⅰ	30		1	1							
		英語表現法Ⅱ	30		1		1						
		英語プレゼンテーション	30		1				1				
		医療英会話	30		1				1				
		韓国語	30		1	1							
		中国語	30		1		1						
	学際	地元（やまがた）探求Ⅰ	15	1		1							
		地元（やまがた）探求Ⅱ	15	1			1						
専門教育科目	専門基礎科目	保健医療論	15	1		1							
		生命医療倫理学	15	1		1							
		心理学	30		2	2							
		カウンセリング論	15		1				1				
		人間発達学	30		2		2						
		生体形態学	60	2		2							
		生体機能学Ⅰ	60	2		2							
		栄養代謝学	30	1			1						
		臨床栄養学	15	1			1						
		免疫と微生物	30	1					1				
		薬理学	30	1					1				
		臨床薬理学	30	1						1			
		病理学	30	1			1						
		成人老年疾病論Ⅰ	30	1					1				
		成人老年疾病論Ⅱ	30	1					1				
		成人老年疾病論Ⅲ	30	1						1			
		生殖遺伝学	15	1						1			
		基礎保健学	15	1						1			
		保健統計学	30	2						2			
		国際保健論	30		2					2			
		チーム医療論	30	1							1		
		高次脳機能障がい論	15		1				1				
		精神障がい論	30	1					1				
		小児疾病論	30	1					1				
		社会福祉論	30	2					2				

区分				授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
						必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	専門科目	看護の基盤科目群	基礎看護学	看護学概論	30	2		2							
				基礎看護技術論Ⅰ（生活の援助技術）	90	3			3						
				基礎看護技術論Ⅱ（診療の援助技術）	60	2				2					
				看護倫理	15	1			1						
				看護理論	15	1			1						
				看護過程論	30	1				1					
				看護人間関係論	15	1		1							
				フィジカルアセスメント論	30	1				1					
				家族看護学	15	1			1						
				基礎看護学実習Ⅰ	45	1			1						
				基礎看護学実習Ⅱ	90	2					2				
		性と成育の看護科目群	小児看護学	小児看護学概論	15	1				1					
				小児看護方法論	45	2						2			
				小児看護学実習Ⅰ	45	1					1				
				小児看護学実習Ⅱ	45	1							1		
			母性看護学	母性看護学概論	15	1				1					
				妊娠分娩期看護方法論	30	1					1				
				産褥新生児期看護方法論	45	2						2			
				母性看護学実習	90	2							2		
			助産学	助産プロフェッショナリズム	15	1				1					
				リプロダクティブヘルスケア	15	1					1				
				周産期生活支援学	30		1					1			
				分娩期助産診断技術学	60		2							2	
				産褥期助産診断技術学	60		2							2	
				ハイリスク周産期	23		1								1
				助産システム論	30		2					2			
				周産期生活支援実習	45		1						1		
				助産学実習	315		7							7	
			成人看護学	成人看護学概論	15	1				1					
				急性期看護方法論Ⅰ	30	1					1				
				急性期看護方法論Ⅱ	30	1						1			
				慢性看護方法論Ⅰ	30	1					1				
				慢性看護方法論Ⅱ	23	1						1			
				急性期看護学実習	135	3							3		
				慢性看護学実習	135	3							3		
			老年看護学	老年看護学概論	15	1			1						
				老年看護方法論	45	2						2			
				高齢者生活探究実習	45	1					1				
				老年看護学実習	90	2							2		
		メンタルとコミュニケーションの看護科目群	精神看護学	精神看護学概論	30	2			2						
				精神看護方法論Ⅰ	23	1					1				
				精神看護方法論Ⅱ	23	1						1			
				精神保健学実習	45	1					1				
				精神看護学実習	45	1							1		
				在宅看護概論	15	1					1				
			在宅看護学	在宅看護方法論Ⅰ	15	1					1				
				在宅看護方法論Ⅱ	30	1						1			
				訪問看護実習	45	1							1		
				地域包括支援実習	45	1							1		

区分		授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
					必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	専 門 科 目	メンタルとコミュニティヘルスの看護科目群	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	15	1			1					
				保健医療福祉政策論	30	2				2				
				ケアシステム論	15	1					1			
				学校保健論	15	1					1			
				産業保健論	15	1					1			
				公衆衛生看護活動論	30	2					2			
				公衆衛生看護活動演習	30	2					2			
				ヘルスコミュニケーション論	15	1					1			
				コミュニティ活動展開論	30	2							2	
				公衆衛生看護管理論	15	1							1	
				地域看護診断実習	45	1							1	
				公衆衛生看護活動実習	90	2							2	
	専 門 科 目	看護の発展科目群	発展看護	看護教育学	15	1								1
				看護管理学	15	1					1			
				ライフサイクル看護連携論	15	1								1
				災害看護・健康危機管理論	30	2							2	
				総合看護学実習Ⅰ	90	2							2	
				総合看護学実習Ⅱ	45	1							1	
				研究方法論Ⅰ	15	1				1				
				研究方法論Ⅱ	45	2						2		
				卒業研究	90	3							3	
			看護特論	エンドオブライフケア論	15	1								1
				国際看護論	15	1								1
				母子保健医療システム論	30	2								2
				英語論文読解	15	1				1				
				相互理解連携論	15	1					1			
				ジェネラリズム看護論	15	1				1				
				まちづくり看護論	30	2					2			

開設授業科目一覧（平成26年度～令和元年度入学生用）

（理学療法学科）

区分	授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
総合基礎教育科目	人間の理解	心理学	30	2	2							
		教育学	30	2			2					
		哲学	30	2		2						
		宗教学	30	2	2							
		文学	30	2	2							
		音楽	30	2	2							
		美術	30	2		2						
	生命科学・健康の理解	自然科学	30	2	2							
		自然科学演習	30	1		1						
		数学	30	2	2							
		統計学	30	2		2						
		生命倫理学	30	2	2							
		体育実技	45	1		1						
	社会・環境の理解	法学	30	2	2							
		歴史学	30	2		2						
		経済学	30	2	2							
		社会学	30	2		2						
		環境学	30	2			2					
		政治学	30	2		2						
		国際関係論	30	2	2							
	文化・コミュニケーションの理解	国語表現法	30	2			2					
		文化人類学	30	2				2				
		英語Ⅰ	30	1	1							
		英語Ⅱ	30	1		1						
		英語表現法Ⅰ	30	1	1							
		英語表現法Ⅱ	30	1		1						
		医療英会話	30	1			1					
		実践英語	30	1				1				
		情報科学	30	1	1							
専門教育科目	専門基礎科目	臨床心理学	30	2				2				
		人間発達学	30	2		2						
		保健医療論	30	1	1							
		生体形態学	60	2	2							
		生体組織学	30	1	1							
		生体機能学Ⅰ	60	2		2						
		生体機能学Ⅱ	15	1		1						
		栄養代謝学	30	1		1						
		生体防御学	15	1			1					
		病原微生物学	30	1		1						
		生体形態学実習	90	2		2						
		生体機能学演習	30	1	1							
		薬理学	30	1			1					
		臨床薬理学	30	1				1				

区分	授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	疾病科学	30	1			1						
	成人老年疾病論Ⅰ	30	1				1					
	成人老年疾病論Ⅱ	30	1				1					
	リハビリテーション概論	30	2		2							
	救急医療学	15		1				1				
	国際保健論	30		2				2				
	チーム医療論	30	1						1			
	心身障がい論	30		2				2				
	高次脳機能障がい論	15	1					1				
	精神障がい論	30	1				1					
	運動障がい基礎論	45	2			2						
	発達障がい基礎論	30	2				2					
	神経障がい基礎論	45	2				2					
	社会福祉論	30	2				2					
	基礎理学療法学	理学療法学概論	30	1		1						
		臨床機能解剖学	30	1		1						
		運動学Ⅰ	30	1		1						
		運動学Ⅱ	30	1			1					
		運動学演習	30	1				1				
		理学療法検査技術学	45	2				2				
		理学療法検査技術学実習	30	1				1				
		運動療法学	30	1				1				
		物理療法学	30	1				1				
		理学療法評価学	30	1					1			
		物理療法学演習	30	1					1			
		義肢装具学	30	1					1			
		義肢装具学演習	30	1					1			
		理学療法管理運営論	15	1								1
	運動障がい論	運動障がい理学療法学Ⅰ	30	2				2				
		運動障がい理学療法学Ⅱ	30	1					1			
		運動障がい理学療法学特別講義	30		1					1		
	神経障がい論	神経障がい理学療法評価学	30	2				2				
		神経障がい理学療法学Ⅰ	30	2					2			
		神経障がい理学療法学Ⅱ	30	1					1			
		神経障がい理学療法学特別講義	30		1					1		
	発達障がい論	発達障がい理学療法学Ⅰ	30	2				2				
		発達障がい理学療法学Ⅱ	30	1					1			
		発達障がい理学療法学特別講義	30		1							1
	老年期障がい論	老年期障がい理学療法学	30	2					2			
		老年期障がい理学療法学特別講義	15		1					1		
	内部障がい論	内部障がい理学療法学Ⅰ	30	2					2			
		内部障がい理学療法学Ⅱ	30	1						1		
		内部障がい理学療法学特別講義	15		1					1		
	生活障がい論	生活障がい援助論	30	2				2				
		生活障がい援助論演習	30	1				1				
		地域リハビリテーション学	30	2					2			
		地域理学療法学	30	2						2		

区分		授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
					必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	発展理学療法学	理学療法技術学Ⅰ	30	1								1		
		理学療法技術学Ⅱ	30		1							1		
		理学療法発展領域論	30		1									1
		生体計測学	30	1								1		
	理学療法の研究	理学療法研究法	15	1							1			
		理学療法研究法演習	30	1								1		
		理学療法卒業研究	180	4										4
	実習	臨床実習Ⅰ	45	1				1						
		臨床実習Ⅱ	225	5								5		
		臨床実習Ⅲ	360	8									8	
		臨床実習Ⅳ	360	8									8	

開設授業科目一覧（令和2年度～3年度入学生用）

（理学療法学科）

区分			授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
					必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
総合基礎教育科目	科学的思考の基盤	自然科学	30	2		2								
		自然科学演習	30	1			1							
		数学	30		2	2								
		統計学	30	2			2							
		情報科学・情報リテラシー	30	2		2								
		文章表現法	30		2			2						
	人間と生活	心理学	30		2	2								
		教育学	30		2			2						
		哲学	30		2		2							
		生命倫理学	30		2	2								
		スポーツ学	30		2		2							
	社会の理解	経済学	30		2	2								
		社会学	30		2		2							
		政治学	30		2		2							
		人間関係・コミュニケーション論	30	2			2							
		国際関係論	30		2	2								
		文化人類学	30		2			2						
	語学	英語Ⅰ	30		1	1								
		英語Ⅱ	30		1		1							
		英語表現Ⅰ	30		1	1								
		英語表現Ⅱ	30		1		1							
		医療英会話	30		1			1						
		実践英語	30		1				1					
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	臨床心理学	30	2				2					
			人間発達学	30	2		2							
			生体形態学	60	2		2							
			生体機能学Ⅰ	60	2		2							
			生体機能学Ⅱ	15	1			1						
			生体形態学実習	90	2			2						
			生体機能学演習	30	1			1						
			栄養代謝学	30	1			1						
		疾病と障がい	病理学	30		2		2						
			病原微生物学	30		1		1						
			薬理・臨床薬理学	30	2				2					
			成人老年疾病論Ⅰ	30	1				1					
			成人老年疾病論Ⅱ	30	1				1					
			救急医療学	15	1					1				
			高次脳機能障がい論	15	1				1					
			精神障がい論	30	1				1					
			運動器障がい論	30	2			2						
			発達障がい論	30	2				2					
			神経障がい論	30	2				2					
		保健医療福祉とリハビリテーションの理念	保健医療論	30		1	1							
			リハビリテーション概論	30	2		2							
			国際保健論	30		2				2				
			チーム医療論	30	1						1			
			社会福祉論	30	2				2					

区分		授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論	30	2		2						
		運動学Ⅰ	30	2			2						
		運動学Ⅱ	30	2				2					
		運動学演習	30	1					1				
		運動療法学	30	2					2				
		理学療法管理運営論	30	2									2
		理学療法評価学Ⅰ	30	1			1						
		理学療法評価学Ⅱ	30	1				1					
		理学療法評価学演習	30	1					1				
		理学療法評価学Ⅰ	30	2				2					
		理学療法評価学Ⅱ	30	2						2			
		生体計測学演習	30	1							1		
		筋骨格系理学療法学Ⅰ	30	2					2				
		筋骨格系理学療法学Ⅱ	30	1						1			
		筋骨格系理学療法学特別講義	15		1						1		
		神経系理学療法学Ⅰ	30	2					2				
		神経系理学療法学Ⅱ	30	1						1			
		神経系理学療法学特別講義	30		1						1		
		小児理学療法学Ⅰ	30	2					2				
		小児理学療法学Ⅱ	30	1						1			
		小児理学療法学特別講義	30		1								1
		高齢期理学療法学	30	2					2				
		高齢期理学療法学特別講義	15		1						1		
		内科系理学療法学Ⅰ	30	2					2				
		内科系理学療法学Ⅱ	30	1						1			
		内科系理学療法学特別講義	15		1						1		
		理学療法技術学	15		1						1		
		物理療法学	45	2						2			
		義肢装具学	45	2						2			
		生活支援系理学療法学Ⅰ	30	2					2				
		生活支援系理学療法学Ⅱ	30	1						1			
		地域リハビリテーション学	30	1						1			
		地域理学療法学	15	1								1	
		理学療法研究法	15	1						1			
		理学療法研究法演習	30	1							1		
		理学療法卒業研究	60	2									2
		臨床実習Ⅰ	45	1			1						
		臨床特論	30	1						1			
		臨床実習Ⅱ	180	4							4		
		臨床実習Ⅲ	360	8							8		
		臨床実習Ⅳ	360	8								8	
		臨床実習Ⅴ	45	1								1	

開設授業科目一覧（令和4年度以降入学生用）

（理学療法学科）

区分			授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
					必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
総合基礎教育科目	科学的思考の基盤	自然科学	30	2		2								
		自然科学演習	30	1			1							
		数学	30		2	2								
		統計学	30	2			2							
		情報科学・情報リテラシー	30	2		2								
		文章表現法	30		2			2						
	人間と生活	心理学	30		2	2								
		教育学	30		2			2						
		哲学	30		2		2							
		生命倫理学	30		2	2								
		スポーツ学	30		2		2							
	社会の理解	経済学	30		2	2								
		社会学	30		2		2							
		政治学	30		2		2							
		人間関係・コミュニケーション論	30	2			2							
		国際関係論	30		2	2								
		文化人類学	30		2			2						
	語学	英語Ⅰ	30		1	1								
		英語Ⅱ	30		1		1							
		英語表現法Ⅰ	30		1	1								
		英語表現法Ⅱ	30		1		1							
		医療英会話	30		1			1						
		実践英語	30		1				1					
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	臨床心理学	30	2				2					
			人間発達学	30	2			2						
			生体形態学	60	2		2							
			生体機能学Ⅰ	60	2		2							
			生体機能学Ⅱ	15	1			1						
			生体形態学実習	90	2			2						
			生体機能学演習	30	1			1						
			栄養代謝学	30	1			1						
	専門基礎科目	疾病と障がい	病理学	30		2		2						
			免疫と微生物	30		1			1					
			薬理・臨床薬理学	30	2				2					
			成人老年疾病論Ⅰ	30	1				1					
			成人老年疾病論Ⅱ	30	1				1					
			救急医療学	15	1					1				
			高次脳機能障がい論	15	1				1					
			精神障がい論	30	1				1					
			運動器障がい論	30	2			2						
			発達障がい論	30	2				2					
			神経障がい論	30	2				2					
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	保健医療論	15		1	1								
		リハビリテーション概論	30	2		2								
		国際保健論	30		2				2					
		チーム医療論	30	1						1				
		社会福祉論	30	2					2					

区分	授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論	30	2		2						
		運動学Ⅰ	30	2			2						
		運動学Ⅱ	30	2				2					
		運動学演習	30	1					1				
		運動療法学	30	2					2				
		理学療法管理運営論	30	2									2
		理学療法評価学Ⅰ	30	1			1						
		理学療法評価学Ⅱ	30	1				1					
		理学療法評価学演習	30	1					1				
		理学療法評価学Ⅰ	30	2				2					
		理学療法評価学Ⅱ	30	2						2			
		生体計測学演習	30	1							1		
		筋骨格系理学療法学Ⅰ	30	2					2				
		筋骨格系理学療法学Ⅱ	30	1						1			
		筋骨格系理学療法学特別講義	15		1						1		
		神経系理学療法学Ⅰ	30	2					2				
		神経系理学療法学Ⅱ	30	1						1			
		神経系理学療法学特別講義	30		1						1		
		小児理学療法学Ⅰ	30	2					2				
		小児理学療法学Ⅱ	30	1						1			
		小児理学療法学特別講義	30		1								1
		高齢期理学療法学	30	2					2				
		高齢期理学療法学特別講義	15		1						1		
		内科系理学療法学Ⅰ	30	2					2				
		内科系理学療法学Ⅱ	30	1						1			
		内科系理学療法学特別講義	15		1						1		
		理学療法技術学	15		1						1		
		物理療法学	45	2						2			
		義肢装具学	45	2						2			
		生活支援系理学療法学Ⅰ	30	2					2				
		生活支援系理学療法学Ⅱ	30	1						1			
		地域リハビリテーション学	30	1						1			
		地域理学療法学	15	1								1	
		理学療法研究法	15	1						1			
		理学療法研究法演習	30	1							1		
		理学療法卒業研究	60	2									2
		臨床実習Ⅰ	45	1			1						
		臨床特論	30	1						1			
		臨床実習Ⅱ	180	4							4		
		臨床実習Ⅲ	360	8							8		
		臨床実習Ⅳ	360	8								8	
		臨床実習Ⅴ	45	1								1	

開設授業科目一覧（平成26年度～令和元年度入学生用）

（作業療法学科）

区分	授業科目の名称	時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
総合基礎教育科目	人間の理解	心理学	30	2	2							
		教育学	30	2			2					
		哲学	30	2		2						
		宗教学	30	2	2							
		文学	30	2	2							
		音楽	30	2	2							
		美術	30	2		2						
	生命科学・健康の理解	自然科学	30	2	2							
		自然科学演習	30	1		1						
		数学	30	2	2							
		統計学	30	2		2						
		生命倫理学	30	2	2							
		体育実技	45	1		1						
	社会・環境の理解	法学	30	2	2							
		歴史学	30	2		2						
		経済学	30	2	2							
		社会学	30	2		2						
		環境学	30	2			2					
		政治学	30	2		2						
		国際関係論	30	2	2							
	文化・コミュニケーションの理解	国語表現法	30	2			2					
		文化人類学	30	2				2				
		英語Ⅰ	30	1	1							
		英語Ⅱ	30	1		1						
		英語表現法Ⅰ	30	1	1							
		英語表現法Ⅱ	30	1		1						
		医療英会話	30	1			1					
		実践英語	30	1				1				
		情報科学	30	1	1							
専門教育科目	専門基礎科目	臨床心理学	30	2				2				
		カウンセリング論	15	1			1					
		人間発達学	30	2		2						
		保健医療論	30	1		1						
		生体形態学	60	2		2						
		生体組織学	30	1		1						
		生体機能学Ⅰ	60	2		2						
		生体機能学Ⅱ	15	1			1					
		栄養代謝学	30	1			1					
		生体防御学	15	1				1				
		病原微生物学	30	1			1					
		生体形態学実習	90	2		2						
		生体機能学演習	30	1		1						
		薬理学	30	1				1				
		臨床薬理学	30	1				1				

区分	授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	専門基礎科目	疾病科学	30	1			1						
		成人老年疾病論Ⅰ	30	1				1					
		成人老年疾病論Ⅱ	30	1				1					
		リハビリテーション概論	30	2		2							
		救急医療学	15	1					1				
		国際保健論	30		2				2				
		チーム医療論	30	1						1			
		心身障がい論	30		2				2				
		高次脳機能障がい論	15	1					1				
		精神障がい論	30	1				1					
		運動障がい基礎論	45	2			2						
		発達障がい基礎論	30	2				2					
		神経障がい基礎論	45	2				2					
		社会福祉論	30	2				2					
	専門科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	30	2		2						
			作業療法理論	30	2						2		
			作業療法国際比較論	15	1								1
			作業学Ⅰ	30	2		2						
			作業学Ⅱ	30	2		2						
			運動学Ⅰ	30	1		1						
			運動学Ⅱ	30	1			1					
		作業療法評価学	作業療法評価学概論	15	1		1						
			作業療法評価学演習Ⅰ（身障・発達系）	45	2			2					
			作業療法評価学演習Ⅱ（精神・老年系）	45	2				2				
		地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	45	2				2				
			地域作業療法学Ⅱ	45	2								2
		老年期障がい論	老年期障がい作業療法学	30	2			2					
			老年期障がい作業療法介入学	30	2				2				
			老年期障がい作業療法学実習	45	1					1			
		運動障がい論	運動障がい作業療法学	30	2			2					
			運動障がい作業療法介入学	30	2				2				
			運動障がい作業療法学実習	45	1					1			
		神経障がい論	神経障がい作業療法学	30	2			2					
			神経障がい作業療法介入学	30	2				2				
			神経障がい作業療法学実習	45	1					1			
		高次脳機能障がい	高次脳機能障がい作業療法学	15		1		1					
			高次脳機能障がい作業療法介入学	15		1			1				
		発達障がい論	発達障がい作業療法学	30	2			2					
			発達障がい作業療法介入学	30	2				2				
			発達障がい作業療法学実習	45	1					1			
		精神障がい論	精神障がい作業療法学	30	2			2					
			精神障がい作業療法介入学	30	2				2				
			精神障がい作業療法学実習	45	1					1			
		A D L	日常生活活動学	30	2			2					
			日常生活活動学演習	30	2				2				
			福祉機器・住環境整備学	30		2				2			
			福祉機器・住環境整備学演習	30		2					2		

区分		授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
					必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	専	作 業 療 法 の 展 開	原著講読	15		1						1		
			作業療法研究法	15	1							1		
			卒業研究	45	2								2	
	門	実 習 ゼ ミ	臨床実習特論Ⅰ	15		1		1						
			臨床実習特論Ⅱ a	15		1					1			
			臨床実習特論Ⅱ b	15		1					1			
			臨床実習特論Ⅲ a	15		1						1		
			臨床実習特論Ⅲ b	15		1						1		
			臨床実習特論Ⅳ a	15		1							1	
			臨床実習特論Ⅳ b	15		1							1	
			作業療法学特論	15		1								1
	目	実 習	臨床実習Ⅰ a	45	1			1						
			臨床実習Ⅰ b	45	1				1					
			臨床実習Ⅱ	180	4						4			
			臨床実習Ⅲ	315	7							7		
			臨床実習Ⅳ	315	7								7	

開設授業科目一覧（令和2年度～3年度入学生用）

（作業療法学科）

区分	授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
総合基礎教育科目	科学的思考の基盤	自然科学	30		2	2							
		自然科学演習	30		1		1						
		統計学	30	2			2						
		情報科学・情報リテラシー	30	2		2							
		文章表現法	30		2			2					
	人間と生活	心理学	30		2	2							
		教育学	30		2			2					
		哲学	30		2		2						
		生命倫理学	30	2		2							
		スポーツ学	30		2		2						
	社会の理解	経済学	30		2	2							
		社会学	30		2		2						
		人間関係・コミュニケーション論	30	2			2						
		国際関係論	30		2	2							
		文化人類学	30		2			2					
	語学	英語Ⅰ	30		1	1							
		英語Ⅱ	30		1		1						
		英語表現法Ⅰ	30		1	1							
		英語表現法Ⅱ	30		1		1						
		医療英会話	30		1			1					
		実践英語	30		1				1				
専門教育科目	人体の構造と機能及び心身の発達	臨床心理学	30	2					2				
		人間発達学	30	2			2						
		生体形態学	60	2		2							
		生体機能学Ⅰ	60	2		2							
		生体機能学Ⅱ	15	1			1						
		生体形態学実習	90	2			2						
		生体機能学演習	30	1			1						
		栄養代謝学	30	1			1						
	疾病と障がいのある人の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	30		2		2						
		病原微生物学	30		1		1						
		薬理・臨床薬理学	30	2				2					
		成人老年疾病論Ⅰ	30	1				1					
		成人老年疾病論Ⅱ	30	1				1					
		救急医療学	15	1					1				
		高次脳機能障がい論	15	1				1					
		精神障がい論	30	1				1					
		運動器障がい論	30	2			2						
		発達障がい論	30	2				2					
		神経障がい論	30	2				2					
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	保健医療論	30		1	1							
		リハビリテーション概論	30	2		2							
		国際保健論	30		2				2				
		チーム医療論	30	1						1			
		社会福祉論	30	2				2					

区分	授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	30	2		2							
		作業療法国際比較論	15	1									1
		基礎作業学	15	1		1							
		基礎作業学実習	45	1			1						
		運動学Ⅰ	30	2			2						
		運動学Ⅱ	30	2				2					
		体表解剖学	15		1		1						
	作業療法管理学	作業療法管理学	30	2									2
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	15	1			1						
		作業療法評価学演習Ⅰ	45	2				2					
		作業療法評価学演習Ⅱ	30	1				1					
		作業療法評価学演習Ⅲ	30	1				1					
		作業療法評価学実習	45	1						1			
	作業療法治療学	小児期作業療法学	15	1				1					
		小児期作業療法学演習	30	2					2				
		小児期作業療法学実習	30	2						2			
		身体機能作業療法学	15	1				1					
		身体機能作業療法学演習	30	2					2				
		身体機能作業療法学実習	30	2						2			
		精神機能作業療法学	15	1				1					
		精神機能作業療法学演習	30	2					2				
		精神機能作業療法学実習	30	2						2			
		内部障がい作業療法学	15	1					1				
		認知機能作業療法学	30		2				2				
		高齢期作業療法学	15	1				1					
		高齢期作業療法学演習	30	2					2				
		高齢期作業療法学実習	30	2						2			
		日常生活活動学	30	2				2					
	地域作業療法学	地域作業療法学概論	15	1				1					
		地域作業療法学Ⅰ	30	2						2			
		地域作業療法学Ⅱ	30	2								2	
	作業療法の発展	福祉用具・住環境整備学	30		2				2				
		職業関連活動学	15		1								1
		作業療法研究法	15		1						1		
		卒業研究	90	2									2
	臨床実習セミナー	見学実習特論	15	1					1				
		総合実習Ⅰ特論	15	1							1		
		総合実習Ⅱ特論	15	1							1		
		総合実習Ⅲ特論	15	1								1	
	臨床実習	見学実習	45	1					1				
		総合実習Ⅰ	360	8							8		
		総合実習Ⅱ	360	8							8		
		総合実習Ⅲ	360	8								8	

開設授業科目一覧（令和4年度以降入学生用）

（作業療法学科）

区分	授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
総合基礎教育科目	科学的思考の基盤	自然科学	30		2	2							
		自然科学演習	30		1		1						
		統計学	30	2			2						
		情報科学・情報リテラシー	30	2		2							
		文章表現法	30		2			2					
	人間と生活	心理学	30		2	2							
		教育学	30		2			2					
		哲学	30		2		2						
		生命倫理学	30	2		2							
		スポーツ学	30		2		2						
	社会の理解	経済学	30		2	2							
		社会学	30		2		2						
		人間関係・コミュニケーション論	30	2			2						
		国際関係論	30		2	2							
		文化人類学	30		2			2					
	語学	英語Ⅰ	30		1	1							
		英語Ⅱ	30		1		1						
		英語表現法Ⅰ	30		1	1							
		英語表現法Ⅱ	30		1		1						
		医療英会話	30		1			1					
		実践英語	30		1				1				
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	臨床心理学	30	2				2				
			人間発達学	30	2		2						
			生体形態学	60	2		2						
			生体機能学Ⅰ	60	2		2						
			生体機能学Ⅱ	15	1		1						
			生体形態学実習	90	2		2						
			生体機能学演習	30	1		1						
			栄養代謝学	30	1		1						
	専門基礎科目	疾病と障がいのある人の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	30		2	2						
			免疫と微生物	30		1		1					
			薬理・臨床薬理学	30	2			2					
			成人老年疾病論Ⅰ	30	1			1					
			成人老年疾病論Ⅱ	30	1			1					
			救急医療学	15	1				1				
			高次脳機能障がい論	15	1			1					
			精神障がい論	30	1			1					
			運動器障がい論	30	2		2						
			発達障がい論	30	2			2					
			神経障がい論	30	2			2					
	リハビリテーション福祉とリハビリの理念	保健医療論	15		1	1							
		リハビリテーション概論	30	2		2							
		国際保健論	30		2			2					
		チーム医療論	30	1					1				
		社会福祉論	30	2				2					

区分	授業科目の名称		時間数	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育科目	専 門 科 目	基礎作業療法学	作業療法学概論	30	2		2						
			作業療法国際比較論	15	1								1
			基礎作業学	15	1	1							
			基礎作業学実習	45	1		1						
			運動学Ⅰ	30	2		2						
			運動学Ⅱ	30	2			2					
			体表解剖学	15		1	1						
		作業療法管理学	30	2									2
		作業療法評価学	作業療法評価学概論	15	1		1						
			作業療法評価学演習Ⅰ	45	2			2					
			作業療法評価学演習Ⅱ	30	1			1					
			作業療法評価学演習Ⅲ	30	1			1					
			作業療法評価学実習	45	1					1			
		作業療法治療学	小児期作業療法学	15	1			1					
			小児期作業療法学演習	30	2				2				
			小児期作業療法学実習	30	2					2			
			身体機能作業療法学	15	1			1					
			身体機能作業療法学演習	30	2				2				
			身体機能作業療法学実習	30	2					2			
			精神機能作業療法学	15	1			1					
			精神機能作業療法学演習	30	2				2				
			精神機能作業療法学実習	30	2					2			
			内部障がい作業療法学	15	1				1				
			認知機能作業療法学	30		2			2				
			高齢期作業療法学	15	1			1					
			高齢期作業療法学演習	30	2				2				
			高齢期作業療法学実習	30	2					2			
			日常生活活動学	30	2			2					
		地域作業療法学	地域作業療法学概論	15	1			1					
			地域作業療法学Ⅰ	30	2					2			
			地域作業療法学Ⅱ	30	2							2	
		作業療法の発展	福祉用具・住環境整備学	30		2			2				
			職業関連活動学	15		1							1
			作業療法研究法	15		1				1			
			卒業研究	90	2								2
		臨床実習ゼミナール	見学実習特論	15	1				1				
			総合実習Ⅰ特論	15	1						1		
			総合実習Ⅱ特論	15	1						1		
			総合実習Ⅲ特論	15	1							1	
	臨床実習	見学実習	45	1					1				
		総合実習Ⅰ	360	8							8		
		総合実習Ⅱ	360	8							8		
		総合実習Ⅲ	360	8								8	

Ⅲ 講 義 概 要

1 総合基礎教育科目 (三学科共通)

総合基礎教育科目

科目名	頁
心理学	1
教育学	2
哲学	3
自然科学	4
自然科学演習	5
数学	6
統計学	7
環境学＜放送大学＞	8
生命倫理学	12
スポーツ学	13
経済学	14
社会学	15
政治学	16
国際関係論	17
人間関係・コミュニケーション論	18
文章表現法	19
文学＜放送大学＞	20
文化人類学	24
宗教学	25
英語Ⅰ	27
英語Ⅱ	28
英語プレゼンテーション	30
英語表現法Ⅰ	31
英語表現法Ⅱ	32
医療英会話	34
実践英語	36
韓国語	37
中国語	39
アカデミックリテラシー	40
情報科学・情報リテラシー	41
問題解決思考＜放送大学＞	42
地元（やまがた）探求Ⅰ	43
地元（やまがた）探求Ⅱ	44

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
心 理 学		理学・作業療法学科 (総合基礎教育科目)	名誉教授 佐竹 真次	選択	1	前期	2	非該当	可
授業概要		心理学は学習心理学や教育心理学、認知心理学等のさまざまな分野に発展的に分岐しているが、この科目ではそれらの基本となる基礎心理学（一般心理学）を概論する。しかし、単に理論を講じるだけではなく、人間の心理や行動に関する具体的ケースを提示し、心を科学する観点からグループ・ディスカッションを行い、実質的に理解を深める。							
一般目標		1 感覚、知覚、認知、記憶、情動、学習、行動などの心理的諸機能について学ぶ。 2 心理的諸機能の知識により自己と他者の共通性と相違を学ぶ。 3 心理的諸機能と他者、社会とのかかわりを学ぶ。							
到達目標		①心理学の公共性、反復性、体系性について述べることができる。②三項随伴性、弁別刺激、強化刺激、強化、消去、般化について述べることができる。③オペラント行動とレスポナント行動について述べることができる。④カウンセリングの基本姿勢とスキル、感情転移について述べることができる。⑤モダリティの決定因、刺激閾、刺激頂、弁別閾、順応について述べることができる。⑥図と地、群化の要因、知覚の恒常性、形の処理について述べることができる。⑦エピソード・意味・手続の記憶、記銘、保持、検索について述べることができる。⑧感情、情動発生の主要なモデルについて述べることができる。⑨基本的動機、派生的動機、動機と葛藤と行動について述べることができる。⑩失語症、概念学習、思考の発達、推理の方法について述べることができる。⑪知能テスト、パーソナリティ・テストについて述べることができる。⑫理不尽な要求、偏見、リーダーシップPM理論について述べることができる。⑬発達の定義・段階、基本的信頼感、自我同一性について述べることができる。⑭心理アセスメントのポイント、心理療法の種類について述べることができる。⑮心理学的諸機能と自分の個々の活動との関連について述べることができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		討論（15点）、理解度チェック（試験等）（65点）、レポート等（20点）を総合して成績評価を行う。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5.4.10（月）4	心理学の意義と方法	公共性、反復性、体系性等				各回の授業項目にあたる教科書の箇所を事前に読んで予習しておく。 毎回の授業でその回のトピックに関してグループ・ディスカッションを行ってレポートをまとめるので、主体的・積極的に参加する。	佐竹	
2	5.4.17（月）4	学習	三項随伴性、弁別、強化、般化等						
3	5.4.24（月）4	行動	オペラントとレスポナント等						
4	5.5.1（月）4	カウンセリング	カウンセリングスキル、感情転移						
5	5.5.8（月）4	感覚	モダリティの決定因、刺激閾、弁別閾						
6	5.5.15（月）4	知覚・認知	図と地、群化の要因等						
7	5.5.22（月）4	記憶	記銘、保持、検索等						
8	5.5.29（月）4	情動	感情、情動発生の主要なモデル						
9	5.6.5（月）4	動機づけ	動機と葛藤と行動等						
10	5.6.12（月）4	言語・概念・思考	失語症、概念学習、思考の発達等						
11	5.6.19（月）4	知能・パーソナリティ	知能テスト、パーソナリティ・テスト等						
12	5.6.26（月）4	集団と人間関係	偏見、リーダーシップ理論等						
13	5.7.3（月）4	発達	発達の定義・段階、発達の障がい						
14	5.7.10（月）4	心理アセスメント	心理アセスメント、心理療法等						
15	5.7.24（月）4	総合討論	これまでの学習の検討						
教 科 書 参 考 図 書		教科書：内山靖・藤井浩美・立石雅子（編）リハベーシック 心理学・臨床心理学（医歯薬出版） 参考図書：Smith, E. E.（著）内田一成（監訳）ヒルガードの心理学（ブレーン出版）							
履 修 上 の 注 意		適切な内容と分量の予習課題を適宜に出すことがある。さまざまな基本的問題を討論し合える、肯定的で積極的な雰囲気の講義にしたい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		心理学を学問とだけとらえるのではなく、自分や他者の生活を豊かにするための有用な道具でもあると講義担当者は捉えている。その視点で、みなさんの日常生活に密着した問題を取り上げて話し合えるように配慮したい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐竹真次：g.ssatake@yachts.ac.jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
教育学		理学・作業療法学科 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 渡邊 誠一	選択	2	前期	2	非該当	可		
授業概要		①古代ギリシア、中世キリスト教全盛期、ルネサンス期、近代において身体がどのように考えられてきたか、身体観の歴史的変遷、およびその身体を鍛錬するその目的の歴史的変遷について解説する。 ②近代の教育思想家の感覚、身体の活動、その具体的な活動としての労作・労働を活用した教育論を解説する。 ③普段の生活の教育的意義に注目したキャリア教育の職業教育上の意義について解説する。									
一般目標		①感覚の活動、身体の活動、作業・労働・遊びなどは身体的・精神的発達にどのような役割を果たしているか理解する。 ②身体・感覚の活動、具体的な活動としての労働や労作、遊びを教育の手段・方法として採用した過去のエデュケーション論を学習し、今後の自分の患者指導でどのように活用できるか理解する。 ③学習の理論と最近の職業教育論（キャリア教育）について理解し、日常生活の過ごし方の参考にすること。									
到達目標		①著名な教育思想家のエデュケーション論が、どのような発達観（学習観）に基づいているか理解し、説明できる。 ②身体・肉体や感覚が歴史的にどのように理解されてきたか、また、それらの活動を活用した教育方法について理解し、それが自分の今後の指導法としてどの程度活用できるか理解できる。 ③現在の専門職・高度専門職業人として求められている能力資質がどのようなものであるか理解すること。									
成績評価方針 評価方法 および基準		具体的には、中間・期末の2回の試験と授業態度で評価すること。 中間試験：19世紀までの教育思想家のエデュケーション論とその根拠とした身体観など 期末試験：20世紀のエデュケーション論のエデュケーション論、及び学習理論や昨今の職業論 合格基準は、2回の試験と授業中の発言等（20点満点）の合計点が60点以上であること。									
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授 業 外 学 習 など	担 当			
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	5. 4. 14(金)4 5. 4. 21(金)4 5. 4. 28(金)4 5. 5. 12(金)4 5. 5. 19(金)4 5. 5. 26(金)4 5. 6. 2(金)4 5. 6. 16(金)4 5. 6. 23(金)4 5. 6. 30(金)4 5. 7. 7(金)4 5. 7. 14(金)4 5. 7. 21(金)4 5. 7. 25(火)4 5. 7. 28(金)4	授業(内容・目標・方法)の説明 古代ギリシアの市民の育成法 中世キリスト教全盛期の教育法 ルネサンス期の感覚観と教育方法 ロックの健康教育論 ルソーの人間教育論 ペスタロッチのエデュケーション論 フレベールのエデュケーション論 ケルシェンシュタイナーのエデュケーション論 デュエイのエデュケーション論 モンテッソーリのエデュケーション論 クループスカヤの総合技術教育論 代表的な学習理論 最近の職業教育論 まとめ	身体の活動と脳の知的・精神的発達との関係 古代ギリシアの市民育成としての身体(body)鍛錬 中世の肉体(flesh)観とむち打ちによる教育 感覚重視の思潮と感覚を活用した教育法 「健康な身体に健全な精神が宿る」の背景 人間修行としての指物師(職人)修業による教育 実物教授(直観教授)法による事物・社会認識のエデュケーション論 遊び(自己表現活動)による全面発達のエデュケーション論 労作教育による公民教育 コミュニティ化した学校での生活による教育 感覚教育を通しての知的教育 労働と教育を結合させた社会主義教育論 行動主義の学習理論と認知理論に基づく学習理論 職業・社会的自立を意図した新しいキャリア教育 感覚活動・身体活動・労働の発達に果たす役割				配付したプリントによる復習	渡 邊			
教 科 書 参 考 図 書		教科書は、特に使用しない。授業資料は、毎回プリントして配付すること。 参考書は、『系統看護学講座 教育学』(医学書院) 新井保幸編著『教育基礎学』(培風館)									
履 修 上 の 注 意		特になし。復習は配付プリントを読みなおしてください。									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		現在、教育といえば、知識の教育が中心に考えられているが、身体健康や肉体・感覚の訓練・教育が精神的・知的健康、心身の発達にもたらす意義が軽視されている。そこで、作業療法や理学療法を学ぶ学生諸君は、身体健康が心の健康と知的・精神的発達にもたらす意義をしっかりと学習し、それを一般の人に広くひろめていただきたい。									
e-mail・研究室 (連絡先)		渡邊誠一: seiichi48@kxe.biglobe.ne.jp									

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
哲学		三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 小原 拓磨	選択	1	後期	2	非該当	可
授業概要		哲学の方法や問題に関わるいくつかのトピックにそくして「哲学的に考える」「哲学をする」とはどんなことなのかを考えていく。また、自分と異なる視点で物事に触れることで自己反省を促し、自分の価値観と他者の価値観を客観的に公正に観察できるようになることを目標とする。							
一般目標		〈「哲学をする」とは何をどうすることなのか〉を理解し、物事を一步下がって、あるいは一步踏み込んで深く考えるための〈教養〉を身につける。							
到達目標		・ 例示された哲学上の話題，哲学的な思考法に触れてそれになじみ，哲学とはどんな活動なのか，そのイメージを持つことができる。 ・ 他人の意見を知り，様々な見解・異なった〈ものの見方〉があるということを理解することができるようになる。 ・ 自分自身の考えを適切に表現し，それを他人に伝えることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		学期末におこなうレポート（70％）と、授業後（不定期）におこなうコメントペーパーへの記述内容（30％）とをあわせて評価する。期末レポートについては、上記「一般目標」および「到達目標」に記載の目標を達成できているかどうかを総合的に判断し、評点をつける。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 29 (金) 2	イントロダクション	「哲学」とはどんな学問か？			・ 参照指示した資料・ テキストの読解。 ・ 分からなかった用語 などを自分なりに 調べてみる。		小原	
2	5. 10. 6 (金) 2	環境との共生	映画監督宮崎駿の自然観を知る						
3	5. 10. 13 (金) 2	正義論	正義の暴力						
4	5. 10. 20 (金) 2	衣服の現象学	ファッションと化粧の意義						
5	5. 10. 27 (金) 2	消費とショッピング	記号と欲望の地平で人間を見る						
6	5. 11. 10 (金) 2	外見と内面	演技（ふり）の効果						
7	5. 11. 17 (金) 2	自己性（1）	私（自我、自己）とはなにか？						
8	5. 12. 1 (金) 2	自己性（2）	鏡と無意識						
9	5. 12. 8 (金) 2	人間性	映画をもとに人間の本質を考える						
10	5. 12. 15 (金) 2	言葉と人間	人間と言語の関係を知る						
11	5. 12. 22 (金) 2	死	死についての思想を学ぶ						
12	6. 1. 5 (金) 2	宗教とＱＯＬ	信仰に生きる人生を知る						
13	6. 1. 12 (金) 2	コミュニケーションと看護	コミュニケーションの本質を考える						
14	6. 1. 19 (金) 2	障害と社会（1）	社会の優生思想を知る						
15	6. 1. 26 (金) 2	障害と社会（2）	異文化共生社会とは？						
教 科 書 参 考 図 書		毎回、資料を配布する。参考文献はそのつど紹介する。							
履 修 上 の 注 意		出席回数が9回以下の場合には単位を認定しない。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		哲学とは「疑問をもつこと」そして「考えること」を基本とする学問です。この授業では、普段あたりまえのこととして見過ごされている身の回りの物事についてあらためて問いを立て、考察してみます。そのように「当たり前のことをあらためて考えてみること」に関心のある方の受講をお待ちしています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		小原拓磨：e1141208@g. tohoku-gakuin. ac. jp							

授業科目名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生				
自然科学	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 遠藤 龍介 (物理) 官 宏 (化学) 菱沼 佑 (生物)	看・理一必修 作業一選択	1	前期	2	非該当	可				
授業概要	周囲で起こっている科学現象や生命現象を正しく理解する上で必要な物理・化学・生物の基本的原理を、具体的な例や実験を提示しながら講義する。高校での選択科目の違いによって講義の理解度に差が生じない様に、随時復習を行いながら授業を進める。											
一般目標	特に保健医療分野の専門科目を理解していく上で、必要不可欠な自然科学の基礎的理解を深める。											
到達目標	(物理) 日常接する運動、電気、磁気などに関する物理の法則や概念、物事の本質を理解できる。 (化学) 物質の性質や反応について理解を深め、身の回りの現象を科学的に考えることができる。 (生物) 生物の最小単位である細胞の構造や機能、代謝、増殖の仕組みから生命の本質を理解できる。											
成績評価方針 評価方法 および基準	(物理) 試験やレポート、参加状況などを総合的に評価する。 (化学) 試験やレポート、参加状況などを総合的に評価する。 (生物) 試験やレポート、参加状況などを総合的に評価する。											
授業計画												
回	日付	班の割当			授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外 学習など	担当				
		物理	化学	生物								
1 2 3 4 5	5.4.11 (火) 3 5.4.18 (火) 3 5.4.25 (火) 3 5.5. 2 (火) 3 5.5. 9 (火) 3	①	②	③	(物理) 1) 運動と力 2) 仕事とエネルギー 3) 熱とエネルギー 4) 波動 5) 電気と磁気	(物理) 教科書および配付資料により授業を進める。毎回、小テストの実施、または、レポートを課す。		(物理) 遠藤				
6 7 8 9 10	5.5.16 (火) 3 5.5.23 (火) 3 5.5.30 (火) 3 5.6. 6 (火) 3 5.6.13 (火) 3				③	①		②	(化学) 1) 物質の構成① 2) 物質の構成② 3) 物質の状態 4) 物質の変化① 5) 物質の変化②	(化学) 教科書および配布資料により授業を進める。毎回、小テストあるいはレポートを課す。	(化学) 官	
11 12 13 14 15	5.6.20 (火) 3 5.6.27 (火) 3 5.7. 4 (火) 3 5.7.11 (火) 3 5.7.18 (火) 3				②	③		①	(生物) 1) 細胞の構造と機能 2) 細胞膜の構造と機能 3) 細胞呼吸 4) 光合成 5) 細胞分裂	(生物) 配布資料をもとに授業を進める。毎回、小テストあるいはレポート等を課す。	(生物) 菱沼	
教 科 書 参 考 図 書					(物理) 教科書：廣岡秀明著「大学新入生のための物理入門」(共立出版) (化学) 教科書：有本淳一著「看護系で役立つ化学の基本 第2版」(化学同人) (生物) 特に定めない(毎回資料を配布する)。							
履 修 上 の 注 意					履修する学生を3班に分け、1班ずつ物理、化学、生物の3項目をそれぞれ受講する。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		化学では「覚える」のではなく、「理解する」を目指して欲しい。 生物では生命現象に関する新聞記事に留意、切り抜きなどをしておくこと。										
e-mail・研究室 (連絡先)		遠藤 龍介 教務学生課 官 宏 教務学生課 菱沼 佑 教務学生課										

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
自然科学演習	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 遠藤 龍介 (物理) 官 宏 (化学) 菱沼 佑 (生物)	理 学ー必 修 看・作ー選 択	1	後期	1	非該当	可		
授業概要	日々発展する医学や医療の現場では様々な測定や検査が行われているが、それを遂行するために必要な科学的な計画立案や技法、そして安全管理などを物理学、化学及び生物学の基本的実験を通して習得できる様にする。また実際に装置や器具を用いて自ら実験を行うことにより、自主的態度を培える様にする。高校での選択科目の違いによって実験の習得度に差が生じない様、随時復習や指導を行いながら実験を進める。									
一般目標	特に保健医療の現場で正しく安全に任務を遂行できるための自然科学的技法を養う。									
到達目標	物理学、化学および生物学の基礎的な実験を通して、科学的な原理と思考を体で習得することができる。医療現場で必須な正確で安全な測定法や観察法、データの処理や記録法を習得する事ができる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	毎回参加することを基本条件とし、レポートあるいは実験ノート（生物では、スケッチ）をもとに総合的に評価する。									
授業計画										
回	日付	班の割当			授業項目・学習課題	学習内容 学習方法	授業外 学習など	担当		
1	5. 9. 26 (火) 3	物理	化学	生物	オリエンテーション（班の構成、各実習内容の紹介、安全対策、学生の準備品、レポート提出法など）（講堂）	各担当教員により具体的な基本態度や方法について解説する。				
2	5. 10. 3 (火) 3-4	①	②	③	物理（物理学実験室） 1. 大気圧の実験 2. レンズ、回折格子を用いた光の実験 3. 気柱の共鳴による音速の測定 4. 熱の仕事当量 J の測定と個体の比熱の測定	重要な基本的技法や実験の組立て方が各自の身に付くよう、各自に実際に装置や器具を使用させながら進める。また実験結果の理論的検討を習得できるようにする。		(物理) 遠藤		
3	5. 10. 10 (火) 3-4									
4	5. 10. 17 (火) 3-4									
5	5. 10. 24 (火) 3-4	③	①	②						
6	5. 10. 31 (火) 3-4									
7	5. 11. 7 (火) 3-4									
8	5. 11. 14 (火) 3-4	②	③	①	化学（化学実験室） 1. 化学変化を用いた実験 2. 分析化学に関する実験 3. 無機化学、有機化学に関する実験					(化学) 官
9	5. 12. 5 (火) 3-4									
10	5. 12. 12 (火) 3-4									
教 科 書 参 考 図 書		実験のためのプリントを配布する。								
履 修 上 の 注 意		履修する学生を3班の班構成に分ける。1班ずつ物理、化学、生物の各実験の3項目をそれぞれ3回行う。9回で全員が9項目の実験を行う。欠席をせず時間を厳守すること。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		受け身の多い講義に比べ、体を動かす実験では科学的な考え方や技術を体得できる。課題を「こなす」のではなく、「取り組む」心構えで楽しみながら積極的に実験に参加して欲しい。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤 龍介 官 宏 菱沼 佑	教務学生課 教務学生課 教務学生課							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
数 学		理学療法学科 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 佐藤 圓治	選択	1	前期	2	非該当	可
授業概要		1 変数の微分積分について学ぶ。微分積分は、17 世紀に、ニュートン、ライプニッツにより理論づけられた数学であり、運動理論や日常生活で使われる面積や長さのきちんとした説明は、微分積分を用いて初めて理解できる。最初に数列や関数の極限を学ぶ。その後、微分概念を学習し、いろいろな関数の微分とその応用について学ぶ。後半は、面積概念の延長にある積分について学習し、様々な関数の積分とその応用について学ぶ。本授業は、教科書内容にプリントで補充した内容を加えて、一通りの 1 変数の微分積分の内容を網羅している。これらの学習は、具体的に次のようなことを含む：統計で最も重要である正規分布のグラフの概形を微分の学習により描くことができる。各種分布に現れるガンマ関数についても学ぶ。面積概念(定積分)は、度数の分布が平均に集まっているか否か(平均と標準偏差の関係)の理解に供するものである。また、曲線のパラメータ表現の学習によりカージオイド(心臓形)の面積を求め、その縁の長さを求める。更に、CT スキャンの発想の原点である数学者フーリエの考え方をフーリエ級数と共に学ぶ。これらのことから、微分積分の内容は、現代社会の教養として資することにもなる。							
一般目標		・ 極限の概念を理解することにより、微分概念を把握すること。 ・ 極限の概念及び微分概念の理解により、面積概念の理解や積分の計算ができるようにする。							
到達目標		受講生は、本授業に熱心に取り組むことで理論的思考を養い、問題解法の能力を涵養することが大切である。							
成績評価方針 評価方法 および基準		演習、レポート提出、小テスト、試験等で総合的に評価する。 定期試験 60%、演習、レポート提出、小テストは 40%の割合。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 11 (火) 4	関数とその性質	講義・演習・小テスト等を通して、いろいろな関数の微分や積分の計算が行える能力を養う。その過程において、数学的な考え方を身につける。			予習・復習を積極的に行い、演習問題等を自ら解くことが重要である。		佐藤	
2	5. 4. 18 (火) 4	三角関数について							
3	5. 4. 25 (火) 4	指数関数と対数関数							
4	5. 5. 2 (火) 4	関数の極限							
5	5. 5. 9 (火) 4	微分について							
6	5. 5. 16 (火) 4	導関数の性質について							
7	5. 5. 23 (火) 4	微分の応用について							
8	5. 5. 30 (火) 4	三角関数の微分について							
9	5. 6. 6 (火) 4	指数関数と対数関数の微分							
10	5. 6. 13 (火) 4	積分について							
11	5. 6. 20 (火) 4	定積分について							
12	5. 6. 27 (火) 4	いろいろな関数の積分							
13	5. 7. 4 (火) 4	面積と回転体の体積							
14	5. 7. 11 (火) 4	図形のパラメータ表示							
15	5. 7. 18 (火) 4	曲線の長さについて							
教科書 参考図書		教科書：石村園子著 微分積分入門 共立出版 参考図書：隈部正博著 初歩からの数学 放送大学教育振興会、 山形大学数理科学科編 微分積分入門 裳華房 小林昭七著 微分積分読本 裳華房							
履 修 上 の 注 意		予習・復習を必ず行うこと。演習問題を自ら解くことは、数学を理解する上で大切である。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		積極的に予習復習を行って授業を受けることが大切である。講義を通して、学問(数学)が創造されていく過程を学んで、その考え方を数学以外の学問に応用してください。微分積分の内容は、今日の複雑な社会を理解するための教養として必要と思われるので、そのことを意識して、積極的な姿勢で授業に臨んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		教務学生課							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
統 計 学	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 水原 昂廣	看 護－選択 理・作－必修	1	後期	2	非該当	可
授業概要	古典的な記述統計学について基本概念の概説から始める。つぎに必要な最低限の確率論を復習し、それを用いて、推測統計学の基本的考え方と基本例題の解き方を丁寧に解説・説明する。							
一般目標	記述統計と推測統計の基本的な考え方を理解する。また、統計処理について、適切なデータの収集法および整理・表現法が選定できる。さらに、データの持つ特性について適切な解釈ができる。							
到達目標	次の基本概念・用語を理解し、説明ができる： 記述統計と推測統計、統計表と統計図、代表値と散布度、2変数データの表現、 相関分析と回帰分析、事象と確率、確率変数と確率分布、母集団と標本分布、 母数の点推定と区間推定、母数に関する仮説の検定、パリティックとノン・パラメトリック。 また関連する定義と公式を理解し、それを用いて、具体的な計算ができる。 さらに、得られた結果を考察し、適切に解釈できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	毎時間のレポート提出（15 回分）および2回のテストの結果から、次のように評価する： ① 問題演習のレポート（毎時間）・・・20％ ② 中間テスト（自筆のノートとレポート、配布資料、および電卓の持ち込み可能）・・・40％ ③ 期末テスト（自筆のノートとレポート、配布資料、および電卓の持ち込み可能）・・・40％ この3つを合わせ、100点満点として評価する。60点以上を合格の基準とする。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 27 (水) 3	記述統計と推測統計	統計学の記述・推測の方法の違いを理解する。			水原		
2	5. 10. 4 (水) 3	統計表と統計図	分類・整理と要約・表現の手法を身につける。					
3	5. 10. 11 (水) 3	代表値と散布度	定義と公式を理解し、電卓で計算する。					
4	5. 10. 18 (水) 3	2変数データの表現	2変数データの処理を身につける。					
5	5. 10. 25 (水) 3	相関分析と回帰分析	定義・概念および公式を理解し、電卓で計算する。					
6	5. 11. 1 (水) 3	記述統計のまとめ	記述統計の内容をまとめる。					
7	5. 11. 8 (水) 3	事象と確率	定義・概念を理解し、公式を適用する。					
8	5. 11. 15 (水) 3	確率変数と確率分布	定義・概念を理解し、具体例が説明できる。					
9	5. 11. 22 (水) 3	母集団と標本分布	定義・概念を理解し、具体例が説明できる。					
10	5. 12. 6 (水) 3	確率論のまとめ	確率論の内容をまとめる。					
11	5. 12. 13 (水) 3	区間推定(その1)	大標本で母平均の区間推定を行う。					
12	5. 12. 20 (水) 3	区間推定(その2)	小標本で母平均の区間推定を行う。					
13	6. 1. 10 (水) 3	仮説検定(その1)	大標本で母平均について、仮説検定を行う。					
14	6. 1. 17 (水) 3	仮説検定(その2)	小標本で母平均について、仮説検定を行う。					
15	6. 1. 24 (水) 3	推測統計のまとめ	区間推定と仮説検定の手順内容をまとめる。					
教科書 参考図 書	教科書 水原 昂廣・宇野 力 共著「例題中心 確率・統計入門」改訂版 学術図書、2019 参考書 大水秀一 著「基本からわかる 看護統計学入門」医歯薬出版株式会社、2008 参考書 涌井良幸・涌井貞美 共著「統計学の図鑑」技術評論社、2015							
履 修 上 の 注 意	① 高校数学の「数学Ⅰ・数学A」程度の知識を仮定する。 ② 授業に必要なもの： 教科書・ノート・電卓の3点セット。 ③ 90分のうち、60分を講義、残りの30分を問題演習にあてる。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	① 毎回、講義資料(講義要項と演習問題および統計資料)を配布する。 ② 授業では、上記の3点セット(教科書・ノート・電卓)を忘れないこと。 ③ 原則として、毎回提出するレポートは採点して次回に返却するので、各自ファイルしておくこと。 ④ 実際に問題演習を通して、一緒に皆で統計学を楽しみましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	水原昂廣：duo20and35ikoetx@eos.ocn.ne.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
環境学	看護学科 (総合基礎科目)	放送大学	選択	2	後期	2	非該当	不可
授業概要	放送大学が開講する「 環境問題のとりえ方と解決方法（'17） 」を受講する。 地域から地球に至るまでの環境問題の諸側面を様々な視点からとらえるとともに、その解決方法 に関して基礎的かつ広範な視点を学習する。このため、人の健康、人の利用、さらには生態系保全 といった環境問題の諸側面、都市、地域、国際、地球といった地域の広がりを対象とした環境問題 のとりえ方について学ぶ。また、原因の同定から解決のための技術の概要について解説する。さら に、大気汚染、水質汚濁、都市環境といった身近な環境問題から、安全・安心、循環型社会、自然 共生社会、低炭素社会という現代の環境問題のとりえ方についても解説する。							
一般目標 到達目標	環境問題の諸側面を様々な視点からとらえるとともに、その解決方法に関して基礎的かつ広範な視 点を理解するとともに、身近な環境問題から地球環境に至るまでの新しい環境に関する考え方を理 解する。							
成 績 評 価 方 針 評 価 方 法 お よ び 基 準	放送大学が実施する単位認定試験結果を評価とする。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・方法		授業外学習	担当
1	オンデマンド	環境問題のとりえ方と解決方法のフレームワーク			詳細は、放送大学シラバスを参照			
2		環境問題のとりえ方						
3		環境問題の発生原因とその解決方法						
4		環境の望ましい状態						
5		環境の指標、モニタリングと評価の方法						
6		大気環境保全技術						
7		水・地下水・土壌環境保全技術						
8		廃棄物処理・資源保全技術						
9		大気に関する環境問題とその解決方法						
10		水・地下水・土壌に関する環境問題とその解決方法						
11		廃棄物に関する環境問題とその解決方法						
12		都市のヒートアイランド現象とその対策						
13		化学物質に関する環境問題とその解決方法						
14		生態系における環境問題とその解決方法						
15		地球環境問題とその解決方法						
教 科 書 参 考 図 書	教科書： 放送大学が指定するテキスト							
履 修 上 の 注 意	放送大学「環境問題のとりえ方と解決方法（'17）」をオンデマンドで受講する。 環境学として、「地球温暖化と社会イノベーション（'18）」「環境と社会（'21）」「人文地理学か ら見る世界（'22）」「環境問題のとりえ方と解決方法（'17）」を2科目以上選択することはでき ない。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	環境は、人や地域全体の健康に大きな影響を及ぼします。視野を広めてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	担当教員、教育補助教員 沼澤さとみ：研究室 11 snmazawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
環境学	看護学科 (総合基礎科目)	放送大学	選択	2	後期	2	非該当	不可
授業概要	放送大学が開講する「 地球温暖化と社会イノベーション（'18) 」を受講する。 温暖化に代表される地球環境問題は人類ならびに地球全体の問題である。これまで、温暖化の原因研究や将来の影響予測等とともに、緩和策・適応策に関する研究や議論がIPCCやCOPの場で長く行われてきた。そして、2015年COP21「パリ協定」が締結され、ようやく途上国、先進国が一丸となって、温度上昇の目標設定、緩和量の各国目標設定、資金提供、これらに対する観測、報告、評価などに向けて初めての一貫した方針が出された。本講座では、これまでの地球温暖化問題の研究の歴史とともに研究成果を整理した後、政府、企業、研究機関、市民それぞれの現在の取り組み内容を俯瞰し、この問題解決のために人類が取り得る行動とその可能性について考える。							
一般目標 到達目標	地球環境問題（特に地球温暖化）を科学的に正しく理解した上で、これまでの地球温暖化防止に向けた国際社会、政府、企業、市民の取り組みを俯瞰し、自治体や民間企業で行われている先進的な試みについて理解を深める。 更に、大幅な温室効果ガス削減のための研究実証事例や期待できる成果を理解する。 最終的には、受講生ひとりひとりがこれらを自身の問題と捉え、問題解決に向けてもっとも納得できる行動に結びつける。							
成績評価方針 評価方法 および基準	放送大学が実施する単位認定試験結果を評価とする。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・方法		授業外学習	担当
1	オンデマンド	パリ協定と地球温暖化対策の課題			詳細は、放送大学シラバスを参照			
2		地球環境問題と地球温暖化						
3		地球温暖化の予測と影響						
4		地球温暖化 ー大気組成変化とその観測ー						
5		地球温暖化 ー地球温暖化の緩和と将来予測ー						
6		地球温暖化の影響と適応						
7		問題解決への取り組み（1） 日本の取り組みと国際、国内合意形成						
8		問題解決への取り組み（2） ステークホルダーとその役割						
9		産業界の取り組み（1） 1次エネルギー						
10		産業界の取り組み（2） 水素社会と炭素隔離						
11		産業界の取り組み（3） 環境にやさしいさまざまな要素技術						
12		緩和と適応の国際協力						
13		ICTとスマート化による環境貢献						
14		みんなで地球環境を守る（1）地球環境保全に向けて						
15		みんなで地球環境を守る（2）地球市民としてのチャレンジ						
教科書 参考図書	教科書： 放送大学が指定するテキスト							
履修上の注意	放送大学「地球温暖化と社会イノベーション（'18)」をオンデマンドで受講する。 環境学として、「地球温暖化と社会イノベーション（'18）」「環境と社会（'21）」「人文地理学から見る世界（'22）」「環境問題のとりえ方と解決方法（'17）」を2科目以上選択することはできない。							
学生への メッセージ	環境は、人や地域全体の健康に大きな影響を及ぼします。視野を広めてください。							
e-mail・研究室 (連絡先)	担当教員、教育補助教員 沼澤さとみ：研究室11 snmazawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
環境学		看護学科 (総合基礎科目)	放送大学	選択	2	後期	2	非該当	不可
授業概要		放送大学が開講する「 環境と社会（' 21）」 を受講する。 環境を巡る社会のあり方について、生態学、経済学、法学の3つの学問分野から取り上げ、環境問題に関する総合的な学習をする。							
一般目標 到達目標		3つの学問分野のそれぞれの観点を含め、環境問題に関して、一定レベルの総合的な理解を得ることを目標とする。							
成績評価方針 評価方法 および基準		放送大学が実施する単位認定試験結果を評価とする							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題				学習内容・方法		授業外学習	担当
1	オンデマンド	さまざまな地球環境問題				詳細は、放送大学シラバスを参照			
2		気候変動の原因と影響							
3		生物多様性と生態系サービス							
4		森林の持続的利用							
5		環境問題と地域の持続可能性							
6		環境経済学の基礎							
7		環境政策の経済的手段とポリシー・ミックス							
8		環境政策における経済的手段の理論と実際							
9		再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）							
10		環境問題と経済成長							
11		環境における法の役割							
12		環境基本法と環境法の理念・原則							
13		個別環境法の仕組みと環境影響評価法							
14		環境訴訟							
15		原発規制と放射性物質による汚染への対処							
教科書 参考図書		教科書： 放送大学が指定するテキスト							
履修上の注意		放送大学「環境と社会（' 21）」をオンデマンドで受講する。 環境学として、「地球温暖化と社会イノベーション（' 18）」「環境と社会（' 21）」「人文地理学から見る世界（' 22）」「環境問題のとりえ方と解決方法（' 17）」を2科目以上選択することはできない。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		環境は、人や地域全体の健康に大きな影響を及ぼします。視野を広めてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		担当教員、教育補助教員 沼澤さとみ：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
環境学	看護学科 (総合基礎科目)	放送大学	選択	2	後期	2	非該当	不可
授業概要	放送大学が開講する「人文地理学からみる世界（'22）」を受講する。 大学レベルの人文地理学初学者のための入門として、人文地理学に特有の見方・考え方を身につけることを目標に、世界や日本の多彩な事例をとりあげながら、わかりやすく解説する。導入部分につづいて、まず環境と人間の関係をとらえるためのいくつかの研究視角を紹介し、さらに都市と空間へのアプローチへと進む。その際、環境問題や災害・防災、都市化、グローバル化、少子高齢化といった現代的課題に言及する。また、近年急速に発展してきたGIS（地理情報システム）の考え方や応用例を紹介し、現代社会の分析における可能性を示す。							
一般目標 到達目標	人文地理学に特有の見方・考え方を身につけるとともに、変化の急速な社会の理解に有用な地理学的分析の枠組みや手法について概観を得る。またこれらの理解の上に、現代的問題へのアプローチの方法に接することをめざす。あわせて、高等学校までの地理のイメージのリニューアルをはかりたい。							
成績評価方針 評価方法 および基準	放送大学が実施する単位認定試験結果を評価とする							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・方法		授業外学習	担当
1	オンデマンド	人文地理学はどんな学問か？			詳細は、放送大学シラバスを参照			
2		地図とGISの発展						
3		人間と環境をむすぶ文化の役割						
4		環境への文化的な適応としての焼畑						
5		熱帯林の開発と環境問題						
6		河川生態系の資源利用と環境動態						
7		先住民の地図と環境利用						
8		治水と利水の環境改変史						
9		都市と災害						
10		世界都市の都心空間						
11		都市空間とエスニシティ・観光						
12		大都市における子育てと働き方						
13		大都市高齢者の居住安定と福祉						
14		大都市郊外の持続再生とその担い手						
15		人文地理学の系譜と進化						
教科書 参考図書	教科書： 放送大学が指定するテキスト							
履修上の注意	放送大学「人文地理学からみる世界（'22）」をオンデマンドで受講する。 環境学として、「地球温暖化と社会イノベーション（'18）」「環境と社会（'21）」「人文地理学から見る世界（'22）」「環境問題のとらえ方と解決方法（'17）」を2科目以上選択することはできない。							
学生への メッセージ	環境は、人や地域全体の健康に大きな影響を及ぼします。視野を広めてください。							
e-mail・研究室 (連絡先)	担当教員、教育補助教員 沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp							

授業科目名	学科 (科目区分)	担当教員 職・氏名	必修・選択の別	学年	開講時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生命倫理学	理学・作業療法学科 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 平田 俊博	理 学一選択 作 業一必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要	生命倫理学が患者中心の医療を目指すという点で、一種の人権運動であることを理解させたい。コロナ・パンデミックに襲われている人類は、今後も多種多様な新ウイルスとの共生を覚悟しなければならない。さらにウクライナ侵攻戦争も重なり、全世界の社会構造全体が大変革を迫られている現在、医療界も抜本的な改革を避けられない。感染症対策が喫緊の重大課題となるにつれ、生命倫理学は医療倫理学の枠を超え、地球環境倫理学、保健衛生倫理学、デジタル倫理学をも射程に収める。学際的な哲学として内容を一新するのである。患者と家族を含む医療関係者全員の人権と幸福も確保しつつ、どのようにして医療崩壊を防ぎ、安全安心な家庭と社会を築くべきかを、聴講者と共に考えていきたい。							
一般目標	最新の医療問題について考察を深めながら、医療者としての倫理的自覚を高める。また医療がチームプレーであることを認識して、職種間の連携や医療システムにおける実践力とは何かを理解する。							
到達目標	①哲学としてのバイオエシックス(生命倫理学と地球システム倫理学と医療倫理学)、②コロナ・パンデミックと医療事故(クラスターとシステムズ・アプローチ)、③環境ホルモンの脅威(合成化学物質と地球生態系の危機)、④デジタル時代の倫理(進行性近視、遺伝子治療、着床前診断、未来世代の人権)、⑤人体と死(臓器売買、脳死移植と家族、死の自己決定、延命中止、末期医療と葬送儀礼)、以上の5つの到達目標について正確に認識し、他人に説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価方針：到達目標の各項目について、正確に認識し、他人に説明できるかを評価する。 評価方法：定期試験 70% (中間 10%・期末 60%)、授業内レポート(4回以上提出し、高評価の上位4回分を評価対象とする)20%、授業内プレゼンテーション 10%。以上の合計 100 点満点として評価する。 評価基準：定期試験では、到達目標の各課題を正確に理解し、他人にも明確に伝達できるかを評価。レポートでは、キーワードの的確さ、要旨、感想、提言の説得力を重視。プレゼンテーションでは、各自にレポートを発表してもらい、明確な発声力、伝達力、質疑力を重点的に評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	5. 4. 12 (水) 3	哲学としての生命倫理学	バイオエシックスの多義性	レポート①、平田「カントと生命倫理」	平田			
2	5. 4. 19 (水) 3	地球環境危機と医療①コロナ・パンデミック	院内感染とクラスター、医療崩壊、介護崩壊、医療者と家族へのいじめ	レポート②、NIE「最新の医療報道」				
3	5. 4. 26 (水) 3	地球環境危機と医療②ウィズ・コロナ時代の生命倫理	デジタル医療、外来トリアージ、後遺症、葬送儀礼と患者家族	レポート発表、NIE「最新の医療報道」				
4	5. 5. 10 (水) 3	地球環境危機と医療③生命観、人生観、生活観の変貌	地球生態系の激変、残留性化学物質と人体汚染、感染症蔓延と保健衛生倫理	レポート③、コルボーン『奪われし未来』				
5	5. 5. 17 (水) 3	医療者の人権と安全①健康生活、奴隷労働からの解放	ビデオ「燃え尽き症候群と対策」、プレゼンテーションと質疑応答	レポート発表、NIE「最新の医療報道」				
6	5. 5. 24 (水) 3	医療者の人権と安全②事故とシステムズ・アプローチ	医療ミスと医療事故、職種間の連携、リスクマネジメント、中間試験	レポート発表、NIE「最新の医療報道」				
7	5. 5. 31 (水) 3	医療者の人権と安全③デジタル医療と進行性近視	AI 社会とリモート診察、乳幼児斜視、進行性近視、成人発症近視、	レポート④、NIE「最新の医療報道」				
8	5. 6. 7 (水) 3	生殖医療と命の責任①フェミニズムと母性	フェミニズムとジェンダー・サイエンス、LGBT とモザイク脳と月経、	レポート⑤、NIE「最新の医療報道」				
9	5. 6. 14 (水) 3	生殖医療と命の責任②不妊治療と着床前診断	晩婚化と環境ホルモン、ビデオ「卵子の老化、精子の劣化」、ヤングケアラー	レポート発表、NIE「最新の医療報道」				
10	5. 6. 21 (水) 3	生殖医療と命の責任③命の選別とデザイナーベビー	優生学と遺伝子治療、ビデオ「オーダーメイドベビー」、未来世代の人権	レポート⑥、NIE「最新の医療報道」				
11	5. 6. 28 (水) 3	臓器移植①匿名の原則と家族の同意	ビデオ「日本の脳死移植」、プレゼンテーションと質疑応答	レポート⑦、NIE「最新の医療報道」				
12	5. 7. 5 (水) 3	臓器移植②グローバル化する臓器売買	臓器移植の諸問題、プレゼンテーションと質疑応答	レポート⑧、NIE「最新の医療報道」				
13	5. 7. 12 (水) 3	救急医療と延命中止—末期医療と葬送儀礼	ビデオ「死ぬ権利—ALS 装着」、プレゼンテーションと質疑応答	レポート⑨、NIE「最新の医療報道」				
14	5. 7. 19 (水) 3	安楽死と尊厳死—再生観と宗教	ホスピタルとホスピス、ビハーラ、ビデオ「看護師僧侶」、「ホスピス看護師」	レポート⑩、NIE「最新の医療報道」				
15	5. 7. 26 (水) 3	講義全体のまとめ	最終試験問題の発表と説明、ビデオ「コロナ後遺症」	期末試験の問題対策				
	後日連絡	最終試験	到達度を評価	返却答案を各自チームメイトと見比べる				
参 考 図 書	◎ (平田他)『カントと生命倫理』(晃洋書房)、◎コルボーン他『奪われし未来』増補改訂版(翔泳社)、◎上野千鶴子『家父長制と資本制』(岩波現代文庫)。◎新聞(図書館)の医療記事(NIE)を活用。							
履 修 上 の 注 意	出席・レポート・プレゼンテーション・対話を通して、コミュニケーション力のスキルアップを!!							
学生へメッセージ	Think globally, act locally!							
e-mail・連絡先	平田俊博：thirata@taupe.plala.or.jp 質問や意見があればお知らせ下さい。							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
スポーツ学	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 井上 功一郎	選択	1	後期	2	非該当	可		
授業概要	・スポーツ科学および体育学の基礎知識に関する講義を行う。 ・各種スポーツのゲーム（試合）を教材とし、身体を動かす実技を実施させる									
一般目標	・スポーツや体育、身体運動は、理論的に考察できることを認識する。 ・各種スポーツに親しむことで、スポーツを主体的に実践する能力を習得する。									
到達目標	・スポーツと健康の関係や、身体のメカニズムとスポーツの関連について、簡単に議論する。 ・各種スポーツの基本的な特性や技術、初歩的なルールについて説明する。 ・スポーツゲームの高まりや、身体を動かすことの楽しみを感じ、主体的に取り組む。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・関心を持ち講義に参加する態度：30% ・意欲的に実技に取り組む姿勢：50% ・レポート課題：20%									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当			
1	5. 9. 26（火）1・2	スポーツと健康	スポーツと健康の関連と、日々の身体活動の重要性について講義をする。		自身の身体活動の現状を把握する。スポーツと健康の関わりについて考えを用意する。		井上			
2	5. 10. 3（火）1・2	バレーボール	チームを編成し、それをベースに、バレーボールの理論やルールの学習、ゲームの実践を行う。 チーム内の積極的なコミュニケーションをもとに実技に取り組むことを求める。		これまでの学校教育（体育）を振り返り、バレーボールやバドミントン、卓球のルールや技術について予め確認しておく。 実技に際して、授業前に自身の体調を確認し、運動できる状態かどうか判断する。 水分やタオル、着替えなどを準備し、発汗への対応や体温調節ができるようにしておく。 日常的に運動に取り組み、各自の体力向上に努めることが望ましい。					
3	5. 10. 10（火）1・2	バレーボール								
4	5. 10. 17（火）1・2	バレーボール								
5	5. 10. 24（火）1・2	バレーボール								
6	5. 10. 31（火）1・2	バレーボール								
7	5. 11. 7（火）1・2	バドミントン／卓球	2つのグループを編成し、交代しながらバドミントンと卓球を3回ずつ行なう。 各種目において、理論やルールの学習、ゲームの実践を行う。 グループ内でコミュニケーションを取り、各種目に積極的に取り組むことを求める。							
8	5. 11. 14（火）1・2	バドミントン／卓球								
9	5. 12. 5（火）1・2	バドミントン／卓球								
10	5. 12. 12（火）1・2	卓球／バドミントン								
11	5. 12. 19（火）1・2	卓球／バドミントン								
12	5. 12. 26（火）1・2	卓球／バドミントン								
13	6. 1. 9（火）1・2	スポーツと骨格筋	スポーツに関わる骨格筋の機能と役割について講義をする。				つながりのある専門科目の内容を振り返ったり、関連する知識について調べたりする。 実体験に照らし合わせて講義内容について考察したり、関連の内容について考えを展開する。			
14	6. 1. 16（火）1・2	スポーツと心肺機能	スポーツに関わる呼吸循環器系の機能と役割について講義をする。							
15	6. 1. 23（火）1・2	身近なスポーツ・健康科学	身近な健康・スポーツ科学を例に講義をする。							
教 科 書 参 考 図 書	必要があれば授業内に示す。									
履 修 上 の 注 意	授業全体について ・体育館での実技、教室での講義がある。授業形態をよく理解した上で履修すること。 体育館での実技について ・運動ができる服装（運動着及び室内シューズ）を着用のこと。 ・受講者全員が楽しむことができるよう、周囲に気を配り、考えてプレーすること。 ・受講人数などによって内容を一部変更する場合がある。 講義について ・本授業は講義を含むことで2単位の授業として開講している（仮にスポーツの実技のみで15回実施する場合は通常1単位）。 ・実技だけでなく講義、及びレポート課題にも積極的に取り組むこと。									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	スポーツ科学や体育学も、医学と同様に身体を対象とした学問です。皆さんが持つ身体に関する専門知識をスポーツに当てはめて考えてみましょう。 適度な運動が、心身に良い影響を及ぼします。体を動かす機会を持ちましょう。									
e-mail・研究室 (連 絡 先)	井上 功一郎：inoue@e.yamagata-u.ac.jp 山形大学									

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
経 済 学	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 立 松 潔	選択	1	前期	2	非該当	可
授業概要	経済学と聞くと、「大切そうな分野だけれど、堅苦しくて取っつきにくそう」と考えている人が多いのではないのでしょうか。この講義はそんな人に経済学の面白さを知ってもらうように内容を工夫しました。身近な話題やエピソードなどを取り上げながら、経済学の基本的な考え方を講義します。そして現代社会の重要な経済問題についても、関心と理解を深める授業にしたいと思います。							
一般目標	食文化と風土、雇用や労働、人口問題、社会保障など身近で重要な問題を考えることによって、社会において経済が果たしている役割や経済法則、経済政策についての理解を深めます。							
到達目標	・社会経済的な出来事や現象について、その背景や原因について考え、説明できるようになります。 ・現在日本が直面する社会経済的諸問題を多面的な視点から理解し、説明できるようになります。							
成績評価方針 評価方法 および基準	・レスポンスカード：20%。授業を聞いて興味深いと感じた内容や、疑問に感じた内容について書いてもらうことで、授業への意欲や参加状況を評価します。 ・ショートレポート：20%。与えられたテーマについて、レポートの技法に従ってわかりやすく記述されているかどうかを評価します。(レポートの技法についてはあらかじめ授業で説明します。) ・期末試験：60%。講義内容について理解し、わかりやすく説明できるかどうかを評価します。 ・上記3項目合計100点満点で評価します。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1 2 3 4	5.4.10(月)2 5.4.17(月)2 5.4.24(月)2 5.5.1(月)2	1. 食文化の経済学	気候風土による食文化の違い、宗教による食のタブーなどの事例を取りあげ、食生活・食文化と経済の関係を学習します。		高校の地理の教科書・参考書などを利用して世界の各地の気候風土の違いと生活への影響を調べてみましょう。		立松	
5 6 7 8	5.5.8(月)2 5.5.15(月)2 5.5.22(月)2 5.5.29(月)2	2. しごとの経済学	欧米諸国とは大きく異なる日本の雇用や賃金制度の特色や問題点、改革に向けた課題など、学生の皆さんの将来にも密接に関係するテーマについて勉強します。		ご両親や親戚・先輩・友人などから仕事についての話を聞いて、やりがいや問題点についてまとめてみましょう。			
9 10 11	5.6.5(月)2 5.6.12(月)2 5.6.19(月)2	3. 人口の経済学	人口問題を歴史的に取り上げて理解するとともに、現在の日本で急速に進む少子高齢化と人口減少の背景やそれらが引き起こす諸問題について、対策も含め検討します。		少子高齢化や人口減少によって引き起こされているいろいろな問題を調べ、その対策についても考えてみましょう。			
12 13 14 15	5.6.26(月)2 5.7.3(月)2 5.7.10(月)2 5.7.24(月)2	4. 安心の経済学	保険の仕組みや社会保険制度について学習し、公的年金や健康保険など日本の社会保障制度の直面する課題を明らかにし、その解決策を考えます。		年金制度、医療問題や医療保険に関する新聞記事を見つけ、その内容をまとめてみましょう。			
教 科 書 参 考 図 書		・教科書はありませんので、レジュメ（授業内容の要約）や講義資料を配布します。 ・参考図書は授業で随時紹介しますが、まず以下の4冊を推薦したいと思います。 1. マーヴィン・ハリス『食と文化の謎』岩波現代文庫、2001年、1160円＋税 2. 濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ、2013年、880円＋税 3. 筒井淳也『仕事と家族』中公新書、2015年、780円＋税 4. 山崎史郎『人口減少と社会保障』中公新書、2017年、880円＋税						
履 修 上 の 注 意		・教科書はありませんので、授業内容をノートや配布資料にメモしておくことが大切です。板書をノートするだけでなく、口頭での解説もできるだけノートに書きとめましょう。 ・授業の後で疑問点などを調べてノートに書き加えておくことで試験の時にとても役立ちます。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		・経済学は人間と社会についての学問です。授業ではそんな観点から、社会や人間についての、知的で面白い文献を幅広く紹介したいと思います。 ・経済学の授業のためのホームページを開設しましたので参照してください。URL は次の通りです。 http://ktate.web.fc2.com/						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		立松 潔：tate@ma.catvy.ne.jp（メールでの質問も歓迎します!）						

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
社 会 学	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 高橋 知花	選択	1	後期	2	非該当	可
授業概要	主要な社会理論や現代の社会について、様々なトピックを取り上げて解説していく。							
一般目標	現代社会の現象や諸問題について様々な視点から考察できるようになる。							
到達目標	・社会学の基礎概念を習得する。 ・社会構造を決定する要因についての多様な見方を理解する。 ・医療と社会のつながりを意識できるようになる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	期末レポート：100%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 9. 27 (水) 2	イントロダクション	社会学とは？「当たり前」を問い直す視座			参考図書の参照 配布プリント中の 不明語句をネット 検索等を利用し 再確認する。		高橋
2	5. 10. 4 (水) 2	日常生活における社会学	社会学理論の検討①					
3	5. 10. 11 (水) 2		社会学理論の検討②					
4	5. 10. 18 (水) 2		社会学理論の検討③					
5	5. 10. 25 (水) 2	現代社会におけるつながり	個人化する時間とつながり					
6	5. 11. 1 (水) 2		ボランティアとつながり					
7	5. 11. 8 (水) 2		地域づくりと再構築されるつながり					
8	5. 11. 15 (水) 2	家族・貧困・マイノリティと社会	現代における家族					
9	5. 11. 22 (水) 2		現代における貧困や格差					
10	5. 12. 6 (水) 2		社会のなかのマイノリティ					
11	5. 12. 13 (水) 2	医療と社会	医療の近代化、構築される「病」					
12	5. 12. 20 (水) 2		「病人-医療者」という役割					
13	6. 1. 10 (水) 2		「死」をめぐる議論					
14	6. 1. 17 (水) 2		地域社会と保健医療					
15	6. 1. 24 (水) 2	講義のまとめ						
教 科 書 参 考 図 書	教 科 書：指定しない。 参考図書：授業時に適宜紹介する。							
履 修 上 の 注 意	毎回、授業終了時にコメントを書いてもらいます。興味深い質問やコメントについては次回授業の冒頭に時間をとって解説します。ともに授業を作っていくつもりで、質問やコメントを出してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	ニュースや歴史に興味を持っていると、授業が理解しやすくなります。あまり興味のない人も、少しずつ触れるようにしてみてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	高橋知花：satokatahashi21@gmail.com							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
政 治 学	看護・理学療法学科 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 松本 邦彦	選択	1	後期	2	非該当	可
授業概要	政治学の基本的なとらえ方と基本概念を学ぶこと、今の日本の政治がどうしてこのようなものになっているのか、成り立ちと経緯を学んでいきます。							
一般目標	歴史をきちんと踏まえた上で主権者として政治に参加していく力と知識を得ることが目標です。							
到達目標	日常生活、そして日々のニュースに登場する政治の世界での現象について、自分自身で調べて、政治学の基礎概念を用いて理解すること、そしてその理解した内容と自分なりの意見を、その歴史的背景をふくめて他人に説明できるようになること。副次的に、長文の文章を読解する能力を身につけること。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	◇予習クイズの事前提出の段階で解答が完了していれば（正誤を問わず）3点ずつカウント。特設クイズについても1件につき解答完了（正誤を問わず）で2点～3点をカウントします。クイズは合計50点を基本とします（加点あり）。記入不足のクイズは減点し、不切遅れの提出は0点です。 ◇感想票については1件につき1～3点カウント（上限を合計10点とします）。 ◇期末試験（電子機器をのぞき、持ち込み可）には40点配点。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	5. 9. 25 (月) 3 5. 10. 2 (月) 3 5. 10. 16 (月) 3 5. 10. 23 (月) 3 5. 10. 30 (月) 3 5. 11. 6 (月) 3 5. 11. 13 (月) 3 5. 11. 20 (月) 3 5. 12. 4 (月) 3 5. 12. 11 (月) 3 5. 12. 18 (月) 3 5. 12. 25 (月) 3 6. 1. 15 (月) 3 6. 1. 22 (月) 3 6. 1. 29 (月) 3 後日連絡	・講義システム説明と「失敗学」入門 ・政治の世界と「影響力」 ・民主制の意義と限界 ・民主制の暴走を防ぐ仕組み ・日本の敗戦と民主化 ・戦後の新憲法はこうして誕生した ・冷戦に抗した政治家 ・政治の季節の終わり・60年安保 ・経済の季節の始まり・所得倍増 ・経済成長の果実を地方に ・公共事業で支持を得た政治家 ・貿易摩擦から内需拡大へ ・自民党政治の終わり・小泉改革 ・あなたも一票を・選挙運動とは ・地域振興と若者の政治参加 ・到達度確認試験	◇講義では板書と映像資料により、政治学の基本概念と日本政治の成り立ちを学習します。 ◇講義時に配布するプリント類は、PDF版を下記の講義ウェブサイトに掲載。 ◇講義時には、予習クイズ&当日レジメに必要事項を記入し、感想を記入します。また、講義終了時には次回以降の回の予習クイズを提出（次の回で返却）。 ◇講義時には、予習クイズで確認した自分の先入観をしっかりと持って、講義内容との異同を気にしながら聴講・視聴します。	◇予習：予習クイズに勘で解答。さらに下調べ内容を当日レジメに記入。 ◇復習：講義内容と講義サイト掲載の正答と解説を参考にし、予習クイズの解答内容を修正する（○の見せ消し&追記）。過去の回の疑問点の調べをおこない、その内容をクイズ&レジメに追記するか、別紙にまとめておく。さらに講義に触発されてのTV番組や映画の視聴、体験者への聞き取り等についての概要と感想を感想票にまとめる。	松本			
教 科 書 参 考 図 書		教科書：◎五十嵐仁『18歳から考える日本の政治 第3版』法律文化社、2021年、2300円 参考書：◎石川真澄『戦後政治史 第3版』岩波新書（新赤版）1281、2013年、900円、◎早野透『田中角栄』中公新書2186、2012年、940円、◎『平和と人権：やまがたガイド』山形県歴史協ほか、2015年、500円。その他にも講義時に随時紹介します。						
履 修 上 の 注 意		講義サイト掲載の正答と解説の閲覧のため、また欠席時のプリント類のダウンロードと印刷のための機材を確保してください(共用も可)。 口頭での説明よりもテキストやプリント類での指示や説明に比重を置くので、長文読解と配付資料の保管と整理のテクニックも、試行錯誤しながら、身につけていきましょう。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		まず、間違えましょう。失敗に学ぶ、試行錯誤、trial & error がモットーです。そうして自分の先入観や誤解を気づくとともに、それを修正していく作業を重視します。よって、“わかった気”にはさせません。自分を疑い、既成の価値観を、ニュースを疑い、“ずくを出して”自分の目と手で確かめてから考えていく癖をつけましょう。 そして日々のニュースはもとより、身近に存在する「政治」にも注目していきましょう。そこで、身近な年上の人（つまり戦後日本政治史の生き証人）への聞き取りも推奨します。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		◇講義資料が掲載される講義ウェブサイト： http://matumoto.o.oo7.jp/index.htm ◇松本宛メールの前に一読を↓（メールアドレスの表記もこちらにあります）： http://www-h.yamagata-u.ac.jp/~matumoto/mail.htm						

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
国際関係論	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 松本 邦彦	選択	1	前期	2	非該当	可
授業概要	日本が 21 世紀の国際社会に対して何によってどう貢献するべきかを、日本の過去を踏まえた上で、そして「冷戦」後の唯一の超大国となったアメリカとのつきあい方を通して考えていきます。							
一般目標	国際ニュースに関心をもち、そして“日本に住んでいる地球人”として何をするかについて、自分なりの考えを持てるようになること。							
到達目標	日本が明治以降対外的におこなってきた歴史的事実の重要なポイントを説明できるようになるとともに、多様な文化・価値観が共存する国際社会での国際貢献の方途を考察できるようになること。副次的に、長文の文章を読解する能力を身につけること。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	◇予習クイズの事前提出の段階で解答が完了していれば（正誤を問わず）3 点ずつカウント。特設クイズについても 1 件につき解答完了（正誤を問わず）で 2 点～3 点をカウントします。クイズは合計 50 点を基本とします（加点あり）。記入不足のクイズは減点し、不切遅れの提出は 0 点です。 ◇感想票については 1 件につき 1～3 点カウント（上限を合計 10 点とします）。 ◇期末試験（電子機器をのぞき、持ち込み可）には 40 点配点。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5.4.10（月）3	講義システム説明と「失敗学」入門 問題提起：日本の歴史と国際貢献 第一部 日本の戦前戦後 〃 〃 〃 敗戦と憲法 〃 〃 〃 韓国保護国化 〃 〃 〃 韓国併合 〃 〃 〃 植民地朝鮮 〃 〃 〃 朝鮮人戦犯 〃 〃 〃 日本軍と日中戦争 第二部 米国と世界／米外交の特質 〃 〃 〃 ベトナム戦争 〃 〃 〃 反米感情 〃 〃 〃 イラク戦争 〃 〃 〃 アフガニスタン戦争 〃 〃 〃 日本人の国際貢献 到達度確認試験	◇講義では映像資料を視聴して、日本とアメリカのこれまでの外交史を学習します。 ◇予習クイズ&当日レジメおよび資料は下記の講義ウェブサイトにて事前に PDF ファイルとして配布されます。 ◇講義時には、予習クイズ&当日レジメに必要事項を記入し、感想を記入します。また、講義終了時には次回以降の回の予習クイズを提出します(次の回で返却)。 ◇講義時には、予習クイズで確認した自分の先入観をしっかりとって、講義内容との異同を気にしながら聴講・視聴しましょう。		◇予習：予習クイズをダウンロード→1 頁を A4 判用紙 1 枚に印刷（片面 or 両面）してから勘で解答をし、さらに下調べ内容を当日レジメに記入しましょう。 ◇復習：予習クイズの解答内容を修正する（○の見せ消し&追記）。過去の回の疑問点の調べをおこない、その内容をクイズ&レジメに追記するか、別紙にまとめておく。さらに講義に触発されての TV 番組や映画の視聴、体験者への聞き取り等についての概要と感想を感想票にまとめる。		松本	
2	5.4.17（月）3							
3	5.4.24（月）3							
4	5.5. 1（月）3							
5	5.5. 8（月）3							
6	5.5.15（月）3							
7	5.5.22（月）3							
8	5.5.29（月）3							
9	5.6. 5（月）3							
10	5.6.12（月）3							
11	5.6.19（月）3							
12	5.6.26（月）3							
13	5.7. 3（月）3							
14	5.7.10（月）3							
15	5.7.24（月）3							
16	後日連絡							
教科 参 考 図 書	教科書：◎伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』ちくまプリマー新書、2010 年、990 円 参考書：◎『平和と人権：やまがたガイド』山形県歴教協ほか、2015 年、500 円。その他にも講義時に随時紹介します。							
履 修 上 の 注 意	毎回のプリント類のダウンロードと印刷のための機材を確保してください(共用可)。 口頭での説明よりもテキストやプリント類での指示や説明に比重を置くので、長文読解と配付資料の保管と整理のテクニックも、試行錯誤しながら身につけていきましょう。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	まず、間違えましょう。失敗に学ぶ、試行錯誤、trial & error がモットーです。そうして自分の先入観や誤解を気づくとともに、それを修正していく作業を重視します。よって、“わかった気”にはさせません。自分を疑い、既成の価値観を、ニュースを疑い、“ずくを出して”自分の目と手で確かめてから考えていく癖を身につけましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	◇講義資料が掲載される講義ウェブサイト： http://matumoto.o.oo7.jp/index.htm ◇松本宛メールの前に一読を（メールアドレスの表記もこちらにあります）： http://www-h.yamagata-u.ac.jp/~matumoto/mail.htm							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
人間関係・コミュニケーション論	理学・作業療法学科 (総合基礎教育科目)	名誉教授 佐竹 真次	理・作一必修	1	後期	2	非該当	可
授業概要	人間関係・コミュニケーション論は、人が社会生活を効果的に行っていくために身につけておいた方がよい教養的知識や態度に関する知識より構成されている。ただ知っているだけというレベルにとどまらず、将来の社会生活や職業生活にも資するような内容を講義・討論する。							
一般目標	1 人間関係とは何かについて学ぶ。 2 コミュニケーションの仕組みと役割について学ぶ。 3 コミュニケーションの実践的側面を体験的に学ぶ。							
到達目標	①ことばとは何かについて述べるができる。②ことばと身体の関係について述べるができる。③ことばと身体のコミュニケーションについて述べるができる。④交流としてのコミュニケーションについて述べるができる。⑤モノとイメージのコミュニケーションについて述べるができる。⑥コミュニケーションの変容性について述べるができる。⑦意味を伝えるコミュニケーションの機能について述べるができる。⑧現代のコミュニケーションの特徴について述べるができる。⑨メディアとコミュニケーションの関係について述べるができる。⑩「わたし」の多様性とコミュニケーションの関係について述べるができる。⑪よりよいコミュニケーションの要件について述べるができる。⑫確かな人間関係を作るためのコミュニケーションについて述べるができる。⑬コミュニケーションの始発と応答と展開と終結について述べるができる。⑭非言語コミュニケーションについて述べるができる。⑮ことばの理解と共感について述べるができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	討論（15 点）、理解度チェック（試験等）（65 点）、レポート等（20 点）を総合して成績評価を行う。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	5. 9. 25 (月) 2	ことばとは何か	ことばの本質について	各回の授業項目にあたるプリント教材を事前に読んで予習しておく。 毎回の授業でその回のトピックに関してグループ・ディスカッションを行ってレポートをまとめるので、主体的・積極的に参加する。	佐竹			
2	5. 10. 2 (月) 2	ことばと身体	意図とは何か					
3	5. 10. 16 (月) 2	ことばと身体のコミュニケーション	身体の記号性					
4	5. 10. 23 (月) 2	交流としてのコミュニケーション	応答の相互性					
5	5. 10. 30 (月) 2	モノとイメージのコミュニケーション	記号としてのモノ					
6	5. 11. 6 (月) 2	コミュニケーションのダイナミズム	変化するわたしとあなた					
7	5. 11. 13 (月) 2	意味とコミュニケーション	意味の読み取り					
8	5. 11. 20 (月) 2	コミュニケーションのいま	コミュニケーションの危機					
9	5. 12. 4 (月) 2	メディアとコミュニケーション	メディアの功罪					
10	5. 12. 11 (月) 2	「わたし」とコミュニケーション	「わたし」の多様化					
11	5. 12. 18 (月) 2	よりよいコミュニケーション	コミュニケーションの前提					
12	5. 12. 25 (月) 2	確かな人間関係とコミュニケーション	記号的存在としての人					
13	6. 1. 15 (月) 2	コミュニケーションの実践 1	始発と応答と展開と終結					
14	6. 1. 22 (月) 2	コミュニケーションの実践 2	非言語コミュニケーション					
15	6. 1. 29 (月) 2	コミュニケーションの実践 3	ことばの理解と共感					
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：森川知史（著）確かな人間関係のためのコミュニケーション論（京都書房）							
履 修 上 の 注 意	適切な内容と分量の予習課題を適宜に出すことがある。さまざまな基本的問題を討論し合える、肯定的で積極的な雰囲気の講義にしたい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	人間関係・コミュニケーション論を学問とだけとらえるのではなく、自分や他者の社会生活を成り立たせるための必須の道具でもあると講義担当者とはとらえている。その視点で、みなさんの日常生活に密着したテーマを取り上げて話し合えるように配慮したい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	佐竹真次：g. ssatake@yachts.ac.jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員	佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
文章表現法		理学・作業療法学科 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 名子 喜久雄	選択	2	前期	2	非該当	可
授業概要		・ 目的に応じた実用的文章が記述できる能力を、高める。 ・ 上記の目的を達成するため、基本的技法・ルールをマスターした上で、文章が書けるような力をつける。 ・ データ・グラフの読み取りの能力を高め、その能力を、文章上に反映できるようにする。							
一般目標		・ 文章を、その目的・内容に応じて書ける能力（表記法・表現法・フォームなど）を身につけ、実際に応用できる。							
到達目標		認知領域……文章構成の必要性を理解した上で、手紙文・連絡文・案内文・小論文・発表用ポスター・レジュメなどが書けるようになる。 情意領域……文章を書くに際し、読み手の立場に配慮できる。 精神運動領域…目的に応じて、形式を生かし、内容や表現を工夫した文章が書ける。							
成績評価方針 評価方法 および基準		・ 学習中の課題（実用的な文章を書く・わかりやすい文を書く・自分の意見を相手にわかりやすく発表したり、話すなど）に対する評点 50 点 ・ 試験またはレポート…データ・グラフや参考文献などを使い、事実に基づいた小論文を書く。 （考察の深さ、文章の構成、わかりやすさ、表現の適切さなどを、評価のポイントにする） 評点 50 点							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外 学習など	担当	
1	5.4.14 (金) 4	文章を書く前に準備すること 作文と論理的文章の差 なぜ文がわかりにくくなるのか？(1) なぜ文がわかりにくくなるのか？(2) 実用的文章の実践(1) 実用的文章の実践(2) 実用的文章の実践(3) 実用的文章の実践(4) 意見を述べる文章はどう書くか(1) 意見を述べる文章はどう書くか(2) 意見を述べる文章はどう書くか(3) 形式の必要な手紙(1) 形式の必要な手紙(2)事務的な手紙 データやグラフの読み取り方(1) データやグラフの読み取り方(2)			・ 文章を書く上での前提とは？ ・ 文を書く上での留意点を再確認する。文例を示し訂正に取り組む。 ・ 手紙文・案内文・発表ポスターを書き添削を受ける。 ・ 意見をわかりやすく伝えるためにどのような形式が有効かを学ぶ、添削も行われる。 ・ データ・グラフの読み取り上の留意点、作成上の留意点を学ぶ。		身近な問題に関心を持ち、情報収集を心掛ける事	名子	
2	5.4.21 (金) 4								
3	5.4.28 (金) 4								
4	5.5.12 (金) 4								
5	5.5.19 (金) 4								
6	5.5.26 (金) 4								
7	5.6. 2 (金) 4								
8	5.6.16 (金) 4								
9	5.6.23 (金) 4								
10	5.6.30 (金) 4								
11	5.7. 7 (金) 4								
12	5.7.14 (金) 4								
13	5.7.21 (金) 4								
14	後日連絡								
15	5.7.28 (金) 4								
教 科 書 参 考 図 書		プリント配布予定							
履 修 上 の 注 意									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		5回前後、課題に応じた文章を書き、添削を受けることになります。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		教務学生課							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
文学	看護学科 (総合基礎科目)	放送大学	選択	2	後期	2	非該当	不可
授業概要	放送大学が開講する「 日本文学における古典と近代（'18） 」を受講する。 「古典と近代」という巨視的な視点を導入することで、日本文学の全体像を提示し、文学ジャンルや時代性、東西文学との交流や相互影響などを、トータルに把握することに力点を置く。このことによって、日本文学の生成と展開性を同時に把握する視点を持つことが、可能となる。日本文学の場合、いつの時代にも「古典と近代」が融合して、文学の創造が継続的に行われてきた。この点に着目することは、日本文学のみならず日本文化の本質への洞察を養うことにもなる。							
一般目標 到達目標	第一に、日本文学の輪郭を明確化し、文学創造の推進力が何であったかを理解する。第二に、日本文学の全体像を、文学ジャンルを縦糸とし、時代性を横糸として、自在に織り成された多様性として理解する。第三に、「古典と近代」が併存しつつ、諸外国や各地域との交流を実現してきた日本文学のあり方を、現代性と普遍性の両面から理解する。							
成 績 評 価 方 針 評 価 方 法 お よ び 基 準	放送大学が実施する単位認定試験結果を評価とする							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・方法		授業外学習	担当
1	オンデマンド	生成する文学と、その眺望			詳細は、放送大学シラバスを参照			
2		漢詩文						
3		和歌						
4		歌謡						
5		日記						
6		紀行文学						
7		物語						
8		随筆						
9		歴史文学						
10		説話						
11		軍記						
12		劇						
13		連歌と俳諧						
14		近代の詩歌						
15		近代の文学と、そのゆくえ						
教 科 書 参 考 図 書	教科書： 放送大学が指定するテキスト							
履 修 上 の 注 意	放送大学「日本文学における古典と近代（'18）」をオンデマンドで受講する。 文学として、「日本文学における古典と近代（'18）」「日本文学と和歌（'21）」「世界文学への招待（'22）」「世界文学の古典を読む（'20）」を2科目以上選択することはできない。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	文学の魅力を感じてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	担当教員、教育補助教員 遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
文学	看護学科 (総合基礎科目)	放送大学	選択	2	後期	2	非該当	不可
授業概要	放送大学が開講する「 日本文学と和歌（' 21） 」を受講する。 古代から現代までの、和歌史上の著名な歌人を取り上げ、和歌の歴史がどのようなものであったかとともに、彼等が日本文学史の上でどういう意味をもったかを解説する。							
一般目標 到達目標	和歌の歴史の概要を修得するとともに、なぜ和歌が続いたかの要因を把握する。また日本文学史上の著名作品との関連を捉えることによって、和歌の文学的意義を理解する。							
成 績 評 価 方 針 評 価 方 法 お よ び 基 準	放送大学が実施する単位認定試験結果を評価とする							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・方法		授業外学習	担当
1	オンデマンド	持統天皇の時代			詳細は、放送大学シラバスを参照			
2		聖武天皇の時代						
3		六歌仙時代						
4		『古今集』の撰者たち						
5		梨壺の五人の時代						
6		王朝の女房歌人たち						
7		堀河天皇の時代						
8		数寄の歌人たち						
9		新古今歌人たち						
10		二条為世と和歌四天王						
11		京極派の活動						
12		三玉集の時代						
13		後水尾院とその時代						
14		賀茂真淵と江戸派の活動						
15		桂園派の広がり						
教 科 書 参 考 図 書	教科書： 放送大学が指定するテキスト							
履 修 上 の 注 意	放送大学「日本文学と和歌（' 21）」をオンデマンドで受講する。 文学として、「日本文学における古典と近代（' 18）」「日本文学と和歌（' 21）」「世界文学への招待（' 22）」「世界文学の古典を読む（' 20）」を2科目以上選択することはできない。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	文学の魅力を感じてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	担当教員、教育補助教員 遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
文学	看護学科 (総合基礎科目)	放送大学	選択	2	後期	2	非該当	不可
授業概要	放送大学が開講する「世界文学への招待（' 22）」を受講する。 いま世界の文学ではどのような試みがなされ、いかなる刺激的な作品が生まれているのか。グローバリズム以降の社会の変化のただなかにあつて、文学が切り拓く新しい地平を探索し、多様な作家たちとの出会いへと導く講義。作品成立の背景をわかりやすく解説しながら、個々の作品の魅力を紹介し、同時代と切り結ぶ世界文学のダイナミズムを分析する。							
一般目標 到達目標	ヨーロッパやアメリカ、ラテン・アメリカ、そして韓国や日本を視野に収め、世界文学の最前線でもい何が起きているかをいきいきと紹介する。際立った意義をもつ作品や作家たちについて分析しながら、受講生に文学を読み解くことのスリルと面白さを体験してもらう。							
成績評価方針 評価方法 および基準	放送大学が実施する単位認定試験結果を評価とする							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・方法		授業外学習	担当
1	オンデマンド	『異邦人』から出発する旅——カミュとダーウド			詳細は、放送大学シラバスを参照			
2		危機に挑む文学—ウエルベックとサンサール						
3		好きになれない主人公が見る世界—— J・M・クッツェーの『恥辱』を読む						
4		アイルランド詩と土の匂い——シェイマス・ヒーニーの作品から						
5		クレオール文学——叙事詩の復活						
6		楽譜としてのテキスト—ロラン・バルト「作者の死」とその後の現代批評						
7		人間とロボットを分かちもの—カレル・チャペック『ロボット』						
8		引用の文学、文学の引用——大江健三郎から、アンナ・ツィマへ						
9		『百年の孤独』のインパクト—地方色と普遍性						
10		グローバリズムとラテンアメリカ—マジック・リアリズムの浮沈						
11		いちばん近い世界文学・今日の韓国文学を読む						
12		光州事件を描く——ハン・ガンの『少年が来る』を読む						
13		言葉の「際」をさぐる—古井由吉の作品						
14		未知の言葉を求めて—多和田葉子の小説						
15		世界文学をより深く味わうために						
教科書 参考図書	教科書： 放送大学が指定するテキスト							
履修上の注意	放送大学「世界文学への招待（' 22）」をオンデマンドで受講する。 文学として、「日本文学における古典と近代（' 18）」「日本文学と和歌（' 21）」「世界文学への招待（' 22）」「世界文学の古典を読む（' 20）」を2科目以上選択することはできない。							
学生への メッセージ	文学の魅力を感じてください。							
e-mail・研究室 (連絡先)	担当教員、教育補助教員 遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
文学		看護学科 (総合基礎科目)	放送大学	選択	2	後期	2	非該当	不可
授業概要		放送大学が開講する「世界文学の古典を読む（'20）」を受講する。 古代から中世にかけて広く知られた世界中の名作に触れ、旅・冒険・非日常という共通の観点から読み解いてゆく。							
一般目標 到達目標		ギリシア・ローマ、中世ヨーロッパ、あるいは中国などの「冒険もの」の名作の社会背景や構造を理解し、名場面の一部を翻訳で味わう。人が異国や異界に旅立つ原動力や、未知なるものとの遭遇、成長や挫折などについて検討を行い、人間の普遍的な営みとしての旅を考える。さらに口承からテキストへと至る過程を精査し、古典文学のもつ意味を考察する。							
成績評価方針 評価方法 および基準		放送大学が実施する単位認定試験結果を評価とする							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題				学習内容・方法		授業外学習	担当
1	オンデマンド	古代ギリシア 1 『オデュッセイア』				詳細は、放送大学シラバスを参照			
2		古代ギリシア 2 『オイディプス王』							
3		古代ローマ 1 『アエネイス』							
4		古代ローマ 2 『黄金のろば』							
5		中国 1 『遊仙窟』							
6		中国 2 『西遊記』							
7		スペイン 1 『わがシードの歌』							
8		スペイン 2 『ティラン・ロ・ブラン』							
9		イタリア 1 『神曲』							
10		イタリア 2 『デカメロン』							
11		フランス 1 アーサー王物語と聖杯の探索							
12		フランス 2 『エセー』							
13		イギリス 1 『カンタベリー物語』							
14		イギリス 2 『妖精の女王』							
15		テキストと旅							
教科書 参考図書		教科書： 放送大学が指定するテキスト							
履修上の注意		放送大学「世界文学の古典を読む（'20）」をオンデマンドで受講する。 文学として、「日本文学における古典と近代（'18）」「日本文学と和歌（'21）」「世界文学への招待（'22）」「世界文学の古典を読む（'20）」を2科目以上選択することはできない。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		文学の魅力を感じてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		担当教員、教育補助教員 遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
文化人類学	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 坂井 正人	選択	2	前期	2	非該当	可
授業概要	ばい菌、恋愛と結婚、呪術、死、贈り物、フェアトレード、生殖医療、地上絵などを題材に、文化人類学とSDGs の関係について検討する。							
一般目標	文化を相対的に理解する能力を培うとともに、 SDGs に関する理解を深める。							
到達目標	授業で扱った日本および世界の諸地域における生活世界について理解するとともに、それらの事例を比較することによって、我々の日常生活を異なった視点で思考する能力を養います。また SDGs をめぐる活動について複眼的な視点から理解する。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	授業中の質疑応答、出席カード（後述）の内容、学期末レポートによって、参加の度合い、知識修得・理解の度合い、論理的思考力、文章表現力のそれぞれの項目について判定し、その合計点を用いて判定します。また、授業のはじめに「出席カード」という用紙を配布します。授業を聞いて考えたこと、質問、今後の授業で扱って欲しいトピック、授業の進め方についての要望など、何を書いても構いません。 配点：出席カード 20%、学期末レポート 80% 総合評価基準：100～90 点=A、89～80 点=B、79～70 点=C、69～60 点=D、60 点未満=F							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	5. 4. 10 (月) 2 5. 4. 17 (月) 2 5. 5. 1 (月) 2 5. 5. 8 (月) 2 5. 5. 10 (水) 1 5. 5. 15 (月) 2 5. 5. 17 (水) 1 5. 5. 22 (月) 2 5. 5. 29 (月) 2 5. 6. 5 (月) 2 5. 6. 12 (月) 2 5. 6. 19 (月) 2 5. 6. 26 (月) 2 5. 7. 3 (月) 2 5. 7. 10 (月) 2	・文化人類学とは？：不浄観と文化相対主義 ・SDG s とは？ ・恋愛と結婚 ・アンデスと日本の呪術 ・贈り物と取引 ・不平等とフェアトレード ・生殖医療 ・文化遺産としてのナスカの地上絵	・我々は何を汚いと考えるのか ・文化に優劣はあるのか ・SDGs の目標と視座 ・日本・オセアニア・アフリカの事例研究 ・南米アンデスと日本の事例研究 ・よい贈り物とは？ ・SDGs とフェアトレード再考 ・SDGs と生殖医療再考 ・山形大学ナスカ研究所の成果			文化人類学・SDGs 関係の図書で、授業項目に関係するページを読み、自分なりに考えてみること。		坂井
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：波平恵美子（編）『文化人類学』医学書院、山下晋司、船曳健夫（編）2008『文化人類学のキーワード〔改訂版〕』有斐閣双書、蟹江憲『SDG s （持続可能な開発目標）』（中公新書、2020）							
履 修 上 の 注 意	特にありません。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	この授業で紹介される事例を参考にしながら、自分の常識や価値観を見つめなおしてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	坂井正人：sakai@human.kj.yamagata-u.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
宗教学	看護学科 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 久保田 力	選択	1	前期	2	非該当	可
授業概要	「宗教学」のサブタイトルは「一人類進化の観点から」とする。 混迷を極めたグローバルな現代社会において、起源的意味での宗教性やグローバル性を探究する。「私たちはどこから来てどこへ行くのか。私たちは何者なのか。」それら哲学的命題へ科学的に答えるためにまず、宇宙→地球→人類→文明の成立過程を探る。これによって私たちの存在自体の起源や意味を客観的に理解する。宗教学のみならず、考古学や歴史学、人類学、心理学、生物学などの知を駆使して人類を振り返るビッグヒストリーの体感。そしてホモ・サピエンスに至る人類進化の科学的成果を示す。この私たちに共通なアイデンティティの確認と知識は医学分野においても人間理解の前提となる有効性を持つと考える。 人類進化の過程において宗教的思考の発生を考え、同時に知性の発達過程も探る。人間世界や宗教を客観的・科学的に眺められる座標軸を提供する。本授業では個別的宗教や文化の「違い」よりも、人類的思考や文化の「共通点」に多く着目する。人類史の中の宗教を考える上でも多様な研究成果の視点を取り入れつつ、自民族中心主義（エスノセントリズム）に陥らないように、自己をより深いグローバルな次元で認識できる能力を養う。宗教学は信仰を直接的に求めたり深めたりする学問ではない。むしろそれらを相対化する視点である。本講義は狭い意味での宗教学を超えて、人間としての自分の成り立ちを宇宙的次元にまで掘り返す自己再発見の旅路である。その受け止め方によって言わば“科学的なスピリチュアリズム”を目指す。 もし授業時間に余裕が生じたならば、キリスト教やイスラム教、ユダヤ教、仏教、ヒンドゥー教などの個別的宗教の基本知識を学習する（シラバスには最終回の仏教しか記載していないが）。							
一般目標	人類が進化の過程において宗教的思考や知性をいつ、どのように獲得してきたのかを理解し説明できること。また、地球の成り立ちをマクロに振り返ることを通して、現在の文明社会の特徴を再認識する。							
到達目標	以下、多いと感じるかもしれませんが、試験実施なら中心的に設問化する目標群です。 1) 宇宙や地球の歴史について、重要事件の数値を明確に言える。 2) 元来複数いた人類の進化の5段階の過程をその特徴と共に簡潔に説明できる。 3) 宗教的思考の発生時期や発生状況とその意義を説明できる。 4) ホモ・サピエンスの進化における5つの革命を挙げて、特に農業革命の特徴を説明できる。 5) アニミズムやマナイズムを説明できる。 6) 類人猿と人間との間の最も根本的な相違点を指摘できる。 7) 世界宗教と民族宗教との違いを列挙・説明できる。（以下の4点は全てカバーできない場合もある。） 8) 日本人の宗教観について、特に「無宗教」と「無神論」の違いについて説明できる。 9) 呪術の基本的構造を簡潔に説明できる。 10) 仏教思想の根本的思想を指摘・説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	1) 2023年1月の下旬時点において、コロナ感染状況が再び拡大しつつあるので、場合によってはZoom授業となることも予想し、その場合でも対応できるようVTR鑑賞を中心に授業を構成して推進する。その際、鑑賞中にストップモーションをかけながら、久保田が必要な補足的説明や解説を頻繁に行う。下記のシラバスはあくまで暫定的な予定だと捉えて頂きたい。人類史にとって新たな画期的発見のニュースや必要な補足事項が見出されれば、授業内容を臨機応変に追加又は省略することがあることを予め了解して頂きたい。少人数での対面授業の場合はゼミ形式に近くして、プレゼンテーションなどを課すこともある。 2) 基本的にはVTRを視聴しながらキーワードに留意しつつノートテイクリ（久保田の解説部分要注意）、その振り返り学習を兼ねてWORD原稿としてまとめ（対面授業の場合は手書きノートで可）、授業前と後半部に分けて2回提出する。前半期ノート30点、後半期ノートは別指定のテキストの要約も含むため40点。合計70点。 3) ほぼ毎回の授業で出席確認を兼ねてキーワードテスト（ミニテスト）（各4点）を実施する。 今のところ、期末試験を実施するか否か未定。配点は20～30点を予定。 以上の合計点は100点を超えることになるが、相対評価をするので問題ない。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5.4.11(火)4	1 ガイダンス及び地球の歴史前編 VTR	1・2 近代宗教学の成立 宇宙と地球のビッグヒストリー		キーワードやキーセンテンスと共に的確にノートテイキングのスキルアップを目指す。 WORDへの整理の仕方を工夫する。追跡調査の記載は高く評価する。提出時はPDFに変換すること。自分の知的財産を創造して下さい。		久保田	
2	5.4.18(火)4	2 地球の歴史後編	恐竜の絶滅など					
3	5.4.25(火)4	3 20世紀の総括 宗教の分類方法	3 20世紀の異常性 民族宗教と世界宗教					
4	5.5.2(火)4	4 宗教の原初形態	4 宗教の起源、アニミズム・マナイズム					
5	5.5.9(火)4	5 人類の誕生と進化1 (Nスベ)	5 人類進化の5段階					
6	5.5.16(火)4	6 同	6 同					
7	5.5.23(火)4	7 アジアへの拡散	7 アジア人の起源と適応（同）					
8	5.5.30(火)4	8 人類の誕生と進化2 (ネアンデルタール人)	8 チンパンジーとヒトとの違い 洞窟壁画の世界					

9	5.6.6(火)4	9 ネアンデルタール人絶滅の謎	9 宗教性の萌芽と知性の進化 象徴的思考能力と流動的知性	WORDへの整理は一度にはできないので、できれば毎回の授業後に少しずつ着実に整理していくこと。	久保田
10	5.6.13(火)4	10 人類の誕生と進化3	10 ホモ・サピエンス日本へ		
11	5.6.20(火)4	11 農業革命について	11 ギョベクリ・テペ遺跡を中心に (Nスペ)		
12	5.6.27(火)4	12 ユヴァル・ノア・ハラリ「サピエンス全史」	12 ハラリー氏のベストセラーのドキュメンタリー (BS)		
13	5.7.4(火)4	13 同「ホモ・デウス」	13 同氏の第2のベストセラーのドキュメンタリー、人類の近未来 (同)		
14	5.7.11(火)4	14 呪術論,アニミズム,マナイズム,「無宗教」	14 フレイザーの論,宗教原型論,「無宗教」と「無神論」の違いと日本人		
15	5.7.18(火)4	15 仏教の思想	15 華嚴経の思想など		
教科書 参考図書		『人類の起源、宗教の誕生』山際寿一・小原克博共著、平凡社新書、2019年、840円(税別) (参考書『人類進化の秘密がわかる本』学研プラス、2016年は絶版のため) その他の参考書は授業時に指摘・紹介する。			
履修上の注意		将来、患者さんの多様な宗教観・人間観・死生観などを理解できる人間に！ 自分で調べ、要約し、発表する楽しさも対面授業の場合は味わってもらいたい。VTRもできる限り積極的に使用するので、キーワードやキーセンテンスを見極めつつ、的確にノートをとるスキルとそれらを的確に整理するスキルを養う。オリジナルな知的財産を造ろう。			
学生への メッセージ		実は、「宗教とは何か」ではなく「人間とは何か」が問題。 「私たちはどこから来てどこに行くのか、私たちは何者なのか」			
e-mail・研究室 (連絡先)		久保田力：kubota@aga.tuad.ac.jp Tel.023-627-2039 (東北芸術工科大学の久保田研究室直通)			

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生				
英語Ⅰ	三学科共通 (総合基礎教育科目)	准教授・梶 理和子	選択	1	前期	1	非該当	否				
授業概要	この授業では、孤独の克服といった身近なテーマから、ロボットによる外科手術といった科学技術に関連するトピックを扱う教科書を使って、英文の構造や表現を理解し、異なる価値観や問題を考察することを目的としています。グループワークによる英文の確認、疑問点の確認といった演習をおこなってもらいますので、辞書や参考書を持参のうえ授業に参加してください。英語の音（発音やアクセント、リズム）や表現に対する関心を高め、扱われているテーマに対する問題意識を言語化することを心がけてください。											
一般目標	英語は、多様な意味や働きをもつ「言葉」であると認識し、英文を正確に理解するための有効な検索方法を習得する。英文の表現や内容に対する自分の解釈を他の学生に説明したり、意見交換したりすることで、共通認識を構築する技術を身につける。											
到達目標	1. 複数の（異なる出版社の／語彙の豊富な／Web 上の）辞書を引き、適切な意味を選択できる。 2. 設問解答のためだけでなく、英文の音声（ダウンロード）を確認し、正しい発音を身につける。 3. 英文の意味（内容）を解釈し、解釈に基づき内容について考察を加える。 4. 英文の構造や、表現、内容にかかわる疑問点をみつける。 5. グループワークに積極的に参加する（共通理解構築のためにメンバーで協力する）。											
成績評価方針 評価方法 および基準	演習［グループワーク等の演習態度や minute paper によって評価］（40）・小テスト（40）・Quiz（20）											
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当					
1	5. 4. 12（水）1・2	オリエンテーション	授業概要説明 自己目標設定		シラバス・教科書確認 音声ダウンロード		梶					
2	5. 4. 19（水）1・2	(A) Chapter 1-(1) (B) Chapter 3-(1)	次の方法で、1 つの Chapter（8 ページ）を 3 回程度で扱います （演習グループは Chapter 毎に変更します）： (1) Prereading, Vocabulary をグループで、続いてクラス全体で確認する。Reading Analysis をグループワークで完成しつつ、クラス全体で確認する。 (2) Reading Analysis の演習を継続し、Reading Skill をグループワークで作成し、クラス全体で確認する。最後に小テストに解答する。 (3) Information Recall および Critical Thinking をグループで、続いてクラス全体で確認する。最後に小テストに解答する。		注：Chapter A～G の選択はクラスの希望を踏まえて、決定します。 (1) 新しい Chapter に入る際には、Prereading, Vocabulary に解答し、Reading Analysis の英文に目を通しておく。 (2) Reading Analysis の英文や内容に関わる疑問箇所を確認する。Reading Skill に目を通しておく。 (3) Information Recall に解答しつつ、英文や内容に関わる疑問点を再確認する。テーマに関わる情報収集や考察を行い、Critical Thinking の演習準備をする。							
3	5. 4. 26（水）1・2	(A) Chapter 1-(2) (B) Chapter 3-(2)										
4	5. 5. 10（水）1・2	(A) Chapter 1-(3) (B) Chapter 3-(3)										
5	5. 5. 17（水）1・2	(A) Chapter A-(1) (B) Chapter B-(1)										
6	5. 5. 24（水）1・2	(A) Chapter A-(2) (B) Chapter B-(2)										
7	5. 5. 31（水）1・2	(A) Chapter A-(3) (B) Chapter B-(3)										
8	5. 6. 7（水）1・2	(A) Chapter C-(1) (B) Chapter D-(1)										
9	5. 6. 14（水）1・2	(A) Chapter C-(2) (B) Chapter D-(2)										
10	5. 6. 21（水）1・2	(A) Chapter C-(3) (B) Chapter D-(3)										
11	5. 6. 28（水）1・2	(A) Chapter F-(1) (B) Chapter G-(1)										
12	5. 7. 5（水）1・2	(A) Chapter F-(2) (B) Chapter G-(2)										
13	5. 7. 12（水）1・2	(A) Chapter F-(3) (B) Chapter G-(3)										
14	5. 7. 19（水）1・2	Quiz							授業で扱ったテーマに関わる Quiz に解答する		Quiz の疑問等確認	
15	5. 7. 26（水）1・2	まとめ							Quiz の確認 設定目標の達成度評価		設定目標等の確認	
教 科 書 参 考 図 書	教科書 Reading Choice, New Edition: Skills for Academic Success（センゲージラーニング、2023） 参考資料（発表や意見交換のための英語表現等）等はプリントで配布します											
履 修 上 の 注 意	演習中心の授業ですので積極的に参加してください。なお、教科書、辞書をかみならず持参してください（スマホを辞書として使用できません）。できれば参考書も持参しましょう。											
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	英文の背後にある文化やさまざまな考え方に興味を持ちましょう。 コミュニケーションを円滑に行う雰囲気作りを心がけてください。											
e - m a i l ・ 研 究 室 （ 連 絡 先 ）	梶 理和子：研究室 25 rkazi@yachts.ac.jp											

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
英語Ⅱ		三学科共通 (総合基礎教育科目)	准教授・梶 理和子	選択	1	後期	1	非該当	否
授業概要		この授業では、今日の日本が抱えている問題を考える教科書を用いて総合的な英語の力と考える力を身につけることを目的としています。グループワークによる英文の確認、疑問点の抽出といった演習をおこなってもらいますので、辞書や参考書を持参のうえ授業に参加してください。英文の理解のみならず、英語の音（発音やアクセント、リズム）や表現に対する関心を高めるとともに、トピックに対する考えや疑問を他の学生に説明することで、扱われている問題に対する意識を言語化することを心がけてください。							
一般目標		英語は、多様な意味や働き、音をもつ「言葉」であると認識し、英文を正確に聴き取り、発音し、何を伝えているのかを理解するための有効な検索方法を習得する。英文の表現や内容に対する自分の解釈を他の学生に説明したり、意見交換したりすることで、共通認識を構築する技術を身につける。							
到達目標		1. 複数の（異なる出版社の／語彙の豊富な／Web 上の）辞書を引き、適切な意味を選択できる。 2. 英文の音声（ダウンロード）を確認し、正しい発音を身につける。 3. 英文の意味（内容）を前後の文脈から解釈する。 4. 英文の構造や、表現、内容にかかわる疑問点をみつける。 5. グループワークに積極的に参加する（共通理解構築のためにメンバーで協力する）。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		演習〔グループワーク等の演習態度や minute paper によって評価〕(70)・Quiz (30)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 27（水）1・2	オリエンテーション	授業概要説明 自己目標設定			シラバス・教科書確認 音声ダウンロード		梶	
2	5. 10. 4（水）1・2	Chapter 1	以下の方法(1)(2)にしたがって授業の流れを確認します			授業外学習(1)(2)をおこない必要事項を確認します			
3	5. 10. 11（水）1・2	Chapter 1							
4	5. 10. 18（水）1・2	(A) Chapter A-(1) (B) Chapter B-(1)	次の方法で、1つのChapterを2～3回程度で扱います（演習グループはChapter毎に変更します）：			注：Chapter A～Jの選択はクラスの希望を踏まえて、決定します。			
5	5. 10. 25（水）1・2	(A) Chapter A-(2) (B) Chapter B-(2)							
6	5. 11. 1（水）1・2	(A) Chapter A-(3)/C-(1) (B) Chapter B-(3)/C-(1)	(1) グループで、発音やリズムに注意しつつ英文を読み合わせ、Comprehension Check 含め、疑問点を抽出し、クラス全体で疑問を共有する。			(1) 新しいChapterに入る際には、音声のみで英文を確認し、次に英文を見ながら確認する。Comprehension Check に目を通しておく。			
7	5. 11. 8（水）1・2	(A) Chapter C-(2) (B) Chapter D-(2)							
8	5. 11. 15（水）1・2	(A) Chapter C-(3)/E-(1) (B) Chapter D-(3)/F-(1)	(2) 英文に関わる演習を継続し、疑問箇所に対する解答や共通理解を構築する。 Structure Practice, と Listening Challenge に解答し、理解度を確認する。			(2) 演習を踏まえて、未解決の疑問を確認し、自分なりの解答を準備する。Structure Practice, Listening Challenge に目を通しておく。			
9	5. 11. 22（水）1・2	(A) Chapter E-(2) (B) Chapter F-(2)							
10	5. 12. 6（水）1・2	(A) Chapter E-(3)/G-(1) (B) Chapter F-(3)/H-(1)	(3) Going Further で、意見交換をおこない、トピックに対する理解を深める。			(3) 英文や内容に関わる疑問点を再確認する。トピックに関わる情報収集や考察を行い、Going Further の演習準備をする。			
11	5. 12. 13（水）1・2	(A) Chapter G-(2) (B) Chapter H-(2)							
12	5. 12. 20（水）1・2	(A) Chapter G-(3)/I-(1) (B) Chapter H-(3)/J-(1)							
13	6. 1. 10（水）1・2	(A) Chapter I-(2) (B) Chapter J-(2)							
14	6. 1. 17（水）1・2	(A) Chapter I-(3) (B) Chapter J-(3)							
15	6. 1. 24（水）1・2	Quiz	学習箇所に関わる Quiz に解答する			Quiz の疑問等確認 到達目標の達成度評価			

教科書 参考図書	教科書 Japan' s Dilemmas: 15 Topics You Need to Consider (音羽書房鶴見書店, 2023) 参考資料 (発表や意見交換のための英語表現等) 等はプリントで配布します
履修上の注意	演習中心の授業ですので積極的に参加してください。なお、教科書、辞書をかならず持参してください (スマホを辞書として使用できません)。できれば参考書も持参しましょう。
学生への メッセージ	扱われている問題を自分なりに考察してみましょう。 コミュニケーションを円滑に行う雰囲気作りを心がけてください。
e-mail・研究室 (連絡先)	梶 理和子: 研究室 25 rkazi@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
英語プレゼンテーション	看護学科 (総合基礎教育科目)	准教授・梶 理和子	選択	2	前期	1	非該当	否
授業概要	この授業では、エッセイ・ライティングとプレゼンテーションの技法を習得するために、TED Talks 等を参考に 300 語程度のエッセイを作成し、発表（プレゼンテーション）してもらいます。エッセイの作成にあたっては、個々の関心や問題意識を明確にし、考えや意見を伝えるために有効な情報を活用できるように、授業のなかで相談・意見交換できる時間を確保します。また、英語の正確な発音やリズムを身につけるために、朗読やシャドーイング（洋楽や TED の活用）の演習もおこないます。							
一般目標	「自分の言葉で、自分の意見を、相手に伝える」のに効果的なエッセイの構成や、プレゼンテーションの方法を習得する。その際に、英語の多様な意味や働き、音やアクセントを検索・選択する有効な方法を活用し、正確な英語表現で、適切な英文を作成する。							
到達目標	1. エッセイの基本構造を理解したうえで、300 語程度のエッセイを作成する。 2. 映像等の音声や英文を参考に、正しい発音や表現等を自分のエッセイ作成・発表に活用する。 3. 複数の（異なる出版社の／語彙の豊富な／Web 上の）辞書を引き、適切な用法・表現を選択する。 4. 英文の構造や、表現等にかかわる疑問点を見つけ、質問や相談をして、解決する。 5. グループワークに積極的に参加する（メンバー間でアドバイス等をおこなう）。							
成績評価方針 評価方法 および基準	演習〔グループワーク等の演習態度や minute paper（quiz 含む）によって評価〕（40）／ 提出物（アウトライン・原稿・最終エッセイ）（40）／ 最終プレゼンテーション（20）							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など			担当	
1	5. 4. 14（金）1・2	オリエンテーション	授業概要説明 自己目標設定	シラバス確認			梶	
2	5. 4. 21（金）1・2	エッセイの構造理解	エッセイの種類・形式	配布プリント確認 TED Talks 等の視聴				
3	5. 4. 28（金）1・2	エッセイの作成手順(1) 朗読演習(1)	ブレインストーミング リスニング	作成手順(1)確認 TED 等、動画視聴				
4	5. 5. 12（金）1・2	エッセイの作成手順(2) 朗読演習(2)	マップ シャドーイング	作成手順(2)確認 TED 等、動画視聴				
5	5. 5. 19（金）1・2	エッセイの作成手順(3) 朗読演習(3)	アウトライン 朗読	作成手順(3)確認 TED 等、動画視聴				
6	5. 5. 26（金）1・2	プレゼンテーション練習	視線や身振り等を意識しながら朗読演習	プレゼンテーション準備				
7	5. 6. 2（金）1・2	プレゼンテーション (朗読)	朗読およびプレゼンテーションの相互評価・意見交換	演習評価確認 課題・目標設定				
8	5. 6. 16（金）1・2	エッセイ作成(1) 英文作成演習	ブレインストーミング 英文作成の実践	エッセイのテーマに関わる アイディアの抽出				
9	5. 6. 23（金）1・2	エッセイ作成(2) 英作文演習	マップ 英文作成の実践	アイディアの整理（統合・ 削除等）				
10	5. 6. 30（金）1・2	エッセイ作成(3) 英作文演習	アウトライン 英文作成の実践	エッセイの全体像設定 情報やデータ等の収集				
11	5. 7. 7（金）1・2	エッセイ作成(4)	アウトラインを文章化 エッセイの流れ確認	エッセイの形式・内容確認 情報・データの整理				
12	5. 7. 14（金）1・2	エッセイ作成(5)	コロケーション等、自然な 表現の確認	日本語の曖昧さ再考 正確な英文への変換				
13	5. 7. 21（金）1・2	エッセイの音読	発音やアクセント、リズム を意識し、音読練習	英文を音読しながら修正の うえ、エッセイを完成				
14	5. 7. 25（火）1・2	プレゼンテーション 最終確認	（暗記による）音読	非言語メッセージを意識した プレゼンテーション				
15	5. 7. 28（金）1・2	プレゼンテーション (エッセイ)	エッセイ紹介 設定目標の達成度評価	到達目標の達成度確認				
教 科 書 参 考 図 書	資料はプリントで配布します							
履 修 上 の 注 意	コミュニケーションを円滑に行う雰囲気作りを心がけてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	エッセイを作成する際に、多くの情報を集め、より興味深い内容を目指しましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	梶 理和子：研究室 25 rkazi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
英語表現法Ⅰ	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 ライアン S.	選択	1	前期	1	非該当	可
授業概要	The goal of this course is to develop English fluency. The focus of the course will be on speaking and listening. Students will work in pairs and practice the model conversations or information gap exercises. There will also be listening tasks that reinforce the language targeted for each chapter. The workbook drills for each chapter will reinforce the grammatical structure of the speaking tasks and will be assigned as homework. Students who have a positive attitude and are not afraid of making speaking mistakes will gain the most from this course.							
一般目標	Developing English speaking and listening ability							
到達目標	To build on previous knowledge to increase speaking/listening ability and increase confidence to communicate in English							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1. Mid-term & Final Exam (80%) 2. Daily participation (20%) (volunteers will receive a positive mark each class)							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5.4.12 (水) 1・2	We will finish as many units as student ability allows. Language functions are linked to advanced grammatical structures and shall include: 1. <u>Describing and comparing people's actions</u> (chapter 8) 2. <u>Describing ongoing past activities</u> (chapter 9) 3. <u>Expressing past/future ability</u> : (chapter 10) 4. <u>Medical examinations/advice</u> : (chapter 11) 5. <u>Describing future activities/making plans</u> : (chapter 12) 6. <u>Offering help / indicating ownership</u> : (chapter 13) *Workbook grammar drills are included in the book for each chapter.						ライアン
2	5.4.19 (水) 1・2							
3	5.4.26 (水) 1・2							
4	5.5.10 (水) 1・2							
5	5.5.17 (水) 1・2							
6	5.5.24 (水) 1・2							
7	5.5.31 (水) 1・2							
8	5.6. 7 (水) 1・2							
9	5.6.14 (水) 1・2							
10	5.6.21 (水) 1・2							
11	5.6.28 (水) 1・2							
12	5.7. 5 (水) 1・2							
13	5.7.12 (水) 1・2							
14	5.7.19 (水) 1・2							
15	5.7.26 (水) 1・2							
教 科 書 参 考 図 書	Side-by-Side Book 2B (with workbook). Pearson. ISBN 0132460200							
履 修 上 の 注 意	Students who fail to attend 2/3 of the total classes will receive a 0 for a final score.							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	1. Students will make a new partner for each class.							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	ライアン S. : ryan@human.kj.yamagata-u.ac.jp							

[illegible]

授業科目名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
英語表現法Ⅱ	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 田中 亜矢子	選択	1	後期	1	非該当	可
授業概要	このコースでは、皆さんが今まで習得してきた基礎英文法をもとに実践的な英会話力の向上を目指します。筆記試験では求められないコミュニケーション能力を伸ばすため、皆さんが発話できるよう英語圏のゲームなどを用いたアクティビティを主体に授業を進めます。							
一般目標	コース終了後には、英語を母国語として話す人 (Native English Speaker) としてではなく、日本人として今までよりももっと自信を持って外国人と英語でコミュニケーションが出来ることを目標にします。							
到達目標	毎週設定されたトピックから、今まで学んできた基礎英語を使い、話すことを楽しみながらコミュニケーション会話能力を身につけましょう。 教科書などでは文字として分かっているが、実際には発話できない日本人が直面する問題を解消し、基礎的なフレーズの習得による発話能力を高めます。自分を表現すること、英語を話すことが楽しいと実感しましょう。							
成績評価方針 評価方法 および基準	評価配分：授業への参加姿勢 40% グループアクティビティへの参加態度 30% レポート 30 %							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 26 (火) 1・2	英会話で自己紹介 1 トピック Family	・簡単な英語の組み合わせによる英会話演習 ・細かいニュアンスの違いを学ぶ ・日常会話 (挨拶、天気等) の演習 外国人との会話でよく使うフレーズの演習 ・nice, pretty などを使った演習 ・家族メンバーを紹介するための演習 ・最も聞かれるパターンの演習 ・生きた英会話を映画から学ぶ ・今やっていることの表現を学ぶ ・習慣的に行っていることを表現する ・副詞で、会話にアクセントをつける ・洋楽、ボードゲームを使って英語や文化の違いを学ぶ				田中	
2	5. 10. 3 (火) 1・2	2 トピック Food						
3	5. 10. 10 (火) 1・2	3 トピック Time						
4	5. 10. 17 (火) 1・2	4 トピック House and Home						
5	5. 10. 24 (火) 1・2	5 トピック Music 好きなことを伝えよう。						
6	5. 10. 31 (火) 1・2	6 トピック Transportation 道案内を英語で練習						
7	5. 11. 7 (火) 1・2	7 トピック Sport						
8	5. 11. 14 (火) 1・2	8 トピック Number						
9	5. 12. 5 (火) 1・2	9 トピック Best Friends 友達のことをはなそう。						
10	5. 12. 12 (火) 1・2	10 トピック TV 好きなエンタメを話そう。						
11	5. 12. 19 (火) 1・2	11 トピック Work 仕事の話をしよう。						
12	5. 12. 26 (火) 1・2	12 トピック Vacation 旅行の話をしよう。						
13	6. 1. 9 (火) 1・2	13 トピック School 学校の話をしよう。						
14	6. 1. 16 (火) 1・2	14 トピック Movies 映画の話をしよう。						
15	6. 1. 23 (火) 1・2	15 まとめ						
教科書 参考図書	TOPIC TALK SECOND EDITION by David Martin							
履 修 上 の 注 意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	簡単な表現をきちんと使いこなし、話せる自分を認識し、しっかりと自信に繋げていきましょう。 Native English Speaker になる必要はないんです。日本人である自分を英語で表現する楽しさの延長上に英語力の上達があります。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	教務学生課							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
医療英会話	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 Brad Brooks	選択	2	前期	1	非該当	可
授業概要	This course will focus on building English fluency about general health topics. In alternating weeks, students will read articles and participate in discussions, then will write skits to perform using the English and information they have learned.							
一般目標	Develop English speaking and listening skills specific to health-related topics.							
到達目標	By the end of this course, students should be able to use English to: 1. Talk about a variety of health topics. 2. Express their opinions and give advice. 3. Listen and respond accordingly to health-related inquiries.							
成績評価方法 評 価 方 法 お よ び 基 準	Discussion participation and preparation 50% Skit Writing and Presentations 50%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など		担当
1	5.4.11 (火) 1・2	Orientation	Discussions about various health and medical topics in small groups. Each discussion will happen three times, with different groups.			Prepare and read for the next discussions.		Brad
2	5.4.18 (火) 1・2	Discussion						
3	5.4.25 (火) 1・2	Skit Presentation						
4	5.5. 2 (火) 1・2	Discussion						
5	5.5. 9 (火) 1・2	Skit Presentation						
6	5.5.16 (火) 1・2	Discussion						
7	5.5.23 (火) 1・2	Skit Presentation	Remaining class time will be spent in small groups preparing for the following week's skit presentations.					
8	5.5.22 (月) 1 5.5.29 (月) 1	Discussion						
9	5.6. 6 (火) 1・2	Skit Presentation	Skit Presentation weeks will start with a short preparation time followed by presentation of skits.			Work in groups to create a skit.		
10	5.6.13 (火) 1・2	Discussion						
11	5.6.20 (火) 1・2	Skit Presentation						
12	5.6.27 (火) 1・2	Discussion						
13	5.7. 4 (火) 1・2	Skit Presentation						
14	5.7.11 (火) 1・2	Discussion						
15	5.7.18 (火) 1・2	Skit Presentation						
教 科 書 参 考 図 書								
履 修 上 の 注 意		Students should attend the skit presentations sessions, otherwise they don't get the full points of the final score.						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		This course will consist heavily of speaking practice and building fluency in English. Those who give their best effort to speak English, do the assignments, ask questions, and are not afraid to make mistakes will benefit most from this class. If you are absent, please email Brad or your accountability peer for your homework assignment.						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		Brad Brooks : bradleigh-brooks@hotmail.co.uk						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
医療英会話		三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 田中 亜矢子	選択	2	前期	1	非該当	可
授業概要		・この授業では、健康と医療の問題について英語のテキストを使い、英語と日本語を交え授業を行います。 ・日本と欧米での健康と医療についての考え方の違いを学びます。 ・医療用語（体と健康）も簡単なゲームやアクティビティ、パズルを使って楽しみながら取得していきます。							
一般目標		・健康と医療の問題について、英語で理解でき、英語での会話について自信を持って表現できるようになる。							
到達目標		・健康と医療の問題について英語で理解する。 ・健康と医療トピックに基づいた、簡単な英語会話が出来るようになる。 ・外国人の患者への適切な英語での対応が出来るようになるには？ ・優しい言葉をかけるには？患者の不安を落ち着かせる英語のユーモアやジョークは？							
成績評価方法 評 価 方 法 および基準		評価配分：授業への参加姿勢 40%、グループアクティビティへの参加態度 20%、レポート 40%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5.4.11（火）1・2	General	} プレゼンテーション, ペアワーク, ゲーム (アクティビティを使用した演習)					田中	
2	5.4.18（火）1・2	L1 - Living to be 100							
3	5.4.25（火）1・2	L2 - Preventing cancer							
4	5.5. 2（火）1・2	L3 - Smoking							
5	5.5. 9（火）1・2	演 習	} プレゼンテーション, ペアワーク, ゲーム (アクティビティを使用した演習)						
6	5.5.16（火）1・2	L4 - Passive smoking							
7	5.5.23（火）1・2	L5 - Exercise							
8	5.5.30（火）1・2	L6 - Healthy food							
9	5.6. 6（火）1・2	演 習	} プレゼンテーション, ペアワーク, ゲーム (アクティビティを使用した演習)						
10	5.6.13（火）1・2	L7 - Alcohol							
11	5.6.20（火）1・2	L8 - Stress							
12	5.6.27（火）1・2	L9 - Obesity							
13	5.7. 4（火）1・2	演 習							
14	5.7.11（火）1・2	まとめ1							
15	5.7.18（火）1・2	まとめ2							
教 科 書 参 考 図 書		教科書：Health talk - Health Awareness & English Conversation (MacMillan)							
履 修 上 の 注 意									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		医療というトピックを英語で学びながら、実際に自信を持って話せる基礎会話を伸ばして行きたいと思います。 蓄えてきた今までの英語力、聞く力や書く力に加えて、話す能力を磨いていきます。 “愛と笑いの伝道師 ピエロ医師パッチ・アダムス” から医療英語を考えてみませんか？							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		教務学生課							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
実践英語	理学・作業療法学科 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 ライアン S.	選択	2	後期	1	非該当	可
授業概要	In this course, students will develop their English fluency and formal speaking skills by doing discussions in small groups of 3-4 students. Students will be given a topic that they requires them to describe their opinions and ask others by using formal discussion phrases (class handout). There will be 3-4 topic discussions with different members of the class each lasting 10-15 minutes. There will be a group leader for each discussion and each group will write a speaking script to help with their discussion. During group preparation time, students can ask the teacher about difficult words or expressions they want to know to help form their opinions. After the discussion is finished, the teacher will review mistakes and give advice on how to improve.							
一般目標	The goal of the course is for students to be able to form their own opinions and use formal business style phrases in a small group discussion format.							
到達目標	To be able to debate the merits and demerits of a topic by using formal English debate phrases in a small group.							
成績評価方針 評価方法 および基準	Each discussion is worth 35 points. Students will be graded on how many times and how well they use the phrases. For example, if students complete 4 discussions (4 x 35=140 points). e.g. (4 Discussions: 24+28+30+32) 114 / 140 = 81%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	5. 9. 27 (水) 2 5. 10. 4 (水) 2 5. 10. 11 (水) 2 5. 10. 18 (水) 2 5. 10. 25 (水) 2 5. 11. 1 (水) 2 5. 11. 8 (水) 2 5. 11. 15 (水) 2 5. 11. 22 (水) 2 5. 11. 29 (水) 2 5. 12. 6 (水) 2 5. 12. 13 (水) 2 5. 12. 20 (水) 2 6. 1. 10 (水) 2 6. 1. 17 (水) 2	Example class schedule 1. Class Introduction. Handouts. 2. Phrases handout explanation/ pronunciation /Topic 1 preparation start 3. Topic 1 group preparation 4. Topic 1 grammar check/speaking practice check 5. Start/Finish Topic 1 discussion 6. Topic 2 introduction handout/new groups/preparation 7. Topic 2 group preparation 8. Topic 2 grammar check/speaking practice check 9. Start/Finish Topic 2 discussion 10-14 continued 15 Finish Topic 3/Final written discussion report or test						
教 科 書 参 考 図 書		なし. Print outs will be distributed each week.						
履 修 上 の 注 意		Students who miss 1/3 or more of classes will receive a 0 for their final score.						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		This class is active learning and self-paced. Therefore, student effort will be important for improvement.						
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		ライアン S. : ryan@human.kj.yamagata-u.ac.jp						

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
韓国語	看護学科 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 権 純縣	選択	1	前期	1	非該当	可
授業概要	韓国語入門編として、はじめに韓国語の言語体系と固有文字 ^{ハングル} 한글誕生の経緯を解説します。 次に ^{ハングル} 한글の仕組みと特徴を押さえ、 ^{ハングル} 한글の母音と子音のスペルと発音を学習します。 その後、発音規則を学び、 ^{ハングル} 한글の読み書きに慣れてきたところで、韓国語による挨拶語や自己紹介など基本的な会話を習得します。 数詞は漢数詞を用いて、日付や生年月日などが韓国語で言えるように練習します。 また、隣国理解が深まるよう、折にふれ韓国の歴史文化や伝統習慣、タイムリーな話題などを取り上げます。							
一般目標	総合基礎教育科目として配置されている本科目は、初級韓国語の学習を通して、地域社会や職場で豊かな人間関係を築くために必要な幅広い教養の習得を目指し、自己を取り巻く世界や隣人の環境を知り、多角的な視点から物事を考え実践できる力をつけることを目的とします。							
到達目標	① ^{ハングル} 한글の読み書きが正確にできるようになる ②韓国語で基本的な挨拶や会話のやり取り、自己紹介ができるようになる ③漢数詞を用いて日付や生年月日、電話番号などが言えるようになる ④韓国の歴史文化や半島情勢について関心を深め、多文化理解につながる多様な視点と考察力を身につける							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	授業内小テスト 80% ※前期期末試験は行わず、既習内容の整理と振り返りを兼ねて、各授業項目ごとの小テストを実施します 授業内活動 20% ※授業中の発音練習をはじめとする熱心な学習姿勢を評価します							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	5.4.10 (月) 1	ガイダンス	(1)授業の内容と流れの確認 (2)成績評価や試験についての説明 (3)授業担当者の紹介も兼ね、韓国の「姓名」について解説	〈予習〉 前回の授業の学習内容を基礎力に、次の学習項目を確認の上、できる範囲で練習してみる (目安時間 30 分)	権			
2	5.4.17 (月) 1	韓国語の言語体系と ^{ハングル} 한글の仕組み	(1)韓国語の言語体系と固有文字 ^{ハングル} 한글誕生の経緯を学ぶ (2) ^{ハングル} 한글の仕組みと特徴を押さえる	〈復習〉 宿題のほか、既習内容をテキストの練習問題で練習しておく (目安時間 30 分)				
3	5.4.24 (月) 1	韓国語の文字と発音①	単母音＝基本母音のスペルと発音を学習する					
4	5.5. 1 (月) 1	韓国語の文字と発音②	二重母音＝複合母音のスペルと発音を学習する					
5	5.5. 8 (月) 1	韓国語の文字と発音③	子音三種「平音・激音・濃音」それぞれの特徴を押さえ、基本子音＝平音のスペルと発音を学習する					
6	5.5.15 (月) 1	韓国語の文字と発音④	激音と濃音のスペルと発音を学習する					
7	5.5.22 (月) 1	韓国語の文字と発音⑤	母音と子音を正しく組み合わせ、練習語句で読み書きの練習をする					
8	5.5.29 (月) 1	発音規則①	終声音節＝받침 ^{パッチム} の代表 7 音のスペルと発音を学習する					
9	5.6. 5 (月) 1	発音規則②	連音＝liaison ^{リエゾン} を学習する					

10	5. 6. 12 (月) 1	発音規則③	鼻音化・激音化・舌側音化・濃音化を学習する		
11	5. 6. 19 (月) 1	日本の固有名詞の ^{ハングル} 한글表記法	^{ハングル} 한글で氏名や地名を書き出し、ネームカードを作成する		
12	5. 6. 26 (月) 1	自己紹介	自己紹介について「導入の挨拶、氏名、大学・学部名、学年・結びの挨拶」の表現とやり取りを学習する		
13	5. 7. 3 (月) 1	漢数詞	漢数詞を用いて、日付や生年月日、電話番号などが言えるよう練習する		権
14	5. 7. 10 (月) 1	韓国事情	韓国映画を鑑賞する		
15	5. 7. 24 (月) 1	体言文・総括	体言＝名詞文「～は～です／ですか」の文型を学習し、名詞を使った基本的な会話能力を身につける 既習内容を整理し、これまでのフィードバックを行う		
教科参考図書		教科書：「みんなで学ぶ韓国語 文法編」金眞/柳圭相/芦田麻樹子著 朝日出版社 参考図書：「ハングルの世界」金両基著 中公新書「朝鮮 -民族・歴史・文化-」金達寿 岩波新書 「在日」姜尚中著 講談社			
履修上の注意		日本語に比べ韓国語は母音と子音数が多く、種々の発音を有します。多い分、意味も覚えるコツもあります。講義に集中して臨み、ハングルのスペルと発音練習には根気よく取り組みましょう。テキストの他に各種学習・資料プリントを配布します。テキストとノートの準備と共に、配布されるプリントはファイルに綴じて、いつでも活用できるようにしましょう。			
学生へのメッセージ		「宵の口のオンドルが暖かければ、明け方のオンドルも暖かい」という韓国の諺があります。備えて真摯に進めば得られることが多いとの ^{おし} 訓えです。専門職に就き、日韓間をはじめとする明日の国際社会を担いゆく皆さんが、言語文化の学習を通して、人の尊厳と倫理観に基づく多文化理解を深める契機を持つことには大きな意義があると思います。甲斐のある学びとなるよう、期待しています。			
e-mail・研究室(連絡先)		権 純縣：k. soonhyun-0221@ezweb. ne. jp			

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
中国語	看護学科 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 劉 含発	選択	1	後期	1	非該当	可
授業概要	中国の共通語の基礎的運用能力を、易しい会話の材料を使って、主に聞き・話す側面に重点を置いて養成します。中国語の音に慣れ親しむために、中国のさまざまな文化にも触れます。							
一般目標	中国語のピンイン（日本語の「ふりがな」に相当）が読める、簡単な文章を音読できる、挨拶や自己紹介、簡単な会話ができるようになります。							
到達目標	中国語のピンインが読めるようになること、中国語で挨拶や自己紹介ができること。また、「いつ、どこで、だれが、どうした」という基本的な会話のやり取りと文章表現ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	中間テスト：発音チェック（本文の音読） 20 点 定期テスト：筆記とリスニング 80 点							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 9. 25 (月) 2	ガイダンス	中国語の概要・声調練習・挨拶					劉
2	5. 10. 2 (月) 2	単母音/複母音	母音、簡単な挨拶、数字の発音練習					
3	5. 10. 16 (月) 2	鼻母音の発音・自己紹介	鼻母音の発音練習、第1課本文の音読					
4	5. 10. 23 (月) 2	子音・自己紹介をする	発音練習、自己紹介の練習・ドリル					
5	5. 10. 30 (月) 2	子音・所有の表現	発音練習&第2課					
6	5. 11. 6 (月) 2	発音総復習&所有表現	発音の総復習&1 & 2 課の会話練習					
7	5. 11. 13 (月) 2	第3課 家族の紹介	会話練習 音読・ドリル					
8	5. 11. 20 (月) 2	第4課 場所の表現	会話練習とドリル					
9	5. 12. 4 (月) 2	復習・発音テスト	1～4 課の復習・発音テスト					
10	5. 12. 11 (月) 2	第5課 年月日	本文の音読・会話練習					
11	5. 12. 18 (月) 2	第6課 時間	本文の音読・会話練習					
12	5. 12. 25 (月) 2	第7課 可能の表現	5 & 6 のドリル解答 可能表現の練習					
13	6. 1. 15 (月) 2	第9課 「～が好き」	本文の理解・音読・会話練習					
14	6. 1. 22 (月) 2	7 & 9 課の復習	総復習					
15	6. 1. 29 (月) 2	テスト						
教 科 書 参 考 図 書	教科書：『しゃべっていいとも 中国語 中西君と一緒に中国へ行こう！』 陳淑梅・劉光赤 著 朝日出版社 辞書：小学館 『プログレッシブ中国語辞典』、日中・中日が入っている電子辞書など							
履 修 上 の 注 意	休まず授業に出席し、耳と口を働かすこと。 教科書附属の CD を普段から学習の友とすることができれば、あなたは中国語を確実に伸ばすことができるでしょう。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	予習、復習など日々の積極的な取り組みを大事にしましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	劉 含発：Liuhanfa@hotmail.com							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
アカデミックリテラシー		看護学科 (総合基礎)	教授・安保 寛明* 助教・渡邊 礼子 助教・佐藤 志保 助教・鈴木 龍生 助教・佐藤 千穂 助教・丸山 香織 助教・齋藤 愛依 助教・栗田 敦子 助教・前田のぞみ 助教・富樫 理恵 助教・貝野瀬友希 (*：科目責任者)	必修	1	前期	1	非該当	否
授業概要		論理的思考力を獲得するための論理的記述法、様式の整理、校閲、データベースの活用、プレゼンテーションに関する基本的技能を講義と演習によって教授する。							
一般目標		・論理的構成を伴ったレポートが記述できる。 ・一次資料や二次資料を分類し、事実関係にそって記述できる。 ・ソフトウェアを活用したプレゼンテーションを行うことができる。							
到達目標		・序論・本論・帰結（結論）がある、主述の記法、接続詞、事実性、文献引用と出典の記載などの基本的展開を理解して記述できる。 ・一次資料や論文における事実関係の程度を把握でき、資料の引用における適切な記法を活用できる。 ・図表、レポートにおけるレイアウトが適切に記載できる。 ・論文データベース、統計データベースを活用したプレゼンテーションを行える。 ・データベースをデータの種類に応じて活用することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価方針：到達目標に対応した課題を設定する。 レポート課題（30%）、プレゼンテーション課題（25%）、演習課題（20%）、定期試験（25%）であり、各講義内で提示する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外 学習など	担当	
1	5. 4. 12（水）4	論理的であることの意味						安保	
2	5. 4. 19（水）4	論理的記述（1）	序論・本論・帰結（結論） 主述の対応、能動態と受動態 接続詞、事実性、文献引用と出典				演習課題	安保	
3	5. 4. 26（水）4	論理的記述（2）	事実関係の把握 資料の引用における事実関係の程度と記述 複数資料の比較				レポート 課題発出	安保 助教	
4	5. 5. 17（水）4	論理的記述（3） 書式を揃える	図表の記載把握、 レイアウト、引用の範囲と記法				レポート 課題提出	安保	
5	5. 5. 31（水）4	校閲する データベースを活かす1	校閲演習 論文データベースの活用 統計データベースの活用				演習課題	安保	
6	5. 6. 14（水）4	データベースを活かす2	事実関係をもとに考察する				プレゼン 課題発出	安保	
7	5. 6. 28（水）4	プレゼンテーションを 準備する	プレゼンテーションの構成				プレゼン 課題提出	安保	
8	5. 7. 19（水）4	プレゼンテーションを 活用する	他者のプレゼンテーションをもとにした考察					安保	
教 科 書 参 考 図 書		参考書 水戸美津子，ナースのためのレポートの書き方 中央法規出版，2020 年							
履 修 上 の 注 意		コンピュータを活用した演習がありますので、環境面の準備をしてください。 定期試験では、論理的構成力や語彙力、定められた時間で記述できる即応性などを評価することを目的に行います。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ									
e-mail・研究室 (連 絡 先)		安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
情報科学・ 情報リテラシー	三学科共通 (総合基礎教育科目)	非常勤講師 常松 佳恵	必修	1	前期	2	非該当	否
授業概要	情報リテラシー（コンピュータに関わる基本スキル）を実際にコンピュータに触れつつ、習得する。							
一般目標	コンピュータを使用し、効率的に仕事を進められるスキルを身に着ける。							
到達目標	・ Word を使い、グラフや図の作製、レポートや論文の作成ができる。 ・ Excel を使い、表計算、グラフの作成ができる。 ・ Power Point により、プレゼンテーションができる。 ・ インターネットを悪用した犯罪に関する知識と自らの環境を守るセキュリティー技術を身に着ける。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	授業ごとに提出される課題について評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 14 (金) 1-3	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンス、 Eメールの送信方法と礼儀、タイピング				常松	
2	5. 4. 21 (金) 1-3	ファイル・フォルダの構成	ファイル・フォルダの構成、拡張子、PC のお手入れ方法					
3	5. 4. 28 (金) 1-3	Word の基本操作	ワードの基本操作、図形の挿入法					
4	5. 5. 12 (金) 1-3	ペイントでのお絵かき	自分の似顔絵作成					
5	5. 5. 19 (金) 1-3	Word による表・数式作成	ワード上での表の作成、数式入力					
6	5. 5. 26 (金) 1-3	Word による論文作成(1)	論文の構成、フォーマットの使用方法					
7	5. 6. 2 (金) 1-3	Word による論文作成(2)	引用文献の検索と書き方					
8	5. 6. 16 (金) 1-3	Excel による表作成	表の作成					
9	5. 6. 23 (金) 1-3	Excel によるグラフ作成	グラフの作成					
10	5. 6. 30 (金) 1-3	Excel による統計処理	関数の使い方					
11	5. 7. 7 (金) 1-3	Excel による数値計算	連立方程式の解法					
12	5. 7. 14 (金) 1-3	Power Point によるスライド 作成	パワーポイントの構成、デザイン、お絵か き					
13	5. 7. 21 (金) 1-3	Power Point によるプレゼン の方法	プレゼン資料作成					
14	5. 7. 25 (火) 1-2 5. 7. 26 (水) 4	Power Point による プレゼンテーション	プレゼンテーション					
15	5. 7. 28 (金) 1-3	ネット上のウィルスとセキュ リティー技術	ウィルスの種類、セキュリティーの基礎知 識と自分の環境を守る技術					
教 科 書 参 考 図 書	授業内容と課題は、ホームページに掲載します。							
履 修 上 の 注 意	PC の起動に時間がかかります。教室に到着したら、まずはPC のスイッチを入れてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業開始直後に一通り説明し、その後、各自が作業をするスタイルです。 説明では、細かい裏技を紹介します。メモをとりながら聞いてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	常松 佳恵 : kae_tsunematsu@sci.kj.yamagata-u.ac.jp 山形市小白川 1-4-1 2 山形大学理学部							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
問題解決思考		看護学科 (総合基礎科目)	放送大学	選択	1	後期	2	非該当	不可
授業概要		問題解決に必要な情報の収集から分析までの一連の過程を通し、解決策を見出す科学的技法を紹介し、主体的に学ぶことと、協働して学ぶスキルを身につける。 放送大学が開講する「問題解決の進め方（' 19）」を受講する。							
一般目標 到達目標		1. 学ぶことの心構えとその有効性を理解できる。 2. ものの見方や考え方に関する知識を理解する。 3. 知的好奇心をもって問題を見つけ、考え、継続的に主体的に学習する手法を身につけることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 お よ び 基 準		放送大学が実施する単位認定試験結果を評価とする							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	オンデマンド	問題とは	詳細は、放送大学シラバスを参照						
2		問題を見つける							
3		目標を設定する							
4		情報を収集して整理する							
5		数値情報を扱う							
6		図解化して見る							
7		分析的に考える							
8		学習記録と振り返り							
9		発想を広げる							
10		組織での進め方（1）							
11		組織での進め方（2）							
12		組織での進め方（3）							
13		集団の意思決定とコミュニケーション							
14		解決策を実行する							
		評価する							
教 科 書 参 考 図 書		教科書： 放送大学が指定するテキスト							
履 修 上 の 注 意		放送大学「問題解決の進め方（' 19）」をオンデマンドで受講する。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		大学において学ぶ姿勢を身につける重要な科目です。大学における学習だけでなく、今後の将来にも役立ちます。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		担当教員、教育補助教員 遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地元(やまがた) 探求Ⅰ	看護学科 (総合基礎科目)	助教・佐藤 志保 助教・鈴木 龍生 教授・沼澤さとみ	必修	1	前期	1	非該当	可
授業概要	地元(やまがた)で暮らす人々の生活を複数の視点によるアプローチから地元を理解し、学生個々人の地元に対する愛着を深めることを目的とする。							
一般目標	1. 地元(やまがた)の特徴を、歴史や食文化など複数の視点によるアプローチから理解できる 2. 地元(やまがた)の特徴を、社会的なアプローチから探究することができる 3. 地元(やまがた)を探究する意義が理解できる							
到達目標	1. 地元(やまがた)の強み・弱みと課題について、歴史、食文化など複数の視点によるアプローチから理解したことを自分の言葉で説明できる 2. 自分にとっての地元について、地元と捉える理由を述べることができる 3. 大学周辺の地区について、グループメンバーとチームで調査することができる 4. 地区踏査を行って気づいた、地元(やまがた)の強み・弱み、課題について、まとめることができる 5. 効果的に口頭でポスター発表をすることができる 6. 自分にとっての地元を探究する意義を自分の言葉で説明できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：学習態度や記録の内容により到達目標の達成度を総合的に評価する 方法及び基準： ・レポート60%：到達目標が内容に盛り込まれているかどうか ミニレポート①：10%、ミニレポート②：10%、レポート：30%、ミニッツペーパー：10% ・プレゼン内容：20% ・調査や発表への参加態度：20%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 5. 17 (水) 5	地元(やまがた)を探究するとは	・地元の用語に関連する概念 ・地元を探究する意義		自分にとっての地元について考える(ミニッツペーパー)		佐藤	
2	5. 5. 26 (金) 4	地元(やまがた)の文化の特徴1	・歴史的視点からみた地元(やまがた)の生活の特徴		ミニレポート① 授業から理解したことを記述する		(ホッパ)	
3	5. 5. 29 (月) 5	地元(やまがた)の文化の特徴2	・食文化的視点からみた地元(やまがた)の生活の特徴		ミニレポート② 授業から理解したことを記述する		(ホッパ)	
4	5. 6. 2 (金) 4	地元探求(住民の暮らしと文化について)	・オリエンテーション 地区踏査の方法・実施上の注意 ・大学周辺の地域を調査するにあたり、地域を選定する。 ・グループで、調査内容など企画・立案する(演習・グループ活動)		グループメンバーまたは個人で調査内容を検討する(ミニッツペーパー)		佐藤 鈴木	
5	5. 6. 16 (金) 3-4	地元探求(地区踏査)	・計画に基づき、大学周辺を地区踏査し、地元の強み・弱み、課題について探究する		グループメンバーと結果を整理する		佐藤 鈴木	
6			・調査結果をまとめ、発表用ポスターを作成する(演習・グループ活動)		地区踏査を行っての気づきを書く(ミニッツペーパー)			
7	5. 7. 12 (水) 4-5	地元探求(まとめと発表)	・地区踏査の結果から、地域住民の暮らしと文化についてまとめ、発表する(グループ活動)		レポート「自分にとっての地元を探究する意義」について		佐藤 鈴木	
8								
教 科 書 参 考 図 書		特にありません。参考図書は講義の中で随時紹介します。						
履修上の注意		グループでの演習があるので、健康に留意し休まず参加できるようにしましょう。地元(やまがた)の文化の特徴だけでなく、自分の地元を意識しながら、地元への理解を深められるよう学習してください。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		地元で生活している人の理解を深める意義を学ぶ科目です。地元(やまがた)の強み・弱み、課題を探究することを通してなぜ地元が注目されるのか、地元を探究する意義を考えていきましょう。それぞれの学生にとっての地元も意識し、地元への愛着が芽生えるような科目にしていきたいと思います。						
e-mail・研究室 (連絡先)		佐藤：第1共同研究室 ssato@yachts.ac.jp 鈴木：第1共同研究室 rsuzuki@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地元(やまがた) 探求Ⅱ	看護学科 (総合基礎科目)	助教・佐藤 志保 助教・鈴木 龍生 教授・沼澤さとみ	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要	地域に貢献することの意義を理解し、社会的役割としての「キャリアデザイン」について学ぶとともに、 地元貢献のアクションプランを策定するプロセスを体験することを目的とする。							
一般目標	1. 地域に貢献することの意義について理解できる 2. 自分のキャリアを積み重ねていくことの重要性について理解できる 3. 地元（やまがた）の医療機関の特徴を理解できる 4. 看護職が地元において果たすべき役割を踏まえ、キャリアデザインを考えることができる							
到達目標	1. 地域に貢献する意義とは何か、自分の言葉で述べることができる 2. 地域に貢献するために、何が必要か検討することができる 3. 先輩看護職の話から、自分のキャリアについて述べることができる 4. 自分のキャリアデザインを組み立てることができる 5. 地元（やまがた）の生活に密着した医療について、自分の言葉で説明できる 6. 地元（やまがた）の医療の課題について、検討することができる 7. 看護の対象である住民が地元で生活していく(生きる・活きる)ために、何が必要か検討することができる 8. 看護職が地元で果たすべき役割について、自分の言葉で述べることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：学習態度や記録の内容により到達目標の達成度を総合的に評価する 方法及び基準： ・レポート 60％：到達目標が内容に盛り込まれているかどうか ミニレポート①：10％、ミニレポート②：10％、レポート：30％、ミニッツペーパー：10％ ・プレゼン内容：20％ ・グループ討議や発表への参加態度：20％							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5.12.11（月）5	地元（やまがた）の医療福祉に関連する施設について	・地元の生活に密着した医療福祉に関連する施設について ・各施設の果たす役割について		ミニレポート①： 自分の地元（市区町村）にどのような医療福祉に関連する施設があるか、考えられる課題について		佐藤	
2	5.12.14（木）3	キャリアデザインとは	・キャリアデザインとは何か ・自己のキャリアデザインについて関心を持つ		ミニレポート②： キャリアデザイン・シートを記入		佐藤 鈴木	
3	5.12.14（木）4	地元で働くこと・1	・地元で働くことの意義と働くことでわかる地元の特徴を知る ・卒業生等（看護師・助産師・保健師）から、地元で働くことの意義を語ってもらい、講師と意見交換をする		ミニッツペーパー		スポット 講師	
4	5.12.18（月）5	地元で働くこと・2			ミニッツペーパー		スポット 講師	
5	5.12.25（月）5	地元で働くこと・3	・看護師・保健師・助産師が勤務する場所について		ミニッツペーパー		スポット 講師	
6	6. 1.11（木）3	地元で働くこと・4	・地元住民の生活に関連した職種から活動内容を聞く		ミニッツペーパー		スポット 講師	
7	6. 1.18（木）3	キャリアデザインを考える	・地元で生活する意義を学生自身が改めてまとめ発表する ・学生同士の意見交換をとおして理解を深める ・まとめ		ミニッツペーパー レポート： 自己のキャリアデザインについて		佐藤 鈴木	
8	6. 1.18（木）4							
教 科 書 参 考 図 書	特にありません。参考図書は講義の中で随時紹介します。							
履修上の注意	スポット講師が担当する授業が複数あります。様々な話をきくことができる貴重な機会なので、体調管理に留意し、欠席しないようにしましょう。 地域に貢献することを意識するとともに、将来のキャリアデザインについても思考を深められるよう授業に参加してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	先輩や地元住民の生活に関わる職種の方々の話を聴き、地域に貢献することの意義、自分の仕事やキャリアデザインについて考えましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	佐藤：第1共同研究室 ssato@yachts.ac.jp 鈴木：第1共同研究室 rsuzuki@yachts.ac.jp							

2 專 門 基 礎 科 目

(三学科共通)

専門基礎科目

科目名	頁
保健医療論	45
生命医療倫理学	46
心理学	47
臨床心理学	48
カウンセリング論	49
人間発達学	50
生体形態学	51
生体機能学Ⅰ	53
生体機能学Ⅱ	55
栄養代謝学	56
臨床栄養学	57
免疫と微生物	58
生体形態学実習	60
生体機能学演習	61
薬理学	62
臨床薬理学	63
薬理・臨床薬理学	64
病理学	65
成人老年疾病論Ⅰ	69
成人老年疾病論Ⅱ	71
成人老年疾病論Ⅲ	73
リハビリテーション概論	75
救急医療学	77
生殖遺伝学	78
基礎保健学	79
保健統計学	80
国際保健論	81
チーム医療論	82
高次脳機能障がい論	83
精神障がい論	84
小児疾病論	85
運動器障がい論	87
発達障がい論	88
神経障がい論	89
社会福祉論	90

授業科目名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
保健医療論	三学科共通 (専門基礎科目)	教 授・佐藤 寿晃 学 長・上月 正博 教 授・遠藤 恵子 准教授・丹野 克子	看 護－必修 理・作－選択	1	前期	1	非該当	否
授業概要	保健医療の概念や歴史的変遷、社会福祉の理念・制度、行政の仕組み、保健医療の人的要素や倫理、具体的な医療・介護施設などの体制とその中での専門職の役割と、多職種連携の概念を教授する							
一般目標	保健医療の概念や、現状と課題を理解し、自分が専門職として目指す姿を考察することができる。							
到達目標	・健康の概念を説明することができる ・医療の歴史、および現在の医療制度と課題を説明することができる ・施設内外の医療や公衆衛生の概念を理解することができる ・医の倫理について説明することができる ・保健医療の専門職の役割と連携について述べるすることができる ・保健医療における自身の専門職の役割について考えることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・毎回講義終了後に、講義テーマに関する知識の理解度や授業への積極性を確認する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 4. 13 (木) 2	健康とは、社会と健康	健康の概念		授業で示す課題について自己学習を行う 主体的に図書や文献を活用し、学びを深める姿勢を身につける ※外部講師の都合で順序が入れ替わることもある。		上月	
2	5. 4. 20 (木) 4	医療の歴史・研究と実践	医療の歴史と今後の課題、EBM				上月	
3	5. 4. 27 (木) 4	日本の医療制度	医療システム、医療政策				上月	
4	5. 5. 11 (木) 4	公衆衛生と保健	疾病予防、健康増進				石川	
5	5. 5. 18 (木) 4	医療における倫理	生命倫理、患者の権利				佐藤	
6	5. 5. 25 (木) 4	地域包括ケアシステム	在宅ケア、多職種連携				丹野	
7	5. 6. 1 (木) 4	保健医療専門職の役割	看護職・理学療法士・作業療法士				佐藤 遠藤 丹野	
8	5. 6. 8 (木) 4	海外の保健医療福祉	スウェーデンの保健医療福祉の実際				外部 講師	
教 科 書 参 考 図 書		教科書：なし 参考書：授業内で紹介する						
履 修 上 の 注 意		広い視野をもって現在の保健医療について理解することを心がけること						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門職として関わる保健医療を理解し、将来協働することとなる多職種の理解を深めてほしい						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		上月：学長室 kohzuki@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生命医療倫理学		看護学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 清水 哲郎	必須	1	前期	1	非該当	可
授業概要	生命を研究しその成果を社会のために使おうとする生命科学技術に関して、医学・医療を中心にそうした科学技術に関わる際の倫理を概観する。生命の扱い方によっては大きな害をもたらす恐れがある。ことに人間の生命は、その尊厳ある人生を支えるものとして適切に対応する必要がある。適切な対応を考えるのが倫理である。								
一般目標	生命倫理および医療倫理の基本を理解し、保健医療に携わる際に生じる生命医療倫理に関わる問題を考えられるようになる。								
到達目標	生命科学技術の発達に伴って生じた「できるようになったが、やってよいだろうか」という問いとそれへの対応の基礎を理解し、関係する問題を考えることができる。尊厳ある人生を支える専門職に必要な倫理の基礎を理解し、医療・ケア等の活動の倫理面に配慮できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：生命医療倫理学について理解したかどうかに加え、理解したことを使って考えられるようになったかどうかを評価する。 方法：授業毎に出す練習問題や課題への取り組み（30％）と期末試験(70％)により評価する。 基準：上記2項目を合わせて100点満点として評価する								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 21 (金) 3	倫理一般と生命医療倫理(1)	社会のメンバー全てに該当する倫理の基礎・講義とワーク（以下同じ）			予習・復習：教科書の第1、7章		清水	
2	5. 4. 21 (金) 4	倫理一般と生命医療倫理(2)	倫理一般の理解をベースにして、生命倫理・医療倫理の基礎を理解する			同上 第8、9章		清水	
3	5. 4. 28 (金) 3	生命科学技術の発達と倫理(1)	生命&ヒトを対象とする研究：被験者保護、自然への影響			別に配布する講義ノートを予習・復習		清水	
4	5. 4. 28 (金) 4	生命科学技術の発達と倫理(2)	社会に寄与する研究成果：関係者の益と害：人工授精、代理母、遺伝子操作、脳死と臓器移植 など			同上		清水	
5	5. 5. 12 (金) 3	医療・ケアの倫理(1)	医療・ケア活動の倫理原則（人間尊重・与益・社会的適切さ）；ケアの倫理			教科書 第9、10章		清水	
6	5. 5. 12 (金) 4	医療・ケアの倫理(2)	倫理原則と倫理的姿勢、倫理的に適切な選択・行動の考え方、倫理的ジレンマ			同上 第9章④ 他		清水	
7	5. 5. 19 (金) 3	臨床倫理(1)	人の Well-Being を目指すことを巡って：人生と生命、QOL、相応性原則			同上 第11章		清水	
8	5. 5. 19 (金) 4	臨床倫理(2)	意思決定プロセス：パターナリズム、Informed consent, 説明-同意モデル、情報共有-合意モデル、意思決定支援			同上 第12章		清水	
教科書 参考図書	教科書：清水哲郎『医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学』医学書院、2022年 参考書：清水・会田・田代編著『臨床倫理の考え方と実践』東京大学出版会、2022年								
履修上の注意	先修条件指定科目なし 医療・ケアに従事する者にとって、その活動の倫理面を考える力を備えることは必須です。実際に臨床で必要になることと思って学修に取り組んでください。								
学生への メッセージ	倫理に関わる学修は、実際に医療・ケアに関係する専門職として活動する際に、倫理的姿勢で置かれた状況を適切に把握し、適切な選択・行動ができるようになるためのものです。ですから、知識を覚えることよりも、実際に倫理的姿勢で考えられるようになることを目指してください。								
e-mail・研究室 (連絡先)	清水哲郎：shimizu@iwate-uhms.ac.jp 岩手保健医療大学 臨床倫理研究センター								
連絡調整 担当教員	遠藤和子：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
心 理 学		看護学科 (専門基礎科目)	名誉教授 佐竹 真次	選択	1	前期	2	非該当	可
授業概要		心理学は学習心理学や教育心理学、認知心理学等のさまざまな分野に発展的に分岐しているが、この科目ではそれらの基本となる基礎心理学（一般心理学）を概論する。しかし、単に理論を講じるだけではなく、人間の心理や行動に関する具体的ケースを提示し、心を科学する観点からグループ・ディスカッションを行い、実質的に理解を深める。							
一般目標		1 感覚、知覚、認知、記憶、情動、学習、行動などの心理的諸機能について学ぶ。 2 心理的諸機能の知識により自己と他者の共通性と相違を学ぶ。 3 心理的諸機能と他者、社会とのかかわりを学ぶ。							
到達目標		①心理学の公共性、反復性、体系性について述べることができる。②三項随伴性、弁別刺激、強化刺激、強化、消去、般化について述べることができる。③オペラント行動とレスポナント行動について述べることができる。④カウンセリングの基本姿勢とスキル、感情転移について述べることができる。⑤モダリティの決定因、刺激閾、刺激頂、弁別閾、順応について述べることができる。⑥図と地、群化の要因、知覚の恒常性、形の処理について述べることができる。⑦エピソード・意味・手続の記憶、記銘、保持、検索について述べることができる。⑧感情、情動発生の主要なモデルについて述べることができる。⑨基本的動機、派生的動機、動機と葛藤と行動について述べることができる。⑩失語症、概念学習、思考の発達、推理の方法について述べることができる。⑪知能テスト、パーソナリティ・テストについて述べることができる。⑫理不尽な要求、偏見、リーダーシップPM理論について述べることができる。⑬発達の定義・段階、基本的信頼感、自我同一性について述べることができる。⑭心理アセスメントのポイント、心理療法の種類について述べることができる。⑮心理学的諸機能と自分の個々の活動との関連について述べることができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		討論（15点）、理解度チェック（試験等）（65点）、レポート等（20点）を総合して成績評価を行う。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5.4.10（月）4	心理学の意義と方法	公共性、反復性、体系性等				各回の授業項目にあたる教科書の箇所を事前に読んで予習しておく。 毎回の授業でその回のトピックに関してグループ・ディスカッションを行ってレポートをまとめるので、主体的・積極的に参加する。	佐竹	
2	5.4.17（月）4	学習	三項随伴性、弁別、強化、般化等						
3	5.4.24（月）4	行動	オペラントとレスポナント等						
4	5.5.1（月）4	カウンセリング	カウンセリングスキル、感情転移						
5	5.5.8（月）4	感覚	モダリティの決定因、刺激閾、弁別閾						
6	5.5.15（月）4	知覚・認知	図と地、群化の要因等						
7	5.5.22（月）4	記憶	記銘、保持、検索等						
8	5.5.29（月）4	情動	感情、情動発生の主要なモデル						
9	5.6.5（月）4	動機づけ	動機と葛藤と行動等						
10	5.6.12（月）4	言語・概念・思考	失語症、概念学習、思考の発達等						
11	5.6.19（月）4	知能・パーソナリティ	知能テスト、パーソナリティ・テスト等						
12	5.6.26（月）4	集団と人間関係	偏見、リーダーシップ理論等						
13	5.7.3（月）4	発達	発達の定義・段階、発達の障がい						
14	5.7.10（月）4	心理アセスメント	心理アセスメント、心理療法等						
15	5.7.24（月）4	総合討論	これまでの学習の検討						
教科書 参考図書		教科書：内山靖・藤井浩美・立石雅子（編）リハベーシック 心理学・臨床心理学（医歯薬出版） 参考図書：Smith, E. E.（著）内田一成（監訳）ヒルガードの心理学（ブレーン出版）							
履 修 上 の 注 意		適切な内容と分量の予習課題を適宜に出すことがある。さまざまな基本的問題を討論し合える、肯定的で積極的な雰囲気の講義にしたい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		心理学を学問とだけとらえるのではなく、自分や他者の生活を豊かにするための有用な道具でもあると講義担当者は捉えている。その視点で、みなさんの日常生活に密着した問題を取り上げて話し合えるように配慮したい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐竹真次：g.ssatake@yachts.ac.jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床心理学		理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	名誉教授 佐竹 真次	必修	2	後期	2	非該当	可
授業概要		臨床心理学は人の心理的状態・障がいのアセスメントとその改善・治療を目的とする実践的心理学であるが、この科目ではそれらの基本となる心理検査によるアセスメントと各種の心理臨床技法を紹介する。また、それらに関連づけながら臨床心理学の対象となる障がいを、事例を含めながら紹介し、さらに、グループ・ディスカッションを通してその内容の理解を一層深める。							
一般目標		1 臨床心理学の基本的知識と基礎的技術を理解する。 2 各種の事例研究、各種心理検査演習を行い、自己理解・他者理解を深める。 3 臨床心理学の基礎的技術としてカウンセリングスキル、自律訓練法、系統的脱感作法、行動分析、認知行動療法を体験的に理解する。							
到達目標		①自身についてSTAI、MPI、YGを実施し、採点、解釈ができる。②自身についてバウムテストを実施できる。投影法について述べるができる。③クレペリンテスト、知能検査、発達検査の目的と特徴について述べるができる。④開いた質問、繰返し、明確化などのカウンセリングスキルを用いることができる。⑤認知行動療法の仕組みを理解し、自身の課題について試用することができる。⑥自律訓練法と系統的脱感作法を理解し、自身について実施することができる。⑦不安と不安障がい、身体表現性障がいと疾病利得について述べるができる。⑧解離性同一性障がい、境界性パーソナリティ障がいについて述べるができる。⑨摂食障がいと家族関係、不登校のアセスメントについて述べるができる。⑩統合失調症者の社会的技能訓練や社会生活支援について述べるができる。⑪依存症の回復の過程、気分障がいの認知行動療法について述べるができる。⑫自閉症、アスペルガー障がい、ADHD、学習障がいについて述べるができる。⑬発達障がい児者への臨床心理学的・行動分析的介入法について述べるができる。⑭老化による障がいに対する臨床心理学的アプローチについて述べるができる。⑮医療人における臨床心理学的教養の目的と応用方法について述べるができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		討論（15点）、理解度チェック（試験等）（65点）、レポート等（20点）を総合して成績評価を行う。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	5. 9. 26 (火) 2 5. 10. 3 (火) 2 5. 10. 10 (火) 2 5. 10. 17 (火) 2 5. 10. 24 (火) 2 5. 10. 31 (火) 2 5. 11. 7 (火) 2 5. 11. 14 (火) 2 5. 11. 28 (火) 2 5. 12. 5 (火) 2 5. 12. 12 (火) 2 5. 12. 19 (火) 2 5. 12. 26 (火) 2 6. 1. 9 (火) 2 6. 1. 16 (火) 2	臨床心理学的自己理解 1 臨床心理学的自己理解 2 臨床心理学的自己理解 3 臨床心理学技法 1 臨床心理学技法 2 臨床心理学技法 3 臨床心理学事例研究 1 臨床心理学事例研究 2 臨床心理学事例研究 3 臨床心理学事例研究 4 臨床心理学事例研究 5 臨床心理学事例研究 6 臨床心理学事例研究 7 臨床心理学事例研究 8 講義のまとめ	STAI、MPI、YG等 PF スタディ、バウムテスト、ロールシャッハテスト等 クレペリンテスト、知能検査、発達検査等 カウンセリングスキル等 精神療法、行動療法、認知行動療法 自律訓練法、系統的脱感作法 不安障がい、身体表現性障がい 解離性障がい、パーソナリティ障がい 摂食障がい、不登校等 統合失調症と社会生活支援 依存症、気分障がい、てんかん等 自閉症、ADHD、学習障がい等 発達障がい児者への臨床心理学的介入 老化による障がい等 臨床心理学的教養の応用			各回の学習内容にあたる教科書の箇所を事前に読んで予習しておく。 毎回の授業でその回のトピックに関して演習またはグループ・ディスカッションを行ってレポートをまとめるので、主体的・積極的に参加する。		佐竹	
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：内山靖・藤井浩美・立石雅子（編）リハベーシック 心理学・臨床心理学（医歯薬出版） 参考図書：下山晴彦（編）よくわかる臨床心理学 改訂新版（ミネルヴァ書房）							
履 修 上 の 注 意		適切な内容と分量の予習課題を適宜に出すことがある。基礎的な問題を討論し合いながら理解できるようにしていきたい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		心と身体が不可分の関係にあることは自明である。それゆえ、医療人にとっても臨床心理学について知ることはきわめて重要であるといえる。授業では心理検査の演習や具体的事例を多く用いて、臨床心理学を分かりやすく伝えたい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐竹真次：g. ssatake@yachts. ac. jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts. ac. jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
カウンセリング論		看護学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 志水 貴紀	選択	2	前期	1	非該当	可
授業概要		看護は、単に医療技術の提供のみならず、患者とのコミュニケーションも必須となってくる。そのコミュニケーションは単なる雑談ではなく、治療の促進につながるものでなくてはならない。この授業では、コミュニケーションの1つの方法として、傾聴と共感を基本とする非指示的カウンセリングを中心に、他にいくつかの発展的技法についても伝えていく。							
一般目標		カウンセリングの仕組み、基本的態度、基本的スキル、その他の発展的技法を理解する。							
到達目標		カウンセリングの仕組み、基本的態度、基本的スキル、その他の発展的技法について述べることができる。また、患者とのコミュニケーションを取る際に、非言語的技法にも注意しながら、基本的なカウンセリング技法を使うことができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		授業参加度：毎回、ミニツツペーパーを使用。ミニツツペーパーの内容、および、授業中の発言などの授業参加度に応じて、評価します。(35点) レポート：講義最終回にレポート課題を提示します。(65点)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1	5.4.12(水)4	カウンセリングとは	「カウンセリング」の概念を理解する。また、看護師国家試験の中からカウンセリングに関する問題を解いて、カウンセリングの位置づけを確認する。	自らの日常生活における様々な体験が重要な材料となるので、それらを授業に活かすよう心がける。	志水				
2	5.4.14(金)2	カウンセリングの外的枠組みと自己理解	部屋の設定や座り方、対人的距離、声の大きさやトーン、話の間の置き方などを演習を通して学ぶ。また、聞き手である自分の特徴を把握する。						
3	5.4.17(月)2	カウンセリングの言語的技法	受容や共感等の基本的態度と、開いた質問や繰り返しなどの基本的技法について演習を通して理解する。						
4	5.4.21(金)2	さまざまな手法の紹介	認知行動療法、描画、コラージュなどのカウンセリングを使ったさまざまな手法を理解する。						
5	5.4.24(月)2	スクールカウンセリングの実際の事例Ⅰ	担当教員が実際に行った事例を紹介。実際事例を通して、生徒の心の変化を考えていく。						
6	5.4.28(金)2	スクールカウンセリングの実際の事例Ⅱ	担当教員が実際に行った事例を紹介。実際事例を通して、生徒の心の変化を考えていく。						
7	5.5.1(月)2	医療コミュニケーション	医療場面で取り交わされるコミュニケーションの中から、障害受容の場面、対家族を交えた事例をもとに看護におけるカウンセリングの進め方を考える。						
8	5.5.8(月)2	まとめ	授業内容の要点を再確認する。						
教 科 書 参 考 図 書		特に使用しない。担当教員が資料を用意する。第2回目の授業で、本講義で取り扱う内容についての別冊資料を配布するので、そちらを毎回の授業では忘れずに持参すること。							
履 修 上 の 注 意		ロールプレイも入れた演習中心の参加型の授業であるので、積極的な発言を求める。また、実際の事例も取り入れていくので、守秘義務の取り扱いには十分に注意すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		カウンセリングというと、言語面ばかりが注目されるが、非言語の部分にもぜひ注目してほしい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		教務学生課							
連 絡 調 整 担 当 教 員		安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
人間発達学		三学科共通 (専門基礎科目)	名誉教授 佐竹 真次	看 護一選 択 理・作一必 修	1	後期	2	非該当	可
授業概要		人間の生涯発達について概観する中で、各段階に見られやすい発達の特徴を検討していく。しかし、単に理論を講じるだけではなく、人間の発達の問題に関する具体的ケースを提示し、現代までに蓄積されてきた発達学の観点からグループ・ディスカッションを行い、実質的に理解を深める。							
一般目標		1 胎児期、乳幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、老年期の各段階ごとに身体と運動機能の発達、心理的・社会的発達、人格の発達、および発達の障がいについて理解する。 2 発達の各段階に特徴的な発達臨床にかかわる問題を理解する。							
到達目標		①発達の原理と発達に関わる主要な概念について述べることができる。②人間の胎児と母親との交流、胎児期の危険因子について述べることができる。③反射と随意運動、新生児の知覚、感覚剥奪の影響について述べることができる。④乳児期の正常運動発達と運動発達障がいについて述べることができる。⑤アタッチメントと人見知り、愛着と応答性、同化と調節について述べることができる。⑥父親の役割、性役割、退行現象、第一反抗期と対処について述べることができる。⑦社会性と遊び、情緒的共感、自己中心性、前操作期について述べることができる。⑧親の養育態度と子ども虐待、レジリエンスの育成について述べることができる。⑨発達障がいのアセスメント、知能検査の仕組みと方法について述べることができる。⑩発達障がいの早期発見・介入、社会生活・就労支援について述べることができる。⑪不登校、対人恐怖、摂食障がい、パーソナリティ障がいなどについて述べることができる。⑫自我同一性、青年の性役割、親からの自立、適応機制について述べることができる。⑬親密性、生殖性、うつ病、依存症、タイプA性格などについて述べることができる。⑭老年の記憶機能・知能・認知の特徴、離脱・活動理論について述べることができる。⑮人間の生涯発達、自分自身の人生プランについて考えを述べることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		討論（15点）、理解度チェック（試験等）（65点）、レポート等（20点）を総合して成績評価を行う。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 25（月）1	発達の原理	発達の原理に関わる主な理論			各回の授業項目にあたる教科書の箇所を事前に読んで予習しておく。 毎回の授業でその回のトピックに関してグループ・ディスカッションを行ってレポートをまとめるので、主体的・積極的に参加する。		佐竹	
2	5. 10. 2（月）1	胎児期	胎児・母親の交流、胎児期危険因子						
3	5. 10. 16（月）1	新生児期	反射、新生児の知覚、感覚剥奪等						
4	5. 10. 23（月）1	乳児期 1	正常運動発達と運動発達障がい等						
5	5. 10. 30（月）1	乳児期 2	アタッチメント、愛着、同化と調節等						
6	5. 11. 6（月）1	幼児期	性役割、退行現象、第一反抗期等						
7	5. 11. 13（月）1	児童期	社会性、自己中心性、前操作期等						
8	5. 11. 20（月）1	発達と養育	子ども虐待、レジリエンス等						
9	5. 12. 4（月）1	発達の障がい 1	発達障がいのアセスメント						
10	5. 12. 11（月）1	発達の障がい 2	早期発見・介入、社会生活・就労等						
11	5. 12. 18（月）1	思春期	不登校、対人恐怖、摂食障がい等						
12	5. 12. 25（月）1	青年期	自我同一性、適応機制等						
13	6. 1. 15（月）1	成人期	親密性、生殖性、うつ病、依存症等						
14	6. 1. 22（月）1	老年期	老年の記憶機能・知能・認知等						
15	6. 1. 29（月）1	総合討論	生涯発達と人生プラン						
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：川端 啓之 他 著「発達臨床心理学」（ナカニシヤ出版） 参考図書：福田恵美子 編著 「人間発達学」（中外医学社）							
履 修 上 の 注 意		適切な内容と分量の予習課題を適宜に出すことがある。基礎的な問題を討論し合いながら理解できるようにしていきたい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		人間の発達を理解することは、心理臨床職のみならず、あらゆる種類の臨床専門職にとって不可欠なことである。本講義ではポイントを絞り、事例を多く用いて内容を確実に理解できるように配慮したい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐竹真次：g.ssatake@yachts.ac.jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体形態学	看護学科 (一部三学科共通) (専門基礎科目)	准教授 仁藤 充洋	必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要	人体の仕組みと成り立ちを正しく理解し、人体の正常な機能と病態について理解を深めるための基礎知識を提供する。人体各部分の形や相互の位置関係を、機能と結び付けて説明する。							
一般目標	人体全体の基本デザインや主要臓器の構造と位置関係、大まかな機能を理解する。							
到達目標	人体全体の基本デザインや主要臓器の構造と位置関係、大まかな機能を、図と共に説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験等で評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5.4. 6 (木) 1・2	総論	教科書に沿って板書、プリント、スライド、模型の観察などを行いながら、人体の構造を学習する。				仁藤	
2	5.4.20 (木) 1・2	骨格系						
3	5.4.27 (木) 1・2	筋系						
4	5.5.11 (木) 1・2	脈管系（心臓と動脈系）			(三学科共通)			
5	5.5.18 (木) 1・2	脈管系（静脈とリンパ系）			(三学科共通)			
6	5.5.25 (木) 1・2	消化器系（上部消化管）			(三学科共通)			
7	5.6. 1 (木) 1・2	消化器系（下部消化管と消化腺）			(三学科共通)			
8	5.6. 8 (木) 1・2	呼吸器系			(三学科共通)			
9	5.6.15 (木) 1・2	泌尿生殖器系			(三学科共通)			
10	5.6.22 (木) 1・2	内分泌系			(三学科共通)			
11	5.6.29 (木) 1・2	感覚器系			(三学科共通)			
12	5.7. 6 (木) 1・2	神経系（中枢神経系）						
13	5.7.13 (木) 1・2	神経系（中枢神経系）						
14	5.7.20 (木) 1・2	神経系（末梢神経系）						
15	後日連絡	解剖見学実習						
教 科 書 参 考 図 書	教 科 書：藤田 恒夫 著 「入門人体解剖学」（南江堂） 参考図書：伊藤 隆 著 「解剖学講義」（南山堂）							
履 修 上 の 注 意	授業は教科書に沿って、プリントやスライドを用いて行います。 授業計画は変更される場合があります。 筆記試験と解剖見学実習（場所：山形大学医学部解剖実習棟）の詳細は後日連絡します。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	解剖学は医療に携わる人の基礎知識です。単語の丸暗記ではなく、人体の構造を機能面や発生的観点から理解しながら勉強していきましょう。 不明なことや疑問に思ったことは遠慮せずに質問してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	仁藤：研究室 26 mnito@yachts.ac.jp							

授業科目名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体形態学	理学・作業療法学科 (一部三学科共通) (専門基礎科目)	教 授 村 成幸 教 授 菊池 昭夫 准 教 授 仁藤 充洋	必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要	人体の仕組みと成り立ちを正しく理解し、人体の正常な機能と病態について理解を深めるための基礎知識を提供する。人体各部分の形や相互の位置関係を、機能と結び付けて説明する。 筋骨格系、内臓系、中枢神経系の3分野に分けて教授する。							
一般目標	人体全体の基本デザインや主要臓器の構造と位置関係、大まかな機能を理解する。							
到達目標	人体全体の基本デザインや主要臓器の構造と位置関係、大まかな機能を、図と共に説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	期末筆記試験で評価する(60点以上合格)。60点未満の場合、各々3分野のうち6割に満たなかった分野について再試験を課す。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5.4.6(木)1・2	中枢神経系	教科書に沿って板書、プリント、スライド、模型の観察などを行いながら、人体の構造を学習する。		(三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通)		菊池	
2	5.4.20(木)1・2	中枢神経系					菊池	
3	5.4.27(木)1・2	中枢神経系					菊池	
4	5.5.11(木)1・2	脈管系(心臓と動脈系)					仁藤	
5	5.5.18(木)1・2	脈管系(静脈系とリンパ系)					仁藤	
6	5.5.25(木)1・2	消化器系(上部消化管)					仁藤	
7	5.6.1(木)1・2	消化器系(下部消化管と消化腺)					仁藤	
8	5.6.8(木)1・2	呼吸器系					仁藤	
9	5.6.15(木)1・2	泌尿生殖器系					仁藤	
10	5.6.22(木)1・2	内分泌系					仁藤	
11	5.6.29(木)1・2	感覚器系					仁藤	
12	5.7.6(木)1・2	末梢神経系					村	
13	5.7.13(木)1・2	筋骨格系					村	
14	5.7.20(木)1・2	筋骨格系					村	
15	5.7.27(木)1・2	筋骨格系					村	
教科書 参考図書		教科書：(仁藤担当分)：藤田恒夫 著「入門人体解剖学」(南江堂) (村 担当分)：坂井建雄 編「プロメテウス解剖学アトラス運動器系」(医学書院) (菊池担当分)：坂井建雄 編「プロメテウス解剖学アトラス頭頸部/神経解剖」 (医学書院) 参考図書：渡辺皓 編著「図解ワンポイント 解剖学」(サイオ出版) 白澤信行ら著 「新発生学」(日本医事新報社) 牛木辰男 著 「入門組織学」(南江堂) 伊藤隆 著 「解剖学講義」(南山堂)						
履 修 上 の 注 意		授業は教科書に沿って、板書とプリントやスライドを用いて行う。 授業計画は変更される場合がある。 筆記試験の詳細は後日連絡する。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		解剖学は医療に携わる人の基礎知識です。単語の丸暗記ではなく、人体の構造を機能面・発生の学的観点から理解しつつ勉強すること。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		村 : 研究室 35 nmura@yachts.ac.jp 菊池 : 研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp 仁藤 : 研究室 26 mnito@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体機能学Ⅰ		三学科共通 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一	必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要		生体の生理機能（身体の仕組み）について講義する。前半は人体の最小単位である細胞の特徴および細胞を調節するための機構と、動物の基本的な特性である「運動」がどのようにして行われるかについて、神経・筋の生理機能（動物性機能）を中心に講義する。生体機能学（生理学）と関係する物理学や化学の基本事項についても説明する。後半は植物性機能（生命機能の維持に必須な最低限の機能）について講義する。							
一般目標		この授業を通じて生命維持のために必要な基本的生理機能を理解して、体温、pH、浸透圧などの恒常性（ホメオスタシス）がどのように維持され、その破綻からどのような疾患がもたらされるか理解できることを目指す。動物性機能では、神経、筋、感覚などの機能がどのように関わりあって身体の動きが正常に行えるかについて理解する。植物性機能では、体液の pH、体温などの生体内環境が生理機能を統合して一定に保たれているという恒常性（ホメオスタシス）について理解する。							
到達目標		【動物性機能】○神経細胞の活動電位発生の機序を説明できる。○神経組織の構成要素について説明できる。○神経線維の分類を説明できる。○アセチルコリンおよびアドレナリン受容体の各サブタイプを分類して説明できる。○交感神経と副交感神経の機能について説明できる。○脳の構成を発生学的に説明できる。○脳死判定について説明できる。○ノンレム睡眠とレム睡眠の特徴を説明できる。○反射の要素を説明できる。○膝蓋腱反射および屈曲反射について説明できる。○正常な随意運動が起こるために必要な4つの部位とその障がいについて説明できる。○大脳基底核の役割と障がいについて説明できる。○骨格筋の微細構造について説明できる。○骨格筋の筋線維タイプを分類して説明できる。○骨格筋の興奮収縮連関について説明できる。○骨格筋のエネルギー代謝について説明できる。○脳波および筋電図の原理について説明できる。○感覚の種類を分類して説明できる。○視覚、聴覚、平衡覚の特徴を説明できる。○関連痛について説明できる。 【植物性機能】○血液の生理作用を運搬、調節、防御に分けて説明できる。○血液凝固と線溶の概要を説明できる。○心臓および血管の構造と機能について説明できる。○不整脈について説明できる。○心拍出量および血圧の調節について説明できる。○心不全の原因および分類について説明できる。○肺サーファクタントの機能について説明できる。○肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。○糖質およびタンパク質の消化吸収の特徴を説明できる。○腎臓の血流の特徴を説明できる。○生体で作られる酸とアシドーシスについて説明できる。○尿細管における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。○体液量および血圧の液性調節について説明できる。○熱平衡について説明できる。○内分泌の階層的支配について説明できる。○下垂体後葉ホルモンの生理作用を説明できる。○副腎皮質および髄質ホルモンの生理作用を説明できる。○甲状腺ホルモンの分泌異常について説明できる。○性周期における女性ホルモンの変化について説明できる。○血糖を調節するホルモンについて説明できる。○血漿カルシウム濃度を調節するホルモンについて説明できる。○内分泌疾患について説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		動物性機能の範囲終了後と植物性機能の範囲終了後に、講義内容全般に関する記述式（語句を記入する問題を含む）の試験を実施する。 動物性機能および植物性機能それぞれについて、満点の6割以上の得点で合格とする。6割未満の場合は、それぞれの範囲について再試験を1回に限り実施する。それぞれの試験の合計点で成績を評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1	5.4.11（火）1	細胞の構造、膜電位			毎回講義資料を配付しますが、資料に書き込み等をするだけでなく、必ず自分用のまとめノートを作り、学習した内容を確認して下さい。 また、講義終了時に出席確認と併せて質問を受け付け、次回の講義の冒頭（またはネット配信）で回答します。		シラバスを読んで予習することが望ましいですが、難しければ復習に重点を置いてください。 講義資料に教科書の参照ページを書きますので、毎回、必ず復習をしてください。		蓬田
2	5.4.11（火）2	興奮の発生と伝導							
3	5.4.18（火）1	神経組織の構造、神経系の分類と特徴							
4	5.4.18（火）2	興奮の伝達							
5	5.4.25（火）1	末梢神経系（自律神経系）と内臓機能							
6	5.4.25（火）2	末梢神経系（体性神経系）と運動機能							
7	5.5. 2（火）1	中枢神経系（脳の構造と機能）							
8	5.5. 2（火）2	中枢神経系（脊髄の構造と機能）							
9	5.5. 9（火）1	脊髄反射、脳幹反射							
10	5.5. 9（火）2	骨格筋の構造と機能							
11	5.5.16（火）1	筋収縮のメカニズム、興奮収縮連関							
12	5.5.16（火）2	運動の調節系、大脳基底核の機能							
13	5.5.23（火）1	筋電図、脳波							
14	5.5.23（火）2	感覚系の構成と機能							
15	5.5.30（火）1	動物性機能のまとめ							
16	5.5.30（火）2	血液・間質液・リンパ							
17	5.6. 6（火）1	体液の循環と移動・生体防御							
18	5.6. 6（火）2	心臓・血管の構造と機能							
19	5.6.13（火）1	心拍出量および血圧の調節							
20	4.6.13（火）2	心電図・心臓の神経支配							
21	5.6.20（火）1	呼吸の調節							
22	5.6.20（火）2	肺の呼吸機能・血液の酸塩基平衡							

23	5.6.27 (火) 1	消化器の作用と神経支配			
24	5.6.27 (火) 2	栄養分の吸収			
25	5.7.4 (火) 1	体温の調節機構			
26	5.7.4 (火) 2	腎臓の機能・体液量の調節			
27	5.7.11 (火) 1	尿の生成と排泄			
28	5.7.11 (火) 2	内分泌（視床下部・下垂体・甲状腺）			
29	5.7.18 (火) 1	内分泌（膵臓・副腎・性腺）			
30	5.7.18 (火) 2	植物性機能のまとめ			
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：佐久間康夫監修：カラー図解 よくわかる生理学の基礎(第2版)，メディカルサイエンスインターナショナル，2017 参考図書：小澤滯司ほか監修：標準生理学(第9版)，医学書院，2019（図書館蔵書）			
履 修 上 の 注 意		生体機能学（生理学）と生体形態学（解剖学）及び病理学は、人体がどのような構造で、どのように機能するときに健康な状態が保つこと出来るのか、健康な状態がどのように破綻すると疾病が生じるのかを理解するために必要な知識です。健康な（正常な）状態が理解できていなければ病気の状態も理解できませんので、しっかり学習して下さい。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		生体機能学Ⅰ（生理学）は、人体の成り立ちについて学ぶ最も基礎的な科目です。文法を知っていても単語の意味がわからなければ（暗記していなければ）文章が理解できないように、人体の成り立ちを理解するためには一定程度の暗記（知識の定着）は必要です。しかし、どんな現象にもかならず原理・理由がありますので、単なる暗記でなく、なぜそうなるかを考えて理解・納得することを期待しています。 講義の終了時に出席確認とともに質問を受け付けます。毎回、必ずひとつは質問するというくらいの積極性を持ってください。 講義時間の制限から、質問等の回答はネット配信を使用する場合があります。また、印刷物の資料を配付しますが、加えてネット上に各資料を PDF ファイルで配信しますので、そちらの利用にも慣れて下さい。			
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		蓬田伸一：研究室 16 syomogida@yachts.ac.jp			

授業科目名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体機能学Ⅱ	理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	助 教・工藤 大輔	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要	神経系の構造と機能、運動、感覚、記憶、感情、認知機能などの成り立ちを教授する。							
一般目標	1. 神経系の基本構造と情報伝達の仕組みを理解する。 2. 大脳、小脳、脳幹、大脳基底核、視床、大脳辺縁系、脊髄の構造と機能を理解する。 3. 運動や感覚の伝達経路と運動制御機構を理解する。 4. 記憶、感情の発現機構を理解する。							
到達目標	神経系の構造と機能を理解し、運動、感覚、記憶、感情、認知機能などの成り立ちを説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・各講義において出題する確認問題（40%） ・筆記試験（60%） ・上記2項目を合わせて100点満点として評価する							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28(木) 5	神経系の構造と機能	・神経系の構成と機能区分 ・神経細胞、神経膠細胞 ・シナプス伝達		同時期に生体形態学 (解剖) 実習がありま す。教科書で得た知識 を実際の脳脊髄で確 認して下さい。		工藤	
2	5. 10. 5(木) 5	神経系の情報伝導・ 伝達の仕組み	・神経系の情報伝導と伝達の仕組み ・シナプス可塑性					
3	5. 10. 12(木) 5	中枢神経系の構造と 機能	・大脳の役割と機能 ・脊髄の役割と機能					
4	5. 10. 19(木) 5	運動と感覚に関わる 伝導路の構造と機能	・運動と感覚に関わる伝導路 ・皮質脊髄路 ・体性感覚の伝導路					
5	5. 10. 26(木) 5	末梢神経系の構造と 機能	・脳神経の役割と機能 ・脊髄神経の役割と機能					
6	5. 11. 2(木) 5	小脳と脳幹の構造と 機能	・運動制御と学習における小脳の役割 ・運動制御と学習における脳幹の役割					
7	5. 11. 9(木) 5	大脳基底核の構造と 機能	・運動制御と学習における大脳基底核 の役割					
8	5. 11. 16(木) 5	間脳(視床)と大脳辺 縁系の構造と機能	・間脳の役割と機能 ・感覚経路としての視床の役割 ・記憶、感情、認知機能における大脳辺 縁系の役割					
教 科 書 参 考 図 書		教科書：病気がみえる⑦（脳・神経）MEDIC MEDIA 参考図書：カンデル神経科学 メディカルサイエンスインターナショナル 神経科学－脳の探求－ 西村書店 リハビリテーションのためのニューロサイエンス MEDICAL VIEW 神経科学の最前線とリハビリテーション 医歯薬出版株式会社						
履 修 上 の 注 意		複雑な神経機構を理解するためには、自らの生体活動を意識して、興味を持つことが必要です。 教科書の予習復習を心掛けて下さい。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		ヒトがどのように動き、感じるのかについて、正常な神経機構を学習することは、疾患や障がい を理解する上で重要です。興味を持って講義に参加してください。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		工藤大輔：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
栄養代謝学		三学科共通 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一	必 修	1	後期	1	非該当	可
授業概要		人体は約 37 兆個の細胞で成り立っていると言われている。人体が個体として生存するにはこれらの細胞一つ一つが正常に機能することが必要であるが、そこで営まれている活動は全て化学反応である。この講義では細胞内で行われている化学反応について理解を深め、食物として生体内に取り込んだ物質（栄養）がどのように吸収され、生体内でどのように変化していくのか、あるいは吸収された物質を元にどのような物質が新たに作られていくのか、その異常がどのように疾患に結びついていくのかを概説する。							
一般目標		生物の最小基本単位である「細胞」がどのように成り立っているのかを理解する。 食物から体内に取り込んだ栄養素（炭水化物・脂質・蛋白質）が生体内・細胞内でどのように変化し、利用されているのかを理解する。 遺伝の仕組みについて理解し、遺伝子の変異（異常）が生体の物質代謝に及ぼす影響を体感する。							
到達目標		○糖質の基本構造および分類について説明できる。○脂質の基本構造および分類について説明できる。○必須脂肪酸の分類（ω3系、ω6系）について説明できる。○アミノ酸の基本構造および分類について説明できる。○アミノ酸から作られる生体内物質について説明できる。○核酸の塩基の分解と関連する疾患について説明できる。○ビタミンを分類して主な生理作用について説明できる。○生体の必須ミネラルについて説明できる。○代謝性疾患の原因について説明できる。○アルコールの代謝について説明できる。 ○遺伝の仕組みについて説明できる。○遺伝子の異常が疾患に結びつくしくみを説明できる。 ○栄養素の摂取が疾患に及ぼす影響について予測できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		講義内容全般に関する記述式（語句を記入する問題を含む）の定期試験を試験期間内に実施する。満点の6割以上の得点を合格とし、6割未満の場合は再試験を一回に限り実施する。							
授業計画									
回	日付		授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1	5. 9. 25 (月)	4	イントロダクション・細胞の構造		毎回講義資料を配付しますが、資料に書き込み等をするだけでなく、自分用のまとめノートを作るようにすると、知識が身につきます。 また、講義終了時に出席確認と併せて質問を受け付け、次回の講義の冒頭に回答します。 「アルコールの代謝」では、アルコールパッチテストを実施します。		シラバスを讀んで予習することが望ましいですが、難しければ復習に重点を置いてください。 「生体機能学Ⅰ」や他の科目との関連を意識しながら学習してください。		蓬田
2	5. 10. 2 (月)	4	細胞を構成する分子・糖質						
3	5. 10. 16 (月)	4	細胞を構成する分子・脂質						
4	5. 10. 23 (月)	4	細胞を構成する分子・タンパク質						
5	5. 10. 30 (月)	4	細胞を構成する分子・核酸						
6	5. 11. 6 (月)	4	遺伝のしくみ						
7	5. 11. 13 (月)	4	物質の代謝・酵素反応						
8	5. 11. 20 (月)	4	物質の代謝・ビタミン						
9	5. 12. 4 (月)	4	アルコールの代謝						
10	5. 12. 4 (月)	5	〃						
11	5. 12. 11 (月)	4	物質の代謝と生合成・糖質 (1)						
12	5. 12. 18 (月)	4	物質の代謝と生合成・糖質 (2)、脂質						
13	5. 12. 25 (月)	4	物質の代謝と生合成・アミノ酸、核酸						
14	6. 1. 15 (月)	4	生化学的知識の臨床への応用						
15	6. 1. 22 (月)	4	講義のまとめ						
教 科 書 参 考 図 書		参考図書： 菌田 勝 編「栄養科学イラストレイテッド 生化学(第3版)」(羊土社) 林典夫、廣野治子 監修「シンプル生化学」(南江堂) 三輪一智、中 恵一 著「系統看護学講座 生化学・人体の構造と機能②」(医学書院)							
履 修 上 の 注 意		毎回、必ずひとつは質問するというくらいの積極性を持ってください。生体を生化学（栄養代謝学）とは別の視点から学ぶ科目が並行して開講されているので、互いに関連付けながら学習することが重要です。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		生化学（栄養代謝学）や分子生物学は、目で見えない反応を化学式で追っていく、取り組みにくい科目だと思いますが、重要なポイントを押さえていくと理解しやすいと思います。一定の化学・生物学の知識が必要になりますが、高校で化学・生物学を履修していなくても理解できるように説明しますので、苦手意識を持たずに講義に参加してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		蓬田伸一：研究室 16 syomogida@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床栄養学	看護学科 (専門基礎科目)	非常勤講師・楠本健二 教 授・遠藤和子	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要	栄養学に関する基礎的な事項、疾病と栄養との関連、臨床現場で実際に提供される治療食等について板書およびスライド（パワーポイント）を用いて講義を行う。 将来、看護師として食支援に携わることにもなるが、その前段階として自らの食事についても考えてもらうための内容となる。							
一般目標	栄養学とはなんたるかについて理解する。 栄養と疾病との関連性および治療食の役割について理解する。							
到達目標	【認知領域】 栄養素について（種類、機能、消化、吸収、代謝等）説明することができる（知識・理解）。 病院等における食事の役割、重要性について述べる（知識・理解）。 【情意領域】 自らの食生活を振り返ることが出来る（関心・意欲）。 対象者のみならず自らの食事を見直すことが出来る（関心・意欲）。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験 90%（期末）：講義内容について知識の定着度、応用力を基準として筆記試験によって評価する。 授業態度 10%：授業に取り組む姿勢を観察法にて評価する。 上記 2 項目を合わせて 100 点満点として評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28（木）3	オリエンテーション 看護と栄養学の接点	栄養学の歴史、看護学と 栄養学の接点：食生態学 と食看護学の概要		「看護覚え書き」 を読んでおくとう理 解が深まります。		遠藤	
2	5. 10. 5（木）3	栄養学の歴史 食事摂取基準（2020 年版）について①	栄養学とは？ 総論と活用				楠本	
3	5. 10. 12（木）3	食事摂取基準（2020 年版）について②	活用、各論(エネルギー)				楠本	
4	5. 10. 19（木）3	食事摂取基準（2020 年版）について③	各論(たんぱく質・脂質)				楠本	
5	5. 10. 26（木）3	栄養状態の評価 栄養と疾病治療①	アセスメント 腎疾患、糖尿病				楠本	
6	5. 11. 2（木）3	栄養と疾病治療②	肝・胆・膵疾患				楠本	
7	5. 11. 9（木）3	栄養と疾病治療③	脂質異常症				楠本	
8	後日連絡	栄養と疾病治療④	心疾患・褥瘡				楠本	
教 科 書 参 考 図 書	教科書：コンパクト栄養学第 4 版、南江堂、定価 2,200 円+税 参考書：「看護覚え書き」F. ナイチンゲール、現代社 その他、栄養学、医学に関する書籍全般							
履 修 上 の 注 意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		自分の普段の生活にも関わってくるテーマ（食事）ですので意欲的に学習してください。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		楠本健二：kusumoto@e.yamagata-u.ac.jp						
連 絡 調 整 担 当 教 員		遠藤和子：研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担当教員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
免疫と微生物	三学科共通 (専門基礎科目)	非常勤講師 水田 克巳 浅尾 裕信	看 護－必 修 理・作－選 択	2	前期	1	非該当	可
授業概要	私たちの身の回りには、多くの病原微生物が存在します。古くから大きな問題となってきた天然痘やペストなどの疫病が根絶あるいは激減する一方、HIV や結核、新型コロナウイルスなどの新興・再興感染症が問題となっています。免疫と微生物では、医療者が必要とする感染症についての基本的な知識を学修するとともに、そのような感染症や癌などを排除する免疫の仕組みについて学修します。また、免疫が関与するアレルギーや自己免疫疾患の病態についても概説します。							
一般目標	「微生物」病原体とその病原体が引き起こす感染症の特徴、感染経路、予防方法・対策、について医療に従事する上で基本的となる知識を習得することを目標とします。 「免疫」免疫系の仕組みと免疫系が関わる病気を理解し、医療従事者として必要な生体防御機構についての知識を身に着けることを目標とします。							
到達目標	「微生物」 1. 感染と感染症の違いについて説明できる。 2. 感染症発生の3要素（感染源・感染経路・宿主）について説明できる。 3. 細菌とウイルスの違いについて説明できる。 4. 代表的な細菌感染症とその対策について説明できる。 5. 代表的なウイルス感染症とその対策について説明できる。 6. 代表的な真菌・寄生虫感染症とその対策について説明できる。 「免疫」 1. 免疫系の一般特性（自然免疫、獲得免疫）について説明できる。 2. 病原微生物に対する免疫応答やその破綻による疾患を説明できる。 3. 免疫系の過剰応答により発症するアレルギーや自己免疫疾患を説明できる。 4. 免疫系の機能不全により発症する先天性および後天性免疫不全症を説明できる。 5. 免疫系によるがんの監視機構について説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	免疫と微生物ではそれぞれ免疫学、微生物学として成績評価を行い、両方に合格する必要があります。それぞれの定期試験とミニテストの結果をもとに評価します。 定期試験では到達目標に上げた項目の中の基本的事項について、選択問題と記述問題の形式で出題する予定です。また、各回の授業の中で授業内容に関連したミニテストを行います。 合格点に達しなかった学生に対しては1回だけ再試験をすることがあります。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	5. 4. 10 (月) 3	「微生物」 1 ヒトと感染症	主に、教科書「わかる！ 身につく！病原体・感染・ 免疫（南山堂）」を使いなが ら講義を進めます。	新聞・テレビ・インターネ ットにも感染症関連の報道は 多く、平易な説明が多いので、 関心をもって活用・理解する ことを心がけましょう。	水田 <			

※講義日程の詳細については、4月10日の最初の講義の際に通知します。			なお、閲覧は県立大学内のネット環境からのアクセス限定です。また、インターネットの情報を参考に学習する場合は、その出典に注意して、正しい知識を学んでください。	
教科書 参考図書	教科書：わかる！身につく！病原体・感染・免疫（南山堂）			
履修上の注意	「微生物」教科書を使いながら講義を進め、大切なことは繰り返し説明します。どうして感染症が発生するのか、その対策はどのようにしたらよいのか、常に意味を理解して考えながら学ぶことが大切です。 「免疫」教科書の第3章「免疫と生体防御機構」の内容を参考に講義を進めますので、予め読んでおくことで理解を深めることができます。			
学生へのメッセージ	講義ではスライドを使用しますが、内容は資料として配布する予定ですので、ノートをとることに集中せず、理解することに努めてください。講義では受け身にならず、疑問に思ったことは手をあげて質問するなど積極的に参加してください。			
e-mail・研究室 （連絡先）	水田：mizutak@pref.yamagata.jp 山形県衛生研究所（023-627-1373） （山形県衛生研究所ホームページアドレス） https://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/index.html 浅尾：asao-h@med.id.yamagata-u.ac.jp 山形大学医学部免疫学講座（023-628-5263） （免疫学講座ホームページアドレス https://www.id.yamagata-u.ac.jp/Imm/）			
連絡調整 担当教員	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体形態学実習	理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	教 授 村 成幸 教 授 菊池 昭夫 准教授 仁藤 充洋 助 教 理作持ち回り 非常勤講師 小林 裕人	必修	1	後期	2	非該当	否
授業概要	リハビリテーションを学ぶ基礎として、人体各内部臓器の構造と相互関係を理解するために実習を行う。							
一般目標	人体各臓器の構造と臓器相互の位置関係、骨・筋・神経系の構造を理解し、リハビリテーションを学ぶ基礎とする。							
到達目標	臓器を指示しながら相互の位置関係や機能を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実習中の学習により評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・ 学習方法	授業外学習 など	担当			
1	5.10. 6 (金) 3・4・5	神経系を含む人体各部分の標本の観察	解剖を行い、 実習する。 (人体組織学的実習、神経生理学的実習も含む)		村 他			
2	5.10.13 (金) 3・4・5	体表前面の観察						
3	5.10.20 (金) 3・4・5	体表前面の観察						
4	5.10.27 (金) 3・4・5	体表後面の観察						
5	5.11.10 (金) 3・4・5	体表後面の観察						
6	5.11.17 (金) 3・4・5	体幹前面筋の観察						
7	5.11.24 (金) 3・4・5	頸部・腕神経叢・下肢伸筋の観察						
8	5.12. 1 (金) 3・4・5	頸部・腕神経叢・下肢伸筋の観察						
9	5.12. 8 (金) 3・4・5	外来背筋・肩・殿筋・ハムストリングの観察						
10	5.12.15 (金) 3・4・5	胸腔臓器の観察						
11	5.12.19 (火) 3・4・5	胸腔臓器の観察						
12	5.12.22 (金) 3・4・5	腹腔臓器の観察						
13	5.12.26 (火) 3・4・5	腹腔臓器の観察						
14	6. 1. 5 (金) 3・4・5	固有背筋の観察・脊髄取り出し						
15	6. 1. 9 (火) 3・4・5	固有背筋の観察・脊髄取り出し						
16	6. 1.12 (金) 3・4・5	体幹切り離し・仙骨縦切						
17	6. 1.16 (火) 3・4・5	上肢・下肢						
18	6. 1.19 (金) 3・4・5	上肢・下肢						
19	6. 1.23 (火) 3・4・5	上肢・下肢						
20	6. 1.26 (金) 3・4・5	関節の観察・納棺						
教科書 参 考 図 書	教科書：プロメテウス解剖学アトラス運動器系、頭頸部/神経解剖 参考図書：小川鼎三 他「解剖学」(金原出版)図書館にあり							
履 修 上 の 注 意	献体者のご厚意とご遺族の心情に報いるように真摯な態度で臨むこと。 必ず、予習すること。生体形態学、骨学、神経解剖学で配布したプリントも持参すること。 実習を指導してくださる山大医学部教官に敬意をもって接すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	構造・用語などを覚えるのはもちろんですが、体性感覚、視覚を駆使して、実習でしか得られない体験を心に刻んでください。一生の財産になります。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	村 : 研究室 35 nmura@yachts.ac.jp 菊池: 研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp 仁藤: 研究室 26 mnito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体機能学演習	理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一 協力教員 教 授・佐藤 寿晃 准教授・仁藤 充洋 助 教・鈴木栄三郎 助 教・工藤 大輔 助 教・井上 香 助 教・川勝 祐貴 助 教・高畑 未樹	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要	呼吸、循環、腎機能、体温調節、活動電位、感覚、筋電図、脳波について基本的な測定を行うことによ って各生理機能について理解を深められるように指導する。オリエンテーションで演習内容、データ解析およ び考察について詳しく説明する。							
一般目標	生理機能を測定する種々の機器を実際に使って、どのような機器で測定するか実感することができる。測 定結果の処理を通してデータの意味、精度および統計処理等について理解を深めることができる。自らが被 験者となることで、検査される側（患者）の気持ちが理解できる。							
到達目標	○心電図の標準 12 誘導について説明できる。○自律神経反射による心拍数の変化を説明できる。○血圧の 測定に習熟する。○最大努力呼出曲線の測定法とその解析について説明できる。○酸素摂取量の求め方を説 明できる。○酸素摂取量と基礎代謝量の関係を説明できる。○自由水クリアランスと不感蒸泄量の関係を説 明できる。○尿を用いて健康に関するどのような情報が得られるか説明できる。○運動時の熱平衡について 説明できる。○神経細胞の脱分極、過分極および再分極のイオン機序について説明できる。○2 点識別閾が 皮膚の部位により異なる理由を説明できる。○筋電図の M 波の測定について説明できる。○脳波の基本的測 定法について説明できる。○安静閉眼からの開眼および過呼吸による脳波の変化を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	演習内容に関する記述式の試験を試験週間中に行い、満点の 6 割以上の得点で合格とする。6 割未満の場 合は再試験を 1 回行う。毎回の演習および課題発表への積極的参加についても評価の対象とする。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 11. 24 (金) 2	オリエンテーション	グループでの測定にな りますが、見ているだけ でなく積極的に測定に参加 することが必要です。 課題発表では班ごとに 5 テーマ (脳波は筋電図と 同じ班が発表) のひとつに ついて PowerPoint を用い て発表します。		演習プリントを よく読んでどのよ うな測定をするか 必ず予習をしてく ださい。 演習の時間内に 図書館に行って調 べものをするこ とは構いませんが、 教員にことわっ てください。			
2・3	5. 11. 30 (木) 4・5	各演習実施日に 1 課題ずつ、ロー テーションで以下の演習を行う。						
4・5	5. 12. 7 (木) 3・4	○心電図, 血圧						
6・7	5. 12. 14 (木) 3・4	○呼吸機能 ○腎機能, 活動電位, 感覚 ○体温調節 ○筋電図						
8・9	5. 12. 21 (木) 3・4	※状況により演習課題が変更にな る場合があります。						
10・11	6. 1. 4 (木) 3・4							
12・13	6. 1. 11 (木) 3・4	脳波						
14・15	6. 1. 25 (木) 3・4	課題発表						
教 科 書 参 考 図 書	演習プリントをオリエンテーション時に配布する。 参考図書：日本生理学会編「新・生理学実習書」(南江堂) 杉 晴夫 著「コメディカルのための生理学実習ノート」(南江堂) 佐藤昭夫 監修「生理学実習 NAVI」(医歯薬出版)							
履 修 上 の 注 意	演習を行う前に必ず演習プリントに目を通しておく。演習は見ているだけでは履修の成果 は上がらないので積極的に参加する。わからないところは質問し、自分でも調べ、考えるこ とが大切である。 前期に履修した「生体機能学Ⅰ」の内容について復習しておく。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	測定機器は慣れないと触るのが恐いし、慣れてしまうと安易に操作してしまう。いま自分 がこのスイッチを入れればどうなるかを考えながら実験する慎重さが必要とされます。使用 装置の原理・限界を理解し、よりよい方法がないか考えるくらいになることを期待します。 演習課題について、これまでに修得した知識からどのような結果が予想されるのかあらか じめ考えた上で演習に臨んで下さい。また、予想のものと異なる結果が得られた場合、その 原因を考えることが極めて重要です。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	蓬田伸一：研究室 16 syomogida@yachts.ac.jp							

授業科目名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
薬理学	看護学科 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	現代の医療は、大きく分けると3つの柱（生活指導[疾病予防]・薬物療法・外科手術）によって行われているが、そのなかで薬物療法は中心的な役割を担っており、医療に携わる人間は、医薬品に関する一定の知識を持つことが求められる。薬理学では、医薬品がどのように疾患の治療に寄与しているのか、基本的な事項について概説するとともに、自律神経系および中枢神経系の薬理学についての講義を行う。							
一般目標	「薬が効く」とはどういうことか認識し、作用部位に達した薬物の量と作用により薬効が決まることを理解するために、薬物の生体内における動きと作用に関する基本的知識を修得する。 医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、および体内での運命に関する基本的知識を修得する。							
到達目標	○疾病の背景と薬による治療の基本概念が説明出来る。○薬物の用量と作用の関係を説明できる。○薬の作用する仕組みについて、受容体・酵素・イオンチャネルを例に挙げて説明出来る。○薬の吸収・分布・代謝・排泄について学び、投与方法の違いによる薬の体内動態と作用発現の特徴を説明出来る。○薬の作用に影響を及ぼす因子を列挙し、その背景を説明出来る。○薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。○副作用と有害事象の違いについて説明できる。○自律神経系による生体機能調節について説明出来る。 ○以下に挙げる薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用(有害作用)について説明できる。・交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物　・副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物　・運動神経に作用する代表的な薬物　・知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）・代表的な全身麻酔薬　・代表的な催眠薬　・代表的な鎮痛薬　・代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬　・代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬　○麻薬性鎮痛薬の作用・副作用(有害作用)を列挙し、その機序・臨床適応について説明出来る。							
成績評価方針 評価方法 および基準	講義内容全般に関する記述式（語句を記入する問題を含む）の定期試験を試験期間内に実施する。満点の6割以上の得点を合格とし、6割未満の場合は再試験を一回に限り実施する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題				学習内容 ・学習方法	授業外学 習など	担当
1	5.4.11（火）5	イントロダクション、薬の概念、医薬品と法令				毎回講義資料を配付しますが、資料に書き込み等をするだけでなく、自分用のまとめノートを作るようにすると、知識が身につきます。また、講義終了時に出席確認と併せて質問を受け付け、次の講義の冒頭に回答します。	シラバスを読んで予習することが望ましいですが、難しいければ復習に重点を置いてください。	蓬田
2	5.4.18（火）5	薬物の主作用・副作用・有害作用						
3	5.4.25（火）5	薬物と治療効果の関係、薬物の血液中濃度						
4	5.5. 2（火）5	薬物の投与方法と体内動態（ADME）（1）						
5	5.5. 9（火）5	薬物の投与方法と体内動態（ADME）（2）						
6	5.5.16（火）5	薬物の標的と細胞内情報伝達						
7	5.5.23（火）5	末梢神経系の薬理学(1)筋弛緩薬、局所麻酔薬						
8	5.5.30（火）5	末梢神経系の薬理学(2)自律神経作用薬(1)						
9	5.6. 6（火）5	末梢神経系の薬理学(3)自律神経作用薬(2)						
10	5.6.13（火）5	末梢神経系の薬理学(4)自律神経作用薬(3)						
11	5.6.20（火）5	中枢神経系の薬理学(1)全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬						
12	5.6.27（火）5	中枢神経系の薬理学(2)抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬						
13	5.7. 4（火）5	中枢神経系の薬理学(3)抗精神病薬、抗うつ薬						
14	5.7.11（火）5	中枢神経系の薬理学(4)認知症治療薬、麻薬性鎮痛薬						
15	5.7.18（火）5	講義のまとめ						
教科書 参考図書	教科書：渡邊泰秀ほか編：コメディカルのための薬理学（第3版），朝倉書店，2018 参考図書：今日の治療薬-解説と便覧-（最新版），南江堂 （注：後期開講の「臨床薬理学」では教科書として指定していますので、「臨床薬理学」受講予定の学生は「薬理学」履修の際に購入しておくことを強く勧めます）							
履修上の注意	「生体機能学Ⅰ」「病理学」の内容について、十分に復習・理解しておくこと。							
学生への メッセージ	医療の現場以外でも、正しい薬の知識を持っていると役に立つことが多いです。単なる丸暗記ではなく、生理学（生体機能学Ⅰ）および病理学で学習した内容と照らし合わせて理解することを心掛けて下さい。							
e-mail・研究室 （連絡先）	蓬田伸一：研究室16 syomogida@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床薬理学		看護学科 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一	必 修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		臨床の現場で遭遇する種々の病態がどのようなメカニズムにより発現するのか、またその症状を改善するためにはどのような薬物療法を行えば良いのか、薬物の薬理作用に基づいて解説する。また、薬物を使用した際に注意すべき副作用についても講義する。							
一般目標		呼吸器系、内分泌系、消化器系、腎、血液・造血器系、代謝系、炎症・アレルギーに作用する薬物に関する基本的知識を修得する。 人体に疾患を生じる細菌、ウイルスなどに対する薬物の作用機序を理解し、抗菌薬などに関する基本的知識を修得する。							
到達目標		○代表的なアレルギー疾患治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。○代表的な抗炎症薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。○代表的な関節リウマチの治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。○代表的高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。○代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的高血圧症治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。○代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。○代表的な止血薬・抗血栓薬・造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。○代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。○代表的高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。○カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。○代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。○代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。○主要な化学療法薬の作用機序と主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		講義内容全般に関する記述式（語句を記入する問題を含む）の定期試験を試験期間内に実施する。満点の6割以上の得点を合格とし、6割未満の場合は再試験を一回に限り実施する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・ 学習方法		授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 28 (木) 3	臨床薬理学総論・新薬の開発・薬害			毎回講義資料を配付しますが、資料に書き込み等をするだけでなく、自分用のまとめノートを作るようにすると、知識が身につきます。 また、講義終了時に出席確認と併せて質問を受け付け、次の講義の冒頭に回答します。		シラバスを読んで予習することが望ましいですが、難しいければ復習に重点を置いてください。	蓬田	
2	5. 10. 5 (木) 3	抗アレルギー薬・抗炎症薬 (1)							
3	5. 10. 12 (木) 3	抗アレルギー薬・抗炎症薬 (2)							
4	5. 10. 19 (木) 3	呼吸器系疾患と治療薬							
5	5. 10. 26 (木) 3	循環器系疾患と治療薬 (1) 抗高血圧薬・抗狭心症薬							
6	5. 11. 2 (木) 3	循環器系疾患と治療薬 (2) 抗不整脈薬・強心薬							
7	5. 11. 9 (木) 3	腎臓に作用する薬 利尿薬							
8	5. 11. 16 (木) 3	血液の病態と治療薬 (1) 貧血治療薬							
9	5. 11. 22 (水) 4	血液の病態と治療薬 (2) 抗凝血薬・抗血小板薬							
10	5. 11. 29 (水) 4	消化器系疾患と治療薬 (1) 消化性潰瘍治療薬							
11	5. 12. 20 (水) 4	消化器系疾患と治療薬 (2) 制吐薬							
12	5. 12. 26 (火) 3	代謝性疾患と治療薬 (1) 糖尿病治療薬							
13	6. 1. 9 (火) 3	代謝性疾患と治療薬 (2) 高脂血症治療薬							
14	6. 1. 16 (火) 3	化学療法薬							
15	6. 1. 23 (火) 3	講義のまとめ							
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：今日の治療薬-解説と便覧-（最新版），南江堂 参考図書：渡邊泰秀ほか編：コメディカルのための薬理学（第3版），朝倉書店，2018 （注：前期開講の「薬理学」で教科書に指定しています。講義の際に参考にして下さい。） 吉岡充ほか著：薬理学 14 版：系統看護学講座専門基礎分野，医学書院，2018 町谷安紀著：イラストで理解するかみくだき薬理学，南山堂，2018							
履 修 上 の 注 意		「生体機能学Ⅰ」「病理学」の内容について、十分に復習・理解しておくこと。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		種々の疾患の治療に用いられる薬物について講義します。単なる丸暗記ではなく、生理学（生体機能学Ⅰ）や病理学で学習した内容と照らし合わせて理解することを心掛けて下さい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		蓬田伸一：研究室 16 syomogida@yachts.ac.jp							

授業科目名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
薬理・臨床薬理学		理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一	必修	2	前期	2	非該当	可
授業概要		現代の医療は、大きく分けると3つの柱（生活指導[疾病予防]・薬物療法・外科手術）によって行われているが、そのなかで薬物療法は中心的な役割を担っている。理学・作業療法に携わる専門職が薬物療法に直接関わる場面は限られるが、対象とする患者のほとんどは何かの薬物治療を受けており、服用する薬物の種類によっては理学・作業療法に影響を及ぼす可能性も考えられる。したがって、薬物療法に直接関わることは無くても、疾患の治療や回復に携わる人間として薬物についての一定の知識を持っていることが求められる。本科目では、医薬品がどのように疾患の治療に寄与しているのか、基本的な事項について概説するとともに、頻用される治療薬の作用や注意点について講義する。							
一般目標		「薬が効く」とはどういうことか認識し、作用部位に達した薬物の量と作用により薬効が決まることを理解するために、薬物の生体内における動きと作用に関する基本的知識を修得する。 医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、および体内での運命に関する基本的知識を修得する。化学物質としての医薬品と食品・サプリメントの違いについて理解する。 医療現場で使用されることが多い治療薬の作用機序と代表的な副作用（有害作用）について理解する。							
到達目標		○疾病の背景と薬による治療の基本概念が説明出来る。○薬物の用量と作用の関係を説明できる。○薬の作用する仕組みについて、受容体・酵素・イオンチャネルを例に挙げて説明出来る。○薬の吸収・分布・代謝・排泄について学び、投与方法の違いによる薬の体内動態と作用発現の特徴を説明出来る。○薬の作用に影響を及ぼす因子を列挙し、その背景を説明出来る。○薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。○副作用と有害事象の違いについて説明できる。○医薬品と栄養素・サプリメントの違いについて説明できる。 ○以下に挙げる薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用(有害作用)について説明できる。・代表的な抗炎症薬、解熱鎮痛薬　・代表的な循環器系疾患（高血圧、不整脈、虚血性心疾患、心不全）治療薬（抗血小板薬を含む）　・代表的な鎮痛薬、神経因性疼痛治療薬　・代表的な催眠薬　・代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）治療薬　・代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）治療薬　○リハビリテーション施行時に注意すべき薬物の副作用（有害作用）を予測できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		講義内容全般に関する記述式（語句を記入する問題を含む）の定期試験を試験期間内に実施する。満点の6割以上の得点を合格とし、6割未満の場合は再試験を一回に限り実施する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容 ・学習方法		授業外学習など		担当
1	5.4.11（火）5	イントロダクション、薬の概念、医薬品と法令 薬物の主作用・副作用・有害作用 薬物と治療効果の関係、薬物の血液中濃度 薬物の投与方法と体内動態（ADME）（1） 薬物の投与方法と体内動態（ADME）（2） 薬物の標的と細胞内情報伝達 自律神経作用薬の概要と有害作用 痛みの発生機序とその制御 炎症反応とその制御 神経疾患とその制御 精神疾患とその制御 循環器系疾患とその制御（1） 循環器系疾患とその制御（2） 眠りの機序と催眠薬 講義のまとめ			毎 回 講 義 資 料 を 配 付 し ま す が、資料に書き込み等をするだけでなく、自分用のまとめノートを作るようにすると、知識が身につきます。 また、講義終了時に出席確認と併せて質問を受け付け、次回の講義の冒頭に回答します。		シラバスを読んで予習することが望ましいですが、難しければ復習に重点を置いてください。		蓬田
2	5.4.18（火）5								
3	5.4.25（火）5								
4	5.5. 2（火）5								
5	5.5. 9（火）5								
6	5.5.16（火）5								
7	5.5.24（水）1								
8	5.5.31（水）1								
9	5.6. 7（水）1								
10	5.6.14（水）1								
11	5.6.21（水）1								
12	5.6.28（水）1								
13	5.7. 5（水）1								
14	5.7.12（水）1								
15	5.7.19（水）1								
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：内山靖ほか編：リハベーシック薬理学・臨床薬理学，医歯薬出版，2020 参考図書：笹栗俊之著：患者さんと医療系学生のための臨床薬理学入門-くすりを正しく用いるために-，九州大学出版会，2016 今日の治療薬-解説と便覧-（最新版），南江堂							
履 修 上 の 注 意		「生体機能学Ⅰ」「病理学」の内容について、十分に復習・理解しておくこと。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		医療の現場以外でも、正しい薬の知識を持っていると役に立つことが多いです。単なる丸暗記ではなく、生理学（生体機能学Ⅰ）で学習した内容と照らし合わせて理解することを心掛けて下さい。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		蓬田伸一：研究室16 syomogida@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
病理学	看護学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 北岡 匠	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要	本授業は、いわゆる「病理学総論」に相当する科目で、種々の疾病における原因（病因）、発症の機序、進展過程、臨床像との関連、転帰、対応や治療戦略などについて、前期で学習した生体形態学、生体組織学、生体機能学の基盤の上に、器官・組織・細胞の変化として、総論的に学習する。							
一般目標	1 保健医療分野における病理学の位置付けと病理学的な考え方を理解する 2 病的状態における細胞、組織、器官の変化を理解する 3 各種疾病における発症・進展の要因、メカニズムを考察する 4 生体に起る個別の病的状態を正確に把握し、理解する基盤を涵養する							
到達目標	・病理学とはどのような分野であるか認識する ・病理学的考え方、病理学的手法を説明できる ・医療における病理医の役割を説明できる ・疾病の原因を分類し、それぞれを列挙できる ・細胞の適応と変性における変化を説明できる ・ネクロシスとアポトーシスの相違を説明できる ・先天性疾患を分類できる ・遺伝性疾患を分類し、その発症様式を説明できる ・染色体異常をしめす代表的疾患を列挙できる ・代表的な奇形の形態を説明できる ・代謝障害に基づく細胞、組織の変化を説明できる ・代謝障害に基因する代表的な疾患の特徴を説明できる ・糖尿病に代表される生活習慣病および関連疾患の定義、診断基準、病態、治療と対応の概要を説明できる ・局所の循環障害における病態を説明できる ・全身の循環障害に基づく疾患の病態を説明できる ・炎症のメカニズムを説明できる ・炎症に関与する細胞を列挙できる ・急性炎症と慢性炎症の相違を説明できる ・炎症の種類を列挙できる ・肉芽腫性疾患の病理学的特徴を説明できる ・組織の再生・修復の過程を説明できる ・自然免疫と獲得免疫の相違を説明できる ・細胞性免疫と液性免疫のメカニズムを概説できる ・アレルギーを分類し、それぞれの機序を説明できる ・代表的な自己免疫疾患を列挙し、それぞれの病態を説明できる ・免疫不全の病態を説明できる ・感染症の発症機序、感染経路、病態を説明できる ・病原微生物を分類し、それぞれの特徴、惹起する病態を列挙できる ・腫瘍の概念を説明できる ・良性腫瘍と悪性腫瘍の相違を比較できる ・腫瘍の発生のメカニズム、要因、関与する遺伝子などを説明できる ・癌腫と肉腫の相違を説明できる ・悪性腫瘍の進展様式、担癌個体の状態を説明できる ・個体の老化にともなう組織・細胞の変化を説明できる ・個体の死の概念を説明できる							
成績評価方針 評価方法 および基準	定期試験（筆記試験）の成績で評価するが、学習態度も加味する。 尚、合格基準は100点満点に換算して、60点以上をもって、合格とする。							

授業計画					
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1	5. 9. 27 (水) 4	序論・病因論	病理学の概念 疾病の外因と内因 (病因論)	時間の関係で、講義の中で全ての項目に触れる事は難しいので、不足の部分は参考教材 (教科書、参考図書、図書館の図書、ビデオなど) を積極的に活用し自主的に補充学習すること	北岡 他
2	5. 10. 4 (水) 4	適応、変性、細胞死	刺激に対する細胞の種々の応答とそれに伴う変化		
3	5. 10. 11 (水) 4	先天疾患 (遺伝性疾患・奇形・胎児性疾患)	先天性疾患の分類、病態、対応		
4	5. 10. 18 (水) 4	代謝異常および生活習慣病の病態	代謝性疾患の分類、病態生活習慣病、とくに糖尿病についての疫学・病態・治療について最新の知見の紹介		
5	5. 10. 25 (水) 4				
6	5. 11. 1 (水) 4	循環障害	局所および全身性循環障害の病態		
7	5. 11. 8 (水) 4				
8	5. 11. 15 (水) 4	炎症	炎症総論および炎症各論		
9	5. 11. 22 (水) 4	免疫、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全	免疫の基礎と免疫に関係する各種疾患 (アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全) の病態		
10	5. 12. 6 (水) 4				
11	5. 12. 13 (水) 4	感染と感染症	各種病原体の特徴とそれによって引き起こされる病態 (感染症) について、概説		
12	5. 12. 20 (水) 4				
13	6. 1. 10 (水) 4	腫瘍	腫瘍総論 腫瘍各論 悪性腫瘍の疫学・病態・臨床		
14	6. 1. 17 (水) 4				
15	6. 1. 24 (水) 4	老化と死	老化のメカニズム、心臓死と脳死		
教科参考図書		教科書 : はじめの一步の病理学 -第2版- (羊土社) 参考図書 : ① Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease (Elsevier-Saunders) ② Strayer DS, Rubin E Rubin's Pathology: Clinicopathologic Foundations of Medicine, (LWW) ③ Damjanov Pathology for the Health Professions (Elsevier-Saunders) ④ 坂本穆彦、北川昌伸、仁木利郎 (編) 標準病理学 第4版 (西村書店) ⑤ 松原修、真鍋俊明 (著) カラーアトラスー病理組織の見方と鑑別診断 第5版 (医歯薬出版)			
履修上の注意		前期で学習した生体形態学、生体組織学、生体機能学の基盤の上に、疾患を器官・組織・細胞の形態学的変化として理解するので、上記の内容を十分に復習し、理解・修得しておくこと			
学生へのメッセージ		病気についての基本的な事を学ぶ重要な講義であり、国家試験の準備や将来の職業にも直結しているので、能動的な姿勢で講義に臨んでほしい。また、医療のグローバル化に対応するために、積極的に英語の文献を読んだり、専門用語や疾病名を英語で覚えるようにすること			
e-mail・研究室 (連絡先)		北岡 匠 : t-kitaoka @med.id.yamagata-u.ac.jp 山形大学医学部病理学講座			
連絡調整担当教員		遠藤恵子 : 研究室 20 kendo@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
病理学	理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 北岡 匠	選択	1	後期	2	非該当	可
授業概要	本授業は、いわゆる「病理学総論」に相当する科目で、種々の疾病における原因（病因）、発症の機序、進展過程、臨床像との関連、転帰、対応や治療戦略などについて、前期で学習した生体形態学、生体組織学、生体機能学の基盤の上に、器官・組織・細胞の変化として、総論的に学習する。							
一般目標	1 保健医療分野における病理学の位置付けと病理学的な考え方を理解する 2 病的状態における細胞、組織、器官の変化を理解する 3 各種疾病における発症・進展の要因、メカニズムを考察する 4 生体に起る個別の病的状態を正確に把握し、理解する基盤を涵養する							
到達目標	・病理学とはどのような分野であるか認識する ・病理学的考え方、病理学的手法を説明できる ・医療における病理医の役割を説明できる ・疾病の原因を分類し、それぞれを列挙できる ・細胞の適応と変性における変化を説明できる ・ネクロシスとアポトーシスの相違を説明できる ・先天性疾患を分類できる ・遺伝性疾患を分類し、その発症様式を説明できる ・染色体異常をしめす代表的疾患を列挙できる ・代表的な奇形の形態を説明できる ・代謝障害に基づく細胞、組織の変化を説明できる ・代謝障害に基因する代表的な疾患の特徴を説明できる ・糖尿病に代表される生活習慣病および関連疾患の定義、診断基準、病態、治療と対応の概要を説明できる ・局所の循環障害における病態を説明できる ・全身の循環障害に基づく疾患の病態を説明できる ・炎症のメカニズムを説明できる ・炎症に関与する細胞を列挙できる ・急性炎症と慢性炎症の相違を説明できる ・炎症の種類を列挙できる ・肉芽腫性疾患の病理学的特徴を説明できる ・組織の再生・修復の過程を説明できる ・自然免疫と獲得免疫の相違を説明できる ・細胞性免疫と液性免疫のメカニズムを概説できる ・アレルギーを分類し、それぞれの機序を説明できる ・代表的な自己免疫疾患を列挙し、それぞれの病態を説明できる ・免疫不全の病態を説明できる ・感染症の発症機序、感染経路、病態を説明できる ・病原微生物を分類し、それぞれの特徴、惹起する病態を列挙できる ・腫瘍の概念を説明できる ・良性腫瘍と悪性腫瘍の相違を比較できる ・腫瘍の発生のメカニズム、要因、関与する遺伝子などを説明できる ・癌腫と肉腫の相違を説明できる ・悪性腫瘍の進展様式、担癌個体の状態を説明できる ・個体の老化に伴う組織・細胞の変化を説明できる ・個体の死の概念を説明できる							
成績評価方針 評価方法 および基準	定期試験（筆記試験）の成績で評価するが、学習態度も加味する。 尚、合格基準は100点満点に換算して、60点以上をもって、合格とする。							

授業計画					
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1	5. 9. 27 (水) 4	序論・病因論	病理学の概念 疾病の外因と内因 (病因論)	時間の関係で、講義 の中で全ての項目に 触れる事は難しいの で、不足の部分は参 考教材 (教科書、参 考図書、図書館の図 書、ビデオなど) を 積極的に活用し自主 的に補充学習するこ と	北岡 他
2	5. 10. 4 (水) 4	適応、変性、細胞死	刺激に対する細胞の種々の応答とそれに 伴う変化		
3	5. 10. 11 (水) 4	先天疾患 (遺伝性疾 患・奇形・胎児性疾患)	先天性疾患の分類、病態、対応		
4	5. 10. 18 (水) 4	代謝異常および生活習 慣病の病態	代謝性疾患の分類、病態生活習慣病、とく に糖尿病についての疫学・病態・治療につ いて最新の知見の紹介		
5	5. 10. 25 (水) 4				
6	5. 11. 1 (水) 4	循環障害	局所および全身性循環障害の病態		
7	5. 11. 8 (水) 4				
8	5. 11. 15 (水) 4	炎症	炎症総論および炎症各論		
9	5. 11. 22 (水) 4	免疫、アレルギー、自 己免疫疾患、免疫不全	免疫の基礎と免疫に関係する各種疾患 (ア レルギー、自己免疫疾患、免疫不全) の病 態		
10	5. 12. 6 (水) 4				
11	5. 12. 13 (水) 4	感染と感染症	各種病原体の特徴とそれによって引き起 こされる病態 (感染症) について、概説		
12	5. 12. 20 (水) 4				
13	6. 1. 10 (水) 4	腫瘍	腫瘍総論 腫瘍各論 悪性腫瘍の疫学・病態・臨床		
14	6. 1. 17 (水) 4				
15	6. 1. 24 (水) 4	老化と死	老化のメカニズム、心臓死と脳死		
教 科 参 考 図 書		教 科 書 : はじめの一步の病理学 -第2版- (羊土社) 参考図書 : ① Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease (Elsevier-Saunders) ② Strayer DS, Rubin E Rubin's Pathology: Clinicopathologic Foundations of Medicine, (LWW) ③ Damjanov Pathology for the Health Professions (Elsevier-Saunders) ④ 坂本穆彦、北川昌伸、仁木利郎 (編) 標準病理学 第4版 (西村書店) ⑤ 松原修、真鍋俊明 (著) カラーアトラスー病理組織の見方と鑑別診断 第5版 (医歯薬出版)			
履 修 上 の 注 意		前期で学習した生体形態学、生体組織学、生体機能学の基盤の上に、疾患を器官・組織・細胞の形態学的変化として理解するので、上記の内容を十分に復習し、理解・修得しておくこと			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		病気についての基本的な事を学ぶ重要な講義であり、国家試験の準備や将来の職業にも直結しているので、能動的な姿勢で講義に臨んでほしい。また、医療のグローバル化に対応するために、積極的に英語の文献を読んだり、専門用語や疾病名を英語で覚えるようにすること			
e-mail・研究室 (連 絡 先)		北岡 匠 : t-kitaoka@med.id.yamagata-u.ac.jp 山形大学医学部病理学講座			
連 絡 調 整 担 当 教 員		佐藤寿晃 : 研究室 37 tsato@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人老年疾病論Ⅰ		三学科共通 (専門基礎科目)	学 長・上月正博 名誉教授・八巻通安	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要		将来、医療を担う者としては、疾患に罹患している対象者の病状を正しく評価し、そのヘルスニードを判断する能力を涵養するために、各疾患の病因、病態生理、病理、症状、検査、診断、治療、予防などについての最新の知見の理解と習得が必須である。本講義では、呼吸器系、腎・泌尿器系、循環器系、生殖器系、アレルギー・膠原病疾患の領域において、代表的な疾患の病理所見や臨床的特徴、治療の概要などを学習し、医療専門職として、それらの疾患に適切に対応しうる科学的基盤を確立する。							
一般目標		1 呼吸器系、腎・泌尿器系、循環器系、生殖器系、アレルギー・膠原病疾患の領域における代表的な疾患の病態および臨床的特徴を理解する。 2 上記分野の疾患や障がいについての治療あるいは対応、予防法を考察する。							
到達目標		・心・循環器疾患における臨床徴候および検査診断法を概説できる ・虚血性心疾患の病態、治療、介助などを説明できる ・不整脈を分類し、その治療法を概説できる ・先天性心疾患を列挙し、その治療法を概説できる ・動脈硬化症および本態性高血圧症の病態、合併症、治療、介入法などについて説明できる ・呼吸器疾患・呼吸機能障がいにおける臨床徴候および検査診断法を概説できる ・慢性閉塞性肺疾患の病態と対応を説明できる ・呼吸器領域における感染症を列挙し、それぞれの特性と治療法を説明できる ・呼吸器領域における腫瘍性病変を分類し、それぞれの診断法、治療法を概説できる ・腎・泌尿器疾患における臨床徴候および検査診断法を概説できる ・急性・慢性腎不全の病態と対応を説明できる ・各種糸球体疾患を分類し、それぞれの特性を説明できる ・腎・泌尿器領域における感染症を列挙し、それぞれの特性と治療法を説明できる ・腎・泌尿器領域における腫瘍性病変を分類し、それぞれの診断法、治療法を概説できる ・排尿障がいの病因を分類し、それぞれに対する対応を概説できる ・前立腺肥大症および前立腺腫瘍の病態、臨床徴候、治療法、対応を概説できる ・男性生殖器疾患における臨床徴候および検査診断法を概説できる ・男性生殖器における腫瘍性疾患を列挙し、それぞれの病態、診断法、治療法を説明できる ・女性生殖器疾患における臨床徴候および検査診断法を概説できる ・性感染症および骨盤内炎症性疾患を列挙し、それぞれの特性、診断法、治療法を説明できる ・女性生殖器における腫瘍性疾患を列挙し、それぞれの病態、診断法、治療法を説明できる ・妊娠、出産に伴う病態を概説できる ・膠原病・自己免疫疾患を分類し、代表的疾患における病態、検査診断法、治療法、対応を概説できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		受講態度、テスト（レポート）の総合評価							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など			担当	
1	5.4.11（火）4	循環器疾患・心臓機能障がい	心臓ならびに血管を主座とする各種疾患の病態、疫学、臨床、診断、治療		本講義が担当する分野は膨大で、授業ではその一部についてふれるのみとなるので、参考図書や図書館、インターネットなどを利用して、授業以外の時間にもより広く学習をすること。			八巻	
2	5.4.18（火）4							八巻	
3	5.4.25（火）4							八巻	
4	5.5. 2（火）4	呼吸器系疾患・呼吸障がい	呼吸器系器官の各種疾患についての病態、疫学、臨床、診断、治療					八巻	
5	5.5. 9（火）4							八巻	
6	5.5.16（火）4							八巻	
7	5.5.23（火）4	女性生殖器系疾患	女性生殖器系器官（卵巣、子宮、外陰）、妊娠・出産に関連する各種疾患の病態、疫学、臨床、診断、治療					八巻	
8	5.5.30（火）4							八巻	
9	5.6. 5（月）1	男性生殖器系疾患	男性生殖器系器官（精巣、前立腺、陰茎）に関連する各種疾患の病態、疫学、臨床、診断、治療					上月	
10	5.6.12（月）1							上月	

11	5. 6. 19 (月) 1	腎・泌尿器系疾患	腎・泌尿器系器官の各種疾患についての病態、疫学、臨床、診断、治療		上月
12	5. 6. 26 (月) 1				上月
13	5. 7. 3 (月) 1				上月
14	5. 7. 10 (月) 1	膠原病・自己免疫疾患	主要な膠原病・自己免疫疾患の病態、疫学、臨床、診断、治療		上月
15	5. 7. 24 (月) 1				上月
教科参考図書		教科書：看護のための臨床病態学 南山堂			
履修上の注意		具体的なスケジュールや内容についてはさらに初回の講義において詳しく案内する。			
学生へのメッセージ		本講義が担当する分野は膨大である。授業ではその <u>一部について最低レベルをふれるのみ</u> となる。したがって、上記の参考図書や図書館などを利用して、 <u>授業以外の時間にも自分でより広く学習することが必須である</u> 。また、積極的に英語の文献を読み、専門用語や述語を英語で覚えること。			
e-mail・研究室(連絡先)		上月正博：kohzuki@yachts.ac.jp 学長室 (686-6601)			

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人老年疾病論Ⅱ	三学科共通 (専門基礎科目)	学 長・上月正博 名誉学長・前田邦彦	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	将来医療を担う者としては、疾患に罹患している対象者の病状を正しく評価し、そのヘルスニードを判断する能力を涵養するために、各疾患の病因、病態生理、病理、症状、検査、診断、治療、予防などについての最新の知見の理解と習得が必須である。本講義では、消化器系、血液・造血器系、皮膚、感覚器系（眼、耳、鼻）の領域において、代表的な疾患の病理所見や臨床的特徴、診断・治療の概要などを学習し、医療専門職として、それらの疾患に適切に対応しうる科学的基盤を確立する。							
一般目標	1、消化器系、血液・造血器系、皮膚、感覚器系、耳鼻咽喉系の領域における代表的な疾患の病態および臨床的特徴を理解する 2、上記分野の疾患や障がいについて治療あるいは対応・予防法を修得する							
到達目標	・消化器系疾患における主要な臨床徴候、疫学、検査・診断方法を説明できる ・上部消化管の炎症性疾患の病態、診断、予防・対応を概説できる ・消化性潰瘍の病態、診断、予防・対応を概説できる ・消化管の運動異常や循環障がいについて、その病理、診断、治療を説明できる ・吸収障がいとそれに基づく病態を列挙できる ・炎症性腸疾患の病態と治療対応を説明できる ・食道、胃、大腸の腫瘍性疾患について、その病理、診断、治療を説明できる ・ウイルス性肝炎を分類し、それぞれの特性、検査法、予防法を概説できる ・肝硬変の病態、合併症、対応を説明できる ・肝腫瘍を分類し、それぞれの病理、診断法、治療について説明できる ・胆道系の炎症・腫瘍について、それぞれの病理、診断法、治療を説明できる ・急性膵炎、慢性膵炎の原因、病態、検査、治療、対応を説明できる ・膵腫瘍を分類し、それぞれの病理、診断法、治療について説明できる ・血液・造血器系疾患における主要な臨床徴候、検査診断方法を説明できる ・貧血の病態、診断、予防・治療法を概説できる ・急性白血病を分類し、それぞれの病態、検査診断法、治療を説明できる ・骨髄増殖性疾患を分類し、それぞれの病態、検査診断法、治療を説明できる ・出血性疾患・凝固異常を分類し、それぞれの病態、検査診断法、治療を概説できる ・脾腫をきたす疾患を分類し、それぞれの原因、特性を説明できる ・リンパ増殖性疾患を分類し、それぞれの病理、臨床的特質、治療を説明できる ・皮膚疾患における主要な臨床徴候、検査診断方法を説明できる ・非感染性皮膚炎、水疱性疾患、角化異常症について病理、臨床的特質、治療を説明できる ・皮膚の母斑症および関連腫瘍について、病理、臨床的特質、治療を説明できる ・耳鼻咽喉疾患における主要な臨床徴候、検査・診断方法を概説できる ・中耳炎の病態、臨床徴候、治療法、介入などを概説できる ・聴力障がい（難聴）、メニエール病、良性発作性頭位めまい症などについて、その臨床徴候、検査・診断方法、治療・対応について概説できる ・前庭障がいの原因と対応について説明できる ・鼻疾患（アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、鼻・副鼻腔腫瘍など）について、その臨床徴候、検査・診断方法、治療・対応を概説できる ・口腔・咽頭・喉頭疾患（味覚障害、睡眠時無呼吸症候群、口腔～喉頭腫瘍などを含む）について、それぞれの臨床徴候、検査・診断方法、治療・対応を概説できる ・音声障害・構音障害・言語障害を分類し、それぞれの特徴を説明できる ・嚥下のメカニズムを説明し、嚥下障害を分類できる ・各種唾液腺疾患について、臨床徴候、検査・診断方法を概説できる ・視覚器疾患における主要な臨床徴候、検査・診断方法を概説できる ・屈折異常、眼瞼疾患、角・結膜疾患、強膜疾患について、その診断、治療、予防を説明できる ・網膜眼底疾患について、病理、臨床的特質、治療を説明できる ・白内障および緑内障について、病態、診断、治療法を説明できる							
成績評価方針 評価方法 および基準	（中間試験および）定期試験の総合成績で評価。ただし、積極的に質問をするなどの普段の学習態度も加味する。尚、合格基準は100点満点に換算して、60点以上をもって、合格とする。							

授業計画					
回	日付	授業項目・ 学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1	5. 4. 10（月）1	消化器系疾患（消化 管疾患）	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛 門管の疾患についての疫学・病理・臨 床症候・診断・治療		上月
2	5. 4. 12（水）1	皮膚疾患	皮膚を主座とする各種疾患の病理・臨 床症候・診断・治療		前田
3	5. 4. 17（月）1	消化器系疾患（消化 管疾患）	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛 門管の疾患についての疫学・病理・臨 床症候・診断・治療		上月
4	5. 4. 19（水）1	皮膚疾患	皮膚を主座とする各種疾患の病理・臨 床症候・診断・治療		前田
5	5. 4. 24（月）1	消化器系疾患（消化 管疾患）	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛 門管の疾患についての疫学・病理・臨 床症候・診断・治療		上月
6	5. 5. 1（月）1				上月
7	5. 5. 8（月）1	消化器系疾患（肝・ 胆・膵疾患）	肝臓、胆道(胆管・胆嚢)、膵臓の疾患 の病理・臨床症候・診断・治療		上月
8	5. 5. 15（月）1				上月
9	5. 6. 8（木）3	耳鼻咽喉科領域疾患	外耳、中耳、内耳、鼻腔、喉頭などの 疾患の病態・臨床症候・診断・治療		青柳
10	5. 6. 15（木）3				青柳
11	5. 7. 5（水）4	血液・造血器系疾患	末梢血液、骨髄、脾臓、リンパ節など を主座とする各種疾患の疫学・病態・		前田
12	5. 7. 6（木）3	眼科領域疾患	角結膜、ブドウ膜、網膜、眼窩などの 疾患の病態・臨床症候・診断・治療		大村
13	5. 7. 12（水）4	血液・造血器系疾患	末梢血液、骨髄、脾臓、リンパ節など を主座とする各種疾患の疫学・病態・		前田
14	5. 7. 13（木）3	眼科領域疾患	角結膜、ブドウ膜、網膜、眼窩などの 疾患の病態・臨床症候・診断・治療		大村
15	5. 7. 19（水）4	血液・造血器系疾患	末梢血液、骨髄、脾臓、リンパ節など を主座とする各種疾患の疫学・病態・		前田
教科書		教科書：看護のための臨床病態学（南山堂）			
参考図書		参考図書： ① はじめの一步のイラスト病理学（羊土社） -- 「疾病科学」 で用いた教科書 ② 臨床病態学 1 ～ 3 （ヌーベルヒロカワ） ③ 系統看護学講座 成人看護学シリーズ（医学書院） ④ 標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）内科学、第3版（医学書院） ⑤ ナーシング・グラフィカシリーズ（呼吸・循環機能障害、栄養代謝機能障害など）（MC メディカ出版） ⑥ チーム医療従事者のための臨床医学全科（金芳堂）			
履修上の注意		具体的なスケジュールや内容についてはさらに初回の講義において詳しく案内する。			
学生へのメッセージ		本講義が担当する分野は膨大で、授業ではその <u>一部</u> について最低レベルをふれるのみとなる。上記の参考図書や図書館、インターネットなどを利用して、 <u>授業以外の時間にも自分でより広く学習をすることが必須である</u> 。また、医療のグローバル化に対応するために、積極的に英語の文献を読み、専門用語や述語を英語で覚えること。			
e-mail・研究室（連絡先）		上月正博：kohzuki@yachts.ac.jp 学長室（686-6601）			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人老年疾病論Ⅲ		看護学科 (専門基礎科目)	教 授・石川 仁 教 授・菊池 昭夫 教 授・村 成幸 非常勤講師・諏佐 真治	必修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		将来、看護を担う者としては、疾患に罹患している対象者の病状を正しく評価し、そのヘルスニードを判断する能力を涵養するために、各疾患の病因、病態生理、病理、症状、検査、診断、治療、予防などについての最新の知見の理解と習得が必須である。本講義では、歯・口腔疾患、脳・神経疾患、代謝・内分泌疾患、運動器疾患、乳腺疾患の各分野において、代表的な疾患の病理所見や臨床的特徴、治療の概要などを説明し、医療専門職として、それらの疾患に適切に対応しうる科学的基盤を確立する。							
一般目標		1、脳・神経疾患、運動器疾患、代謝・内分泌疾患、歯・口腔疾患、乳腺疾患の領域における代表的な疾患・障害の病態および臨床的特徴を理解する 2、上記分野の疾患や障害についての治療あるいは対応・予防法を考察する							
到達目標		・各種ホルモン過剰症、低下症にともなう臨床徴候および検査診断法を概説できる ・脳下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島の疾患について、病態、臨床徴候、診断法、治療と介助を説明できる ・糖尿病の診断基準、分類、病態、合併症、治療について述べることができる ・脂質異常症の分類、病態、合併症、治療について説明できる ・肥満症の疫学、病態、予防について説明できる ・尿酸代謝異常、痛風の病態、治療、予防について説明できる ・脳血管障害の原因、病態、診断検査法、治療について説明できる ・脳腫瘍・脊髄腫瘍を分類し、各々の病理、好発部位、治診断、治療を説明できる ・中枢神経の変性疾患、感染症、脱髄性疾患について概説できる ・頭部外傷における病態、治療・対応、介護などを説明できる ・中枢神経系の先天性疾患について、概説できる ・運動器の構造を理解し、それが障害される疾患について説明できる ・関節の働きを理解し、変形性関節症、関節リウマチ、発育性股関節形成不全の病態を述べることができる ・脊髄損傷、上肢、下肢におこる代表的な骨折あるいは外傷を説明できる ・主要な骨腫瘍および軟部腫瘍の病理、診断、治療を説明できる ・歯、口腔、舌、顎関節、唾液腺における疾病、障害を列挙し、それぞれの臨床徴候、検査法、治療法、介助などを説明できる ・乳癌について、その疫学、臨床的特徴、病理、検査診断法、鑑別診断、治療を概説できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		講義終了後の筆記試験の成績で評価。ただし、学習態度も加味する。尚、合格基準は100点満点に換算して、60点以上をもって、合格とする。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28 (木) 2	授業オリエンテーション 内分泌・代謝性疾患	脂質異常症、肥満・メタボリック症候群、尿酸代謝異常			本講義が担当する分野は膨大で、授業ではその一部についてふれるのみとなるので、下記の参考図書や図書館、インターネットなどを利用して、授業以外の時間にもより広く学習をすること。		石川 諏佐	
2	5. 10. 5 (木) 2	内分泌疾患	内分泌疾患 下垂体、甲状腺					諏佐	
3	5. 10. 12 (木) 2		内分泌疾患 副甲状腺、副腎、その他					諏佐	
4	5. 10. 19 (木) 2	脳・神経疾患	脳血管障害、中枢神経の変性疾患、感染症、脱髄性疾患、脳・脊髄腫瘍などの病態・臨床・診断・治療					菊池	
5	5. 10. 26 (木) 2							菊池	
6	5. 11. 2 (木) 2							菊池	
7	5. 11. 9 (木) 2							菊池	
8	5. 11. 16 (木) 2	代謝性疾患	糖尿病の病態、分類、急性合併症					諏佐	
9	5. 11. 30 (木) 2		糖尿病の慢性合併症、治療、その他					諏佐	
10	5. 12. 7 (木) 2	運動器疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、関節リウマチ、外傷・スポーツ傷害、骨・					村	
11	5. 12. 15 (金) 1							村	

12	5. 12. 21 (木) 2		軟部腫瘍などの病態・臨床・診断・治療		村
13	6. 1. 11 (木) 2	歯・口腔疾患	歯口腔の基礎と口腔ケア		スポット (柴田)
14	6. 1. 18 (木) 2	歯・口腔疾患	歯、舌、顎関節、唾液腺疾患		スポット (青柳)
15	6. 1. 29 (月) 4	乳腺疾患	乳腺疾患の病理・診断・治療		スポット (木村)
教科書		教科書：各講師から説明			
参考図書		参考図書： ① 看護のための臨床病態学（南山堂） ② はじめの一步のイラスト病理学（羊土社）--「疾病科学」で用いた教科書 ③ 臨床病態学1～3（ヌーベルヒロカワ） ④ 系統看護学講座 成人看護学シリーズ（医学書院） ⑤ ナーシング・グラフィカシリーズー呼吸・循環機能障害、栄養代謝機能障害などー（MCメディア出版） ⑥ チーム医療従事者のための臨床医学全科（金芳堂）			
履修上の注意		多人数の講師によって、オムニバス形式で講義が行われるので、講義の日程・場所については常に掲示などを注意すること			
学生へのメッセージ		本講義が担当する分野は膨大で、授業ではその一部についてふれるのみとなるので、上記の参考図書や図書館、インターネットなどを利用して、授業以外の時間にもより広く学習をすること。また、医療のグローバル化に対応するために、積極的に英語の文献を読んだり、専門用語や述語を英語で覚えるようにすること。			
e-mail・研究室（連絡先）		石川仁：研究室 24 hishikawa@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
リハビリテーション概論		理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	教 授・佐藤 寿晃 教 授・鈴木 克彦	必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要		リハビリテーションに関する基本的知識を教授する							
一般目標		1. リハビリテーションの歴史や法的根拠、概容などを知る。 2. リハビリテーションへの理学療法士や作業療法士の関わりを知る。 3. 現在のリハビリテーションの考え方を理解し、諸外国の現状を知る。							
到達目標		1. リハビリテーションの概念を説明できる。 2. リハビリテーションに関わる専門職の特性を説明できる。 3. リハビリテーションにおけるチーム・アプローチのあり方を説明できる。 4. リハビリテーションに関連する保健・医療・福祉・介護の基本的な知識を習得する。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		到達目標内容をまとめたレポート（800 字程度）で評価します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 10 (月) 1	リハビリテーションの理念	a リハビリテーションの定義・歴史、b ノーマライゼーション、c 自立生活、d QOL、e 総合リハビリテーションリハビリテーション医療の定義と歴史					佐藤	
2	5. 4. 17 (月) 1	リハビリテーションの諸相	a 医学的リハビリテーション、b 教育的リハビリテーション、c 職業的リハビリテーション、d 社会的リハビリテーション					鈴木 (克)	
3	5. 4. 24 (月) 1	リハビリテーションに関わるアスリートへのアプローチ 1	a アスリートへの関わり方の資格や歴史 b スポーツ現場での関わり方					スポット (芹川)	
4	5. 5. 1 (月) 1	リハビリテーションに関わるアスリートへのアプローチ 2	a アスリートへのリハビリテーション b 山形県内でのアスリートへの取り組み					スポット (芹川)	
5	5. 5. 8 (月) 1	医学・生命科学におけるリハビリテーションの存在とその意義について	個人に即応し、綿密な計画の基に実践することが求められているリハビリテーションには、社会性や個人に備わった能力を十分に引き出すことが求められていることについて学ぶ。					スポット (片方)	
6	5. 5. 15 (月) 1	疾病・生活機能の概念と分類	a 国際疾病分類 (ICD)、b 国際生活機能分類 (ICF)					鈴木 (栄)	
7	5. 5. 22 (月) 1	リハビリテーションの専門職に求められる資質Ⅰ	理学療法士・作業療法士が身につけておくべき資質を学ぶ。演習を含む。					佐藤	
8	5. 5. 29 (月) 1	生活について	生活とは何かについて学ぶ。障がい者が在宅で医療を受けながら生活していくことを考える。人や環境の多様性について学ぶ。					鈴木 (由)	
9	5. 6. 5 (月) 1	リハビリテーションに関わる専門職 (理学療法士)	理学療法士の役割と活動の概容を学ぶ。					工藤	
10	5. 6. 12 (月) 1	リハビリテーションに関わる専門職 (作業療法士)	作業療法士の役割と活動の概容を学ぶ。					佐藤	
11	5. 6. 19 (月) 1	リハビリテーションに関わる専門職 (他職種)	保健・医療・福祉・介護の領域における、理学療法士・作業療法士以外の専門職について、役割と活動の概容を学ぶ。					丹野	
12	5. 6. 26 (月) 1	リハビリテーションにおけるチーム・アプローチ	チームに関する基本的理解と、チーム・アプローチを学ぶ。					丹野	
13	5. 7. 3 (月) 1	リハビリテーションの専門職に求められる資質Ⅱ	理学療法士・作業療法士が身につけておくべき資質を学ぶ。演習を含む。					佐藤	
14	5. 7. 10 (月) 1	患者・障害者の心理・社会的側面	死生観、QOL について、障がい受容について					スポット (藤原)	
15	5. 7. 24 (月) 1	リハビリテーションのあり方	リハビリテーションとは何かを学生間で検討する。					佐藤 加藤	

教科書 参考図書	資料を配布します。参考図書は随時紹介します。
履修上の注意	特になし
学生への メッセージ	目的意識を持って、積極的に講義に参加してください。
e-mail・研究室 (連絡先)	佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木克：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
救急医療学	理学・作業療学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 武田 健一郎	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	1) 救急医療の実際について現場の医師が講義を行う。 2) ショックの病態など生命予後に関わる様々な病態を教授する。 3) 最新の救急蘇生法を理解し、その技術を教授する。							
一般目標	1) 救急医療の現状・実際を理解する。 2) バイタルサインの重要性を理解する。 3) 心肺停止による各臓器への影響を理解する。脳志向型蘇生としての体温管理療法を理解する 4) 心肺停止傷病者に対し、心肺蘇生法を実践する。							
到達目標	1) バイタルサインを測定し、その測定結果を適切に評価できる。 2) ショック、外傷など救急疾患を理解し、その初期治療について説明できる。 3) 日常的に遭遇する救急疾患について応急処置を実践できる。 4) 脳死の概念を理解し、日本の臓器移植の現状について説明できる。 5) 日本全国で整備が進んでいるドクターヘリの現状について説明できる。 6) 心肺停止の患者に対して、医療者として実際の現場で心肺蘇生法を実践することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1) 講義の理解の程度：講義中に確認します。50％ 2) 実習での知識技術の習得状況：実際の手技を行ってもらい確認します。50％							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5.10. 3 (火) 3	救急医療概論	救急医療の現状、実際について学ぶ。			実習前に、4 回 目の講義で扱 う「心肺蘇生 法」の内容を 必ず確認して ください。	武田	
2	5.10.10 (火) 3	バイタルサイン ショックについて	バイタルサインの重要性を理解し、その測定方法、 結果の解釈方法を学ぶ。 ショックの種類とそれぞれへの対処法を学ぶ。					
3	5.10.17 (火) 3	熱中症について 脳死、臓器移植につい て	毎年夏に話題となる熱中症についてその原因と対 処法について学ぶ。 脳死の概念と判定基準、臓器移植の実際について学 ぶ。					
4	5.10.24 (火) 3	心肺停止について 心肺蘇生法について ドクターヘリについ て	心肺停止の原因とそれによる身体への影響につい て学ぶ。 ガイドラインに基づいた心肺蘇生法について学ぶ。 ドクターヘリの概念と活用方法について学ぶ。					
5 ～ 8	5.11.18 (土) 1-4	心肺蘇生法 (実習)	蘇生練習用の人形を用いて、一次救命処置、気道異 物除去、マスク換気、AED 等を実践する。 (5～8 回は県立中央病院医師、看護師 8 名が講師 となります)					
教 科 書 参 考 図 書		教科書は指定しません。毎回講義内容の資料を配布します。 参考図書：救急蘇生法の指針《2020》へるす出版（最新版を確認してください）						
履 修 上 の 注 意		前半の 4 回は座学、後半の 4 回は実習になります。 講義では実際の救急現場で遭遇する疾患・外傷の写真や動画を個人情報に配慮したうえで使用します。 救急医療は時間が勝負です。実技は何度も繰り返し身体で覚えるようにして下さい。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		いつ何時あなたの周りで大切な家族が、または見知らぬ人が、突然心肺停止状態になるかもしれません。 あなたが行動を起こさなければその人を救う事はできません。医療従事者を志す者として基本的な救急 医療の知識を持ち、心肺蘇生の手技を習得しておくことは必須です。この講義・実習を通して自信を持 って傷病者の救助が出来るようになって下さい。 適切なスピードでの講義に努めます。不明な点は積極的に質問してください。 最新のトピックも講義内容に含めます。配布資料は毎年更新します。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		教務学生課						
連 絡 調 整 担 当 教 員		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生殖遺伝学	看護学科 (専門基礎科目)	教授・遠藤 恵子	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	性と生殖に関する形態機能と影響する薬剤、および遺伝の基礎的な知識を教授する。							
一般目標	1. 生殖の構造と機能を理解する。 2. 薬物が生殖機能に与える影響を理解する。 3. 性と生殖に関する主な異常を理解する。							
到達目標	1. ライフサイクル各時期における性機能について説明できる。 2. 生殖器の構造を説明できる。 3. 生殖機能に関連する薬物とその作用を説明できる。 4. 薬物が胎児に与える影響を説明できる。 5. 人体の発生の機序を説明できる。 6. 生殖器の腫瘍や生殖機能の異常とその治療について説明できる。 7. 遺伝と出生前診断の基本を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験によって到達目標 1～7 の到達度を評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外 学習など	担当	
1	5. 11. 6 (月) 5	生殖機能とライフサイク ル	性機能の発達、性周期				遠藤	
2	5. 11. 13 (月) 5	生殖器の構造	男性生殖器、女性生殖器、骨盤周辺の筋肉				仁藤	
3	5. 11. 20 (月) 5	不妊、生殖補助医療	不妊の検査、治療				スポット (宍戸)	
4	5. 11. 27 (月) 5	遺伝と出生前診断	遺伝相談、出生前診断				遠藤	
5	6. 1. 17 (水) 4	生殖と薬物	生殖機能に関連する薬物、ホルモン薬				蓬田	
6	6. 1. 17 (水) 5	人体の発生	染色体、受精、胚、性分化				スポット (前田)	
7	6. 1. 24 (水) 4	先天異常と薬害	催奇形性、薬害による胎児への影響				蓬田	
8	6. 1. 24 (水) 5	生殖器の主な疾患	生殖器の腫瘍、感染症				スポット (前田)	
教 科 書 参 考 図 書		参考書：授業内で紹介します						
履 修 上 の 注 意		既習の知識や科目を復習して授業に臨んでください。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		・性と生殖の特徴を学ぶとともに、自身の性と生殖について考える機会にしてください。 ・この授業科目は、周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎保健学		看護学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 邵 力	必修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		情報が溢れている現在、保健・医療・介護に関するデータを活用する際に、情報の内容と質を見極める能力が必要とされている。本講義では疾病の予防における疫学の役割を解説する。さらに、種々の医療保健情報に用いられる健康指標・研究デザインについて説明し、正しく情報を判断できる能力を身につけさせる。							
一般目標		健康・疾病の概念について理解し、疫学の考え方及びその応用について学び、看護師として必要な公衆衛生、予防医学、保健医療に関する知識を習得する。							
到達目標		1. 健康及び予防医学の概念について説明できる。 2. 疫学の考え方及び役割について理解できる。 3. 疾病統計の指標や国民衛生の動向について解説できる。 4. 疫学研究デザインの種類及びその長所・短所について理解できる。 5. わが国における感染症の発生動向及び新型コロナウイルス感染症対策について説明できる。 6. 生活習慣と疾病との関係とその予防について説明できる。 7. がんの疫学及びがん予防について説明できる。 8. 根拠に基づく看護における疫学の役割について理解できる。 9. 遺伝要因と環境要因と疾患発症との関連について了解する。 10. ゲノム医療の概念及びがんゲノム医療の現状と課題について了解する。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：定期試験で評価する(100%)。 方法：筆記試験で講義内容の理解度、知識の応用力を評価する（授業終了後）。 基準：60 点以上を合格とする。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 25 (月) 2	疫学入門			予防医学と疫学			邵	
2	5. 10. 2 (月) 2	疫学指標			健康・疾病統計の指標				
3	5. 10. 16 (月) 2	疫学研究方法			疫学研究デザイン				
4	5. 10. 23 (月) 2	疫学の応用 1：感染症疫学			感染症の予防と COVID-19				
5	5. 10. 30 (月) 2	疫学の応用 2：生活習慣病に関する疫学調査			生活習慣病の予防				
6	5. 11. 6 (月) 2	疫学の応用 3：がんの予防			がんの疫学とがん検診				
7	5. 11. 13 (月) 2	疫学の応用 4：EBN（根拠に基づく看護）			EBM と保健医療データ利活用				
8	5. 11. 20 (月) 2	疫学の応用 5：分子疫学とゲノム医療			ヒトゲノム計画とゲノム医療				
教 科 書 参 考 図 書		教科書： 基本からわかる看護疫学入門（第3版）（医歯薬出版） 参考図書： 公衆衛生マニュアル 2023（南山堂） 図説国民衛生の動向 2022/2023（厚生労働統計協会） はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第3版（南江堂） 基礎から学ぶ遺伝看護学（羊土社）							
履 修 上 の 注 意		1. 初めて聞く言葉や専門用語が多いので、授業後配布資料や教科書を用いて復習してください。 2. 各回の配布資料の最後にある練習問題を必ず解くようにしてください。 3. 欠席した場合、授業の配布資料は翌週の授業の時に必ず受け取るようにしてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		与えられるものは有限、求めるものは無限。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		邵 力：shori@med.id.yamagata-u.ac.jp (山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学・衛生学講座)							
連 絡 調 整 担 当 教 員		栗田敦子：第2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
保健統計学	看護学科 (専門基礎科目)	助 教 栗田 敦子 非常勤講師 大益 史弘	必修	2	後期	2	非該当	可
授業概要	集団の健康課題を把握するための健康指標とそれらを導き出す統計解析手法等について教授する。さらに 集団の健康指標を可視化し、健康課題抽出ができるよう、統計解析手法の演習を行う。							
一般目標	1. 健康指標の構造や基本的考え方を理解し、健康指標を算出するための方法を修得できる。 2. データ解析結果に基づいた考え方を修得できる。 3. 人口統計や保健統計調査を理解できる。 4. 集団の健康指標を可視化し、健康課題抽出するためのデータの統計学的解析の具体的方法を修得できる。							
到達目標	1. 保健統計学の概要について説明することができる。 2. 健康指標の構造と各々の健康指標が持つ課題について具体的に述べることができる。 3. 人口統計や保健統計調査の特徴と各々の人口統計が持つ課題について具体的に述べることができる。 4. 統計学的手法を用いてデータの解析と集団の健康指標を可視化ができる。 5. 基本的なデータの事例を用いて、健康課題が抽出できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・定期試験 60％：保健統計学の基礎的知識と考え方、保健統計の実際 ・演習の成果物 40％：統計学的手法を用いてデータの解析と集団の健康指標を可視化した成果物							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 9. 25 (月) 1	保健統計指標 I	・保健統計学の概要と、人口問題につ いて学習する。					大益
2	5. 10. 2 (月) 1	保健統計指標 II	・出生と死亡を中心とした健康の指標 について学習する。					大益
3	5. 10. 6 (金) 5	平均・分散・標準偏差	・様々な平均値と標準偏差の算出方法、 また、それらの表す事象を学習する。					大益
4	5. 10. 16 (月) 1	相関係数	・相関の意味と相関係数の算出方法に ついて学習する。					大益
5	5. 10. 20 (金) 5	回帰直線	・直線回帰式の表わし方と求め方を学 習する。					大益
6	5. 10. 23 (月) 1	検定の理論	・正規分布性と確率分布曲線をもとに して検定の理論について学習する。					大益
7	5. 10. 30 (月) 1	いろいろな検定法 I	・F 分布曲線と T 分布曲線をもとにした 検定方法を学習する。					大益
8	5. 11. 6 (月) 1	いろいろな検定法 II	・カイ 2 乗分布曲線をもとにした検定 方法を学習する。					大益
9	5. 12. 4 (月) 1	表計算ソフトの活用 (情報処理方法とデー タの可視化)	・データファイルの作成、データセッ ト、表を作成する、関数を使う、グ ラフを書く(統計図表の作成) ・情報処理の基礎 ・健康情報の可視化			情報処理の基礎をふ まえ、健康情報の可 視化のための個別演 習を実施する。		栗田・ スポット 講師
10	5. 12. 11 (月) 2							
11	5. 12. 18 (月) 2							
12	5. 12. 25 (月) 2							
13	6. 1. 15 (月) 2							
14	6. 1. 22 (月) 1	健康課題の抽出	・数的データを用いて健康課題の抽出 を行う。					スポット (後藤)
15	6. 1. 22 (月) 2	・国民保健の現状 ・保健統計調査	・健康指標、人口動態、人口静態につ いて学習する。 ・基幹統計及びその他の統計調査、医 療経済統計について学習する。					スポット (後藤)
教 科 書 参 考 図 書	教科書：「やさしい保健統計学 改訂第 5 版」縣俊彦著(南江堂)							
履修上の注意	基礎保健学や保健医療福祉政策論及び公衆衛生看護学概論と関連付けて学ぶこと							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	保健統計は公衆衛生看護の活動展開のためには重要な知識と技術です。集団をとらえ、集団の特徴を表現 する手法を積極的に身につけてください。							
e-mail・研究室 (連絡先)	栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
国際保健論	三学科共通 (専門基礎科目)	教授・佐藤 寿晃	選択	2	後期	2	非該当	否		
授業概要	国際保健論では文化の異なる社会に暮らす人々の健康と人々の置かれている状況を認識し、各諸国の保健システムや国際協力の実際について説明する。									
一般目標	世界の健康格差の現状とその社会・経済・文化的な背景を理解し、保健医療分野における国際協力のニーズと日本の役割で理解する。									
到達目標	1. 国際保健で用いられる指標の意味と読み方を理解し、世界の健康格差の現状を説明できる。 2. 各諸国の保健医療システムについて理解できる。 3. 国際協力の概要と実際を理解できる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針・方法 到達目標内容をまとめたレポート（800 字程度）で評価します。									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当			
1 2 3 4 5 6 7 8	集中講義 (後日連絡)	＜国際保健論 総論＞ 国際保健の目指すゴールは「公平と社会正義」の実現である。これは統制的理念の一つであり、それに向かって活動すべき方向性を示している。その実現のため、本コースでは以下のことを学んでいく。平等と公平の違いは何か。許しがたい健康格差とは何か。サステイナビリティとは何か。そのためのアプローチとしてのポジティブ・デビエンス手法とは何か。ヘルスプロモーションとは何か。これらを世界の具体的事例をもとに学んでいく。 (神馬征峰先生)						佐藤 (神馬)		
9 10 11 12 13 14 15		国際保健論＜各論＞ ・日本の開発途上国への母子保健協力 ・日本の開発途上国へのリハビリテーション分野の協力、 ・国際障害者の権利条約 ・多職種連携教育							佐藤 (吉田) (李)	
教 科 書 参 考 図 書										
各授業では必要な資料を配付します。										
履 修 上 の 注 意										
集中講義となります。事前に日程は連絡します。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ										
保健をキーワードに異文化を理解する眼を養ってください。										
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
チーム医療論	三学科共通 (専門基礎科目)	学 長・上月 正博 教 授・石川 仁 教 授・佐藤 寿晃 准教授・鈴木 由美 准教授・丹野 克子 講 師・槌谷由美子 教 授・遠藤 恵子	必修	3	通年	1	非該当	否
授業概要	チーム医療の概念およびチーム医療に参加する専門職の役割について教授するとともに、職種間の相互理解を深めながら協働してチーム医療を実践する能力を養う。							
一般目標	1. チーム医療とは何かを理解できる 2. チーム医療における患者医療者関係が理解できる 3. チーム医療における倫理性を考察する 4. チーム医療の実際を学び、チームの成員となる職種について理解する 5. 専門的立場からチーム医療に参加する姿勢を身につける							
到達目標	・チーム医療の概念について説明できる ・チーム医療における患者医療者関係について説明できる ・チーム医療を担う職種間の相互理解について説明できる ・各職種間のチームでの役割や連携について説明できる ・三学科合同のグループでの演習や討議にチームの一員として主体的に参加することができる ・事例について得られた情報を分析し、チームで目標を設定することができる ・良好な医療チームを形成し意見交換することができる ・相互理解を深めながら、目標に到達するための方法を討議することができる ・課題学習のプロセスをまとめたレポートを作成することができる ・グループ学習の成果をまとめ発表することができる ・多職種の役割と活動状況などについて聴講することができる ・チーム医療に関する今後の課題を示すことができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・レポート（課題に関する知識・考察の内容を評価する）、学習態度(授業への参加態度、積極性、理解度などを評価する)で総合的に判断する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 4. 13 (木) 1	1. 授業概要・序論 チーム医療概論 専門職の協働 2. 事例検討	1. 授業概要説明・序論（講義） チーム医療とは何か、チーム医療における患者医療者関係・職種間相互理解の基本、各医療専門職の概要など			授業で示す課題についてのレポートや報告書の作成、グループ討論などは、適宜、授業外の時間も利用して学習を行う		各講義の担当については授業の中で周知する
2	5. 4. 20 (木) 3		・緩和ケアチームの実際					
3	5. 4. 27 (木) 3		・NST チームの実際					
4	5. 5. 11 (木) 3		・感染対策チームの実際					
5	5. 5. 18 (木) 3		・在宅医療チームの実際					
6	5. 5. 25 (木) 3		・大規模災害時の支援チームの役割					
7	5. 6. 1 (木) 3		2. 事例検討（グループワーク）					
8	5. 6. 8 (木) 3		事例（ペーパー・ペーシエント）を題材に、					
9	5. 6. 15 (木) 3		専門的立場から分析し、グループ討議により					
10	5. 6. 22 (木) 3		目標設定や適切なアプローチを探る					
11	5. 6. 29 (木) 3							
12	5. 7. 6 (木) 3							
13	5. 7. 13 (木) 3							
14	5. 7. 20 (木) 3							
15	5. 7. 27 (木) 3							
教科書 参考図書	教科書：なし 参考図書：実践チーム医療論―実際と教育プログラム―(インタープロフェッショナル・ヘルスケア) 医歯薬出版株式会社							
履修上の注意	演習を主体とした授業も予定しているので、主体的・能動的に講義に臨む。この授業科目は、総合実習Ⅰ（作業療法学科）においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	三学科合同で演習グループを編成するので、学科の枠を超えて積極的に交流し、授業の中でもチーム医療の実践を体験する。							
e-mail・研究室 (連絡先)	上月：学長室 kohzuki@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 石川：研究室 24 hishikawa@yachts.ac.jp 佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp 丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp 槌谷：研究室 29 vtsuchiya@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学 年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高次脳機能障がい論		三学科共通 (専門基礎科目)	准教授・外川 佑	看 護－選択 理・作－必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要		・脳の機能と構造について教授する。 ・高次脳機能障がい有する対象者の臨床像について教授する。							
一般目標		・脳の機能と構造を理解する。 ・高次脳機能障がい有する対象者の病態とその評価方法を理解する。							
到達目標		・脳の機能と構造を説明できる。 ・高次脳機能障がい有する対象者の障害像を解釈・説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（60%）、講義内復習小テスト（40%）をあわせて100 点満点として評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など		担当
1	5. 4. 20（木）3	高次脳機能障がい学総論	高次脳機能障がいの概要、脳の構造と機能、大脳動脈とその灌流領域				覚えることが多いので、復習をしっかりとってください。 授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおく と理解が進みやすいです。		外川
2	5. 4. 27（木）3	注意障がい	注意機能の分類と症状、注意障がいの責任病巣、注意障がいの評価、注意障がいに対する支援						
3	5. 5. 11（木）3	半側空間無視とその関連症状	半側空間無視の症状と評価、半側空間無視の責任病巣、半側空間無視に対する支援、身体に対する無視症候群、バリント症候群						
4	5. 5. 18（木）3	認知の障害	失認の症状と評価、失認の責任病巣、失認に対する支援						
5	5. 5. 25（木）3	行為・行動の障がい	失行の症状と評価、失行の責任病巣、失行に対する支援、動作の抑制・開始・出力・維持の障がい						
6	5. 6. 1（木）3	言語障がい	失語症患者の言語症状、失語症のタイプ分類、失語の評価、失語に対する支援						
7	5. 6. 6（火）4	記憶障がい	記憶のプロセス、記憶の分類、記憶障がいの評価、記憶障がいに対する支援						
8	5. 6. 13（火）4	遂行機能障がい	遂行機能の要素、遂行機能障がいの症状と評価、遂行機能障がいに対する支援						
教 科 書 参 考 図 書		教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。 【参考図書】 石合純夫：高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版社 平山和美：高次脳機能障害の理解と診察 中外医学社 大槻閑人、子鹿ゆずる：アンメットーある脳外科医の日記ー 講談社							
履 修 上 の 注 意		特になし							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		高次脳機能障がいについて学ぶことを通して、高次脳機能に関する理解を深め、臨床現場で対象者への対応に活かしてほしい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		外川 佑： 研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神障がい論	三学科共通 (専門基礎科目)	教 授・安保 寛明 教 授・菊池 昭夫 講 師・佐々木 学	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	精神の健康が障がいされた状態あるいは精神機能が阻害された状態について、生理・心理・社会的な要因の影響とその影響を教授するとともに、精神科医療や精神保健福祉における診断、治療、リハビリテーションの構造を教授する。 また、精神機能の低下がもたらす本人や周囲の人が経験しがちな事項と回復への経過について、社会的包摂やチーム医療、地域連携などの観点から教授する。							
一般目標	精神機能が阻害される要因とその状態がもたらす影響について理解することで、精神的危機や精神機能の低下が起きた人に対する適切な理解をもつことができ、全人的な医療に関与することができる。							
到達目標	精神症状の適切な査定と背景の推察ができ、精神症状を有する人への基本的な対応が記述できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験 80%（筆記）、講義への参加度 20%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 4. 12（水）2	精神障がい基礎総論	パワーポイント、ビデオなどを使用した講義形式 ※授業項目の順番や内容は変更になる可能性があります。				佐々木	
2	5. 4. 14（金）5	老年期における精神障害（Ⅰ）					菊池	
3	5. 4. 19（水）2	社会的リハビリテーション					佐々木	
4	5. 4. 21（金）5	老年期における精神障害（Ⅱ）					菊池	
5	5. 4. 28（金）5	身体因性精神障害					菊池	
6	5. 5. 10（水）2	統合失調症（Ⅰ）					スポット （安孫子）	
7	5. 5. 12（金）5	身体因性精神障害					菊池	
8	5. 5. 17（水）2	統合失調症（Ⅱ）					スポット （安孫子）	
9	5. 5. 24（水）2	気分障害（Ⅰ）					スポット （井上）	
10	5. 5. 31（水）2	物質使用・行動障害（Ⅰ）					スポット （小林）	
11	5. 6. 7（水）2	物質使用・行動障害（Ⅱ）					スポット （小林）	
12	5. 6. 14（水）2	気分障害（Ⅱ）					スポット （井上）	
13	5. 6. 28（水）2	地域精神保健，社会的包摂（Ⅰ）					安保	
14	5. 7. 5（水）2	障がい者福祉，社会的包摂（Ⅱ）					安保	
15	5. 7. 19（水）2	まとめ					安保・佐々木	
教 科 書 参 考 図 書	参考図書 谷岡哲也他，メディカルスタッフのための精神医学，中外医学社（看護学科、理学療法学科） 大熊輝雄，現代臨床精神医学，金原出版株式会社（作業療法学科）							
履 修 上 の 注 意	予習をしてから講義に臨んでください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと講義に臨むことを希望します。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	安 保：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 菊 池：研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp 佐々木：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児疾病論		看護学科 (専門基礎科目)	教 授・石川 仁 非常勤講師・鈴木恵美子 非常勤講師・森 福治	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要		出生前、新生児、乳児期、幼児期、学童期、思春期に至る小児の成長・発達を踏まえ、小児における代表的疾患について病態と治療を学び、その特質についての理解を深め、看護への手がかりとする							
一般目標		1. 小児の特性、小児に特有な疾患の病態や診断治療について理解する 2. 小児の成長発達に適した看護を考えるための基礎知識を習得する 3. 疾患や症状、またその治療が小児に及ぼす影響を考察する							
到達目標		・染色体異常に基づく疾患を列挙し、その臨床徴候を概説できる ・胎児期における障がいとその対応を説明できる ・小児期における主たる感染症を列挙し、その起因微生物、感染経路、徴候、診断、治療、予防法を説明できる ・小児感染症の集団発生事例への対応を説明できる ・予防接種の対象疾患、意義および副反応等への対応を説明できる ・小児期のアレルギー疾患を分類し、各々の特徴を説明できる ・各種免疫不全症の病態、診断法を説明できる ・小児期における主たる膠原病を概説できる ・小児期における主要な腎・泌尿器疾患を列挙し、その特徴、診断、治療法を説明できる ・小児期における主要な生殖器疾患を列挙し、その特徴、診断、治療法を説明できる ・小児期における主要な内分泌疾患を列挙し、その特徴、診断、治療法を説明できる ・小児期における主要な呼吸器疾患を列挙し、その特徴、診断、治療法を説明できる ・小児期における主要な消化器疾患を列挙し、その臨床的特徴、診断、治療法を説明できる ・小児期における主要な血液疾患を列挙し、その特徴、検査診断法、治療法を説明できる ・小児期の非造血系悪性腫瘍について、その病理、臨床的特徴、診断、治療法を概説できる ・小児期における主要な循環器疾患、とくに先天性心疾患を列挙し、その臨床的特徴、診断、治療法を説明できる ・川崎病の診断基準と治療、対応を説明できる ・小児期における主要な代謝異常を列挙し、その臨床的特徴、診断、治療法を説明できる ・小児の運動器・整形外科疾患の診断、治療を概説できる ・小児の神経疾患の特徴、対応を説明できる ・小児の精神神経疾患における臨床徴候や対応を述べることができる ・発達障がい、重症心身障がいおよび知的障がいなどの分類・診断ができる ・耳鼻咽喉領域における小児疾患の特徴を説明できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（筆記試験）の成績で評価するが、学習態度も加味する。 尚、合格基準は100点満点に換算して、60点以上をもって合格とする。							
授業計画									
回	日付		授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 4. 12（水）5		授業オリエンテーション 小児感染症の集団発生事例への対応	講義を中心に授業を行うが、できるだけプリント・配布資料などを用い、また、必要に応じて、ビデオなどの教材を活用する予定。さらに、それぞれの講師の臨床体験に根ざした事例を紹介することで、臨場感のある講義を実践する。		時間の関係で講義の中で全ての項目に触れる事は難しいので、不足の部分は参考教材（図書館の図書、ビデオなど）を積極的に活用し自主的に補充学習すること。		石川	
2	5. 4. 19（水）5		呼吸器疾患・消化器疾患と感染症					鈴木（恵）	
3	5. 4. 26（水）5		新生児疾患・染色体異常					森（福）	
4	5. 5. 10（水）5		内分泌・代謝性疾患、免疫・アレルギー疾患					森（福）	
5	5. 5. 17（水）5		循環器疾患（1）川崎病					鈴木（恵）	
6	5. 5. 24（水）5		腎臓・泌尿器疾患					森（福）	
7	5. 5. 31（水）5		循環器疾患（2）先天性心疾患と心臓検診					鈴木（恵）	

8	5. 6. 7 (水) 5	耳鼻咽喉科領域の疾患			スポット (青柳優)
9	後日連絡	神経疾患・発達障がい (1)			山大小児科
10	後日連絡	神経疾患・発達障がい (2)			山大小児科
11	後日連絡	神経疾患・発達障がい (3)			山大小児科
12	5. 7. 5 (水) 5	血液・造血器疾患、悪性新生物			スポット (前田邦彦)
13	5. 7. 12 (水) 5	母乳・育児			スポット (佐藤文彦)
14	5. 7. 19 (水) 5	小児の精神疾患・発達障がい			スポット (有海清彦)
15	5. 7. 26 (水) 5	小児の運動器・整形外科疾患			スポット (金内ゆみ子)
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 (医学書院) 参考図書：各講義において、紹介する			
履 修 上 の 注 意		講義の大部分が学外講師の授業で構成されているため、講義内容や時間に変更の可能性がある ので、常に掲示等に充分注意して授業に臨むこと。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		学外講師の分担による授業のため、質問がある場合は、基本的には授業中に解決するように 心がけること。			
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		石川仁：研究室 24 hishikawa@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
運動器障がい論		理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	教授・村 成幸	必修	1	後期	2	非該当	可
授業概要		骨関節・筋・脊髄末梢神経の機能・病態治療の最新の知識を教授する							
一般目標		整形外科学の基本的知識を習得する							
到達目標		1. 主な関節疾患の病態や症状について説明できる 2. 主な脊椎疾患の病態や症状が説明でき、麻痺の程度を認識できる 3. 四肢外傷の症状や合併症を説明できる 4. 骨、関節疾患に関する基本的検査の意味を理解できる 5. 整形外科的医療が人間の QOL の維持・向上に大きく寄与していることを認識する							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		期末テスト（90%）と授業態度（10%）で評価する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・ 学習方法		授業外学習 など		担当
1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11・12 13・14 15	5. 9. 28 (木) 3・4 5. 10. 5 (木) 3・4 5. 10. 19 (木) 3・4 5. 10. 26 (木) 3・4 5. 11. 2 (木) 3・4 5. 11. 9 (木) 3・4 5. 11. 16 (木) 3・4 5. 11. 30 (木) 3	骨関節筋の解剖生理・修復 総論 骨代謝 関節変性炎症性疾患, 関節リウマチ類似疾患 脊髄脊椎高位診断 脊椎外傷・疾患 末梢神経 絞扼性神経障害 血行障害 上肢疾患 下肢疾患 骨軟部腫瘍 先天異常 まとめ			画像・video 等を使用 して病態を解説する				村
教 科 書		教科書：標準整形外科学（医学書院）							
履 修 上 の 注 意		解剖学の知識が必須なので、夏季休暇中に前期の生体形態学の復習をしておくこと							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		運動器障がいの理解は、リハビリテーションには必須です。しっかり勉強しましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		村 成幸：研究室 35 nmura@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
発達障がい論	理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 二瓶 健次 平元 東 井田 英雄	必修	2	前期	2	非該当	可		
授業概要	子どもの一般的な発達について “一般的な“発達ができない子どもたちについて事例を交えて講義します。									
一般目標	小児の発達について知った上で、それが適わない子どもたちとその家族に対してどのような支援が出来るか考え、実行できるようにする。									
到達目標	・ 大まかな小児の発達を理解する ・ 具体的な疾患とその症状、合併症などについて理解する ・ 療育に関する見解を深める									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験(100%)									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など		担当				
1	後日連絡	・ 自閉性障害 ・ 学習障害、注意欠如・多動症 ・ 小児内部障害、小児癌など	*授業項目の順番 や内容は変更になる 可能性があります。 *パワーポイント、 ビデオなどを 使用した講義形式	参考書を読んで おくこと		二瓶				
2										
3										
4	5. 7. 19 (水) 5	・ 重症心身障害 ・ 知的障害 ・ NICU				平元				
5	5. 7. 20 (木) 1									
6	5. 7. 20 (木) 2									
7	後日連絡	・ 小児の成長と発達 ・ 診察・評価法、発達障害 ・ 先天異常（奇形、染色体異常など）				参考書を読んで おくこと		山大小児科 山大小児科 山大小児科		
8										
9										
10	5. 6. 6 (火) 3 5. 6. 13 (火) 3 5. 6. 20 (火) 3 5. 6. 27 (火) 3 5. 7. 4 (火) 3 5. 7. 11 (火) 3	・ 肢体不自由児施設のリハビリテーション ・ 脳性麻痺 ・ 筋ジストロフィー ・ 二分脊椎 ・ 骨系統疾患 ・ 障がい児に対する補装具 ・ 障がい児に対する手術						井田		
11										
12										
13										
14										
15										
15										
教科書 参考図書	参考書：標準リハビリテーション医学（医学書院）、現代リハビリテーション医学（金原出版）、小児リハビリテーションポケットマニュアル（診断と治療社） ほか									
履 修 上 の 注 意	特になし									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	障害児者のノーマライゼーション（社会の中で、健常者と共に自立して生活していく）のためには幼少時の関わりがとても大切です。療育への関心を少しでも高めてもらえればと思います。									
e-mail・研究室 (連 絡 先)	教務学生課									
連 絡 調 整 担 当 教 員	石川 仁：研究室 24 hishikawa@yachts.ac.jp 森 直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp									

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
神経障がい論		理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	教授・菊池 昭夫	必修	2	前期	2	非該当	可
授業概要		神経系の構造・機能を詳しく講義する。神経系の各種の障がいの病態機序を講義する。 神経学的診察、診断の方法を講義する。各神経疾患の病因、症状、診断、治療について講義する。							
一般目標		神経系の構造・機能をさらに深く理解する。神経系の各種の障がいの病態機序を理解する。神経学的診察、 診断の方法を理解する。各神経疾患の病因、症状、診断、治療について理解する。							
到達目標		神経系の構造・機能、神経系の各種の障がいの病態機序、神経学的診察、診断の方法、各神経疾患の病因、 症状、診断、治療について、実演や図を用いて説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		レポート等で評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1 2 3 4 5 6 7 8	5.4.13 (木) 2 5.4.20 (木) 4・5 5.4.27 (木) 4・5 5.5.11 (木) 4・5 5.5.18 (木) 4・5 5.5.25 (木) 4・5 5.6. 1 (木) 4・5 5.6. 8 (木) 4・5	神経疾患の特徴・神経系の構造と機能の復習 脳画像の見方 意識・脳神経 筋力・筋緊張・筋萎縮・不随意運動・反射 体性感覚・平衡・協調運動・構音・嚥下 血管障害・腫瘍・外傷・脊髄疾患 変性疾患・脱髄疾患・感染症 中毒栄養欠乏疾患・末梢神経疾患 筋疾患・神経筋接合部疾患			スライド、プリント、 動画、実演などを行 いながら、神経疾患 について学習する。				菊池
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：奈良勲、鎌倉矩子監 川平和美著「標準理学療法学・作業療法学・神経内科学」(医学書院)							
履 修 上 の 注 意		授業はスライドを用いて行います。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		丸暗記ではなく、考え方をよく理解して覚えてください。その方が、ずっと臨床に役立ちます。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菊池昭夫：研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
社会福祉論	三学科共通 (専門基礎科目)	非常勤講師 高梨 友也 千脇 隆志	必修	2	前期	2	非該当	否
授業概要	・医療と福祉の始まりから専門分化の過程について解説し、制度面を確認したうえで少子高齢化と人口減少社会における医療・保健・福祉およびリハビリテーションにおける多職種連携の必要性について講義する。 ・自立支援、就労支援、地域包括ケアおよび共生社会のあり方と推進方法について講義する。 ・対人援助職に必要な人間観・援助観について講義し、各自が自分なりの人間観・援助観について考察を深め、自身の今後に繋げていく講義とする。							
一般目標	社会福祉の現状を知り、現代の「普遍的社会福祉」において、社会福祉や社会保障が自分や身の周りの人々とどのように関連づいているのかを理解する。そのうえで、医療・保健・福祉の実践現場において社会福祉の制度や援助理論がどのように関わるのかを理解し、多職種連携の必要性とあり方を説明できる。							
到達目標	・社会福祉と社会保障の基本的な考え方と仕組みを説明することができる。 ・医療の現場に求められる社会福祉と社会保障の制度や知識を抽出することができる。 ・医療と福祉の連携の必要性を理解し、現在進められている連携のあり方について述べるすることができる。 ・社会福祉援助技術の医療現場への活用について説明することができる。 ・自立支援、就労支援、地域包括ケア、共生社会のあり方を説明し、その推進に寄与できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：記述式の試験を行う。授業内レポートを数回課す。 方法：事例や資料映像、課題などを提示し、そのことについて思考を深め、自分の考えをレポートとして提出する。授業で学んだことや考えたことをミニツペーパーにて提出する。 基準：定期試験 50%、授業内レポート 20%、毎回の授業の振り返り（ミニツペーパー） 30%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5.4.10（月）5	授業ガイダンス 社会福祉の歴史	(1)学習内容 ・社会福祉、社会保障の全体に触れる。 ・福祉と医療の視点の違いを学ぶ。 ・社会保障の現状を理解し、連携が意味するものや連携の必要性について考察する。 ・多職種連携が対象者の利益になることを理解し、具体的な場面を想定し、連携に必要な要素と自分の役割について考察する。 ・自立支援の意味を深く考察することで、看護やリハビリテーションがもたらす自立(自律) について自分の考えを深める。 ・共生社会の実現に向けた就労支援や地域包括ケアのあり方を学び、その推進に必要な要素を学ぶと同時に自分の役割を考察する。 (2)学習方法 ・テキストと授業資料に基づき説明し、質疑応答や追加説明などにより、授業内容の理解を確実なものにしていく。 ・適宜事例、資料映像、課題提示などを行い、それに関する学びや自分の考えを表現することで、「説明する」演習とする。 ・社会福祉援助技術では、簡単な演習を行う。 ・医療と福祉の「連携」が生み出すものについて考察し、必要時グループ議論する。			必要に応じ て指示する。	高梨	
2	5.4.17（月）5	社会保障を概観する					高梨	
3	5.4.24（月）5	社会福祉を概観する					高梨	
4	5.5. 1（月）5	医療保障制度					高梨	
5	5.5. 8（月）5	介護保険制度（1）					千脇	
6	5.5.15（月）5	介護保険制度（2）					千脇	
7	5.5.22（月）5	障害者福祉の現状					高梨	
8	5.5.29（月）5	社会福祉援助技術（1）					千脇	
9	5.6. 5（月）5	社会福祉援助技術（2）					千脇	
10	5.6.12（月）5	児童家庭福祉の現状					千脇	
11	5.6.19（月）5	所得保障制度					高梨	
12	5.6.26（月）5	高齢者福祉制度					高梨	
13	5.7. 3（月）5	連携の必要性を理解する					高梨	
14	5.7.10（月）5	公的扶助制度					千脇	
15	5.7.24（月）5	連携のあり方を考える					高梨	
教 科 書 参 考 図 書	教 科 書：系統看護学講座専門基礎課程(医学書院) 社会保障・社会福祉～健康支援と社会保障制度③ 参考図書：随時資料・情報提供							
履 修 上 の 注 意	・医療と福祉が連携することが対象者（患者・利用者）の利益に繋がります。制度上も協働が促進されていることから、多職種連携の留意点（相互理解）を確認しながら履修しましょう。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	・医療従事者が通常関わる「患者」の「生活領域」を「対象」とすることで患者という「対象者理解」は深まります。人間を「対象」とする仕事の意味も同時に考えていきましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	高梨友也:t_takanashi@t-bunkyo.ac.jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員	丹野克子：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp							

3 専 門 科 目

(1) 看 護 学 科

専門科目（看護学科）

※令和4年度以降入学生科目

科目名	頁	科目名	頁
※看護学概論	91	※精神看護学概論	149
※基礎看護技術論Ⅰ（生活の援助技術）	92	※精神看護方法論Ⅰ	151
※基礎看護技術論Ⅱ（診療の援助技術）	96	精神看護方法論	153
※看護倫理	98	※精神保健学実習	155
※看護理論	99	精神看護学実習	156
※看護過程論	100	※在宅看護概論	157
※看護人間関係論	101	※在宅看護方法論Ⅰ	158
※フィジカルアセスメント論	102	在宅看護方法論Ⅱ	159
※家族看護学	104	在宅訪問看護実習	160
※基礎看護学実習Ⅰ	105	在宅看護連携実習	161
※基礎看護学実習Ⅱ	106	※公衆衛生看護学概論	162
※小児看護学概論	107	※保健医療福祉政策論	163
小児看護方法論	108	保健統計学	165
※小児看護学実習Ⅰ	110	ケアシステム論	166
小児看護学実習Ⅱ	111	学校保健論	167
※母性看護学概論	112	産業保健論	168
※妊娠分娩期看護方法論	113	公衆衛生看護方法論Ⅰ	169
母性看護方法論Ⅱ	115	対象別公衆衛生看護論	170
母性看護学実習	117	公衆衛生看護方法論Ⅱ	171
※助産プロフェッショナリズム	118	ヘルスコミュニケーション論	172
※リプロダクティブヘルスケア	119	コミュニティ活動展開論	173
妊娠期助産方法論	120	公衆衛生看護管理論	175
分娩期助産方法論	121	地域看護診断実習	176
産褥期助産方法論	123	公衆衛生看護活動実習	177
地域母子保健	126	看護教育学	179
助産管理	127	看護管理学	180
妊娠期助産実習	128	健康危機管理論	181
分娩期助産実習	129	総合看護学実習Ⅰ	182
分娩産褥期助産実習	131	総合看護学実習Ⅱ	183
※成人看護学概論	133	※研究方法論Ⅰ	184
※急性期看護方法論Ⅰ	134	研究方法論Ⅰ	185
成人急性期看護方法論Ⅱ	136	研究方法論Ⅱ	186
※慢性看護方法論Ⅰ	138	卒業研究	187
成人慢性期看護方法論Ⅱ	140	終末期看護論	188
成人急性期看護学実習	142	国際看護論	189
成人慢性期看護学実習	143	※英語論文読解	190
※老年看護学概論	144	欧文原著講読	191
老年看護方法論	145	※ジェネラリズム看護論	192
※高齢者生活探究実習	147		
老年看護学実習Ⅱ	148		

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護学概論		看護学科 (専門科目)	教授・沼澤 さとみ	必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要	看護を構成する概念、看護の対象となる人間をどのように捉えるかを学習し、看護の概念的定義、看護とは何かについて理解を深める。また、保健・医療・福祉のシステムや、看護の法的側面や倫理、看護の専門性、国際看護や災害看護、看護職のキャリアについても学習する。								
一般目標	1. 看護を構成する概念、看護の対象となる人間、看護の概念的定義を理解し、看護とは何かについて考える 2. 保健・医療・福祉のシステムや、看護の法的側面、倫理、看護の専門性、看護職のキャリアについて理解できる								
到達目標	1. 看護の概念的定義について説明でき、看護とは何かを考えることができる 2. 看護を構成する概念、看護の対象となる人間について説明できる 3. 看護の法的側面と倫理について説明できる 4. 保健・医療・福祉のシステム、多職種連携、チーム医療における看護の役割について説明できる 5. 国際看護や災害看護の基本的な考え方を説明できる 6. 看護の専門性について理解し、看護職を目指す者としてのキャリアを考えることができる								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	テスト 60%（目標について、知識の理解度で判断する） 課題・授業中のワーク・授業への参加態度等 40%（目標について、自分の考えを論理的に述べているかで判断する。ミニッツペーパー等も参考にする）								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5. 4. 12（水）3	ガイダンス	基礎看護学の学習内容				各回の学習課題 に応じて、以下の 学習をする ・課題に関する 書籍や配付資 料を読む ・課題に関して ネット検索な どをして収集 した資料を読 む。 ・授業でディス カッションや ワークを行い、 自分の考えを まとめる。	沼澤	
2	5. 4. 19（水）3	看護とはなにか	ナイチンゲールの看護について理解する					沼澤	
3	5. 4. 26（水）3	看護とはなにか	ヘンダーソンの理論から看護を考える					沼澤	
4	5. 5. 10（水）3	看護とはなにか	看護の定義（目的・対象・機能）を考える					沼澤	
5	5. 5. 17（水）3	人間と健康	健康と病気 ・健康の定義					沼澤	
6	5. 5. 24（水）3	人間の健康と環境	環境/社会環境の変化と健康問題					沼澤	
7	5. 5. 31（水）3	看護の対象としての人間の 多面的な理解	統合体としての人間 人間の欲求、成長・発達する人間					沼澤	
8	5. 6. 7（水）3	看護の対象としての人間の 多面的な理解ー自立ー	人間の自立を考える					沼澤	
9	5. 6. 14（水）3	看護実践の法的側面	看護の法的規定(保健師・助産師・看護師法) 看護実践の基盤となる看護過程					沼澤	
10	5. 6. 21（水）3	看護活動の場と保健・ 医療・福祉における看護	保健・医療・福祉のシステム、医療の提供体制 地域包括ケアシステム					沼澤	
11	5. 6. 28（水）3	多職種連携・チーム医療に おける看護の役割	チーム医療に期待される成果・看護の役割 様々なチーム医療と専門職					沼澤	
12	5. 7. 5（水）3	国際社会と看護	看護の国際協力 ・国際看護					沼澤	
13	5. 7. 12（水）3	災害と看護	災害医療 ・災害看護					沼澤	
14	5. 7. 19（水）3	看護の専門性とキャリア	専門職とは何か 認定看護師・専門看護師制度					沼澤	
15	5. 7. 26（水）3	まとめ	知識の確認					沼澤	
教 科 書 参 考 図 書	教科書（2と3は、後期の科目「看護理論」でも使用します） 1. 志自岐康子他編：看護学概論，メディカ出版，2022 2. V. ヘンダーソン著，湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会 3. F. ナイチンゲール著，小玉香津子・尾田葉子訳：看護覚え書-本当の看護とそうでない看護，日本看護協会出版会								
履 修 上 の 注 意	初めて聞く言葉や分からない言葉、専門用語がたくさん出てくると思います。上記教科書だけでなく辞書や用語辞典、ウェブサイトでの検索なども活用してください。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	看護学を学ぶ最初の授業です。看護のみならず人間や社会への興味・関心をもって、授業に臨んでください。また、疑問をもち考える、調べる、議論する姿勢を身につけましょう。								
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	沼澤さとみ：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎看護技術論Ⅰ (生活の援助技術)		看護学科 (専門科目)	准教授・南雲美代子 准教授・半田 直子 助 教・齋藤 愛依 講 師・高橋 直美	必修	1	後期	3	非該当	否
授業概要	看護を实践するための看護技術を教授する。看護技術の概念および構成要素、基本となるバイタルサインの測定、感染防止等の基本技術と日常生活の援助技術を教授する。								
一般目標	すべての看護技術の基本となる技術と日常生活援助技術に必要な基礎知識を理解し、学生同士で実施できる。学生同士で看護師および患者役割体験をしながら、対象への配慮や状況判断、安全・安楽の視点が理解できる。								
到達目標	1. 各看護技術の目的、意義が説明できる。 2. 各看護技術の根拠、原理原則、実施手順や留意事項を具体的に説明できる。 3. 各看護技術を安全、安楽、自立性、個別性を配慮し学生同士で実施できる。 4. 学生同士で看護師および患者役割を体験して気づいたことを配慮、工夫しながら実施できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・記録物の内容及び提出状況・授業態度等 20%、看護技術チェック 20%、定期試験（筆記）60%を総合して評価します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法・授業外学習など					担当	
1	5. 9. 27 (水) 5	授業ガイダンス（授業スケジュール、学習方法について）	[講義] 場所：講義室 授業概要、スケジュール、看護技術の学習方法（服装・態度も含む）等について実習室ガイド等を用いて実施。					南雲 齋藤	
2	5. 9. 29 (金) 3	実習室オリエンテーション	[演習] ユニフォームを着用し、基礎看護学実習室内の備品やリネン等を取り扱いながら、収納場所や使用方法を理解する。					齋藤 南雲	
3	5. 9. 29 (金) 4	看護における技術とは①/ 感染防止の技術Ⅰ①	【看護における技術とは①】教員：南雲 [演習] 場所：基礎実習室 看護ケアにおけるコミュニケーション キネステティクス：インタラクション					南雲 齋藤	
4	5. 9. 29 (金) 5	看護における技術とは①/ 感染防止の技術Ⅰ①	【感染防止の技術Ⅰ①】教員：齋藤 [講義] 場所：講義室 感染成立過程と感染経路、標準予防策、手指衛生の方法 *学生を半数ずつに分けて、授業を行う						
5	5. 10. 4 (水) 5	ボディメカニクス・ベッド メイキング①	[講義・演習] 看護職にとってのボディメカニクスの必要性和意義について、ベッドメイキングという作業を通して、良いボディメカニクスを活用した場合と活用しない場合を比較しながら、身体的負荷について考える。 ベッドメイキングの目的、実施。 [DVD 視聴]ベッドメイキング					南雲 齋藤	
6	5. 10. 5 (木) 5	看護における技術とは ②	[講義] 場所：講義室 看護技術とは何か、看護技術の特徴、構成要素（安全、安楽、自立性、個別性）					南雲	
7	5. 10. 6 (金) 3	感染防止の技術Ⅰ ②	[演習] 手指衛生（石けん手洗い、手指消毒）と個人防護具の着脱					齋藤 南雲 半田 高橋	
8	5. 10. 6 (金) 4	体位・体位変換 ①	[講義][演習] 体位とは何か、体位変換の必要性および目的。 各体位では身体の各部分の重さがどのような位置関係にあるのか、体位変換をするときには、その重さをどのように移動したらよいのかを体験学習する。 体圧分布測定器を活用し、体位の違いを確認する。					南雲 齋藤	

9	5.10.11 (水) 5	ボディメカニクス・ ベッドメイキング ②	[事前学習]ベッドメイキングを一回実施 [演習]ベッドメイキングの実際 ・教員の指導のもと実施する *技術を学習する方法も学ぶ	南雲 半田 高橋 齋藤
10	5.10.13 (金) 3	体位・体位変換 ②	[演習] ベッド上で横への水平移動、頭側方向への移動、仰臥位から側臥位への体位変換等について、ボディメカニクス活用、スライディングシート活用、キネステティクス概念を活用した方法を比較しながら学習する。また、身体の機能と構造を考慮しながら、安楽な仰臥位、側臥位、ベッド上座位のポジショニングを実施する。	南雲 半田 高橋 齋藤
11	5.10.13 (金) 4	〃 ③		
12	5.10.18 (水) 5	車いす・ストレッチャーでの移動の援助 ①	[講義] 移動の意義、援助の目的、援助方法。車いす、ストレッチャーの点検および使用方法 [デモンストレーション] 車いす、ストレッチャーの点検・使用方法	南雲 齋藤
13	5.10.20 (金) 3	車いす・ストレッチャーでの移動の援助 ②	[演習] 車いすの移乗・移送、ストレッチャーの移乗と移送を2～3人一組で看護師・患者役割を交代しながら実施	南雲 半田 高橋 齋藤
14	5.10.20 (金) 4	〃 ③		
15	5.10.25 (水) 5	ボディメカニクス・ ベッドメイキング③	[演習]ベッドメイキングチェック 作業姿勢・作業域、ベッドメイキング方法、仕上がり状況等をチェックする。	南雲 半田 高橋 齋藤
16	5.10.27 (金) 3	褥法 ①	[講義]褥法の目的・効果・適応・禁忌、観察・アセスメント、褥法（温枕・氷枕）の作成方法	半田
17	5.10.27 (金) 4	〃 ②	[演習] 褥法（温枕・氷枕）作製して実施する。	
18	5.11. 1 (水) 5	環境を整える技術 ①	[講義] 病床環境整備の意義、患者を取り巻く生活環境の構成因子と看護師が行わなければならない病床環境整備	南雲
19	5.11. 8 (水) 5	環境を整える技術②/衣生活の援助①	【環境を整える技術②】教員：南雲 [演習1]病床環境の観察・整備 基礎看護学実習室 患者の病床環境を観察し、必要な援助を考える。 [演習2]病床環境の測定 基礎看護学実習室 病床を設定し、学生自身が患者となり、室内・寝床気候、騒音、採光・照明等の測定しながら環境整備について考える。 【衣生活の援助①】教員：齋藤 [講義] 場所：講義室 病床での衣生活の援助の基礎知識。リネン交換・寝衣交換の方法。 [DVD 視聴] 臥床している患者のリネン交換 *学生を半数ずつに分けて、授業を行う	南雲 齋藤
20	5.11.10 (金) 3	バイタルサインの測定 ①	[講義] バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸）とは 血圧計・聴診器・体温計の使用方法、観察・アセスメント、バイタルサインの測定技術の実際	半田 齋藤
21	5.11.10 (金) 4	〃 ②		

22	5.11.15 (水) 5	環境を整える技術②/衣生活の援助①	【環境を整える技術②】教員：南雲 [演習1] 病床環境の観察・整備 基礎看護学実習室 患者の病床環境を観察し、必要な援助を考える。 [演習2] 病床環境の測定 基礎看護学実習室 病床を設定し、学生自身が患者となり、室内・寝床気候、騒音、採光・照明等の測定しながら環境整備について考える。 【衣生活の援助①】教員：齋藤 [講義] 場所：講義室 病床での衣生活の援助の基礎知識。リネン交換・寝衣交換の方法。 [DVD 視聴] 臥床している患者のリネン交換 ＊学生を半数ずつに分けて、授業を行う	南雲 齋藤
23	5.11.17 (金) 3	バイタルサインの測定 ③	[演習] バイタルサインの測定の基本を理解し、バイタルサインの測定を実施する。	半田 齋藤 高橋 南雲
24	5.11.17 (金) 4	〃 ④		
25	5.11.22 (水) 5	清潔の援助 ①	[講義] 清潔の目的・効果、清潔に関する観察、援助方法	齋藤
26	5.12. 1 (金) 3	衣生活の援助 ②	[事前学習] リネン交換・寝衣交換の手順書を作成	齋藤 南雲 半田 高橋
27	5.12. 1 (金) 4	〃 ③	[演習] リネン交換・寝衣交換を実施	
28	5.12. 6 (水) 5	環境を整える技術 ③	[事前学習] 基礎看護学実習Ⅰを通して、病床環境について自分の考えを記録してくる。 [ワークショップ] 5～6 人グループ 自分の記録をもとに、グループでよりよい病床環境を考える。	南雲 齋藤
29	5.12. 8 (金) 3	清潔の援助 ②	[体験学習] 清潔の援助に関する体験、手浴の体験を実施する。 [DVD 視聴：足浴]	齋藤
30	5.12.15 (金) 3	清潔の援助 ③	[演習：足浴] 足浴の援助を実施する。 [DVD 視聴：洗髪]	齋藤 南雲 半田 高橋
31	5.12.15 (金) 4	〃 ④		
32	5.12.19 (火) 3	清潔の援助 ⑤	[演習：洗髪] 洗髪車、ケリーパッドを使って洗髪の援助を実施する。	齋藤 南雲 半田 高橋
33	5.12.19 (火) 4	〃 ⑥		
34	5.12.22 (金) 3	清潔の援助 ⑦	[DVD 視聴：清拭] [演習：清拭] 清拭の援助を実施する。 [まとめ] 清潔の援助について	齋藤 南雲 半田 高橋
35	5.12.22 (金) 4	〃 ⑧		
36	5.12.26 (火) 3	排泄の援助 ①	[講義] 排泄の目的と意義、排泄のアセスメント 排泄の援助における看護師の役割、排泄の援助の種類 実施ポイント（根拠にもとづいた） おむつの種類・コスト、選択基準 [DVD：便器を用いた排泄の援助・おむつ装着] [事前体験学習] おむつを装着して動いてみる 臥床で便器をあて腹圧がかかる体位を探す	南雲 齋藤

37	6. 1. 9 (火) 3	排泄の援助 ②	[演習] 臥床患者への便器を用いた排泄の援助 臥床患者のおむつ交換	南雲 齋藤 半田 高橋
38	6. 1. 9 (火) 4	〃 ③	[講義] 陰部洗浄とは 実施ポイント [DVD:陰部洗浄]	
39	6. 1.16 (火) 3	排泄の援助 ④	[演習] 臥床患者への陰部洗浄(便器を用いる方法とおむつを使用する方法)	南雲 齋藤 半田 高橋
40	6. 1.16 (火) 4	〃 ⑤	[講義] まとめ:排泄の援助における看護師の役割とは	
41	6. 1.19 (金) 3	食事の援助・口腔ケア ①	[講義] 食事の目的、栄養、咀嚼と嚥下に関する基礎知識、観察・アセスメント、安全に食事するための体位と角度	半田
42	6. 1.19 (金) 4	〃 ②	[講義] 口腔機能と口腔ケアの意義・目的、観察、口腔を清潔にする方法、口腔ケアの物品 [体験学習]安全に食事摂取するための体位と頸部角度を実際に水分や固形物を嚥下して確認する。	
43	6. 1.23 (火) 3	食事の援助・口腔ケア ③	[演習]食事の援助・口腔ケアの援助を実施する。	半田 齋藤
44	6. 1.23 (火) 4	〃 ④		
45	6. 1.26 (金) 3	まとめ	[事前課題] 授業で記載した自分の記録を読んで「患者の視点」「看護師の視点」で日常生活援助技術を再考する。また、授業当初と現在の自分の学習姿勢、看護観を振り返る。 [ディスカッション] 事前課題をテーマにワールドカフェ方式で行う。	南雲 齋藤
教科書 参考文献		教科書 茂野香おる著者代表:系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2023. 任和子著者代表:系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2023.		
履修上の注意		看護技術の習得が、段階的に積み上げられるようにプログラムしています。 また、毎回、学習する技術が異なりますので体調を整えて出席してください。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。		
学生へのメッセージ		技術を修得するためには、主体的に参加すること、創造的に考えながら学習すること、そして、自己学習が必須となります。今までの学習方法とは異なり、はじめは戸惑うかもしれませんが、誠実に主体的に取り組むことによって看護技術のおもしろさを実感できると思います。		
e-mail・研究室(連絡先)		南雲:研究室12 mnagumo@yachts.ac.jp 半田:研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 高橋:研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp 齋藤:第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp		

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎看護技術論Ⅱ (診療の援助技術)		看護学科 (専門科目)	講 師・高橋 直美 准教授・半田 直子 助 教・齋藤 愛依 准教授・南雲美代子	必修	2	前期	2	非該当	否
授業概要	療養している対象への治療や検査に伴う基礎的な看護技術である与薬の技術、創傷管理技術、検査に伴う援助技術、呼吸を整える技術、排泄援助技術等を学習する。								
一般目標	治療や検査に伴う看護技術の実施に必要な基礎的知識を理解し、根拠と原理に基づき対象の安全と安楽に配慮して、学生同士またはモデルに各看護技術が実施できる。								
到達目標	1. 各看護技術の目的や意義を説明できる 2. 各看護技術の根拠、原理原則、実施手順や留意点を説明できる 3. 各看護技術を説明し同意を得たうえで、学生またはモデルに実施できる 4. 各看護技術を安全や事故防止に配慮し、学生またはモデルに実施できる 5. 各看護技術を安楽に配慮し、学生またはモデルに実施できる								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・各単元毎の課題提出状況および記載内容 40％ ・定期試験 60％								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 13 (木) 1	授業ガイダンス					授業項目毎に指示します。	高橋 齋藤	
2	5. 4. 13 (木) 2	看護技術と医療安全	[講義] ・医療安全を学習する重要性 ・看護技術における事故防止の考え方					南雲	
3	5. 4. 20 (木) 4 5. 4. 20 (木) 5	感染防止の技術Ⅱ ①②③④ ー滅菌物の取り扱い・無菌操作ー	[講義] 滅菌・消毒・洗浄の基礎知識と対策、無菌操作の基礎知識と実際 [演習] 滅菌手袋の着脱、滅菌物の取扱いと無菌操作					齋藤 高橋 半田 南雲	
4									
5	5. 4. 27 (木) 4 5. 4. 27 (木) 5		[演習] 創傷処置における無菌操作（滅菌ガーゼ・消毒綿球の受け渡し）					齋藤 高橋 半田 南雲	
6									
7	5. 5. 11 (木) 4 5. 5. 11 (木) 5	創傷管理技術①②	[講義] 創傷とその治癒過程、創傷処置の基礎知識、創洗浄と創保護 [演習] テープの貼り方・剥がし方、創洗浄 包帯法（巻軸帯の巻き方・三角巾を用いた包帯法）の実施					半田	
8								半田 齋藤 高橋	
9	5. 5. 18 (木) 4 5. 5. 18 (木) 5	呼吸を整える技術 ー酸素療法・吸引ー ①②	[講義] 酸素療法の目的・効果、観察、酸素吸入の種類と実施方法 [講義] 吸引の目的・効果、適応、観察、実施方法					半田	
10									
11	5. 5. 25 (木) 4 5. 5. 25 (木) 5	呼吸を整える技術 ー酸素療法・吸引ー ③④	[演習] 中央配管による酸素吸入の準備、酸素ボンベの取り扱いの実施 [演習] シミュレータ人形を使用した気管内吸引・口腔・鼻腔吸引					半田 齋藤 高橋 南雲	
12									
13	5. 6. 1 (木) 4 5. 6. 1 (木) 5	与薬の技術①② ー注射・持続点滴ー	[講義] 薬剤の基礎知識、与薬の技術における看護師の役割（経口・吸入・点眼・点鼻・経皮的・直腸内与薬・注射）、注射の基礎知識 [演習] 学生同士での注射部位の選定					高橋	
14								高橋 半田 齋藤 南雲	

15	5. 6. 8 (木) 4 5. 6. 8 (木) 5	与薬の技術③④ －注射－	[演習] 学生が看護師役・患者役となり、筋肉内注射を実施する（モデル使用）。	高橋 半田 齋藤 南雲	
16					
17	5. 6. 15 (木) 4 5. 6. 15 (木) 5	与薬の技術⑤ －注射・持続点滴－	[講義] 点滴静脈内注射の基礎知識 [演習] 点滴静脈内注射の準備、滴下速度の調整		高橋 半田 齋藤 南雲
18		与薬の技術⑥ －輸血－	[講義] 輸血の基礎知識		高橋
19	5. 6. 22 (木) 3 5. 6. 22 (木) 4	検査に伴う援助技術 ①② －検査・静脈血採血－	[講義] 検査時の看護、静脈血採血の方法 [演習] 採血針などの取り扱い、静脈の怒張の方法と走行の確認		高橋 齋藤
20					
21	5. 6. 29 (木) 3 5. 6. 29 (木) 4	検査に伴う援助技術 ③④ －静脈血採血－	[演習] 採血に用いる器具の取扱いと無菌操作、血液検体の取扱い、針刺し事故予防の方法、シミュレータを用いた採血練習		高橋 半田 齋藤 南雲
22					
23	5. 7. 6 (木) 4 5. 7. 6 (木) 5	検査に伴う援助技術 ⑤⑥ －静脈血採血－	[演習] 学生が看護師役・患者役となり、静脈血採血を実施する（モデル使用）。		高橋 半田 齋藤 南雲
24					
25	5. 7. 13 (木) 4 5. 7. 13 (木) 5	排泄援助技術①② －浣腸－	[講義] 排便困難に対する援助方法 [演習] 学生が看護師役・患者役となり、グリセリン浣腸を実施する（モデル使用）		齋藤 高橋 半田 南雲
26					
27	5. 7. 20 (木) 3 5. 7. 20 (木) 4	排泄援助技術①② －導尿－	[講義] 排尿障害に対する援助方法 [演習] 学生が看護師役・患者役となり、一時的導尿を実施する（モデル使用）		齋藤 高橋 半田 南雲
28					
29	5. 7. 27 (木) 3 5. 7. 27 (木) 4	看護技術まとめ	事例による技術演習		高橋 齋藤
30					
教科書		教科書：任和子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 参考図書：茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。			
履修上の注意		授業ごとに学習内容や方法、時間、服装等についての提示がありますので、注意してください。 また、実技演習のほとんどは学生同士で行います。欠席や遅刻をしないよう体調を整えてください。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学生へのメッセージ		臨床で実践頻度の高い看護技術を取り上げています。安全かつ確実な実施に向けて常に根拠を考えながら学習しましょう。また、学生同士の他、モデルや視聴覚教材なども活用して繰り返し練習し、技術の習得を目指しましょう。			
e-mail・研究室（連絡先）		高橋：研究室 21 ntakahashi@yachts.ac.jp 半田：研究室 3 nhanda@yachts.ac.jp 齋藤：第 2 共同研究室 asaito@yachts.ac.jp 南雲：研究室 12 mnagumo@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護倫理	看護学科 (専門科目)	教授・沼澤 さとみ	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要	倫理や看護倫理に関する概念、倫理原則など、看護倫理の基礎知識を学習する。また、看護実践の場で生じる倫理的課題の解決についてディスカッションなどを行う。これらの学習から自己の倫理的な思考をする力をつける。							
一般目標	1. 看護実践における倫理の重要性を理解する。 2. 看護倫理の基本的知識と関連する重要概念を理解する。 3. 看護実践における倫理的問題を解決するための考え方を理解する。							
到達目標	1. 看護倫理の基本的知識と関連する重要概念を説明できる。 2. 看護職が直面する倫理的問題及び解決するための考え方を説明できる。 3. 倫理的問題と看護実践における倫理の重要性についての自分の意見を述べることができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	・レポート・試験（70％）：知識の理解度、課題に対する知識と理解度、自分の考えを述べているかで判断する ・授業中のワーク・課題・参加状況（30％）：ディスカッションやワークの記録等で判断する（ミニッツペーパーも参考にする）。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当	
1	5.11.16（木）2	倫理の基礎	倫理とは何か 看護倫理を学ぶ意義 生命倫理と看護倫理			各回の学習課題に応じて、以下の学習をする。 ・用語について自己学習する。 ・課題に関する書籍や配付資料を読む。 ・課題に関してネット検索などをして収集した資料を読む。 ・実習体験や事例をもとに、授業でディスカッションやワークを行い、自分の考えをまとめる。	沼澤	
2	5.12. 7（木）3	専門職の責任と看護倫理	看護職の倫理的責任 看護職の法的責任					
3	5.12.14（木）2	倫理を理解するための重要概念	人権・患者の権利 アドボカシー					
4	5.12.21（木）2	倫理を理解するための重要概念	倫理原則、倫理綱領					
5	6. 1. 4（木）2	倫理を理解するための重要概念	パターンリズムとインフォームド コンセント					
6	6. 1.11（木）2	倫理を理解するための重要概念	守秘義務と個人情報・プライバシー の保護					
7	6. 1.18（木）2	看護実践で体験する倫理的問題 を解決する方法	倫理的課題の事例検討					
8	6. 1.25（木）2	まとめ	知識の確認 自分の考えをまとめる					
教 科 書 参 考 図 書	1.教科書：前期の看護学概論テキスト（志自岐康子他編：看護学概論，メディカ出版，2022）を使用 参考書：サラT. フライ他：看護実践の倫理第3版，日本看護協会，2010 日本看護倫理学会編：看護倫理ガイドライン その他、授業の中で適宜紹介します。また、図書館などで倫理に関する本を自分で探して読んでください。							
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	倫理は知識として身につけることは必須であるが、そのうえで常に人間としてどうあるべきか考え続けるものだと思います。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	沼澤さとみ：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護理論		看護学科 (専門科目)	教授・沼澤さとみ	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要		看護実践の基盤となる看護理論の意義を学習する。また、代表的な看護理論を取り上げ、理論の構成要素と主要概念などを学習する。							
一般目標		看護実践の基盤となる看護理論の意義を理解し、主要な看護理論の特徴について理解する。							
到達目標		1. 看護理論の意義について説明できる。 2. 主な看護理論の構成要素と看護の主要概念について説明できる。 3. 主な看護理論の実践への応用について事例をもとに記述できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		テスト 60％（知識の理解度で判断する） 課題・授業中のワーク、レポート等 40％（自分の考えを論理的に述べているかで判断する。ミニッツペーパーも参考にします）							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28（木）2	ガイダンス 看護理論とは	看護理論の意義、理論の構成要素（前提、概念、命題）、理論の分類、理論の変遷と発達			各回の学習課題に応じて、以下の学習をする ・課題に関する書籍や配付資料を読む ・授業でディスカッションやワークを行い、自分の考えをまとめる。		沼澤	
2	5. 10. 5（木）2	主な看護理論と特徴①	ナイチンゲール ヘンダーソン					沼澤	
3	5. 10. 12（木）2	主な看護理論と特徴②	トラベルビー					沼澤	
4	5. 10. 19（木）2	主な看護理論と特徴③	ロイ					沼澤	
5	5. 10. 26（木）2	主な看護理論と特徴④	オレム					沼澤	
6	5. 11. 2（木）2	主な看護理論と特徴⑤	レイニンガー					沼澤	
7	5. 11. 9（木）2	主な看護理論と特徴⑥	ケアリング ワトソン					沼澤	
8	5. 12. 7（木）2	まとめ	知識の確認 理論をもとに、看護についての自分の考えを述べる					沼澤	
教科書 参 考 図 書		教科書：なし（授業内容をよく理解するために以下の参考図書を活用するか、各理論の単行本を読んでください。） 参考図書（1と2は看護学概論で使用した図書です） 1. V. ヘンダーソン著，湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会 2. F. ナイチンゲール著，小玉香津子・尾田葉子訳：看護覚え書-本当の看護とそうでない看護-，日本看護協会出版会 3. 志自岐康子他編：看護学概論，メディカ出版，2022（前期の看護学概論テキスト） 4. ミルトン・メイヤロフ著，田村真，向野宣之訳：ケアの本質 生きることの意味，ゆみる出版 5. 筒井真優美編：看護理論家の業績と理論評価 第2版，医学書院 6. 筒井真優美編：看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用改訂第3版，南江堂							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		看護理論は、看護とは何かを考える基盤になります。また、サイエンスとして看護を実践するときに理論を活用することができます。難しく考えずに学んで、皆さんが考える看護と理論家が考える看護の共通点をみつけましょう。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		沼澤さとみ：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護過程論	看護学科 (専門科目)	講 師・高橋 直美 准教授・南雲美代子 准教授・半田 直子 助 教・齋藤 愛依	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	看護実践を科学的に行うための問題解決過程を基盤に看護過程を学習する。看護の対象者を全人的に理解し（アセスメント）、健康上の問題を明らかにした上で（看護診断）適切な看護実践につなげていく為の計画の立案（看護計画立案）、実施、評価までの看護過程の各段階を個人およびグループメンバーと学びを深めながら習得する。							
一般目標	1. 看護過程の概要と意義を理解する。 2. 看護過程の各段階の意味と考え方を理解する。 3. 事例をもとに看護過程の各段階における思考過程を理解する。							
到達目標	1. 看護実践における看護過程の意義が理解できる。 2. 問題解決過程およびクリティカルシンキングが理解できる。 3. 看護過程の構成要素が説明できる。 4. 科学的思考を意識し、看護過程の各段階の学習に取り組むことができる。 1) 情報を収集し整理することができる。 2) 情報を基に関連図を示すことで思考過程を可視化することができる。 3) 情報の解釈・分析、関連図を基に看護問題を明確化（看護診断）することができる。 4) 看護診断に優先順位をつけ、その根拠を考察することができる。 5) 看護診断に対する目標（期待される成果）を挙げ、看護計画を立案しその根拠を示すことができる。 6) 看護計画の評価の視点を理解することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	評価方針: 定期試験、看護過程の各段階における記録物（個人ワークおよびグループワーク）から評価する。 評価方法: 定期試験、記録物、個人ワークおよびグループワークに取り組む姿勢等から総合的に評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			課題学習など	担当	
1	5. 4. 12 (水) 3	授業ガイダンス 看護過程の概要①	・看護過程の基盤となる考え方 ・看護過程の構成要素 ・アセスメントの枠組み			・既習講義で得た知識を復習し事例患者が抱える疾病の病態・治療・検査・症状等に関する予習をして授業に臨むこと ・課題は授業毎に随時指示する	高橋 南雲 半田 齋藤	
2	5. 4. 19 (水) 3	看護過程の概要②						
3	5. 4. 26 (水) 3	事例による看護過程①	・事例で学ぶ看護過程の各段階 情報の整理-解釈分析-関連図 -全体像-看護問題-看護目標 -看護計画					
4	5. 5. 10 (水) 3	事例による看護過程②						
5	5. 5. 17 (水) 3	事例による看護過程③						
6	5. 5. 24 (水) 3	事例による看護過程④						
7	5. 5. 31 (水) 3	事例による看護過程の展開①	・事例で学ぶ看護過程の展開 情報の整理-解釈分析-関連図 -全体像-看護問題-看護目標 -看護計画-実施評価					
8	5. 6. 7 (水) 3	事例による看護過程の展開②						
9	5. 6. 14 (水) 3	事例による看護過程の展開③						
10	5. 6. 21 (水) 3	事例による看護過程の展開④						
11	5. 6. 28 (水) 3	事例による看護過程の展開⑤						
12	5. 7. 5 (水) 3	事例による看護過程の展開⑥						
13	5. 7. 12 (水) 3	事例による看護過程の展開⑦						
14	5. 7. 19 (水) 3	事例による看護過程の展開⑧						
15	5. 7. 27 (木) 2	事例による看護過程の展開⑨ まとめ						
教科書 参 考 図 書	＊教科書・阿部俊子他監修：病態関連図が書ける観察アセスメントガイド, 照林社。 ・茂野香おる他著：系統看護学講座基礎看護技術Ⅰ, 医学書院。(基礎看護方法論Ⅰで使用) ＊参考図書・永田明, 石川ふみよ監修：看護が見える vol.4 看護過程の展開, メディックメディア ・NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023, 医学書院。 その他、随時紹介します。							
履 修 上 の 注 意	講義と演習（個人およびグループワーク）を併用しますので、欠席はしないでください。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学生へのメッセージ	看護学概論・理論・基礎看護技術論等の他、生体形態学・組織学・機能学・防御学、疾病科学、薬理学、疾病論等で得た知識および技術を基盤として学習してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	高橋：研究室 21 ntakahashi@yachts.ac.jp 南雲：研究室 12 mnagumo@yachts.ac.jp 半田：研究室 3 nhanda@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護人間関係論		看護学科 (専門科目)	准教授・南雲 美代子	必修	1	前期	1	非該当	可
授業概要	人間関係構築のために必要な知識やコミュニケーションスキル、基本となる要素について演習を交えて教授する。これにより共感的態度や人間の尊厳について理解できるようにする。さらに、学生が自己洞察することの重要性について考えられるように教授する。								
一般目標	看護の対象者に看護を提供するために必要な人間関係の基本となる要素を理解する。 演習を通して、自己のコミュニケーションについて考察する。								
到達目標	1. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性が説明できる。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、ミスコミュニケーションを避け、適切なメッセージを伝える方法が説明できる。 3. 自己のコミュニケーションをリフレクションし、記述することができる。 4. コミュニケーションの基本的な方法を活用し、学生同士で実践できる。 5. 人間関係を構築するためのコミュニケーションとは何かを記述することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・定期試験50%、記録物の提出状況・内容と授業態度30%、課題レポート20%を総合して評価します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5. 5. 26 (金) 3	授業ガイダンス コミュニケーションの 意義と目的	【講義】 ・授業の位置づけ ・コミュニケーションとは ・看護・医療におけるコミュニケーション				・授業中に コミュニケーシ ョンの【ミニ体 験】を実施します	南雲	
2	5. 6. 2 (金) 3	コミュニケーションの 構成要素と成立過程	【講義】 ・コミュニケーションの手段 ・構成要素と成立過程 ・リフレクション プロセスレコード（日常生活場面） DVD：コミュニケーションの基本要素						
3	5. 6. 23 (金) 3	関係構築のためのコミ ュニケーションの基本	【講義】 ・接近的コミュニケーションの原理 ・接近的行動の前提となる基本的な態度 ・接近的行動と非接近的行動 ・DVD：効果的なコミュニケーションスキルⅠ						
4	5. 6. 30 (金) 3	効果的なコミュニケー ションの実践	【講義】 ・傾聴の技術 ・情報収集の技術 ・説明の技術 ・アサーティブネス ・DVD：効果的なコミュニケーションスキルⅡ						
5	5. 7. 7 (金) 3	医療面接場面における コミュニケーション	【演習】基礎看護学実習室 ・学生同士のロールプレイによる医療面接						
6	5. 7. 14 (金) 3	コミュニケーション障 害への対応	【講義】 DVD: ケアに生かすコミュニケーション						
7	5. 7. 21 (金) 3	多様なコミュニケーシ ョン	【講義・ミニ演習】 看護ケアにおけるコミュニケーション タクティールケア・ユマニチュード・キネス テティクスの紹介						
8	5. 7. 25 (火) 3	まとめ	【講義・ディスカッション】						
教 科 書 参 考 図 書	【教科書】茂野香おる著者代表：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，医学書院。 【参考図書】石川ひろの他；系統看護学講座 基礎分野 人間関係論，医学書院。								
履 修 上 の 注 意	演習を取り入れて授業を進めますので、欠席しないようにしてください。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、 ⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支 援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	看護は患者さんや家族との良好な人間関係の基盤のもとに成り立ちます。人間関係の始まりは、身 近な社会です。授業の始めは、皆さんの日常生活でのコミュニケーション場面を振り返り考えてい きます。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	南雲美代子：研究室 12 mnagumo@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
フィジカル アセスメント論		看護学科 (専門科目)	准教授・半田 直子 助 教・齋藤 愛依 講 師・高橋 直美	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	対象者がよりよい生活を目指し、健康回復や健康維持・増進のために必要な身体的・心理社会的な健康状態のアセスメントができるよう基本的知識と技術を教授する。								
一般目標	さまざまな健康レベルにある対象者を身体的および心理社会的側面から情報収集し、ヘルスアセスメントに必要な基本的知識と技法を理解する。								
到達目標	1. フィジカルアセスメントの概念について説明できる。 2. 日常生活行動の視点から対象者の状態や状況を把握するためのヘルスインタビュー（問診）ができる。 3. 対象者の身体的面を把握するため基本となるフィジカルイグザミネーション（視診・触診・打診・聴診）の方法が説明できる。 4. 対象者の身体的面を把握するため基本となるフィジカルイグザミネーション（視診・触診・打診・聴診）が実施できる。 5. フィジカルアセスメントを活用して観察・情報収集し、記録ができる。 6. 情報からアセスメントして看護実践（ケア）につなげる過程がわかる。 7. 学生同士で実施する際、対象者に礼接した態度や配慮で対応できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験 50％：到達目標が達成されたかどうかを判断します。 演習課題・レポート 50％：フィジカルアセスメントの知識の修得程度や、演習課題の記載内容から情報をもとにアセスメントして看護実践（ケア）を考えられているか。事前・事後学習のレポートを評価します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当		
1	5. 5. 26（金）4 5. 5. 26（金）5	授業ガイダンス フィジカルアセスメントの概要	講義：フィジカルアセスメントの目的と意義、ヘルスインタビュー（問診）・フィジカルアセスメントの目的と基本技術（視診・触診・打診・聴診）、報告		・事前学習：「生体形態学」「生体機能学Ⅰ」「病理学」「成人老年疾病論Ⅰ・Ⅱ」の復習 ・各器官の主要な疾患の病態・生理の復習 ・事後学習：事前学習と講義や演習で学習したことをレポートにまとめる。		半田		
2		バイタルサインの測定（2）	講義：バイタルサインのアセスメント・シミュレータ人形「フィジコ」の使用に関するオリエンテーション				半田 齋藤		
3	腹部のアセスメント	講義：腹部の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術、DVD視聴 演習 ・シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント ・2～3人1組で実技を実施する		半田 齋藤					
4									
5	呼吸器系のアセスメント	講義：呼吸器系の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術、DVD視聴 演習 ・シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント ・2～3人1組で実技を実施する		半田 齋藤					
6									
7	循環器系のアセスメント（1）	講義：循環器系の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術、DVD視聴 演習 ・シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント ・2～3人1組で実技を実施する		半田 齋藤					
8									
9	5. 6. 30（金）4	循環器系のアセスメント（2）	講義：心電図 演習：シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント 心電図の測定/動脈の血流測定				半田 齋藤		

10	5. 7. 7 (金) 4	筋・骨格系のアセスメント	講義：ADL・歩行・関節可動域・筋力のアセスメント方法 演習：関節可動域・筋力の測定		高橋 齋藤
11	5. 7. 14 (金) 4	栄養のアセスメント	講義：栄養のアセスメント方法、アセスメント技術 演習：皮下脂肪厚の測定		半田
12	5. 7. 21 (金) 4	神経系のアセスメント 感覚器(眼・耳・鼻・口)のアセスメント	講義：神経系・感覚器の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術 演習：振動覚・運動覚・瞳孔反射・腱反射等の観察 演習：問診2（まとめ）		齋藤 半田
13	5. 7. 21 (金) 5				
14	5. 7. 28 (金) 4	事例を用いたヘルスアセスメント・まとめ	アセスメントと看護技術統合演習		半田 齋藤
15	5. 7. 28 (金) 5				
教科書 参考図書		教科書：茂野香おる：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ，医学書院, 2022.（基礎看護方法論Ⅰで利用したもの） 教科書以外に授業項目に関係する資料を配布			
履修上の注意		演習では学生同士で実技を行います。体調を調べ欠席や遅刻にご注意ください。 講義室は基礎看護学実習室です。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学生への メッセージ		ヒトが日常において生活し行動する「からだ」に興味を持ち学習しましょう。			
e-mail・研究室 （連絡先）		半田：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp 高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
家族看護学		看護学科 (専門科目)	助 教・齋藤 愛依	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要		家族看護における家族の概念と理論、健康問題を抱える家族のアセスメント、看護の援助方法を教授する。							
一般目標		1. 家族の概念および家族看護の概念や基礎知識を理解する。 2. 現代の家族の特徴、家族の形態や機能を理解する。 3. 家族を看護の対象としてとらえ、家族看護における看護者の役割を理解する。 4. 家族の発達段階における健康問題と家族への影響を学び、看護援助の方法について考察する。							
到達目標		1. 家族の概念および家族看護の概念を説明できる。 2. 家族の特徴や家族の発達段階が説明できる。 3. 家族看護における看護者の役割を説明できる。 4. 家族の発達段階に応じた健康問題と看護の必要性が説明できる。 5. 家族を支援する基本姿勢を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		課題レポート 30%、定期試験 40%、講義に関する課題の評価 30%とする。 レポートは、家族に関するテーマについて自分の考えを論述する。 定期試験は、講義で行った基本的な知識を問うものとする。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当		
1	5. 9. 25 (月) 5	授業ガイダンス 家族看護学とは 家族の特徴、家族看護の対象	家族看護学の特徴と理念、家族の形態 と機能、家族構造、現代の家族の特徴、 家族の生活と健康、家族のセルフケア 機能				齋藤		
2	5. 10. 2 (月) 5	家族の「自明性」の相対化	家族について「当たり前」と思われて いることに距離をとり、家族の曖昧 性・社会的規定性を理解する。				(スポット) 安藤		
3	5. 10. 16 (月) 5	家族看護の諸理論 家族看護アセスメント	家族を理解するための理論 家族周期と発達課題、家族システム理 論、家族ストレス対処理論 家族の看護に必要な情報収集とアセス メント				齋藤		
4	5. 10. 23 (月) 5	家族看護の援助方法①	家族看護における看護者の役割、患 者・家族を援助する際の基本姿勢				齋藤		
5	5. 10. 30 (月) 5	事例から学ぶ家族看護①	患者と家族、医療職者とのかかわりの 場面を通じて、家族への看護を考える				齋藤		
6	5. 11. 6 (月) 5	事例から学ぶ家族看護②	患者と家族、医療職者とのかかわりの 場面を通じて、家族への看護を考える。				齋藤		
7	5. 11. 13 (月) 5	家族看護の援助方法②	かかわりの場面を通して考えたこと を、グループディスカッションする。				齋藤		
8	5. 11. 20 (月) 5	まとめ	家族看護学のまとめ				齋藤		
教 科 書 参 考 図 書		教科書：上別府圭子著 系統看護学講座 家族看護学, 医学書院							
履 修 上 の 注 意		家族について興味を持ち、積極的に参加してください。場所は基礎看護学実習室です。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、 ⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援 実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		患者だけでなく家族全体を視野に入れ、看護の対象としての「家族」について考えていきましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		齋藤愛依：第 2 共同研究室 asaito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎看護学実習Ⅰ		看護学科 (専門科目)	准教授・南雲美代子 教 授・沼澤さとみ 准教授・半田 直子 講 師・高橋 直美 助 教・齋藤 愛依	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要		3つの病院での実習を通して、病院の機能と役割、対象者の入院生活の状況と提供されている看護サービスの内容、他の医療従事者との連携について理解できるように指導する。また、看護学生として臨地で学習するための基本姿勢を身につけさせる。							
一般目標		〔実習目的〕 3つの病院での実習を通して、病院の機能と役割、対象者の入院生活の状況と提供されている看護サービスの内容、他の医療従事者との連携について理解できる。また、看護学生としての責任を自覚し行動することができる。							
到達目標		〔実習目標〕 1. 病院の機能と役割が理解できる。 2. 対象者の入院生活の状況と提供されている看護サービスの内容が理解できる。 3. 他の医療従事者との連携について理解できる。 4. 看護の対象者とコミュニケーションをとりながら、信頼関係を築くためのコミュニケーションについて考えることができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、行動できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価は、実習状況（カンファレンス参加状況・実習態度も含む）、記録物（毎日の記録・レポートの提出の状況とその記載内容）等とし、具体的な評価項目は基礎看護学実習Ⅰの要項に示す。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
	5.11.24（金） ～ 5.11.30（木）	〔実習施設・見学場所〕 1. 初日 午前：学内実習 午後：山形県立中央病院 ・病院概要説明，電子カルテの説明，病院見学 2. 2日目～5日目は、①～③をローテーションする ①山形県立中央病院：2日間 ・一般病棟（8つの病棟） ②医療法人 篠田好生会 篠田総合病院：半日、大学：半日 ・回復期リハビリテーション病棟2ヶ所、脳外科・外科病棟（3つの病棟） ③医療法人 敬愛会 尾花沢病院：1日間 ・一般病棟，精神一般病棟2ヶ所，認知症治療病棟（4つの病棟） 〔実習期間〕2023年11月24日（金），27日（月）～30日（木） *実習オリエンテーション：11月2日（木） 講義室 〔実習内容・方法〕 1. 病院の機能と役割についての説明を受け、病院内の見学を行う。 2. 病棟で看護援助場面を見学し、指導を受けながら一部実施する。 3. 対象者とコミュニケーションをとる。 4. 他の医療従事者の仕事を見学する（PT，OT，ST，介護職等）。 5. カンファレンスで学びを共有する。 6. 学習内容を毎日の記録およびレポートにまとめる。 事前レポート：病院の機能と役割、病院で働く専門職の業務内容							
教 科 書 参 考 図 書									
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		健康に十分留意して実習に臨んでください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院において医療・看護の実践および多職種連携について学ぶ科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		南雲：研究室12 mnagumo@yachts.ac.jp 沼澤：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 半田：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎看護学実習Ⅱ	看護学科 (専門科目)	教 授・沼澤さとみ 准教授・南雲美代子 准教授・半田 直子 講 師・高橋 直美 助 教・齋藤 愛依	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要	学生各自が患者を受け持ち、指導者の助言や指導のもと、対象を全体的存在として理解し、必要なケアを考えて実施する。							
一般目標	看護の対象を身体的・心理社会的な存在として捉え、看護過程を展開・実践する。指導者の助言・指導のもと必要なケアを実施し、対象へのケア提供を通して看護実践の基本的能力を養う。また、コミュニケーション能力を身につけ、対象との援助的関係を成立させて発展させる努力をする。							
到達目標	(1) 基礎看護学で学習した知識を活用して、受け持ち患者の看護過程の基本的な展開方法を理解して実践できる。 (2) 看護過程の展開方法の基本を理解した上で、健康上の問題のある対象とその生活について、情報収集、アセスメントにより身体的・心理社会的な側面から全体像を捉え、対象の健康問題に対する反応を診断し、立案した計画によりケアを行い、評価する過程を実践する。 (3) 対象の意思を尊重し、的確な看護実践を行う基本的能力を習得する。 (4) 対象との援助的人間関係を成立させて発展させる努力をする。 (5) 看護の職業倫理に基づき、看護専門職を目指す者として責任ある行動がとれる。 (6) 看護活動の体験を通して看護についての考えを深めることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	4/5 以上の出席を条件とし、実習態度、実習内容、実習記録等について、実習評価表（実習要項掲載）に示した項目で評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	5. 9. 1 (金) ～ 5. 9.13 (水)		詳細は実習要項に記載 実習場所： ・ 山形県立中央病院(5 東・5 西・6 東・6 西・7 東・7 西・8 東・8 西・9 西病棟) ・ 篠田総合病院(2 病棟・3 病棟・7 病棟・8 病棟) ・ 山形済生病院（調整中） ※ いずれの病院も病棟は変更することあり 実習内容： ・ 病棟で行われている患者の看護を看護師とともに実践（シャドーイング）する ・ 受持ち患者について、指導者の助言・指導のもと、看護過程を展開・実践する ・ カンファレンス					沼澤 南雲 半田 高橋 齋藤
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：なし 参考図書：看護診断・疾患・病態・検査・薬剤・看護等に関する必要な図書や医学用語辞典などは、自分で探して持参してください。看護過程論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント論、専門基礎科目で使用・紹介した図書や資料も活用してください。						
履 修 上 の 注 意		実習までに学習した科目の復習、看護技術の練習をして実習に臨んでください。 また、実習では、学内でまだ学習していない知識や技術を活用して実践することも多くありますので、自己学習が必須です。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		学内の授業では学ぶことができない貴重な学習の機会です。主体的かつ積極的に学習することを期待します。また、社会人としての態度と行動が求められます。健康に留意し、遅刻欠席のないようにしてください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院での臨床において看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		沼澤：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp 南雲：研究室 12 mnagumo@yachts.ac.jp 半田：研究室 3 nhanda@yachts.ac.jp 高橋：研究室 21 ntakahashi@yachts.ac.jp 齋藤：第 2 共同研究室 asaito@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児看護学概論		看護学科 (専門科目)	講 師・槌谷由美子	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要		小児看護の対象となる子どもや家族の特徴について、対象の成長・発達に影響を及ぼす要因について、また子どもの人権を尊重した小児看護の役割・機能について教授する。							
一般目標		・小児看護の対象と特徴を理解する。 ・子どもの成長発達について理解する。 ・子どもや家族をとりまく社会環境について理解する。 ・子どもに関する法律や政策について理解する。 ・子どもや家族が健康な生活をおくるために必要な援助方法を考察する。							
到達目標		①小児看護の対象と目的について述べることができる。 ②小児期の身体発育の特徴について説明できる。 ③小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利について説明できる。 ④子どもの権利を尊重した看護について述べることができる。 ⑤小児期の生理機能、運動機能、心理・社会的機能の発達の特徴について説明できる。 ⑥小児期の日常生活行動（睡眠・食事・排泄・清潔・衣服の着脱・遊び等）の発達の特徴について説明できる。 ⑦子どもが育つ環境としての家族や社会の特徴について説明できる。 ⑧乳幼児の発達評価の目的や方法を説明できる。 ⑨子どもや家族をとりまく課題と看護の役割を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・定期試験（80％）：上記に示した到達目標の①～⑦の達成度を評価する ・演習課題（10％）：到達目標の⑧の達成度を評価する ・レポート（10％）：課題に関する知識・考察が記載されているかを評価基準とし、到達目標⑦・⑨を評価する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5.4. 6（木）2	小児看護とは	小児看護の目的 小児看護の対象と特徴			授業で示す課題について自己学習を行う		槌谷	
2	5.4.20（木）2	小児看護における倫理	子どもの権利、インフォームドコンセント・インフォームドアセント、プレパレーション						
3	5.4.27（木）2	子どもの成長発達と看護1	身体発育、生理機能の発達						
4	5.5.11（木）2	子どもの成長発達と看護2	運動機能、心理・社会的機能の発達						
5	5.5.18（木）2	子どもの成長発達と看護3	日常生活行動の発達と看護						
6	5.5.25（木）2	子どもの成長発達と看護4	乳幼児の発育評価（演習）						
7	5.6. 1（木）2	子どもの成長発達と看護5	遊びと保育					外部講師	
8	5.6. 8（木）2	子ども・家族と社会	子ども・家族を取り巻く社会環境 小児保健の動向					槌谷	
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 参考図書：必要時講義の中で紹介する							
履 修 上 の 注 意		教科書および配布資料を必ず持参して、授業に臨みましょう。 この授業科目は、小児看護学実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		身近な子どもの成長発達に注目し、子どもに関連するニュースに関心を持ちながら受講してください。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		槌谷由美子：研究室 29 ytsuchiya@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児看護方法論		看護学科 (専門科目)	講 師・樋谷由美子 助 教・貝野瀬友希	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要		健康障がい子どもや家族に及ぼす影響や、子どもや家族の健康レベルに応じた看護について教授する。子どもの発達段階や家族のニーズ、疾病や障がいの状態に合わせた看護方法を検討するために、演習を活用した授業方法を取り入れる。							
一般目標		・健康レベルに応じた子どもと家族に対する看護について理解する。 ・健康障がい子どもとその家族に及ぼす影響を理解する。 ・健康障がいをもつ子どもや家族に対する安全で安楽な看護方法を理解する。 ・健康障がいをもつ子どもの成長発達にあわせた看護方法を習得する。 ・小児看護の課題を探究する姿勢を身につける。							
到達目標		①子どもの成長発達に応じた看護について述べることができる。 ②健康障がい子どもとその家族に及ぼす影響と看護について説明できる。 ③疾病に伴う症状のアセスメントの視点と必要な看護ケアについて説明できる。 ④急性期・慢性期・終末期にある子どもとその家族の状況および必要な援助について説明できる。 ⑤検査や処置を受ける子どもとその家族の状況および必要な看護ケアについて説明できる。 ⑥フィジカル・アセスメントの方法や留意点について説明できる。 ⑦小児看護を実践するための自己の課題を述べることができる。 ⑧課題学習・演習に主体的に参加できる。 ⑨対象に合わせた基本的看護方法を説明することができる。 ⑩紙上患者の看護過程を展開することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		1. 定期試験（60％）：到達目標①～⑤の達成度を判断する 2. 演習後の提出物（40％） ・演習後提出課題（20％）⑥～⑨の達成度を判断する ・看護過程演習の記録一式（20％）：到達目標⑦～⑩の達成度を判断する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当		
1	5. 4. 14（金）1	子どもの成長発達と看護	小児看護方法論概要説明 子どもの成長発達（DVD 視聴）			小児看護学概論の復習をして臨む	樋谷		
2	5. 4. 14（金）2								
3	5. 4. 21（金）1	健康障がいをもつ子どもと家族への看護	健康障がい子どもと家族に及ぼす影響と看護				樋谷		
4	5. 4. 21（金）2	健康障がいの経過と看護	急性期にある子どもと家族の看護				樋谷		
5	5. 4. 28（金）1		慢性期にある子どもと家族の看護				樋谷		
6	5. 4. 28（金）2		終末期にある子どもと家族の看護				樋谷		
7	5. 5. 12（金）1	子どものフィジカル・アセスメント	アセスメントに必要な技術（講義）				樋谷		
8	5. 5. 12（金）2		アセスメントに必要な技術（演習）			演習記録提出	樋谷		
9	5. 5. 19（金）1	症状・行動の観察と看護	症状を示す子どもの看護①				樋谷		
10	5. 5. 19（金）2		症状を示す子どもの看護②				樋谷		
11	5. 5. 26（金）1		症状を示す子どもの看護③				樋谷		
12	5. 5. 26（金）2		症状を示す子どもの看護④				樋谷		
13	5. 6. 2（金）1	小児看護技術	検査や処置を受ける子どもと家族の看護ケア①（講義）				樋谷		

14	5. 6. 2 (金) 2	小児看護技術	検査や処置を受ける子どもと家族の看護ケア② (講義)		樋谷
15	5. 6. 16 (金) 1		検査や処置を受ける子どもと家族への看護ケア③ (演習)		樋谷 貝野瀬
16	5. 6. 16 (金) 2		検査や処置を受ける子どもと家族への看護ケア④ (演習)		
17	5. 6. 23 (金) 1	看護過程の展開	健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (説明・自己学習)		樋谷 貝野瀬
18	5. 6. 23 (金) 2		健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (グループワーク)		
19	5. 6. 30 (金) 1		健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (グループワーク)		
20	5. 6. 30 (金) 2		健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (グループワーク)		
21	5. 7. 7 (金) 1		健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (発表)		
22	5. 7. 7 (金) 2		健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (まとめ)		
23	5. 7. 14 (金) 2	まとめ	小児看護方法論まとめ 小児看護学実習について	看護過程 記録提出	樋谷
教科書 参考図書		教科書：系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院 参考図書：必要時講義の中で紹介する			
履修上の注意		小児疾病論や小児看護学概論をはじめ既履修科目の内容を確認しながら学んでください。 教科書を必ず持参して授業に臨みましょう。 この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学生へのメッセージ		学習過程を通して主体的にものごとに取り組む姿勢を身につけましょう。子どものよりよい成長発達をめざした看護実践とは何かを考える、柔軟で豊かな創造力を期待しています。			
e-mail・研究室 (連絡先)		樋谷：研究室 29 ytsuchiya@yachts.ac.jp 貝野瀬：第2共同研究室 ykainose@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児看護学実習Ⅰ		看護学科 (専門科目)	講師・槌谷由美子 助教・貝野瀬友希	必修	2	後期	1	該当	否
授業概要		健康な子どもの人的・社会的環境を踏まえた日常生活行動を理解し、成長発達の個別性を理解しながら、健康な子どもへの支援について実習を通じて教授する。							
一般目標		・幼児期にある子どもの身体的成長、情緒的・社会的発達状態を理解する。 ・幼児期にある子どもと個々の特徴を踏まえた人間関係を成立する。 ・健康な子どもの日常生活を理解する。 ・幼児保育の技術を理解する。 ・健康教育や保育環境、施設における危機管理について考察する。							
到達目標		認知領域 ・幼児の成長発達の特徴を具体的に記述できる。 ・幼児の反応（訴え・感情など）とその対応方法を記述できる。 ・幼児とのコミュニケーションのとり方や個別性にあった生活支援について列記できる。 ・科目の到達目標に照らし合わせて評価できる。 情意領域 ・学生個々に日々の目標を持つことができる。 ・幼児に与える影響を考慮し、責任ある行動をとることができる。 ・カンファレンスにおいて報告・情報の提供等の発言ができる。 精神運動的領域 ・幼児の発達段階や状況に応じた関わり方ができる。 ・幼児の日常生活（睡眠・食事・排泄・清潔・衣服）の援助に参加できる。 ・事故防止・感染予防等の安全の視点で幼児の環境を整えることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実習態度と提出された記録物の内容から到達目標の達成度を総合的に判断して評価する。 ※実習指導者の評価を加味する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
	5. 9. 14 (木) ～ 5. 9. 21 (木)	幼児の成長発達の理解 幼児の生活の実状の参観 幼児の日常生活援助の実践 幼児保育の体験	実習期間：一週間 実習場所：山形市内の幼稚園、保育園、 認定こども園 実習内容：小児看護学実習Ⅰの要項に 提示する			既習の知識・技術等 を復習しておくこ と		槌谷 貝野瀬	
教 科 書 参 考 図 書		必要なものを自分で探してください。							
履 修 上 の 注 意		子どもは、免疫系の発達が未熟で感染を起こしやすく、学生自身が感染の媒体とならないために、予防接種などの健康診断結果が必要になることも考えられます。また、子どもは種々の伝染性疾患に罹患していることも多く、学生が罹患する危険性もあります。感染に関する対策の必要性を自覚し、健康管理に留意して実習に臨んでください。 以下の科目を修得しておくこと ・小児看護学概論 この授業科目は①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		子どもの表面的な言動や行動で判断するのではなく、子どもの体験している内面世界を感じ取れることを期待しています。子どもとのふれあいを十分に楽しんでください。 本科目は、教員と実習指導者（幼稚園教諭等）の指導の下、幼稚園において幼児教育の技術等について実習する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		槌谷 ：研究室 29 ytsuchiya@yachts.ac.jp 貝野瀬：第2 共同研究室 ykainose@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児看護学実習Ⅱ		看護学科 (専門科目)	講 師・樋谷由美子 助 教・貝野瀬友希	必修	3	後期	1	該当	否
授業概要		健康問題をもつ子どもとその家族とのかかわりを通して、対象の身体的・心理的・社会的変化を理解し、対象のよりよい成長発達をめざした看護について実践を通じて教授する。							
一般目標		- 健康問題をもつ子どもと家族との人間関係を成立する。 - 健康問題をもつ子どもとその家族の身体的・心理的・社会的変化を理解する。 - 健康問題をもつ子どもやその家族に対する看護方法を判断する。 - 健康問題をもつ子どもやその家族に対する看護援助を実践し評価する。 - 看護チームや他職種および地域保健・福祉との連携を考察する。 - 看護者として社会的責務を果たすための自己の課題を考察する。							
到達目標		認知領域 - 健康問題が及ぼす子どもの身体的な変化について説明できる。 - 健康問題が子どもや家族に及ぼす心理的・社会的影響について説明できる。 - 看護上必要な情報を収集し、整理して記述することができる。 - 子どもの成長発達および健康上の看護問題を抽出できる。 - 子どもの成長発達を促し、健康生活を目指した看護目標を設定できる。 - 子どもの成長発達や状況に応じた具体的な援助方法を示すことができる。 - 実施したケアについて評価することができる。 - 看護職チームの一員として目標や計画を共有する方法を記述することができる。 - 他職種・他機関と看護職チームとの協力体制の必要性を記述することができる。 - 看護職者として社会的責務を果たすための自己の課題を示すことができる。 - 課題に対する看護の質向上に向けた改善策を示すことができる。 - 自己を振り返り到達目標に照らし合わせて評価することができる。 情意領域 - 健康管理に留意し主体的に実習に臨むことができる。 精神運動領域 - 子どもや家族との援助的な対人関係を築くことができる。 - ケアの実施時、子どもや家族に目的と方法を説明し同意を得ることができる。 - 子どもや家族の反応を確かめながら安全に看護を実践することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		目標達成度、学習内容、実習記録、実習態度により総合的に判断して評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	5. 9. 19 (火) ～ 6. 2. 16 (金)	小児看護学実習Ⅱ 要項参照		実習期間：一週間 実習場所：山形県立中央病院 実習：小児看護学実習Ⅱの要項に提示する			既習の知識・技術等を復習しておくこと		樋谷 貝野瀬
教 科 書 参 考 図 書		必要なものを自分で探してください。							
履 修 上 の 注 意		子どもは種々の伝染性疾患に罹患していることも多く、学生が罹患する危険性もあります。感染に関する対策の必要性を自覚し、健康管理に留意して実習に臨んでください。 以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		既習の学習を活用して主体的に学び、自己の課題を見出してください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）における小児看護について実習する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		樋谷 : 研究室 29 ytsuchiya@yachts.ac.jp 貝野瀬 : 第2 共同研究室 ykainose@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
母性看護学概論	看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	次世代の育成に関わる看護の特徴と、実践に必要な概念および理論を教授する。また対象の特徴や社会の変化を踏まえた母性看護の役割と課題について教授する。							
一般目標	1. 母性看護学の目的、対象を理解する。 2. 次世代を育成するための看護実践の基盤となる概念および理論を理解する。 3. 社会の変化を踏まえて母性看護学が果たす役割を理解する。							
到達目標	1. 母性看護の対象と目標を理解し、母性看護の目的を考察できる。 2. 母子保健に関する動向を理解し、母子と家族の健康を支えるために必要な法律および施策と看護のあり方を考察できる。 3. 母性看護の実践に必要な概念および理論を理解し、実践へ適用方法が考察できる。 4. 親役割獲得過程や家族の発達過程・機能を理解し、実践へ適用方法が考察できる。 5. 母性看護学における倫理的課題を理解し、看護の役割を考察できる。 6. 母性看護学領域における、目標達成への課題と看護の役割を考察できる							
成績評価方針 評 価 方 法 お よ び 基 準	到達目標の達成状況を、5回のレポートで評価する							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 19 (水) 4	母性看護学の目的、対象、目標	母性看護の目的 母性看護の対象と目標 (グループワーク)			レポート①	遠藤	
2	5. 4. 26 (水) 4	母子保健の動向	国内外の母子保健の動向と課題				遠藤	
3	5. 5. 10 (水) 4	母子の健康を支える法律や制度	母子保健法、母子保健に関連する法規				遠藤	
4	5. 5. 17 (水) 4	母子の健康を支える施策	母子保健体系、子育て支援 生涯を通じた女性の健康に関する施策			レポート②	遠藤	
5	5. 5. 24 (水) 4	母性看護の実践に必要な概念および理論①	ヘルスプロモーション、健康行動			レポート③	遠藤	
6	5. 5. 31 (水) 4	母性看護の実践に必要な概念および理論②	親役割獲得過程、母性、父性、母子相互作用、家族の発達			レポート④	遠藤	
7	5. 6. 7 (水) 4	母性看護学における倫理的課題	母性看護学領域の倫理的課題の特徴 DVD視聴			レポート⑤	遠藤	
8	5. 6. 14 (水) 4	まとめ	母性看護学領域における課題				遠藤	
教科書 参考図 書	教：中込さと子他：ナースングラフィカ、母性看護学①、概論・リプロダクティブヘルスと看護、メディカ出版、 最新版 参：◎母子保健の主なる統計 最新版 参：◎松本千明：健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2002 年 参：◎国民衛生の動向							
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	母性看護学の特徴を学ぶとともに、自分自身の次の世代を生み育てる健康について考える機会にしてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
妊娠分娩期看護 方法論	看護学科 (専門科目)	教 授・遠藤 恵子 助 教・前田のぞみ	必修	2	後期	1	非該当	否
授 業 概 要	妊娠期、分娩期における生理的現象である形態機能と精神的社会的特性、妊婦・胎児・産婦とその家族に対する妊娠期、分娩期の基本的看護方法を主に講義により教授する。 妊娠期・分娩期におこりやすい異常の発生機序、症状、治療方法、看護援助を講義により教授する。							
一般目標	・妊娠期、胎児期、分娩期における生理的現象である形態機能の変化と、精神的社会的特性を理解できる。 ・妊娠期、分娩期の特徴・特性をふまえ、健康レベルを査定する方法を理解できる。 ・妊婦とその家族が、胎児の発育発達を促進し、妊娠に適応できる基本的看護方法を理解できる。 ・産婦とその家族にとって、安全で円滑、満足できる分娩に向けた基本的看護方法を理解できる。 ・妊娠期・分娩期におこりやすい異常の発生機序、症状、治療方法、基本的看護方法を理解できる。							
到達目標	1. 胎児の成長発達と胎児付属物の機能と、妊娠経過に伴う妊婦の身体的・心理社会的変化を説明できる。 2. 胎児の成長発達を促し、妊婦の妊娠への適応を促す基本的看護方法が説明できる。 3. 妊婦とその家族の、出産や親役割準備をすすめる基本的看護方法が説明できる。 4. 妊娠期に起こりやすい異常と、切迫早産で入院している妊婦に対する基本的看護方法が説明できる。 5. 分娩開始から分娩終了までの生理的経過とアセスメント内容・方法を説明できる。 6. 分娩進行が産婦および胎児に及ぼす影響を踏まえて、安全・安楽な分娩のための看護方法が説明できる。 7. 分娩に立ち会う家族の心理を踏まえて、産婦／家族にとって満足な分娩のための看護方法が説明できる。 8. 出生直後の新生児のアセスメントに必要な情報と看護方法を説明できる。 9. 分娩期におこりやすい異常の症状、処置、看護方法を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験 80% 到達目標 1 から 9 について、知識の理解、基本的看護方法の理解の達成度を評価する レポート① 10% 妊娠時期の特徴をふまえた妊婦のアセスメントができるかを評価する レポート② 10% 専門的知識を踏まえて、分娩期看護のあり方を考察できているかを評価する							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 9. 25 (月) 3	胎児と胎児付属物	・胎児の時期別発育発達の特徴 ・胎児付属物の種類と機能 DVD					遠藤
2	5. 10. 2 (月) 3	妊娠に伴う母体の身体的変化	・妊婦の時期別身体の形態機能の特徴					遠藤
3	5. 10. 16 (月) 3	妊婦の心理社会的変化と親になることの支援	・妊婦の心理的社会的変化 ・妊婦健康診査					遠藤
4	5. 10. 23 (月) 3	妊婦の日常生活とセルフケアを支える看護①	・胎児の成長発達を促す看護 ・妊娠の変化に適応するための看護 ・親役割準備に向けた看護					遠藤
5	5. 10. 30 (月) 3	妊婦の日常生活とセルフケアを支える看護②	・事例を用いて、アセスメント					遠藤
6	5. 11. 6 (月) 3	妊娠期のフィジカルアセスメント	・妊娠期の情報収集に必要なフィジカルアセスメント技術 DVD					遠藤
7	5. 11. 13 (月) 3	分娩期にある母子の生理	・分娩開始から分娩終了までの生理的経過 ・分娩の要素					前田
8	5. 11. 20 (月) 3	分娩期にある母子の生理	・分娩進行が胎児および産婦に及ぼす影響 ・分娩経過の診断					前田
9	5. 11. 27 (月) 3	分娩期にある母子の看護	・出生直後の新生児の看護 ・分娩 2 時間後までの生理的経過及びリスク状態のアセスメントと看護					前田
10	5. 12. 4 (月) 2	分娩期にある母子の看護	・分娩経過に沿った看護 ・基本的ニーズに対する看護					前田
11	5. 12. 4 (月) 3	分娩期にある母子の看護	・産婦と家族の状況に応じた看護 ・DVD			レポート① 「分娩期にある母子の看護を考察する」		前田
12	5. 12. 18 (月) 3	妊娠期に起こりやすい異常	・妊娠期によくみられる異常と看護					遠藤

13	5. 12. 25 (月) 3	ハイリスク妊婦の看護	・重症化を防ぐ基本的看護 ・入院生活の援助 ・切迫早産の看護	レポート② 「妊婦のアセスメント」	遠藤
14	6. 1. 15 (月) 3	分娩期にある母子の異常と看護	・分娩期にみられる異常 ・産科手術と産科処置		前田
15	6. 1. 22 (月) 3	分娩期にある母子の異常と看護	・ハイリスク産婦の看護 ・ハイリスク分娩・異常分娩における看護		前田
教 科 書 参 考 図 書	教：ナーシング・グラフィカ 母性看護②母性看護実践の実践，メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護③母性看護技術，メディカ出版 参考書は、講義で紹介する				
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。				
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	妊娠、分娩について、イメージを膨らませてください。				
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 前田：第 2 共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp				

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
母性看護方法論Ⅱ	看護学科 (専 門 科 目)	助 教・前田のぞみ 助 教・渡邊 礼子 准教授・菊地 圭子 教 授・遠藤 恵子	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	母性看護学概論と母性看護方法論Ⅰにおける学習を基盤に、出産後の女性が健康を維持促進しながら子どもの養育を健康的に行う過程を支えるために必要な基礎的知識を学習する。また、母性看護学実習につながる科目として既習の知識を生かしながら看護過程を展開する基礎的能力を講義、グループディスカッションにて養うとともに、周産期における看護実践に必要な基本的看護技術を習得する。							
一般目標	1. 産褥・新生児期にある対象の特徴を理解する。 2. 褥婦および新生児が正常な経過をたどり、円滑に家庭生活へ移行することを促進するための基本的な看護援助方法を理解する。 3. 産褥・新生児期にある対象への看護過程展開方法を習得する。							
到達目標	1. 産褥期の身体的、心理的、社会的変化を説明できる。 2. 産褥期の正常な経過を維持・促進する看護援助を説明できる。 3. 育児の習得や産褥期の生活への適応を促す看護援助を説明できる。 4. 新生児の身体的特徴と子宮外生活への生理的適応過程を説明できる。 5. 新生児の子宮外生活への生理的適応を促す看護援助を説明できる。 6. 親子関係形成や新生児の成長・発達を促す看護援助を説明できる。 7. 新生児期に発生する主要な異常の症状と治療方法を説明できる。 8. 新生児の尊厳を踏まえ看護することの意義や援助のあり方を考察できる。 9. 産褥期および新生児期の特徴を踏まえて、事例の情報をアセスメントできる。 10. 事例のアセスメントより対象の状態にふさわしい看護課題と目標を導き出し、看護計画を立案できる。 11. 周産期特有の看護技術の目的と実施方法、留意点を説明できる。 12. 看護技術演習を通して、対象者の安全や安楽に配慮した看護援助方法を考察できる。 13. 母性看護学実習に向けた自己の現状を分析し、課題の克服に向けた方策を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1) 定期試験 50% 筆記試験によって到達目標 1～7 の到達度を評価する。 2) 演習課題レポート 50% (1)産褥新生児期看護過程の展開演習での成果物 到達目標 9, 10 の到達度を評価する。 (2)妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習の課題（事前・事後レポート） 到達目標 8, 11～13 の到達度を評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当	
1	5. 4. 11 (火) 3	新生児の生理	科目オリエンテーション 講義 ① 新生児の生理的特徴			妊娠期・分娩期に関する既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊	
2	5. 4. 18 (火) 5	新生児の生理	講義 ② 新生児期のアセスメント				渡邊	
3	5. 4. 20 (木) 4	新生児の看護	講義 ① 子宮外生活への生理的適応を促進する援助 ② 成長・発達を促進する援助				渡邊	
4	5. 4. 25 (火) 5	褥婦の看護	講義 ① 産褥の経過と特徴				前田	
5	5. 5. 9 (火) 5	褥婦の看護	講義 ② 産褥の経過と特徴				前田	
6	5. 5. 30 (火) 5	褥婦の看護	講義 ③ 産褥期のアセスメント ④ 褥婦と家族の看護				前田	
7	5. 6. 6 (火) 5	褥婦の看護	講義 ④ 褥婦と家族の看護 ⑤ 退院後の褥婦の看護				前田	
8	5. 5. 16 (火) 5	新生児に起こりやすい異常	講義 新生児の呼吸循環障害、黄疸等				スポット (饗場)	
9	5. 6. 13 (火) 3	産褥期・新生児期の異常と看護	講義 褥婦と新生児の異常とその看護				渡邊	
10	5. 6. 20 (火) 5	産褥新生児期看護過程①	講義 母性看護における看護過程の展開について				前田	

11	5. 6. 30 (金) 3	Aグループ 妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習	【看護技術演習】 シミュレーターを用いた演習 ＜妊娠期＞ 妊婦腹部触診、子宮底長・腹囲測定、胎児心音聴取、胎児の健康状態の診断、妊婦体験 ＜産褥期＞ 産褥子宮復古の観察、外陰部の観察、授乳確立への援助 ＜新生児期＞ 新生児のバイタルサイン測定と諸計測 演習を効果的に進めるため、 <u>演習前後</u> にレポートを提出する。 詳細は初回の講義で説明する。	看護過程展開の個人ワークでの質問等はFORMSで提出する	前田 渡邊 菊地 遠藤
12	5. 6. 30 (金) 4	Bグループ 産褥新生児期看護過程【個人ワーク】、提出			
13	5. 6. 30 (金) 5				
14	5. 7. 7 (金) 3	Aグループ 産褥新生児期看護過程【個人ワーク】、提出		看護過程展開の個人ワークでの質問等はFORMSで提出する	前田 渡邊 菊地 遠藤
15	5. 7. 7 (金) 4	Bグループ 妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習	【看護過程展開】 提示された課題について個人で取り組み、提出する。		
16	5. 7. 7 (金) 5				
17	5. 7. 11 (火) 3	産褥新生児期看護過程②③	演習【グループワーク】 アセスメント・看護課題の抽出 発表準備・課題提出		前田 渡邊
18	5. 7. 11 (火) 4				
19	5. 7. 13 (木) 4	産褥新生児期看護過程④	課題の共有		
20	5. 7. 20 (木) 4	産褥新生児期看護過程⑤⑥	演習【グループワーク】 看護目標の設定と具体的看護計画の立案 発表準備・課題提出		前田 渡邊
21	5. 7. 20 (木) 5				
22	5. 7. 25 (火) 4	産褥新生児期看護過程⑦	課題の共有 演習についての自己評価記入		
23	5. 7. 27 (木) 4	産褥新生児期看護過程⑧	講義 産褥新生児期看護過程のまとめ 看護過程課題の最終提出 母性看護学実習について	看護過程最終提出のために講義時間内に個人ワークの時間を設けます	渡邊 前田
教科書 参考図書		教科書：ナースィング・グラフィカ 母性看護学②母性看護の実践，メディカ出版 ナースィング・グラフィカ 母性看護学③母性看護技術，メディカ出版			
履修上の注意		看護過程展開演習および看護技術演習では事前事後の課題がありますので、計画的に学習してください。 看護技術演習は場所や時間、服装について別途連絡しますので、講義時間中のアナウンスに留意して臨んでください。また、遅刻、欠席をしないようにしてください。 この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学生へのメッセージ		母性看護方法論Ⅱでは講義・演習を通して、褥婦および新生児の身体的・心理社会的変化について学習し、母子が生活の変化に適応して健康で快適な生活を送ることができるように家族を含めた看護援助を行うための基礎知識と技術・態度を養いましょう。既習の知識をぜひ活用してください。			
e-mail・研究室 (連絡先)		前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
母性看護学実習	看護学科 (専門科目)	助 教・渡邊 礼子 助 教・前田のぞみ 准教授・菊地 圭子 教 授・遠藤 恵子	必修	3	後期	2	該当	否
授業概要	周産期にある対象者への看護実践を通し、対象者の特徴を理解し次代を育むために必要な援助とそれに必要なチーム体制の基本を培う。さらに、ヒューマンケアの基本、自己研鑽の態度を修養する。							
一般目標	1. 母性看護の対象とその特徴を理解できる 2. 健康増進を目指した基礎的な看護を実践できる 3. 生涯を通じた母性看護の意義と看護者の役割を考察できる							
到達目標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1. 対象者の価値観を尊重する行動をとることができる 2. 新生児に対して、人権を擁護する意識を持って行動できる 3. 看護の職業倫理に基づき、責任ある行動をとることができる 4. 対象者と意思疎通を重ね、信頼関係を築くための行動をとることができる 次代を育むための援助の実践に関する実践能力 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解できる 2. 妊娠期・産褥期・新生児期の身体的・心理的・社会的特性と生理的变化を踏まえてアセスメントを行い、各期の対象者に適した看護上の課題を抽出できる 3. 対象者のセルフケア能力を活かし、各期の対象者に適した看護上の課題を抽出できる 4. 対象者の状況に合わせてタイミングや方法を工夫し、指導のもとに安全・安楽に看護を実施できる 5. 対象者の状況の変化に合わせて看護計画を随時評価し、修正できる 6. 妊娠に伴うリスクに応じた看護の特徴を考察できる 看護チームにおける協働・連携に関する能力 1. より適切な援助を行うために、医療チームの一員として連絡・報告・相談ができる 2. 対象者に関わる看護チームの役割・連携について表現できる 看護実践を通して研鑽する能力 1. 対象者の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備できる 2. 自分の行動を振り返り、課題の改善に向けた行動をとることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	到達目標 14 項目について実習評価表を用い、実習内容や実習記録から総合的に評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
	5. 9. 19 (火) ～ 6. 2. 16 (金)	周産期にある対象者を受け持ち、看護を実践する	詳細は母性看護学実習要項を参照 実習場所 県立中央病院、山形済生病院 産科病棟、産婦人科外来、小児科外来		事前学習課題を課す 詳細は実習オリエンテーション時に説明する		渡邊 前田 菊地 遠藤	
教 科 書 参 考 図 書		必要な図書・文献を自分で探し活用すること						
履 修 上 の 注 意		母性看護学はもちろん、これまで学んだ全てを復習して実習に臨むこと。 母性看護学方法論Ⅱで演習した技術を十分復習して実習に臨むこと。 以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		妊娠出産育児をしている方がハイリスク化してきています。これまで学んだ知識や経験を活かして実習してきましょう。また、健康管理を充分行って臨んでください。 本科目は、教員と実習指導者の指導の下、病院（臨床）において周産期にある対象者に看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp 菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
助産プロフェッショ ナリズム	看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	助産の基本概念と助産師の専門性について教授する。							
一般目標	1. 助産の基本概念と助産師の専門職者としての役割と責務を理解できる。 2. 助産師の専門性を獲得する教育制度とキャリア開発制度を理解できる。 3. 活動する場に応じた助産師の役割を理解できる。 4. 今後求められる助産師の役割を考察できる。							
到達目標	1. 法的根拠を踏まえ、助産の基本概念と助産師の専門職者としての役割と責務を説明できる 2. 医療機関、地域、助産所における具体的な助産実践活動を説明できる。 3. マタニティケア、ウィメンズヘルス、安全快適な分娩に向けた具体的な助産師実践活動を説明できる。 4. 多様な助産師教育制度を理解し、助産性の専門性を高めるキャリア開発の方策を考察できる。 5. 今後、助産師の専門性を発揮できる場や活動内容を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 お よ び 基 準	筆記試験 80% 到達目標 1 から 4 について、知識の理解の到達度を評価する。 レポート 20% 到達目標 5 の達成度を評価する。課題は講義内で提示する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 10 (月) 4	助産師制度	助産師の役割と制度、関連法規 海外の助産師制度				遠藤	
2	5. 4. 17 (月) 4	助産師の教育制度	助産師教育の変遷、多様な教育制度 キャリア開発				遠藤	
3	5. 4. 24 (月) 4	マタニティケア／ウィメン ズヘルスにおける助産師の 役割	妊娠期から育児期までの切れ目ない支援 思春期から更年期までの継続的ケア				遠藤	
4	5. 5. 1 (月) 4	安全・快適な分娩に向けた体 制と助産師の役割	周産期医療体制、医療安全、チーム医療 ケア			レポート	遠藤	
5	5. 5. 8 (月) 4	助産師活動の実際①	助産所における助産師活動 (オンライン)				スポット (小嶋)	
6	5. 5. 15 (月) 4	助産師活動の実際②	地域における助産師活動				スポット (遠藤)	
7	5. 5. 22 (月) 4	助産師活動の実際③	医療施設における助産師活動				渡邊 前田	
8	5. 5. 31 (水) 1	根拠に基づく助産ケア	WHO 勧告、UNICEF				遠藤	
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：助産師業務要覧 最新版							
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
リプロダクティブ ヘルスケア	看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	全てのライフサイクルに関わる性と生殖をめぐる健康問題の早期発見・治療および健康の維持・増進・疾病予防における看護を展開するために必要な基本的看護方法を教授する。							
一般目標	1. 性と生殖の看護の目的と対象を理解する。 2. 性や生殖が人の健康や生活に及ぼす影響を理解し、性の健康を維持増進させる基本的看護方法を理解する。 3. 性と生殖をめぐる健康問題に対する基本的看護方法を理解する。							
到達目標	1. 性と生殖に関する基本的な概念について説明できる。 2. 性と生殖の看護に必要な理論を理解し、実践への適用が考察できる。 3. 多様な性のあり方を理解し、看護の役割を考察できる。 4. 性に関する意識や行動の特徴を説明できる。 5. 妊孕性や不妊を説明でき、妊孕性を高める看護方法と不妊症に対する基本的看護方法を説明できる。 6. 性感染症や避妊を説明でき、性感染症予防や適切な避妊行動を促す基本的看護方法を説明できる。 7. 疾患や治療によって損なわれる性と生殖や、障がいをもつ人の性や生殖の特徴を説明できる。 8. 性と生殖の看護領域の倫理的課題の特徴と看護者としての役割を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1) 筆記試験 80％ 筆記試験によって到達目標 1～8 の到達度を評価する。 2) レポート 1回 20％ 「性の健康を高める看護」に関するレポート レポートによって到達目標 1～8 の到達度を評価する。課題は授業内で提示する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外 学習など	担当	
1	5. 11. 17 (金) 4	性の概念 性と生殖の看護の対象・目標	性、ジェンダー、セクシャリティ、性の健康 Reproductive Health/rights Sexuality				遠藤	
2	5. 11. 24 (金) 4	多様な性	性自認、性指向、性の多様性を踏まえた看護				遠藤	
3	5. 12. 1 (金) 4	性被害	性被害の実態、性被害を予防する看護				遠藤	
4	5. 12. 8 (金) 4	不妊・避妊	避妊、家族計画、不妊治療に対する看護				遠藤	
5	5. 12. 15 (金) 4	性感染症	性感染症、性感染症の予防と看護				遠藤	
6	5. 12. 22 (金) 4	性の健康を高める看護	性教育、プレコンセプションケア			レポート	遠藤	
7	6. 1. 19 (金) 4	障がいや疾患をもつ人の性と生殖の看護	障がいとセクシャリティ、妊孕性に影響を及ぼす疾患や治療とセクシャリティ				遠藤	
8	6. 1. 24 (水) 3	リプロダクティブヘルスに関する倫理	リプロダクティブヘルスに関する倫理的課題と看護				遠藤	
教 科 書 参 考 図 書	教科書：ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 最新版 その他、授業で随時提示します。							
履 修 上 の 注 意	既習の知識や科目を復習して授業に臨んでください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	・性と生殖の看護の特徴を学ぶとともに、自身の性と生殖について考える機会にしてください。 ・この授業科目は、周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤恵子：kendo@yachts.ac.jp (研究室 20)							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
妊娠期助産方法論		看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	選択	3	前期	1	非該当	否
授業概要		・妊婦・胎児とその家族の健康状態を診断するための基本的な知識と技術を講義により教授する。 ・模擬患者や妊婦に対する個人指導と集団指導を実施し、妊娠に適応し、分娩・育児に向けた準備を促進する効果的な保健指導の知識と技術を教授する。							
一般目標		・妊婦・胎児とその家族の健康状態を的確に診断し、今後の経過を予測するための基本的な知識と技術を習得できる。 ・妊婦とその家族が、妊娠に適応し、分娩・育児に向けた準備を促進する助産技術を習得できる。							
到達目標		1. 紙上事例で妊婦家族胎児の看護に必要な情報が収集できる 2. 紙上事例で妊婦胎児の現在の健康状態の診断・今後の経過の予測ができる。 3. 紙上事例で、助産計画を立案し、模擬妊婦に、生活に取り入れることが可能な援助が実施できる。 4. 模擬妊婦とその家族に対して、妊娠に適応し、分娩・育児に向けた準備を促進するための援助が実施できる。 5. 模擬妊婦の反応から援助の評価ができる。 6. 模擬患者に対し、対象者の安全や不快に配慮したケアを実施できる。 7. 既習した基本的ケアを、対象の状況に合わせたケアに向けてバリエーションを考えることができる。 8. 対象の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備することができる。 9. 超音波と胎児シミュレーターを用いて、胎児の健康状態を査定できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		事前学習・演習提出物 50% 到達目標 1、2、7、8 の達成状況を評価する 演習における行動 20% 目標 3、4、5、6、7 の達成状況を評価する 筆記試験 30% 妊娠期の助産を展開するために必要な知識の理解度							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1	5. 4. 10 (月) 1	妊娠期のケア・ガイドライン			講義				遠藤
2	5. 4. 10 (月) 2	妊婦に対する助産過程 妊娠初期の模擬事例①			講義 助産過程演習				
3	5. 4. 17 (月) 1	妊娠初期の模擬事例②			助産過程演習				
4	5. 4. 17 (月) 2	妊娠初期の模擬事例③			助産過程演習		事例に対する ①レポート ②アセスメント・診断 ③指導案 ④アセスメント・診断 ⑤計画・指導案		
5	5. 5. 1 (月) 1	妊娠初期の模擬事例④			助産過程演習				
6	5. 5. 1 (月) 2	妊娠中期の模擬事例①			助産過程演習				
7	5. 5. 8 (月) 1	妊娠中期の模擬事例②			助産過程演習				
8	5. 5. 8 (月) 2	妊娠中期の模擬事例③			助産過程演習				
9	5. 5. 15 (月) 1	妊娠末期の模擬事例①			助産過程演習				
10	5. 5. 15 (月) 2	妊娠末期の模擬事例②			助産過程演習				
11	5. 5. 22 (月) 1	妊娠期、授乳期における薬理							蓬田
12	5. 5. 22 (月) 2	妊娠末期の模擬事例③			助産過程演習				遠藤
13	5. 4. 24 (月) 1	超音波検査・妊婦健康診査の実際							前田
14	5. 4. 24 (月) 2								
15	5. 5. 29 (月) 2	妊娠に関する異常と治療							スポット
教 科 書 参 考 図 書		教：森恵美編：助産師基礎教育テキスト第4巻，妊娠期の診断とケア，日本看護協会出版会，最新刊。 参：日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会：産婦人科診療ガイドライン産科編 2020，日本産科婦人科学会。 その他、授業内で紹介します。							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		既習事項は、充分理解したものとして講義を進めます。演習形式ですすめます。遅刻・欠席はしないようにしてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
分娩期助産方法論	看 護 学 科 (専門科目)	助 教・前田のぞみ 准教授・菊地 圭子 助 教・渡邊 礼子 教 授・遠藤 恵子	選択	4	前期	2	非該当	否
授業概要	分娩期において、産婦と胎児／新生児および家族の健康状態を診断し、正常な分娩経過を維持・促進するための援助を教授する。分娩経過中に正常からの逸脱の可能性を早期発見し、適切な医療を提供するために必要な医学的知識と、ハイリスク分娩の看護について教授する。							
一般目標	1. 分娩期の産婦と胎児／新生児の身体的、社会的健康状態を診断する基本的な知識と技術を修得できる。 2. 分娩経過に伴う産婦と胎児の安全安楽および快適な分娩に向けた基本的な援助技術を修得する。 3. 分娩経過において産婦と胎児／新生児と家族が持つ能力を発揮するための援助技術を修得する。 4. 正常な分娩経過からの逸脱について、医学的知識とそれにとりまう看護を理解する。							
到達目標	1. 助産師の責務と助産ケア実践に関連した取り決めについて説明できる。 2. 分娩期の産婦と胎児の生理的経過と、分娩経過に伴う身体的・心理的变化を説明できる。 3. 分娩経過を把握するための診断技術と、分娩経過のアセスメントについて説明できる。 4. 分娩経過のアセスメントに基づき、安全、安楽、快適さに配慮した分娩のための援助方法を説明できる。 5. 出生直後の新生児の全身状態の観察および処置を説明できる。 6. 産婦と家族にとって満足度の高い分娩を目指した支援方法について説明できる。 7. 紙上事例について計画立案までの助産過程を展開し、看護実践の評価方法について説明できる。 8. 分娩期に起こりうる異常の発生機序、症状、処置、ハイリスク分娩の看護方法を説明できる。 9. 分娩介助モデルや模擬産婦に対して、安全、安楽、快適さに配慮して、分娩介助ができる。 10. 助産ケアと並行して対象者の意思・反応を把握し、状況に応じたケアが実践できるよう調整できる。 11. 分娩期ケアにおける各医療メンバーの役割を認識し、協働してケアが実践できるよう行動できる。 12. 学生間でお互いに、建設的な議論、批判、助言ができる。 13. 自分の課題を明確にし、限られた期間内に課題を克服する行動をとることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験 50%：分娩期のケアを実践していく上で必要な知識について、理解度を評価する。 演習提出物 20%：紙上事例について展開した助産過程をもとに、産婦・胎児の状況に応じた助産過程が展開されているかを評価する。 技術試験 30%：授業期間の終了時期に技術試験を行い、分娩介助技術の習得度を、分娩期実習評価表に基づき評価する。評価項目は、技術の確実さだけでなく、分娩経過の状況判断やそれに対する対処、他者との協働などに及ぶ。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当	
1	5. 4. 7 (金) 3	分娩の生理	分娩に関する概念、分娩の生理的経過			助産師としての 診断技術や介助 手技を身につけ、 状況に応じて臨 機応変に対応す るため、個人や小 グループでの自 主演習を必要と します。	前田	
2	5. 4. 7 (金) 4		分娩要素と分娩機転					
3	5. 4. 10 (月) 3		分娩における心理・社会的特徴 分娩が母子に及ぼす影響					
4	5. 4. 10 (月) 4	分娩期の助産診断	フィジカルアセスメント					
5	5. 4. 12 (水) 1		分娩の異常					
6	5. 4. 12 (水) 2		分娩期の助産診断と産婦のケア					
7	5. 4. 13 (木) 2	分娩介助法	分娩介助法					
8	5. 4. 14 (金) 3		出生直後の新生児のアセスメントと ケア					
9	5. 5. 24 (水) 1	分娩介助技術①	分娩介助の手順と手技				前田 菊地 渡邊 遠藤	
10	5. 5. 24 (水) 2							
11	5. 5. 24 (水) 3							
12	5. 6. 1 (木) 1		技術チェック①					
13	5. 6. 15 (木) 1		技術チェック②					
14	5. 6. 19 (月) 3	分娩介助技術②	【実践演習】 フリースタイル分娩の介助法 破膜・巻絡の介助				渡邊	
15	5. 4. 24 (月) 3	分娩期のケア 入院時、潜伏期、活動期	【実践演習】 分娩進行に伴うケア、家族のケア 導尿の手技、内診 様々な産痛緩和法 産婦の産む力を引き出す援助				渡邊	
16	5. 4. 24 (月) 4							
17	5. 4. 26 (水) 3	出生直後～早期新生児の健康診査と援助	【実践演習】 出生前の状態予測と児を迎える準備				渡邊	

18	5. 4. 26 (水) 4		出生直後の新生児の全身観察 早期皮膚接触時の観察とケア 早期新生児の観察		
19	後日連絡	産科手術と救急処置	急速遂娩術 産科出血 異常分娩の診断他		スポット (堤)
20	5. 6. 2 (金) 1	ハイリスク分娩時のケア	産科処置時の診療介助 ハイリスク分娩における看護 麻酔分娩		前田
21	5. 4. 17 (月) 1	事例展開①	分娩期の助産展開の実際		
22	5. 4. 17 (月) 2				
23	5. 4. 18 (火) 3				
24	5. 4. 19 (水) 1				
25	5. 4. 20 (木) 1				
26	5. 4. 21 (金) 3				
27	5. 5. 26 (金) 1	事例展開②	分娩期の助産展開の実際		
28	5. 5. 29 (月) 1				
29	5. 5. 31 (水) 1				
30	5. 6. 6 (火) 1	分娩期の助産師の役割	WHO: ポジティブな出産体験のための分 娩期のケア フリースタイル分娩 胎児付属物の精査		
教科書 参 考 図 書		《教科書》 ・町浦美智子責任編集：助産師基礎教育テキスト第 5 巻分娩期の診断とケア, 日本看護協会出版 会, 2023. ・小林康江責任編集：助産師基礎教育テキスト第 7 巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア, 日本看 護協会出版会, 2023. ・日本産婦人科学会編集：産婦人科診療ガイドライン産科編 2023, 日本産科婦人科学会. (8 月発刊 予定) ・藤森敬也：胎児心拍数モニタリング講座, 改訂 4 版, メディカ出版, 2021. 《参考書》 ◎武谷雄二監修：プリンシプル産科婦人科学②, 第 3 版, メジカルビュー社, 2014. ◎綾部琢哉, 板倉敦夫：標準産科婦人科学, 第 5 版, 医学書院, 2021. ・日本産婦人科学会編集：産婦人科診療ガイドライン産科編 2020, 日本産科婦人科学会. ・細野茂春：日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト第 4 版, メジカルビュ ー社, 2021. ・仁志田博司：新生児学入門, 第 5 版, 医学書院, 2018. ・楠田聡：新生児学テキスト第 1 版, メディカ出版 2018. ・河野寿夫：ベッドサイドの新生児の診かた 第 3 版, 南山堂 2016. ・照井克生：硬膜外無痛分娩 安全に行うために第 4 版, 南山堂, 2022. ・福井トシ子編：新版 助産師業務要覧Ⅰ 基礎編第 3 版, 日本看護協会出版会, 2023. ・福井トシ子編：新版 助産師業務要覧Ⅱ 実践編第 3 版, 日本看護協会出版会, 2023. ・福井トシ子編：新版 助産師業務要覧Ⅲ アドバンス編第 3 版, 日本看護協会出版会, 2023. ＊その他周産期、助産学関連の専門書、専門雑誌、視聴覚教材等を積極的に活用すること。			
履 修 上 の 注 意		予習・復習だけでなく、小グループ学習や自主学習など、授業外学習に多くの時間を必要とします。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		本科目は実習とつながっており、講義で作成する演習記録は助産学実習で活用できます。自分で考 えて実践する形式で講義が進行しますので、各自、十分な準備をして積極的に参加してください。 演習はお互いに協力し、対象の産む力が引き出せるよう技術を獲得しましょう。			
e-mail・研究室 (連 絡 先)		前田：第 2 共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp 菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 渡邊：第 1 共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
産褥期助産方法論		看護学科 (専門科目)	准教授・菊地 圭子 助 教・渡邊 礼子	選択	4	通年	2	非該当	否
授業概要		褥婦と新生児が正常な産褥期・新生児期経過をたどり新たな生活や役割に適応できるように、対象者のもつ力を引き出し、効果的に発揮させるための援助技術を教授する。さらに、正常からの逸脱を予防・早期発見するために必要な医学的知識と各専門分野の最新の知見を教授する。 本科目は母性看護学、基礎助産ならびに妊娠期助産方法論での学習を基盤とし、分娩産褥期助産実習へとつながる科目である。							
一般目標		1. 褥婦・新生児の現在の診断や今後の予測を適切に行い、家庭生活へ円滑に移行するために必要な看護援助を立案できる。 2. 育児や健康管理行動において対象者の力を効果的に発揮させるための援助方法を習得できる。 3. 褥婦・新生児への援助に必要な医学・医療に関する専門的知識・技術を理解できる。							
到達目標		1. 褥婦・新生児の現在の状態をアセスメント・診断し、今後の状態を予測できる 2. 褥婦・新生児の現在および今後の経過が正常を逸脱しないように予防的援助を含んだ計画を立案できる 3. 褥婦・家族のセルフケア能力や育児能力、親役割意識を高めるための援助計画を立案できる 4. 安全や安楽に配慮した適切な方法で援助を実施し、対象者の反応から実施した援助を評価できる 5. 褥婦と家族のセルフケア能力や育児能力、親役割意識を高めるために効果的な援助方法を考察できる 6. 新生児期の代表的な疾患・治療と基本的な看護援助を説明できる 7. 新生児医療における倫理的課題に対する自分の考えを考察できる 8. 母乳育児を促進するための基本的援助方法を説明できる 9. 超音波断層装置を用いて行う健康診査内容を説明できる 10. 会陰切開・裂傷縫合術の適応と縫合方法を説明できる 11. 自己の課題を明確にし、限られた時間内に課題を克服する行動をとることができる 12. 分娩産褥期助産実習に向けた自己の現状を分析し、課題の克服に向けた方策を考察できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		以下の1)～3)を合わせて100点満点として評価する 1)筆記試験1回20%（定期試験日程外に実施） 筆記試験で到達目標6, 8, 9, 10の到達度を評価する。 2)演習70% (1)産褥期・新生児期助産過程展開演習における提出記録20% 到達目標1, 2, 3, 4の到達度を評価する。 (2)「褥婦・家族のセルフケアと育児能力、親役割意識を高める援助」演習内容および提出記録50% 到達目標3, 4, 5, 12の到達度について援助計画用紙と事後レポートを評価する。援助計画および事後レポートの評価基準は講義内で説明する。到達目標12は事後課題の中に記載することを求める。 3)新生児医療の倫理的課題レポート10% 到達目標7について、講義後にA41～2枚程度のレポートを課し、評価基準に基づき到達度を評価する。評価基準は講義時に説明する。 到達目標11は、上記2), 3)について各種課題の提出期限を遵守し、不足を補う行動がとれたかどうかという視点で評価する。評価は2), 3)の評価を含む。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当		
1	5. 4. 6 (木) 2	産褥期・新生児期助産過程展開演習①	授業の進め方と今後の演習概要・スケジュール説明 事例について、グループディスカッションを行いながら、助産計画を立案する		毎回助産過程の課題を課す 授業のため個人またはグループ単位での準備・練習を必要とする		菊地		
2	5. 4. 7 (金) 1	家族計画・受胎調節	講義・演習 ・産後の家族計画の意義と動向 ・受胎調節法の実際（各種避妊法）				菊地		
3	5. 4. 10 (月) 1	産褥期・新生児期助産過程展開演習②	グループディスカッションを行いながら、事例に対する助産計画を立案する 事例に基づくロールプレイ演習を行う				菊地		
4	5. 4. 10 (月) 2	産褥期の身体的課題と運動療法	講義・演習				永瀬		
5	5. 4. 12 (水) 3	産褥期・新生児期助産過程展開演習③	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習				菊地		

6	5. 4. 20 (木) 5	新生児期の代表的疾患と治療	講義		スポット (饗場)
7	5. 4. 25 (火) 5	新生児期の代表的疾患と治療	講義		スポット (饗場)
8	5. 4. 13 (木) 1	産褥期・新生児期助産過程展開演習④	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
9	5. 4. 13 (木) 3	地域における母乳育児支援の実践	講義・演習 乳汁分泌・産生を促進する援助技術 直接授乳の援助技術 褥婦の身体的ケア	母乳育児に関する既習の知識・技術を復習して臨む	スポット (齋藤)
10	5. 4. 13 (木) 4				
11	5. 4. 18 (火) 4	超音波断層法による健康診査	講義		スポット (大貫)
12	5. 4. 24 (月) 1	産褥期・新生児期助産過程展開演習⑤	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
13	5. 4. 24 (月) 2	産褥期・新生児期助産過程展開演習⑥	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
14	5. 4. 25 (火) 3	母乳育児支援のスタンダード	講義・演習 母乳育児支援の基本		スポット (山田)
15	5. 4. 25 (火) 4				
16	5. 4. 26 (水) 1	産褥期・新生児期助産過程展開演習⑦	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
17	5. 4. 26 (水) 2	産褥期・新生児期助産過程展開演習⑧	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
18	5. 4. 27 (木) 1	産褥期の助産技術演習	演習		菊地 渡邊
19	5. 4. 27 (木) 2				
20	5. 4. 28 (金) 3	産褥期・新生児期助産過程展開演習⑨	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
21	後日連絡	ハイリスク新生児の成長・発達を支える看護	講義 NICU/GCUにおける新生児への援助、分離状態にある母子と家族への援助、ディベロップメンタルケア		スポット (植松)
22	後日連絡	会陰裂傷/会陰切開 会陰裂傷縫合術	講義・演習		スポット (杉山)
23	5. 5. 23 (火) 1	褥婦のセルフケアと育児能力、親役割意識を高める援助産褥期・新生児期助産技術演習	計画した保健指導のロールプレイ演習	演習後レポート：講義時に提示する	菊地 渡邊 前田 遠藤
24	5. 5. 23 (火) 2				
25	5. 6. 6 (火) 5	新生児医療における倫理的課題	講義・演習		スポット (饗場)
26	5. 6. 21 (水) 5	新生児医療における倫理的課題	講義・演習	講義後レポート：講義時に提示する	スポット (饗場)
27 28 29 30	後日連絡	新生児医療における倫理的課題 新生児蘇生法講習会 (Bコース)	講義・演習 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法普及事業小委員会公認の新生児蘇生法(NCPR)講習会 講義前試験/講義・実技/認定試験	「日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト」を各自準備し、事前学習をして臨む	スポット (饗場)

教科書 参考図書	教科書 最新版を購入すること 江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト 2023 版、産褥期のケア／新生児期・乳児期のケア, 日本看護協会出版会. 小林康江編：助産師基礎教育テキスト 2023 版、ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア, 日本看護協会出版会. NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会：母乳育児支援スタンダード第 2 版, 医学書院. 参考図書 ◎水野克己, 水野紀子：母乳育児支援講座改定 2 版, 南山堂 ◎仁志田博司：新生児学入門, 医学書院. ◎河野寿夫編：ベッドサイドの新生児の診かた改定 3 版, 南山堂. ◎UNICEF/WHO：赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイドベーシックコース「母乳育児成功のための 10 か条」の実践, 医学書院. 「助産雑誌」, 「ネオネイタルケア」, 「周産期医学」などの専門雑誌も活用して下さい。
履修上の注意	講義日程が変更となる場合があります。随時連絡しますのでアナウンスに留意してください。 短期間で多くの課題提出がありますので、計画的に学習しましょう。
学生へのメッセージ	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に関わる既習の知識・技術を十分理解し、習得していることが必要です。必ず予習復習してください。演習にあたっては、講義以外の時間で準備や自己学習が必要です。学内の教材や図書、AV 教材などを積極的に活用して主体的に学習してください。
e-mail・研究室 (連絡先)	菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 渡邊：第 1 共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域母子保健	看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	選択	4	後期	1	非該当	否
授業概要	母子保健に関する法制度、母子保健事業の内容と体系、地域特性をふまえた母子保健活動、保健医療福祉の連携協働のありかたを教授する。							
一般目標	1. 母子保健に関する法制度、母子保健事業の内容と体系を理解する。 2. 地域特性をふまえた母子保健活動を理解する。 3. 母子保健に関する保健医療福祉の連携協働のありかたを理解する。							
到達目標	1. 地域における母子保健活動の目的と意義を説明できる。 2. 母子保健に関する法を列挙できる。 3. 妊娠期・育児期の母子保健事業と、女性の生涯を通じた健康維持のための事業内容を説明できる。 4. 地域特性をふまえた活動を説明できる。 5. 児童虐待の現状と予防支援策を説明できる。 6. 行政が実施する母子保健活動を理解し、医療機関と地域との効果的な連携を考察できる。 7. 地域の母子保健における課題について、助産師としての役割を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験 到達目標 1 から 7 の到達度を評価する							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 15 (金) 1-5	地域母子保健の意義 母子保健計画の実際	地域母子保健の意義・概念 母子保健計画			総合看護学実習Ⅱの実習市町村の特徴や実施する事業とあわせながら理解を深める 児童虐待や母子感染等、地域の母子保健に関するニュースに関心をもつ	遠藤	
2		母子保健に関連する法と体系	母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法他、母子保健体系				遠藤	
3		母子保健の動向 母子保健における課題と目標	出生、乳児死亡等の推移 健やか親子 21、子育て支援				遠藤	
4		妊娠期の母子保健活動	母子健康手帳交付、妊婦健康診査、相談等				遠藤	
5		育児期の母子保健活動 生涯を通じた支援の施策	乳幼児健康診査、保健指導、予防接種				遠藤	
6	5. 10. 18 (水) 2-4	児童虐待予防	児童虐待の実態と予防				遠藤	
7		母子保健活動の他職種連携	山形市内の育児支援施設での講義				スポット	
8		まとめ					遠藤	
教科書 参考文献	教科書：助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全、日本看護協会出版会							
履 修 上 の 注 意	なし							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	実習等の事例を思い出しながら、地域における母子保健活動における助産師の役割を考えてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
助産管理		看護学科 (専門科目)	教 授・遠藤 恵子	選択	4	後期	1	非該当	否
授業概要		助産業務実践のために必要な知識として、助産師の法的責務、助産業務における労務管理、リスクマネジメント、情報管理、災害対策、施設内外の連携について教授する。							
一般目標		1. 助産業務に関連する法規から助産師の責務を理解できる。 2. 医療機関と助産所における助産業務管理を理解できる。 3. 周産期医療における医療安全と危機管理対策を理解できる。							
到達目標		1. 法規に基づく助産師の責務を説明できる。 2. 周産期医療機関における助産業務管理を説明できる。 3. 助産所における助産業務管理を説明できる。 4. 周産期医療における医療事故、危機管理対策を説明できる。 5. 周産期医療における感染対策を説明できる。 6. 周産期医療における災害対策を説明できる。 7. 周産期医療における助産師の質の向上に必要な管理業務の課題を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		筆記試験：助産業務実践のために必要な知識について、また助産業務の実際と課題について、理解度を評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当		
1	5.10.20 (金) 1	助産師の業務にかかわる法と責任	助産業務に関連する法規・女性や母子の支援にかかわる関係法規			日ごろから社会の動向に関心を持つように心がけてください。また、実習中に医療施設における管理業務に注意を払うことも重要です。	遠藤		
2	5.10.20 (金) 2	助産管理業務	リスクマネジメント、産科医療制度、医療事故、危機管理対策				遠藤		
3	5.10.27 (金) 1	医療機関における助産業務管理の実際①	人事・物品・経済・情報・時間管理、情報・記録の管理				スポット (済生病院)		
4	5.10.27 (金) 2	医療機関における助産業務管理の実際②	周産期病棟、外来、院内助産の管理、オープンシステム混合病棟の管理				スポット (済生病院)		
5	5.11.10 (金) 1	医療機関における助産業務管理の実際③	産科と他科の混合病棟の助産管理				スポット		
6	5.11.10 (金) 2	医療機関における助産業務管理の実際④	周産期医療センターの助産管理				スポット		
7	5.11.17 (金) 1	助産所の管理運営の実際	助産所の管理者・設備、嘱託医や医療機関との連携、分娩基準(オンライン)				スポット (武藤)		
8	5.11.17 (金) 2	周産期や母子の災害対策	災害対策・支援活動				スポット (山田)		
教科書 参 考 図 書		参考書 ・ 工藤美子責任編集：助産師基礎教育テキスト第1巻 助産学概論、日本看護協会出版会、最新版 ・ 成田伸責任編集：助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全、日本看護協会出版会、最新版 新版 助産師業務要覧 第3版基礎編、日本看護協会出版会、最新版 新版 助産師業務要覧 第3版実践編、日本看護協会出版会、最新版 新版 助産師業務要覧 第3版アドバンス編、日本看護協会出版会、最新版 その他、授業で随時提示します。							
履 修 上 の 注 意									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		助産業務管理や看護管理は、管理職だけでなくすべての助産師・看護師が携わるものです。管理に関する知識を身につけて、一人の助産師としてどのように行動すべきかを考察してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
妊娠期助産実習	看護学科 (専門科目)	教 授・遠藤 恵子 准教授・菊地 圭子 助 教・渡邊 礼子 助 教・前田のぞみ	選択	3	後期	1	該当	否
授業概要	妊婦とその家族の健康生活を援助するために、助産診断・技術の原理と技法を基盤にした助産過程を展開し、助産師としての基礎的実践能力を教授する。							
一般目標	・妊婦とその家族の健康生活を援助するために、助産診断・技術の原理と技法を基盤にした助産過程を展開できる。 ・妊婦とその家族が安定した妊娠生活を維持し、分娩や育児の準備が円滑にすすむためのケアについて、助産師が果たすべき役割について考えることができる。							
到達目標	1. 対象者の価値観を看護ケアに反映できる。 2. 新生児に対して、人権を擁護する意識を持ちながら看護援助ができる。 3. 対象者と意思疎通を重ね信頼関係を築くための行動ができる。 4. 倫理観に基づき、学生としての立場で責任ある行動をとることができる。 5. 妊娠経過の診断および今後の妊娠経過の予測に必要な情報を適切な方法で収集できる。 6. 妊婦と胎児の現在の状態を診断できる。 7. 現在の妊娠経過から、今後の妊娠経過および分娩・産褥期におよぼす影響を予測できる。 8. 助産診断に基づき、安定した妊娠生活の維持に向けた援助を実施できる。 9. 助産診断に基づき、出産・育児準備および親役割準備に向けた援助を実施できる。 10. 妊娠経過を総括し、実施した助産過程を評価できる。 11. 妊婦と家族に対する助産師の役割について考察できる。 12. 看護チームの一員であることを自覚し、対象者から得た情報や自分の行動を指導者や教員に時期を逃さず報告・連絡できる。 13. より適切な援助を行うために、指導者や教員に時期を逃さず相談できる。 14. 対象の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備することができる。 15. 自分の行動を振り返り、課題の改善に向けた行動ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実習評価表に示した項目と基準で、実習態度・実習の内容、記録から総合して評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・ 学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		
	6. 1.22 (月) ～ 6. 2.16 (金)		・妊婦健康診査、妊婦に対する基本的な保健指導、妊婦を継続的に受け持ち助産過程の展開 実習場所 県立中央病院、山形済生病院 実習内容、実習方法の詳細は、実習要項に提示する。			1月上旬に、妊婦に対する基本的な援助についての事前学習の提出を求める。		
教 科 書 参 考 図 書	必要なものを自分で準備すること							
履 修 上 の 注 意	以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ、基礎助産、性と生殖、性と生殖の看護、妊娠期助産方法論							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	助産学関係はもちろん、これまで学んだすべてのことを復習して実習に臨むこと 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）において妊婦に対する看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp、 菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
分娩期助産実習		看護学科 (専門科目)	准教授・菊地 圭子 教授・遠藤 恵子 助教・渡邊 礼子 助教・前田のぞみ	選択	4	前期	5	非該当	否
授業概要		分娩期にある母子とその家族に対して、分娩経過や分娩への適応状態を助産診断し、その助産診断に基づいた、正常分娩経過の維持、産婦と家族の満足かつ肯定的な出産体験に向けた援助のあり方を実習を通して教授する。							
一般目標		1. 分娩期の母子およびその家族の健康生活を支援するために助産過程を展開し、助産師としての基礎的実践能力を修得する。 2. 正常に経過している産婦の分娩介助を安全に行うために必要な助産診断および助産技術を修得する。 3. 母子とその家族の健康生活を援助するために助産師が果たすべき役割と責務について考察する。							
到達目標		分娩期における実践能力 1. 分娩進行に応じて、分娩経過の診断に必要な情報を適切に収集できる。 2. 対象者の情報を適切にアセスメントできる。 3. 分娩期にある対象者の個別性と分娩経過をふまえた助産計画を立案できる。 4. 分娩進行に伴って変化する産婦と胎児の生理的経過に応じて、正常分娩経過の維持に向けた援助ができる。 5. 実践した援助を適切に評価し、また、分娩進行や対象者の状況の変化に応じて、助産計画を適宜修正できる。 6. 正常分娩経過において安全に分娩介助ができる。 7. 産婦と家族にとって望ましい出産体験に向けた援助ができる。 8. 正常分娩経過からの逸脱時における助産師の役割について考察できる。 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1. 対象者の価値観を把握し助産ケアに反映できる。 2. 対象者と意思疎通を重ね信頼関係を築くための行動がとれる。 3. 倫理観に基づき、学生としての立場で責任ある行動がとれる。 看護チームにおける協働・連携に関する能力 1. 看護チームの一員であることを自覚し、対象者から得た情報や自分の行動を指導者や教員に時期を逃さず報告・連絡できる。 2. 対象者に、より適切な援助を行うために、指導者や教員に時期を逃さず相談できる。 看護実践を通して研鑽する基本能力 1. 対象の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備することができる。 2. 自分の行動を振り返り、課題の改善に向けた行動ができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		分娩期の看護を実践した 10 例のうち、産褥・新生児期の看護過程を展開した事例以外について、分娩期助産実習評価表に基づき、実習終了時点で評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
	5. 6. 26 (月) ～ 5. 8. 10 (木)		・ 分娩期の産婦、胎児および家族に関する助産過程を展開する。 ・ 正常経過にある産婦の分娩介助を行う。 実習場所 県立中央病院，県立新庄病院， 山形済生病院，米沢市立病院， 公立置賜総合病院，日本海総合病院， 山形市立病院済生館 実習内容、実習方法、実習配置の詳細は、 助産学実習要項に提示する。			・ 助産学はもちろん、これまで学んだすべてのことを復習して実習に臨むこと。 ・ 適切な看護が提供できるよう、自分自身が行った看護に対する対象者の言語的・非言語的反応を含めて、看護の振り返りを適切に行う。 ・ 看護の振り返りは教員、実習指導者、他の学生と共にする場合もある。		菊地 遠藤 渡邊 前田	
教科書 参考図書		助産学に関連する授業で使用了参考書など、必要なものを自分で準備すること							
履修上の注意		実習開始までに、分娩期の助産診断技術（分娩介助技術を含む）の自主トレーニングを確実にに行い、提示された到達目標に達しておくこと。							

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	分娩産褥期助産実習も含め長期間にわたる実習であり、分娩期の実習は、受け持ち産婦の状況等により実習が夜間・休日に及ぶこともあります。貴重な学習のチャンスですが、自分の健康管理にも十分留意してください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師、助産師等）の指導の下、病院（臨床）において分娩期の妊婦に対して看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
分娩産褥期助産 実習	看護学科 (専門科目)	准教授・菊地 圭子 教 授・遠藤 恵子 助 教・渡邊 礼子 助 教・前田のぞみ	選択	4	前期	2	非該当	否
授業概要	分娩期にある母子とその家族に対して、分娩経過や分娩への適応状態を助産診断し、その助産診断に基づいた、正常分娩経過の維持、産婦と家族の満足かつ肯定的な出産体験に向けた援助のあり方を実習を通して教授する。また、産褥・新生児期の継続受け持ち実習を通して、褥婦と新生児、その家族に対する助産過程の展開、正常な産褥期・新生児期経過の維持・促進、親役割獲得、親子・家族関係形成に向けた援助のあり方を教授する。							
一般目標	1. 分娩期および産褥・新生児期の母子とその家族の健康生活を支援するために助産過程を展開し、助産師としての基礎的実践能力を修得する。 2. 正常に経過している産婦の分娩介助を安全に行うために必要な助産診断および助産技術を修得する。 3. 母子とその家族の健康生活を援助するために助産師が果たすべき役割と責務について考察する。							
到達目標	分娩・産褥・新生児期における実践能力 1. 分娩進行に応じて、分娩経過の診断に必要な情報を適切に収集できる。 2. 対象者の情報を適切にアセスメントできる。 3. 分娩期にある対象者の個別性と分娩経過をふまえた助産計画を立案できる。 4. 分娩進行に伴って変化する産婦と胎児の生理的経過に応じて、正常分娩経過の維持に向けた援助ができる。 5. 正常分娩経過において安全に分娩介助ができる。 6. 褥婦および新生児の経過の診断および今後の予測に必要な情報を適切に収集できる。 7. 妊娠経過および分娩経過をふまえ、褥婦の身体的回復状態および心理・社会的状態を診断できる。 8. 出生児を迎えた生活環境・生活背景・家族の役割変化や役割形成について、アセスメントできる。 9. 産褥早期の褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的状態をふまえた看護計画を立案できる。 10. 立案した看護計画に沿って、母子の状態に応じた援助を実施するために調整できる。 11. 実施した援助を適切に評価し、看護計画を適宜修正できる。 12. 対象者の個別性をふまえた保健指導を計画・実施できる。 13. 対象者に合わせた家族計画の支援について考えることができる。 14. 産婦と家族にとって望ましい出産体験に向けて、分娩入院時から退院後まで、継続的な援助ができる。 15. 正常経過からの逸脱時における看護、助産師の役割について考察できる。 16. 産褥期における母子と家族に対する助産師の役割について考察できる。 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1. 対象者の価値観を把握し助産ケアに反映できる。 2. 対象者と意思疎通を重ね信頼関係を築くための行動がとれる。 3. 倫理観に基づき、学生としての立場で責任ある行動がとれる。 看護チームにおける協働・連携に関する能力 1. 看護チームの一員であることを自覚し、対象者から得た情報や自分の行動を指導者や教員に時期を逃さず報告・連絡できる。 2. 対象者に、より適切な援助を行うために、指導者や教員に時期を逃さず相談できる。 看護実践を通して研鑽する基本能力 1. 対象の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備することができる。 2. 自分の行動を振り返り、課題の改善に向けた行動ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	産褥・新生児期の看護過程を展開した事例について、分娩産褥期助産実習評価表に基づき、実習終了時点で評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	5. 6. 26(月) ～ 5. 8. 10(木)		・ 分娩期の産婦、胎児および家族に関する助産過程を展開する。 ・ 正常経過にある産婦の分娩介助を行う。 ・ 褥婦、新生児および家族に関する助産過程を展開する。 実習場所 県立中央病院， 県立新庄病院， 山形済生病院， 米沢市立病院， 公立置賜総合病院， 日本海総合病院， 山形市立病院済生館 実習内容、実習方法、実習配置の詳細は、 助産学実習要項に提示する。			・ 助産学はもちろん、これまで学んだすべてのことを復習して実習に臨むこと。 ・ 適切な看護が提供できるよう、自分自身が行った看護に対する対象者の言語的・非言語的反応を含めて、看護の振り返りを適切に行う。 ・ 看護の振り返りは教員、実習指導者、他の学生と共に行う場合もある。		菊地 遠藤 渡邊 前田

教科書 参考図書	助産学に関連する授業で使用した参考書など、必要なものを自分で準備すること
履修上の注意	実習開始までに、分娩期の助産診断技術（分娩介助技術を含む）の自主トレーニングを確実にを行い、提示された到達目標に達しておくこと。
学生への メッセージ	分娩期助産実習から継続する長期間にわたる実習であり、分娩期の実習は、受け持ち産婦の状況等により実習が夜間・休日に及ぶこともあります。貴重な学習のチャンスですが、自分の健康管理にも十分留意してください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師、助産師等）の指導の下、病院（臨床）において分娩・産褥・新生児期の母子に対して看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。
e-mail・研究室 （連絡先）	菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人看護学概論		看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 和子	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	成人とはどのような人かを成人各期の特徴から理解し、生活との関連から成人の健康を概観する。対象特性と社会の変化の中で生きる成人を対象とする看護実践に必要な理論および看護の機能について、臨床現場の問題と結び付けて学習する。								
一般目標	・ ライフステージの特徴を理解し、生活過程から生じる健康上の問題を理解する。 ・ 健康の良い状態から病気に至る過程を、発達段階や生活過程との関係で考える。 ・ 生命力を脅かす諸要因とその特徴を理解し、回復を促進させる生活調整について考える。								
到達目標	①成長発達段階における成人の位置づけを説明することができる。 ②成人各期の特徴と健康問題を説明することができる。 ③成人期の生活ストレスと健康障害の関連を述べることができる。 ④セルフケア/自己効力理論について説明することができる。 ⑤代表的な危機理論と適応理論について説明することができる ⑥人生移行とゆらぎ、成人期の健康問題の関連について説明することができる。 ⑦学習者としての成人を理解し、保健行動の特徴と健康観との関連について述べることができる。 ⑧障がいの受容に関する理論について概説することができる。 ⑨「病みの軌跡」という考え方と看護への活用について説明することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	基本方針： ・ 定期試験 1 回 70%：到達目標を達成しているかどうかで判断します。 ・ 授業内小テストまたはレポート 20%：課題に対する知識、自身の考えが盛り込まれているかどうかを評価の基準とします。 ・ 授業内での発言 10%：授業への参加、事前学習の準備状況を評価の基準とします。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 5. 29 (月) 4	成人看護学の対象	成人の定義、発達・役割、身体機能の特徴			事前に該当箇所の教科書を読み、日常的な社会生活で生活者としての問題意識を大事にして授業に臨んでください。 授業で扱うテーマについては、基本的な情報や体系づけられた知識を踏まえて自分なりの見解が導き出せるように、復習を丁寧に行ってください。		遠藤 (和)	
2	5. 6. 5 (月) 4	成人の生活と健康	生活者の概念、成人各期の健康、健康観と保健行動、						
3	5. 6. 12 (月) 4	セルフケアと自己効力	自立、セルフケアの概念、自己効力						
4	5. 6. 19 (月) 4	危機と適応	危機理論、適応理論						
5	5. 6. 26 (月) 4	人生移行とゆらぎ	自己概念、自尊感情、セクシュアリティ、更年期						
6	5. 7. 3 (月) 4	成人学習と健康教育	学習と教育 アンドラゴジー、行動変容、セルフマネジメント、セルフモニタリング						
7	5. 7. 10 (月) 4	障害受容 希望と苦悩	障害受容論、意思決定支援 病気体験における希望と苦悩						
8	5. 7. 24 (月) 4	病みの軌跡 ライフストーリー	病みの軌跡という考え方 ライフストーリー						
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：成人看護学概論（メディカ出版）第2回は国民衛生の動向を持参してください。 経過別成人看護学3 慢性期看護 メヂカルフレンド社 6・7回目持参してください。 参考図書：成人看護学概論（ヌーベルヒロカワ） 系統看護学講座／成人看護学概論（医学書院） その他、授業の中で紹介します。							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		社会に関心を向けて、現代を生きることと医療、看護の役割を考えていきましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤和子：研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
急性期看護方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	准教授・片桐 智子 助 教・丸山 香織	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	急激な健康の破綻により、薬物療法や手術療法などの積極的な治療を必要とする人々およびその家族への看護の必要性を認識し、対象に働きかけるための看護の方法論を教授する。								
一般目標	・積極的な治療を必要とする対象とそこのおかれた状況を理解することができる。 ・積極的な治療が適切かつ安全に行われるための看護方法を理解することができる。 ・積極的な治療が必要な対象の状況から必要な看護援助を判断することができる。 ・麻酔や手術による生体への影響と身体の変化に伴う看護方法を理解することができる。 ・集中治療をうける対象の状況を看護の視点で理解することができる。								
到達目標	・急性期看護の対象の特徴および状況を説明できる。 ・急性期の看護場面におけるストレスと生体反応について説明できる。 ・麻酔/手術が生体に及ぼす身体内部の変化を看護の視点から説明できる。 ・術後の生体反応と回復過程を看護の視点で説明できる。 ・術後の合併症予防、心身の苦痛を軽減するための看護方法を説明できる。 ・急性期にある対象の病態/疾病の特徴を看護の視点で説明できる。 ・急性期にある対象の疾患に特徴的な治療/検査等を看護の視点で説明できる。 ・急性期にある対象の事例を通して、必要な看護方法を説明できる。 ・集中治療室における対象の心身のアセスメント・全身管理・日常生活援助について述べることができる。 ・循環器系、呼吸器系、感覚器系、栄養/代謝系、泌尿器系、骨・運動器系器官の機能、対象のアセスメント・日常生活への援助について述べるができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：授業の中間（1回目）および終了後（2回目）に試験を行います。 方法：定期試験 80％（授業の中間および終了後）。中間試験は 9 回目の授業後に実施するが、6 回以上出席しなければ受験することができない。中間試験以降 15 回目終了後の期末試験は、4 回以上出席しなければ受験することができない。 その他 20％（課題、授業に臨む姿勢など） 基準：積極的な治療を必要とする人々がおかれた心身の状況、およびそれらに対する看護の必要性が認識できているかを評価する。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 25（月）4	○急性期の看護 ・急性期あるいは急性期という健康状態 ・急性期にある人の身体的側面、他	講義：教科書(急)p4-31 他 ・「急性期」の定義 ・急性期にある患者の特徴 ・生命の維持、悪化防止 ・苦痛の緩和など			・成人老年期の特性・役割・機能・健康上の問題などを復習して授業に臨むこと。		片桐	
2	5. 10. 2（月）4	○周手術期看護① ・周手術期の特徴、術前患者の心理/身体的側面	講義：教科書(周)p14-100 ・「周手術期」の定義 ・術前アセスメント、合併症予防対策など			・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。		片桐	
3	5. 10. 16（月）4	○周手術期看護② ・麻酔/手術中の患者の状況、手術中の看護	講義：教科書(周)p101-128 ・手術中の看護 ・麻酔と看護、手術室での事故防止策など			・ストレス理論・心理学などの知識を確認して授業に臨むこと。		片桐	
4	5. 10. 23（月）4	○周手術期看護③ ・手術侵襲による生体反応、患者の心身の苦痛	講義：教科書(周)p129-176 ・手術侵襲による患者の生体反応 ・術直後の心身の苦痛への看護方法			・各疾病の特徴・検査・症状・治療法に関する知識（解剖・生理）を確認して授業に臨むこと。		片桐	
5	5. 10. 30（月）4	○周手術期看護④ ・合併症予防、日常生活への看護、継続的な看護	講義：教科書(周)p177-208 ・各合併症予防のための看護方法 ・日常生活行動拡大に向けての看護方法、継続的看護など					片桐	

6	5.11. 6 (月) 4	○栄養摂取/消化・代謝機能障がいのある患者の看護① ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(急)p149-163、173、174 (周) p296-308、177-185 ・消化器、胃がん 腸閉塞 他		丸山
7	5.11.13 (月) 4	○栄養摂取/消化・代謝機能障がいのある患者の看護② ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(周) p347-358、302、 (急) p164-173、352-355 ・内視鏡補助下手術 ・肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍 他		丸山
8	5.11.20 (月) 4	○栄養摂取/消化・代謝機能障がいのある患者の看護③ ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(周) p383-392、(急) p160-162 ・食道がん ・大腸がん/人工肛門造設術 他		丸山
9	5.11.27 (月) 4	○循環機能に障がいのある患者の看護 ・疾患と治療、患者の理解	講義：教科書(急)p91-116、p195-206、 (周)p274-285 ・循環機能に障がいのある患者の看護、 急性心筋梗塞、他		片桐
10	5.12. 4 (月) 4	○呼吸機能に障がいのある患者の看護① ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(急)p36-40、(周)p286-295 ・呼吸機能に障がいのある患者の看護、 肺がん、他		片桐
11	5.12.11 (月) 4	○呼吸機能に障がいのある患者の看護② ・ICUにおける患者の看護	講義：教科書(急)p36-40、(周)p286-295 ・人工呼吸器を装着した患者への支援		片桐
12	5.12.18 (月) 4	○感覚器系に障がいのある患者の看護 ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(周)p336-347 ・頭頸部に障がいのある患者の看護、 甲状腺がん、他		片桐
13	5.12.25 (月) 4	○骨・運動器に障がいのある患者の看護 ・疾患と治療の理解 ・手術を受ける患者の看護	講義：教科書(周)p327-335、他 ・骨/運動機能に障がいのある患者の状 況、変形性膝関節症、他		片桐
14	6. 1.15 (月) 4	○排泄機能(排尿)に障がいのある患者の看護 ・疾患・治療の理解 ・手術を受ける患者の看護	講義：教科書(急)p176-195、261-282 ・体液調整 ・排泄(排尿)機能に障がいのある患 者の看護 前立腺がん、他		丸山
15	6. 1.22 (月) 4	○乳腺に障がいのある患者の看護 ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(周)p309-316、他 ・乳がんの手術を受ける患者の看護		丸山
教 科 書 参 考 図 書		教科書：急性期看護論・周手術期看護論(ヌーヴェルヒロカワ) 参考図書：ナースが見る人体・ナースが見る病気(講談社)、看護学原論講義(現代社)、成人看護学④周手術期看護(メディカ出版)など			
履 修 上 の 注 意		急激な健康の破綻により薬物療法や手術療法などの医療を必要とする対象の看護を教授するが、事前にその病態を自己学習して臨むこと。事前に与えられた課題に取り組んだ後授業に臨むこと。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		解剖、生理、病態など、既習の知識に対し授業中質問しながら進めるので、予習が前提となります。一部の疾患をもつ患者の看護(事例による学習)は、急性期看護方法論Ⅱで学習します。生命の危機的状況にある患者とは、また、どうかかわることが看護なのか、履修するみなさん自身が「看護するためのアタマ作りをする」という姿勢で授業に臨んでください。			
e-mail・研究室 (連 絡 先)		片桐：研究室4 tkatagiri@yachts.ac.jp 丸山：第2共同研究室 kmaruyama@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開 講 時 期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人急性期看護方法論Ⅱ		看護学科 (専門科目)	准教授・片桐 智子 助 教・丸山 香織	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		急激な健康の破綻により、薬物療法や手術療法などの積極的な治療を必要とする成人期にある人々およびその家族への看護の必要性を認識し、事例を用い対象に働きかけるための看護実践方法論を教授する。							
一般目標		・積極的な治療を必要とする対象の心身の状況をイメージすることができる。 ・積極的な治療により対象が生命の危機状況を乗り越えるための看護方法をイメージできる。 ・積極的な治療が必要な対象の状況から必要な看護援助を判断することができる。 ・事例検討を通して、文献やグループ討議を活用し、対象の全体像・立体像を作成することができる。 ・対象のデータや状況の意味を的確に判断し、必要な看護援助を実施することができる。							
到達目標		・急性期看護の対象の特徴を説明できる。 ・急性期・周手術期におけるストレスと生体反応について説明できる。 ・麻酔/手術が対象の身体内部に及ぼす影響、および対象に必要な看護を述べることができる。 ・術後の合併症予防、心身の苦痛を軽減するための看護方法を説明できる。 ・術後の生体反応と回復過程を看護の視点で説明できる。 ・生命の危機状況にある対象の病態、疾病の特徴・治療等を看護の視点で説明できる。 ・生命の危機状況にある対象に必要な日常生活援助を含む看護方法を根拠とともに説明できる。 ・対象の事実から、対象の全体像と立体像をグループメンバーと討議し作成することができる。 ・対象の心身に起こっている事実について、知識に基づき分析した過程を論理的に表現できる。 ・看護問題を明確化し、患者にとって到達可能な目標を設定し表現することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：課題、事例検討の成果（全体像・立体像）、授業に臨む姿勢などで評価する。 方法：課題、事例検討の成果（全体像・立体像）80％ その他 20％（授業に臨む姿勢、など） 基準：積極的な治療を必要とする人の心と身体の状況の理解、およびそれらに対する看護の必要性が認識できているかを評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1 ・ 2	5. 4. 10（月）4 5. 4. 10（月）5	○急性期・周手術期にある患者の事例検討について ・急性期・周手術期の患者の看護問題解決・人間関係形成のための思考および看護方法	講義：看護学原論講義 p. 25-159 ・急性期・周手術期の事例を用いた患者の全体像・立体像の描き方と看護方法を検討するための方法についての説明。 ・演習のスケジュールや課題についての説明。	・各疾病の特徴・検査・症状・治療法に関する知識（解剖・生理）を確認して授業に臨むこと。 ・教員に指示された課題を予習してから授業に出席すること。 ・グループ学習では、指定された教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議すること。	片桐 丸山				
3 ・ 4	5. 4. 17（月）4 5. 4. 17（月）5	○栄養摂取・消化機能障がいにより手術を受ける患者への侵襲と回復過程への援助（事例検討）	グループ学習：事例を用い、下部消化管の手術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方と看護方法を検討する。	・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取ること。 ・グループ学習および演習は、成人看護学演習室で行う。	（事） 片桐 丸山				
5 ・ 6	5. 4. 24（月）4 5. 4. 24（月）5	○肺葉切除術を受ける患者への侵襲と回復過程への援助（事例検討）	グループ学習：事例を用い、肺葉切除術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方について検討する。		（事） 片桐 丸山				

7 ・ 8	5. 5. 1 (月) 4 5. 5. 1 (月) 5	○肺葉切除術を受ける患者への侵襲と回復過程への援助(事例検討)	グループ学習: 事例を用い、肺葉切除術を受ける患者に起きている現象についての看護過程を検討する。		(事) 片桐 丸山
9 ・ 10	5. 5. 8 (月) 4 5. 5. 8 (月) 5	○人工膝関節置換術を受ける患者への侵襲と回復過程への援助(事例検討)	グループ学習: 事例を用い、人工膝関節置換術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方について検討する。		(事) 片桐 丸山
11 ・ 12	5. 5. 15 (月) 4 5. 5. 15 (月) 5	○人工膝関節置換術を受ける患者への侵襲と回復過程への援助(事例検討)	グループ学習: 事例を用い、人工膝関節置換術を受ける患者に起きている現象についての看護過程を検討する。		(事) 片桐 丸山
13 ・ 14 ・ 15	5. 5. 22 (月) 3 5. 5. 22 (月) 4 5. 5. 22 (月) 5	○術前および術中の患者に必要なかつ最適な看護方法の具体について学ぶ。 ○術後の患者に必要なかつ最適な看護方法の具体について学ぶ。	[演習1] 術前指導、全身麻酔時の看護、気管挿管の介助、ガウンテクニックなど [演習2] 手術直後の観察、離床への援助、急変時の一次救命処置 など		(演) 丸山 片桐 (演) 丸山 片桐
教科 参 考 図 書	教科書: 看護学原論講義(現代社) 参考図書: 急性期看護論・周手術期看護論(ヌーヴェルヒロカワ)、ナースが見る人体・ナースが見る病気(講談社)など				
履 修 上 の 注 意	急激な健康の破綻により薬物療法や手術療法などの医療を必要とする対象の看護を教授するが、事前にその病態を自己学習して臨むこと。事前に与えられた課題に取り組んだ後授業に臨むこと。この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。				
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	解剖、生理、病態など、既習の知識に対する予習を前提に、授業を展開します。危機的状況にある患者にどうかかわることが看護なのか、履修するみなさん自身が「看護するためのアタマ作りをする」という姿勢で主体的に授業に臨んでください。				
e-mail・研究室 (連絡先)	片桐: 研究室4 tkatagiri@yachts.ac.jp 丸山: 第2共同研究室 kmaruyama@yachts.ac.jp				

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
慢性看護方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 和子 講師・山田カオル 助教・富樫 理恵	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要		既習の疾病・病態の知識をもとに、慢性疾患・長期的な健康障がいのある人の特徴を理解し、対象となる人が良好な健康状態を回復・維持していくための、看護援助の方法論を学びます。特に対象理解とアセスメント力をつけることを重視します。本科目は、成人看護学概論での内容を基盤とし、慢性期看護方法論Ⅱおよび慢性看護学実習につながる科目です。							
一般目標		1. 慢性的な病や障がいとともにある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解する 2. 慢性的な病や障がいに特徴的な疾患の病態・検査・治療を理解した上で、科学的根拠に基づく具体的な支援方法を理解する							
到達目標		①慢性的な病として特徴的な疾患と治療・看護のポイントを説明できる ②慢性的な病とともにある人・家族の健康問題について情報整理、アセスメントできる ③慢性的な病と共にある人・家族に特徴的な看護方法について説明できる ④がんの診断・検査・治療を理解した上で、がんとともに生きる人・家族の苦痛の緩和について説明でき							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・ 定期試験 1 回 45%：到達目標を達成しているかどうかで判断します。 ・ 授業内小テストまたはレポート 45%：課題に対する知識、自身の考えが盛り込まれているかどうかを評価の基準とします。 ・ 授業内での発言 10%：授業への参加、事前学習の準備状況を評価の基準とします。 ※定期試験、レポート・授業参加、学習態度等によって総合的に評価します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5.10. 5 (木) 1	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	ガイダンス 病む人と共に生きる人の理解			免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	遠藤 (和)		
2	5.10.19 (木) 1		慢性・回復期にある人のケア						
3	5.10.26 (木) 1		セルフマネジメント 学習と教育						
4	5.11. 2 (木) 1		看護過程 循環器機能障がいのある人・家族への看護				遠藤 (和) 富樫		
5	5.11. 9 (木) 1		事例展開：慢性心不全						
6	5.11.17 (金) 1		呼吸器機能障がいのある人・家族への看護				山田		
7	5.11.17 (金) 2		事例展開：慢性閉塞性肺疾患(COPD)						
8	5.11.24 (金) 1		栄養摂取・消化器機能障がいのある人・家族への看護				山田		
9	5.11.24 (金) 2		事例展開：肝炎・肝硬変						
10	5.12. 1 (金) 1	病や障害とともに生活する人の学習支援	病態栄養・食事療法(DM、腎、心) 塩分、kcal バランス、タンパク質				遠藤 (和) 富樫		
11	5.12. 1 (金) 2		運動療法 腎リハ、心リハ						
12	5.12. 8 (金) 2		糖尿病看護				遠藤 (和)		
13	5.12.15 (金) 2		糖尿病看護 患者教育						
14	6. 1.12 (金) 1	がんとともに生きる人・家族への看護	・がんの診断、治療の特殊性 ・治療継続のためのマネジメント			がんとともに生きる人の体験記を 1 冊は読んでから授業に臨む	スポッ ット (神谷)		
15	6. 1.12 (金) 2		・痛み、嘔気・嘔吐、呼吸困難の治療とケア ・緩和ケア				スポッ ット (神谷)		
教 科 書 参 考 図 書		教科書：経過別成人看護学3 慢性期看護 メヂカルフレンド社 参考書：講義の中で適宜紹介します がん患者さんの体験として、◎絵門ゆう子：がんと一緒にゆっくりと、新潮社。 ◎山崎多賀子：「キレイに治す乳がん」宣言！ 光文社。 ◎毎日新聞生活報道部：乳がんと生きる、毎日新聞出版 他に、立花隆：がん生と死の謎に挑む(NHK スペシャル)など							

履 修 上 の 注 意	各授業で事例を用いて段階的に看護展開を行います。講義はアセスメントを中心に実際の臨床現場に即しており、実務に就いている実習指導者も担当する科目となっているため、予習と復習をしっかりと行い深めてください。 毎回、minute paper を用いて理解と参加状況を把握します。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	これまでの既習講義・実習で得た知識を想起しながら、主体的に授業に参加することと、授業後のノート整理をしっかりとしておくことが理解が深まります。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤和： 研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp 山 田： 研究室 33 kaoyamada@yachts.ac.jp 富 樫： 第 1 共同研究室 rtogashi@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人慢性期看護方法論Ⅱ		看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 和子 講師・山田カオル 助教・富樫 理恵	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		生涯を通してコントロールを必要とする成人が良好な健康状態を回復・維持していくために必要な看護方法について学ぶ。事例を通して、科学的根拠に基づく適切な判断に必要な看護技術や知識を習得し、ロールプレイを用いた演習により、実践に活かすための応用力を養う。 本科目は、成人看護学概論・成人慢性期看護方法論Ⅰの内容を基盤とし、成人慢性期看護学実習につながる科目である。							
一般目標		1. 慢性的な病と共にある人の意思決定、人権擁護について理解する 2. 慢性的な病と共にある人の自己管理への取り組みを支援する看護方法を理解する 3. 看護過程を用いて慢性的な病（がん）と共にある人の援助について理解する							
到達目標		①慢性的な病と共にある人の意思決定の支援、および、人権を擁護する態度・行動について自己の考えを説明することができる ②慢性的な病と共にある人の自己管理に必要な知識、技術について説明できる ③シリンジおよびペン型インスリン注射、自己血糖測定器を用いた血糖値の測定ができる ④糖尿病の事例を用いて、資料・文献を検索し活用することで、効果的な患者教育の内容を説明することができる ⑤患者教育の技術の要点について説明することができる ⑥紙上患者を用いて、がんと共にある人の看護過程が展開できる。 ・資料、文献を検索し、活用することで看護の根拠を説明できる ・グループで検討し、看護計画を立案できる ・グループで考えた援助を実施することができる ⑦検討会では、グループで考えた紙上患者の看護援助を他者に伝え、他者の考えを聞くことができる ⑧検討会では、他グループの実施する看護援助について吟味し、自らの考えを説明できる ⑨自他の意見を踏まえて、よりよい看護計画を立案することができる ⑩グループワーク・実技演習に主体的に参加できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・筆記試験（50%）：到達目標の達成度を判断します ・記録用紙、レポート(20%)：指定の様式の順守と、到達目標の達成度を判断します ・グループワーク参加・学習態度(30%)：実技の評価は演習中に行います ※筆記試験、レポート・授業参加、学習態度等によって総合的に評価します							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 5. 17（水）2	ガイダンス 慢性期看護援助の考え方	＜講義＞ 慢性看護方法論Ⅱの進め方 慢性的な病と共にある人の人権・アドボカシー			既習の実習経験を想起しながら参加すること		遠藤和	
2	5. 5. 24（水）2	病や障がいとともに生活している人・家族への看護	＜講義＞ セルフマネジメントを支援するための理論・概念 コンプライアンス・アドヒアランス 症状マネジメント他			成人看護学概論のテキストも活用すること		遠藤和	
3	5. 5. 31（水）1		＜講義＞ 栄養摂取・代謝障がいのある人・家族への看護 事例展開：糖尿病			GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること		遠藤和	
4	5. 5. 31（水）2		＜演習＞ 事例展開：糖尿病					山田 遠藤和	
5	5. 6. 7（水）1		＜講義＞ 患者教育（個別・集団） 食事療法					遠藤和	
6	5. 6. 7（水）2		＜演習＞ インスリン注射、自己血糖測定			演習は、薬品および針を扱うので適度に緊張して参加すること。教員の指示を遵守すること		山田 富樫 遠藤和 スポット	

7	5. 6. 14 (水) 1		<演習 GW> 患者教育演習 事例展開：糖尿病（個別）		山田 富樫 遠藤和
8	5. 6. 14 (水) 2		<演習> 患者教育計画 検討会		
9	5. 6. 21 (水) 1	がんとともに生きる 人・家族への看護	<演習> 看護過程 事例展開：がん	GW に必要な資料・ 文献などを検索し て準備し、活用す ること	富樫 山田 遠藤和
10	5. 6. 21 (水) 2				
11	5. 6. 28 (水) 1 5. 6. 28 (水) 2		<GW>		
12			<GW>		
13	5. 7. 5 (水) 1 5. 7. 5 (水) 2		<GW>		
14			<GW>		
15	5. 7. 12 (水) 2		<演習> 発表会：がん患者の看護過程 <まとめ>		
教科書		教科書：慢性期看護 経過別成人看護学 メジカルフレンド社			
参考文献		参考書：講義の中で適宜紹介します			
履修上の注意		GW による演習を主体とした事例展開を行います。遅刻はメンバーに迷惑がかかります。臨床実習指導者からの指導もあるので、積極的に参加し、予習と復習をしっかりと行い深めてください。この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学生へのメッセージ		毎回、minute paper を用いて理解と参加状況を把握します。 これまでの既習講義・実習で得た知識を想起しながら、主体的に授業に参加してください。			
e-mail・研究室（連絡先）		遠藤和： 研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp 山 田： 研究室 33 kaoyamada@yachts.ac.jp 富 樫： 第1 共同研究室 rtogashi@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人急性期看護学実習		看護学科 (専門科目)	准教授・片桐 智子 助 教・丸山 香織	必修	3	後期	3	該当	否
授業概要		急性期および周手術期にある成人・老年者の看護に必要な既習の知識・技術を活用し、看護の役割をふまえ、適切な看護が実践できる基礎的能力と態度を養う。							
一般目標		1. 急性期・周手術期の特徴をふまえ、対象と関係形成を図ることができる。 2. 危機的状況における対象の全身状態の系統的な観察と情報収集ができる。 3. 健康障害に関連して生じる反応を統合的に分析できる。 4. 医療チームの一員として看護上の問題を明確化し、個別的な計画を立案・実施できる。 5. 行われる治療・手術の意義を理解し、必要な支援を考え、実施できる。 6. 対象の状態および苦痛を理解し、生活行動拡大のための支援ができる。 7. 実施した看護を評価し、生活上の課題を対象とともに明確化することができる。							
到達目標		1. 急性期・周手術期の特徴および手術が心身に与える影響をふまえ、対象の人格を尊重しコミュニケーションできる。 2. 術前検査・治療が対象のこころ・身体・生活へ及ぼす影響について説明できる。 3. 「看護とは」の視点で必要な情報を収集・整理し、対象の全体像・立体像を描くことができる。 4. 手術中の看護の目的を理解し、看護師の指導を受けながら必要な支援を考え実施できる。 5. 手術後の全身状態の観察を行い異常の有無を分析し、麻酔・手術侵襲の程度および状態を説明できる。 6. 認識を上り下りさせ、対象から得た情報（事実）の意味を考え根拠に基づき分析した思考過程と、看護上の問題を明確化し表現できる。 7. 術後の生活規制による対象の身体・心理状況をふまえ、個別性に沿った計画を立案し、実施できる。 8. 指導者の指導の下、合併症予防・生活行動拡大のための支援を対象の状態に合わせて実施できる。 9. 実践の結果を対象の反応から評価し、計画を修正しながら看護過程を展開できる。 10. 今後の生活上の課題について、対象者の視点でともに考え明確化することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実習目標の到達度、実習態度、記録などを総合して評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など		担当
	5. 9.19 (火) ～ 6. 2.16 (金)	急性期および周手術期にある成人・老年期の患者を受け持ち、看護過程（実施・評価を含む）を展開する。	1. 実習内容、実習場所などの詳細は、成人急性期看護学実習要項に提示する。 2. 各病棟4名のグループごと実習を展開する。 3. 各自で関連理論や文献を用いて予習・復習し、グループメンバーで討論し合い、看護の視点でアセスメントする能力や個別性に沿った看護を学ぶ。				・事前学習、予習、復習を欠かさないためにも図書館を活用すること。		片桐 丸山
教 科 書 参 考 図 書		特に指定しないので、自ら必要な図書・文献を探すこと。							
履 修 上 の 注 意		・成人看護学概論、成人急性期看護学方法論Ⅰ・Ⅱの知識を必ず再確認して臨むこと。 ・以下の科目を修得しておくこと。 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		展開が速いので、健康に留意し事前学習を必ず行って実習に臨むこと。「看護とは」を忘れず、あなたのもっているすべてを出し切るつもりで対象にかかわりましょう。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）における急性及び周手術期患者に対する看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		片桐智子：研究室4 tkatagiri@yachts.ac.jp 丸山香織：第2共同研究室 kmaruyama@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人慢性期看護学実習		看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 和子 講師・山田カオル 助教・富樫 理恵	必修	3	後期	3	該当	否
授業概要		慢性的な健康障がいとともにある人とその家族とのかかわりを通して、対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに、既習の知識・技術を用いて看護を展開し、科学的根拠に基づく看護実践が提供できるための基礎的能力を養う。							
一般目標		1. 慢性疾患とともにある人・家族とのかかわりを通して身体的・心理的・社会的側面を多角的にとらえる。 2. 慢性疾患の病態、検査、治療過程について理解し、状況に応じて適切な看護を提供する。 3. 慢性疾患とともにある人・家族に看護過程の展開による援助を実施する。 4. 慢性疾患とともにある人と家族のセルフケア支援について考えることができる。 5. チーム医療の中で看護専門職としての役割、多職種との連携について学ぶ。 6. 看護実践における自己の行動を振り返り、看護者としての在り方や看護観を深め、自己の課題を明確にする。							
到達目標		認知領域 ・受け持ち患者の情報を客観的に記述、解釈・分析し、統合して全体像を描き、看護問題を抽出できる ・受け持ち患者の病態生理・検査、治療経過、病状悪化の要因を説明できる ・受け持ち患者のセルフマネジメントを客観的に評価できる ・受け持ち患者の発達課題、ソーシャルサポート、自己管理能力・疾病の受容のレベルを考慮し、科学的根拠に基づきその人に合った看護計画を立案できる ・実践した援助内容を客観的にみつめ、看護計画を評価できる 情意領域 ・援助のタイミングを考慮することができる ・チーム医療における関連部門・職種との連携について理解し、チームで行う治療やケアを患者の立場から見直した上でこれからの連携、および、看護職のあり方について考えることができる ・自己の看護実践を、カンファレンス等を通して客観的に振り返り、看護者としてのあり方や看護観を表現することができる ・看護実践における自己の学習課題を明確化し、課題達成に向けて主体的に取り組むことができる 精神運動領域 ・受け持ち患者・家族とコミュニケーションを取りながら、信頼関係を築くことができる ・受け持ち患者のフィジカルアセスメントを実施できる ・受け持ち患者の安全・安楽を考慮した実践ができる							
成績評価方針 評価方法 および基準		実習目標の達成度、看護実践の評価、実習態度、実習記録、事前学習、最終レポートにより、総合的に評価する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
	5.9.19（火） ～ 6.2.16（金）	1 名以上の患者を受け持ち、看護過程を展開する。	詳細は実習要項を参照。			既習の知識・技術等を確認しておくこと		遠藤和 山田 富樫	
教科書 参考図書		必要な図書を自分で探すこと							
履修上の注意		以下の科目を修得しておく必要があります。 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学生への メッセージ		自己の健康管理を十分に行いましょう。これまで学んだ知識・技術を活用して実習に臨んでください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）における慢性疾患患者に対する看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連絡先)		遠藤和：研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp 山田 ：研究室 33 kaoyamada@yachts.ac.jp 富樫 ：第1共同研究室 rtogashi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
老年看護学概論	看 護 学 科 (専門科目)	教授・ 齋藤 美華 助教・ 佐藤 千穂	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要	老い（老化）とは何かを身体的・心理的・社会的側面から考察し、高齢者を全人的に理解できるための知識を習得する。また、高齢者の家庭や社会における役割および健康レベルに応じた援助方法を学ぶ。							
一般目標	1. 加齢による身体的、心理的・社会的変化を理解し、老年期にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を考察できる。 2. わが国の高齢者に関わる保健・医療・福祉システムの理念と社会構造を理解する。 3. 高齢者の人権や倫理にかかわる諸問題とその捉え方を知る。 4. 老年看護学の理念や看護過程を展開していくための基礎的考え方を知る。							
到達目標	認知領域 ・加齢による身体的、心理的・社会的変化を理解し、老年期にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を考え、説明できる。 ・わが国の高齢者に関わる保健・医療・福祉システムの理念と社会構造を説明できる。 ・高齢者の人権や倫理にかかわる諸問題とその捉え方を説明し、考えることができる。 ・老年看護学の理念や看護過程を展開していくための基礎的考え方を述べることができる。 情意領域 ・身近な高齢者も含め、高齢者と家族について興味を持って授業に参加することができる。 ・高齢者を取り巻く様々な状況について、自分の考えを表現することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験、レポート、演習への参加状況および演習レポートを総合的に評価する。 ・筆記試験（70％）およびレポート（20％）：到達目標の達成度 ・演習への参加状況・レポート（10％）：「高齢者疑似体験と移動」を通しての学びについて、考察を評価							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 9. 28 (木) 4	老年期の理解 (1)	老いとは何か① ・加齢による心理的・社会的変化、ライフステージとしての老年期			既習の解剖生理学を復習確認して臨むこと		齋藤
2	5. 10. 5 (木) 4	老年期の理解 (2) 老年看護の理念と役割	老いとは何か② ・加齢による身体的変化と老年病の特徴 老年看護の理念と目標、老年看護の特徴			既習の解剖生理学を復習確認して臨むこと		齋藤
3	5. 10. 12 (木) 4	老年期の援助の特徴	加齢による身体的・心理的・社会的変化に伴う援助の特徴－転倒予防と事故防止、コミュニケーション、認知症への援助、摂食・嚥下障害			1-2 講を復習して臨むこと		齋藤
4	5. 10. 19 (木) 4	援助の展開 (1)	演習「高齢者疑似体験と移動」「摂食・嚥下障害への援助」「ライフヒストリーグループワーク」			既習内容の理解の確認		齋藤 佐藤
5	5. 10. 26 (木) 4	援助の展開 (2)	演習「高齢者疑似体験と移動」「摂食・嚥下障害への援助」「ライフヒストリーグループワーク」			既習内容の理解の確認		齋藤 佐藤
6	5. 11. 2 (木) 4	老年保健とヘルスプロモーション 高齢者の倫理	・老年保健とヘルスプロモーション ・高齢者の人権と倫理、ソーシャルサポートシステム					齋藤
7	5. 11. 9 (木) 4	高齢者を取り巻くケアシステム	わが国の高齢者に関わる保健・医療・福祉システムと介護保険			レポート課題		齋藤
8	5. 11. 16 (木) 4	まとめ	老年看護学概論のまとめ 演習「ライフヒストリーグループワーク発表」			既習内容の復習		齋藤 佐藤
教科書 参考図書	教科書：1) 随時紹介します。 2) 「厚生省の指標 国民衛生の動向」(厚生統計協会) 参考図書：1) 「新しい時代の看護実践を支える 老年看護学」川原礼子・齋藤美華 著、青踏社 2) 「高齢社会白書」(内閣府)							
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、高齢者生活探究実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	老年期とは、いずれは私たちも通るみちです。それを踏まえて学んでいきましょう。							
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp (686-6708) 佐藤千穂：第1共同研究室 csato@yachts.ac.jp (686-6618)							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
老年看護方法論		看 護 学 科 (専門科目)	教授・ 齋藤 美華 助教・ 佐藤 千穂	必修	3	前期	2	非該当	可
授業概要		高齢者看護の特性を捉え、そのケア技術の原理を理解した上で、あらゆる健康レベルに応じ、かつ、様々な生活の場において援助できる力を習得する。							
一般目標		1. 多様な健康問題やニーズをもった対象への看護過程を展開できる能力を習得する。 2. 高齢者の生活する場や生活形態・様式に沿った形での看護過程を展開できる能力を習得する。 3. 高齢者の転倒予防や事故防止に対して、専門的知識や技術を理解する。 4. 高齢者の家族をはじめとして、高齢者を取り巻く人々のソーシャル・サポートの概念を理解する。 5. 高齢者の個々に応じたヘルスプロモーションについて提案できる能力を習得する。							
到達目標		認知領域 ・多様な健康問題やニーズをもった対象への看護過程を展開できる知識・技術を習得できる。 ・高齢者の生活する場や生活形態・様式に沿った形での看護過程を展開できる知識・技術を習得できる。 ・高齢者の転倒予防や事故防止に対して、専門的知識や技術を習得できる。 ・高齢者の家族をはじめとして、高齢者を取り巻く人々のソーシャル・サポートの概念を説明できる。 ・高齢者の個々に応じたヘルスプロモーションについて提案できる知識・技術を習得できる。 情意領域 ・老年看護の課題学習や演習に主体的に参加し、自分の考えを表現することができる。 精神運動領域 ・演習を通して、高齢者および家族の生活機能や状況に応じた援助を実施できる。 ・高齢者および家族の状況に合わせて援助方法を考え、その根拠を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		筆記試験、演習への参加状況およびレポートによって総合的に評価する。 ・筆記試験（80%）：到達目標の達成度 ・演習への参加状況・レポート（20%）：課題に関する知識・考察を評価							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5. 4. 18（火）3	高齢者と人権擁護 高齢者と環境	高齢者の人権と倫理および性に関する問題、ソーシャルサポートシステム、わが国の高齢者に関わる保健・医療・福祉システムと介護保険				老年看護に関する既習の知識を確認して臨むこと	齋藤	
2	5. 4. 18（火）4	高齢者と家族	・家族形態の社会的変化（人口の高齢化と家族形態の変化、高齢者介護と家族問題） ・家族への支援				老年看護に関する既習の知識を確認して臨むこと	齋藤	
3	5. 4. 25（火）3	高齢者への医療的援助と入院時の援助、退院支援	・入院生活への援助 ・検査、薬物療法・手術を受ける高齢者への援助 ・退院に向けての援助（継続看護、訪問看護）					齋藤	
4	5. 4. 25（火）4	老年看護の基本技術－転倒予防と事故防止	・転倒が高齢者に及ぼす影響、転倒予防の意義 ・高齢者が転倒しやすい要因・背景、転倒の危険因子、転倒の実態と特徴 ・転倒予防・アセスメントと支援、事故防止 ・歩行・移動動作のアセスメントと援助					齋藤	
5	5. 5. 2（火）3	老年看護の基本技術－コミュニケーション障害	・高齢者のコミュニケーションの特徴 ・起こりやすい病的な変化と援助（言語障害）					齋藤	
6	5. 5. 9（火）3	老年看護の基本技術－清潔・衣生活、脱水予防、睡眠障害、活動と休息への援助	・住環境と衣環境、清潔への援助 ・睡眠障害のアセスメントと援助 ・脱水予防のアセスメントと援助 ・活動と休息のアセスメントと援助					佐藤	
7	5. 5. 9（火）4								
8	5. 5. 16（火）3	高齢者の食生活と栄養（フレイル）	・高齢者にとっての食べることの意義 ・高齢者の食生活の特徴 ・在宅高齢者にみられる食生活の問題 ・高齢者の低栄養と食生活に影響を与える要因 ・高齢者の低栄養予防について					齋藤	
9	5. 5. 16（火）4	老年看護の基本技術－摂食・嚥下障害への援助、口腔ケア	・摂食・嚥下、誤嚥の病態生理、嚥下障害への看護 ・窒息時の対応、口腔ケアについて ・胃ろうについて					佐藤	

10	5. 5. 23 (火) 3	老年看護の基本技術 ー排泄への援助	・排泄のアセスメントと援助 ・尿失禁のアセスメントと援助 ・便秘・下痢のアセスメントおよび予防と援助		佐藤
11	5. 5. 23 (火) 4	高齢者のリハビリテ ーション看護 高齢者に特有な症 候・疾患・障害と看護	・高齢者にとってのリハビリテーションの意義 ・ADL 障害とリハビリテーション ・生活活性化に向けたリハビリテーション ・掻痒症、視覚障害、聴覚障害、廃用症候群、 骨粗鬆症、うつ病、せん妄、パーキンソン症候群 など、アセスメントと予防および援助		齋藤
12	5. 5. 30 (火) 3	老年看護の基本技術 ー認知障害への援助	・認知症高齢者ケアにおける看護の目標 ・認知症の特徴 ・在宅で療養する認知症高齢者と家族の特徴 ・認知症様症状のアセスメント ・看護の展開（ケアの原則、身体的ケア） ・家族介護者への支援		齋藤
13	5. 5. 30 (火) 4				
14	5. 6. 6 (火) 3	老年看護の基本技術 ー摂食・嚥下障害への 援助、口腔ケア	<演習> ・食事介助と口腔ケア（高齢者および看護者の立 場で実施）、義歯の管理、胃ろうの管理 ・身体拘束 ・演習のまとめ・記録	9-10 講の内容 を復習してく ること	齋藤 佐藤
15	5. 6. 6 (火) 4				
16	5. 6. 20 (火) 3	まとめ	老年看護の基本技術等のまとめ	1-15 講の内容 を確認・復習し てくこと	齋藤 佐藤
17	5. 6. 20 (火) 4	高齢者の終末期ケア	・終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 ・高齢者在宅終末期の利点と課題 ・家族の参加と家族への支援		齋藤
18	5. 6. 27 (火) 3	高齢者を対象とした 看護過程 高齢者への相談・指導 の基本	・高齢者の特性と看護の展開 ・看護過程と展開上の留意点 ・生活実態の把握と生活能力の見極め方 ・高齢者との面接時の留意点 ・高齢者に対する指導と留意点		齋藤
19	5. 6. 27 (火) 4	事例看護過程	<演習> 事例看護過程（演習）	事例を確認し てくこと	齋藤 佐藤
20	5. 7. 4 (火) 3	事例看護過程	<演習> 事例看護過程（グループでの発表・討議）	発表・討議の準 備	齋藤 佐藤
21	5. 7. 4 (火) 4				
22	5. 7. 18 (火) 3	事例展開の概略	<演習> 事例看護過程（グループ発表） 事例展開の概略	発表の準備	齋藤 佐藤
23	5. 7. 18 (火) 4				
教科 参 考 図 書		教科書：「新しい時代の看護実践を支える 老年看護学」川原礼子・齋藤美華 著、青踏社 参考図書： 1)「根拠と事故防止からみた 老年看護技術」亀井智子 編集、医学書院 2)「高齢者看護学 第3版」亀井智子・小玉敏江編集、中央法規 3)「厚生指標 国民衛生の動向」（厚生統計協会）			
履 修 上 の 注 意		老年看護学概論および既履修した科目を復習しておいてください。 この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		既履修した科目の知識や技術を復習して授業に臨んでください。			
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp（686-6708） 佐藤千穂：第1共同研究室 csato@yachts.ac.jp（686-6618）			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高齢者生活探究実習		看 護 学 科 (専門科目)	教授・ 齋藤 美華 助教・ 佐藤 千穂	必修	2	後期	1	該当	否
授業概要		特別養護老人ホーム、障がい者施設など様々な場において、地域とのつながりを保ちながら地元で生活している高齢者の健康および健康問題について理解するとともに、高齢者の生活および地域の連携を含めた関わりの実際について学ぶ。							
一般目標		1. 特別養護老人ホーム、障がい者施設の概要と特徴を理解する。 2. 特別養護老人ホーム、障がい者施設で生活している人々と人間関係を築き、人々の生活と健康および健康問題について理解を深める。 3. 高齢者の生活において、関係職種が連携・調整することの意義について理解する。							
到達目標		認知領域 ・特別養護老人ホーム、障がい者施設の法的根拠、機能について記述できる。 ・特別養護老人ホーム、障がい者施設の利用者の特徴について説明できる。 ・高齢者および家族の生活を含めた身体的、心理的、社会的状態について説明できる。 ・高齢者および家族の健康および健康問題について説明できる。 ・高齢者および家族の生活について考えを述べることができる。 ・高齢者の生活を支えている関係職種の役割について説明できる。 ・高齢者の生活を支えている関係職種と連携・調整することの意義について述べることができる。 情意領域 ・高齢者および家族と人間関係を築きながら、尊厳を理解した関わりを示すことができる。 ・健康管理に留意し、主体的に実習に臨むことができる。 ・カンファレンスを通して、自己の考えを表現することができる。 ・自己の高齢者への関わりを振り返り、客観的に考察できる。 精神運動領域 ・高齢者および家族の状況に合わせてコミュニケーションを工夫することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		目標達成度、実習記録物、出席状況、実習態度などを総合的に評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
	5. 8. 7 (月) ～ 5. 8. 10 (木)	施設で生活する高齢者の理解と関係職種の連携・調整に関する理解と考察	詳細は実習要項を参照 高齢者とのコミュニケーションおよび高齢者へのケアの見学を中心に実習を展開する。 期間：1 週間 実習施設： 山形市内および近在の介護老人福祉施設、障がい者施設				既習の知識・技術等を確認しておくこと	齋藤 佐藤	
教 科 書 参 考 図 書		各自、必要なものを自分で探すこと。							
履 修 上 の 注 意		老年看護学概論の単位を取得していること。 本科目は、教員と実習指導者の指導の下、臨床（ヘルスケア提供施設など実習場所によって変更する）において看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		自己の健康管理を十分に行い、これまで学んだ知識・技術を活用して実習に臨むこと。 高齢者とのコミュニケーションが図れるように心がけること。 事前学習をしっかりと行い、積極的に取り組んでください							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		齋藤美華：研究室1 (6708) misaito@yachts.ac.jp 佐藤千穂：第1共同研究室 (6618) csato@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
老年看護学実習Ⅱ	看 護 学 科 (専門科目)	教授・ 齋藤 美華 助教・ 佐藤 千穂	必修	3	後期	2	該当	否
授業概要	病院で生活する高齢者と家族の健康および健康問題について理解し、病院や施設、地域の連携を含めた継続的な支援体制を考慮しながら、関係職種と連携を図りながら行われるニーズに対応した看護援助の展開について学ぶ。また、実習を通して老年看護の基本的実践能力を養う。							
一般目標	1. 高齢者とその家族を対象として人間関係を築き、生活と健康および健康問題について理解する。 2. 健康問題を抱えている高齢者を対象に、ニーズに対応した看護援助を展開する。 3. 高齢者の看護において、関係職種が連携・調整することの意義について理解する。							
到達目標	認知領域 ・高齢者の生活を含めた身体的、心理的、社会的状態について記述できる。 ・高齢者とその家族の健康および健康問題について述べるができる。 ・収集した情報から、高齢者が必要とする援助ニーズを説明できる。 ・ニーズに対応した援助の方法および解決方法を述べるができる。 ・実施した看護実践を評価し、計画の修正・追加ができる。 ・高齢者の療養生活を支えている関係職種の役割について述べるができる。 ・高齢者の療養生活を支えている関係職種と連携・調整することの意義を述べるができる。 情意領域 ・高齢者およびその家族と人間関係を築きながら尊厳を理解した関わりができる。 ・高齢者のセルフケア能力を高めながらニーズに対応した援助を展開できる。 ・健康管理に留意し、主体的に実習に臨むことができる。 ・カンファレンスを通して、自己の考えを表現できる。 ・看護実践における自己の学習課題を明確にし、課題達成のための主体的な取り組みができる。 精神運動領域 ・自己の看護活動を振り返り、既習の知識・文献を用いて論理的に考察できる。 ・立案した計画に沿って高齢者の安全・安楽を考慮して実践できる。 ・個人情報について適切に取り扱うことができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	目標達成度、実習記録物、出席状況、実習態度などを総合的に評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	5. 9.19 (火) ～ 6. 2.16 (金)	病院で生活する高齢者を受け持ち、看護過程を展開する	詳細は実習要項を参照 高齢者1名を担当し、看護指導者とともに高齢者への援助を実践する。 期間:2週間 実習施設:独立行政法人 国立病院機構 山形病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院のいずれか1箇所			既習の知識・技術等を確認しておくこと		齋藤 佐藤
教 科 書 参 考 図 書	各自、必要なものを自分で探すこと。							
履 修 上 の 注 意	・老年看護学概論、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学方法論の知識を再確認して臨むこと。 ・老年看護学に関する科目だけでなく、これまで学んだすべての講義・演習・実習に関する科目を復習して実習に臨むこと。 ・以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ、基礎看護学方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護学方法論Ⅰ、成人慢性期看護学方法論Ⅰ、成人急性期看護学方法論Ⅱ、成人慢性期看護学方法論Ⅱ、老年看護学方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護学方法論、母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ、母性看護学方法論Ⅱ、小児看護学方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護学方法論Ⅰ、在宅看護学方法論Ⅱ ・本科目は、教員と実習指導者の指導の下、臨床（ヘルスケア提供施設など実習場所によって変更する）において看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	自己の健康管理を十分に行い、これまで学んだ知識・技術を活用して実習に臨んでください。高齢者およびグループメンバー、指導者等とのコミュニケーションが図れるように心がけること。事前学習をしっかりと行い、積極的に取り組んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	齋藤美華:研究室1 misaito@yachts.ac.jp (686-6708) 佐藤千穂:第1共同研究室 csato@yachts.ac.jp (686-6618)							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神看護学概論		看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明 講 師・高谷 新 非常勤講師・高橋 葉子	必修	1	後期	2	非該当	可
授業概要		精神健康に関する影響要因を解説するとともに、精神的危機を迎えた人や精神障がい者を有する人に関する援助方法に関する現在と過去の動向を解説する。また、精神保健に関する世界的動向を教授する。							
一般目標		1. 心理社会的側面や生理的背景を踏まえて精神健康とその危機について説明できる。 2. 精神障がいの理解と援助に必要な発達課題、人間関係、処遇と治療の歴史などについて説明できる。							
到達目標		1. 精神保健を心の機能の発達の観点から理解し、各段階における健康の促進要因と阻害要因について例を挙げて説明できる。 2. 精神健康が阻害される状況について、心身の関連および心理社会的背景を査定できるとともに、精神健康の回復過程について具体例を挙げることができる。 3. 精神的危機に対する援助と制度について説明できる。 4. 精神保健の観点から権利擁護を捉え、精神保健福祉法や虐待防止法等の背景にある理念を説明できる。 5. 人間の尊厳を前提においた精神看護のあり方について自分の周囲にある事象に照らして記述できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価方針：知識の獲得と論理展開、講義への参加度から総合評価する。 60％：試験（知識の獲得）、30％：レポート（例示などの論理展開）、10％：講義への参加度（学生間討議への参加度など）							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 28 (木) 1	精神保健と精神看護における主題	・精神健康と精神保健学の概要 ・ライフサイクルと精神発達の概要 ・生理・心理・社会モデルの発展史					安保 高谷	
2	5. 10. 5 (木) 1	権利擁護と回復（１）	・保護的処遇と施設症 ・訪問看護、精神科デイケアの機能				レポート 課題①	高谷	
3	5. 10. 12 (木) 1	権利擁護と回復（２）	・社会的弱者の権利擁護と精神保健 ・意思決定支援の３段階					高谷	
4	5. 10. 19 (木) 1	精神機能の発達と危機	・乳幼児期の精神発達と情動の多彩化 ・共同注視と感覚刺激					安保	
5	5. 10. 26 (木) 1	精神機能の発達と危機	・幼児期の精神発達と信頼の定義づけ ・倫理観とパーソナリティ、ストレングス				レポート 課題②	安保	
6	5. 11. 2 (木) 1	精神機能の発達と危機	・学童期の精神発達と原因帰属 ・自己効力感、認知、仲間意識					安保	
7	5. 11. 9 (木) 1	精神機能の発達と危機	・青年期前期の精神発達と自己同一性 ・自己同一性、欲求階層					安保	
8	5. 11. 16 (木) 1	精神機能の発達と危機	・成人期の精神発達と社会的成熟（１） ・職場と家庭のメンタルヘルス					安保 非常勤	
9	5. 11. 17 (金) 1	精神機能の発達と危機	・成人期の精神発達と社会的成熟（２） ・事例を通じた理解（１）					安保 非常勤	
10	5. 12. 7 (木) 1	生理・心理・社会モデルと精神看護学（１）	・心身相関とリエゾン精神看護 ・ストレス反応とストレスモデル ・防衛機制とレジリエンス				レポート 課題③	高橋	
11	5. 12. 14 (木) 1	生理・心理・社会モデルと精神看護学（２）	・災害等の大規模事象における精神保健 ・サイコロジカルファーストエイド					高橋	
12	5. 12. 21 (木) 1	生理・心理・社会モデルと精神看護学（３）	・身体侵襲と加齢に伴う精神機能への影響 ・せん妄、記憶などの機能と援助					高橋	
13	6. 1. 11 (木) 1	生理・心理・社会モデルと精神看護学（４）	・社会モデルとしての精神保健 ・援助希求の促進とセルフケア					安保 非常勤	
14	6. 1. 18 (木) 1	生理・心理・社会モデルと精神看護学（５）	・事例を通じた理解（２） ・国際学際的精神保健					安保 非常勤	
15	6. 1. 25 (木) 1	精神保健看護の主題	・全体像の整理					安保 高谷	
教 科 書 参 考 図 書		精神看護学概論 精神保健（岩崎弥生，渡邊博幸（編）、メヂカルフレンド社(2019)） 参考図書は講義にて紹介する。							

履 修 上 の 注 意	合理的配慮が必要な学生は事前に申し出ることが望ましい。 この授業科目は、精神保健学実習、急性期看護学実習、慢性看護学実習、老年看護学実習、精神看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習Ⅱ、訪問看護実習、地域包括支援実習、周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	いろんな人生に触れる時間になるので、そのつもりで参加して下さい。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	安保：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 高谷：研究室 10 stakaya@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神看護方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明 講 師・高谷 新 非常勤講師・佐藤 大輔	必修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		精神の健康と保持・増進に向けた看護についての学習を前提とした、精神疾患を有する人への看護について精神機能と心理状態の保護要因と阻害要因を理解するとともに、環境調整や直接援助による回復過程を理解する。							
一般目標		1. 精神看護の基盤となる人間性について理解をする。 2. 精神疾患を持つ人の生物・心理・社会的側面への看護について基本的な理解をする。 3. 精神疾患をもつ人の人権と安全を守り、回復を支援する看護について基本的な理解をする。							
到達目標		1. 人間が生きるうえでの精神機能と入院や通院などの患者役割がもたらす影響を、短期および長期の観点から整理することができる。 2. 生理学的理解：主な精神疾患に関する生理学的仮説を理解し、薬物療法などの生理学的治療における作用と副作用、検査の根拠を説明することができる。 3. 心理学的理解：精神療法およびリハビリテーション療法のうち、来談者中心療法やSSTなどの心理社会的介入を心の機能との関係から理解し一定の行動をとることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価方針：知識による理解と行動（社会的側面も含む）による達成の双方を取り扱う。 評価方法と基準 30 パーセント・・・講義への出席と演習参加：演習参加の評価は、おもに到達目標 1, 2, 3 に関連した評価とする。 70 パーセント・・・試験および小試験：到達目標全体に関して評価を行う。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など		担当
1	5. 9. 27 (水) 2	ガイダンス 精神看護の対象	1. 精神看護学概論の整理 2. 精神疾患における治療と回復 3. 精神看護における援助の特徴				既習範囲の理解度を 確認するための演習 を行う		安保 高谷
2	5. 9. 27 (水) 3	精神看護における援助の基盤①連帯と安心に注目した援助	1. こころの健康と援助関係 2. プロセスレコードとその活用 3. 心理的安全性（環境のアセスメント）						安保
3	5. 10. 4 (水) 2	精神看護における援助の基盤②セルフケアの査定と援助	1. セルフケアモデル 2. 精神症状がもたらす認知モデルへの影響 3. 認知に影響が生じているときの援助						安保
4	5. 10. 11 (水) 2	援助者（家族や専門職）のエンパワメント・意思決定	1. 家族支援・専門職支援 2. エンパワメント 3. 安心のための合意形成						高谷
5 ・ 6	5. 10. 18 (水) 1 5. 10. 18 (水) 2	精神看護の方法① 治療的面接と動機づけ	1. ストレングスアセスメント 2. リフレーミング 3. 強みと希望のアセスメント演習						安保
7 ・ 8	5. 10. 25 (水) 1 5. 10. 25 (水) 2	精神看護の方法② 集団療法	1. 集団が持つ意味合い 2. 集団療法の種類（SST、WRAP クラス、作業療法の一部） 3. 集団療法演習						佐藤
9	5. 12. 13 (水) 2	精神疾患と精神症状への援助① 気分障害、不安症	1. 晴れない気持ちとつきあうこと 2. 抗うつ薬・抗不安薬・睡眠薬						高谷
10	6. 1. 10 (水) 2	精神疾患と精神症状への援助② 統合失調症	1. 幻覚がありつつ生きるということ 2. 抗精神病薬						高谷
11	6. 1. 17 (水) 2	精神疾患と精神症状への援助③依存と摂食障害	1. 孤独と不安を抱えて過ごすこと 2. 偏ったコーピングによる影響						安保
12	6. 1. 24 (水) 2	まとめ	1. 学習内容の整理 2. 援助基盤の整理						安保 高谷
教 科 書 参 考 図 書		教科書：岩崎弥生編 精神看護学Ⅱ精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社 *精神看護学概論、精神障がい論で指定された教科書も用いる。 参考図書：山本勝則他編 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メジカルフレンド社 前田ケイ 基本から学ぶ SST 星和書店 宮本眞巳 看護場面の再構成 日本看護協会出版会							

履 修 上 の 注 意	講義と演習が細かく用いられるので、一定の集中度を要する科目です。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	講義や演習には積極的に参加することを期待します。 グループ演習では他者の意見を尊重しながら積極的に発言し、グループのまとめに貢献しましょう。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	安保：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 高谷：研究室 10 stakaya@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神看護方法論	看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明 講 師・高谷 新 助 教・鈴木 龍生 非常勤講師・佐藤 大輔	必修	3	前期	2	非該当	可
授業概要	精神の健康と保持・増進に向けた看護についての学習を前提とした、精神疾患を有する人への看護について、精神機能と心理状態の保護要因と阻害要因を理解するとともに、環境調整や直接援助による回復過程を理解する。							
一般目標	1. 精神看護の基盤となる人間性について理解をする。 2. 精神疾患を持つ人の生物・心理・社会的側面への看護について基本的な理解をする。 3. 精神疾患をもつ人の人権と安全を守り、回復を支援する看護について基本的な理解をする。							
到達目標	1. 人間が生きるうえでの精神機能と入院や通院などの患者役割がもたらす影響を、短期および長期の観点から整理することができる。 2. 自他の生命と生活を維持することとその援助について、意思決定や権利擁護の観点を加えて説明することができる。また、援助関係における発展と終結を理解することができる。 3. 生理学的理解：主な精神疾患に関する生理学的仮説を理解し、薬物療法などの生理学的治療における作用と副作用、検査の根拠を説明することができる。 4. 心理学的理解：精神療法およびリハビリテーション療法のうち、来談者中心療法やSSTなどの心理社会的介入を心の機能との関係から理解し一定の行動をとることができる。 5. 社会学的理解：病の経験がもたらす影響を患者本人と周囲の人の立場から考察し、回復に向けた社会的援助の要点を説明することができる。 6. 精神科訪問看護やデイケアなど、地域精神看護の実践上の特徴を説明することができる。 7. 精神障がい者が地域で生活するための課題と援助及び資源について説明することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	評価方針：知識による理解と行動（社会的側面も含む）による達成の双方を取り扱う。 評価方法と基準 30 パーセント・・・講義への出席と演習参加：演習参加の評価は、おもに到達目標 1, 3, 4, 6, 7 に関連した評価とする。 70 パーセント・・・試験および小試験：到達目標全体に関して評価を行う。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 4. 6 (木) 2	ガイダンス 精神看護の対象	1. 精神看護学概論の整理 2. 精神疾患における治療と回復 3. 精神看護における援助の特徴					安保 高谷
2	5. 4. 20 (木) 2	精神看護における援助の基盤① 連帯と安心に注目した援助	1. こころの健康と援助関係 2. 信頼関係の構築 3. 自己決定と共同意思決定 4. 心理社会的危機における権利擁護 5. プロセスレコードの活用					安保 高谷
3	5. 4. 27 (木) 2	精神看護における援助基盤② セルフケアの査定と援助	1. セルフケアモデル 2. 抗精神病薬の薬理作用とその影響 3. 精神症状がもたらす認知モデルへの影響 4. 認知に影響が生じている時の援助					安保
4 ・ 5	5. 5. 11 (木) 1 5. 5. 11 (木) 2	精神疾患と精神症状への援助① 気分障害、不安症	1. 晴れない気持ちとつきあうこと 2. 活動と休息、失敗と挑戦 3. 抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬 4. 認知行動療法					高谷 安保
6 ・ 7	5. 5. 18 (木) 1 5. 5. 18 (木) 2	精神疾患と精神症状への援助② 統合失調症	1. 幻覚がありつつ生きるということ 2. 生きがいと自己他者信頼 3. 抗精神病薬 4. エンパワメント					高谷
8	5. 5. 25 (木) 1	精神疾患と精神症状への援助③ 依存と摂食障害	1. 孤独と不安を抱えて過ごすこと 2. 偏ったコーピングによる影響 3. 治療や行動変容への動機付け 4. セルフヘルプと家族と専門職					安保

9	5. 5. 25 (木) 2	看護計画と アセスメントⅠ	1. 生理心理社会モデルの統合 2. 現象把握とアセスメントの精査 3. 全体アセスメントと焦点化 (講義)		高谷 非常勤
10	5. 6. 1 (木) 2	看護計画と アセスメントⅡ	1. 生理心理社会モデルの統合 2. 現象把握とアセスメントの精査 3. 全体アセスメントと焦点化 (演習)		高谷 佐藤
11 ・ 12	5. 6. 8 (木) 1 5. 6. 8 (木) 2	精神看護の方法① 治療的面接と動機づけ	1. ストレングスアセスメント 2. 治療へのアドヒアランス 3. 強みと希望のアセスメント演習		安保 佐藤 他
13	5. 6. 15 (木) 1 (5. 6. 15 (木) 2)	援助者 (家族や専門 職) のエンパワメン ト・意思決定	1. 家族支援、専門職支援 2. 家族心理教育と地域連携 3. コンサルテーションの機能 4. 安心のための合意形成		高谷
14 ・ 15	5. 6. 22 (木) 1 5. 6. 22 (木) 2	看護計画と アセスメントⅡ	1. 看護計画のマネジメント (1) 2. 長期入院患者への関わり 3. 患者の希望と援助者の考えに相違 がある場合の関わり		高谷 非常勤
16 ・ 17	5. 6. 29 (木) 1 5. 6. 29 (木) 2	精神看護の方法② 集団療法	1. 集団療法がもつ意味合い 2. 集団療法の種類 (SST、WRAP クラス、作業療法の一部) 3. 集団療法演習		鈴木 佐藤 安保
18 ・ 19	5. 7. 6 (木) 1 5. 7. 6 (木) 2	精神看護の方法③ 情動を伴うリスク状 態の対処	1. 行動制限の影響と権利擁護 2. ディエスカレーション 3. CVPPP演習		高谷 非常勤
20 ・ 21	5. 7. 13 (木) 1 5. 7. 13 (木) 2	精神看護における援 助基盤③ アセスメントと援助 の基礎と応用	1. 精神疾患のとりえ方 2. 精神機能の連続性 3. 特性に応じたかかわり方 4. 行動療法的アプローチ		安保 高谷
22	5. 7. 20 (木) 2	看護計画と アセスメントⅢ	1. 看護計画のマネジメント (2) 2. 既習範囲を踏まえた計画管理		高谷
23	5. 7. 27 (木) 2	まとめ	1. 学習成果の整理 2. 援助基盤、アセスメントの整理		安保 高谷
教 科 書 参 考 図 書		教科書：岩崎弥生編 精神看護学Ⅱ精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社 *精神看護学概論、精神障がい論で指定された教科書も用いる。 参考図書：山本勝則他編 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メジカルフレンド社 前田ケイ 基本から学ぶ SST 星和書店 宮本眞巳 看護場面の再構成 日本看護協会出版会			
履 修 上 の 注 意		講義と演習が細かく用いられるので、一定の集中度を要する科目です。 この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④ 精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連 携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されて います。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		講義や演習には積極的に参加することを期待します。 グループ演習では他者の意見を尊重しながら積極的に発言し、グループのまとめに貢献しましょ う。			
e-mail・研究室 (連 絡 先)		安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 高谷 新：研究室 10 stakaya@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神保健学実習		看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明 講 師・高谷 新	必修	2	後期	1	非該当	不可
授業概要		精神保健の観点から人々の暮らしと精神的健康について理解し、精神保健に関する自助、共助、公助を促進するための場や環境について、実践を通して理解する。							
一般目標		1. 精神看護を必要とする人との関係形成と対象者の理解を深める方法が身につく 2. 精神看護を必要とする人の健康課題と社会的背景について理解することができる							
到達目標		1. 健康と生活の質の概念における精神健康の意味と意義について説明できる。 2. 精神健康の保持と増進に有効な心理的安全性のある場について、行動とともに説明できる。 3. 社会的包摂の概念に基づき、精神保健の面で配慮が必要な人々に対する機会や援助について例とともに説明できる。 4. 援助希求行動の存在を踏まえ、実習指導者や学生同士などとの学習者援助関係を活用できる。 5. 精神障がいや有する人を支援しうる医療福祉資源について具体例とともに述べられる。 6. 精神保健の面で配慮が必要な人々との関係形成において、行動を通じて尊厳や心理社会的基盤の尊重を表明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		精神保健学実習要項参照							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
	5. 10. 2 (月) ～ 5. 12. 22 (金) ※この期間の 火・水曜日 5日間	・精神保健の面で配慮が必要な人々のための環境の理解 ・場への参加を通じた環境のアセスメント ・実習指導者や精神科専門職者および他実習生との関係の構築と学習への活用・	1. 精神障がいや精神疾患を有する人のための機会や場に同席、参加する 2. デイケア、就労支援などの経験を通じて、心理的安全性のある環境のための環境や援助の工夫を把握する 3. 社会参加にむけた共助の場に参加することを通じて、共助の場に必要要素と専門職者や専門的な訓練を受けた人々が行うファシリテーションなどの場づくりの工夫について見学や説明を通じて理解する ※詳細は精神保健学実習要項を参照のこと			・実習施設のオリエンテーション ・対象の理解に必要な復習・予習は主体的に行う		安保 ・ 高谷	
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：精神看護実習ガイド（照林社）							
履 修 上 の 注 意		合理的配慮を必要とする学生は、事前に申し出ること。 この科目の履修に際し、精神看護学概論を修得しておく必要があります。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。 本科目は教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、精神科デイケア、就労継続支援事業所等において精神保健について学習する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		心身の健康度を維持するよう実習に備え準備してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 高谷新：研究室 10 stakaya@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神看護学実習	看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明 師・高谷 新 助 教・鈴木 龍生	必修	3	後期	2	該当	否
授業概要	精神看護を必要とする人を総合的に理解し、その人の回復過程と生活支援の全体像を理解しながら、精神健康の向上に寄与する看護について実践を通じて教授する。							
一般目標	1. 精神看護を必要とする人との関係形成と対象者の理解を深める方法が身につく。 2. 精神看護を必要とする人の健康課題と精神機能および社会的背景を明らかにできる。 3. 精神疾病を有する人への援助について、アセスメントをもとに計画的に実施することができる。 4. 精神障がい者を有する人を支援しうる医療福祉資源について具体例とともに述べられる。 5. 権利擁護や地域保健・福祉などの連携を通して、看護職者の役割を理解することができる。							
到達目標	1. 精神看護を必要とする人との信頼関係を形成する為に、言語や行動での相互作用を説明できる。 2. 精神看護を必要とする人について、生理・心理・社会的側面を念頭においた理論的枠組みを用いて説明することができる。 3. 精神看護を必要とする人に対して行われる診療や提供される療養環境を整理して説明できる。 4. 精神看護を必要とする人に存在する人間的魅力や強み（ストレングス）を明らかにすることができる。 5. 精神疾病を有する人への援助について、アセスメントをもとに計画的に実施することができる。 6. 精神保健福祉法や虐待防止法などに存在する権利擁護の観点を踏まえた構造や行為の工夫を説明できる。 7. 実習指導者や学生同士などの関係性の違いを活用した学習者間援助関係を活用できる。 8. 精神障がい者を有する人を支援しうる医療福祉資源について具体例とともに述べられる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	精神看護学実習要項参照							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当	
	5. 9.19 (火) ～ 6. 2.16 (金)	・精神疾患を有する人の健康面の アセスメント ・精神疾患を有する人への関係形 成 ・精神障がい者との治療的関係 ・精神科デイケアと訪問看護 ・精神科医療機関における治療段 階と看護の機能 ・精神科医療機関における患者の 権利擁護 ＊詳細は精神看護学実習要項を 参照のこと	1) 精神看護学実習の意義を理解 し、意義と目的と計画の関係性 を言語により明確化する 2) 精神科に入院している患者を受 け持ち、精神機能と心理状態、 健康課題、優先して尊厳するべ き事項をアセスメントする 3) 患者やその周囲の人々との関係 形成をはかる。プロセスレコー ドを用いて場面を再現する。 4) 集団療法等を通じて人間関係や 機会の違いによる影響の違いを 考察する。 5) 精神科訪問看護やデイケアに参 加して、状況に応じた援助の特 徴を考察する。			・実習施設のオリ エンテーション ・対象の理解に必 要な復習・予習 は主体的に行う	安保 ・ 高谷 ・ 鈴木	
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：精神看護実習ガイド（照林社）							
履 修 上 の 注 意	合理的配慮を必要とする学生は、事前に申し出ること。 以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	心身の健康度を維持するように準備してください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、精神科医療機関（臨床）における看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担経験制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 高谷 新：研究室 10 stakaya@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
在宅看護概論	看護学科 (専門科目)	准教授・鈴木 育子	必修	2	後期	1	非該当	可			
授業概要	在宅療養者と家族への看護について、在宅ケアの現状および訪問看護制度を踏まえて教授する。										
一般目標	在宅療養者を取り巻く社会情勢及び制度、在宅療養者と家族への看護の特徴を理解する。										
到達目標	1. 在宅療養者を取り巻く社会情勢と課題を説明できる。 2. 在宅ケアにかかわる制度、在宅ケアの対象、方法、機能を説明できる。 3. 訪問看護の制度、サービス提供の仕組み、現状を説明できる。 4. 在宅療養において活用される社会資源について説明できる。 5. 在宅療養者のケアマネジメントについて説明できる。 6. 在宅療養者と家族を対象とした看護の機能を説明できる。										
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：到達目標の達成度を判断する。 評価方法と基準：試験 70％ 授業参加による学び 30％ 学びの内容を記述したものから、授業参加への積極性、目標への到達度を判断する。										
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など					
1	5. 9. 29 (金) 3	在宅療養者を取り巻く社会情勢 と制度、社会資源	在宅ケアの現状			社会福祉論、人口 統計など既習の知 識の整理					
2	5. 10. 6 (金) 3		訪問看護の現状								
3	5. 10. 13 (金) 3		在宅ケアにかかわる制度① 訪問看護								
4	5. 10. 20 (金) 3		在宅ケアにかかわる制度② 介護保険								
5	5. 10. 27 (金) 3		在宅ケアにかかわる制度③ 地域包括ケアシステム								
6	5. 11. 10 (金) 3		在宅ケアにかかわる社会資源 関係機関・関係職種 在宅療養者のケアマネジメント								
7	5. 11. 17 (金) 3	在宅療養者と家族への支援	在宅療養者と介護者の現状 家族の健康とレスパイトケア								
8	5. 11. 24 (金) 3	まとめ									
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：看護学テキスト NiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 改訂第2版 南江堂 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会 ナーシング・グラフィック 地域・在宅看護論①「地域療養を支えるケア」 メディカ出版 訪問看護基本テキスト 総論編 日本看護協会出版会 国民衛生の動向、国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会										
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、 ⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支 援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	看護の視点を広げる機会にしてください。										
e-mail・研究室 (連 絡 先)	鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp										

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
在宅看護方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	助 教・栗田 敦子	必修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		在宅療養者と家族への支援方法について教授する。							
一般目標		在宅療養者と家族に対する看護の役割と実践の基本が理解できる。							
到達目標		1. 訪問看護の特徴が説明できる。 2. 在宅療養者と家族に対する看護の役割が説明できる。 3. 在宅療養における日常生活の援助について説明できる。 4. 在宅療養における医療処置、療養者の症状や状態に合わせた看護の基本について説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：到達目標の達成度を判断する。 評価方法と基準：試験 70%、授業参加による学び 30%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当		
1	5. 12. 1 (金) 3	在宅療養者と家族に対する 看護の役割と実践の基本①	訪問看護の特性、訪問看護における看 護過程、退院支援			既習の知識、 看護技術の 復習	栗田		
2	5. 12. 8 (金) 3	在宅療養者と家族に対する 看護の役割と実践の基本②	清潔管理；自宅での清潔管理の工夫、 福祉用具、社会資源の活用						
3	5. 12. 15 (金) 3	在宅療養者の症状や状態に 合わせた看護①	難病療養者への在宅療養の支援				スポット 講師		
4	5. 12. 22 (金) 3	在宅療養者の症状や状態に 合わせた看護②	精神障害者への在宅療養の支援				スポット 講師		
5	5. 1. 5 (金) 3	在宅療養者と家族に対する 看護の役割と実践の基本③	呼吸管理；気管切開・人工呼吸器装着 者のケア、在宅酸素療法 栄養管理；在宅で胃ろう、経管栄養を 行う人へのケア、点滴の管理				栗田		
6	5. 1. 11 (木) 3	在宅療養者と家族に対する 看護の役割と実践の基本④	排泄の管理；自立した排泄への支援、 排泄障害のケア、ストーマケア						
7	5. 1. 18 (木) 3	在宅療養者の症状や状態に 合わせた看護③	健康障がいを持つ子どもの在宅療養の 支援						
8	5. 1. 19 (金) 3	まとめ	感染予防、終末期のケア、健康危機管 理、まとめ						
教 科 書 参 考 図 書		【教科書】 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②「地域療養を支える技術」 メディカ出版 【参考図書】 家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版 メヂカルフレンド 子どもが元気になる在宅ケア 南山堂							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		他の看護学、在宅看護概論での学びを振り返りながら、在宅療養者と家族の希望に沿うこと、生活を支えることについて理解を深めてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		栗田敦子：第2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
在宅看護方法論Ⅱ		看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		既習の各専門領域の知識、技術の統合が必要な個別性を重視した在宅療養者、家族へのケア方法を教授する。在宅療養者と家族への支援を行うための態度および基礎的実践能力を養う。							
一般目標		1. 在宅看護において必要とされる態度を身につける。 2. 在宅療養者と家族を対象にした基本的な看護を習得する。 3. 在宅看護における関係職種との連携について理解できる。							
到達目標		1. 在宅看護に必要なマナーと接遇を自ら考え実践できる。 2. 在宅療養者と家族の健康状態や発達段階、家族関係、生活状況などを総合的に考えながら、援助できる。 3. 在宅看護における関係職種との連携の実際と意義について説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：演習態度と提出された記録物の内容等から到達目標の達成度を総合的に判断して評価する。 方法と基準：演習態度（身だしなみ、積極性）と授業で提出する全ての記録物 70% レポート「演習を通して学んだこと」 30%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当		
1	5. 4. 12 (水) 3	オリエンテーション 訪問看護師の心得 在宅ケアの工夫	演習 ・訪問看護師に必要なマナーと心得 ・在宅療養で使用する介護用品 ・看護ケアの工夫			他の看護学での学びを総動員して実習に臨むことができるよう、これまで学習した知識、技術を十分復習してください。	栗田 地域 教員		
2	5. 4. 12 (水) 4								
3	5. 4. 19 (水) 3	在宅での摂食・嚥下、言語へのアプローチ	言語聴覚士による演習 ・在宅における歯科衛生士との協働				ｽﾎｯﾄ 講師		
4	5. 4. 19 (水) 4	在宅での福祉用具の活用	福祉用具専門相談員による演習 ・在宅における福祉用具専門相談員との協働				ｽﾎｯﾄ 講師		
5	5. 4. 26 (水) 3	口腔ケア	歯科衛生士による演習 ・在宅における歯科衛生士との協働				ｽﾎｯﾄ 講師		
6	5. 4. 26 (水) 4								
7	5. 5. 10 (水) 3	在宅での作業療法	作業療法士による演習 ・在宅における作業療法士との協働				ｽﾎｯﾄ 講師		
8	5. 5. 10 (水) 4								
9	5. 5. 17 (水) 3	在宅での呼吸療法	呼吸理学療法の演習 ・呼吸リハビリテーション				赤塚 地域教員		
10	5. 5. 17 (水) 4		在宅呼吸療法に使用する機器 ・人工呼吸器、酸素濃縮器等						
11	5. 5. 24 (水) 3	在宅での理学療法	在宅での理学療法の演習 ・在宅における理学療法士との協働 ・ポジショニング・関節可動域訓練				ｽﾎｯﾄ 講師		
12	5. 5. 24 (水) 4								
13	5. 5. 31 (水) 3	在宅療養者のアセスメントと看護計画立案	グループワーク ・対象の理解 ・情報の整理、アセスメント ・看護計画立案				栗田 地域 教員		
14	5. 5. 31 (水) 4								
15	5. 6. 7 (水) 3								
教 科 書 参 考 図 書		参考図書は適宜紹介します。							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		後期の在宅訪問看護実習に向けて、看護学生としてのマナー、倫理的態度を身につけてください。各自が自立した姿勢で実習に臨み、療養者の生活を理解してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
在宅訪問看護実習	看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	必修	3	後期	1	該当	否
授業概要	訪問看護ステーションでの実習を通して、在宅で生活する対象者（療養者と家族）を統合的に理解し、対象者にとっての最適な健康状態を生み出すことにより、対象者が望んでいる生活や生き方ができるよう支援するための基礎的能力と態度を養う。							
一般目標	・在宅看護の対象である療養者とその家族を理解し、支援できる。 ・訪問看護ステーションの役割と機能を理解する。 ・在宅看護における関係職種・関係機関との連携を理解する。 ・在宅で生活する対象者を支援するための看護職の役割と機能を理解する。							
到達目標	1. 対象者の生活と生活する地域の特徴を説明できる。 2. 対象者との関係を形成できる。 3. 個別性に合わせた看護を考えることができる。 4. 訪問看護ステーションの役割と機能を説明できる。 5. 関係職種・関係機関との連携について、実習で体験した具体的事象と関連させて説明できる。 6. 在宅で生活する対象者を支援するための看護職の役割と課題を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：実習態度と提出された記録物の内容等から到達目標の達成度を判断する。 方法：対象者の理解と関係形成、看護の考察は提出された記録物から、訪問看護ステーション、関係職種・関係機関との連携についての理解は、記録物に加えて、カンファレンスでの発表内容等から総合的に評価する。 基準：記録物 80%、カンファレンスでの発表内容及び実習態度 20%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		
	5. 9. 19（火） ～ 6. 2. 16（金）	在宅訪問看護実習要項を参照	実習場所：訪問看護ステーション 詳細は在宅訪問看護実習要項参照			実習に関連する専門 科目および専門基礎 科目の復習		
教 科 書 参 考 図 書	指定はありません。在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱをはじめとする関連科目で使用したもの。その他、必要な図書、雑誌等を積極的に自分で探し活用してください。							
履 修 上 の 注 意	以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	体調管理には十分留意してください。自分自身が感染源にならないことはもちろんですが、体調不良時に実習することはできません。 学生の態度等は訪問看護ステーションと利用者、利用者家族との信頼関係にも影響することに留意してください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、訪問看護ステーションにおいて看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	菅原：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室 17 hkono@yachts.ac.jp 栗田：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
在宅看護連携実習		看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	必修	3	後期	1	該当	否
授業概要		地域包括支援センターの役割と機能を理解し、在宅高齢者と家族を支える地域ケアシステムにおける多職種等の連携を基盤にした看護活動の基礎的能力を養う。							
一般目標		地域包括支援センターにおける看護職の役割と地域生活の維持に視点を置いた看護を理解する。							
到達目標		1. 地域包括支援センターの概要を説明できる。 2. 地域包括支援センターの役割と機能について、具体的事象と関連させて説明できる。 3. 地域生活の維持に視点を置いた個別事例への看護を説明できる。 4. 関係機関や関係職種との連携について、具体的事象と関連させて説明できる。 5. 地域のサービスネットワーク構築のための看護職の役割と課題を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：実習態度と提出された記録物の内容等から到達目標の達成度を評価する。 方法：地域包括支援センターの担当地区、役割と機能、看護は提出された記録物から、関係機関や関係職種との連携と地域のサービスネットワークにおける看護職の役割と機能は、記録物に加えて、カンファレンスでの発表内容等から総合的に判断する。 基準：記録物 80%、カンファレンスでの発表内容及び実習態度 20%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法			授業外学習など	
	5. 9. 19 (火) ～ 6. 2. 16 (金)	在宅看護連携実習要項を参照			実習場所：地域包括支援センター 詳細は在宅看護連携実習要項参照			実習に関連する専門科目および専門基礎科目の復習	
教 科 書 参 考 図 書		指定はありません。公衆衛生看護学及び在宅看護関連科目で使用したもの。その他、必要な図書、雑誌等を積極的に自分で探し活用してください。							
履 修 上 の 注 意		以下の科目を履修しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		既習の科目の復習を積極的に行い、十分に事前学習をして実習に臨んでください。 体調管理には十分留意してください。自分自身が感染源にならないことはもちろんですが、体調不良時に実習することはできません。 社会人としてのマナーを十分に守ってください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、地域包括支援センターにおいて看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菅原：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
公衆衛生看護学概論		看護学科 (専門科目)	教授・菅原 京子	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要		地域住民の健康を支援する、公衆衛生看護（行政分野、産業保健、学校保健）と在宅看護に共通する地域看護の概念と歴史、保健師制度・教育、保健師活動の場と支援方法について教授する。また、行政分野における保健師活動の活動目標、活動方法の特徴について教授する。							
一般目標		地域看護の歴史の変遷を学び、社会の変化に応じた地域における看護活動の必要性と意義について理解する。さらに、健康課題を住民とともに解決することを目指す地域ケアシステムにおける保健師の役割について考察する。							
到達目標		1. 人々の健康と生活条件の関係を具体的に述べることができる。 2. 地域看護、公衆衛生看護、在宅看護のそれぞれの定義・対象・働きかけの方法の特徴、地域看護と公衆衛生看護・在宅看護の関係性について述べることができる。 3. 地域看護の誕生と発展の歴史を時代区分別に述べることができる。 4. 保健師制度・教育の変遷を理解し、今日の課題について自分の考えを発表することができる。 5. 保健師活動の場と支援方法について具体的に述べることができる。 6. 公衆衛生看護、とくに行政分野における保健師活動の活動目標、活動方法の特徴を具体的に述べることができる。 7. 今後の保健師活動の展望を持つことができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・定期試験（80%）：上記の到達目標を達成しているかどうか判断します。知識中心の問題 30 点、記述問題 70 点を予定しています。8 回目の授業で詳しく説明します。 ・毎回の学び（20%）：毎回の出席カードの記入内容によって、毎回の学習内容を理解しているかどうか判断します。なお、5 回目の講義に関連した提出課題については授業に反映させますが、成績評価には用いません。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 6 (木) 1	地域看護、公衆衛生看護、在宅看護の概念	テキストを用いて地域看護、公衆衛生看護、在宅看護の定義、対象を学ぶ。人々の健康と生活条件の関係性について考え発表する。			人々の健康と生活条件が関係している例を考えて授業に臨む		菅原	
2	5. 4. 20 (木) 1	地域看護の歴史	テキスト・DVD を用いて世界的視点から見た地域看護活動の展開、戦前から今日に至る日本の地域看護の歴史を学ぶ。						
3	5. 4. 27 (木) 1								
4	5. 5. 11 (木) 1	保健師制度	法令要覧を通して保健婦規則、保健師助産師看護師法における保健師の定義、業務規定、法律上の看護と保健指導を学ぶ。						
5	5. 5. 18 (木) 1	保健師教育	保健師教育の変遷と大学/大学院教育の関係について学び、保健師教育の展望に関する意見を発表する。			配布された保健師教育に関する文献を読んだ上で授業に臨む			
6	5. 5. 25 (木) 1	保健師活動の場と支援方法	関連文献から保健師活動の多様な場と支援方法について学ぶ。			DVD 視聴後、課題を提出する			
7	5. 6. 1 (木) 1	公衆衛生看護：行政分野における保健師活動	テキストや DVD 等を通して、保健所・市町村保健センターの保健師活動の実態と活動目標、活動方法の特徴を学ぶ。						
8	5. 6. 8 (木) 1	まとめ	保健師活動の今後の展望を考える。						
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：門脇豊子他編「看護法令要覧」日本看護協会出版会。 教 科 書：上野昌江他編「公衆衛生看護学第 3 版」中央法規出版。 参考図書：宮崎美砂子他編「最新 公衆衛生看護学 総論」日本看護協会出版会。木下由美子編「エッセンシャル地域看護学」医歯薬出版。佐々木明子監修「DVD 地域看護活動とヘルスプロモーション第 1 巻」丸善。湯楨ます監修「DVD 公衆衛生看護の歴史」ビデオ・パック・ニッポン。							
履 修 上 の 注 意		公衆衛生看護のうち産業保健については産業保健論で、学校保健については学校保健論で扱います。在宅看護については在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰで詳しく学んでください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		・人々の健康を社会的条件の中で捉える視点を持ちましょう。新聞等を読み、社会の動向に目を配りましょう。 ・授業では学生の皆さんの意見を求めます。発言することで自分の考えはまとまってきます。また、他者の意見を聞いて自分の考えの幅を広げる機会としてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
保健医療福祉政策論		看護学科 (専門科目)	非常勤講師 阿彦 忠之 教授 菅原 京子	必修	2	後期	2	非該当	可			
授業概要		健康政策に関する世界的潮流を概観しながら、わが国の保健医療福祉に関する制度や施策等の課題や、地域の健康課題と保健医療福祉政策の関係について学ぶ。										
一般目標		1. Health for All の実現に向けた保健医療福祉政策の進め方や行政機関の役割等について考察し、理解を深める。 2. 地域の健康課題と保健医療福祉政策の関係について、ケースメソッド演習を通して理解する。										
到達目標		1. 健康の定義と権利、および公衆衛生の定義と重要性を理解したうえで、「健康政策がめざすものは何か」「健康な町とはどのような町か」「住民の健康増進及び福祉向上のための公的責任とは何か」「地域保健行政における都道府県と市町村の役割分担はどうなっているのか」および「保健所と市町村保健センターの相違点は何か」などを考え、具体的に述べることができる。 2. 保健指導、健康づくり、地域包括ケアに関するケースメソッド演習を通して、地域の健康課題と保健医療福祉政策の関係について具体的に述べることができる。 3. 保健医療福祉政策の形成過程等における地方公共団体の専門職（保健師等）の役割を考え、具体的に述べることができる。										
成績評価方針 評価方法 および基準		・ 定期試験 70% ： 上記の到達目標を達成しているかどうか判断します。 ・ 課題レポート 30%： 上記の到達目標に沿った内容かを判断基準とします。										
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当				
1	5. 10. 6 (金) 1	公衆衛生と健康政策	公衆衛生の定義と重要性、健康の定義と健康観、健康の権利と国及び地方自治体の役割					阿彦				
2	5. 10. 6 (金) 2	健康政策の世界的潮流	WHOの健康戦略の変遷、ヘルスプロモーションとヘルシーシティ、健康支援環境と健康なまちづくり									
3	5. 10. 13 (金) 1	保健福祉に関する制度 と行政機関等の役割	わが国の保健福祉制度の変遷と課題									
4	5. 10. 13 (金) 2		地域保健の体系と保健所・市町村保健センター等の役割、保健師等専門職の役割									
5	5. 10. 20 (金) 1	わが国の医療制度の特徴と医療政策の動向	国民皆保険を基盤とした医療制度の仕組みと変遷、医療制度改革等の動向									
6	5. 10. 20 (金) 2	保健福祉分野における政策の動向	保健福祉政策の基盤となる各種法規と近年の政策の動向（例：高齢者保健福祉政策、がん対策、感染症対策）									
7	5. 10. 27 (金) 1	保健医療福祉に関する計画の策定・実施・評価	地方自治体の基本構想と保健医療福祉計画の関連、保健医療福祉に関する各種計画（医療計画、地域医療構想、健康日本21等）の目的、評価指標の設定、計画の進行管理（PDCA サイクル）									
8	5. 10. 27 (金) 2											
9	5. 11. 10 (金) 1	保健医療福祉政策 ケースメソッド演習	保健医療福祉行政の課題解決等に関する事例演習、解説 ・ 保健指導、健康づくり							地域包括支援センター 保健師の講義を踏まえたグループワーク	スポット (富士)	
10	5. 11. 10 (金) 2											
11	5. 11. 15 (水) 1		・ 地域包括ケア 地域包括支援センターの役割 地域の課題と支援 地域の把握、アセスメント 多様な高齢者/家族/住民支援									
12	5. 11. 22 (水) 1											
13	5. 11. 29 (水) 1											
14	5. 12. 6 (水) 1											
15	5. 12. 13 (水) 1	まとめ					地域 教員					

教科書 参 考 図 書	教科書 ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障(2)：公衆衛生，メディカ出版
履 修 上 の 注 意	授業では原則として毎回、学習課題の理解度等を確認するためのレポート提出を求めます。 地域包括ケアのケースメソッド演習は、3年次の地域包括支援実習に繋がります。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	講義形式の授業においても、課題を与えて受講者の考えを発表してもらう機会を多く設けるので、積極的な発言を期待しております。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名		必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
保健統計学		看護学科 (専門科目)	助 教 栗田 敦子 非常勤講師 大益 史弘		選択	3	前期	2	非該当	可
授業概要		集団の健康課題を把握するための健康指標とそれらを導き出す統計解析手法等について教授する。さらに 集団の健康指標を可視化し、健康課題抽出ができるよう、統計解析手法の演習を行う。								
一般目標		1. 健康指標の構造や基本的考え方を理解し、健康指標を算出するための方法を修得できる。 2. データ解析結果に基づいた考え方を修得できる。 3. 人口統計や保健統計調査を理解できる。 4. 集団の健康指標を可視化し、健康課題抽出するためのデータの統計学的解析の具体的方法を修得できる。								
到達目標		1. 保健統計学の概要について説明することができる。 2. 健康指標の構造と各々の健康指標が持つ課題について具体的に述べることができる。 3. 人口統計や保健統計調査の特徴と各々の人口統計が持つ課題について具体的に述べることができる。 4. 統計学的手法を用いてデータの解析と集団の健康指標を可視化ができる。 5. 基本的なデータの事例を用いて、健康課題が抽出できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・定期試験 60％：保健統計学の基礎的知識と考え方、保健統計の実際 ・演習の成果物 40％：統計学的手法を用いてデータの解析と集団の健康指標を可視化した成果物								
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など		担当	
1	5. 4. 10 (月) 1	保健統計指標 I	・保健統計学の概要と、人口問題について学習する。						大益	
2	5. 4. 14 (金) 5	保健統計指標 II	・出生と死亡を中心とした健康の指標について学習する。						大益	
3	5. 4. 17 (月) 1	平均・分散・標準偏差	・様々な平均値と標準偏差の算出方法、また、それらの表す事象を学習する。						大益	
4	5. 4. 21 (金) 5	相関係数	・相関の意味と相関係数の算出方法について学習する。						大益	
5	5. 4. 24 (月) 1	回帰直線	・直線回帰式の表わし方と求め方を学習する。						大益	
6	5. 4. 28 (金) 5	検定の理論	・正規分布性と確率分布曲線をもとにして検定の理論について学習する。						大益	
7	5. 5. 1 (月) 1	いろいろな検定法 I	・F 分布曲線と T 分布曲線をもとにした検定方法を学習する。						大益	
8	5. 5. 8 (月) 1	いろいろな検定法 II	・カイ 2 乗分布曲線をもとにした検定方法を学習する。						大益	
9	5. 5. 15 (月) 1	表計算ソフトの活用 (情報処理方法とデータの可視化)	・データファイルの作成、データセット、表を作成する、関数を使う、グラフを書く(統計図表の作成) ・情報処理の基礎 ・健康情報の可視化				情報処理の基礎をふまえ、健康情報の可視化のための個別演習を実施する。		栗田・ スポット 講師	
10	5. 5. 22 (月) 1									
11	5. 5. 29 (月) 1									
12	5. 6. 5 (月) 1									
13	5. 6. 12 (月) 1									
14	5. 6. 19 (月) 1	健康課題の抽出	・数的データを用いて健康課題の抽出を行う。						スポット (後藤)	
15	5. 6. 19 (月) 2	・国民保健の現状 ・保健統計調査	・健康指標、人口動態、人口静態について学習する。 ・基幹統計及びその他の統計調査、医療経済統計について学習する。						スポット (後藤)	
教 科 書 参 考 図 書		教科書：「やさしい保健統計学 改訂第 5 版」縣俊彦著(南江堂)								
履修上の注意		基礎保健学や保健医療福祉政策論及び公衆衛生看護学概論と関連付けて学ぶこと								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		保健統計は公衆衛生看護の活動展開のためには重要な知識と技術です。集団をとらえ、集団の特徴を表現する手法を積極的に身につけてください。								
e-mail・研究室 (連絡先)		栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
ケアシステム論	看護学科 (専門科目)	准教授・鈴木 育子 教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・今野 浩之	選択	4	前期	1	非該当	否		
授業概要	健康なまちづくりのための多職種連携、ケアマネジメントの展開について教授する。									
一般目標	・健康なまちづくりのための看護の機能を理解する。 ・健康なまちづくりのための看護職と関係職種との連携について理解する。 ・ケアマネジメントの展開を理解する。									
到達目標	1. ケアマネジメントの展開を説明できる。 2. 健康なまちづくりのための看護の役割及び機能について考察できる。 3. 健康なまちづくりのための看護職と関係職種との連携について考察できる。 4. 多職種連携による健康なまちづくりに関して考察できる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：到達目標の達成度を判断する。 評価方法と基準：レポート 80％ 課題は授業の中で提示。テーマの設定、レポート内容から総合的に評価する。 授業参加による学び 20％ 学びの内容を記述したものから、授業参加への積極性、目標への到達度を総合的に評価する。									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当		
1	5. 4. 10（月）3	健康なまちづくり	地域ケアシステムの構築 ケアコーディネーションと社会資源			既習の知識の復 習、整理		鈴木		
2	5. 4. 10（月）4	ケアマネジメントの展開	ケアマネジメントの概念、機能、展開、実 施機関、記録・情報管理							
3	5. 4. 17（月）4	多職種連携による健康な まちづくりの実例	認知症初期集中支援チームの活動					鈴木 スポツト 講師		
4	5. 4. 21（金）4		子育て世代包括支援センターにおける母 子保健コーディネーターの活動						桂 スポツト 講師	
5	5. 4. 24（月）4		生活支援が必要な個別事例への（コミュニ ティーソーシャルワーカーによる）支援							菅原 スポツト 講師
6	5. 5. 2（火）3		生活支援コーディネーターによる健康な まちづくりのための活動							
7	5. 5. 2（火）4	健康なまちづくりにおけ る保健所の機能	山形県の保健所業務の概要、保健師活動の 概要					鈴木		
8	5. 5. 8（月）4	まとめ								
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：公衆衛生看護、在宅看護領域で使用したすべての教科書・参考書								
履 修 上 の 注 意		授業の順番は、講師の都合に合わせて変更になる可能性があります。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		公衆衛生看護活動実習、総合看護学実習Ⅱにつながる授業です。 事例を通して学びを深めてください。								
e-mail・研究室 （連絡先）		菅原：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室17 hkono@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
学校保健論	看護学科 (専門科目)	非常勤講師 新井 猛浩	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要	学校関係者の立場から子どもの健康を守るために必要な事柄について扱う。学校生活における健康上の配慮と健康実践能力を育てる働きかけが学校組織の中でどのように展開されているかを解説する。 また、学校保健活動の中核的役割を担う養護教諭の職務と特質、保健室の機能、保健室経営、健康相談活動及び他職種との連携のあり方についても解説する。							
一般目標	教育としての保健活動について理解する。 養護教諭の担う学校保健活動の中核的役割や他職種とのコーディネーターの役割を理解する。							
到達目標	学校保健の意義や教職員の役割、関連機関との連携について説明できる。 学校保健に果たす養護教諭の役割やコーディネーターとしての役割を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：レポートによる。授業態度 20%、レポート 80%の配点とする。 基準：学校保健に果たす教職員の役割、特に学校保健の中核的役割を担う養護教諭のあり方について説明できるかどうかを評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 5. 29 (月) 3	1 学校保健とは	パワーポイントや配付資料、教科書を用いた講義形式で行う。教育としての保健活動の役割について解説する。 また、中央教育審議会答申や学校保健安全法を踏まえ演習、ビデオ視聴などによって授業を進める場面も設けるが、適宜学生諸君が養護教諭の望ましいあり方についての自分の考えを発表する機会も設けたい。					新井
2	5. 6. 5 (月) 3	2 子どもの発育・発達						
3	5. 6. 12 (月) 3	3 健康観察・健康診断						
4	5. 6. 19 (月) 4	4 養護教諭の活動と醍醐味						
5	5. 6. 26 (月) 4	5 保健室の役割						
6	5. 7. 3 (月) 3	6 感染症とその予防						
7	5. 7. 10 (月) 3	7 保健教育について						
8	5. 7. 24 (月) 3	8 学校安全・危機管理						
教科書 参 考 図 書	教科書 渡邊正樹編著：「学校保健概論」、光生館							
履修上の注意	教科書に記載の「学習のポイント」を読んでくること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	子どもの健やかな発育発達を保障するために持てる力を差し出すこと、子どもたちの学校生活を下支えすること、および健康問題を抱えた子どもに寄り添うこと。これらは教職員の大切な役割です。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	新井猛浩：arai@e.yamagata-u.ac.jp 山形大学地域教育文化学部							
連 絡 調 整 担 当 教 員	桂 晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
産業保健論	看護学科 (専門科目)	准 教 授・今野浩之 非常勤講師・菅原 保	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要	労働者の生活実態や労働内容、労働環境を把握し、労働者の生活に即した対応方法及び関連した諸法律に基づいた支援の必要性、支援の進め方について教授する。							
一般目標	・労働者を取り巻く現状および健康問題について法制度、労働衛生管理の視点から理解できる。 ・産業看護活動の実践について理解し、健康確保対策、メンタルヘルス対策の現状と課題について考察できる。							
到達目標	1．産業保健の目的および労働者の特徴を述べることができる。 2．労働衛生管理の原則を説明できる。 3．産業保健活動に関連する法制度を説明できる。 4．健康確保対策、メンタルヘルス対策の現状と課題について述べることができる。 5．産業看護活動の目的について理解し、実践と課題について説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価：課題レポート 100% ・対象者を設定し、以下の内容についてインタビューを行い産業保健の視点でレポートとしてまとめる 評価基準： ・職業と具体的な業務内容、有害業務、心身に負担のかかる業務の有無、実際に事業場で行われている定期健康診断後の事後措置、職場でのメンタルヘルス対策等が含まれていること *対象者の設定および記述方法は授業の中で指示する							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 6. 22 (木) 4	産業保健総論・各論	産業保健の目的、対象、活動の内容とその実際 ・労働衛生対策の推進体制 ・労働衛生管理の基本（労働衛生の3管理） ・事業場における労働衛生管理体制 ・職業性疾病的の予防対策				菅原	
2	5. 6. 22 (木) 5							
3	後日連絡						スポット	
4		法制度	・産業保健における法制度				スポット	
5		産業保健活動の実際	・産業保健活動の実際					
6		産業保健看護活動の実際	・産業看護活動の役割と機能 ・産業看護活動の実践と課題 (職場における健康確保およびメンタルヘルス対策) ・地域保健との連携				スポット	
7								
8		産業保健活動のまとめ					今野	
教科書 参考図書	教科書：指定しない 参考書：「NEW 予防医学・公衆衛生学」南江堂 「労働衛生のしおり」中央労働災害防止協会 「産業保健ハンドブック」労働調査会 「産業看護マニュアル」南山堂							
履 修 上 の 注 意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		働く人には生活に加えて労働という背景があり、病気の診断、治療、ケアをすすめる上でも労働環境を知ることは重要です。さらに、生活習慣病、作業関連疾患、メンタルヘルスなど最近の労働者の健康問題について職域での取り組み、労働環境へのアプローチ方法も含め学んでください。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		今野浩之：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp 菅原 保：医療法人健友会 本間病院 院長						

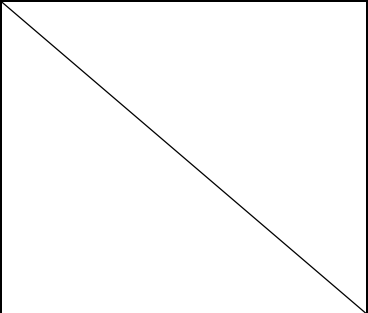
授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
公衆衛生看護方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	教授・桂 晶子	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要		個人・家族・集団、組織に対する公衆衛生看護の具体的な支援技術および支援方法を教授する。							
一般目標		地域で生活する個人・家族・集団、組織の健康を支える公衆衛生看護の支援技術の特徴と支援手段を理解できる。また、保健指導、健康診査、健康教育、地域診断など各支援手段に関する基礎知識および展開方法、関連理論を理解できる。							
到達目標		1. 公衆衛生看護における支援技術の特徴と支援手段を説明できる。 2. 保健指導および健康相談の対象と展開方法を説明できる。 3. 健康診査の種類と対象、展開方法を説明できる。 4. 保健師が行う家庭訪問の特徴と展開方法を説明できる。 5. 地域診断に関連する理論とその活用方法、地域診断の展開方法を説明できる。 6. 健康教育に関連する理論とその活用方法、健康教育の展開方法を説明できる。 7. グループおよび地域組織の種類と発展過程、エンパワメントを高める支援方法を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：到達目標の達成度を試験とレポートにより評価する。 方法および基準： ・演習の取組みと提出物 50％ 公衆衛生看護の支援に関わる知識の理解度と演習の取組み態度を評価する。 ・レポート 50％ 公衆衛生看護活動を展開する上での論理的思考力をレポートにより評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 12 (水) 1	公衆衛生看護技術	・公衆衛生看護の対象者の特徴 ・公衆衛生看護の考え方と技術 ・公衆衛生看護における PDCA サイクル活用上の留意点			必要に応じて授業 のなかで提示する		桂	
2	5. 4. 12 (水) 2	保健指導と健康相談	・保健指導とは／健康相談とは ・健康相談の対象と方法と進め方						
3	5. 4. 19 (水) 1	健康診査	・健康診査の対象と方法 ・健康診査に必要な知識と技術						
4	5. 4. 19 (水) 2	家庭訪問	・行政保健師が行う家庭訪問の対象者と支援 の特徴 ・具体的な家庭訪問の流れ						
5	5. 4. 26 (水) 1	地域診断	・地域診断に関連する理論 ・地域診断の展開						
6	5. 4. 26 (水) 2	健康教育	・健康教育に関連する理論 ・健康教育の展開						
7	5. 5. 10 (水) 1	グループ支援 地域組織活動	・組織の種類、発展過程を通じた力量形成の ための技術 ・住民のエンパワメント						
8	5. 5. 10 (水) 2	まとめ	・公衆衛生看護活動で求められる支援技術の まとめ						
教 科 書 参 考 図 書		教科書 上野昌江他編：公衆衛生看護学 第3版、中央法規							
履 修 上 の 注 意		既習の公衆衛生看護学概論や関係科目を復習して授業に参加してください。 健康相談と保健指導はヘルス・コミュニケーションと関連付けて学修してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		公衆衛生看護活動は、住民の価値観の多様化や社会生活の複雑化などにより多様な対象を支援するため、 各支援方法の原則を踏まえて包括的に支援します。また、公衆衛生看護技術は、保健所・市町村にとどま らず地域包括支援センターや福祉施設等においても応用が可能な手法です。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		桂 晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
対象別公衆衛生看護論		看護学科 (専門科目)	教 授・桂 晶子	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要		母子、成人、高齢者、精神、障がい者（児）などライフステージや健康状態を踏まえた対象別の公衆衛生看護活動を教授する。							
一般目標		ライフステージや健康状態を踏まえた対象別の支援に関する動向、法制度、支援対象者の特性、健康状態および健康課題を理解する。これらの知識を基に支援対象者（家族、コミュニティを含む）に対する公衆衛生看護活動を理解する。							
到達目標		1. 母子、成人、高齢者、精神、障がい者（児）などライフステージや健康状態を踏まえた対象別の支援に関する動向、法制度を理解し記述できる。 2. ライフステージや健康状態を踏まえた対象別の公衆衛生看護活動における対象者（家族、コミュニティを含む）の特性、健康課題、支援方法を理解し記述できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：到達目標の達成度を試験により評価する。 方法および基準：試験 100%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外 学習など	担当	
1	5. 4. 10（月）2	対象別公衆衛生看護とは 母子保健活動①	・公衆衛生看護活動の基本（ポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチ） ・母子保健の動向 ・妊娠期および産後、乳幼児期における健康上の課題と保健活動 (乳幼児健康診査と保健指導、児童虐待、発達障害他) ・成人保健の動向 ・成人期の健康上の課題と保健活動 (生活習慣病予防、特定健康診査、重症化予防他) ・高齢者保健の動向 ・高齢期の健康上の課題と保健活動 (介護予防、高齢者虐待、地域における支え合い他) ・感染症の動向 ・感染症に関する保健活動 (感染症の予防および発生時の対応、予防接種他) ・精神保健の動向 ・精神障がい者に関する保健活動 (こころの健康づくり、自殺対策他) ・障がい者保健の動向（難病含む） ・障がい者に関する保健活動（難病含む） (障がいの予防、障害者手帳、指定難病、高次脳機能障害、就労支援、支援のネットワークづくり他) ・各ライフステージにおける歯科保健活動 ・対象別公衆衛生看護のまとめ				必要に 応じ て授 業 のな かで 提示 する	桂	
2	5. 4. 17（月）2	母子保健活動②							
3	5. 4. 24（月）2	成人保健活動							
4	5. 5. 1（月）2	高齢者保健活動							
5	5. 5. 8（月）2	感染症保健活動							
6	5. 5. 15（月）2	精神保健活動							
7	5. 5. 22（月）2	障がい者（難病含む） 保健活動							
8	5. 5. 29（月）2	歯科保健活動 まとめ							
教 科 書 参 考 図 書		教科書 医療情報科学研究所編：公衆衛生がみえる．メディックメディア 参考書 上野昌江他編：公衆衛生看護学 第3版．中央法規 増田雅暢他編：ナース・グラフィカ 健康支援と社会保障(3)．メディカ出版（2年次購入） 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向・厚生指標 増刊							
履修上の注意		ライフステージなど対象への公衆衛生看護活動を学ぶため、対象の心身の健康状態の理解については既習の看護学を十分に復習して授業に参加してください。感染症に関する保健活動は「健康危機管理論」でも取り上げます。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		公衆衛生看護活動の対象者に関わる最新の法制度の情報を主体的に取り入れてください。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生	
公衆衛生看護方法論Ⅱ	看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	選択	3	前期	1	非該当	否	
授業概要	公衆衛生看護で用いられる活動方法の基本的知識と技術を教授する。								
一般目標	公衆衛生看護活動における個人・家族・グループに対する支援方法の実践的能力を習得する。								
到達目標	<u>地域看護診断演習</u> ・公衆衛生看護の視点に基づき既存資料を収集しアセスメントできる。アセスメントを通して当該市町村の健康課題とその背景や原因を明らかにできる。 ・健康課題に基づく地域看護活動計画の立案、発表を行い、地域看護活動計画について相互に評価できる。 ・既存資料による情報収集、アセスメント、健康課題の抽出、地域看護活動計画の立案を通して地域看護診断の一連の流れを理解することができる。 <u>健康教育演習</u> ・地域看護診断で明らかになった健康課題を踏まえて健康教育指導案を計画できる。 ・教材を作成し、計画した健康教育を実施することができる。 ・実施した健康教育を相互に評価できる。 <u>健康相談、家庭訪問演習</u> ・健康相談のポイントについて述べるができる。 ・乳児とその家族に対する訪問指導案を計画できる。 ・訪問指導案に基づいた家庭訪問を実施することができる。 ・家庭訪問におけるヘルスアセスメント、看護ケア及び支援内容、コミュニケーションスキル、保健師としての態度について、相互に評価できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 お よ び 基 準	・授業内のグループ毎のプレゼンテーション 60% ：技術、知識、発表態度、グループ貢献度、相互評価ができていのかどうかを評価基準とする。 ・個人レポート 40%：演習毎の技術及び知識が獲得できているかどうかを評価する。 ＊個人レポートは演習項目（地域看護診断、健康教育、家庭訪問）の計 3 回提出です。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当		
1	5. 6. 7 (水) 4	1. 全体ガイダンス 2. 地域看護診断演習 (グループ活動)	1. ガイドラインを配布（全体説明）		☞既存の資料は、ホーム ページ、図書館、地域看護学実習室にあるものを活用すること ☞4 年時の地域看護診断実習につながるため、積極的に取り組むこと		地域 教員		
2	5. 6. 14 (水) 3		2. 山形県内の一市町村について既存資料をもとに地域看護診断を行う。						
3	5. 6. 14 (水) 4		1) 既存資料の収集、アセスメントと健康課題の抽出						
4	5. 6. 21 (水) 3		2) 地域看護活動計画を立案 3) 立案した計画を発表						
5	5. 6. 21 (水) 4	健康教育演習 (グループ活動)	健康教育の指導案作成、実施						
6	5. 6. 28 (水) 3		1) 地域看護診断で明らかになった健康課題に基づき、指導案および教材を作成						
7	5. 6. 28 (水) 4		2) 健康教育の実施						
8	5. 7. 5 (水) 3								
9	5. 7. 5 (水) 4								
10	5. 7. 12 (水) 3	家庭訪問演習 (グループ活動)	事例(乳児)に対する家庭訪問の実施		☞対象事例及び母子ヘルスアセスメント技術について事前学習が必要である。家庭訪問の礼儀作法についてはビデオ等を活用し学んでおくこと				
11	5. 7. 12 (水) 4		1) 電話相談のシナリオ作成						
12	5. 7. 19 (水) 3		2) 母子に対するヘルスアセスメントの実施						
13	5. 7. 19 (水) 4		3) 訪問計画指導案の作成						
14	5. 7. 26 (水) 3		4) 家庭訪問におけるロールプレイングの実施						
15	5. 7. 26 (水) 4								
教科書 参 考 図 書	教科書は特に指定しません。参考図書は適宜紹介します。								
履 修 上 の 注 意	グループ活動による演習が中心のため、積極的な態度で臨んでください。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	ガイダンスのときに演習のガイドラインをお渡しします。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
ヘルスコミュニケーション論		看護学科 (専門科目)	准教授・今野浩之	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要		コミュニケーション技術の基礎を踏まえた上で、行動変容に関する理論を提示し、個人および集団に対する健康情報の伝達に関する基本的知識と技術を教授する。							
一般目標		ヘルスコミュニケーションの果たす役割を考察しながら、専門性を生かした適切な健康情報の伝達と支援の展開方法を理解する。							
到達目標		1. ヘルスコミュニケーションの概念及び理論について述べることができる。 2. ヘルスコミュニケーションを活用した個別保健指導における行動変容に関する支援について理解を深めることができる。 3. 集団を対象とした健康情報の発信および支援の具体について述べることができる。 4. 健康の保持増進、疾病予防のための必要な支援方法を述べることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 お よ び 基 準		・授業内でのプレゼン 20%：学生相互の評価（個別指導における行動変容への支援） ・課題レポート 80%：ヘルスコミュニケーションの概念および理論を理解した上で、個人及び集団への健康の増進、疾病予防の支援の具体を述べることができているか							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 10 (月) 3	ヘルスコミュニケーションの基本的理解	講義および演習				これまでに 学習したコ ミュニケー ション技術 に関する事 項を復習し ておくこと	今野	
2	5. 4. 17 (月) 3		1) ヘルスコミュニケーションの概念及び目的 2) 保健医療におけるコミュニケーションとは何か（意味とコンテキスト、発信と受信、ノイズの種類と原因、自己認識と自己開示） 3) ヘルスコミュニケーションに関する理論 4) コミュニケーションにおける方言						
3	5. 4. 24 (月) 3								
4	5. 5. 1 (月) 3	個人を対象としたヘルスコミュニケーションの実際	講義および演習						
5	5. 5. 8 (月) 3		1) 個別支援におけるヘルスコミュニケーション 2) 特定保健指導の実際						
6	5. 5. 15 (月) 3		3) タイプ別アプローチ方法の展開（自己効力感を高める関わり、気づきを促し関心を高める関わり等） 4) 健康リスクの伝え方						
7	5. 5. 29 (月) 4								
8	5. 6. 5 (月) 4	集団を対象としたヘルスコミュニケーションの実際	健康情報の発信、フィードバック、評価の視点等						
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：特に指定しない 参考図書：医療者のためのコミュニケーションハンドブック 精神看護出版 医療コミュニケーションハンドブック 米国国立がん研究所編：ヘルスコミュニケーション実践ガイド 日本評論社 ※その他、参考図書やDVD はその都度授業内で紹介します							
履 修 上 の 注 意		講義と演習を中心に授業を行います。遠隔講義（Zoom）になった場合は内容を変更する場合があります。変更点についてはその都度お知らせしていきます。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		これまで学習してきたコミュニケーション技術、実習等での学びを振り返りながら理解を深めてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		今野浩之：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
コミュニティ活動展開論		看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	選択	4	前期	2	非該当	可
授業概要	健康寿命を延ばす住民主体の活動に向けた、地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働について学ぶ。								
一般目標	1. 健康寿命を延ばすための住民の主体的な取組みと施策の方向を系統的に理解できる。 2. 健康寿命を延ばす活動の主要な活動について、地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働を踏まえて検討できる。 3. 健康寿命を延ばす住民主体の活動における看護の役割を理解できる。								
到達目標	1-1 健康寿命を延ばすための、栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康、飲酒、喫煙、がん、循環器病、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病、歯・口腔の健康、高齢者の健康に関する全国レベルの目標と施策の方向について理解できる。 1-2 1-1 の各項目に関する地域レベルの目標と施策の方向について理解できる。(地域特性の反映がなされているか) 1-3 最新の知見に基づいた健康習慣の科学的根拠について理解できる。 2-1 1-1 の項目を組み合わせたテーマについて、地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働を踏まえて、具体的に検討(調べる、活動提案:教材開発を含む)できる。 3-1 健康寿命を延ばす住民主体の活動における保健師の役割を説明できる。 3-2 上記を通して、健康寿命を延ばす住民主体の活動における看護の展望を考察できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	グループ発表(30%)、発表の振り返り小レポート(30%)、個人レポート(40%)で評価します。 ・グループ発表については、到達目標 2-1 を達成しているかどうかで判断します。 ・発表の振り返りについては、以下の方法で評価します。 7 回目～14 回目のグループ発表の都度、学生相互の評価(無記名)を行う。評価項目は、①テーマに関して対象の状況と健康課題について調べているか、②テーマに関する施策について調べているか、③テーマに関する活動を提案しているか、④提案において地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働を踏まえているか、⑤テーマにあった発表方法を選択できているか、である。 15 回目のまとめで、学生評価に基づく振り返り小レポートを各自で記載する。 ・個人レポートは、到達目標 3-2 の内容が盛り込まれているかどうかを判断基準とします。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1 2	5. 4. 10 (月) 1 5. 4. 10 (月) 2	健康寿命を延ばすための住民の主体的な取組みと施策の方向	国の施策、都道府県(山形県、健康寿命の先進県)の施策を学ぶ。住民の主体的な取組みに必要な要素について具体事例を基に話し合う。 5～14 回のグループ活動に関する説明。					菅原	
3 4 5 6	5. 4. 12 (水) 1 5. 4. 12 (水) 2 5. 4. 19 (水) 2 5. 4. 21 (金) 3	グループ活動	8 グループに分かれ、発表に向けた活動実施					各教員	
7	5. 4. 27 (木) 3	退職前後世代の健康づくり	産業保健と地域保健の連携・協働による「退職前後世代の健康づくり」のグループ発表、健康支援を担う保健師の講義、意見交換			7 回目～14 回目の授業の進行は、学生グループ発表 20 分、非常勤講師による講義 45 分、意見交換 20 分、まとめ 5 分とします。		菅原 協会けんぽ 保健師	
8	5. 4. 27 (木) 4	地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働による喫煙予防・喫煙対策	地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働による「喫煙予防・喫煙対策」のグループ発表、喫煙予防・喫煙対策を担う保健師の講義、意見交換					鈴木 喫煙予防・ 喫煙対策を 担う保健師	

9	5. 4. 28 (金) 3	健康なまちづくり・働き盛り世代の健康づくり	地域保健と産業保健の連携・協働による「働き盛り世代の健康づくり；上山市クアオルト推進事業」のグループ発表、市町村担当者の講義、意見交換		桂 上山市 クアオルト 担当者								
10	5. 4. 28 (金) 4	幼少時からの生活習慣形成・食の入り口としての歯の健康	地域保健と保育園の連携・協働による「食の入り口としての歯の健康」のグループ発表、市町村保健師の講義、意見交換		菅原 大蔵村 保健師								
11	5. 5. 2 (火) 1	がん予防教育・若い世代のがん予防の啓発	地域保健・学校保健の連携・協働による「若い世代のがん予防の啓発」のグループ発表、市町村保健師の講義、意見交換		○栗田 今野 寒河江市 保健師								
12	5. 5. 2 (火) 2	がん予防教育・壮年期のがん予防の啓発	地域保健・産業保健の連携・協働による「壮年期のがん予防の啓発」のグループ発表、市町村保健師の講義、意見交換		○今野 栗田 寒河江市 保健師								
13	5. 5. 8 (月) 2	幼少時からの生活習慣形成・地域ぐるみの食育	地域保健と学校保健の連携・協働による「地域ぐるみの食育」のグループ発表、学校給食センター栄養士の講義、意見交換		今野 山形市 管理栄養士								
14	5. 5. 8 (月) 3	働き盛り世代の生活習慣改善・睡眠の健康と適切な労働	産業保健と専門機関の連携・協働による「睡眠の健康と適切な労働」のグループ発表、産業保健担当者の講義、意見交換		菅原 ユトリア健 康管理セン ター保健師								
15	5. 5. 10 (水) 2	まとめ			菅原								
教科書 参考図書		公衆衛生看護学で学んだ科目で使用した教科書、参考図書 健康やまがた安心プラン											
履修上の注意													
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		健康寿命を延ばすための住民の主体的な取組みと施策の 11 項目と、グループ活動のテーマの関係は以下の通りです。また、健康やまがた安心プランは、公衆衛生看護活動実習にもいかしてください。											
			栄養・食生活	身体活動・運動	休養・こころの健康	飲酒	喫煙	がん	循環器病	慢性閉塞性肺疾患	糖尿病	歯・口腔の健康	高齢者の健康
		働き盛り世代の健康づくり	○	○	○				○				○
		退職前後世代の健康づくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		地域ぐるみの食育	○								○		
		食の入り口としての歯の健康	○									○	
		睡眠の健康と適切な労働		○	○				○				
		喫煙予防・喫煙対策					○	○	○	○			
		若い世代のがん予防の啓発	○	○	○	○	○	○					
		壮年期のがん予防の啓発	○	○	○	○	○	○					
e-mail・研究室 (連絡先)		菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室 17 hkono@yachts.ac.jp 栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp											

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
公衆衛生看護管理論		看護学科 (専門科目)	教授・菅原 京子	選択	4	通年	1	非該当	可		
授業概要		公衆衛生看護活動の看護管理の原則は、病院等で展開される看護管理と共通している。一方、活動が行政（地方公共団体）の場で展開されるため、行政の仕組みを踏まえる必要がある。その上で、地域の健康課題の解決や人々の健康の保持増進に向けた施策化/事業化に寄与する管理を行う特徴がある。本授業では、その特徴的な看護管理について教授する。									
一般目標		行政のPDCAサイクルを踏まえた保健福祉政策/施策/事業の予算管理・情報管理、及び公衆衛生看護における人事管理と人材育成の特徴と方法について理解し、公衆衛生看護活動の質保証のための基礎的能力を身に付ける。									
到達目標		1. 行政とは何か、行政のPDCAサイクルと業務、公務員/専門職の職業倫理について述べることができる。 2. 公衆衛生看護管理の全体像を述べることができる。 3. 予算管理を踏まえた保健福祉事業の展開について説明できる。 4. 保健福祉政策/施策/事業を展開する上で必要となる、情報の活用/保護・公開の現状と課題を具体的に述べることができる。 5. 公衆衛生看護における人事管理、人材育成の現状と課題を具体的に述べることができる。 6. 質が保証された公衆衛生看護活動となるための公衆衛生看護管理の今後の展望を持つことができる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		レポート 100%：レポートは、行政、公衆衛生看護管理の全体像、予算管理、情報管理/活用、人事管理と人材育成について学んだ内容、及び到達目標 5 が盛り込まれているかどうかを評価基準とします。									
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当			
1	5. 4. 7 (金) 4	行政、公衆衛生看護管理の全体像	行政とは何か、行政のPDCAサイクルと業務、公務員/専門職の職業倫理 公衆衛生看護管理の全体像			住んでいる市町村の行政機構を調べる。		菅原			
2 3 4	5. 4. 13 (木) 1 5. 4. 13 (木) 2 5. 4. 14 (金) 3	予算管理	行政における予算管理の特徴、保健福祉政策/施策/事業と予算、経費支出科目の財政用語、予算管理を踏まえた保健福祉事業の展開（企画、実施、評価）			住んでいる市町村の保健福祉政策に関する予算を調べる。					
5 6	5. 4. 20 (木) 1 5. 4. 20 (木) 2	情報管理/活用	プライバシーと個人情報、個人情報保護、情報公開、保健師活動における情報管理/活用の側面と課題 側面；地域看護診断・計画立案 個別事例への支援 地域住民への説明責任・危機管理 課題；データベース管理 個人情報保護への対応 個別事例支援に関する記録			個人情報保護におけるSNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）の課題について、各自で考えて授業に臨むこと。					
7 8	5. 4. 24 (月) 2 5. 4. 26 (水) 2	人事管理・人材育成	保健師のキャリア発達 新人・新任期・中堅期・管理期の各期で求められる能力、キャリアラダー 保健師の人事管理・人材育成の現状と課題 分散配置と人事、現任教育としての研修（OJTとOff-JT）、大学院教育			保健師を招き、「保健師になろうと思った理由」「現在の仕事」について話して頂く予定です。					
		まとめ	公衆衛生看護管理の今後の展望								
教 科 書 参 考 図 書		参考資料（授業で配布） ・しんじょうのよさん ・医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス ・地域における保健師の保健活動について（通知） ・新人看護職員研修ガイドライン 保健師編 ・自治体保健師の標準的なキャリアラダー									
履 修 上 の 注 意											
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		3年生で学んだ看護管理を復習して臨んでください。									
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp									

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域看護診断実習	看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	選択	4	前期	1	非該当	否
授業概要	地域住民の生活や文化、価値観などの特徴から地域の保健ニーズをとらえ、健康課題を解決する基礎的能力を獲得できるよう教授する。							
一般目標	地域住民の生活や地域の特徴から地域看護診断・地域看護活動計画立案を行い、看護として、地域全体の健康課題を解決する基礎的能力を習得する。							
到達目標	1. 地域看護の視点に基づき、既存資料の収集及び地区踏査、地域住民との面接調査を行い、地域の健康に関する全体像を述べることができる。 ・看護として地域全体の健康課題及び関連要因を把握する必要性を説明できる。 ・地域看護診断に必要な既存資料の所在がわかる。看護の視点に基づいた既存資料のデータ収集、およびデータを解釈できる。 ・地区踏査で客観的に地域の状況を確認できる。観察した結果について主観的な表現を用いずに、見たままを記述できる。 ・住民面接において、自己紹介及び面接の目的を述べることができる。コミュニケーション技術を用い、対象の立場をふまえ面接できる。 2. 情報をアセスメントし、地域の健康課題及び関連要因を述べることができる。 ・収集した情報を地域看護診断の視点に沿って整理できる。整理した情報を科学的に分析、統合、解釈できる。 ・地域の健康課題及び関連要因を抽出できる。 3. 健康課題と関連要因に基づいて、その地域の特徴に合致した地域看護活動計画を立案できる。 ・活動目標を、地域の到達させたい状態として達成時期、評価の視点とともに示すことができる。 ・地域の健康課題の優先順位を課題の性質や課題相互の関係を踏まえて決定できる。 ・地域住民の生活や地域の特徴を踏まえた実現可能性のある活動方法・内容を具体的に計画できる。 4. 地域住民との関わり及び地域看護診断の過程を通して、地域看護の役割と機能について述べることができる。 ・地域住民が健康についてどのように認識しているのか説明できる。 ・地域で果たすべき看護の役割と機能を説明できる。 ・地域看護のこれからの課題を指摘できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実習状況（60％）、個人レポート（40％）で評価します。 ・実習状況については、グループで展開する到達目標 1～3 を達成しているかどうかについて、グループ活動状況、実習報告会状況、グループ提出記録によって判断します。加えて実習態度（身だしなみ、言葉遣い・態度、リーダーシップ・メンバーシップ、実習への熱意）についても判断基準とします。 ・個人レポートについては、到達目標 1～3 に関して学んだこと、及び到達目標 4 についてが、盛り込まれているかどうかを評価基準とします。							
授業計画								
1. 実習市町村山形県内 1 市町村 2. 実習日程及び内容5 月 15 日（月）～ 5 月 19 日（金） 既存資料の分析、保健福祉サービスに関するオリエンテーション、地区踏査、住民インタビュー、保健師との検討会、実習報告会（住民及び市町村関係者も参加） ※地域看護診断・地域看護活動計画立案はグループ活動によって行います。								
教 科 書 参 考 図 書	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱ、対象別公衆衛生看護論で用いた図書							
履修上の注意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	・健康に留意して実習に臨んでください。また、地域住民との面接を通して、生活者の視点から地域を診断することを大切にしましょう。 ・実習では自家用車で移動します。あらかじめ、「臨地・臨床実習における自家用車・二輪車等使用申請書」の手続きを行っておいてください。また、交通安全に十分気をつけましょう。 ・本科目は、教員と実習指導者（保健師等）の指導の下、市町村（健康福祉担当部局）において実習する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」として行います。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
公衆衛生看護活動実習	看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	選択	4	通年	2	非該当	否
授業概要	地域社会で生活する住民や家族の個別保健ニーズと地域の健康課題を包括的にとらえ、課題を解決するための公衆衛生看護活動方法が実践できる基礎的能力を教授する。 公衆衛生看護活動の展開の場である保健所、市町村、学校、産業保健の特性に応じた公衆衛生看護活動が実践できる基礎的能力を教授する。							
一般目標	1. 地域における看護活動の場を理解できる。 2. 住民が生活している地域の特徴と健康課題が理解できる。 3. 公衆衛生看護活動の展開実践の場である保健所、市町村、学校、産業における公衆衛生看護の役割と機能が理解できる。 4. 家庭訪問において、個人や家族の身体的・精神的・社会的特性を理解し、個人と家族の健康レベルに応じた支援が実践できる。 5. 住民や小集団に対する健康相談や健康教育等を実際に体験し、展開過程が理解できる。							
到達目標	1. 保健所実習 保健所管内の地域特性に基づいた健康課題を理解し、保健所における公衆衛生看護活動の機能と具体的展開の基本を習得できる。 ・保健所管内における地域の特徴を理解できる。 ・ケアシステムの構築に向けた他機関や他職種との連携の必要性について理解できる。 2. 市町村実習 市町村の地域特性に基づいた健康課題を理解し、市町村における公衆衛生看護活動の機能と具体的展開の基本を習得できる。 ・市町村における地域の特徴を把握し、公衆衛生看護活動の展開が理解できる。 ・個別事例の支援の展開が実施できる。 ・市町村の健康課題に基づいた保健事業において公衆衛生看護の役割を理解し、保健指導が実施できる。 ・他機関や多職種との連携およびケアシステムの中で果たしている市町村の公衆衛生看護の役割を理解できる。 3. 学校保健実習 学校における保健活動を理解し、学校保健の場で実践されている展開方法について理解できる。 4. 産業保健実習 産業の場における保健活動を理解し、産業保健の場で実践されている展開方法について理解できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：実習地ごとの態度と提出された記録物の内容等から到達目標の達成度を総合的に判断して評価する 評価内容： 1) 実習態度（40%） (1) 事前学習の提出および実習準備（教員と連絡や相談ができていたか） (2) 学内演習におけるグループ活動への参加状況（積極的に参加できていたか、意見を述べていたか） (3) 実習中の態度およびカンファレンスへの状況（対象者との関わりはどうか、教員や実習指導者と連絡や相談ができていたか、カンファレンスでの発言内容） 2) 記録物（事前学習を含むレポート課題）（60%） (1) 提出期日は厳守できているか、提出記録に不備はないか (2) 記録物の内容 ①実習の目的・目標に応じ、課題に対する記述がされているか ②文書の体裁が整えられているか（誤字脱字はないか、見やすい字で書かれているか） ③専門用語を正しく用い、慎重かつ丁寧に推敲し記述されているか							

授業計画					
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
	5. 5.22 (月) ～ 5. 9.22 (金)	実習場所は県内保健所、市町村、小学校、企業等。 実習項目、課題は公衆衛生看護活動実習要項を参照。	内容、方法は公衆衛生看護活動要項を参照。 ・保健所実習 3 日間 (学内演習を含む) ・市町村実習 5 日間 (学内演習を含む) ・学校保健実習 2 日間 ・産業保健実習 1 日間	実習に関連する専門および専門基礎科目の復習を十分に実施すること	菅原 桂 鈴木 今野 栗田
教科書 参考図書	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱ、対象別公衆衛生看護論で用いた図書、その他、必要な図書を積極的に自分で探し活用してください。				
履修上の注意	・事前学習を重視します。自分が実習で活用できる、あるいは実習に必要な知識、技術は何かを意識しながら、計画的に事前学習を進めてください。 ・本科目は、教員と実習指導者の指導の下、保健所、市町村、小学校、産業保健において実習する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。				
学生へのメッセージ	・健康に留意して社会人としてのマナーを守り、生活者の視点で公衆衛生看護の具体的実践方法、活動の場の特性把握、関係職種や機関との連携や協働体制を主体的に学んでください。施設の看護との相違や連携についても学んでください。 ・自家用車の使用の際は慎重に運転を行い、交通事故に注意してください。 ・COVID-19 の感染拡大状況により、実習の実施方法および内容等が変更になる可能性があります。メールや掲示等の指示を随時確認してください。				
e-mail・研究室 (連絡先)	菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp				

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
看護教育学		看護学科 (専門科目)	教授・沼澤 さとみ	必修	4	後期	2	非該当	可		
授業概要		看護職養成のための教育について、教育制度や教育課程、教育方法の基本的な知識について学ぶ。また、看護職として教育にかかわることを考える。									
一般目標		看護職養成教育について、教育制度や看護教育課程、教育方法の基本的な知識を修得する。また、看護職が指導者として教育に関わるために、教育とは何かを考え、必要な資質や能力を考えることができる。									
到達目標		1. 看護職養成のための教育と看護学教育の変遷、現状と課題、看護教育課程について説明できる。 2. 看護職が指導者として必要な教育方法の基本的な知識を、学習指導案として具体的に表現できる。 3. 看護職が指導者として教育にかかわるために必要な自身の資質や能力を考えることができる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		課題・レポート 70%（目標の達成度により評価する） 授業への参加態度 30%（ミニツペーパー等を参考に評価する）									
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当			
1	5. 10. 20（金）3-4	教育とはなにか 看護教育学とは	教育が目指すもの 学ぶこと教えること 看護教育学と看護学教育			各回の学習課題に応じて、以下の学習をする ・課題に関する書籍、配布資料やネット検索などで収集した資料を読む。 ・ディスカッションやワークを行い、自分の考えをまとめる。		沼澤			
2											
3	5. 10. 25（水）3-4	看護教育制度	看護教育制度の変遷と現状 看護の学士課程教育					沼澤			
4											
5	5. 10. 27（金）3-4	看護教育課程	教育課程とは 看護基礎教育の教育課程（保健師 助産師看護師学校養成所指定規則 による教育課程）					沼澤			
6											
7	5. 11. 1（水）3-4	教育課程編成と育成 する資質と能力	教育課程の編成と評価 学力とは 学生の資質と能力を育成する教育 課程					沼澤			
8											
9	5. 11. 8（水）3-4	看護学の教育方法	学習の特徴と指導の基本 学習方法 看護技術を教えること					沼澤			
10											
11	5. 11. 10（金）3-4	看護学の教育方法	学習指導の計画と評価 学習指導案作成					沼澤			
12											
13	5. 11. 15（水）3-4	看護職のキャリアと 継続教育	専門職としてのキャリア開発 大学院教育					沼澤			
14											
15	5. 11. 17（金）3	まとめ	看護職として教育にかかわることを考える					沼澤			
教 科 書 参 考 図 書		教科書は指定しない 参考図書等は随時紹介する									
履 修 上 の 注 意		短い授業期間です。集中して学習してください。									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		看護教育学について、看護職の指導者としての役割や将来の自分自身のキャリアと関連させて考えてみましょう。									
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		沼澤さとみ：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp									

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護管理学		看護学科 (専門科目)	非常勤講師 寺島美紀子	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要		管理の基礎的知識、日本の保健医療制度や関連法規、医療経済、医療や看護をとりまく環境や現状等を教授する。また社会の変化に対応しつつ質の高い看護サービスを提供するために必要な看護管理の機能、看護組織論、看護における人的資源管理、情報管理、安全管理、リーダーシップ論等について、主に病院看護管理を例にして教授する。							
一般目標		1. 管理の概念や組織論等、管理の基礎的知識について理解する。 2. 保健医療制度と関連法規、医療経済について理解する。 3. 日本の医療・看護をとりまく環境と現状を理解する。 4. 看護管理の概念、看護管理の機能を理解する。 5. 看護における管理の方法について理解する。							
到達目標		1. 管理の概念、組織の特徴が説明できる。 2. 日本の保健医療制度と関連法規、医療経済について説明できる。 3. 日本の医療・看護をとりまく環境と状況が説明できる。 4. 看護管理の概念と機能が説明できる。 5. 看護における人的資源管理、情報管理、安全管理等について説明できる。 6. 看護管理者に求められる知識や資質について説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・定期試験：80% 基本的事項の理解度で評価します。 ・課題：20% 内容で評価します。 上記2項目を合わせて100点満点で評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5.4.11(火)2	授業ガイダンス、管理とは	管理の基本、キャリアとキャリア形成				国内外の医療や看護に関する情報の収集と精読 課題の自己学習	寺島	
2	5.4.18(火)2	管理活動の方法	看護の管理プロセスと管理サイクル					寺島	
3	5.4.25(火)2	組織論と看護管理	組織の基本、看護組織の特徴と看護管理					寺島	
4	5.5.2(火)2	看護サービスについて	サービスとしての看護の特徴、質の評価					寺島	
5	5.5.9(火)2	看護サービスのマネジメント	看護ケア提供方式、リーダーシップ論					寺島	
6	5.5.16(火)2	日本の医療と看護の現状	医療制度、関連法規					寺島	
7	5.5.23(火)2	看護を取り巻く状況①	看護管理の歴史的変遷					寺島	
8	5.5.30(火)2	看護を取り巻く状況②	保助看法の改正と准看護師問題					寺島	
9	5.6.6(火)2	看護を取り巻く状況③	看護師等の人材確保の促進に関する法律と看護師不足					寺島	
10	5.6.13(火)2	看護管理の実際①	人的資源管理(労務管理)					寺島	
11	5.6.20(火)2	看護管理の実際②	人的資源管理(人材育成の例)					原田	
12	5.6.27(火)2	看護管理の実際③	物的資源管理、時間管理、情報管理					寺島	
13	5.7.4(火)2	医療経済と看護の対価	社会保障と医療費、診療報酬、看護料					寺島	
14	5.7.11(火)2	安全管理と看護管理活動	安全管理					寺島	
15	5.7.18(火)2	看護管理のまとめ	看護の専門性、看護管理のまとめ					寺島	
教科書	【教科書】上泉和子他；系統看護学講座 統合分野 看護管理，医学書院，2022。								
参考図書	【参考書】小池智子他；看護サービス管理第5版，医学書院，2018。								
その他、授業で随時紹介します。									
履 修 上 の 注 意									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		社会の動き（最近は特にコロナウィルス感染に対する問題）に伴って医療も看護も変化していきますので、社会の動向に敏感になってください。 看護管理は、管理者だけでなく看護職一人一人が意識して行うもので、学生時代から求められる知識です。積極的に学んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		寺島美紀子：mikit3010@icloud.com							
連 絡 調 整 担 当 教 員		沼澤さとみ							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
健康危機管理論		看護学科 (専門科目)	教 授・桂 晶子 講 師・高橋 直美	必修	4	通年	2	非該当	可		
授業概要		住民の生命・健康の安全を脅かす事態（感染症、自然災害、人為災害など）に対して、健康被害の発生予防、拡大防止、治療等の対策と健康危機に迅速に対応する体制のシステムや看護活動について学習する。									
一般目標		1. 健康危機に対応するための基本的な仕組みや健康危機管理の円滑な実施を図る仕組みを考察する。 2. 災害支援活動に必要な基礎知識を基に災害各期における看護活動の課題と他職種との協働について考察する。 3. 健康危機管理の基本原則を踏まえ、健康危機管理における看護職の役割を考察する。									
到達目標		1. 健康危機管理の概要と看護職の役割が説明できる。 2. 感染症集団発生時における看護の役割を予防的視点と感染症拡大防止の観点から説明できる。 3. 健康危機管理における様々な事象から今後の看護活動が理解できる。 4. 災害サイクルの各期における健康危機の特徴と災害看護の役割が説明できる。 5. 災害時の体系的対応（CSCATTT）とトリアージによる判定方法が理解できる。 6. 災害看護の視点から減災・防災活動の重要性が考察できる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：到達目標の達成度を試験とレポートにより評価する。 方法および基準： ・1～6回(40点分)：健康危機管理上の対応・支援に関わる論理的思考力をレポートにより評価する。 ・7～15回(60点分)：災害サイクル各期における基礎知識と看護役割の習得度を授業後のレポート、演習記録、減災・防災に関する課題により評価する。									
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外 学習など	担当			
1	5. 4. 14（金）1-2	健康危機管理とは①②	・健康危機管理とは ・健康危機管理の背景および関係法規 ・世界、国、県および保健所における健康危機管理				授 業 時 に 指 示 する	桂			
2											
3	5. 4. 21（金）1-2	災害と健康危機管理①② ー我が事として考える災害・被災・減災ー	・災害の定義とフェーズの特徴 ・被災者の状況と多様な立場での災害支援 ・平時における災害への備え						授 業 時 に 指 示 する	スポット 阿彦	
4											
5	5. 4. 28（金）1-2	健康危機管理の実際①② ー感染症発生時の保健活動ー	・健康危機管理上問題となる感染症発生時の保健所の対応と支援 ・感染症発生時の保健活動の実際					授 業 時 に 指 示 する		高橋	
6											
7	5. 10. 25（水）2	災害看護	・災害・災害看護の歴史と制度 ・災害の種類と被害の特徴				授 業 時 に 指 示 する				高橋
8	5. 11. 1（水）2	災害急性期の看護活動①	・災害時の体系的対応（CSCATTT） ・災害急性期における看護活動								
9	5. 11. 9（木）2-4	災害急性期の看護活動②	・災害時のマネジメント ・被災傷病者緊急度判定演習（トリアージ）								
10											
11											
12	5. 11. 14（火）3-4	災害亜急性期の看護活動①②	・避難所における看護活動 ・配慮を必要とする人への支援と看護 ・避難所運営演習（HUG）								
13											
14	5. 11. 16（木）3-4	慢性期・復興期・静穏期の看護活動①②	・慢性期・復興期・静穏期における看護活動 ・減災・防災のマネジメント								
15											
教 参 考 書		教科書：指定しない 参考書：三澤寿美他編：災害看護. 学研, 2018 医療情報科学研究所編：公衆衛生がみえる. メディックメディア（3年次購入） 増田雅暢他編：ナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障(3). メディカ出版（2年次購入）									
履 修 上 の 注 意		生体防御学、病原微生物学、基礎看護学の講義等を復習して臨むこと。									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		健康危機は時間や場所等を問わず発生します。広く世界に目を向けるとともに、健康危機管理の発生時における対応だけでなく、どのようにしたら予防できるかの視点を持ち既存の学習の知識や技術を基盤として学習してください。また災害に関する医療体制や関連法整備等が急速に進んでいます。講義だけでなく、新しい情報を得るように努力しましょう。									
e-mail・研究室 (連 絡 先)		桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 高橋直美：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp									

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合看護学実習Ⅰ		看護学科 (専門科目)	看護学科全教員	必修	4	前期	2	非該当	否
授業概要		学生が選択した領域の実習を通して看護実践能力の向上をはかり、保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を果たすための基礎的能力を養う。							
一般目標		1. 看護実践を通してヘルスケア提供組織において、看護が果たす役割と責務を理解する。 2. ヘルスケア提供組織における看護の役割と責務を考えながら、対象への看護を実践することができる。 3. ヘルスケア提供組織の中で連携をとりながら、対象への看護を実践することができる。 4. 社会情勢やヘルスケア提供組織の現状を踏まえて、看護実践における課題を考察することができる。 5. 看護実践の課題に対する看護の質向上に向けた改善策を考察することができる。							
到達目標		1. 看護実践を通してヘルスケア提供組織において、看護が果たす役割と責務を説明できる。 2. ヘルスケア提供組織における看護の役割と責務を考えることができる。 3. ヘルスケア提供組織における看護の役割と責務をふまえて、対象への看護を実施できる。 4. ヘルスケア提供組織の中での連携のために必要な行動をとることができる。 5. ヘルスケア提供組織の中で連携をとりながら、対象への看護を実施できる。 6. 社会情勢やヘルスケア提供組織の現状を説明できる。 7. 社会情勢やヘルスケア提供組織の現状を踏まえて、看護実践における課題を識別することができる。 8. 看護実践の課題に対する看護の質向上に向けた改善策を示すことができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		領域ごとに、実習目標達成度、実習記録等を総合して評価する。 評価項目及び到達レベルは実習領域の評価表を参照すること。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
	5. 5. 8 (月) ～ 5. 8. 25 (金)		実習領域 基礎看護学、成人急性期看護学、成人慢性期看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護学、地元医療福祉コース（地元ナース） 実習場所 山形済生病院、山形県立中央病院、公立置賜総合病院、川西湖山病院、篠田総合病院、二本松会さくら町病院、山形県立こども医療療育センター、米沢市立病院、他 *実習内容や実習方法は、実習領域により異なる。						
教 科 書 参 考 図 書		実習に必要なものは、各自準備すること。							
履 修 上 の 注 意									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		実習内容や実習方法は、3年生を対象とした総合看護学実習Ⅰオリエンテーションで説明します。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）等において保健医療福祉チームの一員として看護過程を展開する科目であり、「高等教育段階の教育費負担軽減制度」の要件に定める実務経験のある教員が担当する科目としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		半田直子：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合看護学実習Ⅱ	看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子 教 授・遠藤 恵子 准教授・菊地 圭子 助 教・渡邊 礼子 助 教・前田のぞみ	必修	4	後期	1	非該当	否
授業概要	市町村や助産所等を実習場所として、地域における職種間連携や健康危機管理システムの実際を、実習を通して学び、将来、保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を果たすための基礎的能力を養う。							
一般目標	1. 市町村や助産所等と医療施設間における継続看護の実際を理解する。 2. 地域における保健医療福祉チームの職種間連携の実際と看護の役割を理解する。 3. 地域における健康危機管理システムの実際について理解する。 4. 社会情勢を踏まえて、地域における保健医療福祉チームの活動上の課題について考察する。							
到達目標	1. 市町村や助産所等と医療施設間における継続看護の内容と実施状況について説明できる。 2. 地域における保健医療福祉チームの職種間連携の内容と状況について説明できる。 3. 地域における保健医療福祉チームの職種間連携における看護の役割について説明できる。 4. 地域における健康危機管理システムの内容と実践状況について説明できる。 5. 社会情勢を踏まえた上で、地域における保健医療福祉チームの活動上の課題について考察し、課題解決について自己の考えを述べることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・実習記録、実習内容を総合して評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	【公衆衛生】 5. 10. 2 (月) ～ 5. 10. 6 (金) 【助産】 5. 9. 19 (火) ～ 5. 10. 13 (金)	・実習施設のオリエンテーション ・説明を受ける ・看護活動の観察 ・保健師または助産師と共に看護を実施する ・カンファレンス	実習方法 ・公衆衛生看護学選択者と助産学選択者に分かれて実習する。 ・説明を受ける、看護活動の観察、保健師または助産師と共に看護を実践することによって目標を達成する。 実習場所 市町村と助産所等 実習内容、実習方法の詳細は実習要項に提示する。			・これまで学んだすべてのことを復習して実習に臨むこと		菅原 桂 鈴木 今野 栗田 遠藤 菊地 渡邊 前田
教 科 書 参 考 図 書								
履 修 上 の 注 意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		本科目は、教員と実習指導者（看護師・保健師等）の指導の下、市町村及び助産所等において看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菅原：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室 17 hkono@yachts.ac.jp 栗田：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
研究方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明* 准教授・梶 理和子 准教授・今野 浩之 講 師・山田カオル 講 師・槌谷由美子 (*：科目責任者)	必修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		看護研究の目的、研究の過程の概要を教授する。 研究デザインによる研究方法の特徴について基礎的な事項を教授する。							
一般目標		・看護研究の基本を理解することができる。 ・文献検索方法が理解でき、実施できる。 ・研究デザインによる研究方法の特徴が理解できる。							
到達目標		・研究を行う意義を説明できる。 ・文献検討の目的と方法を説明でき、具体的方法としての医中誌 Web による検索ができる。 ・質問紙調査の原理と、質問紙作成上の留意点、既存の測定尺度を用いる場合の留意点を説明できる。 ・記述統計など基本的な分析方法について説明できる。 ・質的研究方法の特徴を量的研究との比較によって説明でき、研究方法を用いる場合の留意点を説明できる。 ・既存のデータを用いた帰納的分析の体験を通して、帰納的分析の特徴を説明できる。 ・事例研究や理論的研究の意義や研究方法について説明できる。 ・倫理的配慮や研究不正の概要を説明でき、研究結果の発表過程を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価方針：到達目標に対応した課題を設定する。 レポート課題（25%）、演習課題（25%）、定期試験（50%）であり、各講義内で提示する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外 学習など	担当	
1	5.11.22（水）2	研究とは・研究の過程	看護研究の位置づけ、意義、過程				レポート 課題	安保	
2	5.11.22（水）3	質的研究（1）	質的研究の特質					山田	
3	5.11.29（水）3	質的研究（2）	質的研究のデータ収集と分析					山田	
4	5.12. 6（水）3	理論的研究	理論的基盤をもとにした研究と意義					梶	
5	5.12.13（水）3	文献検討、倫理的配慮	文献検討の目的と方法、倫理的配慮					今野	
6	5.12.13（水）4	演習 文献検索の実際	医中誌 Web 検索の演習 情報処理室にて実施					図書館	
7	6. 1.10（水）3	質問紙調査（1）	質問紙調査の展開過程					槌谷	
8	6. 1.17（水）3	質問紙調査（2）	質問紙の作成の方法と考慮点					槌谷	
教 科 書 参 考 図 書		教科書 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step 第5版, 医学書院							
履 修 上 の 注 意		合理的配慮が必要な学生は初回講義までに申し出る事。 アカデミックリテラシー、統計学等の学習内容を一定程度踏まえた内容となる。上記科目の履修過程を自己評価の上で、必要に応じて自己学習することが望ましい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		情報には信頼性がついてまわります。研究法を学ぶことは、信頼できる情報を生み出す過程について学ぶことに通じます。講義を楽しみにしてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
研究方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明* 准教授・南雲美代子 准教授・梶 理和子 准教授・片桐 智子 准教授・半田 直子 講 師・槌谷由美子 (*：科目責任者)	必修	3	前期	2	非該当	可
授業概要		看護研究の目的、研究の過程の概要を教授する。 研究デザインによる研究方法の特徴について基礎的な事項を教授する。							
一般目標		・看護研究の基本を理解することができる。 ・文献検索方法が理解でき、実施できる。 ・研究デザインによる研究方法の特徴が理解できる。							
到達目標		・研究を行う意義を説明できる。 ・文献検討の目的と方法を説明でき、具体的方法としての医中誌 Web による検索ができる。 ・質問紙調査の原理と、質問紙作成上の留意点、既存の測定尺度を用いる場合の留意点を説明できる。 ・記述統計など基本的な分析方法について説明できる。 ・質的研究方法の特徴を量的研究との比較によって説明でき、研究方法を用いる場合の留意点を説明できる。 ・既存のデータを用いた帰納的分析の体験を通して、帰納的分析の特徴を説明できる。 ・実践例から測定を用いた研究の意義と特徴について説明できる。 ・事例研究や理論的研究の意義や研究方法について説明できる。 ・倫理的配慮や研究不正の概要を説明でき、研究結果の発表過程を説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		評価方針：到達目標に対応した課題を設定する。 レポート課題（25%）、演習課題（50%）、小テスト（25%）であり、各講義内で提示する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外 学習など	担当	
1	5. 4. 11（火）1	研究とは・研究の過程	看護研究の位置づけ、意義、過程					安保	
2	5. 4. 14（金）3	文献検討	文献検討の目的と方法					半田	
3	5. 4. 14（金）4	演習 文献検索の実際	医中誌 Web 検索の演習 情報処理室にて実施					図書館	
4	5. 4. 21（金）3	研究デザインの種類	研究デザインの種類と特徴					安保	
5	5. 4. 21（金）4	質的研究（1）	質的研究の特質					安保	
6	5. 4. 28（金）3	質的研究（2）	質的研究のデータ収集					安保	
7	5. 4. 28（金）4	質的研究（3）	質的データの分析と研究報告					安保	
8	5. 5. 12（金）3	事例研究	事例研究の進めかたとその意義					片桐	
9	5. 5. 12（金）4	実験研究と測定	測定を用いた研究の意義と研究例					南雲	
10	5. 5. 19（金）3	質問紙調査（1）	質問紙調査の展開過程					槌谷	
11	5. 5. 19（金）4	質問紙調査（2）	質問紙の作成の方法と考慮点					槌谷	
12	5. 5. 26（金）3	質問紙調査（3）	作成した質問紙を用いた分析					槌谷	
13	5. 5. 26（金）4	理論的研究	ジェンダー論、アイデンティティ論の探求と意義					梶	
14	5. 6. 2（金）3	倫理的配慮	研究における倫理の必要性、原則					安保	
15	5. 6. 2（金）4	研究発表方法、まとめ	研究発表の意義と方法、まとめ（小テスト）					安保	
教 科 書 参 考 図 書		教科書 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step 第5版, 医学書院							
履 修 上 の 注 意		合理的配慮が必要な学生は初回講義までに申し出る事。 統計学、生体機能学Ⅰ等の学習内容を一定程度踏まえた内容となる。上記科目の履修過程を自己評価の上で、必要に応じて自己学習することが望ましい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		情報には信頼性がついてまわります。研究法を学ぶことは、信頼できる情報を生み出す過程について学ぶことに通じます。講義を楽しみにしてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
研究方法論Ⅱ		看護学科 (専門科目)	教授・齋藤美華 (看護学科全教員)	必修	3	通年	2	非該当	否
授業概要		研究論文の精読をとし、研究論文の構成やルールを理解する。 学会や研修会に参加し、研究の実際を学ぶ。							
一般目標		論文の構成やルールを理解できる。 研究デザインの特徴について理解できる。 研究論文をガイドラインに沿ってクリティークすることができる。 自分の関心のある領域の研究論文を検索し、重要な文献を集め、それらの結果を概観することができる。 先行研究や現在の社会状況、動機等から、研究課題を探求できる。 研究課題に適した研究方法を選定し、研究計画を検討できる。							
到達目標		論文の構成や、論文作成時のルールを説明できる。 ガイドラインにそって精読した研究論文をクリティークし、論文の適切・不適切、長所と短所を説明できる。 二次文献を活用して、自分の関心のある領域の研究論文を系統的に検索できる。 関心のある課題の選定に有益な文献を集め、概観することができる。 先行研究や現在の社会状況、動機等から、研究課題を探求できる。 研究課題に適した研究方法を選定し、研究計画を検討できる。 学会や研修会に参加し、研究の社会的貢献の実際を説明できる。 学会や研修会、研究発表会に参加し、実際の研究やプレゼン技法を説明できる。 研究発表会を通じて、学士課程で行われる研究の特徴を記述することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価方針：到達目標に対応した課題を設定する。 評価方法：レポート3題（レポート①40%、レポート②50%、レポート③10%）で評価する。 評価基準：到達目標に応じて実施する。講義内で提示する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当		
1	5. 6. 16 (金) 3	ガイダンス	ガイダンス				齋藤		
2 ～ 6	5. 6. 23 (金) 3-4 5. 7. 14 (金) 3-4 5. 7. 21 (金) 3	クリティーク 研究論文の精読	(講義・演習) クリティークの方法を理解する。 課題論文を読解する。「クリティークガイド ライン」にそって、論文の構成やルール、 デザインによる特徴を理解する。				齋藤		
7 ～ 10	5. 7. 21 (金) 4 5. 7. 28 (金) 1-3	文献検索 文献検討	自分の関心領域の研究論文を検索し、必 要な文献を収集する (3 論文程度)。 収集した文献を概観し、自分の関心のある 課題の研究の意義や、研究方法の動向 をまとめる。			レポート①	齋藤		
11	5. 7. 28 (金) 4	研究計画書作成	講義				齋藤		
12 ～ 17	6 月～11 月	学会参加	近隣で行われる学会または研修会（最低 1 つ）に参加する。＊情報の詳細は後日 提示する。また、掲示やホームページ、 教員からの情報も積極的に活用すること			レポート②			
18 ～ 23	5. 12. 2 (土)	卒業研究発表会参加	看護学科卒業研究発表会に参加する。						
24 ～ 28	6 月～12 月	研究課題探求	文献検討、学会や研修会、卒業研究発表 会への参加、および教員の研究テーマ (表)を参考に、卒業研究を想定した研究 課題を探索する。必要時、各教員に相談 を得ながら行う。			レポート③ 取り組みたい研究テ ーマ・内容	齋藤 (全教員)		
29 ～ 30		研究課題の明確化 研究計画の検討	必要時、指導教員に相談を得ながら研究 課題を明確化し、目的、対象、調査内容 などを検討する。				卒研調整係 (全教員)		
教 科 書 参 考 図 書		参考書 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step 第5版, 医学書院 JJN スペシャル, 看護研究の進め方 論文の書き方, 医学書院							
履 修 上 の 注 意		自らスケジュール管理を行い、計画的に進めてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		卒業研究につながる科目です。ぜひ関心を持って主体的に取り組んでください。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
卒業研究	看護学科 (専門科目)	看護学科全教員	必修	4	通年	3	非該当	否
授業概要	これまでの講義や実習を通して見出した問題や課題について、調査・分析・考察等の研究過程を経て、何らかの結論を導き出す様々な研究手法を習得するとともに、問題解決能力を育成する。							
一般目標	1. 研究課題に沿った研究計画を立案する。 2. 研究計画に基づいて研究を実施する。 3. 論理的な思考に基づき、研究成果をまとめる。 4. 研究を通して問題解決能力を高める。							
到達目標	1. 自己の問題意識をもとに、文献検討を行い、研究課題を明確にできる。 2. 目的に沿った研究手法を選択し、研究計画を立案できる。 3. 研究計画に沿って研究を進め、結果を導き、結果を分析・考察できる。 4. 研究成果を発表できる。 5. 論文を作成できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	1. 論文 ・期日までに論文を完成させ、提出する。 ・論文の構成を理解し、執筆規定にそって執筆することができる。 ・科学的な論拠に沿った論旨の展開ができる。 ・自分の主張を論旨のとあったわかりやすい文章で表現できる。 2. 発表 ・定められた発表のルールに従って発表できる。 ・わかりやすく発表できる。 ・他の人の発表を理解しようとする態度をもつ。 ・プレゼンテーションの手法を習得する。 3. 学習状況 ・研究課題をこれまでの経験・先行研究・文献等から明確にできる。 ・課題を達成する適切な方法を検討することができる。 ・収集されたデータ等を適切な方法を用いて分析し、結果を導くことができる。 ・導かれた結果を、他の研究や自分の考えから適切に解釈・考察することができる。 ・図書館やインターネット等を利用して、適切な文献検索、情報収集ができる。 ・常に探究心をもち、積極的に研究に取り組むことができる。 ・倫理的な配慮を理解し、取り組むことができる。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	5.12. 1 (金) ～ 5.12. 2 (土)	論文クリティーク 研究計画書の作成 データ収集・分析 結果・考察の記述 論文題名提出 抄録提出 卒業研究発表会 論文執筆の完成 卒業研究論文提出 卒業研究論文集配布	自らの研究課題を明らかにするための 具体的な研究計画書を作成し提出する。 研究計画書を元に研究を進める。 研究内容を正確かつ的確に示すタイトルをつけ、抄録を作成して提出する。 わかりやすいプレゼン資料を作成し、発表をする。 科学的な論拠に沿って論旨を展開し、論文にまとめる。 論文を読んで学ぶ。			自らの研究課題に関連 する文献や論文等の収 集と精読		全員
教科書 参考図書	随時紹介します。							
履修上の注意	各研究指導教員から日程や内容の変更など必要時、連絡をします。 メールや掲示板を注意しておくこと。							
学生への メッセージ	研究指導教員のもとで、主体的に取り組んでください。通年科目ですので、時間配分を考えて進めていってください。							
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
終末期看護論		看護学科 (専門科目)	講 師・高橋 直美	選択	4	後期	1	非該当	可
授業概要		終末期にある人やその家族の特徴を踏まえ、多様な場所で療養する人々の QOL の維持向上を図るために看護が果たすべき役割を教授する。また、尊厳ある死に方とは何か、死を迎えた後の家族は何を求めているのかを考え、自己の死生観を深める機会とする。							
一般目標		1. 終末期看護の概念と特徴を理解する。 2. 療養場所別の終末期看護の現状と課題を理解する。 3. 自らの死生観を深める。							
到達目標		1. 終末期看護の概念が説明できる。 2. 終末期にある人とその家族の特徴を理解し、看護が果たすべき役割と課題が考察できる。 3. 終末期の倫理的課題について考察できる。 4. グリーフケアの対象を理解し、看護が担う役割が考察できる。 5. 緩和ケアの概念が説明できる。 6. 異なる療養場所によって看護が果たすべき役割と課題が考察できる。 7. 自らの死生観を深める姿勢を身につけることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・課題(80%)：授業毎のミニッツペーパーから評価する。 ・授業参加による学び(20%)：グループワーク等への参加状況から評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			授業外 学習など	担当	
1	5. 10. 24(火)2-4	・“死”を考える		・“死”とは何か			授 業 項 目 毎 に 指 示 す る	高橋	
2		・終末期の概念 ・終末期における倫理的問題		・終末期とは ・終末期における倫理的問題を考える				高橋	
3		・グリーフケア		・グリーフケアとは ・家族へのグリーフケア ・医療スタッフへのグリーフケア				高橋	
4	5. 10. 31(火)2-4	・緩和ケア		・緩和ケアとは ・終末期にある人への緩和ケアの実際 ・発達段階別にみる終末期看護				外部 講師	
5		・療養場所別にみる終末期看護① ー臨床ー		・入院中の患者・家族への終末期看護の 実際				外部 講師	
6		・療養場所別にみる終末期看護② ー在宅ー		・在宅療養者・家族への終末期看護の 実際				外部 講師	
7	5. 11. 7(火)3-4	・看取り前後の看護ケア		・看取り前後の身体変化 ・エンゼルケア				高橋	
8		・まとめ		・日本の死亡数/死因の年次推移 ・人々が望む人生の最終段階を過ごせる 社会に向けて				高橋	
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：随時授業で紹介							
履 修 上 の 注 意		これまでの講義や実習等で学んできたこと・体験してきたこと等を想起しながら、主体的に授業に参加してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		“死”とは何かを改めて考え、誰もが迎える人生の終焉に向け、看護が果たすべき役割を深く考察する機会にしましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		高橋：研究室 21 ntakahashi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
国際看護論	看護学科 (専門科目)	非常勤講師 金井 Pak 雅子	選択	4	後期	1	非該当	否
授業概要	異文化のなかでの看護実践におけるコミュニケーションの基本、価値観の相違、倫理などについて理解を深める。さらに国際協力における看護の役割について理解するとともに、先進国および途上国におけるヘルスケアの現状と課題について日本との比較ができる。							
一般目標	1. 世界各国の健康問題について理解できる。 2. 国際協力における看護の役割について理解できる。 3. 異文化への理解を深めることができる。							
到達目標	1. グローバルヘルスに関する国際機関の役割と機能が理解できる。 2. 米国、英国、カナダ、台湾、香港、シンガポールなどの医療提供システムについて理解できる。 3. 異文化コミュニケーションの基本が理解できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	毎回のリアクションペーパー (70%) 異文化コミュニケーションのプレゼンテーション (30%)							
授業計画%)								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	後日連絡	オリエンテーション、 「国際」について	国際とは何か、各自事前に「国際」について調べた内容を発表する。			毎回の授業後に、リアクションペーパーを提出する。異文化コミュニケーションのプレゼンの準備を行う。		金井 Pak 雅子
2		グローバルヘルスに関する国際機関	ICN, WHO, UNICEF, JICA, World Bank などの役割・機能について VTR 視聴、討議					
3		ICN の活動について	ICN の活動に関する講義を受け グローバルヘルスに関する討議をする					
4		米国、カナダ、英国のヘルスケアシステム	各国ヘルスケアシステムの特徴について講義を受け、日本との比較を討議する					
5		台湾、香港、シンガポールのヘルスケアシステム	各国ヘルスケアシステムの特徴について講義を受け、日本との比較を討議する					
6		EPA について	世界規模の看護労働市場について講義を受け、将来展望について討議する					
7		WHO の役割・機能	WHO の役割・機能について講義を受け グローバルな視点におけるヘルスケアについて討議する					
8		異文化コミュニケーション発表会	各自が調べた異文化コミュニケーションの発表を行い、peer Review を行う					
教科書 参 考 図 書	教科書はないが、参考文献などは講義の中で紹介する。							
履修上の注意	集中講義であり、欠席すると単位取得が困難となるので注意すること							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ								
e-mail・研究室 (連絡先)	金井 Pak 雅子：mkanaipak@kanto-gakuin. ac. jp							
連絡調整 担 当 教 員	遠藤和子：研究室 13 kaendo@yachts. ac. jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
英語論文読解		看護学科 (専門科目)	准教授・梶 理和子	選択	2	後期	1	非該当	否
授業概要		この授業では、研究（何らかの課題に対する考察）をおこなう際に、その考察の手掛かりとなる現代社会のさまざまな概念や思想を学ぶことを目的としています。学生には各自、興味ある課題にかかわる文献を検索し、その内容や自分の考えを紹介したうえで、クラスで意見交換をおこなってもらいます。その過程で、病気と社会（病気の誕生、多様化、位置づけ）、主体と生命（生命の価値、病気との共生）ジェンダー（パフォーマティヴな主体、多様化）といった概念にまつわる政治的、経済的、文化的状況に対する理解を深めていきます。							
一般目標		多様な概念や価値観は、さまざまな文化的状況のなかで構築される（変化する）という認識をもって、卒業研究等の研究課題を（再）評価する。研究を遂行するために収集すべき情報や知識を判断し、整理し、考察・分析をおこなう自分なりの視点を醸成する。							
到達目標		1. 論文の構造を説明できる。 2. さまざまな思想や概念にまつわる知識を学ぶ。 3. 自分なりの問題意識を持って研究（論文）を読解し、考察する。 4. インターネット等を活用し、関連する情報等を収集、整理、分類できる。 5. コミュニケーションを円滑に行う雰囲気作りを心がけ、演習に取り組む。							
成績評価方針 評価方法 および基準		講義内演習（文献等の読解・考察、ディスカッション等）(40) Minute paper（論文の構造、思想や概念等の理解度確認含む）(30) 課題探求（興味のある課題にかかわる文献検索、問題に対する考察）(30)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など			担当	
1	5. 11. 30（木）1	オリエンテーション	授業概要確認 教材視聴		シラバス確認 配布プリントの確認			梶	
2	5. 12. 7（木）1	論文の読み方	論文の形式と内容の理解		論文の構成確認、課題探求 （文献検索、課題考察）				
3	5. 12. 14（木）1	課題探求（演習）(1) 思想や概念の理解(1)	文献紹介・意見交換（演習） 病気と社会(1)		課題探求、思想や概念に関わ る情報の確認と考察				
4	5. 12. 21（木）1	課題探求（演習）(2) 思想や概念の理解(2)	文献紹介・意見交換（演習） 病気と社会(2)		課題探求、思想や概念に関わ る情報の確認と考察				
5	6. 1. 4（木）1	課題探求（演習）(3) 思想や概念の理解(3)	文献紹介・意見交換（演習） 主体と生命		課題探求、思想や概念に関わ る情報の確認と考察				
6	6. 1. 11（木）1	課題探求（演習）(4) 思想や概念の理解(4)	文献紹介・意見交換（演習） 主体とジェンダー		課題探求、思想や概念に関わ る情報の確認と考察				
7	6. 1. 18（木）1	課題探求（演習）(5) 思想や概念の理解(5)	文献紹介・意見交換（演習） パフォーマティヴィティ		課題探求、思想や概念に関わ る情報の確認と考察				
8	6. 1. 25（木）1	まとめ	授業で取り上げられた課 題、思想や概念の理解確認		論文構造の確認、知識を整理 分類し、活用できる形にする				
教 科 書 参 考 図 書		資料はプリントで配布します							
履 修 上 の 注 意		演習中心の講義ですので、積極的に参加してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		さまざまな概念や思想、問題に関心を持ちましょう。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		梶 理和子：研究室 25 rkazi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
欧文原著講読		看護学科 (専門科目)	准教授・梶 理和子	選択	4	後期	1	非該当	否
授業概要		この授業では、研究（何らかの課題に対する考察）をおこなう際に、その考察の手掛かりとなる現代社会のさまざまな概念や思想を学ぶことを目的としています。学生には各自、興味ある課題にかかわる文献を検索し、その内容や自分の考えを紹介したうえで、クラスで意見交換をおこなってもらいます。その過程で、TED Talks 等を用いて「病気」や「ジェンダー」といった概念にまつわる政治的、経済的、文化的状況に対する理解を深めていきます。							
一般目標		多様な概念や価値観は、さまざまな文化的状況のなかで構築される（変化する）という認識をもって、卒業研究等の研究課題を（再）評価する。研究を遂行するために収集すべき情報や知識を判断し、整理し、考察・分析をおこなう自分なりの視点を醸成する。							
到達目標		1. 論文の構造を説明できる。 2. さまざまな概念・思想にまつわる知識を学ぶ。 3. 自分なりの問題意識を持って研究（論文）を読解し、考察する。 4. インターネット等を活用し、関連する情報等を収集、整理、分類できる。 5. コミュニケーションを円滑に行う雰囲気作りを心がけ、演習に取り組む。							
成績評価方針 評価方法 および基準		講義内演習（研究等の読解・考察、ディスカッション等）（40） Minute paper（論文の構造、概念・思想等の理解度確認含む）（30） 課題探求（興味のある課題にかかわる文献検索、問題に対する考察）（30）							
授業計画									
回	日付		授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	後日連絡		オリエンテーション(1)	授業概要確認 教材視聴		シラバス確認		梶	
2			オリエンテーション(2)			配布プリントの確認			
3			論文の読み方	TED Talks (1) 論文形式、分析方法		関連情報の収集			
4			病気と社会(1)	TED Talks (2) 病気の誕生・多様化		情報に基づく意見構築			
5			病気と社会(2)	TED Talks (3) 病気の位置づけ		演習に基づく考察			
6			課題探求①	文献検索ほか		関連情報の収集			
7			主体と生命(1)	TED Talks (4) 生命の価値		情報に基づく意見構築			
8			主体と生命(2)	TED Talks (5) 病気との共生		演習に基づく考察			
9			課題探求②	文献検索ほか		関連情報の収集			
10			セックスとジェンダー(1)	TED Talks (6) フェミニズムとの関連		情報に基づく意見構築			
11			セックスとジェンダー(2)	TED Talks (7) パフォーマンス		演習に基づく考察			
12			課題探求③	文献検索ほか		関連情報の収集			
13			課題探求④	文献読解		文献読解・考察			
14			課題探求⑤	文献に基づく意見交換		思想・概念の総復習			
15			まとめ	問題（意識）の再考		卒業研究等への応用			
教 科 書 参 考 図 書			資料はプリントで配布します						
履 修 上 の 注 意			演習中心の講義ですので、積極的に参加してください。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ			さまざまな概念や思想、問題に関心を持ちましょう。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)			梶 理和子：研究室 25 rkazi@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
ジェネラリズム看護論		看護学科 (専門科目)	教 授・遠藤 和子 准教授・丹野 克子 講 師・山田カオル	選択	2	通年	1	非該当	可
授業概要		地域の保健医療水準の向上に貢献できる地元ナースとしての活動の基盤形成につながるように、人々の多様な健康問題及び看護へのニーズの現状を概観し、地方の小規模病院・診療所、高齢者施設等の場において、求められる看護について探求する							
一般目標		①「ジェネラリズム」とはどのようなことか理解できる ②地方に暮らす人々の健康問題と生活を見る視点について理解できる ③ジェネラリストとしての看護が期待される場とニーズについて理解できる ④外来や地方の小規模病院や診療所で求められるジェネラリストとしての看護活動の実際について知る ⑤地元住民が頼りにする看護師像について探求することができる							
到達目標		・ジェネラリズム看護について、用語の意味を説明できる ・地方に暮らす人々の健康問題と生活を見る視点について説明できる ・看護に期待されるジェネラリストとしての役割について説明できる ・その地方の強みと弱みを把握し、多様な健康問題をとらえ、地元住民の力を引き出し、医療福祉と連携するにはどのような方法がとられているか説明できる ・地元住民が頼りにする看護師像について自らの考えを説明できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：講義で提示される内容の理解と、自らの地域の情報収集、今後求められるジェネラリズム看護について自ら考えることを重視します。 方法：課題レポート 30%、テーマに対するディスカッションでの発言 20%、最終レポート 50% 基準：到達目標の内容が盛り込まれているかで評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など		担当
1	5. 6. 15 (木) 2	ジェネラリズム看護論とは	この講義の特徴と進め方 ジェネラリズムとは ジェネラリズム看護論の概観						遠藤和
2	5. 6. 22 (木) 1	地方に暮らす人々の健康問題と看護ニーズ	パネルディスカッション 「生活をもとに」 看護学、社会学、理学療法学、作業療法学、社会福祉学などを基盤とする専門家による、職種間の視点の類似と相違				地域包括ケアシステムについて調べておく		遠藤和 丹野 山田 スポット
3	5. 6. 22 (木) 2								
4	5. 6. 29 (木) 2		前回を受けて検討会 ・地方に暮らす人々の健康問題と生活を見る看護の視点 ・求められる看護の現状と課題					「生活をもとに」とはどのようなことか、自分の考えをまとめてくる	
5	5. 11. 15 (水) 4	看護に期待されているジェネラリストとしての活躍の場とニーズ	ディスカッション 「外来や地方の小規模病院や診療所で求められる看護活動の実際」 (専門性を持つナース、ジェネラリストナース、看護管理者など)				地域の地理的条件、風土、暮らし方などの情報収集をして臨む		遠藤和 山田 スポット
6	5. 11. 30 (木) 3								
7	5. 11. 30 (木) 4								
8	5. 12. 6 (水) 4	ジェネラリズム看護の展望	地元住民が頼りにする看護師像とは				文献、WEB などを活用し意見をまとめる		遠藤和
教 科 書 参 考 図 書		参考図書は、適宜紹介します。そのほか、自分で検索したものも活用してください。							
履 修 上 の 注 意		講義日程をよく確認して出席してください。 図書館の文献検索ガイダンスの受講を修了しておいてください。 議論に参加するには、日ごろから問題意識を持つこと、予習と自分の考えをまとめておくことが重要です。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		一部理学療法学の科目とリンクします。 自分の生活経験も反映させて、多様な方向から「生活すること」について考えを深めていきましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤和： 研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp							

（2）理学療法学科

専門科目（理学療法学科）

科目名	頁	科目名	頁
理学療法学概論	193	高齢期理学療法学	214
運動学Ⅰ	194	高齢期理学療法学特別講義	215
運動学Ⅱ	195	内科系理学療法学Ⅰ	216
運動学演習	196	内科系理学療法学Ⅱ	217
運動療法学	197	内科系理学療法学特別講義	218
理学療法管理運営論	198	理学療法技術学	219
理学療法検査技術学Ⅰ	199	物理療法学	220
理学療法検査技術学Ⅱ	200	義肢装具学	222
理学療法検査技術学演習	201	生活支援系理学療法学Ⅰ	223
理学療法評価学Ⅰ	202	生活支援系理学療法学Ⅱ	224
理学療法評価学Ⅱ	203	地域リハビリテーション学	225
生体計測学演習	204	地域理学療法学	226
筋骨格系理学療法学Ⅰ	205	理学療法研究法	227
筋骨格系理学療法学Ⅱ	206	理学療法研究法演習	228
筋骨格系理学療法学特別講義	207	理学療法卒業研究	229
神経系理学療法学Ⅰ	208	臨床実習Ⅰ	230
神経系理学療法学Ⅱ	209	臨床特論	231
神経系理学療法学特別講義	210	臨床実習Ⅱ	232
小児理学療法学Ⅰ	211	臨床実習Ⅲ	233
小児理学療法学Ⅱ	212	臨床実習Ⅳ	234
小児理学療法学特別講義	213	臨床実習Ⅴ	235

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法学概論		理学療法学科 (専門科目)	理学療法士教員	必修	1	前期	2	非該当	否
授業概要	理学療法士教員が分担して、下記のテーマで授業を行う。								
一般目標	理学療法の歴史や法的根拠、学問体系および業務内容、社会的役割などを認識し、理学療法士となる決意を明確にする。								
到達目標	理学療法に必要な知識と資質について説明できる。 理学療法学をいかに学べばよいか説明できる。 理学療法士の社会的役割を知る。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	成績評価は、各教員の担当時間数に応じた配点で、筆記試験またはレポート課題により行う。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外 学習など	担当				
1	5. 4. 14 (金) 4	理学療法とリハビリテーション	講義		加藤				
2	5. 4. 14 (金) 5	理学療法士のキャリア形成	将来のキャリア形成について紹介し、討論する。		加藤				
3	5. 4. 21 (金) 4	理学療法士養成校で学ぶこと	講義		鈴木(克)				
4	5. 4. 21 (金) 5	理学療法演習 (基本動作観察)	講義と演習		鈴木(克)				
5	5. 4. 27 (木) 3	理学療法の対象と理学療法士の職域	講義		丹野				
6	5. 5. 11 (木) 3	理学療法技術 (関節可動域練習) 体験	講義と演習		赤塚				
7	5. 5. 18 (木) 3	障がいのとらえ方と評価の流れ	講義と討論		鈴木(栄)				
8	5. 5. 25 (木) 3	理学療法と研究(理学療法を学ぶために)	講義		南澤				
9	5. 6. 1 (木) 3	理学療法を学ぶための図書館活用方法	情報処理教室で実習する。		図書館 担任				
10	5. 6. 8 (木) 3	理学療法に関連する法規と保険制度	講義 (演習)		渡部				
11	5. 6. 15 (木) 3	理学療法の組織と倫理	講義		室伏				
12	5. 6. 22 (木) 3	医療専門職と接遇	課題討論		永瀬				
13	5. 6. 29 (木) 3	施設見学における実習方法	オリエンテーションと施設見学での目標設定		鈴木 (栄)				
14	G1. 5. 7. 6 (木) 3-4 G2. 5. 7. 13 (木) 3-4	施設見学 施設見学報告会	病院の理学療法士に帯同し臨床場面を見学する。 見学内容を報告・発表し、共有する。		永瀬 鈴木 (栄) 工藤				
15	G3. 5. 7. 20 (木) 3-4 G4. 5. 7. 27 (木) 3-4			レポート 作成					
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：◎概説理学療法. 文光堂 ◎シンプル理学療法学シリーズ「理学療法入門テキスト」南江堂								
履 修 上 の 注 意	14-15 回目は 4 グループ(G1～G4)に分かれ、G1：7 月 6 日 3・4 限目、G2：7 月 13 日 3・4 限目、G3：7 月 20 日 3・4 限目、G4:7 月 27 日 3・4 限目、のいずれかの授業となります。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	将来の理学療法を担う諸君が理学療法と向かい合う第一歩であり、理学療法とは何かという問いに対する自身の答えを探す入り口です。								
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	鈴木克彦：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
運動学Ⅰ	理学・作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 教 授・加藤 浩 教 授・鈴木 克彦 准教授・仁藤 充洋 講 師・室伏 祐介	必修	1	後期	2	非該当	否
授業概要	人体にある様々な関節の構造やその機能・メカニズムについて教授する。 身体の基本的な動作を運動学・運動学的に解説する。							
一般目標	骨・関節・筋の形態、機能の面から、身体の運動の仕組みを理解できる。							
到達目標	上肢・下肢・体幹の関節運動およびその仕組みを説明できる。 主要な筋の起始、停止、走行、作用、神経支配を説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価は定期試験で判断します。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 25 (月) 5	運動学概説	身体運動学の捉え方と 時間・空間的表現				加藤	
2	5. 9. 27 (水) 5	運動器の構造と機能	関節分類、骨格筋構造、 運動方向、筋収縮				佐藤 仁藤	
3	5. 10. 2 (月) 5	肩複合体の運動学Ⅰ	肩関節複合体の構造と 運動・筋Ⅰ				佐藤 仁藤	
4	5. 10. 4 (水) 5	肩複合体の運動学Ⅱ	肩関節複合体の構造と 運動・筋Ⅱ				佐藤 仁藤	
5	5. 10. 11 (水) 5	肘関節・前腕の運動学	肘および前腕の構造と 運動・筋				佐藤 仁藤	
6	5. 10. 16 (月) 5	手関節・手指の運動学Ⅰ	手関節および手指の構 造と運動・筋Ⅰ				佐藤 仁藤	
7	5. 10. 18 (水) 5	手関節・手指の運動学Ⅱ	手関節および手指の構 造と運動・筋Ⅱ				佐藤 仁藤	
8	5. 10. 23 (月) 5	股関節の運動学Ⅰ	股関節の構造と運動・ 筋Ⅰ				室伏	
9	5. 10. 25 (水) 5	股関節の運動学Ⅱ	股関節の構造と運動・ 筋Ⅱ				室伏	
10	5. 10. 30 (月) 5	膝関節の運動学	膝関節の構造と運動・ 筋				室伏	
11	5. 11. 1 (水) 5	足関節・足部の運動学	足関節・足部の構造と 運動・筋				鈴木	
12	5. 11. 6 (月) 5	脊柱・体幹の運動学Ⅰ	脊柱の構造・運動				鈴木	
13	5. 11. 8 (水) 5	脊柱・体幹の運動学Ⅱ	胸郭の構造と換気の運 動学				鈴木	
14	5. 11. 13 (月) 5	姿勢と動作の捉え方	姿勢と動作の運動学的 表現				加藤	
15	5. 11. 15 (水) 5	歩行	歩行周期の分類				加藤	
教科書	教科書：エッセンシャル・キネシオロジー（第3版）. 南江堂, 2020 参考書：プロメテウス解剖学アトラス運動器系（第3版）. 医学書院, 2017 基礎運動学（第6版）. 医歯薬出版, 2020 必要に応じてプリントを配布します。							
履修上の注意								
学生へのメッセージ	理学療法、作業療法の基礎となる科目の一つです。筋の起始、停止、走行、作用、神経支配は正確にすばやく答えることができるよう地道に努力しましょう。							
e-mail・研究室（連絡先）	佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 仁藤：研究室 26 mnito@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
運動学Ⅱ		理学・作業療学科 (専門科目)	教 授・加藤 浩 教 授・佐藤 寿晃 准教授・鈴木 由美	必修	2	前期	2	非該当	否			
授業概要		・運動学Ⅰで学んだ身体機能解剖の知識を利用して、運動や動作の具体的な分析方法を教授する。 ・基本動作として寝返りや起き上がり等を、日常生活活動として更衣動作や食事動作等を分析する。グループワークによる直視および動作観察・分析を中心に講義・演習を展開する。										
一般目標		・身体機能解剖学と生体力学の知識を使用して、基本的な動作・活動を運動学的に記述し、考察する方法を理解する。										
到達目標		・運動や動作を観察し、運動学的用語を用いて表現することができる。 ・基本的な起居動作や身の回り動作の運動パターンと各関節の可動域、筋活動、重心の動きを関連付けて説明できる。										
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		成績は定期試験で判断します。										
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当				
1	5. 4. 14 (金) 1	姿勢と動作の捉え方	重力と身体重心の捉え方				解剖学、生理学、運動学をしっかりと復習しておくこと	加藤				
2	5. 4. 21 (金) 1		床反力の捉え方									
3	5. 4. 28 (金) 1		筋力（関節モーメント）の捉え方									
4	5. 5. 12 (金) 1	歩行動作分析（運動学分析）	正常歩行時における身体重心、関節可動域、筋活動の特徴									
5	5. 5. 19 (金) 1	歩行動作分析(運動力学分析)	正常歩行時における床反力、関節モーメント、関節パワーの特徴									
6	5. 5. 26 (金) 1	姿勢制御	逆応答現象、counter-weight、counter-activity、counter movement、tentacle activity									
7	5. 6. 2 (金) 1	起居動作の観察・分析	実習（グループワーク）									
8	5. 6. 16 (金) 1	歩行動作の観察・分析	実習（グループワーク）									
9	5. 6. 23 (金) 1	肩複合体	解剖学、生理学の知識を用いて身体運動の観察や分析に使用する具体的方法を講義、ビデオを用いて授業を展開します。					佐藤 鈴木				
10	5. 6. 30 (金) 1	肘と前腕										
11	5. 7. 7 (金) 1	手										
12	5. 7. 14 (金) 1	更衣、食事動作の観察・分析	更衣、食事動作の観察・分析のポイント									
13	5. 7. 21 (金) 1		実習（グループワーク）									
14	5. 7. 25 (火) 1											
15	5. 7. 28 (金) 1		観察・分析結果の発表									
教 科 参 考 図 書		教科書： エッセンシャル・キネシオロジー Paul Jackson Mansfield 著、弓岡光徳 訳（南江堂） 参考書： 筋骨格系のキネシオロジー Neumann、D. A 著 嶋田智明 訳（医歯薬出版） 必要に応じてプリントを配布します。										
履 修 上 の 注 意		実習（グループワーク）の授業の時は、動きやすく、動作観察が可能な服装で参加すること。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		動作の観察・分析は障がい構造を把握する上で、欠かすことのできない重要な評価手段です。 普段の生活においても運動学的に観察・分析する思考パターンを身につけて下さい。										
e-mail・研究室 (連 絡 先)		加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp										

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
運動学演習	理学療法学科 (専門科目)	教 授・加藤 浩 准教授・南澤 忠儀 講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介 助 教・鈴木栄三郎	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	運動学に基づく定量的な評価方法を少人数のグループ実習を通して教授する。健常者を対象として、運動力学、筋電図学を加えて運動を解析する。具体的な実施方法を示すとともに、結果の解釈や評価方法の意義と限界についても解説する。							
一般目標	臨床に用いられている定量的な評価手法を理解し、結果に対して考察することができる。							
到達目標	1) 姿勢の基本的な評価と機器を用いた筋力・バランス機能の評価方法を説明し、実施することができる。 2) 歩行の速度因子の評価方法を説明し、実施することができる。 3) 筋電図や三次元動作解析装置、床反力計を用いた動作分析の基本的な評価方法を説明することができる。 4) データの基本的な解析、作図を、表計算ソフトを用いて実施することができる。 5) 測定結果をまとめ、考察を加えて発表することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	成績評価はプレゼンテーション(40%)と課題レポート(60%)で行います。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 25 (月) 1	定量的評価方法とプレゼンテーション	臨床や研究に用いられている運動学的、運動力学的评价方法を紹介し、レポート、レジュメ、スライド作成など、プレゼンテーション技術のポイントについて説明します。				加藤	
2	5. 9. 25 (月) 2	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価 (1)	グループ実習Ⅰ：グループに分かれて以下の項目を実習する。 1) 姿勢の評価、身体重心位置の推定 2) 筋力の定量的評価法 3) 筋電図による動作分析			各グループで測定結果をまとめ、レポート、レジュメを作成する。	加藤 赤塚 永瀬	
3	5. 9. 25 (月) 3							
4	5. 10. 2 (月) 3							
5	5. 10. 2 (月) 4	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価 (2)						
6	5. 10. 16 (月) 3	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価 (3)	グループ実習Ⅱ：グループに分かれて以下の項目を実習する。 4) 三次元、床反力による動作解析 5) バランス評価(重心動揺計) 6) 速度因子の測定と解析			各グループで測定結果をまとめ、レポート、レジュメを作成する。	南澤 室伏 鈴木(栄)	
7	5. 10. 16 (月) 4							
8	5. 10. 23 (月) 3	動作やバランスの定量的評価 (1)	グループ実習Ⅱ：グループに分かれて以下の項目を実習する。 4) 三次元、床反力による動作解析 5) バランス評価(重心動揺計) 6) 速度因子の測定と解析			各グループで測定結果をまとめ、レポート、レジュメを作成する。	南澤 室伏 鈴木(栄)	
9	5. 10. 23 (月) 4	動作やバランスの定量的評価 (2)						
10	5. 10. 30 (月) 3	動作やバランスの定量的評価 (3)						
11	5. 10. 30 (月) 4							
12	5. 11. 6 (月) 3	動作やバランスの定量的評価 (3)	測定結果の発表を行い、教員を交えて討議します。				全員	
13	5. 11. 6 (月) 4							
14	5. 11. 13 (月) 3	課題実習発表会						
15	5. 11. 13 (月) 4							
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：弓岡光徳，他(監訳)：エッセンシャル・キネシオロジー(南江堂)							
履 修 上 の 注 意	3グループに分かれて実習を行うので、各実習課題に合った服装で出席すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	臨床によく用いられている定量的な評価方法を学ぶとともに運動学への理解を深めて下さい。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木(栄)：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
運動療法学	理学療法学科 (専門科目)	講師・永瀬 外希子	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要	理学療法における治療手段の主となる運動療法に関する講義の一つです。本講義では基本的な運動療法の基礎と実践に関する講義と実技を行います。							
一般目標	・運動療法の基礎を理解し説明できること ・基本的な運動療法の実践方法を修得すること							
到達目標	運動療法の基礎知識、基本的運動療法手段およびその適応と禁忌などを説明できる。 基本的運動療法手技を選択し、適切に実施できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実技試験(50%)：筋力増強運動、ROM 運動、ストレッチングを適切に実施できるか評価する。 筆記試験(50%)：運動療法の基礎知識、基本的運動療法手段の適応と禁忌などを理解しているか評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 9. 29 (金) 3	運動療法総論	運動療法の適応と禁忌			・教科書の各章 最後にある「ま とめ」の復習が 必要です。 ・配布資料の内 容に関する自主 練 習 が 必 要 で す。		永瀬
2	5. 10. 6 (金) 3	筋機能と運動療法	・筋力増強の理論などに関する 講義 ・筋力増強運動の実技					
3	5. 10. 6 (金) 4	筋機能と運動療法						
4	5. 10. 13 (金) 3	関節可動性と運動療法	・関節可動性とその制限因子 ・関節可動性障害に対する運動 療法の講義と実技					
5	5. 10. 13 (金) 4	関節可動性と運動療法						
6	5. 10. 16 (月) 1	ストレッチング	・ストレッチングの適応、 注意事項に関する講義 ・ストレッチングの実技					
7	5. 10. 16 (月) 2	ストレッチング						
8	5. 10. 27 (金) 3	バランス・協調性	・バランスや協調運動障害に対す る講義と実技 ・運動時の呼吸・循環・代謝の特 徴					
9	5. 10. 27 (金) 4	呼吸・循環・代謝						
10	5. 11. 10 (金) 3	中枢・末梢神経機能	・中枢・末梢神経機能の運動療法 の基礎 ・めまいに対する運動療法 ・フレイルに対する評価と実技					
11	5. 11. 10 (金) 4	前庭機能・加齢と運動療法						
12	5. 11. 17 (金) 3	基本動作と運動療法	・基本動作の基礎や動作観察の ポイントなどに関する講義 ・起居、起立動作練習の実技 ・運動学習の基本					
13	5. 11. 17 (金) 4	運動学習						
14	5. 11. 24 (金) 3	運動療法技術の確認	筋力増強運動、ROM 運動、ストレ ッチングに関する実技の習得レ ベルの確認			試験中に指導を 要した項目の再 学 習 が 必 要 で す。		
15	5. 11. 24 (金) 4							
教 科 書 参 考 図 書	教 科 書：理学療法学テキスト「運動療法学」(MEDICALVIEW、対馬栄輝編集) 参考図書：最新 運動療法大全：“基礎と実践”&“エビデンス情報”(ガイアブックス) 運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版(文光堂、市橋則明編集)							
履 修 上 の 注 意	・運動のしやすい服装を身につけて臨んでください。 ・配付資料を整理するためのファイルを用意することが望ましいです。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	運動療法の原理を理解するためには解剖学・生理学・運動学の知識が重要です。 これから学習するすべての疾患別理学療法学のベースとなる授業です。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	永瀬外希子：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法管理運営論		理学療法学科 (専門科目)	非常勤講師・渡邊 好孝 教授・鈴木 克彦 講師・赤塚 清矢 講師・永瀬外希子 講師・室伏 祐介 教・鈴木栄三郎 教・工藤 大輔	必修	4	後期	2	非該当	否
授業概要		理学療法士として社会の一員として働く上で必要な管理運営（マネジメント）の考え方を指導する。学習者の人生に役立つ「学びとは」、価値創造、目的志向、目標の設定等を論じ「仕事とは何か」指導する。仕事とは何かを論じ、学生自身の今後の人生に崇高な目的・目標を掲げられるよう指導する。DX 時代（IoT、AI 等）の進化と社会変化に対応し、役割・立場を理解して社会課題の解決に向けた行動できるように指導する。 理学療法士として過ごす人生での幅広いキャリア形成を学ぶ。							
一般目標		理学療法士の仕事を通して、経営資源・社会との調和・社員重視・顧客本位・独自能力を高め続けるために如何にするか、講義・演習を通して理学療法士の経営資源を鑑みて自己表現できることを目的とする。「健康」で 70 歳まで働き、人生 100 年をスマートに生きるために何をすべきか、近未来の共生社会を広い視野で創造し実践する心と力を養う。人間の欲求と願望、確認・承認・教育を理解する。							
到達目標		認知領域 働く思考手順を理解し、仕事・業務・作業の組み立てができるようになる。 情意領域 他職種の働きを VTR にて観賞し、そこからの学びを通してディスカッションし“仕事の原点”（仕事の志、到達したい夢）を理解する。自らの仕事の大原点を確認し他者に表現できるようになる。 精神運動領域 働くことから創出される価値をセルフアセスメントし客観的に組織と自身の仕事を評価できるようになる。 ＊生きることの意味、健康の意味、予防の意味を理解し未来向き志向を養う。 ＊経営資源である「人」の管理の、目的・目標を理解し論じられるようになる。 ＊「深い人間理解とそれに基づく愛」によって、人生・仕事・愛・幸せを論じられるようになる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		課題レポート：100%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1 ～ 9	5.10.10（火）3-5 5.10.17（火）3-5 5.10.24（火）3-5	・管理運営（マネジメント）で重視する考え方。 ・予防（管理）は何のために必要なのかを理解する ・提供価値・顧客認識・競争認識・経営資源認識。 ・仕事のリーダーシップと社会的責任。人材育成。 ・顧客市場の理解と経営資源の理解 ・Vision、Mission の考え方 ・リスク ・PDCA OODA PREP ・報告・連絡・相談	・理学療法士が目指す思想的な姿に照らして、今後予想される環境変化からどのように現在および将来に向けた問題と課題に取り組むかを知る。 ・経営（未来創造）プランニングの立案の考え方を知る。 ・人を育てる、人材・人財育成 共創社会 ・マーケティング 1.0-4.0 を学び、必要・望む“モノ・コト”を知る。 ・目的・目標・戦略・戦術を知る。 ・経営資源管理の意味を知る。 ・リスクの考え方を知る。PDCA OODA ・組織プロフィール知る。 ・経営品質の向上の意味を知る。 ・知識・技術以上に身に付けなければならない社会人マナー ・人の習慣。行動の起点。 ・PDCA OODA				推薦図書 ・ドラッグーに関する図書 ・哲学と宗教全史 出口治明 ・「原因」と「結果」の法則（ジェームス・アレン） ・七つの習慣（ステイブーン・R・コヴィー） ・「すぐ決まる組織」のつくり方 OODA マネジメント 入江仁之 ・ブルーオーシャン戦略 関連書籍 ・コトラーのマーケティング戦略 4.0	渡邊	
10	5.10.30（月）3	・理学療法の倫理と教育	コンプライアンス・法令違反・ハラスメント・医療広告ガイドライン・利害衝突・コンフリクトマネジメント					鈴木（克）	
11	5.11.14（火）3		理学療法教育の歴史と内容					室伏	
12	5.11. 7（火）3		理学療法士国家試験の出題基準					永瀬	
13	5. 9.26（火）3		診療参加型臨床実習・臨床実習前後の評価					工藤	
14	5.10. 3（火）3		臨床教育の方法・生涯学習制度					赤塚	
15	5.11.28（火）3							鈴木（栄）	
教 科 書 参 考 図 書		指定なし。 講義・演習に必要な資料は配布する。							
履 修 上 の 注 意		講義や演習での問いかけに対して、自らの考えや感じることを積極的に対話していただきたい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		「仕事」「マネジメント」「習慣」「政治や経済と理学療法士の関り」などの意味を理解され、皆さんの今後の人生に役立てて欲しい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		赤塚清矢:研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 渡邊好孝:松田病院 w.yoshitaka1006@gmail.com							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法検査技術学Ⅰ		理学療法学科 (専門科目)	教 授・鈴木 克彦 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要		理学療法の評価および治療の基礎である機能解剖学と触診技術を、実技をとおして教授する。							
一般目標		運動器の機能解剖学的知識を習得し、その触診と形態測定を正確に実施できるようになる。							
到達目標		理学療法に必要な、主要な骨・関節・筋・神経の解剖学について説明できる。 理学療法に必要な、主要な骨・関節・筋・神経を触診できる。 四肢長および周径測定の目的を説明し、計測できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実技試験：主要な骨・関節・筋・神経の触診および形態計測の技術の習得度を評価する（60％） 筆記試験：触診と形態計測の基礎となる機能解剖学の知識の習得度を評価する。（40％）							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5.11.22（水）5	総論・肩関節	各部位について、下記の事項ができるように実技指導を行う。 ○機能解剖学的特徴を説明できる ○骨・関節・靱帯を触診できる ○筋・腱を触診できる ○表在の神経と血管を触診できる ○代表的な特殊テストを実施できる			解剖学の予習・復習が必要		鈴木	
2	5.11.27（月）3	肩関節							
3	5.11.27（月）4	上腕・肘関節							
4	5.11.29（水）3	前腕							
5	5.11.29（水）4	手関節・手指							
6	5.12. 6（水）5	頸部							
7	5.12.13（水）5	体幹						室伏	
8	5.12.14（木）1	骨盤・股関節							
9	5.12.14（木）2	大腿部							
10	5.12.21（木）1	膝関節							
11	5.12.21（木）2	下腿部							
12	6. 1. 4（木）1	足関節・足部							
13	6. 1. 4（木）2	身体計測①（総論）	教科書および参考資料を用いて、四肢・体幹の肢長および周径について学習する			四肢・体幹の主要な骨マーカー箇所および触診技術を復習しておくこと		永瀬	
14	6. 1.11（木）1	身体計測②（肢長）	四肢・体幹の肢長を計測する						
15	6. 1.11（木）2	身体計測③（周径）	周径を計測する						
教 科 書 参 考 図 書		教科書：奈良勲 監訳：触診解剖学アトラス（医学書院） 松澤正 著：理学療法評価学（金原出版株式会社） 参考書：林典雄 著：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 下肢（メジカルビュー社）							
履 修 上 の 注 意		実技ができる服装で出席すること。 実技実習における注意事項（授業で説明する）を遵守すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		運動器の触診と形態測定の技術は理学療法の基本中の基本です。知識学習のみならず、実際に行えることが目標です。予習・復習は必須です。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		鈴 木：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 永 瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室 伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生	
理学療法検査技術学Ⅱ		理学療法学科 (専門科目)	講 師・赤塚 清矢 教 授・鈴木 克彦 講 師・室伏 祐介 講 師・永瀬外希子 助 教・鈴木栄三郎	必修	2	前期	1	非該当	否	
授業概要	理学療法評価に欠かせない、関節可動域（ROM）測定、徒手筋力検査法（MMT）、筋長検査の意義や手技を学び習得する。									
一般目標	・健康者を対象にして、ROM測定、筋長検査を実施することができる。 ・ROM測定結果から、問題点やその原因を考察することができる。 ・MMTに必要なオリエンテーション、適切な肢位選択、正確な実施技術、適切な評価判定を実施できる。									
到達目標	・ROM測定を的確に実施することができる。 ・MMTの適切なオリエンテーションと迅速かつ正確な検査を実施することができる。 ・二関節筋の筋長検査を的確に実施し、判定することができる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験：50% 実技試験：50%									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当		
1	5. 4. 12（水）3	ROM①（総論）	関節可動域表示ならびに測定法の講義と実技を行う。			解剖学の復習をすること。		赤塚 鈴木 (栄)		
2	5. 4. 19（水）3	ROM②上肢 (肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指)								
3	5. 4. 19（水）4									
4	5. 4. 26（水）3									
5	5. 4. 26（水）4	ROM③下肢・体幹 (股関節、膝関節、足関節、頸部、体幹)								
6	5. 5. 10（水）3									
7	5. 5. 10（水）4									
8	5. 5. 17（水）3	・総論 ・股関節 ・膝関節 ・足関節、足部 ・体幹	・MMT オリエンテーション方法 ・体位の選択と具体的方法 ・適切な固定方法と代償動作 ・テスト結果の正確な段階づけ ・検査方法が困難な場合の別法			実技練習を反復すること。		室伏		
9	5. 5. 17（水）4									
10	5. 5. 24（水）3									
11	5. 5. 24（水）4									
12	5. 5. 31（水）3							肩関節・肩甲帯	鈴木 (克)	
13	5. 5. 31（水）4							肘関節・前腕・手関節		
14	5. 6. 7（水）3							手指・頸部		
15	5. 6. 7（水）4	筋長検査	下肢の短縮筋の判定方法に関する講義と下肢の二関節筋の筋長検査法を実習する。			二関節筋の起始・停止と作用を復習しておくこと。		永瀬		
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：「ROM測定法 臨床での測定精度を高める！」（メジカルビュー社、齋藤慶一郎著） 「新・徒手筋力検査法」（協同医書出版、津山直一・中村耕三訳） 「理学療法評価学」（金原出版株式会社、松澤正著） 参考図書：「標準理学療法学 理学療法評価学」（医学書院、内山靖編集）								
履 修 上 の 注 意		・ROM：実技が可能な服装で参加すること。 ・MMT・筋長検査：筋の触診と作用を復習し、実技ができる服装で参加すること。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		ROM測定、MMT、筋長検査は、理学療法士が用いる重要な検査の一つです。 知識学習のみならず、練習を繰り返して行い、技能を高める必要があります。								
e-mail・研究室 (連絡先)		赤塚：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木（克）：研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 室伏：研究室40 ymurofushia@yachts.ac.jp 永瀬：研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 鈴木（栄）：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
理学療法検査技術学演習		理学療法学科 (専門科目)	講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介 助 教・鈴木栄三郎	必修	2	後期	1	非該当	否			
授業概要	臨床的状況で適切に検査を実施できるようになるために、基本的な理学療法検査技術を用いた臨床的な展開方法を教授する。											
一般目標	臨床的状況において、基本的な理学療法検査技術を適切に実施することができる。											
到達目標	・対象者の安全に配慮ができ、適切な態度や言葉遣いで接することができる。 ・臨床的な状況に応じて、適切な検査項目を選択し、その検査を適切に実施することができる。											
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実技演習の習得度を評価する (100%)											
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習等		担当					
1	5. 9. 27 (水) 3	理学療法検査技術の臨床的展開方法と ROM-T の実際	オリエンテーション 基本的な理学療法検査技術の臨床的な展開方法と ROM-T の実施方法について講義・演習する。				赤塚					
2	5. 9. 27 (水) 4	医療面接・バイタルサイン計測の実際	医療面接における基本的な態度と臨床におけるバイタルサイン計測の実施方法を講義・演習する。				鈴木 (栄)					
3	5. 10. 4 (水) 3	MMT の実際	臨床的状況における MMT の実施方法について講義・演習する。				室伏					
4	5. 10. 4 (水) 4	肢長、周計の実際	臨床的状況における肢長、周計の実施方法について講義・演習する。				永瀬					
5	5. 10. 11 (水) 3	実技演習①	臨床的状況に応じて、バイタルサイン計測、ROM-T、MMT、肢長と周計の計測が適切に実施できる技術を習得するための演習を行う。		技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。		赤塚 永瀬 室伏 鈴木 (栄)					
6	5. 10. 11 (水) 4											
7	5. 10. 18 (水) 3	実技演習②										
8	5. 10. 18 (水) 4											
9	5. 10. 25 (水) 3	実技演習③										
10	5. 10. 25 (水) 4											
11	5. 11. 1 (水) 3	実技演習④										
12	5. 11. 1 (水) 4											
13	5. 11. 8 (水) 3	理学療法検査技術の確認	実技演習の習得度を評価する。		習得度が不十分な技術についての再学習が望まれる。							
14	5. 11. 8 (水) 4											
15	5. 11. 8 (水) 5											
教 参 考 図 書	参考図書：理学療法評価学 (金原出版株式会社、松澤正著) 新・徒手筋力検査法 (協同医書出版、津山直一・中村耕三訳) ROM 測定法 臨床での測定精度を高める！ (メジカルビュー社、齋藤慶一郎著)											
履 修 上 の 注 意	理学療法検査技術学Ⅰ・Ⅱの内容を復習して授業に臨むこと。 実技演習が中心ですので実技が可能な服装で参加して下さい。											
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	臨床場面を想定した機会を活かし、適度な緊張感をもって演習に取り組む必要があります。											
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	赤塚 清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬外希子：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏 祐介：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp											

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法評価学Ⅰ	理学療法学科 (専門科目)	准教授・南澤 忠儀 講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子 助 教・鈴木栄三郎 助 教・工藤 大輔	必修	2	前期	2	非該当	否
授業概要	中枢神経系に関連する各種検査測定について学習する。							
一般目標	１．各種検査の意義を説明できる。 ２．各種検査を実施できる。							
到達目標	各種検査測定方法を説明および実施できる。また、それらの結果を適切に記録できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験によって評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 4. 10 (月) 4	神経学的検査の概論	神経学的検査の概要、目的、および手順について学習する					南澤
2	5. 4. 17 (月) 4	バイタルサイン	リスク管理として基本的なバイタルサインについて学習する					鈴木 (栄)
3	5. 4. 24 (月) 4	反射の診かた	反射（腱反射、病的反射、表在反射）の機序と検査の意義、目的、手順を学習し、疾患の病態を理解する					南澤
4	5. 5. 1 (月) 4	感覚の診かた	表在感覚 深部感覚 複合感覚					永瀬
5	5. 5. 8 (月) 4	脳神経検査	脳神経検査の内容、手順および演習					鈴木 (栄)
6	5. 5. 15 (月) 4	協調性評価	四肢体幹の運動失調検査					赤塚
7	5. 5. 22 (月) 4	錐体外路疾患の診かた	錐体路徴候パーキンソン病、パーキンソン症候群を伴う関連疾患、不随意運動					南澤
8	5. 5. 29 (月) 4	疼痛評価						南澤
9	5. 6. 5 (月) 4	筋緊張検査						南澤
10	5. 6. 12 (月) 4	片麻痺機能検査	Brunnstrom 法					永瀬
11	5. 6. 19 (月) 4		上田式 12 段階片麻痺機能検査					
12	5. 6. 26 (月) 4	バランス評価	バランス障害について理解し、その検査法および評価法を学習する					工藤
13	5. 7. 3 (月) 4	高次脳機能検査	講義と演習により、理学療法士が知っておくべき失語、失行、失認および認知機能の検査の意義、目的、方法を学ぶ。					南澤
14	5. 7. 10 (月) 4	包括的演習						南澤
15	5. 7. 24 (月) 4							
教科書 参考図書	教科書：病気がみえる 脳・神経 vol. 7. メディックメディア 理学療法評価学（改訂第 5 版）松澤正 江口勝彦（著） 金原出版 参考図書：ベッドサイドの神経の診かた（改訂 17 版） 田崎義昭 斎藤佳雄（著）坂井文彦（改）南山堂							
履 修 上 の 注 意	実技が可能な服装で参加すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ								
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 工藤：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 鈴木(栄)：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法評価学Ⅱ	理学療法学科 (専門科目)	准教授・南澤 忠儀 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	理学療法を実施するための情報収集，評価結果の統合と解釈，問題点の抽出，プログラム立案，効果判定の一連の手順について，論理的思考を基にした臨床推論能力を身につける為の講義を行なう．							
一般目標	理学療法対象者に関する情報収集，問題点の分析，解決方法のためのプログラム立案ができる．							
到達目標	症例に即した評価項目の選択と評価結果の解釈，問題点の抽出，目標設定，治療プログラム作成までの過程を，障害構造モデルを用いながら実践する事ができる．							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	課題レポート 30%、定期試験結果 70%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 5.31 (水) 1-2	理学療法評価の目的	理学療法評価の目的について学ぶ．					南澤
2		障害構造の分析法	障害構造モデルを用いた理学療法評価過程を学ぶ．					
3	5. 6. 7 (水) 1-2	理学療法評価方法と情報収集	理学療法実施に必要な評価項目の選択方法とその評価の意義を学ぶ．					
4		統合と解釈，問題点の抽出，目標設定，プログラムの立案方法	理学療法評価から得られた情報を基に統合と解釈，プログラム立案までの学習を行なう．					
5	5. 6.14 (水) 1-2	Paper patient による臨床推論	急性期，回復期，外来，在宅などの場面を想定して，事例を通して臨床推論を学ぶ．					
6								
7	5. 6.21 (水) 1-2	診療記録・ケースレポートの作成方法	症例報告書作成法および診療記録法について学ぶ．					
8								
9	5. 6.28 (水) 1-2	歩行分析による理学療法評価①	・身体機能障がいによって引き起こされる異常歩行のメカニズムを学ぶ ・体幹・下肢関節ごとの異常歩行とそれを引き起こす身体機能障がいに基づき、必要な理学療法評価を学ぶ					
10								
11	5. 7. 5 (水) 1-2	歩行分析による理学療法評価②						
12								
13	5. 7.12 (水) 1-2	理学療法評価の演習	V T R動作をみて問題点を挙げ，理学療法プログラムを立案する．					
14								
15	5. 7.19 (水) 2							
教 科 書 参 考 図 書	参考図書 1. 臨床判断学入門 内山靖 小林武 前田眞治 (著) 協同医書出版社 2. エビデンスに基づく理学療法 内山靖, 医歯薬出版 3. ペリー 歩行分析 武田功 (監訳), 医歯薬出版							
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	学生同士や教員とのディスカッションを通じて臨床思考過程のトレーニングを積んで下さい．							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体計測学演習		理学療法学科 (専門科目)	教 授・加藤 浩 准教授・南澤 忠儀 講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介 助 教・鈴木栄三郎 助 教・工藤 大輔	必修	3	後期	1	非該当	否
授業概要		筋電図、三次元動作解析装置、床反力計、重心動揺計、筋トルク測定機器、超音波測定装置等を用いた評価方法とその意義について学習する。グループワークを通して、テーマの選択から実際の計測、データ解析、プレゼンテーションまでを経験する。							
一般目標		基本的な実験計画の立案と実験方法を理解し、実施することができる。							
到達目標		1) 筋電図、3次元動作解析、床反力、関節モーメントの基礎知識を理解できる。 2) 機器を使用した実験を教員の指導のもとで実践することができる。 3) 実験結果について、基本的な統計手法を用いて、関連性の検討や比較を行うことができる。 4) 実験の概略ならびに得られた結果を、文書や口頭にて報告することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		成績評価は第1～7回までの学習課題は課題レポート（50%）で行います。 8～15回までの学習課題は、スライドを用いたプレゼンテーション(50%)で行います。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	6. 1. 5 (金) 1-3	オリエンテーション及び 表面筋電図の基礎と応用	オリエンテーション及び、表面筋電図の 基本的な知識と技術を学ぶ。					加藤	
2									
3									
4	6. 1. 5 (金) 4-5	経頭蓋磁気刺激法による 脳機能計測	経頭蓋磁気刺激法による脳機能計測の 基本的な知識と技術を学ぶ。					工藤	
5									
6	6. 1. 9 (火) 3-4	3次元動作解析と関節モ ーメント	3次元動作解析と関節モーメントに関す る基本的な知識と技術を学ぶ。(講義と 実習)					南澤	
7									
8	6. 1. 10 (水) 2-5	等速性筋力測定 徒手筋力計 超音波検査 重心動揺計 パフォーマンステスト	グループワーク 筋機能やバランス機能に関連する各種 計測を実施し、全員の測定結果を基に各 項目間の関連性などを検討する。				次回のた めにデー タを整 理する	赤塚 室伏 永瀬 鈴木栄	
9									
10									
11									
12	6. 1. 17 (水) 3-4	発表テーマ検討 データ解析	グループワーク 前回計測したデータを用い、グループの テーマを決定し、データ解析を行う。				次回のた めにデー タをス ライド を作成 する		
13									
14	6. 1. 24 (水) 3-4	グループワーク発表会	実験の概略ならびに得られた結果を、ス ライドを用いたプレゼンテーションに て発表する。						
15									
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：計測法入門－計り方・計る意味（協同医書出版） 月城慶一、他訳：観察による歩行分析（医学書院） リハビリテーションのための臨床神経生理学（中外医学社）							
履 修 上 の 注 意		種々の機器を用いた評価・研究法に関する講義と実習を行うので、実習可能な服装で臨むこと。 発表会におけるテーマに関しては各グループで検討し、決定する。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		機器を用いた実習を通して運動の理解を深めるとともに卒業研究や、卒後の臨床研究に役立つ 知識や技術を学ぶことを目標にします。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木(栄)：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp 工藤：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
筋骨格系理学療法学Ⅰ		理学療法学科 (専門科目)	講 師・室伏 祐介 教 授・鈴木 克彦 教 授・加藤 浩 教 授・村 成幸	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		理学療法士が臨床場面で触れることの多い股・膝・肩関節疾患を取り上げ、これらの疾患を有する症例や術後患者に対する理学療法評価と治療に関して講義および実習を通して教授する。リスク管理や理学療法治療・指導の根拠となるバイオメカニクスに関しても説明を加える。							
一般目標		変形性関節症や靱帯・半月板損傷、肩関節疾患の障がい像を把握し、各疾患症例に対する理学療法評価と基本的な治療、指導方法について理解する。							
到達目標		1) 肩・股・膝関節疾患の病態ならびに障がい像を説明できる。 2) 肩・股・膝関節疾患に対する必要な評価項目と、理学療法の進め方を説明できる。 3) 疼痛を有する患者への基本的な触れ方や関節の動かし方を、健常者を対象に実施・説明することができる。 4) 機能障がいに対する問題点を列挙し、必要となる理学療法推論を説明することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		1-4) 定期試験							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1	5.12. 1 (金) 3	組織再生・修復 骨折と脱臼	組織再生、修復に関する講義		鈴木				
2	5.12. 1 (金) 4	膝靱帯・半月板損傷や膝蓋大腿関節障害について	疾患総論に関する講義	検査方法・運動療法の復習や自主練習が必要です。	室伏				
3	5.12. 8 (金) 3	膝靱帯・半月板損傷や膝蓋大腿関節障害に対する理学療法	膝靱帯・半月板損傷や膝蓋大腿関節障害の理学療法プログラムについての学習						
4	5.12. 8 (金) 4								
5	5.12.15 (金) 3	変形性膝関節症・人工膝関節置換術後の理学療法	変形性膝・股関節症に対する理学療法評価、治療を講義と実技を通して行う。また、理学療法治療・指導の根拠となるバイオメカニクスに関して説明を加え、筋緊張の評価や疼痛評価の方法を紹介しながら具体的治療方法について実技を行う。	各疾患の病態について復習しておくこと。	加藤				
6	5.12.15 (金) 4								
7	5.12.22 (金) 3								
8	5.12.22 (金) 4								
9	5.12.22 (金) 5								
10	6. 1. 5 (金) 3	大腿骨近位部骨折および人工股関節置換術後の理学療法	骨折・手術の特徴や合併症および股関節術後の理学療法評価・治療について講義・演習を行う	運動療法・介助方法の復習や自主練習が必要です。	室伏				
11	6. 1. 5 (金) 4								
12	6. 1.19 (金) 3	肩関節周囲炎、腱板断裂、肩関節脱臼の理学療法	総論・画像・手術に関する講義	課題症例について臨床推論する。	鈴木				
13	6. 1.19 (金) 4		理学療法評価と治療に関する講義						
14	6. 1.26 (金) 3		肩関節周囲炎、腱板断裂の症例についてディスカッションする。						
15	6. 1.26 (金) 4								
教 科 書 参 考 図 書		教科書：Crosslink 運動器障害理学療法学（メジカルビュー、加藤浩編集） 参考図書：「理学療法 NAVI “臨床思考” が身につく運動療法 Q&A」（医学書院、高橋哲也編集） ：骨関節障害理学療法学（文光堂、対馬栄輝・有馬慶美・編集）							
履 修 上 の 注 意		運動器障がい論、理学療法検査技術学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。実習の際は、動きやすい服装で出席すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		これまでに学んだ基礎的な知識や技術を統合し、臨床に応用していく第一歩の大切な授業です。積極的な態度で臨んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 村：研究室 35 nmura@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生								
筋骨格系理学療法Ⅱ		理学療法学科 (専門科目)	教 授・鈴木 克彦 講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子	必修	3	前期	1	非該当	否								
授業概要		理学療法士が臨床場面で関わる人が多い疾患に対する理学療法評価と治療に関して講義および実習を通して教授する。															
一般目標		疾患の病態、機能解剖学、運動学に基づいた理学療法評価と治療の考え方を理解する。															
到達目標		1) 疾患の病態と障害像を説明できる。 2) 必要な理学療法評価の項目を挙げることができる。 3) 機能障がいに対する問題点を列挙し、必要となる理学療法推論を説明できる。															
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		1-3) 定期試験で評価します。															
授業計画																	
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当									
1	5. 6. 5 (月) 1	関節リウマチ	総論, 理学療法評価, 治療について 実技を交えて講義する			機能解剖学、運動 学、運動機能評価		赤塚									
2	5. 6. 5 (月) 2																
3	5. 6. 12 (月) 1	脊髄損傷の病態, 主症状	脊髄損傷の病態, 理学療法評価お よび治療等について, 実技を交え て講義する。					永瀬									
4	5. 6. 12 (月) 2	脊髄残存レベルと機能・予 後															
5	5. 6. 19 (月) 1	理学療法評価および治療	脊髄損傷者の動作や ADL について 動画を用いて学習する。							学等の関連する 理学療法専門科 目をしっかり復 習して授業に臨 んでほしい		鈴木					
6	5. 6. 19 (月) 2	脊髄損傷者の ADL															
7	5. 6. 26 (月) 1	頸椎・腰椎・仙骨疾患 ・非特異的頸部痛・腰痛 ・腰部椎間板ヘルニア ・脊柱管狭窄症 ・頸椎症	代表的な疾患の総論・評価・治療の 講義および実技														
8	5. 6. 26 (月) 2																
9	5. 7. 3 (月) 1																
10	5. 7. 3 (月) 2																
11	5. 7. 10 (月) 1	肘関節・前腕疾患の理学療法 末梢神経損傷の理学療法	症例の臨床推論のディスカッショ ン														
12	5. 7. 10 (月) 2																
13	5. 7. 24 (月) 1	足関節・足部疾患 ・靱帯損傷 ・アキレス腱断裂 ・骨折															
14	5. 7. 24 (月) 2																
15	5. 7. 24 (月) 3																
教 科 書 参 考 図 書		教科書：Crosslink 運動器障害理学療法学（メジカルビュー，加藤浩編集） ※ 補足の資料を適宜配布します															
履 修 上 の 注 意		動きやすい服装で出席してください。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。															
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		筋骨格系の理学療法を学習します。症例の臨床推論のディスカッションでは積極的に発言してください。															
e-mail・研究室 (連 絡 先)		鈴木：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp															

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生	
筋骨格系理学療法学 特別講義		理学療法学科 (専門科目)	教 授・加藤 浩 講 師・永瀬外希子 非常勤講師・大浦 徹男	選択	3	後期	1	非該当	否	
授業概要		運動器疾患を有する患者の歩行の特徴と臨床での観察・分析方法を教授する。 筋骨格系理学療法学Ⅰ、Ⅱの授業で取り扱わなかった疾患等に対する理学療法について、講義・実技を行う。								
一般目標		・運動器疾患々々に対する基本的な歩行観察と分析（原因・代償）方法を理解する。 ・スポーツ分野の理学療法士の役割と業務、足部スポーツ外傷に対する理学療法を理解する。 ・女性のライフステージを通して生じる様々な健康問題に対する理学療法を理解する。								
到達目標		1. 代表的な運動器疾患々々者の歩行上の特徴を挙げることができる。 2. スポーツ分野の理学療法士の役割、足部スポーツ外傷に対する理学療法評価と治療理論を説明できる。 3. ウィメンズヘルスにおける理学療法の関わりかた、特徴を説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		1-5) 定期試験								
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当		
1	5.10. 5 (木) 1	下肢運動器疾患の理学療法①	下肢運動器疾患の異常歩行の分析から障害像の特徴を明示し、実践的な理学療法評価方法及び、治療戦略について講義を行います。				機能解剖学、運動学、運動機能評価学等の関連する理学療法専門科目をしっかりと復習して授業に臨んでほしい	加藤		
2	5.10. 5 (木) 2	下肢運動器疾患の理学療法②								
3	5.10.17 (火) 3	ウィメンズヘルス	女性特有の健康問題に対する理学療法について紹介する。					永瀬		
4	5.10.25 (水) 1	アスレチックリハビリテーション	オリンピック帯同トレーナーの役割やアスレチックリハビリテーションについて学習する。					スポット		
5	5.10.25 (水) 2									
6	6.1.18 (木) 1-3	スポーツ外傷の理学療法	スポーツ分野 PT の役割と業務 足関節外傷に対する理学療法・テーピングの実際							大浦*
7										
8										
教 科 書 参 考 図 書		資料を配布します。 参考図書：月城慶一・他訳：観察による歩行分析，医学書院								
履 修 上 の 注 意		上記の参考図書を持参して必要に応じて授業中確認して下さい。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		観察力と分析力を高めるためには、運動学的な基礎知識が必須です。 臨床実習前後に分かれますが、臨床に直結する授業なので積極的に参加してください。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)		加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 大浦先生連絡担当 鈴木（克）：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp スポット講師連絡担当 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp								

*大浦徹男：山形徳洲会病院

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
神経系理学療法学Ⅰ		理学療法学科 (専門科目)	准教授・南澤 忠儀 講 師・永瀬外希子	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要	脳血管障害に対する理学療法について、基礎的な医学的知識やリスク管理を含めた各病期に応じた理学療法を教示する。								
一般目標	脳血管障害の病期に応じた理学療法評価とリスク管理を修得する。 神経学的所見をもとにした治療プログラムの立案方法を修得する。								
到達目標	脳血管障害の病期に応じた基本的な理学療法とリスク管理ができる。 神経学的所見をもとに治療プログラムを立案できる								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験で評価します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28 (木) 3	概論・病態	脳血管障害に対する理学療法の概略を学習する					南澤	
2	5. 10. 5 (木) 3	急性期の理学療法	各病期におけるリスク管理、評価手順や評価項目および治療法について学習する					南澤	
3	5. 10. 5 (木) 4								
4	5. 10. 12 (木) 3								
5	5. 10. 12 (木) 4								
6	5. 10. 19 (木) 1	回復期の理学療法	回復期リハビリテーションの目的や方法, 治療法について学習する					永瀬	
7	5. 10. 19 (木) 2								
8	5. 11. 2 (木) 3	回復期の理学療法	筋緊張・高次脳機能障害および歩行の評価と治療について学習する					南澤	
9	5. 11. 2 (木) 4								
10	後日連絡	早期離床にむけた理学療法アプローチの実際	画像所見と神経症状および予後予測について学習する					今川	
11									
12	5. 11. 9 (木) 3	脳血管障害と画像所見	CT, MRI の見方を学習する					南澤	
13	5. 11. 9 (木) 4	起居動作の動作観察および動作分析	基本動作の分析方法について学習する						
14	5. 11. 16 (木) 3	ケーススタディ	症例を通して、理学療法評価から治療プログラム立案までを学習する						
15	5. 11. 16 (木) 4								
教 科 書 参 考 図 書		教科書 ・配布資料 参考図書 ・今日の理学療法指針 医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経（第2版）MEDIC MEDIA							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ									
e-mail・研究室 (連 絡 先)		南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp, 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
神経系理学療法学Ⅱ		理学療法学科 (専門科目)	准教授・南澤 忠儀 講 師・赤塚 清矢	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要	神経系疾患の理学療法や新たな治療戦略について教示する。								
一般目標	神経・筋疾患に対する理学療法評価と介入方法について説明できる。								
到達目標	神経・筋疾患の病態および一般的な理学療法評価項目を列挙できる。 神経・筋疾患の基本的な理学療法評価および介入方法を実践できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験(100%)で評価します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 5. 18 (木) 4	神経・筋疾患と理学療法	各疾患に対する病態・理学療法 評価, 手順および介入方法につ いて講義を行なう					南澤	
2	5. 5. 25 (木) 4	パーキンソン病							
3	5. 5. 25 (木) 5	筋萎縮性側索硬化症(ALS)							
4	5. 6. 1 (木) 4	多発性硬化症							
5	5. 6. 1 (木) 5	重症筋無力症・皮膚筋炎							
6	5. 6. 8 (木) 4	末梢神経障害(ギランバレー)						赤塚	
7	5. 6. 8 (木) 5	脊髄小脳変性症							
8	5. 6. 15 (木) 4	神経難病に対する理学療法 の進め方	初期評価から統合解釈までの 過程を学習する 治療プログラム立案から介入 までを学習する					南澤	
9	5. 6. 15 (木) 5	ケーススタディ①							
10	5. 6. 22 (木) 4	ケーススタディ②							
11	5. 6. 22 (木) 5								
12	5. 6. 29 (木) 4	ケーススタディ③							
13	5. 6. 29 (木) 5								
14	5. 7. 6 (木) 4	ケーススタディ④							
15	5. 7. 6 (木) 5								
教 参 考 図 書		教科書： ・配布資料 参考図書 ・今日の理学療法指針 内山 靖(総編集) 医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 (第2版) MEDIC MEDIA							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ									
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		南澤:研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚:研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
神経系 理学療法学特別講義		理学療法学科 (専門科目)	准 教 授・渡部 潤一 准 教 授・南澤 忠儀 非常勤講師・ 内山 靖	選択	3	後期	1	非該当	否			
授業概要	中枢神経系の障がい考えたとき、脳実質の損傷や難治性疾患によって多様な病態や症候が出現する。重度な神経障がい患者への試みとして、臨床の第1線で行われている理学療法を紹介し、今後の展望を考える。											
一般目標	神経障がい者の動作観察による臨床推論過程を理解する 運動制御理論と姿勢制御理論を理解する 脳血管疾患や神経難病の病期に応じた理学療法プログラムを作成し、実行できるようになるために、評価から問題点抽出、プログラム立案、実施できる能力を身につける。											
到達目標	神経障がい者の動作観察による臨床推論過程を説明できる 運動制御理論と姿勢制御理論を説明できる 脳血管疾患や神経難病の病期に応じた理学療法プログラムを作成し、実行できるようになるために、評価から問題点抽出、プログラム立案、実施できる能力を身につける。											
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	出席状況、授業態度、定期試験、課題レポートの結果を総合して評価します。											
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外 学習など	担当				
1	5.10.11 (水) 1-5	基本動作の神経基盤			基本動作に対する外的刺激による運動制御の変調を学習する			南澤				
2		立位制御に対する物理的刺激の効果 (1)										
3		立位制御に対する物理的刺激の効果 (2)										
4		視覚刺激と立位制御										
5		歩行制御に対する外的刺激の効果										
6	5.10.19 (木) 1-5	動作観察による臨床思考過程の展開1 (演習)			中枢神経疾患に対する臨床思考過程を講義、演習、実習を通して学習する			内山				
7		動作障がいからみた運動療法介入 (演習)										
8		臨床思考過程からみた神経疾患の診かた (講義)										
9		パーキンソンニズムの評価と治療 (講義+実習)										
10		動作観察による臨床思考過程の展開2 (演習)										
11	6. 1. 4 (木) 3-4	運動制御と運動学習			運動制御と運動学習理論から理学療法への応用を考える。			渡部				
12		姿勢制御										
13	6. 1.11 (木) 3-5	脳血管障がいに対する急性期理学療法			脳血管障害に対する理学療法の目的を理解するとともに、理学療法技術の実践を学ぶ。							
14		脳血管障がいに対する回復期理学療法										
15		脳血管障がいに対する慢性期理学療法										
教 科 書 参 考 図 書		資料を配布します。 ＜参考図書＞随時紹介します。										
履 修 上 の 注 意		学生の理解度によっては、シラバスの項目内容の変更が発生することもあります。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		中枢神経障がいに対して理学療法士は何ができるのか？ 可能性を考えてください。										
e-mail・研究室 (連 絡 先)		渡部：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp 南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp										

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生				
小児理学療法学Ⅰ		理学療法学科 (専門科目)	准教授・渡部 潤一	必修	2	後期	2	非該当	否				
授業概要	障がい児を理解する上で必要な正常運動発達を解説する。 脳性麻痺を中心に障がい児に関する基礎的知識、理学療法評価及び治療の考え方を解説する。												
一般目標	障がい児を理解する上で必要な正常運動発達を理解する。 脳性麻痺を中心に障がい児に関する基礎的知識、理学療法評価及び治療の考え方を理解する。												
到達目標	療育、小児理学療法の意義を説明できる。 運動発達と反射・反応の関係を説明できる。 運動発達の連続性のある内容を説明できる。 上肢機能および視覚機能の発達と発達過程全般との関連を説明できる。 脳性麻痺の障がい特性および理学療法の基本的概念を説明できる。												
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	出席状況、授業態度、定期試験、課題レポートの結果を総合して評価します。												
授業計画													
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当					
1	5. 11. 27 (月) 3	小児理学療法総論		療育について、小児理学療法の意義を学ぶ				渡部					
2	5. 11. 27 (月) 4	正常運動発達 1 (反射・反応)		小児の反射・反応の体験を通して学ぶ									
3	5. 12. 4 (月) 3	正常運動発達 2 (0－3 ヶ月)		運動発達過程について演習を通して学ぶ									
4	5. 12. 4 (月) 4	正常運動発達 3 (4－6 ヶ月)											
5	5. 12. 11 (月) 3	正常運動発達 4 (7－9 ヶ月)											
6	5. 12. 11 (月) 4	正常運動発達 5 (9－12 ヶ月)											
7	5. 12. 18 (月) 3	正常運動発達 6 (上肢機能の発達)		上肢機能発達と発達過程全般との関連									
8	5. 12. 18 (月) 4	正常運動発達 7 (視覚機能の発達)		視覚機能の発達と発達過程全般との関連									
9	5. 12. 25 (月) 3	胎児の発達		正常運動発達を理解する									
10	5. 12. 25 (月) 4	運動発達検査		異常発達と運動発達障がいとの関係を学ぶ									
11	6. 1. 15 (月) 1	脳性麻痺の原因と病理		脳性麻痺の障がい特性および理学療法の基本的概念を学ぶ									
12	6. 1. 15 (月) 2	脳性麻痺の分類											
13	6. 1. 22 (月) 3	脳性麻痺の症状と二次障がい											
14	6. 1. 22 (月) 4	脳性麻痺に対する理学療法評価 1		理学療法を実践するうえで必要となる評価、介入の概要と構成要素を理解する									
15	6. 1. 22 (月) 5	脳性麻痺に対する理学療法評価 2											
教科書	教科書：未定												
履修上の注意	全ての講義に出席することが前提となります。ただし、公欠等の場合には、その都度、課題を与えて対応しますので、事後であっても必ず申し出てください。												
学生へのメッセージ	小児理学療法の先生はこどもたちです。一緒に学んでいきましょう。												
e-mail・研究室 (連絡先)	渡部潤一：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp												

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
小児理学療法学Ⅱ		理学療学科 (専門科目)	准教授・渡部 潤一	必修	3	前期	1	非該当	否			
授業概要	代表的な小児疾患の発達の特性、臨床像、理学療法評価および理学療法の原則を解説する。											
一般目標	代表的な小児疾患の発達の特性、臨床像、理学療法評価および理学療法の原則を理解する。											
到達目標	脳性麻痺の類型毎の運動発達過程、理学療法の原則について説明できる。 発達性協調運動障害、低出生体重児・ハイリスク児、知的障がい児、筋ジストロフィー、二分脊椎、骨系統疾患の臨床像と理学療法について説明できる。											
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	出席状況、授業態度、定期試験、課題レポートの結果を総合して評価します。											
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当				
1	5. 4. 12 (水) 1 5. 4. 12 (水) 2	脳性麻痺 (痙直型)	脳性麻痺の類型毎の運動発達過程 の特徴、理学療法の原則を学ぶ					渡部				
2		脳性麻痺 (痙直型)										
3	5. 4. 19 (水) 1 5. 4. 19 (水) 2	脳性麻痺 (痙直型)										
4		脳性麻痺 (アテトーゼ型)										
5	5. 4. 26 (水) 1 5. 4. 26 (水) 2	脳性麻痺 (アテトーゼ型)										
6		脳性麻痺 (失調型)										
7	5. 5. 10 (水) 1 5. 5. 10 (水) 2	発達性協調運動障害	小児疾患の臨床像と理学療法につ いて、講義と実技を通して学ぶ									
8		低出生体重児・ハイリスク児										
9	5. 5. 17 (水) 1 5. 5. 17 (水) 2	知的障がい児・ダウン症児										
10		筋ジストロフィー										
11	5. 5. 24 (水) 1 5. 5. 24 (水) 2	二分脊椎										
12		骨系統疾患										
13	後日連絡	発達障がい理学療法の実際	発達障がい理学療法の評価、理学療 法を見学・体験する									
14												
15												
教 科 書 参 考 図 書		教科書：細田多穂監修「小児理学療法学テキスト改訂第3版」 南江堂 参考図書：必要に応じて紹介します。										
履 修 上 の 注 意		講義中に実技も行いますので、動きやすい服装で出席してください。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		小児疾患は多種多様ですので、知識を得ると共に、病態のイメージを考えることが大事です。										
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		渡部潤一：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp										

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生	
小児理学療法学 特別講義		理学療法学科 (専門科目)	准教授・渡部 潤一 非常勤講師・ 宮崎 泰 金子 断行	選択	4	後期	1	非該当	否	
授業概要		小児疾患に対する総合的な評価・治療計画立案までを学生自ら実践するために、症例を提示し解説する。 また、運動発達検査、背臥位から歩行までの誘導方法、新生児集中治療における理学療法、重症心身障がい 児の理学療法について解説する。								
一般目標		講義および症例検討を通して小児疾患に対する総合的な評価・治療計画立案の方法を理解する。								
到達目標		症例検討を通して、理学療法評価及び治療計画を立案できる。 脳性麻痺児に対する運動発達検査を説明できる。 発達障がい児に対する背臥位から歩行までの基本的な誘導方法を身につける。 重症心身障がい児の理学療法について説明できる。 新生児集中治療における理学療法の概要を説明できる。 特別支援学級における理学療法の概要を説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		出席状況、授業態度、定期試験、課題レポートの結果を総合して評価します。								
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当					
1 2 3 4	後日連絡	演習・歩行の誘導	背臥位から立位・歩行 までの誘導法を学ぶ	基礎運動学の歩行に関する 章を事前学習しておくこと	宮崎					
		演習・運動発達検査	GMFM と GMFCS の活用に ついて学習する。その 他の発達検査（遠城寺 式乳幼児分析的発達検 査法、Denver II、運動 年齢検査、PEDI）につ いて、紹介する	脳性麻痺の類型別発達を事 前学習しておくこと。臨床 理学療法マニュアル-改訂 第2版 P74-76、GMFM 粗大運 動能力尺度(医学書院)を事 前学習しておくこと						
5 6 7		重症心身障がい児の理学療法	重症心身障がい児に対 する評価、理学療法の 実施までを身につける	「DVD 重症心身障害児・者の 呼吸リハビリテーション」 による事前学習をしてくだ さい		金子				
8 9		5.11. 2 (木) 3 5.11. 2 (木) 4	新生児理学療法	新生児集中治療におけ る理学療法を学ぶ			渡部			
10 11	5.11.16 (木) 3 5.11.16 (木) 4	特別支援学級における理学療 法	特別支援学級における 理学療法を学ぶ							
12 13	5.11.30 (木) 3 5.11.30 (木) 4	症例検討 脳性麻痺痙直型	グループワークにより 理学療法評価及び治療 計画を立案し発表する	運動発達及び脳性麻痺類型 別運動発達などの過去の授 業内容を復習し参加してく ださい						
14	5.12.14 (木) 3	症例検討脳性麻痺アテトーゼ 型								
15	5.12.14 (木) 4	発達障がい児の運動指導								
教 科 書 参 考 図 書		教科書 特に指定しない。資料配布を行う予定です。 参考書 (宮崎先生) 千住秀明監修「こどもの理学療法 第3版」 神陵文庫 黒川幸雄・他「臨床理学療法マニュアル-改訂第2版」 南江堂 近藤泉・福田道隆監訳「GMFM 粗大運動能力尺度」 医学書院 (金子先生) 紀伊克昌監訳「正常発達-脳性まひ治療への応用-」 三輪書店 金子断行・花井丈夫監修「DVD 重症心身障害児・者の呼吸リハビリテーション」(アローウィン)								
履 修 上 の 注 意										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		実技実習も行います。積極的な参加を望みます。 これまでに学習した基礎知識を十分復習した上で臨んでください。								
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		渡部潤一：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高齢期理学療法学		理学療学科 (専門科目)	准教授・丹野 克子 助 教・工藤 大輔	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		・加齢に伴う生理・運動・精神・心理機能の変化に対する理学療法の関わりについて解説する。 ・高齢者に対する各種制度を概観し、制度下で実施されている理学療法を解説する。							
一般目標		・高齢期に起こりやすい障がいの成因を理解する。 ・高齢者を取り巻く社会的環境や法・制度を理解する。 ・高齢者に対する理学療法の現状や課題を認識する。							
到達目標		・加齢に伴う生理機能や運動機能および精神・心理機能を説明できる。 ・高齢者の姿勢・運動の特徴を説明できる。 ・高齢者に対する種々の制度と理学療法の関与を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		毎回の課題の成績を総合して評価する。(初回授業時に説明する。)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法			担当	
1	5. 9. 28 (木) 2	・授業オリエンテーション ・高齢期理学療法の概念 ・高齢者の尊厳保持			・高齢者に対する理学療法の特徴 ・理学療法士が認識すべき高齢者の尊厳保持			丹野	
2	5. 10. 5 (木) 1	・高齢期の諸機能の特性 ・理学療法に影響する課題			低栄養、フレイル及びサルコペニアと理学療法			丹野	
3	5. 10. 5 (木) 2				加齢に伴う生理機能の変化			工藤	
4	5. 10. 19 (木) 1				加齢に伴う神経機能の変化			工藤	
5	5. 11. 2 (木) 1				高齢期の摂食嚥下障がいと排泄障がいと理学療法			工藤	
6	5. 11. 9 (木) 1				加齢に伴う運動機能の変化			工藤	
7	5. 11. 16 (木) 1				ロコモティブシンドロームと理学療法			工藤	
8	5. 11. 30 (木) 2				転倒への対応			工藤	
9	5. 12. 7 (木) 2				高齢者の姿勢・運動の特徴と分析方法			工藤	
10	5. 10. 19 (木) 2				加齢に伴う精神・心理・記憶機能の変化			丹野	
11	5. 11. 2 (木) 2				認知症と理学療法			丹野	
12	5. 11. 9 (木) 2	高齢者とのコミュニケーション			高齢者とのコミュニケーション方法			丹野	
13	5. 11. 16 (木) 2	高齢期の保健・医療・福祉制度と理学療法士の関わり			・介護予防の基本的視点と理学療法士の関与 ・高齢者の権利擁護			丹野	
14	5. 12. 14 (木) 1	高齢者の機能・能力の評価			高齢者に対する身体機能と能力の評価方法の実技			丹野 工藤	
15	5. 12. 14 (木) 2								
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：◎池添冬芽編集「高齢者理学療法学」メジカルビュー 参考図書：随時紹介します。							
履 修 上 の 注 意		・この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。 ・「地域リハビリテーション学」「地域理学療法学」「臨床実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に直結する内容が多く含まれていることに留意してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		誰にでも必ず訪れる“老い”について、理学療法の目を通して考えましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		丹野：研究室6 ktanno@yachts.ac.jp 工藤：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高齢期理学療法学 特別講義		理学療法学科 (専門科目)	准 教 授・丹野 克子 非常勤講師・石川 雅樹 非常勤講師・佐藤 美香	選択	3	後期	1	非該当	否
授業概要		・高齢者に対する予防的介入を教授する。 ・高齢者とのコミュニケーション方法を教授する。 ・介護保険制度下で提供される訪問理学療法について臨床の実際を教授する。 ・がん、熱傷、褥瘡への理学療法士の介入について臨床の実際を教授する。							
一般目標		・高齢者を対象にした介護予防のあり方を理解する。 ・高齢者の理学療法実施時に必要なコミュニケーションの基本を身につける。 ・介護保険制度の訪問理学療法について理解する。 ・臨床で実施されているがん、熱傷、褥瘡のリハビリテーションと理学療法について理解する。							
到達目標		・高齢者を対象にした介護予防の事業設計を体験する。 ・高齢者の理学療法実施に必要なコミュニケーション技術の基本を体験する。 ・がんのリハビリテーション、熱傷の理学療法、褥瘡対応チームへの理学療法士の関与について、評価・治療上の特徴、留意点を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		丹野（50％）：授業時の演習成果で評価する。 石川・佐藤（50％）：レポート課題で評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 10. 6（金）3 5. 10. 6（金）4	理学療法実施上のコミュニケーション技術	理学療法実施上の事例を提示し、演劇的手法を用いてコミュニケーション技術を演習する。 グループワークで行う。			【予習】 コミュニケーションの基本		丹野	
2									
3	6. 1. 20（土）1 6. 1. 20（土）2	・がんのリハビリテーション ・熱傷の理学療法	臨床における ・がんのリハビリテーション ・熱傷の理学療法 について講義を行う。					石川	
4									
5	6. 1. 20（土）3	褥瘡対応チームにおける理学療法士の活動と介入	褥瘡の基本的な理解と対応チームにおける理学療法士の役割について講義を行う。					佐藤	
6	6. 1. 19（金）3	高齢者に対する訪問による理学療法	介護保険の訪問による理学療法の実践について講義を行う。			【予習】 介護保険制度と訪問サービス		スポット (芦埜) 1)	
7	6. 1. 26（金）3 6. 1. 26（金）4	高齢者に対する介護予防の事業設計	高齢者の介護予防について事例を提示し、事業設計を演習する。 グループワークで行う。			【予習】 介護予防		丹野	
8									
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：授業時に資料を配布します。 参考図書：◎池添冬芽編集「高齢者理学療法学」メジカルビュー							
履 修 上 の 注 意		丹野担当分：「高齢期理学療法学」に基づく演習を行いますので、復習して臨んでください。 芦埜担当分：介護保険制度を復習して臨んでください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		各内容に関して予習・復習をし、積極的に取り組むことを望みます。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp							

1) 芦埜達哉（在宅リハビリ看護ステーションつばさ天童サテライト、理学療法士）

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
内科系理学療法学Ⅰ		理学療法学科 (専門科目)	講師・赤塚 清矢 助教・鈴木栄三郎	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）の病態に応じた理学療法を教授する。								
一般目標	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）に対する理学療法の基本的評価と治療について理解する。								
到達目標	①内科系疾患の基本的な理学療法について理解できる。 ②内科系疾患の各種病態を理解できる。 ③内科系疾患に対する基本的な理学療法（評価および治療技術）を理解できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	到達目標は、期末筆記試験（100%）にて成績評価を行う。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など			担当	
1	5. 9. 26（火）3	内科系理学療法学総論	内科系理学療法学の解説（講義）		呼吸・循環・代謝に関する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。			赤塚	
2	5. 9. 26（火）4	代謝性疾患の理学療法	代謝性疾患総論・エネルギー消費量・運動強度と運動プログラム・代謝性疾患の運動療法（講義）						
3	5. 10. 3（火）4								
4	5. 10. 3（火）5	腎疾患の理学療法	慢性腎不全の理学療法（講義）						
5	5. 10. 10（火）4	循環器疾患の理学療法	心疾患の理学療法総論（講義）					鈴木	
6	5. 10. 10（火）5		虚血性心疾患の理学療法（講義）						
7	5. 10. 17（火）4		大血管疾患の理学療法（講義）						
8	5. 10. 17（火）5		心臓弁疾患の理学療法（講義）						
9	5. 10. 24（火）4		末梢動脈疾患の理学療法（講義）						
10	5. 10. 24（火）5	呼吸器疾患の理学療法	呼吸器疾患の理学療法の総論（講義）						
11	5. 10. 31（火）3		急性呼吸不全・周術期の理学療法（講義）						
12	5. 10. 31（火）4		慢性閉塞性肺疾患に対する理学療法（講義）						
13	5. 11. 7（火）3		間質性肺炎に対する理学療法（講義）						
14	5. 11. 7（火）4		脊髄損傷・脳損傷の呼吸理学療法（講義）						
15	5. 11. 14（火）3	運動負荷試験	トレッドミル、自転車エルゴメータ、6分間歩行試験、Shuttle Walking testー（講義）					赤塚	
教 科 参 考 図 書		教 科 書：Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 参考図書：◎ビジュアルレクチャーー内部障害理学療法学ー ◎心臓リハビリテーション必携 ◎呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法ー第2版 この他は授業中に紹介する。			メジカルビュー社 医歯薬出版株式会社 株式会社コンパス 照林社				
履 修 上 の 注 意		呼吸・循環・代謝に関する解剖学・生理学・病理学・内科学などを復習して授業に臨むこと。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		内科系の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		赤塚 清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生						
内科系理学療法学Ⅱ		理学療学科 (専門科目)	講 師・赤塚 清矢 助 教・鈴木栄三郎 非常勤講師・舟見 敬成	必修	3	前期	1	非該当	否						
授業概要	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）の病態に応じた理学療法を教授する。														
一般目標	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）に対する理学療法の基本的評価と治療について実施できる。														
到達目標	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）に対する基本的な評価および治療技術を習得する。														
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	到達目標は、期末筆記試験（100%）にて成績評価を行う。														
授業計画															
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当							
1	5. 6. 13（火）3	呼吸器疾患の理学療法	呼吸音聴診（演習） 呼吸介助手技（演習）			呼吸・循環・代謝に関する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。		鈴木							
2	5. 6. 13（火）4														
3	5. 6. 20（火）3														
4	5. 6. 20（火）4														
5	5. 6. 20（火）5														
6	5. 6. 27（火）3	循環器疾患の理学療法	心電図と不整脈（講義、演習）							舟見					
7	5. 6. 27（火）4														
8	後日連絡	内科系理学療法トピックス	心疾患を中心に臨床的視点を学ぶ。（講義）								舟見				
9															
10															
11	5. 7. 5（水）3	運動負荷試験と理学療法プログラムの作成	運動負荷試験を行い、理学療法プログラムを作成する。（演習）									赤塚			
12	5. 7. 5（水）4														
13	5. 7. 5（水）5														
14	5. 7. 12（水）3														
15	5. 7. 12（水）4														
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 参考図書：◎ビジュアルレクチャー―内部障害理学療法学― ◎心臓リハビリテーション必携 この他は授業中に紹介する。										メジカルビュー社 医歯薬出版株式会社 株式会社コンパス			
履 修 上 の 注 意		内科系理学療法学Ⅰの内容を復習して授業に臨むこと。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。													
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		内科系の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。													
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		赤塚 清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp													

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
内科系理学療法学 特別講義	理学療法学科 (専門科目)	講 師・赤塚 清矢 助 教・鈴木 栄三郎	選択	3	後期	1	非該当	否
授業概要	内科系理学療法に関連した課題への対応を学ぶ。							
一般目標	内科系理学療法に関連した課題への適応方法について理解する。							
到達目標	ヘルスプロモーションと理学療法について理解する。 種々の呼吸障がいが必要となる喀痰等の吸引技術を習得する。 集中治療室における理学療法士の役割について理解する。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	内科系理学療法に関連した課題への適応方法についてのレポート課題 (50%) 「集中治療室における理学療法」での演習課題 (50%)							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など			担当	
1 2	6. 1. 4 (木) 1-2	ヘルスプロモーションと理学療法	講義と討論	内科系理学療法学 Ⅰ・Ⅱを復習して臨 むこと。			赤塚	
3 4	6. 1.11 (木) 1-2		講義と演習					
5 6	後日連絡	喀痰等の吸引	講義と実技				看護学科 教員	
7 8	後日連絡	集中治療室における理学療法	講義と演習					
教 科 書 参 考 図 書		教科書：特に指定しない 参考書：授業中に紹介する						
履 修 上 の 注 意		内科系理学療法学Ⅰ・Ⅱを復習して授業に臨んでください。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		内科系の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。						
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		赤塚 清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法技術学		理学療法学科 (専門科目)	非常勤講師 星 真行 浅田 啓嗣	選択	3	後期	1	非該当	否
授業概要		○理学療法治療技術の一つである神経生理学的アプローチの中で、体系的な治療技術である固有受容性神経筋促通手技 PNF の理論を説明し、基本的技術の実技指導を行う。 ○理学療法の重要な治療手段である徒手療法の基礎を教授し、基本的技術の指導を行う。							
一般目標		○固有受容性神経筋促通手技 PNF の理論及び基本的技術を理解する。 ○徒手療法の基本的原理を理解し基本的な手技を体験する。							
到達目標		(星) PNF の理論を説明し、基本的技術を実施できる。 (浅田)①関節及び軟部組織モビライゼーションの原理を理解し、基本的な技術の臨床応用方法を説明できる。 ②関節・筋および神経の構造と機能を考慮した関節機能障害の評価方法を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		(星) 基本手技の習得を評価 (50%) (浅田) 成績は課題レポートで評価 (50%)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 10. 20 (金) 1-4	固有受容性神経筋促通手技 PNF		講義と実技				星	
2									
3									
4									
5	後日連絡	徒手療法の概念と基礎 筋に対する評価と治療 関節に対する評価と治療 神経組織に対する評価と治療		講義、実技によって、徒 手療法に対する基礎的 な知識と技術を習得さ せる		グループまたは個人で 運動課題に取り組むこ とがある		浅田	
6									
7									
8									
教 科 書 参 考 図 書		(星) 教科書：PNF マニュアル 柳澤健，乾公美共編，改訂第 3 版，南江堂 (浅田) 参考図書 「こだわり抜く関節可動域運動」文光堂 斉藤秀之・加藤 浩 編集 「物理療法学 第 5 版」 医学書院 網本 和・菅原 憲一 編集							
履 修 上 の 注 意		集中講義ですので欠席しないよう注意すること。 講義中に実技も行いますので、動きやすい服装で出席してください。(遠隔授業となる場合があります)。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ									
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)									
連 絡 調 整 担 当 教 員		星 先生連絡担当 永瀬外希子 浅田先生連絡担当 鈴木栄三郎							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
物理療法学		理学療法学科 (専門科目)	教 授・鈴木 克彦 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介 助 教・鈴木栄三郎	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要		1) 種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌、実施方法の手順について教授する。 2) 電気、温熱、寒冷、水治、牽引、光線の物理療法を、臨床場面で安全かつ適切に実践する為に必要なオリエンテーション、リスク管理、機器の操作方法、効果判定等についての技術を教授する。							
一般目標		1) 物理療法による生体反応（効果）、適応および禁忌、効果判定方法を理解する。 2) 各種の物理療法を正しい手順で安全かつ適切に実施する。							
到達目標		1) 物理療法による生体反応、適応および禁忌、効果判定方法について説明できる。 2) 種々の物理療法について正しい実施方法を説明し、リスクに配慮しながら適切な手順で実施できる。 3) 物理療法前後の生体反応からその効果について論理的に説明することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（60%）、実技試験・レポート（40%）を総合的に判断して評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			授業外学 習など	担当	
1	5. 4. 10（月）3	物理療法学総論		物理療法の総論，鎮痛メカニズム，温熱療法の効果の生理学を説明する			生理学をはじめとする基礎医学の知識が必要ですので、適宜復習してください	鈴木克	
2	5. 4. 17（月）3	ホットパック・パラフィン		ホットパック、パラフィンの特徴、適応・禁忌、実施方法について説明する					
3	5. 4. 17（月）4	極超短波療法・超短波療法		生理的作用、適応・禁忌、実施方法を説明する					
4	5. 4. 24（月）3	超音波療法		超音波の発生原理、物理的特性、生体への影響、適応・禁忌を説明し、実演する					
5	5. 4. 24（月）4								
6	5. 5. 1（月）3	水治療法		水の特性、生理的作用、適応、禁忌について説明する					
7	5. 5. 1（月）4	寒冷療法		寒冷療法の生理的作用、適応・禁忌、実施方法について説明する					
8	5. 5. 8（月）3	光線療法		各種光線療法の生理的作用、適応・禁忌、実施方法を説明する					
9	5. 5. 8（月）4	牽引療法		頸椎・腰椎牽引療法の目的、効果、実施方法について説明する					
10	5. 5. 15（月）3	ホットパック・パラフィン (永瀬)		・適切に物理療法機器の操作ができるよう実習する ・グループに分かれて、実習課題の生体反応を計測する ・実験結果と文献から生理学的効果を考察し、レポートを作成する				永瀬 室伏 鈴木栄	
11	5. 5. 15（月）4								
12	5. 5. 22（月）3	超音波・極超短波・光線療法 (室伏)							
13	5. 5. 22（月）4								
14	5. 5. 29（月）3	水治・牽引・寒冷療法（鈴木栄）							
15	5. 5. 29（月）4								
16	5. 6. 5（月）3	持続的多動運動療法：CPM バイオフィードバック BF 療法		CPM・BF 療法の目的、方法、効果について説明する				鈴木克	
17	5. 6. 5（月）4	振動刺激療法		振動刺激療法の生理的作用、目的、方法、適応、禁忌について説明し、実演する				鈴木栄	
18	5. 6. 12（月）3	電気刺激療法総論 経皮的電気神経刺激（TENS） 神経筋電気刺激（NMES）		・電気刺激療法の原理と生理学的効果について説明する ・各電気刺激療法の生理的作用、目的、適応、実施方法、禁忌について説明し、実演する				鈴木克	
19	5. 6. 12（月）4	治療電気刺激（TES） 機能的電気刺激（FES）							
20	5. 6. 19（月）3	電気刺激療法 ・TENS		・運動点を適切に探索する ・グループで課題に取り組み、生体反応を計測する ・計測結果と文献から生理学的効果を考察し、レポートを作成する					
21	5. 6. 19（月）4	・NMES ・IFCS							
22	5. 6. 26（月）3	・強さ時間曲線							

教科書 参考図書	教科書：物理療法学 (Crosslink 理学療法学テキスト), MEDICAL VIEW 参考図書：エビデンスから身につける物理療法, 羊土社
履修上の注意	10～15 回、20～22 回：肩や大腿を露出できる服装で出席してください。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。
学生への メッセージ	運動療法の効果を高めるために物理療法は有効な治療法です。物理療法を科学的にとらえて実践してほしいです。 演習は、積極的に参加してください。機器操作と実際の体験を通して、課題を探究し、活発にグループディスカッションすることを期待しています。
e-mail・研究室 (連絡先)	鈴木克彦：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
義肢装具学	理学療法学科 (専門科目)	講 師・赤塚 清矢 教 授・村 成幸 非常勤講師・佐竹 将宏 講 師・室伏 祐介	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	義肢装具学は、理学療法士にとって重要な治療法のひとつを学ぶ授業である。装具学では、装具の目的および各種装具の基本事項と理学療法、さらに各疾患・障害に対する装具療法について教授する。義肢学では、切断術とリハビリテーションおよび各種義肢の基本事項と理学療法について教授する。							
一般目標	1) 義肢または装具の基本構造と各部品の機能を知る。 2) 義肢または装具を用いた理学療法について理解する。 3) 装具療法について理解する。 4) 切断術および切断のリハビリテーションについて理解する。							
到達目標	1) 装具の基本構造と各部品の機能について説明できる。 2) 下肢装具のチェックアウトを実施できる。 3) 脳卒中片麻痺者に対する装具療法について説明できる。 4) その他各疾患・障害に対する装具療法について説明できる。 5) 切断術および切断者の実態について説明できる。 6) 義肢の基本構造と各部品の機能について説明できる。 7) 義足の各アライメントのチェックを実施できる。 8) 切断者に対する理学療法について説明できる。 9) 切断のリハビリテーションについて説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験（赤塚担当分：1/23、村担当分：4/23、佐竹担当分：15/23、室伏担当分：3/23） ＜佐竹担当分＞ 1) 1 回目授業日の始めに基礎テスト（20 分。義肢装具学に必要な姿勢・歩行の運動学の知識）を行う。 2) 2 回目・3 回目の各授業日の始めに、それぞれの前回の復習テスト（各 20 分程度）を行う。 3) 1～3 回のテスト(各 10%)および期末テスト(70%)で評価し、6 割以上を合格。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 4. 11 (火) 2	ガイダンス	義肢装具学の学習内容					赤塚
2	5. 4. 28 (金) 1-2	切断術とリハビリテ ーション	切断術の適応、部位の選択、治癒過程を学 ぶ。					村
3								
4	5. 5. 19 (金) 1-2	脊椎装具	手術および脊椎外装で使用する頸椎、胸腰 椎装具の種類を学ぶ。					
5								
6	5. 5. 26 (金) 1-5	装具学総論。装具の基 本構造と各部品の機 能。下肢装具のチェッ クアウト。上肢装具。	装具の目的・種類、装具の基本構造と各部 品の機能、下肢装具のチェックアウト、上 肢装具、について学ぶ。			「装具学」のテキスト に沿って進める。テキ ストを読み予習・復習 し授業に臨むこと。		佐竹
7								
8								
9								
10								
11	5. 6. 23 (金) 1-5	義肢学総論。義足の基 本構造と各部品の機 能。義足アライメント のチェック。切断者の 理学療法。義手。	切断者の評価、義足の基本構造と各部品の 機能、義足のアライメント、義肢装着者の 理学療法、弾性包帯の巻き方、義手につい て学ぶ。			「切断とリハビリテー ション」についてのビ デオ課題に取り組んで くる。「義肢学」のテキ ストに沿って進める。		佐竹
12								
13								
14								
15								
16	5. 7. 21 (金) 1-5	疾患別装具（各障害に 対する装具療法）	脳卒中片麻痺者の装具療法について動画 を見て実習する。 その他整形外科疾患、小児疾患等の装具療 法を学ぶ。			「装具学」のテキスト に準じて進める。また、 動画等を用いた実習も 行う。		佐竹
17								
18								
19								
20		義肢装具学のまとめ	義肢・装具のチームアプローチ等を学ぶ。					
21	5. 7. 28 (金) 3-5	仮装具の作成	ギプスを使って、仮装具の作成を行いま す。			短下肢装具について復 習しておくこと		室伏
22								
23								
教 科 書 参 考 図 書	教科書：15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト「装具学 第2版」「義肢学 第2版」各中山書店 参考書：「義肢装具のチェックポイント 第9版」医学書院							
履 修 上 の 注 意	解剖学（四肢体幹の骨、関節、神経筋を中心に）、運動学（骨指標、関節運動、歩行分析）等の知識が必要。復習して臨むこと。集中講義においてやむを得ず欠席する場合には、必ず学年担任へ連絡すること。この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	自ら積極的に学ぶ姿勢を持って臨んで欲しい。 授業では、実習のできる服装（運動着（ジャージ）、運動靴）を準備し、臨むこと（佐竹）。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	赤塚清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 村 成幸：研究室 35 nmura@yachts.ac.jp 室伏祐介：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 佐竹将宏：秋田大学 satake@hs.akita-u.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生活支援系 理学療法学Ⅰ	理学療法学科 (専門科目)	准教授・丹野 克子	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要	・生活支援系の理学療法を身につけるために、①日常生活活動（ADL）の概要、評価方法、分析の視点、 ②生活機能障がいの構造、③生活環境整備のための基本的知識について、講義や演習を行う。 ・3年前期「生活支援系理学療法学Ⅱ」の修得に必要な基本的内容の講義や演習を行う。							
一般目標	・生活機能と日常生活活動（ADL）について、概要、構成する動作、評価方法、分析視点、疾患による特徴 を理解する。 ・生活機能を支援する福祉用具や住環境整備を知る。 ・生活機能と環境因子の関係を理解する。							
到達目標	・日常生活活動（ADL）の概念の説明ができ、具体的動作が列挙できる。 ・評価基準を参照して、基本的 ADL と手段的 ADL の評価ができる。 ・基本動作の動作分析を観察により大まかに説明できる。 ・理学療法が対象とする代表的な疾患や障がいのある人の、日常生活活動（ADL）の特徴を説明できる。 ・生活機能と環境因子との関係を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	初回オリエンテーション時に説明します。 1. 課題レポート3回（各回30%） 3. 授業への取り組み方（10%） 授業中の態度等を総合的に評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	5. 9. 29（金）2	オリエンテーション	【学習内容】 授業項目に示した内 容を学習する 【学習方法】 講義，演習，実技， およびこれらの組み 合わせ	予習範囲を指示 することがあり ます。	丹野			
2	5. 10. 6（金）2	日常生活活動（ADL）の概念と範囲 基本的 ADL（BADL）と手段的 ADL（IADL）						
3	5. 10. 13（金）2	生活環境と身体機能および ADL の関係						
4	5. 10. 20（金）1 5. 10. 20（金）2	観察による ADL 動作分析						
5								
6	5. 10. 23（月）1 5. 10. 23（月）2	ADL を支援する福祉用具と活用方法 物理的生活環境整備の基本的視点と法・制度						
7								
8	5. 11. 10（金）2							
9	5. 11. 17（金）2	ADL の評価方法						
10	5. 11. 24（金）2							
11	5. 12. 1（金）2	代表的な疾患・障がい別の ADL						
12	5. 12. 8（金）1 5. 12. 8（金）2	理学療法における介助の考え方 基本的 ADL の介助・支援方法						
13								
14	5. 12. 15（金）1 5. 12. 15（金）2	ICF 概念の理解と活用 授業まとめ						
15								
教 科 書 参 考 図 書	<教 科 書>◎PT・OT ビジュアルテキスト ADL（羊土社、柴喜崇ら編集） ◎生活環境学テキスト（南江堂，細田多穂） <参考図書>◎「ICF 国際生活機能分類」（中央法規出版） ◎「OT・PT のための住環境整備論」（三輪書店、野村歡ら著）、他に随時紹介							
履 修 上 の 注 意	・1年次に学んだ国際生活機能分類（ICF）を復習してから臨んでください。 ・予習内容や服装の指定，授業内容により実施場所を変更することがあります。授業前に連絡 します。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	新たな単語や概念を暗記するだけの学習ではなく、学んだことを基に総合的に考えて、表現す る習慣をつけてください。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	丹野克子：研究室6 ktanno@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生活支援系 理学療法学Ⅱ		理学療学科 (専門科目)	准教授・丹野 克子 講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		理学療法の対象となる代表的な疾患の生活障がいとその援助方法について、講義と演習を行う。							
一般目標		・生活機能障がいの構造を理解し、評価方法、日常生活活動（ADL）の指導法、介助方法を身につける。 ・生活機能障がい援助に必要な福祉用具や環境整備についての知識を習得する。							
到達目標		・代表的な疾患や障がいに対する日常生活活動（ADL）の評価、指導、介助の要点を説明できる。 ・代表的な疾患や障がいの日常生活活動（ADL）の特徴やリスクを説明できる。 ・物理的生活環境について基準に基づいて評価できる。 ・国際生活機能分類（ICF）の概念を用いて生活機能障がいの構造を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・レポート（90%）：丹野担当分（45%）、赤塚担当分（20%）、永瀬担当分（25%） ・授業への取り組み方（10%）：主体的・意欲的・積極的な態度を評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5. 4. 6（木）1	オリエンテーション 移動・移乗動作介助の基本	・授業オリエンテーション ・移動・移乗介助実技				【復習】生活支援系理学療法学Ⅰで学修した移乗介助方法を復習してから出席する.	丹野	
2	5. 4. 6（木）2								
3	5. 4. 20（木）1	脳血管障がい患者の ADL	・脳血管障がい患者の動作の特徴 ・基本動作や車椅子操作の介助方法 ・5～7 回授業の事例提示と準備					丹野	
4	5. 4. 20（木）2								
5	5. 4. 28（金）3 5. 4. 28（金）4 5. 4. 28（金）5	物理的生活環境整備演習	グループワーク ・身体障がいのある人を想定し、物理的環境の評価と整備の検討および発表				【事前準備】生活支援系理学療法学Ⅰの物理的環境整備の基本 【授業後課題】演習のまとめ	丹野	
6									
7									
8	5. 5. 11（木）2	神経難病の人の ADL	・神経難病の人の ADL 動作の実際を DVD 等で学ぶ				【授業後課題】課題作成・提出	丹野	
9	5. 5. 18（木）2								
10	5. 5. 25（木）1	脊髄損傷者・頸髄損傷者の ADL①	・脊髄損傷者の方に来学いただき、グループごとに ADL を評価する				【事前準備】ADL 評価のための事前準備が必要	永瀬 丹野	
11	5. 5. 25（木）2								
12	5. 7. 7（金）3 5. 7. 7（金）4	車椅子と自助具の要点	・車椅子のチェックポイントについて理解する ・自助具の作成と評価から、ユーザビリティについて理解する					赤塚	
13									
14	5. 7. 13（木）1	脊髄損傷者・頸髄損傷者の ADL②	・脊髄損傷の損傷高位に対応する自助具の適応と種類					永瀬	
15	5. 7. 20（木）2	障がい構造の理解と分析	・国際生活機能分類（ICF）モデルに基づく生活障がいの理解 ・事例演習					丹野	
教 科 書 参 考 図 書		<教科書>◎PT・OT ビジュアルテキスト ADL（羊土社、柴喜崇ら編集） ◎生活環境学テキスト（南江堂、細田多穂） <参考図書>◎「ICF 国際生活機能分類」（中央法規出版） ◎「動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション」（医学書院、田中宏太佳ら編）							
履 修 上 の 注 意		・この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。 ・2年後期科目「生活支援系理学療法学Ⅰ」の復習をして臨んでください。 ・症例等の都合および全体調整のため、授業日程が変更になる場合があります。 ・内容により授業実施場所が異なります。授業前に連絡します。 ・演習・実技にふさわしい身だしなみ、服装で出席してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		・理学療法の対象者へのアプローチの多面性を学んでください。 ・皆さんの将来に必ず役立つ授業です。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域リハビリテーション学		理学療法学科 (専門科目)	准教授・丹野克子	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要	1) 地域リハビリテーションの概念、歴史的背景、活動、仕組みを講義する。 2) 地域リハビリテーションに関係する保健・医療・福祉領域の諸制度・社会資源・多職種連携その他の活動について講義する。								
一般目標	1) 地域リハビリテーションの概念、歴史的背景、活動、基本的制度を理解する。 2) 地域リハビリテーションを、保健・医療・福祉の領域から理解する。 3) 地域リハビリテーションにおけるチームアプローチを理解する。								
到達目標	1) 地域リハビリテーションの概念、歴史的背景、活動、関係職種、対象者を説明できる。 2) 地域リハビリテーションに関する基本的制度と社会資源を説明できる。 3) 地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動を説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1. 筆記試験 (60%) 2. レポート (40%)								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・ 学習方法		授業外 学習など		担当
1	5. 4. 12 (水) 3	地域リハビリテーションの概要 ・地域リハビリテーションの定義 ・地域包括ケアシステムと共生社会 ・地域リハビリテーションにおける自立支援 ・生活を支える理学療法のあり方 地域リハビリテーションの関係諸制度と理学療法士の関与 ・介護保険制度、障害者総合支援法等 ・介護予防（ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、リハビリテーション） ・医療圏と地域医療連携パス ・理学療法士の職域と関与			講義 討論 演習				丹野
2	5. 4. 19 (水) 3								
3	5. 4. 26 (水) 3								
4	5. 5. 10 (水) 3								
5	5. 5. 17 (水) 3								
6	5. 5. 24 (水) 3								
7	5. 5. 31 (水) 3								
8	5. 6. 7 (水) 3								
9	5. 6. 14 (水) 3	地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動①（小児リハビリテーションの地域活動）			オンライン講義				佐藤 ¹⁾
10	5. 6. 14 (水) 4	地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動②（海外での活動）			オンライン講義				外部 講師 ²⁾
11	5. 6. 21 (水) 3	地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動③（災害時の活動）			講義				丹野
12	5. 6. 22 (木) 1-2	パネルディスカッション「生活を見るときは」 理学療法学、看護学、社会学、社会福祉学などを基礎とする専門職の職種間の視点の類似と相違			看護学科「ジェネ ラリズム看護論」 と共同実施		授業後、レポ ート作成		丹野 遠藤 ^(和) ³⁾ 山田 ³⁾ 外部 講師 ⁴⁾
13									
14	5. 6. 28 (水) 3-4	地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割			前回授業とレポ ートに基づく討論 講義・討論		授業後、レポ ート作成・提出		丹野
15									丹野
教 参 考 図 書		<教科書>◎牧田光代ら編集 地域理学療法学 医学書院 <参考書>◎ヘルスプロモーション理学療法学会編集 理学療法士・作業療法士のためのヘル スプロモーション 南江堂							
履 修 上 の 注 意		・この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定 されています。 ・外部講師の都合等により、授業日程や順序の入れ替えなど、変更になる場合があります。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		地域リハビリテーションは、社会と時代のニーズに影響を受けて展開します。理学療法士もチ ームの一員として柔軟な対応が求められます。保健・医療・福祉の将来のビジョンを理解しな がら、地域リハビリテーションの理念と現状について、自分自身で考察してください。							
e-mail・研究 室 (連 絡 先)		丹野克子：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp							

1) 佐藤美里（なごみの陽訪問看護ステーション）、2) 調整中、3) 看護学科、4) 調整中

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域理学療法学		理学療法学科 (専門科目)	准教授・丹野克子	必修	4	前期	1	非該当	否
授業概要		・地域理学療法として実施されている具体的な場面と活動を講義する。 ・地域における理学療法士への期待を実践者である他の専門職が講義する。							
一般目標		・地域理学療法が提供される法制度、サービスを理解する。 ・地域で理学療法士に求められていることを理解する。							
到達目標		・地域理学療法の領域と内容を述べられる。 ・通所サービスと訪問サービスにおける理学療法の特徴と内容を述べられる。 ・地域における理学療法士に対するニーズと求められる役割を述べられる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		初回時に説明します。 1. レポートによる評価 (80%) 2. 演習への参加状況と成果 (20%)							
授業計画									
回	日付		授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習 など		担当
1	5. 4. 10 (月) 2		地域理学療法の理解		講義				丹野
2	5. 4. 10 (月) 3		介護保険制度のケアプランと理学療法プログラム		講義・演習				丹野
3	5. 4. 17 (月) 2		通所サービスにおける理学療法		講義・演習				丹野
4	5. 4. 17 (月) 3		訪問サービスにおける理学療法		講義・演習				丹野
5	5. 4. 24 (月) 2		在宅の終末期における理学療法		講義				丹野
6	5. 4. 24 (月) 3		高齢者の領域から理学療法士に期待すること		講義		【予習】高齢者の特性		外部講師 ¹⁾
7	5. 4. 24 (月) 4		障がい者の領域から理学療法士に期待すること		講義		【予習】総合支援法		外部講師 ²⁾
8	5. 4. 27 (木) 2		地域理学療法の実施に必要なこと		講義・演習				丹野
教 科 書 参 考 図 書			<教科書> ◎牧田光代ら編集 地域理学療法学 医学書院 <参考図書> 随時紹介						
履 修 上 の 注 意			・「地域リハビリテーション学」から連続する内容です。十分に復習して臨んでください。 ・「臨床実習Ⅴ」に直接つながる内容です。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ			地域における理学療法は、社会と時代のニーズに対応し、法・制度の影響を大きく受けます。 講義や課題に取り組みながら、社会から求められる理学療法とは何かを考えてください。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)			丹野克子：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp						

1) 調整中、2) 調整中

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法研究法		理学療法学科 (専門科目)	講 師・室伏 祐介	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要	研究論文を読み、理解するために必要となる基礎的な構成要素を講義・演習を通して教授する。								
一般目標	研究論文を理解して読めるようになることで、自身の研究実施の際の参考とできる基礎を身につける。								
到達目標	医学系研究論文の基本的な読み方を理解できるようになること。 文献を検索できるようになること。 研究論文を読解・要約できるようになること。 医学研究における倫理を理解できるようになること。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	課題レポートで評価する。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当		
1	5. 4. 10 (月) 2	理学療法と研究，論文の読み方	教科書に基づく講義			教科書の予習・復習	室伏		
2	5. 4. 17 (月) 2	研究方法， バイアス							
3	5. 4. 24 (月) 2	研究デザイン， PICO/PECO							
4	5. 5. 1 (月) 2	研究倫理， 倫理審査							
5	5. 5. 8 (月) 1 5. 5. 8 (月) 2	文献検索の方法	講義と演習			課題作成			
6									
7	5. 5. 15 (月) 1 5. 5. 15 (月) 2	研究領域・方法等	教員の研究領域に関する紹介			研究領域・方法の探索	学科 全教員		
8									
教 科 書 参 考 文 献	教科書：最新理学療法講座 理学療法研究法、医歯薬出版株式会社								
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない一定の他の科目に指定されています。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	初めから研究が得意な人はいませんので、苦手意識があるのは当然です。後期の理学療法研究法演習、4年次の卒業研究を経て、段階的に研究の基本を学習することができれば大丈夫です。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	室伏祐介：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法研究法演習		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科全教員	必修	3	後期	1	非該当	否
授業概要		理学療法学における研究の必要性や方法を教授する。							
一般目標		・研究の必要性、研究過程に関して理解する。 ・卒業研究を遂行するための基本を身につける。							
到達目標		研究に必要な次の項目について、ゼミを通して実施できる。 ・理学療法に関する研究テーマの設定 ・研究テーマを設定していくための先行研究検索・収集・読解 ・研究方法の理解 ・研究計画作成過程における討論 研究計画を発表することができる。 ・研究発表の方法の理解 ・研究計画のプレゼンテーション実施							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・ゼミ内での研究課題設定や研究計画の作成、卒業研究計画発表会でのプレゼンテーション ・各指導教員が評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1	5. 7. 27 (木) 2	ゼミ配置オリエンテーション	ゼミ配置決定、研究室での接遇、卒業研究の全体スケジュール		担任				
2	5. 10. 4 (水) 3	理学療法研究におけるデータ解析	医療分野の論文の投稿規定における統計学の取り扱いについて 理学療法学分野における統計学手法の変遷、データ表記		石川				
3	5. 10. 10 (火) 3		統計学的検定に必要な基礎知識、P 値、交絡因子、オッズ比						
4	5. 10. 10 (火) 4		ロジスティック回帰分析、相関と回帰、重回帰分析						
5	5. 10. 13 (金) 3		95%信頼区間、統計学的有意と臨床学的有意、カプランマイヤー生存分析、COX 比例ハザードモデル						
6	5. 10. 13 (金) 4		感度、特異度、カットオフ値、トレードオフ、偽陽性、偽陰性、メタ・アナリシス						
7-12		ゼミ 先行研究検討 研究計画作成 研究計画発表方法	ゼミ 各指導教員が、研究に必要な文献の収集方法や研究実施方法等について定期的あるいは必要に応じて集中的に指導する	研究課題設定・計画作成のため、自ら先行研究や情報の収集・検討を行う。	各指導教員				
13	6. 1. 15 (月) 2	卒業研究計画発表会オリエンテーション、発表準備	発表者としてのコミュニケーション・スキル		担任				
14 15	6. 1. 15 (月) 3 6. 1. 15 (月) 4	卒業研究計画発表会	研究紹介とポスターでの討論	発表時の討論とその後のゼミを通して計画を適宜修正する。	学科全教員				
教 科 書 参 考 図 書		授業中およびゼミ中に紹介する。							
履 修 上 の 注 意		自ら主体的に参加すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		新しい知見に到達しようという意欲をもって取り組むこと。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		鈴木 克彦：研究室 31・ksuzuki@yachts.ac.jp 永瀬外希子：研究室 23・tishiguri@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法卒業研究		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科全教員	必修	4	通年	2	非該当	否
授業概要		・研究計画に基づいて研究を実施し、卒業論文を完成させるまでの一連の過程を経験する。 ・研究結果をまとめ、ポスターおよび口述での発表を行う。							
一般目標		・研究計画の立案から研究の実施、結果の解析、考察と結論の導出までの一連の基本的なプロセスを理解し 実行することができる。 ・研究論文の作成、プレゼンテーションについての基本的な知識・技術を身につける。							
到達目標		・理学療法に関する研究テーマを見出し、その検証のために積極的に行動できる。 ・研究テーマに関する先行研究の検索と読解を行い、適切に引用できる。 ・自らの研究テーマを検証するための研究計画を立案することができる。 ・研究計画に従って研究を実施し、得られた結果をまとめ、結果に対する妥当な考察、結論の導出ができる。 ・研究内容を他者に伝えるための発表と論文作成ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・ゼミを通して、論文作成を含む研究への取り組み方を評価します。(評価者：指導教員) ・ポスターおよび口述による研究発表を評価します。(評価者：学科全教員)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当		
	4月～ 12月初旬	研究の実施 対象者への説明と同意 実験や調査の実施 研究結果の解析 目的・仮説に対応した考察 結論の導出	各指導教員（ゼミ担当教員）が、 学生の選択した研究内容や実施 状況に応じて、資料の収集方法や 研究実施方法、解析方法、結果の 解釈、文章表現などを定期的、ある いは必要に応じて集中的に指 導する。		自らの研究課題に 関する情報の収集に 努めるとともに、研 究計画と指導教員に よる指示に沿って、 積極的に研究を実行 して下さい。		ゼミ担当 教員		
		研究のまとめ 卒業論文の作成 発表準備							
		プレゼンテーションおよび 討論方法							
	5. 10. 26 (木) 1-5	卒業研究発表会 (ポスター発表)	ポスター発表を行う。				学科 全教員		
5. 10. 27 (金) 1-5	卒業研究発表会 (口述発表)	口述発表を行う。座長・計時係を 学生が担当する。							
教 科 書 参 考 図 書		研究テーマに関する資料、参考図書等は、指導教員と相談しながら選定します。							
履 修 上 の 注 意		測定機器は非常に高額で、他の学生や大学院生、教員も共同使用します。使用方法を遵守し、慎重 に取り扱ってください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		新しい知見に到達しようという意欲をもって取り組んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		丹野克子：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床実習Ⅰ	理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要	臨床実習Ⅰは臨床場面での初めての実習である。実習では多様化する理学療法を考慮し、各実習施設の目的や役割、組織等のもとより、そこで活躍する理学療法士の役割や業務内容を学習する。							
一般目標	・ 基本的理学療法の体験を通して、自己の理学療法感を育成できる。 ・ 対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 ・ 理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動ができる。							
到達目標	1. 清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる。 2. 実習施設等の規則や心得を遵守できる。 3. 与えられた課題を確実に遂行することができる。 4. 対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自身の感情を制御して接することができる。 5. 指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる。 6. 理学療法業務の概略が理解できる。 7. 病院・施設における理学療法部門の位置付けを把握できる。 8. 理学療法に対する意欲や向上心がみられる。 9. 守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる。 10. チーム医療の必要性を認識することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実習後発表（30%）、課題レポート（20%）、臨床実習Ⅰ評価（50%）を基に総合的に判定します。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	6. 1. 10（水）5 6. 1. 11（木）5	実習前セミナー	臨床実習Ⅰの学習内容や諸手続きについて説明する。 臨床実習に臨む心構えについて、グループ討議を行なう。					赤塚、 他
	6. 2. 12（月） ～ 6. 2. 19（月）	各実習施設における 臨床実習Ⅰ	①病院・施設内の各部門を見学する。 ②理学療法の評価・治療を見学する。 ③日常業務に参加する。 ④カンファレンスや勉強会に参加する。			解剖学、生理学、 運動学、リハビリ テーション概論、 理学療法概論など 復習を必要とす る。		
	6. 2. 20（火）2	実習後セミナー	レポートと評価書を提出する。 実習内容を説明し、自己評価による目標達成度や課題を発表する。					赤塚、 他
教 科 書 参 考 図 書	臨床実習の手引き、臨床実習評価表							
履 修 上 の 注 意	理学療法士になる立場であることを十分に自覚し真摯な態度で臨むこと。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	初めての臨床実習です。臨床実習施設では責任ある態度と言動に心がけること。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場での見学を行い、各施設の目的や役割、理学療法士の役割や業務内容を学ぶ科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	赤塚清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床特論		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		1. 臨床実習に向け、これまでの学内学習を総合的・応用的に振り返り、補填しておくべき技術を教授する。 2. 臨床実習に向け、実習生としてふさわしいコミュニケーションを教授する。 3. 臨床実習で求められる記録法を教授する。 4. 理学療法士が行う動作分析方法を教授する。 5. 理学療法における介助方法を教授する。 6. 理学療法士が患者等に行う医療面接方法を教授する。							
一般目標		1. 臨床実習に臨む意欲を高め、必要な知識・技術の積み上げとブラッシュアップを行う。 2. 主体的・自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。 3. グループ学習の場において、適切な自己表現と葛藤の解消ができる。							
到達目標		臨床実習を行えるレベルで次のことができる 1. 臨床実習でお世話になる方々（患者等の対象者・指導者・他職種を含む実習施設職員）と適切にコミュニケーションできるような言動をとることができる。 2. 適切な記録ができる。 3. 観察による動作分析方法ができる。 4. 患者等に対して必要な介助ができる。 5. 患者等から直接、必要で十分な情報収集ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		一般目標と到達目標に関するレポート課題で評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			担当		
1	5. 4. 14 (金) 3	ガイダンス 統合と解釈の進め方		・説明（内容とスケジュール、成績評価方法、グループ学習方法） ・演習（統合と解釈）			丹野 室伏 工藤		
		知識と技術の総復習		・グループ学習			理学 療法士 教員		
2	5. 4. 14 (金) 4	記録法		・症例レポート、症例報告レジュメ、実習ノート、SOAP の記録方法			南澤		
3-5	5. 4. 21 (金) 3-5	リスクの気づきと配慮方法		・臨床場面で起こるインシデント・アクシデントリスクに気づき、配慮する方法			丹野 工藤		
6-8	5. 5. 12 (金) 3-5	介助法		・基本的なリフティングの方法			永瀬 赤塚 鈴木栄		
9-11	5. 6. 16 (金) 3-5	医療面接		・模擬患者との面接演習			井上 ¹⁾ 永瀬・他		
12-14	5. 6. 30 (金) 3-5	臨床実習におけるコミュニケーション		・臨床実習に向けた心構え ・実習における態度とコミュニケーション			丹野 工藤		
教 科 書 参 考 図 書		・指定なし。 ・講義時に資料を配布する。							
履 修 上 の 注 意		・この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。 ・長期間の臨床実習前に、これまでの学内学習を補填して習得する知識や技術を確認します。これまでの学習をしっかりと復習し、繰り返し練習して臨んでください。 ・グループ学習では、グループメンバー同士お互いに高め合う気持ちをもって協力しあい、全員が達成感を得られるように進めてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		これまでの学習を統合し、単なる知識や技術ではなく、スキル（うまさ、巧みさ）の向上に取り組んでください。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 工藤：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp 鈴木(克)：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 渡部：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 鈴木(栄)：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp							

1) 井上京子：元山形県立保健医療大学看護学科准教授

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床実習Ⅱ		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	3	通年	4	非該当	否
授業概要		臨床実習Ⅱは、客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination：OSCE)、山形県立中央病院でのプレ実習と各実習施設での4週間の臨床実習から構成される。 OSCEでは、模擬理学療法場面での医療面接、検査・測定、報告の技術を試験する。 プレ実習では、理学療法場面の見学や体験を通し、各実習施設での実習へ向かうための事前学習を実践する。 各実習施設の実習では、理学療法を実施する上で必要な情報を収集した上で、対象者に検査・測定を適切に実施し、それらの内容の統合と解釈を行う。さらに、問題点の抽出と目標設定の方法について学習する。							
一般目標		・理学療法の対象者に対して理学療法評価を行なうことができる。 ・対象者の身体状況に応じて、根拠に基づく目標設定ができる。 ・問題点抽出および目標設定から理学療法の方針を立てることができる。							
到達目標		1. 検査・測定や対象疾患に対する基本的な知識がある。 2. 検査項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由を説明することができる。 3. 検査・測定を正確に実施することができる。 4. 対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明することができる。 5. 短期ゴール、長期ゴールを設定することができる。 6. 基本的治療・指導項目を選択し、プログラムを立案できる。 7. 実施内容を診療記録に記載することができる。 8. 症例に関する口頭および文書による報告を適切に行うことができる。 9. 指導者の助言を仰ぎながら、他部門との情報交換ができる。 10. 指導者の助言を仰ぎながらリスクの配慮、管理ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実習前評価はOSCE、実習後評価は症例報告と実習後試験で行う。 臨床実習Ⅱの評定は、セミナー、実習前評価、実習後評価および臨床実習Ⅱ評価をもとに総合的に判定する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				担当		
	5. 7. 3 (月) 3-4	臨床実習前セミナー	臨床実習Ⅱの学習内容や諸手続について説明する。				赤塚 他		
	5. 7. 13 (木) 2	OSCE ガイダンス	OSCE の説明				丹野・赤塚 他		
	5. 7. 26 (水) 1-5	OSCE	模擬患者を対象にした理学療法の検査・測定、評価と報告				理学療法士 教員		
	5. 7. 31 (月) 3-4	OSCE まとめ	OSCE の振り返り				丹野・赤塚 他		
	後日連絡	プレ実習①～⑤	山形県立中央病院において臨床の場を体験する。				赤塚・室伏 他		
	5. 9. 4 (月) ～ 5. 9. 29 (金)	各実習施設での臨床実習	① 症例に関する情報を収集する。 ② 検査・測定を行う。 ③ 一般情報、検査・測定結果を整理、統合する。 ④ 問題点を抽出する。 ⑤ 目標を設定する。 ⑥ 基本的な治療プログラムを立案する。 ⑦ 記録および報告を適切に行う。						
	5. 10. 2 (月) 1-3	実習後セミナー	レポートと評価書を提出する。 実習内容を説明し、自己評価による目標達成度や課題を発表する。				赤塚 他		
		症例発表会	各実習施設で担当した症例について、症例発表会での報告とディスカッションを行う。				理学療法士 教員		
	5. 10. 3 (火) 2-5	実習後試験	各実習施設で担当した症例についての実技プレゼンテーションによる試験を行う。				理学療法士 教員		
教 参 考 文 献		臨床実習の手引き、臨床実習評価表、配布資料							
履 修 上 の 注 意		理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		臨床実習では言葉遣い、医学用語の理解、健康状態など配慮しなければならないことが多々あります。評価技術やトランスファーは正確にできるように十分に練習し、これまでに学習した知識や技術をしっかりと復習して臨んでください。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、基本的な治療プログラムの立案まで行う科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」として扱います。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		赤塚清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床実習Ⅲ		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	3	後期	8	該当	否
授業概要		臨床実習施設において、臨床実習指導者の適切な指導・監督のもと基本的な理学療法を自律して行う。							
一般目標		・理学療法の対象者に対して理学療法評価を行なうことができる。 ・対象者の身体状況に応じて、根拠に基づく目標設定ができる。 ・問題点抽出および目標設定から理学療法治療・指導計画の立案ができる。 ・理学療法治療・指導ができる。 ・再評価・最終評価を行なうことができる。							
到達目標		1. 治療プログラムに関する目的、技術等の基本的知識がある。 2. 問題点やゴールに対応した治療プログラムを立案することができる。 3. 治療におけるオリエンテーションと動機付けができる。 4. 基本的な治療（技術）を実施できる。 5. 症状や治療結果に合わせて、適切に治療プログラムを変更することができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		実習前評価は実習前試験、実習後評価は症例報告と実習後試験で行う。 臨床実習Ⅲの評価は、セミナー、実習前評価、実習後評価および臨床実習Ⅲ評価をもとに総合的に判定する。							
授業計画									
回	日付		授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				担当	
	5. 10. 12（木）1-5		実習前試験	ペーパーペイシエント（紙上患者）による理学療法評価および理学療法治療計画立案と実地問題による試験を行う。				理学療法士教員	
			臨床実習前セミナー	臨床実習Ⅲの学習内容や諸手続について説明する。				赤塚 他	
	5. 10. 30（月） ～ 5. 12. 22（金）		各実習施設での臨床実習	① 症例に関する情報を収集する。 ② 検査・測定を行う。 ③ 一般情報、検査・測定結果を整理、統合する。 ④ 問題点を抽出する。 ⑤ 目標を設定する。 ⑥ 治療プログラムを立案する。 ⑦ 治療プログラムを実施する。 ⑧ 再評価を実施する。 ⑨ 症例レポートを作成する。					
	5. 12. 25（月）2-4		臨床実習後セミナー	レポートと評価書を提出する。 実習内容を説明し、自己評価による目標達成度や課題を発表する。				赤塚 他	
			症例発表	ポスター発表				理学療法士教員	
	5. 12. 26（火）2-5		実習後試験	各実習施設で担当した症例についての実技プレゼンテーションと実地問題による試験を行う。				理学療法士教員	
教 科 書 参 考 図 書			臨床実習の手引き、臨床実習評価表、配布資料						
履 修 上 の 注 意			理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ			評価技術の練習や基本的な理学療法治療の復習を十分に行い、自信を持って臨床実習に臨んでください。臨床現場で多くの経験を積むことができるよう努力してください。 あらかじめ修得していなければならない一定の科目は以下のとおり 理学療法評価学Ⅱ、筋骨格系理学療法学Ⅱ、神経系理学療法学Ⅰ、神経系理学療法学Ⅱ、小児理学療法学Ⅱ、高齢期理学療法学、内科系理学療法学Ⅰ、内科系理学療法学Ⅱ、物理療法学、義肢装具学、生活支援系理学療法学Ⅱ、地域リハビリテーション学、理学療法研究法、臨床特論 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案の上、基本的な理学療法を実施する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)			赤塚清矢：14 研究室 sakatsuka@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床実習Ⅳ		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	4	前期	8	非該当	否
授業概要	臨床実習施設において、臨床実習指導者の適切な指導・監督のもと基本的な理学療法を自律して行う。								
一般目標	・理学療法の対象者に対して理学療法評価を行なうことができる。 ・対象者の身体状況に応じて、根拠に基づく目標設定ができる。 ・問題点抽出および目標設定から理学療法治療・指導計画の立案ができる。 ・理学療法治療・指導ができる。 ・再評価・最終評価を行なうことができる。								
到達目標	1. 治療プログラムに関する目的、技術等の基本的知識がある。 2. 問題点やゴールに対応した治療プログラムを立案することができる。 3. 治療におけるオリエンテーションと動機付けができる。 4. 基本的な治療（技術）を実施できる。 5. 症状や治療結果に合わせて、適切に治療プログラムを変更することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実習前評価は実習前試験、実習後評価は症例報告と実習後試験で行う。 臨床実習Ⅳの評価は、セミナー、実習前評価、実習後評価および臨床実習Ⅳ評価をもとに総合的に判定する。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法					担当	
	5. 4. 26（水）1-4	実習前試験	ペーパーペイシェント（紙上患者）による理学療法評価および理学療法治療計画立案と実地問題による試験を行う。					理学療法士 教員	
	5. 5. 8（月）2	臨床実習前セミナー	臨床実習Ⅳの学習内容や諸手続について説明する。					赤塚 他	
	5. 5. 15（月） ～ 5. 7. 7（金）	各実習施設での臨床実習	① 症例に関する情報を収集する。 ② 検査・測定を行う。 ③ 一般情報、検査・測定結果を整理、統合する。 ④ 問題点を抽出する。 ⑤ 目標を設定する。 ⑥ 治療プログラムを立案する。 ⑦ 治療プログラムを実施する。 ⑧ 再評価を実施する。 ⑨ 症例レポートを作成する。						
	5. 7. 10（月）2	臨床実習後セミナー	レポートと評価書を提出する。 実習内容を説明し、自己評価による目標達成度や課題を発表する。					赤塚 他	
	5. 7. 10（月）3-4	症例発表	ポスター発表					理学療法士 教員	
	5. 7. 11（火）2-5	実習後試験	各実習施設で担当した症例についての実技プレゼンテーションと実地問題による試験を行う。					理学療法士 教員	
教 科 書 参 考 図 書		臨床実習の手引き、臨床実習評価表、配布資料							
履 修 上 の 注 意		理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		評価技術の練習や基本的な理学療法治療の復習を十分に行い、自信を持って臨床実習に臨んでください。臨床現場で多くの経験を積むことができるよう努力してください。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床実習Ⅲでの経験を踏まえ、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案の上、基本的な理学療法を実施する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		赤塚清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床実習Ⅴ		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	4	前期	1	非該当	否
授業概要	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの見学を行い、実践的な地域理学療法を学ぶ。								
一般目標	・地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解する。 ・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおける理学療法を理解する。 ・地域包括ケアシステムに関与する関連専門職種の役割を理解する。								
到達目標	1. 地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を説明することができる。 2. 通所リハビリテーションの理学療法を説明することができる。 3. 訪問リハビリテーションの理学療法を説明することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	臨床実習Ⅴの評定は、実習レポート（50%）およびプレゼンテーション（50%）にて判定する。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				担当		
	5. 7. 19（水）1	オリエンテーション					丹野・赤塚		
	5. 7. 19（水）2-5	地域理学療法の実際	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおける理学療法の講義と演習				外部講師		
	5. 7. 17（月） ～ 5. 8. 4（金）	通所リハビリテーション提供 施設での実習	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおける理学療法の見学実習						
	通所リハビリテーション：2日 訪問リハビリテーション：1日	訪問リハビリテーション提供 施設での実習							
	後日連絡	実習内容のまとめ	実習内容についてのディスカッション				丹野・赤塚		
	後日連絡	実習後報告会	実習内容のプレゼンテーション				理学療法士 教員		
教 科 書 参 考 図 書	資料は適宜、配布します。								
履 修 上 の 注 意	理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの見学を行い、実践的な地域理学療法を学ぶ科目です。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解することは重要です。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	赤塚清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 丹野克子：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp								

(3) 作業療法学科

専門科目（作業療法学科）

科目名	頁	科目名	頁
作業療法学概論	237	内部障がい作業療法学	263
作業療法国際比較論	239	認知機能作業療法学	264
基礎作業学	240	高齢期作業療法学	266
基礎作業学実習	242	高齢期作業療法学演習	267
運動学Ⅰ	243	高齢期作業療法学実習	268
運動学Ⅱ	244	日常生活活動学	269
体表解剖学	245	地域作業療法学概論	270
作業療法管理学	246	地域作業療法学Ⅰ	271
作業療法評価学概論	247	地域作業療法学Ⅱ	272
作業療法評価学演習Ⅰ	248	福祉用具・住環境整備学	273
作業療法評価学演習Ⅱ	249	職業関連活動学	274
作業療法評価学演習Ⅲ	250	作業療法研究法	275
作業療法評価学実習	252	卒業研究	276
小児期作業療法学	253	見学実習特論	277
小児期作業療法学演習	254	総合実習Ⅰ特論	279
小児期作業療法学実習	256	総合実習Ⅱ特論	280
身体機能作業療法学	257	総合実習Ⅲ特論	281
身体機能作業療法学演習	258	見学実習	282
身体機能作業療法学実習	259	総合実習Ⅰ	283
精神機能作業療法学	260	総合実習Ⅱ	285
精神機能作業療法学演習	261	総合実習Ⅲ	287
精神機能作業療法学実習	262		

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法学概論		作業療学科 (専門科目)	教 授・藤井 浩美 教 授・佐藤 寿晃	必修	1	前期	2	非該当	否
授業概要		作業療法 (Occupational Therapy: OT) とは何かについて教授する。つまり、生活上行なわれる活動を通じて、対象者の健康で安寧な生活を促進する医療と生活を結ぶ専門職であることを概説する。OT の対象は、生活に支障を来した乳幼児期から高齢期までの心身に障がいを抱える人や予測される人であり、その人を支える家族や地域社会であることを教授する。そして、OT で用いる作業（活動）は、生活の活動全般であり、仕事、趣味、地域への参加など含む。したがって、OT が提供される保健、医療、福祉、教育、就労などの領域について概説する。 そして、早期臨床体験を通じて、作業療法の臨床場面を見学し、作業療法に関する学習意欲の向上を図る。							
一般目標		学生は OT に必要な基礎知識を目的、対象、手段、領域の側面から理解する。							
到達目標		学生は、OT に必要な基礎知識を目的、対象、手段、領域の側面から説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		毎回、講義内容をまとめたレポート（600 字程度）で評価します。各回の講義終了時にレポートの課題を提示します。レポートは、講義内容の理解度で判断します。基準は、理解度に応じて A、B、C、D までを合格とし、F（59 点以下）を不合格とします。 レポート提出は講義開始までに提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0 点となります。到達目標に達したか否かの判定は、すべてのレポートの合計が 60%以上とします。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法			授業外学習	担当
1	5. 4. 14（金）1	作業療法は何か			人間の健康, 病気, 障害について説明できる				藤井
2	5. 4. 21（金）1	作業療法―その起源と伝承される原理			伝承される原理と作業療法の目的について説明できる			レポート提出	藤井
3	5. 4. 28（金）1	作業療法の仕組み 1			情報収集段階の仕組みが説明できる			レポート提出	藤井
4	5. 5. 12（金）1	作業療法の仕組み 2			初回評価, 治療・支援計画の仕組みが説明できる			レポート提出	藤井
5	5. 5. 19（金）1	作業療法の仕組み 3			治療・支援の実践が理解できる			レポート提出	藤井
6	5. 6. 2（金）1	作業療法の実際 1			作業療法士の実際が理解できる			レポート提出	スポット
7	5. 6. 16（金）1	作業療法の実際 2			作業療法士の実際が理解できる			レポート提出	スポット
8	5. 6. 23（金）1	OT 部門の管理と運営			OT 部 門 を 通 して Vision , Leadership, Management, Negotiation が理解できる			レポート提出	佐藤
9	5. 6. 30（金）1	診療報酬と医療経済			作業療法に関わる診療報酬の概要について説明できる			レポート提出	佐藤
10	5. 7. 7（金）1	作業療法の国際性			世界と日本の作業療法が説明できる			レポート提出	藤井
11 ～ 15	別途掲示	作業療法士の資格を有する教員が作業療法士の働く施設へ学生とともに赴く。そして、学生に作業療法の実際を見学させるとともに、作業療法の必要性を教授する。			早期臨床体験を通じて、作業療法の臨床場面を見学し、作業療法に関する学習意欲を向上させる				佐藤 森 千葉 鈴木 外川 佐々木 井上 川勝 高畑
レポート提出		次回 9 時までに藤井浩美のメールアドレスへ送信する。							
早期臨床体験のレポート		別途、各教員から示された期限までに、示された場所に提出する。							
教 科 書 参 考 図 書		教科書：矢谷令子, 福田恵美子編：作業療法実践の仕組み改訂第 2 版. 協同医書出版社. 東京, 2014. 教科書：藤井浩美, 小山内隆生, 黒渕奈寿編：日常生活活動の作業療法. 中央法規出版株式会社, 2014. 参考図書：矢谷令子編：作業療法学概論第 2 版. 医学書院. 東京, 2011. ：杉原素子編：作業療法概論第 3 版. 協同医書出版社. 東京. 2010.							
履 修 上 の 注 意		予習をしてから授業に臨んでください。 修得状況をその日の Minute paper を用いて確認します。							

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	専門科目です．欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりして、個人の意見を持って授業に参加してください。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	藤 井：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp 佐 藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 森 ：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp 千 葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp 鈴 木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp 外 川：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp 佐々木：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp 井 上：理作共同研究室 kainoue@yachts.ac.jp 川 勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp 高 畑：理作共同研究室 mtakahata@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法国際比較論		作業療法学科 (専門科目)	CUS 教員 作業療法学科全教員	必修	4	後期	1	非該当	可
授業概要		本学作業療法学科は、開学以来、米国コロラド州立大学(Colorado State University, 以下 CSU)応用人間学部作業療法学科より、異なる専門領域の教員を招聘して、本講義を実施してきた。 講義の目的は近年の米国における作業療法の状況や医療・福祉などのトピックを講義し、国際感覚を養うと共に、両国における将来の作業療法の在り方を考察するものである。							
一般目標		・米国と日本の作業療法の相違点について理解する。 ・両国の作業療法の相違が、国や州の法律が大きく異なるために影響を受けていることを理解する。 ・両国の相違が民族・文化によって異なっていることを理解する。 ・授業において、積極的に英語を理解し、発言する努力を行うことの重要性を理解する。							
到達目標		・講義内容を理解し、米国での作業療法についての知見を持つ ・講義テーマについて、日米比較を行うことができる(和文レポート) ・講義に英語で質問し、質疑応答を経験する							
成績評価方針 評価方法 および基準		レポート課題「講義内容について、米国と日本での状況について比較し、考察する(字数 2000 字程度)」により判断する。提出期限は 12 月末日とする。 成績判定は、F 判定: 59 以下臨床家を志す学生として不十分であると思われる D 判定: 60-69 講義内容をおおまかには理解している C 判定: 70-79 臨床実習に必要な知識の習得や応用ができると総合的に判断される B 判定: 80-89 大学生として発展的な意見が述べられている A 判定: 100-90 秀でた独創的知見が述べられている							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1 2 3 4 5 6 7 8	後日連絡	オリエンテーション・総説 米国の臨床実習について これまでの研究成果からの知見 学生の卒業研究へのアドバイス		主に講義形式で実施される。 CSU 教員が講義を行う。 本学教員が通訳を行うこともある。 臨床実習での体験や卒業研究での関連領域を英語で発表することも行われる。		テーマに関する教科書などを図書館で読むことが望ましい。 また、米国作業療法学会誌 AJOT などを参照し、時流をつかみ、授業で質問すると良い。		CSU 教員、 作業療法 学科教員	
教科書 参考図書		教科書は特に指定しない。 米国作業療法学会誌 American Journal of Occupational Therapy, AJOT(図書館から Web 閲覧可)から関係するトピックを読むと良い。							
履修上の注意		講義資料(英文)を事前に配布することがあるので、各自で内容を確認することが望まれる 講義中に質問のある場合は、積極的に質問してほしい。できるだけ英語での質問が期待される。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		授業にて熱心な討議に参加し、自己研鑽することが期待される。 講義後、CSU 教員へのメールにての質問も推奨される。 本講義は、毎年、内容が異なるため、他学年の聴講は推奨される。							
e-mail・研究室 (連絡先)		科目担当者 佐々木学: 研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎作業学		作業療法学科 (専門科目)	教 授・藤井 浩美 准 教 授・鈴木 由美 非常勤講師・小山内 隆生	必修	1	前期	1	非該当	否
授業概要		作業療法(Occupational Therapy: OT)における作業の価値と適応について、理解する							
一般目標		作業の適応と作業の分類について理解する。作業分析の構造を理解する。							
到達目標		作業の適応と作業の分類、作業分析の構造を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		骨格筋レポート、作品の作業分析のレポートで評価します。レポートは、理解度で判断します。骨格筋レポート提出は、下記の通りです。13 時まで提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0 点となります。 到達目標に達したか否かの判定は、骨格筋レポート合計と作品の作業分析レポートが 60%以上とします。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 14 (金) 4	OT と作業			作業が OT に用いられる理由を説明できる。		課題レポート作成	藤井	
2	5. 4. 21 (金) 4	作業活動			人―作業―環境の関係が説明できる。			鈴木	
3	5. 4. 28 (金) 4	作業分析 1			いくつかの作業分析の方法が説明できる。			鈴木	
4	5. 5. 12 (金) 4	作業分析 2			作業活動に必要な身体機能・精神機能を説明できる			鈴木	
5	5. 5. 13 (土) 3	作業分析 3			作業と道具使用との関連を説明できる。			小山内 藤井	
6	5. 5. 13 (土) 4	心理社会的技能と作業分析			精神科作業療法領域における作業分析について説明できる。			小山内 藤井	
7	5. 5. 13 (土) 5	紙細工の実際			紙細工の方法を説明できる。			小山内 藤井	
8	5. 5. 19 (金) 4	紙細工の作業・動作分析			代表的な紙細工の作業・動作分析ができる。			鈴木	
教 科 参 考 図 書		教 科 書：新・徒手筋力検査法（第 10 版） 参考図書：鈴木明子，福田恵美子訳：フィドラーのアクティビティ論。医学書院，2007。 小林夏子，福田恵美子：基礎作業学。医学書院，2007。							
履 修 上 の 注 意		1 回目の講義には、必ず、新・徒手筋力検査法（第 10 版）を持参下さい。 5 月 13 日(土)は 12 時 50 分までに、作業療法評価実習室（1 階南の体育館側）に集合してください。紙細工を行いますので、物差し、カッターを持参下さい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望します。 課題は、提出〆切を厳守してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		藤 井：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp 鈴 木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp 小山内：弘前大学 小山内研究室 osanai@hirosaki-u.ac.jp							

●課題 1：骨格筋レポートの提出

作業・動作分析の基本である骨格筋の名称と形態を覚えるための課題です。そのために、津山直一：新・徒手筋力検査法（第 10 版）の図を参考にして描き，筋名，起始，付着，神経支配をレポートしてください。レポートの作成方法は、初回時の講義で説明します。

課題 番号	提出日	各週の課題（運動名と描画する図版のページ）
1	4. 21（金）13 時	肩甲骨外転と上方回旋 pp97-101, 肩甲骨挙上 pp102-104, 肩甲骨内転 pp105-107, 肩甲骨下制と内転 pp108-110
2	4. 28（金）13 時	肩甲骨内転と下方回旋 pp111-115, 広背筋 116-119, 肩関節屈曲 pp122-125, 肩関節伸展 pp126-129
3	5. 12（金）13 時	肩関節外転 pp130-133, 肩関節水平外転 pp135-137, 肩甲骨水平内転 pp138-142, 肩関節外旋 pp143-147, 肩関節内旋 pp148-153, 肘関節屈曲 pp154-158
4	5. 19（金）13 時	肘関節伸展 pp159-163, 前腕回外 pp164-167, 前腕回内 pp169-172, 手関節屈曲 pp173-177, 手関節伸展 pp178-182
5	5. 26（金）13 時	指の PIP 関節および DIP 関節屈曲 pp184-189, MP 関節伸展 pp190-193, MP 関節屈曲 pp194-198, 指外転 pp199-200, 指内転 pp201-202,
6	6. 2（金）13 時	母指 MP と IP 屈曲 pp205-207, 母指 IP 関節屈曲 p208, 母指 MP と IP 伸展 pp209-212, 母指外転 pp213-215, 母指内転 pp216-218, 対立運動 pp219-221

●課題 2：作品の作業分析レポートの提出

5 月 13 日（土）の集中講義で実施した紙細工の作業分析し、6 月 9 日（金）13 時まで電子メールで小山内先生と藤井までへ提出す。

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎作業学実習	作業療法学科 (専門科目)	教 授・藤井 浩美 准教授・鈴木 由美 講 師・佐々木 学 非常勤講師 加藤 拓彦	必修	1	後期	1	非該当	否
授 業 概 要	作業療法(Occupational Therapy: OT)で用いられる様々な介入技法を通じて、一つ一つの技法の適用と多様な領域で活用について、理解する。							
一 般 目 標	作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、作業分析をもとに理解する。							
到 達 目 標	作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、作業分析をもとに説明できる。							
成績評価方針	作業分析のレポートで評価します。レポートは、理解度で判断します。レポート提出は、次回講義開始時に提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0点となります。							
評 価 方 法 および基準	到達目標に達したか否かの判定は、レポートの合計が60%以上とします。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1 2	5. 9. 30 (土) 2-3	陶芸の治療的応用	陶芸の治療作用と副作用が説明できる。				藤井 加藤	
3 4	5. 9. 30 (土) 4-5	造形と素焼の実際、作業分析	造形と素焼の方法を説明できる				藤井 加藤	
5 6	5. 10. 5 (木) 1-2	認知・作業のトレーニング	物と自分、他者と自分の関係を理解し、説明できる			実技に関しては、創造性が必要ですので、日ごろから物づくりを行ってください。 作業分析に必要な筋の起始、停止、神経支配、作用をしつかりと学んでください。	藤井	
7 8	5. 10. 12 (木) 1-2	革細工の実際と作業分析	素材である革の特性が理解できる				鈴木	
9 10	5. 10. 19 (木) 1-2	革細工の実際と治療的応用	作品づくりを通して、革細工の一連の技法を理解できる				鈴木	
11 12	5. 10. 26 (木) 1-2	簾細工の実際	作品と作業工程との関連が理解できる				鈴木	
13 14	5. 11. 2 (木) 1-2	音楽の治療的応用	音楽を通しての関わり方、治療への転換が理解できる				鈴木 スポット	
15 16	5. 11. 18 (土) 2-3	絵付け・施釉の実際	絵付け・施釉の方法を説明できる				藤井 加藤	
17 18	5. 11. 18 (土) 4-5	本焼きの実際、作業分析	本焼きの方法を説明できる。作品の治療的利用について説明できる				藤井 加藤	
19 20	5. 11. 9 (木) 1-2	絵画：集団で行う作業活動	集団でひとつの作品を作りあげる意義が理解できる				鈴木	
21 22	5. 11. 16 (木) 1-2	グループワーク：自分を他者に理解してもらう	自分の考えを他者に伝えることを治療的に指導する				佐々木	
23 24	5. 11. 30 (木) 1-2	環境移行と社会に適応するための技能	挨拶・感謝・謝罪・友人を作る・文化的適応の意味				佐々木	
25 26	5. 12. 7 (木) 1-2	セルフコントロールとレジリエンス	ストレス・困難を抱えても、明るく前向きに生きる			佐々木		
27 28	5. 12. 14 (木) 1-2	社会的マナー	他者と協業するために必要な技能(距離、アサーション)			佐々木		
29 30	5. 12. 21 (木) 1-2	アドバイスなど	他者から必要とされるために必要な技能を理解する			佐々木		
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：鈴木明子，福田恵美子訳：フィドラーのアクティビティ論．医学書院，2007． 小林夏子，福田恵美子：基礎作業学．医学書院，2007．							
履 修 上 の 注 意	9月30日(土)と11月18(土)は10時20分までに、作業療法評価実習室（1階南の体育館側）に集合してください。陶芸を行います。エプロンとタオルを持参下さい。加えて、9月30日(土)に雑巾1枚を提供願います。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望します。課題は、提出〆切を厳守してください。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	藤 井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 鈴 木：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp 佐々木：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp 加 藤：弘前大学 加藤研究室 takuhiko@hirosaki-u.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
運動学Ⅰ	理学・作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 教 授・加藤 浩 教 授・鈴木 克彦 准教授・仁藤 充洋 講 師・室伏 祐介	必修	1	後期	2	非該当	否
授業概要	人体にある様々な関節の構造やその機能・メカニズムについて教授する。 身体の基本的な動作を運動学・運動学的に解説する。							
一般目標	骨・関節・筋の形態、機能の面から、身体の運動の仕組みを理解できる。							
到達目標	上肢・下肢・体幹の関節運動およびその仕組みを説明できる。 主要な筋の起始、停止、走行、作用、神経支配を説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価は定期試験で判断します。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 25 (月) 5	運動学概説	身体運動学の捉え方と 時間・空間的表現				加藤	
2	5. 9. 27 (水) 5	運動器の構造と機能	関節分類、骨格筋構造、 運動方向、筋収縮				佐藤 仁藤	
3	5. 10. 2 (月) 5	肩複合体の運動学Ⅰ	肩関節複合体の構造と 運動・筋Ⅰ				佐藤 仁藤	
4	5. 10. 4 (水) 5	肩複合体の運動学Ⅱ	肩関節複合体の構造と 運動・筋Ⅱ				佐藤 仁藤	
5	5. 10. 11 (水) 5	肘関節・前腕の運動学	肘および前腕の構造と 運動・筋				佐藤 仁藤	
6	5. 10. 16 (月) 5	手関節・手指の運動学Ⅰ	手関節および手指の構 造と運動・筋Ⅰ				佐藤 仁藤	
7	5. 10. 18 (水) 5	手関節・手指の運動学Ⅱ	手関節および手指の構 造と運動・筋Ⅱ				佐藤 仁藤	
8	5. 10. 23 (月) 5	股関節の運動学Ⅰ	股関節の構造と運動・ 筋Ⅰ				室伏	
9	5. 10. 25 (水) 5	股関節の運動学Ⅱ	股関節の構造と運動・ 筋Ⅱ				室伏	
10	5. 10. 30 (月) 5	膝関節の運動学	膝関節の構造と運動・ 筋				室伏	
11	5. 11. 1 (水) 5	足関節・足部の運動学	足関節・足部の構造と 運動・筋				鈴木	
12	5. 11. 6 (月) 5	脊柱・体幹の運動学Ⅰ	脊柱の構造・運動				鈴木	
13	5. 11. 8 (水) 5	脊柱・体幹の運動学Ⅱ	胸郭の構造と換気の運 動学				鈴木	
14	5. 11. 13 (月) 5	姿勢と動作の捉え方	姿勢と動作の運動学的 表現				加藤	
15	5. 11. 15 (水) 5	歩行	歩行周期の分類				加藤	
教科書	教科書：エッセンシャル・キネシオロジー（第3版）．南江堂，2020 参考書：プロメテウス解剖学アトラス運動器系（第3版）．医学書院．2017 基礎運動学（第6版）．医歯薬出版，2020 必要に応じてプリントを配布します。							
履修上の注意								
学生への メッセージ	理学療法、作業療法の基礎となる科目の一つです。筋の起始、停止、走行、作用、神経支配は 正確にすばやく答えることができるよう地道に努力しましょう。							
e-mail・研究室 (連絡先)	佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 仁藤：研究室 26 mnito@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
運動学Ⅱ	理学・作業療学科 (専門科目)	教 授・加藤 浩 教 授・佐藤 寿晃 准教授・鈴木 由美	必修	2	前期	2	非該当	否			
授業概要	・運動学Ⅰで学んだ身体機能解剖の知識を利用して、運動や動作の具体的な分析方法を教授する。 ・基本動作として寝返りや起き上がり等を、日常生活活動として更衣動作や食事動作等を分析する。グループワークによる直視および動作観察・分析を中心に講義・演習を展開する。										
一般目標	・身体機能解剖学と生体力学の知識を使用して、基本的な動作・活動を運動学的に記述し、考察する方法を理解する。										
到達目標	・運動や動作を観察し、運動学的用語を用いて表現することができる。 ・基本的な起居動作や身の回り動作の運動パターンと各関節の可動域、筋活動、重心の動きを関連付けて説明できる。										
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	成績は定期試験で判断します。										
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当				
1	5. 4. 14 (金) 1	姿勢と動作の捉え方	重力と身体重心の捉え方			解剖学、生理学、運動学をしっかりと復習しておくこと	加藤				
2	5. 4. 21 (金) 1		床反力の捉え方								
3	5. 4. 28 (金) 1		筋力（関節モーメント）の捉え方								
4	5. 5. 12 (金) 1	歩行動作分析（運動学分析）	正常歩行時における身体重心、関節可動域、筋活動の特徴								
5	5. 5. 19 (金) 1	歩行動作分析(運動力学分析)	正常歩行時における床反力、関節モーメント、関節パワーの特徴								
6	5. 5. 26 (金) 1	姿勢制御	逆応答現象、counter-weight、counter-activity、counter movement、tentacle activity								
7	5. 6. 2 (金) 1	起居動作の観察・分析	実習（グループワーク）								
8	5. 6. 16 (金) 1	歩行動作の観察・分析	実習（グループワーク）								
9	5. 6. 23 (金) 1	肩複合体	解剖学、生理学の知識を用いて身体運動の観察や分析に使用する具体的方法を講義、ビデオを用いて授業を展開します。				佐藤 鈴木				
10	5. 6. 30 (金) 1	肘と前腕									
11	5. 7. 7 (金) 1	手									
12	5. 7. 14 (金) 1	更衣、食事動作の観察・分析	更衣、食事動作の観察・分析のポイント								
13	5. 7. 21 (金) 1		実習（グループワーク）								
14	5. 7. 25 (火) 1										
15	5. 7. 28 (金) 1		観察・分析結果の発表								
教 科 書 参 考 図 書	教科書： エッセンシャル・キネシオロジー Paul Jackson Mansfield 著、弓岡光徳 訳（南江堂） 参考書： 筋骨格系のキネシオロジー Neumann、D. A 著 嶋田智明 訳（医歯薬出版） 必要に応じてプリントを配布します。										
履 修 上 の 注 意	実習（グループワーク）の授業の時は、動きやすく、動作観察が可能な服装で参加すること。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	動作の観察・分析は障がい構造を把握する上で、欠かすことのできない重要な評価手段です。 普段の生活においても運動学的に観察・分析する思考パターンを身につけて下さい。										
e-mail・研究室 (連 絡 先)	加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp										

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
体表解剖学		作業療法学科 (専門科目)	准教授・千葉 登 助 教・高畑 未樹	選択	1	後期	1	非該当	否
授業概要		作業療法に必要な体表からの肉眼解剖と機能解剖及び触診技術を理解・習得させる。							
一般目標		作業療法に必要な体表からの肉眼解剖と触診技術を習得・理解する。							
到達目標		体表からの肉眼解剖と筋の機能を説明できる。 体表からの骨・筋・靱帯の触診方法を説明できる。 体表からの骨・筋・靱帯の触診が行える。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		期末試験：知識、理解度、論理的思考に関して到達目標を達成しているか判断します。 最終成績：期末試験の成績により成績評価をします。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 11. 20 (月) 3	触診の基本	触診の基本的事項					千葉 高畑	
2	5. 11. 27 (月) 3	頸・頭部・体幹	頸・頭部・体幹の骨及び筋・靱帯						
3	5. 12. 4 (月) 3	上肢帯	肩甲骨・鎖骨						
4	5. 12. 11 (月) 3	上肢（上腕）	上腕部の骨及び筋・靱帯						
5	5. 12. 18 (月) 3	上肢（前腕）	前腕部の骨及び筋・靱帯						
6	5. 12. 25 (月) 3	上肢（手・手指）	手・手指の骨及び筋・靱帯						
7	6. 1. 15 (月) 3	下肢（骨盤・大腿部）	骨盤・大腿部の骨及び筋・靱帯						
8	6. 1. 22 (月) 3	下肢（下腿部・足部）	下腿部・足部の骨及び筋・靱帯						
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：触診解剖学アトラス第3版. 医学書院, 東京, 2018. 参考図書：新・徒手筋力測定法 原著第10版 共同医書出版, 東京, 2020.							
履 修 上 の 注 意		生体形態学・運動学Ⅰで教わった知識の復習をして臨むこと。 実技を伴う講義となりますので、実技にふさわしい服装で出席すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望します。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		千葉：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp 高畑：理作共同研究室 mtakahata@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
作業療法管理学		作業療法学科 (専門科目)	教授 佐藤寿晃 教授 藤井浩美	必修	4	後期	2	非該当	否		
授業概要		本科目では ・作業療法におけるマネジメント ・リスク管理の重要性 ・作業療法の職種、諸制度 ・作業療法士のキャリア開発 について教授する。									
一般目標		・作業療法におけるマネジメントについて理解できる。 ・リスク管理の重要性について理解できる。 ・作業療法の職種、諸制度について理解できる。 ・作業療法士のキャリア開発について理解できる。									
到達目標		・作業療法におけるマネジメントについて説明できる。 ・リスク管理の重要性について説明できる。 ・作業療法の職種、諸制度について説明できる。 ・作業療法士のキャリア開発について説明できる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		到達目標内容をまとめたレポート（800 字程度）で評価します。									
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外 学習など	担当			
1, 2	5. 9. 29 (金) 1-2	作業療法におけるリスク管理						佐藤			
3, 4	5. 10. 6 (金) 1-2										
5, 6	5. 10. 13 (金) 1-2	作業療法におけるマネジメント						藤井			
7, 8	5. 10. 20 (金) 1-2										
9, 10	5. 10. 27 (金) 1-2	作業療法の職域 作業療法を取り巻く諸制度						スポット講師			
11, 12	5. 11. 10 (金) 1-2										
13, 14	5. 11. 17 (金) 1-2	作業療法士のキャリア開発									
15	5. 12. 1 (金) 1										
教 科 書 参 考 図 書					必要に応じてプリント配布						
履 修 上 の 注 意		臨床実習の経験を生かし、積極的に参加して下さい。									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		学生生活の総集として捉え、卒後に生かせるテーマで講義を進めていきたい。									
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 藤井：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp									

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法評価学概論		作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 准教授・鈴木 由美	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要		作業療法(Occupational Therapy: OT)に必要な評価の考え方を学ぶ。							
一般目標		OT を展開する上で必要な評価の考え方、具体的方法を理解する。							
到達目標		OT を展開する上で必要な評価の考え方、具体的方法を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		総合テスト：達成目標に達しているかを判断します（60 点以上を合格とします）。 小テスト：前回の講義で重要な内容を次の講義開始後 10 分間で毎回確認します。各回ともに 60 点以上を合格とします。 最終成績：期末試験（65%）、7 回の小テスト（35%）の結果から成績評価を行います。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 25（月）3	OT 評価学の基礎	評価の意義と目的、対象、評価手順、 治療計画と記録および報告の流れを 説明できる。					佐藤 鈴木	
2	5. 10. 2（月）3	領域共通の評価法 1	観察、面接、検査と測定、作業活動 の内容と評価尺度を説明できる。				テスト①		
3	5. 10. 16（月）3	領域共通の評価法 2	国際生活機能分類に沿った日常生 活活動のとらえ方を説明できる。				テスト②		
4	5. 10. 23（月）3	領域共通の評価法 3	身辺動作の作業分析を説明できる。				テスト③		
5	5. 10. 30（月）3	領域共通の評価法 4	全身状態のとらえ方を説明できる （生命維持兆候や意識など）。				テスト④		
6	5. 11. 6（月）3	領域共通の評価法 5	身体状態のとらえ方を説明できる （関節可動域、感覚、筋力、姿勢反 射、協調性、脳神経など）。				テスト⑤		
7	5. 11. 13（月）3	領域共通の評価法 6	精神状態のとらえ方ができる（意識、 感情、記憶、思考、知能、認知など）。				テスト⑥		
8	5. 11. 27（月）4	修得項目の確認	OT を展開する上で必要な評価の考 え方、具体的方法を説明できる。				テスト⑦		
教 科 書		藤井浩美編：日常生活活動の作業療法。中央法規出版株式会社, 2014。 矢谷令子監：作業療法評価学（第 3 版）。医学書院、東京, 2017。 津山直一：新・徒手筋力検査法（第 8 版）。協同医書出版社, 東京, 2008。							
履 修 上 の 注 意		予習をしてから授業に臨んでください。 授業での講義と討議内容の修得状況をその日の修得確認表を用いて確認します。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望しま す。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法評価学演習Ⅰ		作業療法学科 (専門科目)	准教授・千葉 登 准教授・外川 佑 助 教・井上 香 助 教・高畑 未樹	必修	2	前期	2	非該当	否
授業概要		身体機能障害および高齢期における作業療法評価に共通かつ基礎となる検査・測定を中心に理解させる							
一般目標		作業療法評価で用いられる各種検査・測定の適用，実施手順，解釈のポイントについて理解する							
到達目標		1) 各種検査・測定を実施する目的について説明できる。 2) 各種検査・測定を実施できる。 3) 各種検査・測定を被験者に配慮して実施できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実技試験（口頭試験含む）：合格基準 60% 期末試験：合格基準 60% 最終成績：実技試験、期末試験ともに合格に達し、実技試験（50%）および期末試験（50%）により成績評価を決定します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5. 4. 12（水）3	オリエンテーション 全身状態の観察	意識，バイタルサインの評価				覚えることが多いので予習、復習を行ってください。	千葉 外川 井上 高畑	
2	5. 4. 12（水）4	身体計測	骨マーカーの触診，身体計測						
3	5. 4. 12（水）5	関節可動域測定Ⅰ	上肢の関節可動域の測定						
4	5. 4. 19（水）3	関節可動域測定Ⅰ	上肢の関節可動域の測定						
5	5. 4. 19（水）4	関節可動域測定Ⅱ	手指の関節可動域の測定						
6	5. 4. 19（水）5	関節可動域測定Ⅲ	下肢の関節可動域の測定						
7	5. 4. 26（水）3	関節可動域測定Ⅳ	体幹の関節可動域の測定						
8	5. 4. 26（水）4	徒手筋力検査Ⅰ	上肢の徒手筋力検査の実施						
9	5. 4. 26（水）5	徒手筋力検査Ⅰ	上肢の徒手筋力検査の実施						
10	5. 5. 10（水）3	徒手筋力検査Ⅱ	手指の徒手筋力検査の実施						
11	5. 5. 10（水）4	徒手筋力検査Ⅲ	下肢の徒手筋力検査の実施						
12	5. 5. 10（水）5	徒手筋力検査Ⅲ	下肢の徒手筋力検査の実施						
13	5. 5. 17（水）3	徒手筋力検査Ⅳ	頸部，体幹の徒手筋力検査の実施						
14	5. 5. 17（水）4	筋緊張・脳神経検査	筋緊張（腱反射）・脳神経						
15	5. 5. 17（水）5	感覚・知覚検査	感覚検査（表在，深部，複合）の実施						
16	5. 5. 24（水）3	反射検査Ⅰ	反射検査（表在，深部，病的）の実施						
17	5. 5. 24（水）4	反射検査Ⅱ	反射検査（原始，姿勢，口腔）の実施						
18	5. 5. 24（水）5	平衡機能検査・協調性検査	平衡機能・協調性検査の実施						
19	5. 5. 31（水）3	上肢機能検査	Br. stage テスト実技/STEF・MFT						
20	5. 5. 31（水）4	上肢機能検査	Br. stage テスト実技/STEF・MFT						
21	5. 5. 31（水）5	高齢者体力テスト	握力、ピンチ力、立ち座りテスト等						
22	5. 6. 7（水）3	知的機能検査	MMSE, HDS-R, Kohs , RCPM						
23	5. 6. 7（水）4	視知覚機能検査	VPTA, BVRT						
教 科 書 参 考 図 書		教科書：標準作業療法学 作業療法評価学（第3版）. 医学書院, 東京, 2021. ベッドサイドの神経の診かた（第18版）. 南山堂, 東京, 2019. 新・徒手筋力検査法 第10版. 協同医書出版社, 2020. 高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング, 1991							
履 修 上 の 注 意		実技を含むため、動きやすい服装で出席して下さい。 細かなスケジュールについては、授業で配布します。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		目的意識を持って臨んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp 外川：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp 井上：理学作業共同研究室 kainoue@yachts.ac.jp 高畑：理学作業共同研究室 mtakahata@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法評価学演習Ⅱ		作業療法学科 (専門科目)	講 師・佐々木 学 助 教・川勝 祐貴	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要		精神疾患に対する作業療法での評価は観察が主体である。これは、精神疾患患者が自己についての認知の歪みや、うまく表現できないなどの場合があることが多いためであり、これらを理解した臨床観察が必要である。また、地域移行支援推進のため、他職種との連携で活用できる行動評価や退院可能者のスクリーニングが必要である。これらを紹介し、活用ができるようになることが重要である。							
一般目標		精神障がい領域で必要とされる各種の評価を理解することができる。							
到達目標		授業で紹介された評価の概要と適用を述べることができる。 評価を実施し、採点、解釈を行うことができる。 対象者の状態や施設の目的を理解し、評価実施の総合的判断の重要性を理解できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		総合問題により判断する。知識の記憶ではなく、柔軟な試行が可能かを問うので、各評価を十分に理解し、活用ができるように準備してほしい。 成績判定は、F判定：臨床実習に必要なレベルに達していない。わずかな事項についての理解にとどまる D判定：臨床実習に必要な最低限の知識・技能があると判断されるが、不足がある C判定：臨床実習に必要な最低限の知識・技能があると判断される B判定：発展的な意見が述べられている A判定：秀でた独創的知見が述べられている							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法	授業外学習など		担当		
1, 2	5. 5. 18 (木) 1・2	(生活)臨床観察 1		教科書、配布資料を用いて、症例のサマリーシートを再評価することが行われる。また、自己評価を行うこともある	これらの評価方法は、作業療法や他の職種の多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される。		川勝 川勝 川勝 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木・川勝 佐々木		
3, 4	5. 5. 25 (木) 1・2	(作業)臨床観察 2							
5, 6	5. 6. 1 (木) 1・2	(臨床)臨床観察 3							
7, 8	5. 6. 8 (木) 1・2	(全般)ICF, GAF, BPRS							
9, 10	5. 6. 15 (木) 1・2	(行動)LASMI, 他							
11, 12	5. 6. 22 (木) 1・2	(職)MWS, MSFAS, GATB							
13, 14	5. 6. 29 (木) 1・2	(認知)BACS-J, 他							
15	5. 7. 6 (木) 2	(鬱・ストレス)Zung, HAM-D, BDI, 職業性ストレス尺度							
教 科 書 参 考 図 書		(教科書 1) 張 賢徳(訳)：精神科面接マニュアル、メディカルサイエンスインターナショナル、第3版 (教科書 2) 稲田俊也ほか：客観的精神科評価尺度ガイド、じほう、2016							
履修上の注意		特になし							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		各評価を学生自身に対して実施するが、強く受け止めすぎないようにしてほしい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐々木：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp 川 勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yacgts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法 評価学演習Ⅲ		作業療法学科 (専 門 科 目)	教 授・佐藤 寿晃 准 教 授・森 直樹 准 教 授・外川 佑 非常勤講師・黒淵 永寿	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要		発達障害領域で用いられる主要な評価を概説し、各疾患に適した評価・検査を遂行ができるように演習を通して学ぶ。具体的には、基本的な実施方法、手順、留意点を学び、実技を通して的確に実施できるよう技術を身につける演習を通じて教授する。また、作業療法に必要とされる画像評価についても教授する。							
一般目標		発達過程作業療法における面接法を習得する。 発達過程作業療法で使用される検査の目的・留意点について理解する。 発達全般を評価する検査について理解する。 発達過程作業療法における運動機能、感覚統合機能、視知覚・視覚認知、知的・認知機能、行動、作業遂行・身辺処理とその障害について理解する。各疾患特性に応じた適切な評価・検査を列挙できる。 脳画像の基礎知識を習得し、画像から脳の異常部位および疾患を指摘できる。 骨・筋系画像の基礎知識を習得し、画像から脳の異常部位および疾患を指摘できる。							
到達目標		情報収集をするうえでの必要な項目を列挙し面接における留意点を説明できる。 発達検査の目的と検査の選択、実施する際の留意点を説明できる。 発達過程作業療法における運動機能、感覚統合機能、視知覚・視覚認知、知的・認知機能、行動、作業遂行・身辺処理とその障害について説明できる。また、各機能を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。 脳の構造を理解し、各種病変について画像を元に説明できる。 骨・筋系の構造を理解し、各種病変について画像を元に説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（100%）から判断する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法			授業外学 習など	担当
1 2	5. 5. 9 (火) 2 5. 5. 9 (火) 3	発達過程作業療法における家族との面接法、発達検査の目的と留意点			情報収集するうえでの必要な項目を列挙し、面接時の留意点を学習する。 さらに、発達全般を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう学習する。				森
	発達全般を評価する検査・演習			発達全般を評価する検査名を列挙し検査の特性を把握するため、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。					
3 4	5. 5. 16 (火) 2 5. 5. 16 (火) 3	運動機能評価の評価・演習			運動機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。				

5 6	5. 5.23 (火) 3	姿勢筋緊張、反射・反応の評価・演習	姿勢筋緊張、反射・反応の評価、測定方法について演習を通して学習する。		森
	5. 5.23 (火) 5	視知覚・視覚認知の評価・演習	視知覚・視覚認知とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。		
7 8 9 10	5. 5.20 (土) 1 5. 5.20 (土) 2 5. 5.20 (土) 3 5. 5.20 (土) 4	感覚統合評価機能の評価・演習	感覚統合機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。	集中講義	黒淵 森
11 12 13	5. 5.30 (火) 2 5. 5.30 (火) 3 5. 5.30 (火) 5	知能・認知機能の評価・演習	知能・認知機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。		森
		行動の評価・演習	適応行動とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。		
		作業遂行・身辺処理の評価・演習 疾患・障害による評価の選択	作業遂行とその障害、身辺処理を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。また、疾患・障害による評価の選択を説明できるよう学習する。		
14	5. 6.16 (金) 3	骨・筋系画像所見の診かた	X線, MRI, エコー等の骨・筋系画像の診かたについて、講義、演習を行い学習する。		佐藤
15	5. 6. 6 (火) 2	脳画像所見の診かた	CT, MRI, SPECT等の脳画像の診かたについて、講義、演習を行い学習する。		外川
教科書		教科書：標準作業療法学 作業療法評価学第3版（医学書院）、人間発達学第5版（中外医学社）、			
参考図書		プリント等、必要に応じて配布する			
履修上の注意		外部講師により集中講義を休日に実施する予定です。			
学生へのメッセージ		限られた時間で多くの発達障害領域の評価法、骨・筋系画像所見、脳画像の診かたを学習します。主体的に予習、復習を行い授業に臨んでください。			
e-mail・研究室 (連絡先)		佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 森：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp 外川：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作 業 療 法 評 価 学 実 習		作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤寿晃 准教授・森 直樹 准教授・千葉 登 准教授・外川 佑 講 師・佐々木学 助 教・井上 香 助 教・川勝祐貴	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		各領域（身体機能、精神機能、高齢期、小児期）での障がい有する対象者等への面接・検査・測定・動作分析等を実践し、対象者の問題点、プログラムの立案などの作業療法の流れを学内および学外実習を通じて教授する。具体的には、基本的な実施方法、手順、留意点等を学び、実技を通して的確に実施できる技術を身につけるよう実習を通じて教授する。							
一般目標		各領域（身体機能、精神機能、高齢期、小児期）での障がい有する対象者への面接・検査・測定・動作分析等を実践し、対象者の問題点、プログラムの立案などの作業療法の流れを学内および学外実習を通じて理解できる。また、一部を実践し、理解を深めることができる。							
到達目標		① 障がい有する対象者に対しての評価の流れを理解できる。 ② 障がい有する対象者に対して具体的な治療計画を立案することができる。 ③ 作業療法評価の一部について対象者への介入を具体的に実践・理解できるようになる。 ④ 評価した内容を明確に記録し、理解することができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		レポート：レポートでは学外実習での作業療法実践を理解されているかを判断します。 理解度に応じて A（100 点）、B（85 点）、C（75 点）、D（65 点）、F（59 点以下で得点化 します。）レポート提出は期限までの必須条件（未提出者は単位認定しません）。 最終成績：各領域で提出されたレポートの平均を成績評価とします。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			担当		
1	後 日 連 絡	オリエンテーション		作業療法評価学実習の進め方について			千葉		
2	第 1 期 5.5.22（月） ～ 5.6. 2（金）	身体機能領域における評価実習		身体障害領域の病院、施設において作業療法評価の用いる面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画を立案し実践を学ぶ。			佐藤・千葉		
3									
4									
5									
6	第 1 期 5.5.22（月） ～ 5.6. 2（金）	精神機能領域における評価実習		県内外の医療機関などにて、初期面接から介入までに必要な情報を得るための評価（叙述的评价など）を行う。			佐々木・川勝		
7									
8									
9									
10	第 2 期 5.7.10（月） ～ 5.7.21（金）	小児期領域における評価実習		保育園、通園施設、療育機関などの実習を通して、子ども特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。また、事例を通して具体的な治療計画を立案し、実践を学ぶ。			森		
11									
12									
13									
14	第 2 期 5.7.10（月） ～ 5.7.21（金）	高齢期領域における評価実習		高齢者施設等において、高齢期における特徴を踏まえた、面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画を立案し実践を学ぶ。			外川・井上		
15									
16									
17									
18	後 日 連 絡	オリエンテーション		作業療法評価学実習のまとめ			千葉		
19									
20									
21									
教 科 書 参 考 図 書		これまで講義等で使用した教科書・参考書・プリント							
履 修 上 の 注 意		●学外での実習も含みますので、実技のできる服装、長髪の方は髪を束ねる、つめを切って出席してください。●詳細については各領域にて説明します。●この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりして授業に臨むことを希望します。具体的な日程については各担当者から連絡があります。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		担当教員 千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児期作業療法学		作業療学科 (専 門 科 目)	准教授・森 直樹	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要		発達過程作業療法を実践する際の基本的な知識基盤を理解する。また、発達過程作業療法の実践過程、地域支援について学習する。							
一般目標		1) 発達過程作業療法の基本的な捉え方ができるようになるための知識基盤を理解する 2) 発達過程作業療法が行われている現場の職務内容について理解する 3) 発達過程作業療法を実践できるようになるために、その実践過程に関連する事項について理解する 4) 発達過程作業療法の実践過程を記録し、作成することができる 5) 発達過程作業療法の地域支援の場で活躍するために、地域支援システムと病院、放課後等デイサービス、学校、保育所、就労支援機関での作業療法士の役割、業務内容を理解する							
到達目標		・発達過程作業療法の理念、目的、形成（歴史）と変遷について述べることができる ・定型発達児の発達過程を示し、発達遅滞の症状とその時期について述べることができる ・発達過程作業療法の対象疾患と障害、またそれに伴う発達遅滞症状について示すことができる ・発達過程作業療法に関連する法規、制度について理解を深める ・発達過程作業療法に携わる作業療法士に求められる役割と資質を述べ、実際に行動に移すことができる ・発達過程作業療法が行われている現場の職務内容について理解する ・発達過程作業療法を実践できるようになるために、その実践過程、記録に関連する事項について十分に理解する ・発達過程作業療法における地域リハビリテーションについて述べることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（90%）、レポート（10%）から判断する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学 習など	担当	
1 2 3 4	5.4.11（火）2 5.4.11（火）3 5.4.14（金）2 5.4.14（金）3	発達過程作業療法の基礎	1) 発達過程作業療法の理念と目的、歴史と変遷について学習する 2) 人間の発達過程と作業療法に必要な知識について学習する 3) 発達過程作業療法の対象疾患と発達遅滞症状について学習する 4) 発達過程作業療法に関連する法規・制度 5) 発達過程の子どもたちに携わる作業療法士の役割と資質					森	
5 6	5.4.18（火）2 5.4.18（火）3	発達過程作業療法の実践現場と実践過程および記録	1) 発達過程作業療法の実践の場について学習する 2) 発達過程作業療法における基本的実践過程を学習する 3) 発達過程作業療法における記録について学習する					森	
7 8	5.4.25（火）2 5.4.25（火）3	発達過程作業療法の地域支援	1) 病院施設から地域への変化を学習する 2) 地域支援のシステムを学習する 3) 作業療法士のかかわりを学習する						
教 科 書 参 考 図 書		教科書：発達過程作業療法学第3版（医学書院）、人間発達学第5版（中外医学社）							
履 修 上 の 注 意		外部講師により集中講義を予定しております。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		限られた時間で多くの発達障がい領域の基礎知識を学習します。主体的に予習、復習を行い授業に臨んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		森直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児期 作業療法学演習		作業療法学科 (専 門 科 目)	准 教 授・森 直 樹 非常勤講師・黒淵 永寿	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		小児期作業療法の対象疾患に対して、評価～治療立案、作業療法実践について理解するとともに、評価に用いられる測定・検査を行い、その解釈について教授する。なお、小児がん、内部障害に対する講義は内部障害作業療法学で教授する。							
一般目標		小児期作業療法の主たる対象疾患の臨床像、医学的治療、作業療法評価、作業療法の実践内容について理解する。							
到達目標		・主たる対象疾患の臨床像について述べることができる ・主たる臨床像、障害構造から適切な作業療法評価内容を示すことができる ・評価結果から、疾患に起因する生活行為（活動、参加）や作業遂行要素（心身機能、身体構造）の障害およびその関連について示し、全体像をまとめることができる ・主たる対象疾患の医学的治療内容と作業療法の治療・実践内容を検討することができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（100%）から判断する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5.11. 7 (火) 3	小児期作業療法における基本的実践過程	小児期作業療法の実践過程及び ICF を考慮した作業療法について学習する。また、一連の「記録」に関する種類、目的各記録方式の内容を学習する					森	
2	5.11. 7 (火) 4	NICU 児に対する評価とアプローチ	NICU 児の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する					スポット (渋間) 森	
3 4 5	5.11.14 (火) 3 5.11.14 (火) 4 5.11.14 (火) 5	脳性麻痺児に対する評価とアプローチ	脳性麻痺児の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する					森	

6	5.11.17（金）1	神経発達症／神経発達障害群、骨関節疾患に対する評価とアプローチ	神経発達症（限局性学習症、注意欠場・多動症、自閉スペクトラム症、発達性協調運動症）、骨関節疾患の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する	集中講義	黒 渕 森
7	5.11.17（金）2				
8	5.11.17（金）3				
9	5.11.17（金）4				
10	5.12.12（火）3	重症心身障がい児（者）に対する評価とアプローチ	重症心身障害児（者）の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する		森
11	5.12.12（火）4				
12	5.12.19（火）3	知的能力障害、強度行動障害に対する評価とアプローチ	知的能力障害、強度行動障害の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する		森
13	5.12.19（火）4				
14	6. 1.16（火）3	筋ジストロフィー、二分脊椎に対する評価とアプローチ	筋ジストロフィー、二分脊椎の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する		森
15	6. 1.16（火）4				
教科書 参 考 図 書		教科書：発達過程作業療法学第3版（医学書院）、プリント等			
履 修 上 の 注 意					
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		限られた時間で多くの小児期作業療法領域の疾患別評価とアプローチを学習します。主体的に予習、復習を行い授業に臨んでください。			
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		森直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児期 作業療法学実習		作業療法学科 (専門科目)	准 教 授・森 直 樹 非常勤講師・黒渕 永寿	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要		小児期作業療法学、小児期作業療法学演習を踏まえ、作業療法実践過程で必要な評価と治療介入法について主に事例検討を通して教授する。							
一般目標		小児期作業療法に必要な評価の実施及び、問題点の抽出、治療目標、治療計画の立案ができる。							
到達目標		小児期作業療法に必要な評価の実施及び、問題点の抽出、治療目標、治療計画の立案と実践ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期テスト (80%)、課題 (20%) から、総合的に判断します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学 習など	担当	
1 2	5. 6. 6 (火) 3-4	学内実習Ⅰ	小児期作業療法の実践課程について総括し、対象者を想定し評価演習を行う。					森	
3 4	5. 6. 13 (火) 3-4	学内実習Ⅱ	事例検討を通して、作業療法プログラム立案、治療プログラムについて演習を行う。					森	
5 6	5. 6. 16 (金) 3-4	学内実習Ⅲ	グループワークを通して、対象児の評価, 問題点の抽出、治療目標、具体的な治療介入法について学習する。					森	
7 8 9	5. 6. 20 (火) 3-5	学内実習Ⅳ	グループワークを通して、対象児の評価, 問題点の抽出、治療目標、具体的な治療介入法について学習する。				集中講義	スポット (渡辺) 森	
10 11 12 13	5. 6. 23 (金) 1-4	学内実習Ⅴ	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。				集中講義	黒渕 森	
14 15	5. 6. 27 (火) 3-4	学内実習Ⅵ	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。					森	
教 参 考 図 書		適宜、プリント、資料を配布します。							
履 修 上 の 注 意		1) 小児期作業療法学実習では実技・演習を行うため、動きやすい服装で出席してください。 2) 集中講義については、授業の中で随時オリエンテーションを行います。 3) この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		主体的に予習、復習を行い積極的に実習に臨んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		森直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
身体機能 作業療法学		作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 准教授・千葉 登	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	身体に障がい有する対象者の臨床像の理解と作業療法評価、治療計画およびその実施方法を理解させる。								
一般目標	身体に障がい有する対象者の病態、作業療法(OT)評価、治療計画およびその実施方法を理解する。								
到達目標	身体に障がい有する対象者に対する病態と経過を説明できる。 身体に障がい有する対象者に対する OT 評価を説明できる。 身体に障がい有する対象者に対して OT 支援方法を説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	期末試験：知識、理解度、論理的思考に関して到達目標を達成しているか判断します。 小テスト：確認テスト等を行います。 最終成績：期末試験の成績により成績評価をします。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 6. 7 (水) 5	脊髄損傷	脊髄損傷の特徴とアプローチについて					佐藤	
2	5. 6. 14 (水) 3	関節リウマチ	関節リウマチの特徴とアプローチについて					佐藤	
3	5. 6. 14 (水) 4	整形外科領域	整形外科領域疾患の特徴とアプローチについて					佐藤	
4	5. 6. 21 (水) 3	脳血管障害の病像/運動機能／	脳血管障がい者の運動機能とそのアプローチについて					千葉	
5	5. 6. 21 (水) 4	脳血管障害の感覚機能／高次脳	脳血管障がい者の感覚障がいと高次脳機能障がいとそのアプローチについて					千葉	
6	5. 6. 28 (水) 3	脳血管障害の A D L ／病期	脳血管障がいの ADL トレーニングと病期毎の留意点					千葉	
7	5. 6. 28 (水) 4	パーキンソン病／小脳疾患／多発性硬化症	各神経系疾患の特徴とアプローチについて					千葉	
8	5. 7. 5 (水) 3	筋萎縮性側索硬化症／ニューロパシーとミオパシー／頭部外傷	各神経系疾患の特徴とアプローチについて					千葉	
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：標準作業療法学 身体機能作業療法学（第4版）. 医学書院, 東京, 2021. 標準作業療法学 作業療法評価学（第3版）. 医学書院, 東京, 2021. 参考図書：日常生活活動の作業療法. 中央法規, 東京, 2014. ベッドサイドの神経の診かた（第18版）. 南山堂, 東京, 2019.							
履 修 上 の 注 意		作業療法評価学演習Ⅰで教わった検査・測定について復習してください。また、運動器障がい論と神経障がい論は本科目の基礎となる科目ですので復習をしてきてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望します。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
身体機能 作業療法学演習		作業療法学学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 准 教 授・千葉 登 非常勤講師・笹原 寛	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		身体に障がいをもつ対象者の臨床像の理解と作業療法評価、治療計画およびその実施方法を理解させる。							
一般目標		身体に障がいをもつ対象者の病態、作業療法評価、治療計画およびその実施方法を理解し、実施できる。							
到達目標		身体に障がいをもつ対象者に対する介入方法（評価、実技）を理解し実施できる。 身体に障がいをもつ対象者に対して評価～治療計画の立案について理解できる。 評価に用いられる測定・検査を行い、その解釈について考察することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		期末試験：到達目標を達成しているか判断します（60 点以上を合格とします）。 最終成績：期末試験にて評定します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外 学習など		担当
1	5. 9. 29 (金) 3	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅰ			ROM-ex・ポジショニング				千葉
2	5. 9. 29 (金) 4	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅱ			起居動作訓練				千葉
3	5. 10. 6 (金) 3	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅲ			移乗移動訓練				千葉
4	5. 10. 6 (金) 4	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅳ			筋力訓練、バランス訓練				千葉
5	5. 10. 13 (金) 3	脳卒中の作業療法治療・訓練方法			ブルンストローム法等				千葉
6	5. 10. 13 (金) 4	脳卒中・パーキンソン病の ADL トレーニング			脳卒中、パーキンソン病等の ADL トレーニング				千葉
7	5. 10. 20 (金) 3	脊髄損傷の作業療法治療・訓練方法			脊髄損傷の作業療法治療・訓練方法				佐藤
8	5. 10. 20 (金) 4	関節リウマチの作業療法治療・訓練方法			関節リウマチの作業療法治療・訓練方法				佐藤
9	5. 10. 27 (金) 3	脊髄損傷・関節リウマチの ADL トレーニング			脊髄損傷・関節リウマチの ADL トレーニング				佐藤
10	5. 10. 27 (金) 4	末梢神経損傷の作業療法治療・訓練方法			整形外科領域の作業療法治療項目およびその訓練方法				佐藤 笹原
11	5. 11. 10 (金) 3	骨折・脱臼の作業療法介入							
12	5. 11. 10 (金) 4	手の外科領域の作業療法介入							
13	5. 11. 24 (金) 3	各種疾患とスプリント適応Ⅰ			様々な疾患、障がいに対するスプリントの目的および適応				佐藤
14	5. 11. 24 (金) 4	各種疾患とスプリント適応Ⅱ							
15	5. 12. 1 (金) 3	切断者の義肢装具			切断者の義肢装具の目的と適応				佐藤
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：標準作業療法学 身体機能作業療法学（第 4 版）．医学書院，東京，2021． 標準作業療法学 作業療法評価学（第 3 版）．医学書院，東京，2021． 参考図書：日常生活活動の作業療法．中央法規，東京，2014． ベッドサイドの神経の診かた（第 18 版）．南山堂，東京，2019．							
履 修 上 の 注 意		実技を伴いますので、実技のできる服装、長髪の方は髪を束ねる、つめを切って出席してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。限られた時間なので、主体的に講義に参加して下さい。 欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望します。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
身体機能 作業療法学実習		作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 准 教 授・千葉 登	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	身体に障がい有する対象者に対する作業療法の流れ（評価～問題点抽出～目標設定～治療計画立案）に沿った実技を実施し、作業療法の実践を教授する。								
一般目標	対象者に対する作業療法の流れ（評価～問題点抽出～目標設定～治療計画立案）に沿った実技を実施し、作業療法の実践を理解する。								
到達目標	① 身体に障がい有する対象者に対する評価の流れを理解できる。 ② 事例を通して、臨床推論（クリニカルリーディング）ができるようになる。 ③ 模擬患者を想定した作業療法の面接、観察、検査・測定を実践できる ④ 事例を検討し、具体的な治療計画を立案することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	期末試験：到達目標を達成しているか判断します（60 点以上を合格とします）。 最終成績：期末試験にて評定します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外 学習など		担当	
1	5. 4. 14（金）3	オリエンテーション		臨床推論について				佐藤 千葉	
2	5. 4. 14（金）4	事例検討(1) 情報収集・面接・評価項目 の列挙		他部門からの情報および面接 内容から評価項目の臨床推論				佐藤 千葉	
3	5. 4. 14（金）5	評価の実践 1-①：バイタル・面接、姿勢		模擬患者を想定した実技の練習		作 業 療 法 評 価 学 演 習Ⅰ で行った内容を確認 してください。 また、身体機能作 業療法学、身体機能 作業療法学演習の復 習をしてください		佐藤 千葉	
4	5. 4. 21（金）3	評価の実践 2-①：起居、トランスファー、 歩行等							
5	5. 4. 21（金）4	評価の実践 2-②：起居、トランスファー、 歩行等							
6	5. 4. 21（金）5	評価の実践 3-①：ROM-T 等							
7	5. 4. 28（金）3	評価の実践 3-②：ROM-T 等							
8	5. 4. 28（金）4	評価の実践 4-①：片麻痺検査、協調性 検査・バランス等							
9	5. 4. 28（金）5	評価の実践 4-②：片麻痺検査、協調性 検査・バランス等							
10	5. 5. 12（金）3	評価の実践 5-①：脳神経検査、感覚等							
11	5. 5. 12（金）4	評価の実践 5-②：脳神経検査、感覚等							
12	5. 5. 12（金）5	事例検討(2) 治療計画の立案		事例を用いて問題点の抽出・ 目標設定・プログラムの立案				佐藤 千葉	
13	5. 5. 19（金）3	事例検討(3) 治療計画の実施		事例検討にて立案したプログラ ムの効果について検討				佐藤 千葉	
14	5. 5. 19（金）4	OSCE①		事例を想定した流れに沿った 評価の実施				佐藤 千葉	
15	5. 5. 19（金）5	OSCE②		事例を想定した流れに沿った 評価の実施				佐藤 千葉	
教 科 書 参 考 図 書	教 科 書：標準作業療法学 身体機能作業療法学（第 4 版）. 医学書院, 東京, 2021. 標準作業療法学 作業療法評価学（第 3 版）. 医学書院, 東京, 2021. 参考図書：日常生活活動の作業療法. 中央法規, 東京, 2014. ベッドサイドの神経の診かた（第 18 版）. 南山堂, 東京, 2019.								
履 修 上 の 注 意	●実技を伴いますので、実技のできる服装、長髪の方は髪を束ねる、つめを切って出席してください。●詳細については講義にて説明します。●この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	専門科目です。限られた時間なので、主体的に講義に参加して下さい。 欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりして授業に臨むことを希望します。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神機能作業療法学		作業療学科 (専門科目)	講師・佐々木 学 助教・川勝 祐貴	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要		精神障がい者に対するリハビリテーションの一つである作業療法は、精神監護法(1900年)を起源とする入院中心主義と共に発展したが、精神障害者の退院促進(平成14年度)や就労支援、地域包括ケアシステムの対象になる(平成29年度)など、作業療法は入院から地域までの対象者に幅広く実践されている。 本講義では、疾患の特性、理論的枠組み、入院での介入から精神科デイケア、地域・在宅、就労での介入、社会的問題、近年の動向などについて概説する。							
一般目標 GIO		精神科医療の概要と作業療法について理解する。 作業療法で使用されている理論や実施されている介入方法について理解する。 対象者の状態に応じて、提供されるプログラムが大きく異なることを理解する。							
到達目標 SBO		医療・福祉について 精神障害者に関連する医療・福祉の動向について説明することができる 精神障害者が利用できる医療・福祉サービスについて説明することができる 精神科医療にかかわる職種と病院などの機能・組織について説明することができる 代表的な疾患の受診から退院までの流れについて説明することができる。 触法精神障がい者の処遇について説明することができる 作業療法について 作業療法の対象となる代表的な疾患について説明することができる 伝統的作業療法について説明することができる 各種プログラム(機能維持、退院促進、在宅支援、就労(復学)支援など)について説明することができる 理論的枠組み、介入過程と手段について説明することができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		成績判定は筆記試験によりなされる。 A 100-90点 大学生として発展的な意見が述べられている B 89-80点 授業の内容を十分に理解している C 79-70点 授業内容を部分的に理解している D 69-60点 授業の内容を最低限理解している F 59以下 理解が不十分である							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1	5. 4. 6 (木) 1	精神科作業療法の歴史			講義形式中心で進められ、作業療法の臨床場面で使用される基本的な理論から今後必要と考えられる理論まで幅広く取り扱う。		図書館でDVDを視聴することを勧める。 当事者の手記や体験談などを読むことも推奨される。		佐々木
2	5. 4. 6 (木) 2	触法精神障害者の処遇							佐々木
3	5. 4. 20 (木) 1	精神疾患関連職種と病院等の機能・組織							川勝
4	5. 4. 20 (木) 2	代表的な疾患の精神病院での処遇							川勝
5	5. 4. 27 (木) 1	伝統的作業療法							川勝
6	5. 4. 27 (木) 2	治療理論1							佐々木
7	5. 5. 11 (木) 1	治療理論2							佐々木
8	5. 5. 11 (木) 2	アウトリーチ							佐々木
教 科 書 参 考 図 書		(教科書1) 現代臨床精神医学/金原出版株式会社 (教科書2) 分裂病の少女の手記—心理療法による分裂病の回復過程、セシユエ、みすず書房 (参考図書) 精神保健福祉白書、精神保健福祉白書編集委員会、中央法規(福祉一般) (参考図書) 風の歌を聴きながら、東瀬戸サダエ/ラグーナ出版(当事者本、就労関連)							
履 修 上 の 注 意		教科書2は、授業終了後までに一度読破し、理解することが望ましい。 出席不足の場合は定期試験を受けることができないので注意してほしい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		精神障がい・疾患は日常生活からは疎遠に感じるが、誰もが経験することが多い疾患であるだけでなく、身体障がいを対象とした作業療法場面であっても精神障がい者が発症した身体障がいに対して機能的アプローチを行うことは多いので、臨床家として理解する必要がある。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐々木：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp 川 勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yacgts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神機能作業療法学演習		作業療法学科 (専門科目)	講師・佐々木 学 助教・川勝 祐貴 非常勤講師 木内真美子	必修	2	後期	2	非該当	可
授業概要		デイケアにおける、復職支援や復学支援について学習する。 統合失調症，気分性障害，境界型人格障害，依存症へのアプローチを想定する。 2名の学生がペアとなり、1名が治療者、1名が患者を演じるロールプレイが行われる。 毎回、異なるテーマが設定され、配布した教材によって指導したり、教材作成などを行ったりしながら演習を行う。テーマは、学生の理解度や進行状況から変更される。 精神科デイケアでの治療的アプローチを中心に演習を行い、精神障がい者のリハビリテーションの介入過程を理解する。 講義の終盤では、症例についての作業療法実施計画書を作成する。							
一般目標		精神科デイケアで行われている支援を理解する 精神科デイケアの基本的役割について理解する 精神科デイケアで実施される復職支援、復学支援を理解する チーム医療理解の為、多くの者と意見交換を行うことができる レポート課題提出のため、計画的な行動をとることができる							
到達目標		対象者への面接・評価の内容を考えることができる 対象者への面接・治療的介入において、リーダー・サブリーダーの役割を理解・経験する 対象者への面接・治療的介入において、教材を理解し、作成する過程を経験する 精神科デイケア・プログラム(作業療法実施計画)を立案することができる(初期治療介入仮説，問題点抽出，目標設定，施設内プログラムの組み合わせと新しいプログラムの作成)							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		成績判定は作業療法実施計画を作成し、内容によって判定する A 100-90 点 実習生として発展的な意見が述べられている B 89-80 点 実習生として標準的な内容を十分記載することができる C 79-70 点 実習生として標準的な内容を部分的に記載することができる D 69-60 点 実習生として最低限の記載ができる F 59 以下 実習レベルに達していない							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	5. 9. 25 (月) 3 5. 9. 25 (月) 4 5. 10. 2 (月) 3 5. 10. 2 (月) 4 5. 10. 16 (月) 3 5. 10. 16 (月) 4 5. 10. 23 (月) 3 5. 10. 23 (月) 4 5. 10. 30 (月) 3 5. 10. 30 (月) 4 5. 11. 6 (月) 3 5. 11. 6 (月) 4 5. 11. 13 (月) 3 5. 11. 13 (月) 4 5. 11. 20 (月) 3	オリエンテーション，症例紹介 初回面接 職・学 1) 疾患教育 職・学 2) 服薬管理 職・学 3) 心理教育 職・学 4) スケジュール管理と生活習慣 職・学 5) SST/困っていることを解決する 職・学 6) ストレス・コーピング 職・学 7) アサーション 職・学 8) 困難を抱えても前向きに生きる 職・学 8) レクリエーション 職・学 9) 自主活動 職・学 10) 反省会 作業療法実施計画作成 1 解説・作成 作業療法実施計画作成 2 発表会			事前に教科書の予習、授業後に復習することが必要である。 講義は事例紹介と介入方法の紹介に大別される。		図 書 館 DVD、YouTube 等の動画サイトにて、広範囲な学習が推奨される。		佐々木 川勝 木内
教 科 書 参 考 図 書		(教科書) 香山明美, 精神障害作業療法/医歯薬出版株式会社 (参考図書) 精神障がいと回復、リバーマン/星和書店・・・SST (参考図書) 泣いて笑ってまた泣いた、倉科透恵/ラグーナ出版							
履 修 上 の 注 意		講義形式ではなく、ワークショップに近いので、驚かないようにしていただきたい。 進行の度合いにより、内容が若干、変更されることがある。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		本講義は臨床での対象者へのかかわり方を理解するものである。演習では実技的要素を重視しているが、実技のためには十分な知識が必要であり、どちらも良く研鑽してほしい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐々木：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp 川 勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神機能作業療法学実習		作業療学科 (専門科目)	講師・佐々木 学 助教・川勝 祐貴	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要		精神病院入院患者に対して行われる「精神科作業療法」を想定し、そこで実施される「退院促進プログラム」「身体機能維持プログラム」などについて学内実習する。 ロールプレイでは、1. 教員による説明、2. 教員によるデモンストレーション、3. 学生が実技の過程を踏むが、学生が演じる患者は、問題行動を起こす場面が設定され、これに対処する能力を養うことも要求される。 診療に必要な管理業務として、業務日誌、月報、備品管理なども指導される。 臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでの実習地は、単科精神病院、精神科ディケア、就労支援施設などで実施されているが、本授業は単科精神病院での精神科作業療法(入院)の範疇で考えられている。							
一般目標		精神疾患患者への人道的配慮ができる 精神病院、医療という枠組みを超えて、精神障がい者が一般社会で生活することの重要性を理解すること 地域生活のためには地域在住者の理解が必要だが、社会の理解の低さが精神障がい者の社会復帰を妨げる要因の一つであり、福祉の施策と医療従事者が訪問活動を通じて啓蒙することの重要性を理解すること 精神科作業療法の役割と機能を理解できること 精神科作業療法での作業療法実施計画を立案できること 精神科作業療法での治療プログラムを実施できること							
到達目標		臨床実習で担当することの多い4疾患に対する対応を大まかに理解・経験できる 臨床実習に必要な記録を理解・経験することができる 精神病院で必要な管理業務を理解・経験できる 精神疾患患者の行動特性を理解した指導ができる 精神疾患患者への臨機応変な対応ができる 長期入院の精神疾患患者に対して教育的指導が重要であることを理解できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		各回の実習状況のうち、治療者役の学生が指導している場面を評価する。 評価は以下の通りに行われる。 A 100-90 点 実習生として発展的な意見が述べられている B 89-80 点 実習生として標準的な内容を十分記載することができる C 79-70 点 実習生として標準的な内容を部分的に記載することができる D 69-60 点 実習生として最低限の記載ができる F 59 以下 実習レベルに達していない							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習 など		担当
1	5. 4. 12 (水) 3	オリエンテーション・実習準備			・4人1グループによるロールプレイ		・図書館 DVD、YouTube 等の動画サイトにて、広範囲な学習も推奨される。 ・作業療法実施計画は、総合実習Ⅰの様式が用いられるが、作成は各人が準備する(演習とは異なる)		佐々木 川勝
2	5. 4. 12 (水) 4	実習の記録物と病院に必要な管理文書			・4人のメンバーは異なる疾患患者(統合失調症・うつ病・境界型人格障害・依存症など)が設定される				
3	5. 4. 12 (水) 5	維ブ1)退促1)初回面接と情報収集			・OTS が担当患者を含むグループ指導にあたる場面が再現される。				
4	5. 4. 19 (水) 3	維ブ2)伝統的活動(芸・工・習・音など)			・実習構成は、前回記録の確認10分、ミニ講義10分、デモ20分、学生実技10分×4回、記録記入10分程度の時間配分である。				
5	5. 4. 19 (水) 4	維ブ3)身体機能評価とスポーツ、レク活動			・講義部分は事例紹介と介入方法の紹介に大別される。				
6	5. 4. 19 (水) 5	維ブ4)心理教育/退院で経験できること他							
7	5. 4. 26 (水) 3	維ブ5)個別プログラム							
8	5. 4. 26 (水) 4	退促2)訪問指導(整理、洗濯、買い物、調理)							
9	5. 4. 26 (水) 5	退促3)ケア会議							
10	5. 5. 10 (水) 3	退促4)心理教育/リラクゼーション他							
11	5. 5. 10 (水) 4	退促5)心教/アンチエイジング/食生活他							
12	5. 5. 10 (水) 5	退促6)在宅訪問指導							
13	5. 5. 17 (水) 3	退促7)個別プログラム							
14	5. 5. 17 (水) 4	維ブ6・退促8)反省会							
15	5. 5. 17 (水) 5	学生による作業療法実施計画発表会							
教 科 書 参 考 図 書		(教科書)山根寛、精神障害と作業療法、三輪書店							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		本実習では臨床での対象者へのかかわり方を理解するものである。疾患の特性を理解し、行動することが必要である。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		佐々木：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp 川 勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
内部障がい作業療法学		作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 准教授・森 直 樹	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要		内部障がい有する対象者の臨床像の理解と作業療法評価、治療計画およびその実施方法を教授する。							
一般目標		内部障がい有する対象者の病態、作業療法(OT)評価、治療計画およびその実施方法を理解する。							
到達目標		内部障がい有する対象者に対する病態と経過を説明できる。 内部障がい有する対象者に対する OT 評価を説明できる。 内部障がい有する対象者に対して OT 支援方法を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		期末試験：知識、理解度、論理的思考に関して到達目標を達成しているか判断します。 最終成績：期末試験の成績により成績評価をします。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習な ど	担当	
1	5.12. 1 (金) 4	呼吸器疾患①	呼吸器疾患の病態、OT 評価について				スポット	佐藤 森	
2	5.12. 8 (金) 3	呼吸器疾患②	呼吸器疾患に対しての OT 支援につ いて				スポット		
3	5.12.15 (金) 3	循環器疾患①	循環器疾患の病態、OT 評価について						
4	5.12.22 (金) 3	循環器疾患②	循環器疾患の OT 支援について				スポット		
5	6. 1. 5 (金) 3	がん、各年代別の内部疾患①	がん、糖尿病、サルコペニア等の OT 評価、OT 支援について						
6	6. 1.19 (金) 3	各年代別の内部疾患②	小児期における内部疾患に対する OT 評価、OT 支援について						
7	後日連絡	吸引に関する講義・演習	吸引の目的、リスクなどの基礎知識				PT 学科と合同		
8		吸引に関する演習・実習	吸引の実際 (実習)				PT 学科と合同		
教 科 参 考 書		教科書：小林隆司：身体障害作業療法学 2 (内部障害)、羊土社、2019							
履 修 上 の 注 意		予習をしてから授業に臨んでください。 この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定 されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望しま す。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 森：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担当教員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
認知機能作業療法学		作業療法学科 (専門科目)	准教授・外川 佑	選択	2	後期	2	非該当	否
授業概要		・認知機能障がいを持つ対象者の臨床像について教授する。 ・認知機能障がいに対する各種検査及び観察の技術とその結果の解釈について教授する。 ・認知機能障がいを持つ対象者への作業療法治療・訓練方法とその根拠について教授する。							
一般目標		・認知機能障がいを持つ対象者の病態、評価法を理解する。 ・認知機能障がいの治療原則および治療方法を理解する。 ・各症状を有する事例に対する介入方法の例を挙げられる。							
到達目標		・臨床症状に合わせた評価法を選択し、実施することができる。 ・評価結果から、対象者の障がい像を解釈・説明できる。 ・認知機能障がいを持つ対象者への作業療法治療・訓練方法を説明できる。 ・各症状を有する事例に対し、適切な治療計画を立案できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（60%）、講義中に実施する小テスト（40%）から判断する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など			担当	
1	5. 9. 28 (木) 3	注意機能障がいの評価	MARS 日本語版、脳損傷者の日常生活観察による注意評価スケール、CAT、ADL 評価		覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。 授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。			外川	
2	5. 9. 28 (木) 4	注意機能障がいの作業療法	注意機能障がいへの介入の原則、直接刺激法、行動条件付け法、戦略置換法、全般的運動刺激、ADL 訓練						
3	5. 10. 5 (木) 3	半側空間無視の評価	Visual Extinction Test、CBS、BIT、ADL 評価						
4	5. 10. 5 (木) 4	半側空間無視の作業療法	視覚走査訓練、Spatiomotor cueing、プリズム順応、ADL 訓練						
5	5. 10. 12 (木) 3	認知の障がいの評価	VPTA、ADL 評価						
6	5. 10. 12 (木) 4	認知の障がいの作業療法	視覚失認、相貌失認、地誌的見当識障がいに対する対応と介入						
7	5. 10. 19 (木) 3	言語障がいの評価	SLTA、WAB、CADL						
8	5. 10. 19 (木) 4	言語障がいの作業療法	失語の回復過程と介入（仮名文字訓練法、MIT、PACE、AAC など）、失語症患者とのコミュニケーション						
9	5. 10. 26 (木) 3	記憶障がいの評価	ベントン視覚記憶検査、レイ・オストリッチの複雑図、三宅式記憶力検査法、RBMT、ハノイの塔						
10	5. 10. 26 (木) 4	記憶障がいの作業療法	誤りなし学習法、PQRST 法、頭文字記憶術、視覚イメージ法、ペグ法、運動コード化、代償手段、ADL 訓練						
11	5. 11. 2 (木) 3	行為・行動の障がいの評価	失行、運動維持困難、運動保続、本能的把握反応の評価、SPTA、ADL 評価						
12	5. 11. 2 (木) 4	行為・行動の障がいの作業療法	介入の原則とポイント、ADL 訓練						
13	5. 11. 6 (月) 1	遂行機能障がいの評価	BADS、WCST、Stroop テスト、誤の流暢性、ティンカートイテスト、ADL 評価						

14	5.11. 6 (月) 2	遂行機能障がい作業療法	自己教示訓練、問題解決訓練、環境の調整		
15	5.11.16 (木) 3	まとめ	認知機能障がい有する対象者に対する作業療法過程		
教科書		【教科書】 ・長崎重信 監修/鈴木孝治 編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 高次脳機能障害作業療法学. メジカルビュー社, 2016 【参考図書】 ・石合純夫：高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版社 ・平山和美：高次脳機能障害の理解と診察 中外医学社 ・大槻閑人、子鹿ゆずる：アンメット-ある脳外科医の日記- 講談社			
履修上の注意		特になし			
学生へのメッセージ		認知機能障がいに対する作業療法を習得すると、作業療法士としての臨床や研究の幅が広がります。不明な点については積極的に質問するなどし、作業療法の視点を広げてください。			
e-mail・研究室(連絡先)		外川 佑：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担当教員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高齢期作業療法学	作業療法学科 (専門科目)	准教授・外川 佑	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	日本の高齢者の現状と特徴、高齢者に多い疾患の臨床像とその評価方法、高齢期の対象者に対する作業療法で用いられる理論について教授する。							
一般目標	・日本の高齢者の現状と特徴について理解する。 ・高齢者に多い疾患の臨床像とその評価方法を理解する。 ・高齢期の対象者に対する作業療法で用いられる理論の概要を理解する。							
到達目標	・日本の高齢者の現状と特徴について説明できる。 ・高齢者に多い疾患の臨床像を理解し、その評価を実施できる。 ・ICF、COPM を用いて対象者の障害像を解釈・説明することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験（60％）、課題レポート（20％）、講義中の小テスト（20％）から判断する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など			担当	
1	5. 6. 22（木）3	高齢者の現状	高齢化の進展、超高齢社会の抱える問題、一般高齢者の状況、社会制度	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。			外川	
2	5. 6. 22（木）4	高齢者の特徴	高齢者の生理的、身体的、認知、心理的特徴					
3	5. 6. 29（木）3	高齢者に多い症候と疾患 1	意識障害、循環器疾患、呼吸器疾患、内分泌・栄養・代謝系疾患、嚥下機能障害					
4	5. 6. 29（木）4	高齢者に多い症候と疾患 2	神経系疾患、運動器疾患、精神系疾患、排尿・排便機能障害、睡眠障害、転倒・骨折、褥瘡、廃用症候群					
5	5. 7. 6（木）4	高齢者に多い症候と疾患 3	認知症の臨床像、作業療法評価とその解釈					
6	5. 7. 6（木）5	介護予防とその評価 高齢者に対する作業療法の実践課程	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム 作業療法評価プロセスと方法、課題の焦点化、目標設定、治療・援助計画、再評価					
7	5. 7. 13（木）4	高齢期の作業療法で用いられる理論	カナダ作業遂行モデル（COPM）、国際生活機能分類（ICF）	レポート提出				
8	5. 7. 13（木）5	事例検討	評価項目の選択、評価の解釈					
教科書 参考図書	教科書： 松房利憲／新井健五 編集：高齢期作業療法学 第3版．医学書院，2016 大塚俊男，他：高齢者のための知的機能検査の手引き．ワールドプランニング，1991							
履 修 上 の 注 意	特になし							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	積極的に学習し、高齢期の対象者に対する作業療法の理解に努めてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	外川 佑： 研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高齢期作業療法学演習		作業療学科 (専門科目)	准教授・外川 佑	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		高齢期の対象者に対する作業療法治療・訓練方法とその根拠について教授する。							
一般目標		・病期や実施場所に応じた治療・援助内容を理解する。 ・現実見当識訓練、回想法、音楽、運動、手工芸を用いた治療・援助法を理解する。 ・認知症、虚弱高齢者、寝たきりの高齢者に対する治療・援助法を理解する。 ・介護予防における作業療法士の役割を理解する。							
到達目標		・病期や実施場所に応じた治療プログラムを立案できる。 ・現実見当識訓練、回想法、音楽、運動、手工芸を用いた介入を実践できる。 ・認知症、虚弱高齢者、寝たきりの高齢者に対する治療プログラムを立案できる。 ・介護予防における作業療法士の役割を説明できる。 ・事例をもとに、作業療法の一連の流れを説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（70%）、課題レポート（20%）、プレゼンテーション度(10%)から判断する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5.11.30（木）3	高齢者に対する作業療法の 実践過程 1	作業療法プロセス、リスク管理、予後予測				プレゼンテ ーション	外川	
2	5.11.30（木）4	高齢者に対する作業療法の 実践過程 2	病期、実施場所に応じた治療・援助内容の 違い						
3	5.12. 7（木）3	高齢期の作業療法の実際 1	現実見当識訓練(R0)、回想法						
4	5.12. 7（木）4	高齢期の作業療法の実際 2	音楽とその治療的使用						
5	5.12.14（木）3	高齢期の作業療法の実際 3	運動とその治療的使用						
6	5.12.14（木）4	高齢期の作業療法の実際 4	手工芸とその治療的使用						
7	5.12.21（木）3	高齢期の作業療法の実際 5							
8	5.12.21（木）4	作業とその治療的応用	活動分析・作業分析と適応						
9	6. 1. 4（木）3	認知症に対する作業療法 1	認知症を有する対象者への介入方法						
10	6. 1. 4（木）4	認知症に対する作業療法 2							
11	6. 1.11（木）3	虚弱、寝たきり高齢者に対 する作業療法	虚弱高齢者、寝たきり高齢者への介入方法						
12	6. 1.11（木）4	介護予防	介護予防事業の実際と作業療法士の役割						
13	6. 1.18（木）3	事例検討 1	評価結果の解釈				レポート 提出		
14	6. 1.18（木）4	事例検討 2	作業療法プログラム立案						
15	6. 1.25（木）3	事例検討 3、まとめ	作業療法プログラム立案						
教 科 書 参 考 図 書		教科書： 松房利憲／新井健五 編集：高齢期作業療法学 第3版．医学書院，2016 大塚俊男，他：高齢者のための知的機能検査の手引き．ワールドプランニング，1991							
履 修 上 の 注 意		実技も含まれます。その際には動きやすい服装で出席してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		実技による体験、グループワークでの討論を通じて、高齢期の対象者に対する作業療法の考え方 やその手技を体得してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		外川 佑：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高 齢 期 作 業 療 法 学 実 習	作業療法学学科 (専門科目)	准教授・外川 佑 助 教・井上 香	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	障がいの特性に応じた作業療法を実践するための技術を教授する。							
一般目標	・ 障害の特性に応じた評価項目を選択できる。 ・ 評価結果から障害構造を解釈できる。 ・ 障害の特性に応じた作業療法プログラムを立案することができる。 ・ 高齢者に対する作業療法で用いられる介入法を理解する。							
到達目標	・ 障害の特性に応じた評価項目を選択し、その理由を説明できる。 ・ 評価結果から障害構造を解釈・説明できる。 ・ 障害の特性に応じた作業療法プログラムを立案し、その根拠を説明することができる。 ・ 高齢者に対する作業療法で用いられる介入法を適切に実践できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	授業態度（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）により判断する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1～2	5. 6. 14（水）3-4	臨床に役立つ評価Ⅰ	身体機能に関する評価			各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。		外川 井上
3～4	5. 6. 21（水）3-4	臨床に役立つ評価Ⅱ	精神機能に関する評価 社会性に関する評価					
5～6	5. 6. 28（水）3-4	治療計画立案演習Ⅰ	パーキンソン病患者の事例を用いて治療計画を立案する					
7～8	5. 6. 30（金）3-4	治療計画立案演習Ⅱ	廃用症候群の事例を用いて治療計画を立案する					
9～10	5. 7. 5（水）3-4	治療計画立案演習Ⅲ	認知症患者の事例を用いて治療計画を立案する					
11～12	5. 7. 7（金）3-4	臨床に役立つツール	生活行為向上マネジメント（演習）					
13～15	5. 7. 12（水）3-5	高齢者の理解	高齢者疑似体験による演習					
教 科 参 考 図 書		教科書 松房利憲／新井健五 編集：高齢期作業療法学 第3版. 医学書院, 2016 大塚俊男, 他：高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング, 1991 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル 66 生活行為向上マネジメント, 2018						
履 修 上 の 注 意		実習が中心となりますので、体調管理に気をつけてください。 この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		高齢期には複数の障がいが重複して生じるため、柔軟な対応が求められます。これまで学んだことを基に、総合的に考えてアプローチする方法を身につけてください。						
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		外川 佑：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
日常生活活動学	作業療法学科 (専門科目)	准 教 授・鈴木 由美 非常勤講師・笹 原 寛	必修	2	前期	2	非該当	否
授業概要	リハビリテーションにおける日常生活活動（ADL）の意味を理解し、対象者の生活の中に生かせる作業療法支援を教授する。							
一般目標	ADL の意義を理解し、対象者に適した ADL 指導を行うことができる。							
到達目標	1 ADL の概念を歴史的背景と ICF の視点から述べることができる。 2 評価法の種類を説明でき、実際に使用することができる。 3 起居動作、身の回り動作、生活関連動作を中心とした ADL を動作分析の視点から述べることができる。 4 ADL と IADL の違いが理解できる。 5 対象者の特性に適応した指導内容を考えることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	【成績】 定期試験 50% 授業内のプレゼンテーション 30% レポート内容 20% 計 100%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	5. 4. 10（月） 4	総論（ADL の概念・ICF との関係）		グループワークおよびプレゼンテーションの準備等が、講義時間内に終わらないときは、必ず学外時間を使って期限まで準備するようにしてください	鈴木			
2	5. 4. 17（月） 4	行為別 ADL 食事動作・整容動作	実技を行います					
3	5. 4. 24（月） 4	行為別 ADL 更衣動作 動作分析	グループワーク					
4	5. 5. 1（月） 4		プレゼンテーション					
5	5. 5. 8（月） 4	行為別 ADL 排泄動作・入浴動作	講義					
6	5. 5. 15（月） 4	日本人特有の生活様式	講義					
7	5. 5. 22（月） 4	IADL の理解 炊事・洗濯・掃除 外出・自己管理	グループワーク	プレゼンテーション 資料作成・提出				
8	5. 5. 29（月） 4		プレゼンテーション					
9	5. 6. 5（月） 4	BI/FIM の理解と解釈	講義					
10	5. 6. 12（月） 4	FIM の理解と解釈 事例検討	グループワーク					
11	5. 6. 19（月） 4		レポート提出					
12	後日連絡	ADL 指導の実際	実技中心に行います		笹原			
13								
14								
15		自助具作成体験		プレゼンテーション				
教 科 書 参 考 図 書	◆クリニカル作業療法シリーズ 日常生活の作業療法 中央法規出版株式会社 2014 年 ◆ADL とその周辺 評価・指導・介護の実際 第 3 版 医学書院							
履 修 上 の 注 意	動作分析は運動学の知識が不可欠ですので、運動学の復習をしっかりとっておいてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	対象者への ADL の指導は作業療法士の仕事の重要な柱となります。同時に ADL は身近なゆえにまだまだ研究されていない部分も多くあります。ここで教授するのは一つの視点ですので、そこから興味を広げていって欲しいと思います。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	鈴木由美：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域作業療法学概論		作業療法学科 (専門科目)	准教授・鈴木 由美	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要		地域リハビリテーション、地域作業療法の理念や役割、実践課程を教授する。具体的には、社会保障制度と地域ケアシステム、地域における多職種連携と作業療法士の役割、生活行為向上マネジメントの概要について教授する。							
一般目標		地域作業療法の概念を理解する。							
到達目標		1 地域リハビリテーション、地域作業療法の概念について説明できる 2 地域作業療法における、医学モデルと生活モデルの視点について説明できる。 3 医療保険と介護保険の関係が説明できる 4 地域作業療法を支える社会資源を説明できる。 5 地域作業療法における多職種連携・ネットワークについて説明できる。 6 地域包括ケアシステムや総合事業を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		【成績】 定期試験 50％・小テスト 50％							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 4. 21 (金) 2	地域を知る視点		講義				鈴木	
2	5. 4. 28 (金) 2	地域を知る		グループワーク					
3	5. 5. 12 (金) 2	地域を知る		プレゼンテーション		資料作成 提出			
4	5. 5. 19 (金) 2	社会保障制度(医療保険)		講義					
5	5. 5. 23 (火) 2	介護保険		講義		小テスト			
6	5. 6. 2 (金) 2	社会資源と活用 地域ケアシステム・総合事業		講義		小テスト			
7	5. 6. 16 (金) 2	模擬 地域作業療法体験		グループワーク 模擬患者さんの DVD を視聴し今できることを考えます。					
8	5. 6. 23 (金) 2	模擬 地域作業療法体験		プレゼンテーション		資料作成 提出			
教 科 書 参 考 図 書		教科書 重森健太・横井賀津志：地域リハビリテーション学第2版 羊土社 2019 年 教科書 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル 57 生活行為向上マネジメント改定第2版 2016 年							
履 修 上 の 注 意		教科書は3年時も同じものを使用する予定です。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		この科目は3年前期の地域作業療法学Ⅰおよび4年時の地域作業療法学Ⅱのベースとなるものなのでしっかりと学習するようにしてください。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		鈴木由美：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域作業療法学Ⅰ		作業療法学科 (専門科目)	准教授・鈴木 由美	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	1 地域における人の生活・組織の存在・つながりを教授する。 2 地域の視点から保健、医療、福祉の連携の必要性を教授する。 3 対象（個々・地域全体）を支援する社会資源と多職種等との連携について教授する。 4 地域評価の方法について教授する。 5 地域における作業療法士の役割を教授する。								
一般目標	1 地域における人の生活・組織の存在・つながりを理解する。 2 地域の視点から保健、医療、福祉の連携の必要性を理解する。 3 対象（個々・地域全体）を支援する社会資源と多職種等との連携について理解する。 4 地域評価の方法について理解する。 5 地域における作業療法士の役割を考察する。								
到達目標	1 地域の人々の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性を捉える地域評価の方法について考える 2 地域リハビリテーションの概念について説明できる 3 地域リハビリテーションにおける、医学モデルと生活モデルの視点について説明できる。 4 地域作業療法を支える社会資源とその活用方法について説明できる。 5 地域作業療法における多職種連携・ネットワークについて説明できる。 6 地域包括ケアシステムや総合事業と作業療法の関係を述べるができる。 7 実践の場に応じた作業療法について説明・模擬実践できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	地域作業療法は、医学モデルと生活モデルの違いを理解したうえで、生活の場における OT としての専門的 役割を理解することとなる。 【成績】 定期試験 50%・演習プレゼンテーション（資料を含む）50%・計 100%								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 4. 6 (木) 2	地域リハビリテーションとは (定義, 歴史)		講義				鈴木	
2	5. 4. 20 (木) 1	介護保険制度		講義					
3	5. 4. 20 (木) 2	地域作業療法を実践している場 を調査する.		グループワーク		プレゼンテーション			
4	5. 4. 27 (木) 1			プレゼンテーション		資料提出			
5	5. 4. 27 (木) 2	生活行為向上マネジメント		講義					
6	5. 5. 11 (木) 1	対象者の視点で学内環境調査を 体験する.		グループワーク		プレゼンテーション 資料提出			
7	5. 5. 11 (木) 2								
8	5. 5. 18 (木) 1			プレゼンテーション					
9	5. 5. 18 (木) 2								
10	5. 5. 25 (木) 1	集団アプローチ・評価と支援		講義					
11	5. 5. 25 (木) 2	模擬事例を用いて地域における アプローチを検討する		グループワーク					
12	5. 6. 1 (木) 1			プレゼンテーション		実施計画書の提出			
13	5. 6. 1 (木) 2								
14	5. 6. 8 (木) 2	地域包括ケア・地域における連携		講義					
15	後日連絡	精神領域における地域支援		講義					
教 科 書 参 考 図 書	教科書 重森健太・横井賀津志：地域リハビリテーション学第2版 羊土社 2019年 教科書 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント改定第2版 2016年								
履 修 上 の 注 意	グループワークでは、プレゼンテーション前に資料の提出をしてください。また、グループ ワークのプレゼンテーションの内容も試験範囲としますので、責任を持って資料作りをするとな ともに、他のグループの発表もしっかりと聞くようにしてください。 同時期に始まる臨床実習Ⅱもこの科目に関連しますので、興味を持って取り組んでください。 この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定さ れています。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	地域作業療法学Ⅰは社会資源や法的な部分など、かなり知らなければならないことが多い科目 です。講義で話したものを丸暗記するよりは、自ら考え、調べて、学習した方がより知識が深 まるという考え方からグループ学習を多くしています。しっかりと取り組んでください。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	鈴木由美：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域作業療法学Ⅱ		作業療学科 (専門科目)	准教授 鈴木 由美 非常勤講師 川田 智尋	必修	4	前期	2	非該当	否
授業概要	1 地域における作業療法実践のための知識を教授する。 2 医学モデルと生活モデルの違いを理解し、地域活動における作業療法のあり方を教授する。 3 今後の地域リハビリテーション活動の課題を教授する。								
一般目標	1 地域における作業療法実践のための知識を整理する。 2 医学モデルと生活モデルの違いを理解し、地域活動における作業療法のあり方を理解する。 3 今後の地域リハビリテーション活動の課題を整理する。								
到達目標	1 地域の概念を整理できる。 2 地域評価の枠組みを理解できる。 3 地域におけるリハビリテーション課題を抽出することができる。 4 地域における作業療法の具体的な支援方法を述べることができる。 5 地域リハビリテーションにおける訪問リハビリテーションの位置づけを理解できる。 6 訪問リハビリテーションにおける作業療法士の関わりを理解することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	地域作業療法Ⅰからさらに深い考察を求める授業となるので、より主体的な行動を評価します。 【成績】 授業内でのプレゼンテーション 50% レポート提出 50% 計 100%								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1 2 3 4 5 6 7 8	5. 4. 10 (月) 2 5. 4. 10 (月) 3 5. 4. 10 (月) 4	3 年次の地域作業療法学Ⅰで学修した、地域における作業療法支援の基本的知識を整理したうえで、更なる効果的な支援のための知識と具体的な手段を、演習を通して学ぶ。	グループワーク 障がい者(視覚障がい者・身体障がい者)の視点で地域社会の環境を調査する。 調査項目・調査方法などグループで企画し実際の調査に臨む。	学外調査	鈴木				
	5. 4. 11 (火) 2 5. 4. 11 (火) 3 5. 4. 11 (火) 4		中間報告 プレゼンテーション	学外調査	鈴木				
	5. 4. 12 (水) 3 5. 4. 12 (水) 4		プレゼンテーション	プレゼンテーション資料作成・提出(締め切り 11 時)	鈴木				
9 10 11	5. 4. 20 (木) 1 5. 4. 20 (木) 2 5. 4. 20 (木) 3	1. 地域リハビリテーションにおける訪問リハビリテーションの位置づけ及び法的根拠 2. 訪問リハビリテーションの対象と、その評価について	実際に地域リハビリテーションに関わっている外来講師からの講義 ・訪問作業療法 身体障がい	レポート提出	鈴木 川田				
	5. 4. 21 (金) 1 5. 4. 21 (金) 2 5. 4. 21 (金) 3 5. 4. 21 (金) 4	3. 訪問リハビリテーションにおいて関わる多職種の理解と連携方法 4. 生活や環境を踏まえた訪問作業療法の実際 5. 地域で求められる作業療法士の役割と課題	・訪問作業療法 精神障がい ・ケアマネージャーの職務						
教 科 書 参 考 図 書		参考図書について、随時紹介します。							
履 修 上 の 注 意		集中講義の形式で行ないます。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		4 月中に集中講義を実施します。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		鈴木由美：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
福祉用具・住環境整備学		作業療法学科 (専門科目)	准教授・森 直樹 准教授・鈴木 由美	選択	2	後期	2	非該当	否
授業概要		福祉用具導入の適応と評価、および住環境整備の方法とその効果について教授する。							
一般目標		福祉用具導入の適応と評価、および住環境整備の方法とその効果について理解する。							
到達目標		①ICF における福祉用具と住環境整備の位置付けを説明できる。 ②片麻痺や四肢麻痺、骨・関節障害等の代表的な障がいに対する福祉用具や住環境整備について述べる ことができる。 ③ADL の活動項目ごとに適用される福祉用具や住環境整備について述べる ことができる。 ④福祉用具導入や住環境整備の根拠となるシステムについて説明することができる。また、導入の際の他 職種との連携について述べる ことができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		授業内プレゼンテーション 60% 課題レポート 40% 計 100%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 27 (水) 3	総論 (リハビリテーション、ICF と福祉用具・住環境整備との関連、定義・歴史)		講義				鈴木	
2	5. 9. 27 (水) 4	移動・移乗動作に関連する福祉用具		講義					
3	5. 10. 4 (水) 3	セルフケア (入浴、更衣、整容、排泄、食事) における福祉用具の種類と適応 コミュニケーションに特化した福祉用具 (視線入力装置・重度障がい者用意思伝達装置の体験・演習)		グループワーク		プレゼンテーション 資料作成・提出			
4	5. 10. 4 (水) 4								
5	5. 10. 11 (水) 3			プレゼンテーション					
6	5. 10. 11 (水) 4								
7	5. 10. 18 (水) 3	福祉用具適応疾患		講義					
8	5. 10. 25 (水) 3	福祉用具と住環境整備		講義		プレゼンテーション 資料作成・提出			
9	5. 10. 25 (水) 4	福祉用具と住環境整備 演習		グループワーク					
10	5. 11. 1 (水) 3			プレゼンテーション					
11	後日連絡	車椅子・座位保持装置の基礎知識、評価、支援		講義・演習				スポット 菅原 (森)	
12									
13	9 月～10 月の 最終週末を予定	障害観、生活モデル、ICT 支援の導入と適応、評価、支援		講義・演習				スポット 坂井 (森)	
14									
15									
教 科 書 参 考 図 書		特に指定しません							
履 修 上 の 注 意		かなりの時間をグループワークが占めます。気を抜かないでしっかりと取り組んでください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		福祉用具は、その種類や用途は多岐にわたります。また、1 度開発されたものでもモデルチェンジが頻回になされたり、市場での売れ行きが悪いと販売停止になったりします。対象者に本当に必要な機器は何か見定める視点を持って欲しいと思います。 また、福祉用具を用いての社会参加の意味合いを考える機会にしたいと思います。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		森 : 研究室 34 nmori@yachts.ac.jp 鈴木 : 研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
職業関連活動学		作業療法学科 (専門科目)	講師・佐々木 学	選択	4	後期	1	非該当	可
授業概要		健常者や障害者などの対象者に対して就労支援や復職支援を行う場合に必要となる各種法制度や支援組織、学術団体などの動向や、臨床での対応事例などについて紹介する。 授業後半では、施設見学などを行い、健常者や障害者に対する就労支援が幅広く行われていることを確認する。							
一般目標		・我が国における一般就労や障害者就労に関連した法制度について理解できる ・身体障害者などの支援を理解できる ・精神障害者・発達障害者・高次脳機能障害等の支援を理解できる ・高齢者の就労支援を理解できる ・各種の就労支援施設を見学し、その機能を理解できる							
到達目標		・我が国における一般就労や障害者就労に関連した法制度について対象者や家族に説明できる ・身体障害者・精神障害者・発達障害者・高次脳機能障害等などの支援の相違を理解できる ・各種の就労支援施設を見学し、対象者に施設利用を考慮した介入アプローチを考察できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		レポート課題「あなたが総合実習での担当症例に対し、就労支援するとしたらどのような介入が可能があるかを考察しなさい」により判断する。 成績判定は、F判定：59以下 臨床家を志す学生として不十分であると思われる D判定：60-69 講義内容をおおまかには理解している C判定：70-79 臨床で必要な知識の習得や応用ができると総合的に判断される B判定：80-89 大学生として発展的な意見が述べられている A判定：100-90 秀でた独創的知見が述べられている							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1 2 3 4 5 6 7 8	5.10. 5 (木) 1 5.10. 5 (木) 2 5.10.12 (木) 1 5.10.12 (木) 2 5.10.19 (木) 2 5.10.26 (木) 2 5.11. 2 (木) 2 5.11. 9 (木) 2	法制度(労働法、総合福祉法、職業分類)等 一般人の支援 身体障害者(身・内・視・聴)等の支援 精神・発達・高次脳機能障害等の支援 高齢者の支援 見学1) ハローワーク山形 見学2) ポリテクセンター山形 見学3) 障害者職業センター		学内授業は講義聴講、動画視聴などによる。 施設見学は、講義時間以外に移動時間が加算されるため、別日程となることがある。		各団体の Web、 就労関連や年金制度を解説した YouTube 視聴を推奨		佐々木	
教 科 書 参 考 図 書		教科書は指定しない。 Web: 厚生労働省>政策について>分野別の政策一覧>雇用・労働>雇用, リンク参照 Web: 高齢・障害・求職者雇用支援機構							
履 修 上 の 注 意		特になし							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		作業療法は就労支援・復職支援の一部を担うだけであることを理解するようにしてほしい							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐々木学：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法研究法	作業療法学科 (専門科目)	教授・藤井 浩美	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要	作業療法(Occupational Therapy: OT)に関して生じた疑問に対し、解決するための考え方と方法論を学ぶ							
一般目標	OT 研究を展開する上で必要な考え方と方法論を理解する。							
到達目標	OT 研究を展開する上で必要な考え方と方法論を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	4 回のレポートで評価します。レポートは、理解度で判断します。骨格筋レポート提出は、下記の通りです。講義開始までに提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0 点となります。レポートは、講義内容の理解度で判断します。基準は、理解度に応じて○A、B、C、D を合格とし F (59 点以下) を不合格とします。 到達目標に達したか否かの判定は、4 回のレポートの各々が 60%以上とします。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 20 (木) 4	研究のすすめ方 1	作業療法研究とは何か、具体的な研究手続きが説明できる。				藤井	
2	5. 5. 11 (木) 4	研究論文と学会発表	研究成果の公表の意義と方法が理解できる。			課題	藤井	
3	5. 5. 18 (木) 4	研究結果の評価と統計 1	研究結果の信頼性を高めるための考え方が説明できる。				藤井	
4	5. 5. 25 (木) 4	研究結果の評価と統計 2	統計学的仮説検定と統計学的推定が理解できる。			課題	藤井	
5	5. 6. 1 (木) 4	数量的捉え方	如何に研究で用いるかが説明できる。				スポット	
6	5. 6. 8 (木) 4	研究のすすめ方 2	仮説検証の正否を過去の研究から理解する。			課題	スポット	
7	5. 6. 15 (木) 4	具体的研究例 1	作業療法関連領域の研究が理解できる				スポット	
8	5. 6. 22 (木) 4	具体的研究例 2	作業療法関連領域の研究が理解できる。			課題	藤井	
教 科 書 参 考 図 書		参考書：渡部欣忍 著「あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ！」(南江堂) 2014. 市原清志：バイオサイエンスの統計学. 南江堂. 東京, 1993. 鎌倉矩子、他：作業療法研究法入門. 三輪書店. 東京, 1997. 金子翼、他：PT・OTのための統計学入門. 三輪書店. 2000.						
履 修 上 の 注 意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		スポット非常勤担当の部分は、予定を調整してご連絡致します。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		藤井浩美：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
卒業研究		作業療法学科 (専門科目)	作業療法学科全教員	必修	4	通年	2	非該当	否
授業概要		臨床では大学で習得したことや、所属している医療機関や福祉施設での通常業務を繰り返していればよいのではなく、対象者への最大のサービスを提供すべく、日々の研鑽が重要である。過去の知識や技術では解決が困難な問題にも直面する。こうした場合、決して諦めることなく、問題解決しようとする態度やどのように問題解決すべきかについての科学的態度と一連の過程を通じて、臨床家に必要な技能を向上させることが本授業の目的である。学生が臨床実習や授業で考えたこと、テレビやインターネットで取り上げられた社会的問題などから研究テーマを絞ってゆくなど、自分が解決すべき問題を明らかにする過程も重要である。問題についてどのような視点で取り組むか、どのような行動を起こすべきなのか、その結果はどのように活用されるべきなのかを考えなければならない。							
一般目標		・臨床で必要とされる問題解決に関連する基本的態度を、研究を通じて研鑽すること ・学生が感じている問題を具体化すること、または指導教員から与えられた課題を遂行すること ・問題を解決する具体的手法のいくつかを理解し、実践すること ・多くの学生や教員とのディスカッションを通じて、議論できるようになること ・論理的な思考を研究論文執筆を通じて理解し、記録に残せること							
到達目標		・指導教員の指導のもと、研究活動を行い、その一連の流れを理解すること ・指導教員より定期的指導を受け、指導教員から教育的指導を受けること ・指導教員が企画するゼミに参加し、他の学生の研究を通じて、幅広い研究の重要を理解すること ・作業療法卒業研究発表会で発表すること ・作業療法卒業研究論文集に投稿すること ・著作権や倫理的側面について理解すること							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		学生は一連の研究活動を遂行しなければならない。そのため、ここでの学生の努力度、研究到達度、問題解決の視点、技能などが総合的に判断され、大学生として臨床や社会から期待されるレベルも考慮される場合がある。 評定は、100 点を満点とし、作業療法学科教員全員に持ち点が与えられる。指導教員が多く点を持つ。発表会成績などを中心に評定が行われる。作業療法学科教員は、作業療法研究発表会などを主としてこれを評定する。 A 100-90 点、B 80-89 点、C 70-79 点、D 60-69、F 59 以下							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1 ～ 45	後日連絡 <								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
見学実習特論		作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要		見学実習特論は必修科目「見学実習」の前後で実施されるものであり、見学実習前には学生が円滑に実習に適応できるように指導するとともに、必要とされる知識・技能の確認を行う。また、見学実習後は実習の成果の確認を行う。							
一般目標		<見学実習前> 見学実習に向けて準備を行う。 <見学実習後> 見学実習を振り返るとともに、自己の達成度、課題など見学実習全体を総括できる。							
到達目標		<見学実習前> ・職業人としての身だしなみ、態度、情報管理等について確認し準備ができる ・当該実習地について必要な知識・能力等について見学実習シートを用いて確認し準備ができる ・講義、グループワーク等を通して臨床推論の知識を深め、考え方について述べることができる <見学実習後> ・見学実習後グループ報告会で発表することができる。 ・見学実習終了後、教員等との指導において見学実習シートを用いて振り返りができ、今後の自己改善目標を考えることができる ・臨床推論の一部を経験し、事例の観察、面接、検査・測定、作業分析などを通して潜在する課題に気づき、自身の思考過程への気づきや理解を深めることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		(見学実習前)・事前学習 (グループワーク) (見学実習後)・グループ発表会等 A 100－90 点、十分な達成であると認められる B 89－80 点、達成した項目が 2/3 程度である C 79－70 点、達成した項目が 1/3 程度である D 69－60 点、達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、達成した項目がなく、実習前の準備、実習後の成果が得られなかった それぞれを評定し、総合的に評価します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容 学習方法		授業外学習 など		担当
1 2 3 4 5	<見学実習前> 5.12. 4 (月) 3 5.12.11 (月) 3 5.12.11 (月) ~ 6. 1. 9 (火) 6. 1.15 (月) 3	<見学実習前> (全 体) オリエンテーションⅠ (全 体) 臨床推論Ⅰ (領域別) 臨床推論Ⅱ (全 体) オリエンテーションⅡ			<見学実習前> 見学実習特論概要、臨床実習の手引、臨床実習指導報告書関連書類を説明する。見学実習シートを用いて職業人としての身だしなみ、態度、情報管理等について学習する。 臨床推論の知識を深める。実習領域毎に視聴覚教材等を用いて模擬事例のメタ分析を行い、自身の思考過程への気づきや理解を深める				全教員
6 7 8	6. 2.20 (火) 2 6. 2.21 (水) 1 6. 2.21 (水) 2	<見学実習後> (全 体) オリエンテーション (領域別) 見学実習成果報告			<見学実習後> 実習の達成度について見学実習シートを用いて確認する。実習概要を個別報告、自己改善目標等について担当教員に報告し個別指導を受ける。				

教 科 書 参 考 図 書	臨床実習指導の手引、臨床実習指導報告書関連書類、臨床実習経験自己記録表
履 修 上 の 注 意	・「臨床実習指導の手引」、「臨床実習指導報告書関連書類」を精読すること ・実習地での指導や生活については、臨床実習説明会で指導者から指導を受けること。 ・当該実習地の事前学習（施設情報の機能、役割、実習ノートの確認、閲覧等）を行うこと。 ・見学実習にあたり担当教員より指導（自己紹介用紙も含む）や講義を受けること。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	職業人になるための実践的な貴重な場です。積極的に学んでください。学生は、臨床実習協力病院の厚意で維持されていることを理解し、「わきまえた行動」をとらねばならない。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	科目担当者 森直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅰ 特論	作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤寿晃 教 授 藤井浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤充洋 講 師 佐々木学 助 教 井上 香 助 教 川勝祐貴 助 教 高畑未樹	必修	3	後期	1	非該当	否
授業概要	総合実習Ⅰ 特論は、必修科目「総合実習Ⅰ」の前後で実施されるものであり、学生が総合実習へ円滑に 適応できるように指導するものである。実習地の特徴や必要とされる技能の確認、総合実習Ⅰに必要な能 力確認や、実習後の能力確認が行われる。							
一般目標 (GIO)	(総合実習Ⅰ 前) 総合実習Ⅰに向けた実習地の理念を理解し、実習地の特性に向けた準備を行う (総合実習Ⅰ 後) 自己の能力評価を行い、次の取り組みに向けたゴール設定を行う							
到達目標 (SBO)	(総合実習Ⅰ 前) 実習地の基本理念、特性を述べることができる 実習地での主な疾患と治療理論の概要を述べることができる 実習地で必要な能力を確認し、自己改善目標を考えることができる 前年度実習生が経験した反省点をもとに、自分の行動の一助とすることができる (総合実習Ⅰ 後) 臨床実習報告会で発表することができる 実習終了での能力を確認し、次の目標を考えることができる 反省会や個別面接を通じて教員からアドバイスを受け、次期実習への自己改善目標を考えることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1. 事前学習結果, 2. OSCE 結果(2 回), 3. 発表会(プレゼン能力のみ), 4. 反省会, 5. 個別指導などを評定し、 A 100-90 点、 十分な達成であると認められる B 89-80 点、 達成した項目が 2/3 程度である C 79-70 点、 達成した項目が 1/3 程度である D 69-60 点、 達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、 実習到達度や安全を配慮した行動が著しく劣り、次実習への取り組みが著しく困難							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担 当	
1 2 3 4 5 6 7 8	5. 7. 3 (月) 1 5. 8. 7 (月) 1 5. 8. 7 (月) 2 5. 11. 20 (月) 1 5. 11. 20 (月) 2 5. 11. 22 (水) 3 5. 11. 22 (水) 4 5. 11. 22 (水) 5	(総合実習前) (全体)オリエンテーション (領域)学習会, 実習前能力評価説明 (領域)実習前能力評価 (総合実習後) (全体)オリエンテーション、提出物回収 (全体)総合実習Ⅰ 発表会 1 (全体)総合実習Ⅰ 発表会 2 (全体)反省会 (領域)個別指導	(総合実習前) 基本事項, 感染予防, 交通手段ほか 実習地対策、前年度日誌・レポート等 確認 実習地特性を考慮した実技試験 (総合実習後) 症例報告書の内容を発表会で説明 (同上) 実習後の能力向上の程度を確認する 実習概要を個別報告、自己改善目標 担当教員から総合実習Ⅰ での状況を 踏まえた個別指導を受ける			手 引 き 等 持 参 動 画 参 照 レ ポ ー ト 提 出 (領域別レポ ー ト形式) 録画	全 教 員	
教 科 書 参 考 図 書		「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を読むこと						
履 修 上 の 注 意		・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導をうけること(別途連絡)。 ・臨床実習での実習地選択は学生の成績、授業態度などを総合的に考慮して決定される。 ・実習終了後から総合実習Ⅱまでの期間が短いので、総合実習Ⅱの準備を総合実習Ⅰ 開始前に行ってお くことが望ましい。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		自己への客観的態度から実践することが望まれる						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 佐々木学: 研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅱ特論		作業療法学科 (専門科目)	教授 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講師 佐々木 学 助教 井上 香 助教 川勝 祐貴 助教 高畑 未樹	必修	3	後期	1	非該当	否
授業概要		総合実習Ⅱ特論は、必修科目「総合実習Ⅱ」の前後で実施されるものであり、学生が総合実習へ円滑に適応できるように指導するものである。実習地の特徴や必要とされる技能の確認、総合実習Ⅱに必要な能力確認や、実習後の能力確認が行われる。							
一般目標 (GIO)		(総合実習Ⅱ前) 総合実習Ⅱに向けた実習地の理念を理解し、実習地の特性に向けた準備を行う (総合実習Ⅱ後) 自己の能力評価を行い、次の取り組みに向けたゴール設定を行う							
到達目標 (SBO)		(総合実習Ⅱ前) 実習地の基本理念、特性を述べることができる 実習地での主な疾患と治療理論の概要を述べることができる 実習地で必要な能力を確認し、自己改善目標を考えることができる 前年度実習生が経験した反省点をもとに、自分の行動の一助とすることができる (総合実習Ⅱ後) 臨床実習報告会で発表することができる 実習終了での能力を確認し、次の目標を考えることができる 反省会や個別面接を通じて教員からアドバイスを受け、次期実習への自己改善目標を考えることができる							
成績評価方針 評価方法 および基準		1. 事前学習結果, 2. 発表会(プレゼン能力のみ), 3. 反省会, 4. 個別指導などを評定し, A 100-90 点、 十分な達成であると認められる B 89-80 点、 達成した項目が 2/3 程度である C 79-70 点、 達成した項目が 1/3 程度である D 69-60 点、 達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、 実習到達度や安全を配慮した行動が著しく劣り、次実習への取り組みが著しく困難							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習 など	担当	
1 2 3 4 5 6 7 8	(総合実習前) 5. 11. 22(水) 2 5. 11. 27(月) ~ 5. 12. 1(金) (総合実習後) 6. 2. 5(月) 2 6. 2. 7(水) 2 6. 2. 7(水) 3 6. 2. 7(水) 4 6. 2. 8(木) 2	(総合実習前) (全体)オリエンテーション (領域)学習会 (領域)学習会 (総合実習後) (全体)オリエンテーション・提出物回収 (全体)総合実習Ⅱ発表会 (全体)総合実習Ⅱ発表会 (全体)総合実習Ⅱ発表会 反省会・個別指導			(総合実習前) 基本事項, 感染予防, 交通手段ほか 実習地対策、前年度日誌・レポート等 確認 実習地特性を考慮した実技試験 (総合実習後) 症例報告書の内容を発表会で説明 (同上) 実習後の能力向上の程度を確認する 実習概要を個別報告、自己改善目標 担当教員から総合実習Ⅱでの状況を 踏まえた個別指導を受ける		手引き等持参 動画参照レ ポート提出 (領域別レポ ート形式)	全 教 員	
教科書 参考図書		「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を読むこと							
履修上の注意		・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導をうけること(別途連絡)。 ・臨床実習での実習地選択は学生の成績、授業態度などを総合的に考慮して決定される。 ・総合実習Ⅰ終了後からの期間がほとんどないので、夏休み等を利用し十分学習しておくこと。							
学生への メッセージ		自己への客観的態度から実践することが望まれる							
e-mail・研究室 (連絡先)		学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 鈴木由美: 研究室 30 yusuzuki@vachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅲ特論		作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	4	前期	1	非該当	否
授業概要		総合実習Ⅲ特論では、必修科目「総合実習Ⅲ」の前後で実施されるものであり、総合実習前には学生が円滑に実習に適応できるように指導とともに、必要とされる知識・技能の確認を行う。また、総合実習後は実習の成果の確認を行う。							
一般目標		(総合実習Ⅲ前) 総合実習Ⅲに向けた準備を行う。 (総合実習Ⅲ後) 自己能力評価を行い、改善点の整理を行う。							
到達目標		(総合実習Ⅲ前) ・実習地での必要な知識・能力を確認し、自己改善目標を述べることができる。 ・グループワークで、総合実習Ⅰ・Ⅱでの事例を通してディスカッションができる。 (総合実習Ⅲ後) ・総合実習報告会で発表することができる。 ・実習終了後、教員等との個別面接において実習の振り返りができ今後の自己改善目標を考えることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		(総合実習Ⅲ前)・事前学習 (グループワーク) (総合実習Ⅲ後)・発表会等 それぞれを評定し、総合的に評価します。 A 100－90 点、十分な達成であると認められる B 89－80 点、達成した項目が 2/3 程度である C 79－70 点、達成した項目が 1/3 程度である D 69－60 点、達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、達成した項目がなく、実習前の準備、実習後の成果が得られなかった							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5.4.13 (木) 2	総合実習Ⅲ特論オリエンテーション グループワーク (1)						千葉	
2	5.4.17 (月) 2	グループワーク (2)						千葉	
3	5.4.24 (月) 2	グループワーク (3)						千葉	
4	5.4.27 (木) 2	グループワーク (4) 総合実習Ⅲ前オリエンテーション						千葉	
5	5.7.3 (月) 2	総合実習Ⅲ後オリエンテーション						千葉	
6	5.7.5 (水) 3	総合実習Ⅲ発表会						担当教員全員	
7	5.7.5 (水) 4								
8	5.7.5 (水) 5								
		個別面談						実習訪問教員	
教 科 書 参 考 図 書		学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を読むこと。							
履 修 上 の 注 意		・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導を受けること。 ・総合実習Ⅰ・Ⅱの実習経験をもとにグループでの事例検討をより具体的に学びます。総合実習で担当した事例について症例レポート、症例ノート等を見直しておくように。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		総合実習Ⅰ・Ⅱで行った事前学習は自己学習で行うことが望ましい							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 千葉登：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
見学実習	作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	作業療法における専門基礎科目を概ね学習した段階で、作業療法の臨床実習施設の目的や役割、その中における作業療法士の役割や業務内容および対象者に行っている作業療法について学ぶ							
一般目標	- 臨床実習施設の目的や役割、組織等について説明できる。 - 臨床実習施設の中での作業療法士の役割や業務内容について説明できる。 - 作業療法に関する基礎知識の理解を深める。 - 臨床実習指導者の並列的な要因の推測、階層的な要因の推測の考えを学び、実際の OT 評価・OT 実践を見学し理解を深める。また、それらについて、記録を通して明瞭化し説明ができる。 - 他職種とチームアプローチを行なうための組織全体の理解や、医療人としての倫理観を養うことができる。							
到達目標	- 職業人としての望ましい態度と行動をとることができる。 - 対象者・利用者や職員等と適切なコミュニケーションがとれる。 - 実習施設で観察・見学した対象者・利用者の作業療法を通して、作業療法の治療行為を理解する。 - 臨床実習を通して臨床推論の一部を体験し理解を深める - 情報管理も含めた適切な記録、報告ができる。 - 施設、リハビリテーション部門、作業療法部門の機能・役割や管理・運営について理解できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」に記載されてあるので、必ず読むこと。 臨床実習指導者の評価、成果発表会により、成績判定を行う。 A：100-90 点、B：89-80 点、C：79-70 点、D：69-60 点、F：59 以下							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	6. 2. 13 (火) ～ 6. 2. 19 (月)	具体的実習目標 1) 臨床的専門領域で作業療法を見学・経験をすること。 ＜臨床専門領域の例＞ 身体、精神、高齢期、小児期等 2) 実習施設の目的や役割、組織等を学習する。 3) 実習施設の中での作業療法士の役割や業務内容を学習する。 4) 実習施設で観察・見学した対象者・利用者の作業療法を通して、作業療法の治療行為を理解する。 5) 作業療法実践に必要な管理業務を理解できること。 6) 他職種とチームアプローチができるように組織理解を深めること。	各臨床実習施設によって異なるので、各臨床実習指導者の指示に従うこと	各臨床実習施設によって異なるので、各臨床実習指導者の指示に従うこと	担当教員 全員			
教科 参 考 図 書	学生個人が各自の能力に応じて必要と思われる教科書、参考図書を準備すること。							
履 修 上 の 注 意	「臨床実習指導の手引き」、「臨床実習指導報告書関連書類」をよく読んで実習に臨んでください。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	作業療法士を志す学生として初めての見学実習となります。社会人としてのルールをしっかり守って、積極的に臨床実習に臨んで下さい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	科目担当者 森 直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅰ	作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	3	後期	8	該当	否
実習概要	本実習で学生が行う具体的内容は、対象者への初回面接から評価、治療介入方針、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、実践を行う。 実習領域としては、身体機能系、小児期、老年期、精神機能系、地域領域系などの領域から成り立ち、1名の学生は実習期間中にわたって1つの実習地で実習を行う。							
一般目標 (GIO)	実習地において、対象者に対する評価から作業療法実施計画立案、リーズニングを含む一連の作業療法介入の概要を理解・実践の一部を経験する。							
到達目標 (SBO)	1) 作業療法実施計画を用いて症例の説明をうける 2) 対象者との面接・観察を通じて、またカルテ及び他部門から必要な情報を収集することができる。 3) 種々な対象者に対して基本的な検査・測定法を選択して、実施することができる。 4) 検査・測定結果を正しく記録し、そこから得られた情報を分析することができる。 5) 評価結果を整理・統合し、作業療法の実施に必要な対象者の問題点や能力をまとめることができる。 6) 臨床課程(リーズニング)について理解・実践すること 7) 学内で習得した知識・実技能を実習で活用できる。 8) 対象者や他職員と適切な関係を結ぶことができ、医療従事者としての作業療法士の役割を理解できる。 9) 臨床での倫理的配慮や日本作業療法士協会倫理綱領について理解できる。 10) 対象者の病状に応じて対応できる(患者の体調不良時に介入を変更・中止する場面を経験・遂行)。 11) 管理業務の一部を見学し、その重要性を理解できる。 12) 臨床実習指導者の診療記録などを参照し、そのレベルに到達する努力を行うことができる 13) カンファレンス(部門内、病棟内など)を見学し、多職種連携について理解できる。 14) 施設見学を行い、施設の機能について理解できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	(臨床実習中の学生へのフィードバック) ・毎日の中で、臨床実習指導者が実習生に対してフィードバックを行う。 ・臨床実習指導者が「臨床実習指導報告書」によって評価を行う。 ・実習中盤で実習指導者と学生によって中間評価が行われるので、誤解などがあれば適切に説明し、指導者と改善についてのアドバイスを得たりするなど、実習中の自己改善に役立ててほしい。 ・最終評価後に実習指導者と実習生間で実習についての意見交換を行い、大学に提出する。 (実習終了後の最終成績) ・1. 臨床実習指導報告書、2. 実習日誌、3. 症例日誌、4. 症例報告書(作業療法実施計画)、5. 訪問時の状況などを以下の基準で総合的に判断し、成績が決められる。 A 100-90点、安全配慮、対象者に必要な評価、リーズニング、実施計画作成、記録を十分に実習 B 89-80点、達成した項目が2/3程度である C 79-70点、達成した項目が1/3程度である D 69-60点、達成した項目が1項目程度である F 59点以下、行動が著しく劣り、リスク管理できない							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
	5. 9. 25 (月) ～ 5. 11. 17 (金)	臨床実習 ・初期面接、評価、介入 方針、問題点抽出、プ ログラム立案、実施	・県内外の医療機関の協力のもと臨床実習が行われる。	・病院図書館の活用 の可否を実習地に確 認すること。 ・大学図書館も長期 貸出を行うので確認 すること。 ・実習中は実習指導 者から指導を仰ぐこ とが望ましい ・訪問教員に相談す るべきである	・実習地では、 臨床実習指導者 が指導を行う。 ・全教員(訪問 や電話、ZOOM な どで、実習経過 の把握やアドバ イスを行う			
教科書 参考図書	学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習のてびき」を読むこと。							

履 修 上 の 注 意	・先修条件指定科目であり、「あらかじめ修得しておかなければならない科目」を指定しているので、学生便覧にて確認すること。 ・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導を受けること。 ・実習前後の準備・実技能力確認は、第3学年必修科目「総合実習Ⅰ特論」にてなされる。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	学生は、臨床実習協力病院の厚意で成り立っていることを理解し、社会人として「わきまえた行動」をとらねばならない。
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 佐々木学：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅱ	作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	3	後期	8	非該当	否
実習概要	本実習で学生が行う具体的内容は、対象者への初回面接から評価、治療介入方針、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、実践を行う。 実習領域としては、身体機能系、小児期、老年期、精神機能系、地域領域系などの領域から成り立ち、1名の学生は実習期間中にわたって1つの実習地で実習を行う。							
一般目標 (GIO)	実習地において、対象者に対する評価から作業療法実施計画立案、リーズニングを含む一連の作業療法介入の概要を理解・実践の一部を経験する。							
到達目標 (SBO)	1) 作業療法実施計画を用いて症例の説明をうける 2) 対象者との面接・観察を通じて、またカルテ及び他部門から必要な情報を収集することができる。 3) 種々な対象者に対して基本的な検査・測定法を選択して、実施することができる。 4) 検査・測定結果を正しく記録し、そこから得られた情報を分析することができる。 5) 評価結果を整理・統合し、作業療法の実施に必要な対象者の問題点や能力をまとめることができる。 6) 臨床課程(リーズニング)について理解・実践すること 7) 学内で習得した知識・実技能力を実習で活用できる。 8) 対象者や他職員と適切な関係を結ぶことができ、医療従事者としての作業療法士の役割を理解できる。 9) 臨床での倫理的配慮や日本作業療法士協会倫理綱領について理解できる。 10) 対象者の病状に応じて対応できる(患者の体調不良時に介入を変更・中止する場面を経験・遂行)。 11) 管理業務の一部を見学し、その重要性を理解できる。 12) 臨床実習指導者の診療記録などを参照し、そのレベルに到達する努力を行うことができる 13) カンファレンス(部門内、病棟内など)を見学し、多職種連携について理解できる。 14) 施設見学を行い、施設の機能について理解できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 お よ び 基 準	(臨床実習中の学生へのフィードバック) ・毎日の中で、臨床実習指導者が実習生に対してフィードバックを行う。 ・臨床実習指導者が「臨床実習指導報告書」によって評価を行う。 ・実習中盤で実習指導者と学生によって中間評価が行われるので、誤解などがあれば適切に説明し、指導者と改善についてのアドバイスを得たりするなど、実習中の自己改善に役立ててほしい。 ・最終評価後に実習指導者と実習生間で実習についての意見交換を行い、大学に提出する。 (実習終了後の最終成績) ・1. 臨床実習指導報告書、2. 実習日誌、3. 症例日誌、4. 症例報告書(作業療法実施計画)、5. 訪問時の状況などを以下の基準で総合的に判断し、成績が決められる。 A 100-90 点、安全配慮、対象者に必要な評価、リーズニング、実施計画作成、記録を十分に実習 B 89-80 点、達成した項目が 2/3 程度である C 79-70 点、達成した項目が 1/3 程度である D 69-60 点、達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、行動が著しく劣り、リスク管理できない							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など		担当		
	5. 12. 4 (月) ～ 6. 2. 2 (金)	臨床実習 ・初期面接、評価、介入方針、問題点抽出、プログラム立案、実施	・県内外の医療機関の協力のもと臨床実習が行われる。	・病院図書館の活用可否を実習地に確認すること。 ・大学図書館も長期貸出を行うので確認すること。 ・実習中は実習指導者から指導を仰ぐことが望ましい ・訪問教員に相談する		・実習地では、臨床実習指導者が指導を行う。 ・全教員(訪問や電話、ZOOMなどで、実習経過の把握やアドバイスをを行う		

教科書 参 考 図 書	学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習のてびき」を読むこと。
履 修 上 の 注 意	・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導をうけること。 ・実習前後の準備・実技能力確認は、第3学年必修科目「総合実習Ⅱ特論」にてなされる。 ・本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	学生は、臨床実習協力病院の厚意で成り立っていることを理解し、社会人として「わきまえた行動」をとらねばならない。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 鈴木由美：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅲ		作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	4	前期	8	非該当	否
授業概要		本実習で学生が行う具体的な内容は対象者への初回面接から評価、治療介入方針、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、実践を教授する。総合実習Ⅲは、身体機能系、高齢期、小児期、精神機能系、地域領域系などの領域から成り立ち、各学生は実習期間を通して1か所の実習地で一つまたは複数の領域の実習を行う。 最終学年での総合実習であることから、学生にはこれまでの臨床実習の経験をもとに、よりレベルの高い作業療法に関する専門的知識・技術および応用を教授し、保健・医療における高度な倫理観を身につけるよう指導する。							
一般目標		実習地において、対象者に対する評価から作業療法実施計画立案、リーズニングを含む一連の作業療法介入の概要を理解・実践の一部を経験する。							
到達目標		1) 作業療法実施計画を用いて症例の説明を受ける。 2) 対象者との面接・観察を通じて、またカルテ及び他部門から必要な情報を収集することができる。 3) 種々な対象者に対して基本的な検査・測定法を選択して、実施することができる。 4) 検査・測定結果を正しく記録し、そこから得られた情報を分析することができる。 5) 評価結果を整理・統合し、作業療法の実践に必要な対象者の問題や能力をまとめることができる。 6) 臨床過程（リーズニング）について理解・実践することができる。 7) 学内で習得した知識・実践能力を実習で活用できる。 8) 対象者や他職員との適切な関係を結ぶことができ、医療従事者としての作業療法士の役割を理解できる。 9) 臨床での倫理的配慮や日本作業療法士協会倫理綱領について理解できる。 10) 対象者の病状に応じて対応できる（患者の体調不良時の介入を変更・中止する場面を経験・遂行）。 11) 管理業務の一部を見学し、その重要性を理解できる。 12) 臨床実習指導者の診療記録などを参照し、そのレベルに達する努力を行っていくことができる。 13) カンファレンス（部門内、病棟内など）を見学し、多職種連携について理解できる。 14) 施設見学を行い、施設の機能について理解できる。 15) 1)～14)の到達目標を総合実習Ⅰ・Ⅱよりも高いレベルで実践できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		(臨床実習中の学生へのフィードバック) ・毎日のなかで、臨床実習指導者が実習生に対してフィードバックを行う ・臨床実習指導者が「臨床実習指導報告書」によって評価を行う ・実習中盤で実習指導者と学生によって中間評価が行われるので、誤解などがあれば適切に説明し、指導者と改善についてのアドバイスを得たりするなど、実習中の自己改善に役立ててほしい。 ・最終評価後に実習指導者と学生間で実習について意見交換を行い大学に提出する。 (実習終了後の最終評価) ・1. 臨床実習指導報告書、2. 実習日誌、3. 事例日誌、4. 事例レポート、5. 訪問時の状況などを以下の基準で総合的に判断し、成績が決められる。 A 100-90 点、安全配慮、対象者に必要な評価、リーズニング、実施計画作成、記録を十分に実習 B 89-80 点、 達成した項目が 2/3 程度 C 79-70 点、 達成した項目が 1/3 程度 D 69-60 点、 達成した項目が 1 項目 F 59 以下、 行動が著しく劣り、リスク管理ができない							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習 方法	授業外学習など			担当		
	5. 5. 8 (月) ～ 5. 6. 30 (金)	臨床実習 ・初回面接、評価、介入 方針、問題点抽出、 プログラム立案、実 施	・県内外の医療機 関の協力のもと 臨床実習が行わ れる。	・病院図書館の活用可否を実 習地に確認すること。 ・大学図書館も長期貸出を行 うので確認すること。 ・実習中は実習指導者から指 導を仰ぐことが望ましい。 ・訪問教員に相談する			・実習地では、臨 床実習指導者が 指導を行う。 ・担当教員は訪 問や電話、ZOOM などで、実習経過 の把握やアドバ イスを行う。		

教科書 参 考 図 書	学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を読むこと。
履 修 上 の 注 意	・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導を受けること。 ・本科目は臨床実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場での担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	学生は、臨床実習協力病院の厚意で成り立っていることを理解し、社会人として「わきまえた行動」をとらなければならない。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 千葉登：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp

Ⅳ 教 員 名 簿

高等教育段階の教育費負担軽減制度の要件に
定める「実務経験のある教員による科目」一覧表

◎ 教 員 名 簿

(令和5年4月1日現在)

学 長 上月 正博 研 究 科 長 加藤 浩

保健医療学部看護学科 看護学科長 沼澤さとみ

職 名	氏 名	電話番号
学科長(兼)教授	沼澤さとみ	686-6625
学生部長(兼)教授	遠藤 恵子	686-6642
図書館長(兼)教授	菅原 京子	686-6615
〃	遠藤 和子	686-6644
〃	齋藤 美華	686-6708
〃	安保 寛明	686-6735
〃	桂 晶子	686-6623
准 教 授	南雲美代子	686-6626
〃	梶 理和子	686-6647
〃	鈴木 育子	686-6645
〃	蓬田 伸一	686-6637
〃	片桐 智子	686-6617
〃	菊地 圭子	686-6729
〃	半田 直子	686-6734
〃	今野 浩之	686-6733
講 師	高橋 直美	686-6663
〃	槌谷由美子	686-6730
〃	山田力オル	686-6766
〃	高谷 新	686-6628
助 教	丸山 香織	686-6664
〃	渡邊 礼子	686-6616
〃	齋藤 愛依	686-6721
〃	佐藤 千穂	686-6618
〃	栗田 敦子	686-6684
〃	佐藤 志保	686-6643
〃	前田のぞみ	686-6720
〃	鈴木 龍生	686-6335
〃	富樫 理恵	686-6739
〃	貝野瀬友希	686-6651

保健医療学部理学療法学科 理学療法学科長 鈴木 克彦

職 名	氏 名	電話番号
学科長(兼)教授	鈴木 克彦	6 8 6－6 6 2 7
研究科長(兼)教授	加藤 浩	6 8 6－6 6 5 9
教 授	石川 仁	6 8 6－6 6 4 6
〃	村 成幸	6 8 6－6 6 4 8
准 教 授	丹野 克子	6 8 6－6 6 1 9
〃	南澤 忠儀	6 8 6－6 6 3 9
〃	渡部 潤一	6 8 6－6 6 6 2
講 師	赤塚 清矢	6 8 6－6 7 3 7
〃	永瀬外希子	6 8 6－6 7 3 8
〃	室伏 祐介	6 8 6－6 7 0 0
助 教	鈴木栄三郎	6 8 6－6 7 6 4
〃	工藤 大輔	6 8 6－6 6 3 8

保健医療学部作業療法学科 作業療法学科長 佐藤 寿晃

職 名	氏 名	電話番号
学科長(兼)教授	佐藤 寿晃	6 8 6－6 6 6 0
教 授	藤井 浩美	6 8 6－6 6 4 9
〃	菊池 昭夫	6 8 6－6 6 6 1
准 教 授	森 直樹	6 8 6－6 6 5 7
〃	千葉 登	6 8 6－6 6 2 9
〃	鈴木 由美	6 8 6－6 6 5 2
〃	外川 佑	6 8 6－6 6 5 0
〃	仁藤 充洋	6 8 6－6 6 5 6
講 師	佐々木 学	6 8 6－6 6 4 0
助 教	井上 香	6 8 6－6 6 6 7
〃	川勝 祐貴	6 8 6－6 7 5 0
〃	高畑 未樹	6 8 6－6 6 2 2

高等教育段階の教育費負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」一覧表

(1)看護学科

授業科目名	単位数	概要
基礎看護学実習Ⅰ	1	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院において医療・看護の実践および多職種連携について学ぶ科目です。
基礎看護学実習Ⅱ	2	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院での臨床において看護過程を展開する科目です。
成人急性期看護学実習	3	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）における急性及び周手術期患者に対する看護過程を展開する科目です。
成人慢性期看護学実習	3	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）における慢性疾患患者に対する看護過程を展開する科目です。
高齢者生活探究実習	1	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）における高齢者に対する看護過程を展開する科目です。
老年看護学実習Ⅱ	2	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）における高齢者に対する看護過程を展開する科目です。
精神保健学実習	1	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、精神科医療機関（臨床）における看護過程を展開する科目です。
精神看護学実習	2	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、精神科医療機関（臨床）における看護過程を展開する科目です。
母性看護学実習	2	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）において周産期にある対象者に看護過程を展開する科目です。
小児看護学実習Ⅰ	1	本科目は、教員と実習指導者（幼稚園教諭等）の指導の下、幼稚園において幼児教育の技術等について実習する科目です。
小児看護学実習Ⅱ	1	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）における小児看護について実習する科目です。
在宅訪問看護実習	1	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、訪問看護ステーションにおいて看護過程を展開する科目です。
在宅看護連携実習	1	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、地域包括支援センターにおいて看護過程を展開する科目です。
地域看護診断実習	1	本科目は、教員と実習指導者（保健師等）の指導の下、市町村（健康福祉担当部局）において実習する科目です。
公衆衛生看護活動実習	2	本科目は、教員と実習指導者（保健師等）の指導の下、保健所、市町村、小学校、産業保健において実習する科目です。
妊娠期助産実習	1	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）において妊婦に対する看護過程を展開する科目です。
分娩期助産実習	5	本科目は、教員と実習指導者（看護師、助産師等）の指導の下、病院（臨床）において分娩期の妊婦に対して看護過程を展開する科目です。
分娩産褥期助産実習	2	本科目は、教員と実習指導者（看護師、助産師等）の指導の下、病院（臨床）において分娩・産褥・新生児期の母子に対して看護過程を展開する科目です。
総合看護学実習Ⅰ	2	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）等において保健医療福祉チームの一員として看護過程を展開する科目です。
総合看護学実習Ⅱ	1	本科目は、教員と実習指導者（看護師・保健師等）の指導の下、市町村及び助産所等において看護過程を展開する科目です。
単位数合計	35	

(2)理学療法学科

授業科目名	単位数	概要
臨床実習Ⅰ	1	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場で症例の見学を行い、各施設の目的や役割、理学療法士の役割や業務内容を学ぶ科目です。
臨床実習Ⅱ	4	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムの立案を行う科目です。
臨床実習Ⅲ	8	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案の上、基本的な理学療法を実施する科目です。
臨床実習Ⅳ	8	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床実習Ⅲでの経験を踏まえ、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案の上、基本的な理学療法を実施する科目です。
臨床実習Ⅴ	1	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの見学を行い、実践的な地域理学療法を学ぶ科目です。
単位数合計	22	

(3)作業療法学科

授業科目名	単位数	概要
見学実習	1	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、作業療法の臨床実習施設の目的や役割、その中における作業療法士の役割や業務内容および対象者に行っている作業療法について学ぶ科目です。
総合実習Ⅰ	8	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムの立案を行う科目です。
総合実習Ⅱ	8	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目です。
総合実習Ⅲ	8	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目です。
単位数合計	25	